

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第449集

ひらしみずに

平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書

ふるさと農道緊急整備事業野田地区関連遺跡発掘調査

岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室
 副岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第449集

平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書 正誤表

頁	場所	誤	正
7	下から4行目	第4図の下の	第5図の下の
14	下から16行目	pp.15・16	pp.15～16
14	下から11行目	pp.15・16	pp.15～16
343	第3表	深さの列の一番下の空欄	「合計」を入れる

ひらしみずに
平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書

ふるさと農道緊急整備事業野田地区関連遺跡発掘調査

序

本県には旧石器時代の遺跡を初めとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成12年度の岩手県教育委員会のまとめでは12,000カ所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりましたふるさと農道緊急整備事業を例にあげるともなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための道路交通網の整備もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という、相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場に立って、県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、ふるさと農道緊急整備事業に関連して平成13・14年度に発掘調査を実施した平清水Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。

平清水Ⅱ遺跡は、九戸郡野田村にあり、今回の調査により、縄文時代前期中葉～中期前葉の村跡が主に発見され、多くのフラスコ状土坑が見つかっています。また、縄文時代中期の狩猟の場、古代の集落跡であったこともわかりました。今回の調査では、目を見張るようなすばらしい発見はありませんでしたが、この地域での本格的な発掘調査は初めてであることから、野田村あるいは岩手県沿岸北部の歴史解明に重要な役割を果たすことと思われます。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室、野田村教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

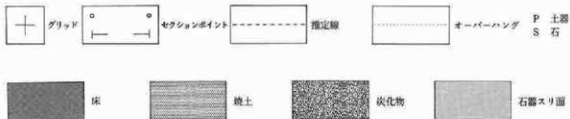
平成16年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 合田 武

例 言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡野田村大字野田第22地割字明内53番地はかに所在する平清水Ⅱ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 今回の調査は、ふるさと農道緊急整備事業野田地区に伴う事前の発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室の協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はJ G 60-0224である。
4. 発掘調査期間、担当者、調査面積、遺跡略号は、次の通りである。
平成13年8月20日～11月9日 金子昭彦・坂部恵造 350 (検出1,100) m² H S II-01
平成14年8月1日～11月15日 金子昭彦・星 幸文・坂部恵造 950 m² H S II-02
5. 室内整理と担当者は、次の通りである。
平成13年11月1日～平成14年3月31日 金子昭彦・坂部恵造
平成14年11月1日～平成15年3月31日 金子昭彦・坂部恵造
6. 本報告書の執筆は、第1章を岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室、それ以外を金子が担当した。
7. 遺物の分析・鑑定は次の方々に依頼した。
石質：花崗岩研究会（代表 矢内圭三）
8. 報告書作成に当たり、次の方々に御協力・御指導いただいた（五十音順・敬称略）。
稲野裕介（北上市立埋蔵文化財センター）、熊谷常正（盛岡大学）、小林圭一（山形県埋蔵文化財センター）、小林 克（秋田県埋蔵文化財センター）、齋藤邦雄（岩手県教育委員会）、酒井宗孝（花巻市教育委員会）、千葉啓蔵（久慈市教育委員会）、中村良幸（大迫町教育委員会）
9. 調査成果はこれまでに現地説明会資料や調査略報に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。
10. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。
11. 遺構等の平面位置は、平面直角座標第X系を利用している（座標値は第Ⅲ章を参照）。
12. 土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1990）を参考にした。
13. 凡例は、以下の通りである。また、脚注と参考文献はそれぞれの章、節の後に一括している。その他は、第Ⅲ章を参照していただきたい。



目次

序
例言

〔本文〕

I. 調査に至る経過	1	4. 陥し穴状遺構	90
II. 立地と環境	1	5. 焼土	94
1. 位置・地形・調査範囲	1	V. 遺物	199
2. 基本層序と検出・出土状況	7	1. 縄文土器	199
3. これまでの調査と周辺の遺跡	7	2. 土師器	208
III. 調査・整理の方法と経過	9	3. 土製品	209
1. 調査の目的と結果の概要	9	4. 石器	210
2. 野外調査	9	5. 石製品	214
3. 室内整理と報告書の作成	13	6. アスファルト、コハク、その他	214
IV. 遺構	15	VI. 考察	340
1. 陥穴住居跡・炉跡	16	VII. まとめ	348
2. 住居状遺構	32	報告書抄録	
3. 二坑・墓塚	33		

〔図版〕

第1図 岩手県における遺跡位置	2	第17図 第5号住居跡(2)、第6号住居跡	114
第2図 遺跡位置	3	第18図 第7号住居跡	115
第3図 遺跡範囲	4	第19図 第8号、第9号住居跡	116
第4図 地形分類図	5	第20図 第10号住居跡	117
第5図 遺跡範囲・調査範囲と周辺の地形	6	第21図 第11号住居跡(1)	118
第6図 遺構全体図・地区別全体図(1)	102	第22図 第11号住居跡(2)	119
第7図 地区別全体図(2) (道路部分)	103・104	第23図 第1号、第2号住居状遺構	120
第8図 第1号住居跡(1)	105	第24図 第1号～第3号土坑	121
第9図 第1号住居跡(2)	106	第25図 第4号～第6号土坑	122
第10図 第2号住居跡(1)	107	第26図 第7号～第9号土坑	123
第11図 第2号住居跡(2)	108	第27図 第10号～第12号土坑	124
第12図 第3号住居跡(1)	109	第28図 第13号～第16号土坑(1)	125
第13図 第3号住居跡(2)	110	第29図 第13号～第16号土坑(2)	
第14図 第4号住居跡(1)	111	第17号、第18号土坑	126
第15図 第4号住居跡(2)	112	第30図 第19号、第20号土坑、	
第16図 第5号住居跡(1)	113	第21号～第23号土坑(1)	127

第31区	第21号~第23号土坑(2)	128	第63区	第1号~第14号烧土	160
第32区	第24号、第25号土坑	129	第64区	第15号~第23号烧土	161
第33区	第26号、第27号土坑	130	第65区	第24号~第31号烧土	162
第34区	第28号~第30号土坑	131	第66区	第32号~第36号烧土	163
第35区	第31号~第33号土坑	132	第67区	第37号~第40号烧土	164
第36区	第34号~第36号土坑	133	第68区	第1号住居跡(1)出土遺物	165
第37区	第37号~第41号土坑	134	第69区	第1号住居跡(2)· 第2号住居跡(1)出土遺物	166
第38区	第42号~第44号土坑	135	第70区	第2号住居跡(2)· 第3号住居跡(1)出土遺物	167
第39区	第45号、第46号土坑·第47号、 第48号土坑(1)	136	第71区	第3号住居跡(2)·第2号、 第3号住居跡(1)出土遺物	168
第40区	第47号、第48号土坑(2)· 第49号~第51号土坑	137	第72区	第2号、第3号住居跡(2)出土遺物	169
第41区	第52号、第53号土坑	138	第73区	第2号、第3号住居跡(3)· 第4号住居跡(1)出土遺物	170
第42区	第54号土坑·第55号、第56号土坑(1)	139	第74区	第4号住居跡(2)·第5号~第7号 住居跡出土遺物	171
第43区	第55号、第56号土坑(2)·第57号、 第58号二坑	140	第75区	第10号、第11号住居跡·第1号、 第2号住居狀遺構·第1号土坑出土遺物	172
第44区	第59号、第60号、第62号土坑	141	第76区	第2号、第3号土坑出土遺物	173
第45区	第61号、第63号土坑	142	第77区	第4号~第6号、第8号~第11号、 第13号土坑出土遺物	174
第46区	第64号土坑·第65号~第67号土坑(1)	143	第78区	第12号、第14号~第16号土坑出土遺物	175
第47区	第65号~第67号土坑(2)第68号土坑	144	第79区	第17号~第19号、第21号~第23号 土坑出土遺物	176
第48区	第69号、第70号二坑	145	第80区	第24号、第25号土坑(1)出土遺物	177
第49区	第71号~第73号二坑	146	第81区	第25号土坑(2)~第28号土坑	178
第50区	第74号~第77号土坑	147	第82区	第29号土坑~第32号土坑(1)出土遺物	179
第51区	第78号~第80号土坑	148	第83区	第32号土坑(2)、第33号~第36号土坑(1) 出土遺物	180
第52区	第81号、第82号土坑	149	第84区	第36号土坑(2)~第40号土坑出土遺物	181
第53区	第83号、第84号土坑· 第85号~第87号土坑(1)	150	第85区	第41号土坑~第46号土坑(1)出土遺物	182
第54区	第85号~第87号土坑(2)· 第88号、第89号土坑	151	第86区	第46号土坑(2)~第48号土坑(1)出土遺物	183
第55区	第90号~第92号土坑	152	第87区	第48号土坑(2)~第51号土坑出土遺物	184
第56区	第93号~第95号土坑	153	第88区	第52号、第54号土坑出土遺物	185
第57区	第96号~第99号土坑	154			
第58区	第100号~第102号土坑、第103号、 第104号土坑(1)	155			
第59区	第103号、104号二坑(2)、第105号土坑	156			
第60区	第1号、第2号陷し穴状遺構	157			
第61区	第3号、第4号陷し穴状遺構	158			
第62区	第5号~第7号陷し穴状遺構	159			

第89图	第55号~第57号上坑出土文物	186	第99图	第90号~第95号、第97号、第99号~第102号、第103号土坑出土文物	196
第90图	第58号~第63号土坑出土文物	187	第100图	第104号上坑·第1号、第2号陷穴状遗構出土文物	197
第91图	第64号土坑出土文物	188	第101图	第3号~第6号陷穴状遗構·第5号、第11号~第22号、第29号、第32号出土文物	198
第92图	第65号~第68号土坑出土文物	189	第102图	土隔器	208
第93图	第69号土坑(1)出土文物	190	第103图~第183图	绳文土器(1)~(8)	215~295
第94图	第69号上坑(2)出土文物	191	第184图	土製品、石製品	296
第95图	第70号~第75号土坑出土文物	192	第185图~第227图	石器(1)~(4)	297~339
第96图	第76号~第79号上坑出土文物	193			
第97图	第80号~第84号土坑出土文物	194			
第98图	第85号、第86号、第88号、第89号十坑出土文物	195			

【写真図版】

写真図版1	遗迹总景·調査区全景	353	写真図版22	第11号住居跡(2)·第1号住居状遺構	374
写真図版2	調査前風景·調査区地形	354	写真図版23	第2号住居状遺構·第1号陷穴状遺構·第1号、第2号上坑(1)	375
写真図版3	調査区地形	355	写真図版24	第2号上坑(2)、第3号土坑	376
写真図版4	第1号住居跡(1)	356	写真図版25	第4号~第6号土坑	377
写真図版5	第1号住居跡(2)	357	写真図版26	第7号~第9号上坑	378
写真図版6	第2号住居跡(1)	358	写真図版27	第10号、第11号土坑、第12号土坑(1)	379
写真図版7	第2号住居跡(2)	359	写真図版28	第12号上坑(2)、第13号土坑、第14号土坑(1)	380
写真図版8	第2号住居跡(3)、第3号住居跡(1)	360	写真図版29	第14号土坑(2)~第16号土坑	381
写真図版9	第3号住居跡(2)	361	写真図版30	第17号~第20号土坑	382
写真図版10	第4号住居跡(1)	362	写真図版31	第21号~第23号土坑(1)	383
写真図版11	第4号住居跡(2)·第41号焼土	363	写真図版32	第23号上坑(2)~第25号土坑(1)	384
写真図版12	第4号住居跡(3)、第5号住居跡(1)	364	写真図版33	第25号土坑(2)~第27号土坑(1)	385
写真図版13	第5号住居跡(2)·第42号焼土	365	写真図版34	第27号土坑(2)~第29号、第30号土坑(1)	386
写真図版14	第6号住居跡(1)	366	写真図版35	第29号、第30号土坑(2)~第32号土坑	387
写真図版15	第6号住居跡(2)、第7号住居跡(1)	367	写真図版36	第33号~第36号土坑(1)	388
写真図版16	第7号住居跡(2)	368	写真図版37	第36号土坑(2)、第38号~第41号土坑	389
写真図版17	第7号住居跡(3)、第8号住居跡(1)	369			
写真図版18	第8号住居跡(2)、第9号炉跡	370			
写真図版19	第10号住居跡(1)	371			
写真図版20	第10号住居跡(2)	372			
写真図版21	第10号住居跡(3)、第11号住居跡(1)	373			

写真図版38	第42号～第45号土坑	390	写真図版60	第103号、第104号土坑②、第105号土坑・ 第1号陥し穴状遺構	412
写真図版39	第46号～第48号土坑(1)	391	写真図版61	第2号～第5号陥し穴状遺構(1)	413
写真図版40	第48号土坑②、第49号土坑	392	写真図版62	第5号陥し穴状遺構②～第7号陥し穴 状遺構・第1号～第5号焼土①	414
写真図版41	第50号～第52号土坑(1)	393	写真図版63	第2号～第5号焼土②、 第6号～第10号焼土①	415
写真図版42	第52号土坑②～第54号土坑	394	写真図版64	第6号～第10号焼土②、第11号～第14 号焼土、第15号～第20号焼土①	416
写真図版43	第55号、第56号土坑(1)	395	写真図版65	第15号～第20号焼土②、第22号焼土①	417
写真図版44	第56号土坑②～第58号土坑	396	写真図版66	第23号～第26号焼土	418
写真図版45	第59号～第61号土坑	397	写真図版67	第27号～第31号焼土	419
写真図版46	第62号～第65号、第66号土坑(1)	398	写真図版68	第32号～第35号焼土	420
写真図版47	第65号、第66号土坑②、第67号土坑	399	写真図版69	第36号～第39号焼土	421
写真図版48	第68号、第69号土坑	400	写真図版70	第40号焼土・調査区及び周辺の地形	422
写真図版49	第70号～第73号土坑	401	写真図版71～114	縄文土器(1)～(64)	423～466
写真図版50	第74号～第77号土坑	402	写真図版115	土師器・土製品(1)	467
写真図版51	第78号～第80号土坑	403	写真図版116	土製品(2)	468
写真図版52	第81号～第83号土坑	404	写真図版117～181	石器(1)～(63)	469～533
写真図版53	第84号土坑、第85号～第87号土坑(1)	405	写真図版182	石製品・アスファルト	534
写真図版54	第85号～第87号土坑②	406	写真図版183	コハク	535
写真図版55	第88号～第90号土坑・第12号焼土	407			
写真図版56	第91号～第94号土坑	408			
写真図版57	第95号～第98号土坑	409			
写真図版58	第99号～第102号土坑	410			
写真図版59	第103号、第104号土坑(1)	411			

[表]

第1表	フラスコ状土坑一覧表	342・343
第2表	フラスコ状土坑規模一覧表	343
第3表	フラスコ状土坑深さ一覧表	343

I. 調査に至る経過

平清水Ⅱ遺跡は、ふるさと農道緊急整備事業野田地区の事業区域内に位置しているため、当該事業の旅行にともない発掘調査を実施することとなったものである。

ふるさと農道緊急整備事業野田地区は、各生産団地を最短距離で結び物流の合理化を図ることや、高生産性農業を促進し付加価値を高める農業生産基盤整備を目的に、平成10年度より九戸郡野田村野田地区内の総延長2.9kmの農道整備を実施している。

当該事業区域の埋蔵文化財包蔵域については、当該事業の施行主体である久慈農村整備事務所（平成15年度に農政部農村整備室に改称）の依頼を受け、平成12年度に岩手県教育委員会事務局が試掘調査を実施した。

そして、その結果を踏まえ岩手県教育委員会事務局との協議により、平成13年度(財)岩手県文化振興事業団に調査を委託することとなったものである。

岩手県教育委員会は、平成13年3月1日付け教文第1342号により(財)岩手県文化振興事業団が平成13年度事業として実施する旨久慈農村整備事務所へ通知した。

この通知を受け、岩手県久慈地方振興局と(財)岩手県文化振興事業団は、平成13年5月31日付け財岩文埋第44号にて委託契約を締結し、発掘調査に着手した。

(岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室)

II. 立地と環境

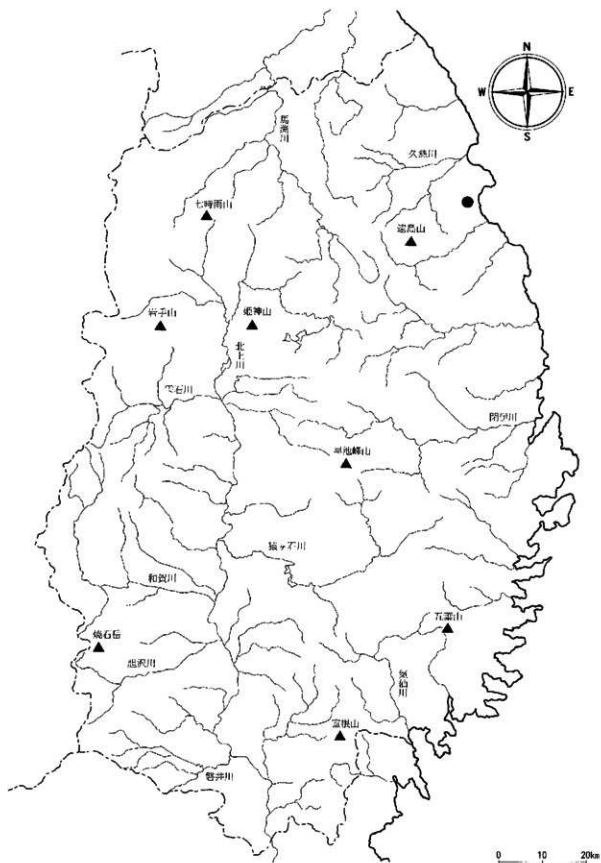
1. 位置・地形・調査範囲 (第1～5図、写真図版1～3・70)

平清水Ⅱ遺跡は、岩手県沿岸北部の九戸郡野田村に所在し、三陸鉄道北リアス線陸中野田駅の南西約2.5kmに位置する。北緯40°6'16"、東経141°47'51"付近にある(世界測地系)。

遺跡は、大きく見れば明内川に沿って残る海岸段丘上に立地するが(第4図参照)。段丘名は何れも海岸段丘で、九戸段丘標高150～220m、種市段丘標高15～40m、平内段丘標高10～15m(齋藤 1987: pp.6～7)、明内川右岸の河岸段丘上にあり、段丘上は東流する沢に開析されなだらかな丘陵状を呈す。遺跡は、この丘陵の北端にある。東側は海までなだらかな地形が続き、西側は起伏の多い丘陵地がひかえる。

今回の調査範囲は遺跡の北限に沿い、明内川に下る崖際に位置し、川との比高は約20m、現況は山林、農道、水田である。

遺跡の周辺は、1969(昭和44)年の開田工事によって大きく地形が改変されており、奥の遺跡台帳に載っている遺跡範囲(第4図左上図の道路北側の斜線範囲)が、どの程度的を射ているかわからない。現に、今回の調査区の東部水路予定地の大部分は(第5図)、その範囲から大きく東にはみ出している(第3図)。県の遺跡台帳に使われている地図は古く、今回の調査範囲が遺跡範囲のどこに相当するか不明だが、国土地理院作成の1/25,000図から推測すれば(第3図参照)、遺跡範囲の東端に沿って走る道路が今回の調査原因になった道路にはほぼ相当し、その北端の部分と左方に連続する農道が今回の調査範囲に相当するようである(第5図)。この北端と西側に延びる農道は、段丘崖にあり、今回の調査区はこの部分において遺跡の北縁を調査したことになる(県の遺跡台帳の範囲とは異なっているか)。東側に延びる農道は段丘崖まで10m以上ある。



第1図 岩手県における遺跡位置 (●印)

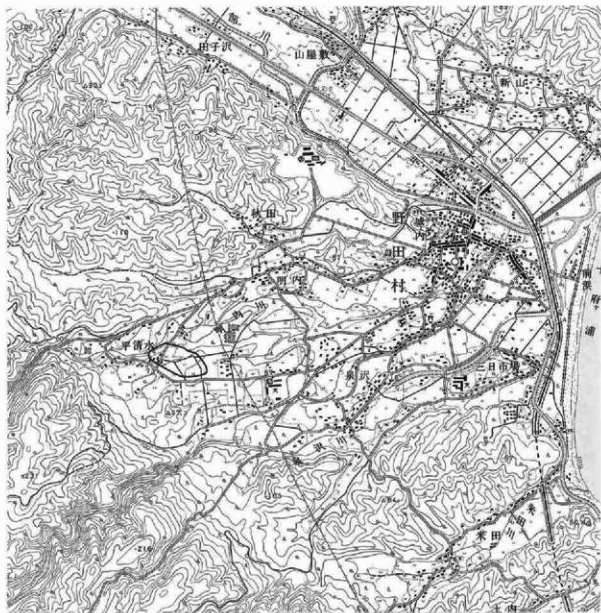


第2圖 遺跡位置 (●印) (1:50,000 陸中野田)

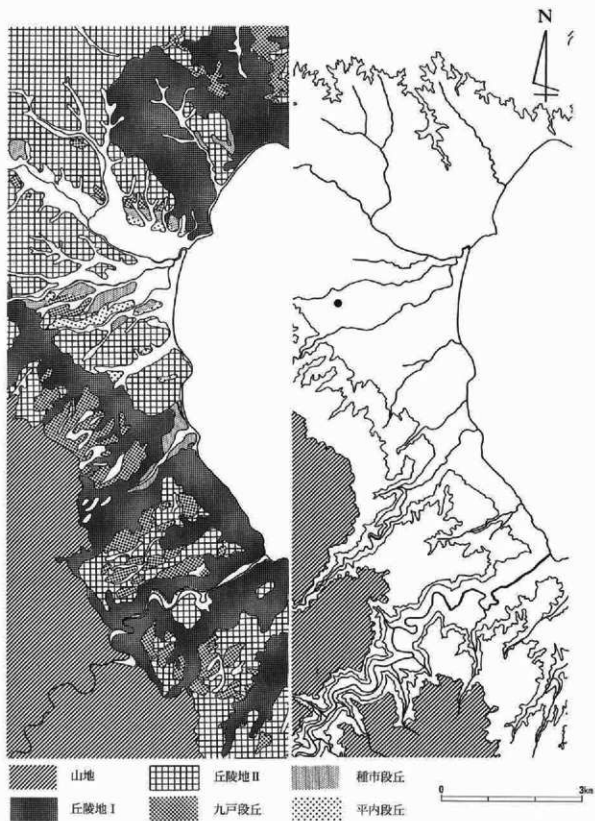
今回計画されている農道は、さらに北に延びるが(第5図参照)、上述の地形で急斜面になっていることから調査範囲には含まれていなかった。しかし、現地をよく見てみると、この部分は尾根状になっており、遺跡はもう少し北(2m弱)の斜面最上部まで延びている可能性も窺われた。現に調査ではぎりぎりまで遺構が検出されている。しかし、検出された遺構を精査するのに手一杯で、試掘トレンチ等を入れることはできなかった。

参考文献

- 齋藤邦雄 1987「Ⅲ1. 遺跡周辺の地形」『古館山』野田村教育委員会
 高橋信雄 1987「Ⅲ1. 地形・地質」『根井貝塚発掘調査報告書』岩手県立博物館
 松本秀明 1992「第一編第一章 地誌」『野田村誌』野田村



第3図 遺跡範囲 (1:25,000 陸中野田)



第4図 地形分類図（岩手県立博物館1987を改変）

2. 基本層序と検出・出土状況

(1) 基本層序

- Ⅰ層 表土。水田造成時のカクランを受けているところでは盛土、本来の土が残っているところでは腐植土の場合が多い。層厚20cm以上。
- Ⅱ層 黒色土(10YR2/1)シルト。層厚0～20cm。所謂クロボク土で、縄文時代中期以降に形成された層と考える。遺物を含むが混入であろう。削平されている場所にはない。
- Ⅲ層 暗褐色土(10YR3/3)シルト。層厚0～20cm。Ⅱ～Ⅳ層の漸移層でⅣ層の再堆積層と思われる。遺物包含層で、ほとんどの横上の検出面。削平されていない地点もある。
- Ⅳ層 黄褐色土(10YR5/6)粘土。層厚30～40cm。遺構検出面。
- Ⅴ層 Ⅳ層とほとんど同じだが、固く締まる。層厚60～140cm。他の影響(根など)を受けていないために硬く締まるだけで、Ⅳ層と同一層の可能性が高い。
- Ⅵ層 段丘堆積物で、地点によって異なる。明黄褐色(10YR6/6)の粘土のところもあれば、砂のところもあり、西端では礫層であった。層厚未確認。

(2) 遺構の検出・遺物の出土状況

今回の調査範囲は、農道、水田になっている場所が多かったが、元は山林が広がっていたためか、根によるカクランが著しく、遺構裂土が浅いせいもあって、カクランとの区別がはっきりせず遺構の検出は極めて難しかった。初年度は1遺構の検出はできるだけ高い面で行う、という発掘調査の原則に則り、遺構があると思われる時点でプランは割れなくても精査に入ってしまったため、掘り上がった時点で重複している遺構に気づくこともしばしばあった。調査区東部の細長い水路予定地は、水田造成時に大きく削平されて法面になっており、他と比べれば比較的検出しやすかったが、それでも地表に露出していたためか遺構はやはり見えにくかった。ただし、上記のことは主として縄文時代の竪穴住居跡、土坑類のことで、上面に瓦土が入る陥し穴状遺構や古代の竪穴住居跡は、比較的やすかった。

古代の土器は、古代の竪穴住居跡からのみ出土した。縄文時代の遺物は、ほとんどが前期中葉～中期前葉のもので、時期幅が比較的短く通称しているせいか、地点差・層位差は認め難い。

3. これまでの調査と周辺の遺跡 (第4・5図)

(1) これまでの調査

遺跡自体は古くから周知されていたようだが、本遺跡を対象として発掘調査されたことはない。ただし、1969(昭和44)年に開田工事に伴って岩手大学教授草間俊一氏が調査した上明内遺跡は、本遺跡の続きの可能性がある(草間 1970)。上明内遺跡は、現在岩手県の遺跡台帳には登録されておらず、正確な範囲は不明だが、円筒下層d式や上層a1式土器、フラスコ状土坑などが発見されており(草間 前掲、齋藤 1992)、今回の調査結果に符合する。ただし、報告書から窺われる位置は(草間 1970:p.7)、野田中学校の前を通る道路より南側で平清水1遺跡(本遺跡の南側にある遺跡で、第4図の下の斜線範囲)に近いが、泉の遺跡台帳では縄文時代後期の遺跡ということになっており、性格については本遺跡の方が符合する。

上明内遺跡の調査では、その他、円筒下層a式?土器、独結石、半屈平状打製石斧、石錘、石鏃等の各種石器などが発見された(齋藤 前掲)。土器器や須恵器、古代の竪穴住居跡も発見されたようだが、詳細は

不明である（草間氏は古墳時代、齋藤氏は奈良時代と述べている）。

開田後、本遺跡は懐感したものとして県の遺跡台帳で扱われていたが、今回の事業に伴って行われた岩手県教育委員会の試掘調査で、遺跡の北端はかろうじて残っていることがわかり、今回の本調査となった。

(2) 周辺の遺跡（第2・3図）

今回の調査では、主として縄文時代前期中葉～中期前葉、平安時代の遺構・遺物が発見されたので、この時期を中心に見ていくことにしたいが、本地域は県の中心部から遠く離れていて開発が少ないためもあって、発掘調査はほとんど行われていない。

本遺跡から約4km北東に行った広内遺跡は（第2図▲）、草間俊一氏らによって調査され、縄文時代前期木葉の良好な資料が得られている（草間 1971、齋藤 1992）。遺跡は、小河川によって開削を受けた標高約80m前後の眺望のきく海岸段丘上に立地。1966（昭和41）年という古い時期のトレンチ調査で、詳細は不明だが、良好な遺物包含層が発見され、多くの完形に近い円筒下層d1式土器、少しの完形に近い円筒下層d2式土器、半扁半状打製石斧等の石器類が出土しているようである。

広内遺跡と平清水（IかIIか不明）遺跡からは、硬玉製品も出土している（齋藤 1985）。

本遺跡から、約500m東に行った中平遺跡は、野田中学校建設の際に発見され（第2図、第3図の中学校の位置）、県の指定文化財になっている。指定の手続き上の理由か、本遺跡は、県の遺跡台帳では「野田堅穴遺跡」として登録されている。調査は数回にわたるが、何れも1969（昭和44）年以前の小規模なものである。関連文献のほとんどを見る事ができなかったので詳細は推測するが、平安時代の堅穴住居跡が主として発見されたようである（草間 1970）。

本遺跡と関連する遺跡は以上だが、その他、本遺跡から約1.5km西にある古館山遺跡が、1970（昭和45）年に野田小学校建設に伴って調査され（第2・3図の小学校の位置）、弥生時代後期の土器、後北式土器、奈良時代の土器などが発見されている（野田村教育委員会 1987）。

また、岩手県立博物館が、1983～85（昭和58～60）年に根井貝塚を調査し（第2図一帯下にある根井集落の神社のすぐ南）、調査面積は約40㎡と小規模ながら、縄文時代後期後葉の堅穴住居跡が検出され、晩期前半の土器、燕尾形離頭鉾頭等の骨考器、岩礁性の貝類を主体とした小規模な貝層なども発見されている。

調査は、その他に、中世紀館の分布調査がある程度で（岩手県教育委員会 1986）、以上が野田村で行われた発掘調査の全てのようなものである。1970（昭和45）年前後に行われた岩手大学の草間俊一氏による調査の後には、岩手県立博物館の根井貝塚まで目立った調査はなく、また、何れも小規模な調査であり、本地域の歴史的な様相は不明な点が多く、今後に委ねられている。

参考文献

- 岩手県教育委員会 1986『岩手県中世紀館部分布調査報告書』（岩手県文化財調査報告書第82集）
岩手県立博物館 1987『根井貝塚発掘調査報告書I』（岩手県立博物館調査研究報告書第3冊）
草間俊一 1970『中平・上明内調査概要』野田村教育委員会
1971『岩手県九戸郡中平遺跡I』『日本考古学年報』18 日本考古学協会
1971『岩手県野田村広内遺跡I』『日本考古学年報』19 日本考古学協会
齋藤邦雄 1985『岩手県九戸郡野田村山土の硬玉製品二例I』『九戸文化』第3号 九戸郷土研究会
1992I第二編第一章 原始 『野田村誌』岩手県九戸郡野田村
野田村教育委員会 1987『古館山』

Ⅲ. 調査・整理の方法と経過

1. 調査の目的と結果の概要

当初は別の調査員が本遺跡を担当することになっていた。しかし、この年は連続・遺物が予想以上に発見される遺跡が多く、調査員のローテーションの大幅な変更を余儀なくされたため、急遽担当が変わることになった。また、そうした事態のため、初年度の最初は、さらに別の調査員が入り調査を開始した。

このような経緯のため、十分な情報を収集することもなく調査に入ってしまった。9月4日に引き越した時点では既に表土剥ぎは終わり水路南側の検出に入っており、非常に多くの遺構が検出されると予想された。当初計画では10月31日までに1,100㎡の全てを調査することになっており、また調査区中央に水路が残りまだ使用中であること、木の伐採が済んでないことなど調査の支障となる条件が多く、困難が予想された。そのため、とにかく調査を前に進めることばかりに心を配るようになってしまった。

次年度は、このような反省を踏まえて、前年度の調査で首の極端に狭いプラスチック状土坑が多く検出されたことから、その掘削方法を解明することを最大の目的とし、遺構内遺物の出土状況を確認して遺構の時期・用途を推定できるようにすることを一番目の目的とした。

しかし、9月は調査員が2名であったため余裕がなくなり遺構の掘り方で検討することができなくなってしまったこと、プラスチック状土坑が集中し重複・隣接している場合が比較的多く、土坑が検出しづらいため掘り始めてから重複に気づくことが頻繁にあり、所々割り等の思い切った調査手段が執りにくかったことから、掘削方法の解明はほとんどできなかった。二番目の目的は、できる限りのことは果たせたとと思う。

残念な点は、東部調査区の水路予定地に岩手県教育委員会の試掘で壁穴生居跡らしいものがあることがわかってはいたのに、結局壁穴を確認できず炉跡、柱穴のみの検出にとどまった点である。

2. 野外調査

(1) 作業経過

調査面積は1,350㎡で、野外調査は二カ年にわたった。当初は、調査面積1,100㎡で一カ年で終了の予定だったが、木の伐採が調査期間内に終わらなかったこと、また予想以上に多くの遺構が検出されたことから、次年度まで継続となった。さらに、検出結果から遺跡範囲がさらに東側に延びることが予想されたため、当初の調査範囲の東に続く水路予定部分を岩手県教育委員会が改めて試掘し、その結果予想通り遺構が検出され、水路部分250㎡が追加となった。

初年度の調査は、平成13年8月20日(月)～11月9日(金)まで行われた。9月3日(月)まで別の調査員が急遽担当し、その引き継ぎが9月4日(火)に行われた。この時点で基礎杭の打設・重機による表土剥ぎは済んでおり、水路南側調査区のⅢ層掘り下げ・検出が西側から始まっていた。

まず、問題となったのは、調査範囲の中央を水路が範囲に沿って走っており、それが10月にならないと撤去できないということであった。そこで、10月までに水路の南～西側(南側調査区と仮称)を終了することにし、西端から東に向かって調査を進めた。しかし、天候不順と予想以上に遺構が検出されたため、10月10日(水)に県教育委員会によるこの部分の終了確認を経て、10月16日(火)に水路を撤去した後も、一部精査を残し、結局完全に終了するには10月下旬までかかった。ただし、10月下旬からは水路北側の検出も並行して始めている。

部分終了確認の際、委託者から期間内の木の伐採は難しいとの話があり、調査が次年度に継続される可能性がでてきた。そこで残りの調査範囲（北側調査区と仮称）は検出を中心に進めることとし年度内の検出終了を目指した。その後、木の伐採は今年度の調査終了後ということになり、継続調査が決定した。ただし、水路は来年度初めに必要となるので、水路予定部分だけは今年度内に調査終了して欲しい旨伝えられた。大部分は既に終了していたので、水路の北側になっていた調査区西端の精査を10月下旬～11月上旬に行った。

11月6日(火)に行われた今年度の終了確認で、新設水路が調査範囲からさらに東に延び掘削を伴うことがわかった。当初の遺跡範囲からは外れるが、検出結果から、その範囲にも遺跡が広がることは明らかで、調査終了後に県教育委員会が試掘を行うことになった。11月7日(水)には来年度調査範囲にシートをかけて埋め戻し、11月8日(木)に器材水洗、11月9日(金)午前器材を搬出して初年度の調査を終了した。なお、10月28日(日)には現地説明会を行っている。

調査後12月18日(火)に行われた試掘調査では、やはり遺構が確認されて来年度の調査範囲に加えられ（東側調査区と仮称）、この部分についてはパイプによる仮設水路で対応することになった。

次年度の調査は、平成14年8月1日(木)～11月15日(金)まで行った。北側調査区から開始し、まず、シートを剥がしてクリーニング、8月前半は、前年度に検出していた焼土、炉跡の精査、冬に伐採された木根の除去を行った。8月後半～9月上旬、基本的に西から東に向かって再度検出し、土坑類の精査も開始した（精査はその後調査終了まで）。9月中旬に東側調査区の人力による掘り下げ（深さ30cm程度）、検出を、西から東に向かって行った。この調査区は農道法面の水路敷設によるものだが、水路予定地が厳密に決まっていなかったため法面全部を調査することになった。

9月は調査員の一人が不在であったため精査は土坑類に限り、北側調査区の上坑類のほとんどに手を掛け終わって、かつ調査員が復帰した10月初めから堅穴住居跡の精査に入った。住居が大きく、また壁がはっきりしないこともあって予想以上の時間を費やし、10月末に全体写真という行状であった。10月中旬に堅穴住居跡床面からもプラスチック状土坑が検出されたために焦り、11月に入ると住居内の記録の済んだ場所から掘り下げ検出をするという事態に陥った。この焦りのため、炉跡断ち割り後にセクション・ポイントを記録忘れるという失策を何度も繰り返してしまった。なお、10月下旬からは東側調査区の精査にも入っており、記録終了後に検出面を30cmほど掘り下げたり、遺構の間にトレンチを入れる、タメ押しは、遺構精査と並行して随時行った（詳細は第IV章冒頭）。

11月8日(金)には遺構はほぼ出尽くし、11月13日(水)には精査を終了、平面実測を残すのみとなった。また、11月上旬からは遺物水洗も並行して行ったが、この年の11月はとても寒く、あまり捗らなかった（ストープは焚いていたが）。11月14日(木)午後からは撤収準備を行ったが、沿岸なのに雪が降り積もりだした。11月15日(金)午前器材搬出して、調査の全てを終了。村の教育委員会、水路組合長に挨拶に向った後センターに向かったが、内陸はやはり雪がひどく、峠付近は全て辻雪であった。

10月26日(土)に現地説明会、10月30日(水)航空写真撮影、11月14日(木)に終了確認を行っている。

(2) 特記事項

・グリッドについて

平面直角座標（第X系）に合わせ、遺跡全体をカバーできるように、10×10mのメッシュをかけ、東西方向に西から1、2、3のアラビア数字、南北方向には北からA、B、Cのアルファベットを付し、1A、1B等と呼称した（第6～7図）。これが大グリッドであり、6C、8Bの北西端の座標値は、6C（X-

11,760,000、Y=82,500,000)、8 B (X=11,750,000、Y=82,480,000)である。以上は、日本測地系によるものであり、これを世界測地系に直すと、6 C (X=12,066.9517、Y=82,200.7018)、8 B (X=12,056.9522、Y=82,180.7023)となる。

各大グリッドを5mづつ四分等し、左上を①、右上を②、左下を③、右下を④とし、1A①グリッド等と呼称した。これが中グリッドである(第7図)。

遺物包含層等、さらに細かい区画が必要な場合は、大グリッドを2mづつ25等分し、大グリッド同様東西方向に西から1、2、3のアラビア数字、南北方向には北からa、b、cのアルファベットをつけ(第7図参照)、1A1a等と呼称した。これが小グリッドである。

・調査条件について

調査環境のうち、気象以外の環境条件について。

前述のように、初年度は、木の伐採、水路の撤去が済んでおらず、調査の大きな支障になった。狭い調査範囲をさらに細かく分けて調査することになり、二度手間であったことは否めない。

排土置き場は、初年度は調査区西側に隣接する休耕田を借地でき(プレハブもここに)、ここに積み上げたが、最大で60m運ぶことになり、やや支障になっていたかも知れない。調査範囲の北側は崖、西側は現農道、東側は山林で、致し方なかったが、次年度も同じ場所を借りる約束をしたため排土はそのままにし、次の年に現地確認に赴いたところ、古代米が作付けされており、前年度調査終了した範囲にしか出せなくなった。それも、西側に延びる部分は新しい水路が既に敷設されていて、結局調査区中央の南北に広がる部分にしか出せないことがわかった。あわてて委託者に相談したところ、村に働きかけ調査区の南側の田面の低い休耕田を埋め立てることになった(写真図版1)。距離があるので、取りあえず調査終了部分に積み上げ、定期的に(1月に1度)ダンプで運ぶことにした。狭い範囲に積み上げることになり調査の支障になったかも知れないが、新設された水路向側の高い場所からも捨てられたので(写真図版1)、それほどではないと思う。

遺物、器材水洗用の水。初年度は、水路が撤去されるまではこの水が使えたが、撤去後晴れの日が続いたこともあって事欠くようになった。テンバコに溜めた雨水も底をつき、最後の器材水洗は、付近の排水路まで運んで行くはめになった。次年度は、水路組合の御厚意で新設された水路に桶刈り後も水を流し続けてもらったので、支障はなかった。

現況は、農道、山林、一部水田であり、農道も含めて根による擾乱が著しく、特に遺構の検出に支障をきたした。ほとんどの遺構の覆土が、やや汚れた黄褐色土(IV～V層再堆積)で、根による汚れと区別しにくかったためである。また、水路は道路法面に敷設されることになっていたため、植家が急で検出・調査に影響があったが、掘削予定部分だけでなく法面全体を調査対象にしたため、それほど困難はなかった。ただし、濡れると非常に滑り慎重に行動しなければならなかった。

遺構覆土。第II章でも述べたように、古代の遺構と陥し穴状遺構は黒土がはまり入っていたが、それ以外の特に土坑は、前述のように「黄色に黄色」で遺構の識別は難しかった。大きくて深いフラスコ状土坑は、上面に黒土が入っていることもあったが、その場合は逆に腐植土(1層)が落ち込んでいる部分との区別がつきにくかった。フラスコ状土坑は、検出面では確認できず掘り始めて重複に気づいたものも多い。土は、腐植土あるいはいわゆる赤土で、掘りやすかった。フラスコ状土坑同士を中心として遺構の重複も比較的多かったが、多重重複は少なく、それほど大きな支障にはなっていないと思われる。

・特に気象条件について

二か年とも、8月（初年度は下旬から）～11月前半に調査した。初年度は、雨が多く、特に8月下旬～9月中旬までは毎日のように霖雨（やませの影響）、10月上旬も毎Fのように雨が降った。作業の進行上（水路南側を先に終了させる）雨でも調査することが多かったが、滑りやすい土で、あまり捗ったとは言えない。10月下旬～11月上旬は天候に恵まれ作業は捗った。次年度は総じて雨が少なかったが、8月中旬は比較的多かった。気温も低く過ごしやすかったが、上旬、下旬は曇って沿岸北部ながら30℃を超える日も多く、特に下旬は暑さのぶり返しのため体調を悪くする人が多かった。9月前半は雨がほとんど降らなかったが、9月下旬～10月上旬は台風の影響もあって比較的雨が多く、10月は定期的に雨が降った。平年並みの降水量で、逆に気温は平年より高く、作業は捗った。しかし、11月に入ると急に寒くなり、撒収日前日の11月14日には野田村でも積雪をみた。晴れの日が多く調査は捗ったが、寒いため遺物水洗は捗らず半分以上洗い残した。

・調査員、作業員の構成について

初年度は、調査員2名、作業員22名前後で野外作業を行った。調査員は1名が文化財調査員、他1名は期限付調査員である。作業員は年齢層が高く、特に実測に支障を来した。しかし、熱心で真面目な方がほとんどだったので、把握り、検出は通常より捗った。

次年度は、初年度の構成に文化財調査員1名、作業員約8名が加わり、調査員3名、作業員30名前後で作業を行った。新加入の作業員も皆初心者であったが、20～30代と若い方がほとんどだったので、実測、精査にも万全な体制となり、作業は捗った。

・遺構の検出方法について

初年度はできるだけ高い所で検出するという調査の原則に則ったが、上述のように、本遺跡では遺構が確認しづらく、遺構があるということはわかっていてもプランが掴めないことが多かったので、精査し始めてから重複に気づく場合がしばしばあった。そこで、次年度は、最初から検出高を10～20cm下げて、プランをできるだけ確認してから精査に入ることにした。ただし、住居周囲では行っていない。

・遺構の精査、遺物の取り上げについて

遺構の精査方法は、基本的には一般的なやり方で、半截もしくはベルトを残して掘り下げた後、土層断面を記録した後、完掘している。完掘時には、基本的には層ごとに掘り上げ、遺物も層ごとに取り上げているが、時間がなくて一括した場合があり、また層に変化がなくて識別しにくかった場合には一括せざるを得なかった。残りの良い土器や、床・底面出土遺物は、出土状況を図や写真等で記録したが、該当例は少ない。

・遺構の実測について

平面図は、基本的には一般的な簡易測り方で作成したが、一部を光波トランシットによる測距を基に作成している（平板実測の測量の部分を光波トランシットで行ったのに相当）。

・遺構の名称について

遺構名称については、野外では下記のように便宜的に作業員に名前を付け、報告時に全て付け直している。各遺構の種類ごと（土坑はさらに細分した類型ごと）に西から東に向かって番号を付けている。

壁穴住居跡→A○F、住居状遺構→B○F、土坑→D○F、陥し穴状遺構→E○F、焼土→F○F、炉跡→R○F。○の中は番号が入る。

3. 室内整理と報告書の作成

(1) 作業経過

整理作業は、平成13年12月3日～平成14年3月29日、平成14年11月1日～平成15年3月31日、調査員2名、作業員約2～10名で行った（平成13年度は、12月10名、1～3月2名、平成14年度は9名）。

初年度は、水の便が悪く野外で遺物水洗をほとんど全く行っていなかった。12月～1月上旬、遺物水洗、1月中旬～2月中旬、土器の接合・復元、注記、2月下旬～3月、実測、拓影作成。遺構については、調査員が行い、1月～2月、図面点検、土層注記の打ち込み、3月トレース。

次年度。作業員は、11月前半調査員が家内に戻るまで、前年度分の遺物トレース、拓本断面実測。11月後半、洗い残した遺物の水洗、12月～1月中旬、土器の接合・復元、注記、1月下旬～2月、実測、拓影作成、断面実測。並行して、11月後半には石器の分類・接合も行い（調査員も）、12月～2月、石器実測。実測図は調査員の点検を経て、3月トレース、遺構写真図版作成。遺構については、調査員が行い、1月図面点検、土層注記の打ち込み、3月トレース。遺物の写真撮影は、写真撮影専門の作業員によって、3月後半、5月1日～6月上旬まで行われた。原稿は、調査員が2～3月に執筆。

遺構内出土遺物が多くて掲載遺物の絞り込みが難しかったため、作業は全体的に遅れた（本書掲載の遺構外出土遺物のほとんどは前年度に出上、図化したものである）。

(2) 特記事項

・遺物の全体量と報告書掲載基準について

調査では、縄文土器（30×40×30cmのコテナ）37箱（初年度17箱、次年度20箱）、土師器約20点（初年度のみ）、土製品は23点（土器？1点、土偶4点、円盤状土製品4点、焼粘土塊14点）、石器は973点、石器製作時の割片67,336.74g、石製品は8点（希飾品1点、円盤状石製品？1点、砥石加工片6点）、アスファルト1点、コハク（加工品含む）18点出土した。掲載基準は、整理方針に後述（詳細は第V章参照）。

・スタッフと整理方針について

初年度は、調査員2名と作業員2～10名で整理作業を行った。ほとんどが初心者である。調査員の指示の悪さか、注記、復元、選別に細かなミスがあった。次年度は、調査員2名と作業員9名で行った。ベテランの作業員が良く指導してくれたが、接合・復元にかなり時間がかかった。また、調査員の指示の悪さか、登録台帳の記入、選別に比較的大きなミスが多々あった。

スタッフと整理期間を考慮して、次のような整理方針を立てた。第一に、青森県二内丸山遺跡に代表されるように、比較的調査例が多い時期なので、遺構内出土遺物を中心に掲載する（遺構外出土土器が比較的多く掲載されているのは初年度に遺構が比較的少なく出土遺物も少なかったため）。

第二に、掲載方法は、ニーズとコストを考慮して（金子 1998：pp.11～13）、石器は写真を基本とし、遺構内は基本的に実測するが遺構外（遺物包含層含む）は余裕のある限りとした。石器素材割片は、初年度は遺構内出土十分は掲載したが、次年度は遺構内出土分があまりに多くて、割装せざるを得なかった。土器は、できるだけ拓本を使用し、湾曲が大きくて凹凸が深くて拓本に不向きな円筒上層部の口縁部分は実測する。その他の遺物については原則として全て実測するが、焼粘土塊やコハク、アスファルト等は写真のみとした。

・遺構図版の点検・修整について

平面図と断面図の照合等の図面点検は、現地で全て行った。合わない場合は計り直したが、どうしても合

わない場合やセクション・ポイントがないなどの不備は、そのままに本文中にその旨記している。ただし、1/20の縮尺で1mm（原寸では2cm、報告書では0.5mm）の違いについては誤差範囲とし、特にふれていない。報告書に絵を書き加えてはいけないという方針（金子 1998：p.10、13）によるものである。

・遺物の接合・復元・注記について

土器は基本的に報告書に掲載したものだけに注記した。土製品、石器・石製品については、1点、1点別の小袋にしまって、その袋に出土位置等を記載し、注記はしていない。今回、石器素材割片が比較的多く出土したので、作業員2名が10日ほど接合作業を行ったが、同じ袋、同じグリッドの中でのみ試みたためか、ほとんど接合しなかった。

土器の接合は、初年度は作業員約4名が約6週間、次年度は作業員約7名が約4週間行った。原則として同じ袋、同じ遺構、同じグリッドの中でのみ試み、遺構間や異なるグリッドの間での接合は行っていない。

・遺物の実測、拓本・トレースについて

遺物の実測・トレースは作業員が行い、それを調査員が点検した。特に石器については、調査員がよくわかっていない部分があるので、点検は外形と不自然な点がないかに留めた。

・報告書について

報告書の体裁は、基本的に既存の報告書に倣ったが、一部違うところがあるので、以下にそれを記す。最も違うところは、遺構の記載と遺物（特に遺構内の遺物と遺構外の土器）の記載である。

〔遺構図版の凡例について〕

本書冒頭の例言の下にある。

〔遺構出土遺物の掲載・記載の位置について〕

遺構出土の遺物も第V章で掲載・記載しているが、遺構図版の後に遺構内遺物集成図として縮尺を落とすまでまとめている（第68～101図）。その代わりに、遺物は次に述べるように出土位置に従って並べた。その理由は、金子（1998）のpp.15・16参照。

〔遺物の分類・掲載順序について〕

遺物は、基本的にそれぞれの種類ごとに（土製品、石製品はさらに細分した分類＝円盤状土製品などごと）に出土位置の順（遺構内→遺構外、遺構外ははっきりしているもの→不明なもの）に並べている。

遺構外から出土した土器を、型式学的分類ではなく出土位置によって並べた理由については、金子（1998）のpp.15・16参照。

〔遺物の記載の仕方について〕

遺物の記載は基本的に製表表で行い、表に入りきれない場合や表の項目に当てはまらないことは本文中に記し、その頁を表の「本文記載」という欄に記した。

〔註・引用参考文献の掲載位置について〕

それぞれの節の最後にまとめている（例えば、第1節縄文土器）。

〔本文、表、図版のレイアウトについて〕

原則として本文は本文、図版は図版とまとめている。報告書は通して読まれるということはほとんどないと思われるので、「探し易さ」を優先すべきと考えたためである。

参考文献

金子昭彦 1998 『琉球文化財センターの考古学』『紀要』XVII（財）若手照文化財調査事業団琉球文化財センター

IV. 遺構

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡3棟、炉跡10基（土器埋設が6基＝炉体土器の数、石研炉3基、地床炉1基）、住居状遺構1基、土坑・蒸気104基、溝状の陥し穴状遺構7（6?）基、焼土42基、古代（平安時代?）の竪穴住居跡2棟、住居状遺構1基、土坑1基（第105号）検出された。縄文時代の遺構は、前期中葉～中期前葉のものがほとんどを占め（中でも前期末～中期初頭）、その他早期の可能性のあるフラスコ状土坑が2基ある（第18・57号）。縄文時代の土坑は、墓塚の可能性のあるもの（第101～104号）とそれ以外に分けられ、それ以外のものは、フラスコ然としたものがほとんどである。

本章を読む際に注意していただきたい点。凡例は、本書冒頭の例言の下にある。遺物の記載、掲載場所について。遺構内出土遺物は、遺構図版の後に遺構内遺物集成図としてまとめてはいるが（第68～101図）、詳しい記載（観察表）、実測図は、第V章に掲載しているのので、そちらを参照していただきたい（番号は共通である）。遺構名称は、報告書執筆の時点で全て付け直した。同じ種類の遺構の中での番号は、基本的に西から東に向かって付けている。その他、第III章を参照していただきたい。

平面図と断面図の照合等の図面点検は、現地ですべて行っている。合わない場合は計り直しているが、どうしても合わない場合は、そのままし本文中「図・積査状況」にその旨記している。ただし、1/20の縮尺で1mm（原寸では2cm、報告書では0.5mm）以内の違いについては誤差範囲とし、とくにふれていない。本文記載中の深さは、言うまでもなく検出面からの深さである。なお、本来は実測間違ひ（測り間違ひ）によるズレは存在しないはずだが、調査員の意思の疎通に問題があったためか、少なからずある。【位置・検出状況】の欄では、読者の理解を助けるため、位置をグリッドだけでなく地区名でも表している。地区は、中央の南北（縦）方向に調査範囲が広がる部分を中央部として、それより西側の東西に延びる部分を西部、それより東の東西に細長く延びる部分を東部と表現した。【出土遺物】の欄。記載内容に、初年度と次年度のの違いがあり、次年度調査遺構では、不掲載土器の量についてふれているが、前年度については扱っていない。また、石器製作時の剥片を、初年度では石器に含めて掲載しているが、次年度では、あまりに遺構内から出土した量が多かったため、掲載していない（第1号住居跡出土分全て、第3号住居跡出土十分の一部に関しては、最後にまとめて掲載）。その代わり、次年度は遺構ごとの出土量を本文中に記載した。なお、剥片B類とは、打製石斧に代表される直接打撃系列の石器製作時に出る剥片であり、石礫に代表される押圧剥離系列の石器製作時に出る剥片と明確に区別される剥片である。分類上は押圧剥離系列のそれを剥片A類としているのだが、実際には区別し難い場合が多いので、直接打撃系列のそれであるとほっきりしているものだけを「剥片B類」として区別し、それ以外を総称して「剥片」とした。詳細は、第V章第4節を参照していただきたい。

今回の調査範囲は、遺構の検出・積査状況から、三つの区域に分けられる。まず、次年度に調査の全てを行った東側の細長い水路予定地（東側調査区と仮称）。残りの部分は、初年度から調査範囲だったが、中央に水路が東西に走り、それをまだ使っていたため、水路の北側と南側に分けての調査となった（重機による表土剥ぎは同時に行っている）（第6・7図の調査区中央の線は、その境界を示す）。南側（南側調査区と仮称）は、初年度に調査の全てを終了し（ただし第10号住居下の土坑は次年度調査）、北側（北側調査区と仮称）は、西端を除き初年度は検出のみで調査のほとんどを次年度に行った。また、水路の撤去を重機で行う関係もあって、北側の調査区に入る時点で南側調査区は埋めもどしてしまっていた。詳細は第III章第2節を

参照していただきたいが、こうした事情で狭い範囲ながら調査を別々におこなったため、住居の柱穴確認等調査に一部支障を求めている。

調査範囲の地形は、削平されているためもあるのか、ほぼ平坦で、若干西から東に、北から南に向かって傾斜している（詳細は第二章第1節、第2節を参照）。具体的な様子は、写真図版2・3等で窺われる。

遺構の検出状況については、第二章第2節、第三章第1節を参照していただきたいが、今回の調査区は水田と農道であったため、水田にかかる部分は削平が著しかった。南側調査区の南端、東端、調査範囲東半分の南側が相当し、特に東側調査区は水田造成時に大きく削平されて法面になっており、地表面は既にIV層以下であった。南側調査区の東端は遺構空白地帯になっているが、削平によって消滅した可能性が高い。調査区の北端の一部は林であったが、農道敷設以前はさらに林が広がっていたこともあり、調査範囲全体が、木根によるカクラン著しく、検出は困難を極めた。今可検出された遺構の覆土は淡いものが多いため、根によるカクランとほとんど区別できなかった。そのため、検出所で遺構を確認できず精査の途中で重複していることに気づくことがしばしばあった。初年度の失敗を繰り返さないため、次年度は、検出面（IV層上面）を10～20cm下げてでも、遺構をはっきりと確認してから精査に入るよう心がけたが、住居の周りは下げられないこともあり、同じような失敗もあった。遺構の精査・遺物の取り上げ方については、第三章、第五章参照。

ダメ押し。初年度はほとんどできなかったが、次年度はできるだけ行った。3D～4Cグリッド、8C～10Dグリッドでは（第6図）、検出・精査後にさらに30cm地山を下げて再検出しているため、この付近に遺構がないのは事実である。ただし、8D付近は、もともと削平されている場所なので、本来はあった可能性もある。その他も、北側・東側調査区は、最初の検出時に既に地山を20cm以上下げているので、見逃している可能性は低いと思われる。東側調査区は、もともと削平されているので、あり得ないと思う。ただし、竪穴住居跡の周囲は、住居が検出できた時点で止めているので、ほとんど下げているが、広間の遺構の空白部分には深さ約30cmのトレンチを入れているので、この場所についても見逃している可能性はほとんどないと悪われる（トレンチの位置を記録しなかったが、できなかった。実施したのが撤収前日で、雪が降り、暗くて光波トランスミットも平板も使えなかったためである）。住居内についても、記録後床高を約30cm下げて再検出しているため、見逃していることはないと思う。

1. 竪穴住居跡・炉跡

縄文時代（全て中期前葉）の竪穴住居跡を3棟、古代（平安時代？）の竪穴住居跡を2棟検出した。その他、縄文時代（前期山岳～中期前葉で、前期末～中期前葉主体か）の炉跡が10基（土器埋設炉6基＝炉体上器の数、石囲炉3基、地床炉1基）検出されたが、足洲に柱穴が確認されることもあり、屋外炉でなく竪穴住居跡の炉跡である可能性が高い。そこで、精に報告することにしたが、調査範囲が狭いこともあって住居の範囲を特定することは極めて難しく、近くに検出された柱穴が、本当にその炉跡が属する住居跡に伴うかどうか定かでない。調査でも、基本的には炉跡は炉跡として登録し遺物も別に取り上げている。そこで、近くに検出された炉跡と柱穴を合わせて第○号住居跡として報告するが、その炉跡も第○号炉跡として続けて別に詳細に報告することにした。さらに（○と○は同じ数字が入る）、近くに複数の炉が検出された場合、柱穴がどの炉の住居跡に所属するか見当もつかない（一つの住居に複数の炉が伴う可能性もあるが）。そこで、近くに複数の炉がある場合は同時に報告することとし、住居も第○号住居と一括して扱い、炉跡を第○A号炉跡、第○B号炉跡、第○C号炉跡のように報告する。

なお、第II章第2節、第三章第1節、本章冒頭に述べたように、今回の調査では狭い範囲ながら検出・精査を何度にも分けて行っており、調査結果に齟齬を来している。本道跡の柱穴は、根穴と区別できないようなものが多く、また現実には根穴が多く見られた。そのため、半載して同じような結果が見られても、遺構とする積極的な気持ちが必要に柱穴になるし、そうでなければ疑似現象としてしまう。近くに炉跡があれば柱穴とするが、そうでなければ……。柱穴が前年度の範囲に広がらず不自然な分布を示すのは、このためである。

遺物の出土位置を示す①～④は、断面図を取る前の遺物の取り上げに便宜的に使ったもので、中グリッドに準じ（第II章参照）、南北ベルトと東西ベルト（平面図のセクションポイント参照）を基準にして住居内を四つの区画に分け、北西区画を①、北東区画を②、南西区画を③、南東区画を④と呼称した。

縄文の住居は、基本的には、調査範囲全体に広がるようだが、西部西端、中央部中央、東部中央に特に集積する。

第1号住居跡（第8・9・68・69号、写真図版4・5・116～119・171～178・183）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6C～Dグリッド。前年度水路より南側の区画を最初に調査していたとき、IV層上面暗褐色土で検出。大きく弧を描くプランから竪穴住居跡とわかった。北側の未検出範囲にほとんどがあり、またこの部分では水路から検出面まで深さ1m以上あって水路を壊しても住居にはほとんど影響がないことがわかった。さらに、新規に付け替えられる水路工事の範囲にも含まれないことを知った。そこで、この時点では手を付けず、全てを検出し終わってから精査に入ることにした。また、未検出範囲を検出面まで下げるとき、住居の掘り込み面を確認するため、II層以下の土層をベルト状に残した。精査は、次年度、調査員3人体制が復活した10月1日から開始した。

〔図・精査状況〕東西断面（A-A'）は、上手状に高く残したので平面図と計測レベルが異なるため、上場合わない。柱穴5の土器の位置合わない。A'側、タラダラと立ち上がったはずなのになぜか下場がある。B-B'のセクション・ポイントB'は多分ずれている。B側の上場違い間違ひ。炉の断ち割り、調査の最終時にだめ押しと平行して行っていたせいか、セクション・ポイント記入忘れ。東西方向に割っている。本住居の床は、非常にわかりやすく、硬く締まらず濡っており、サブレンチを多く入れて確認したため、大部分が掘りすぎである（掘り足らなかった可能性は、後で住居内にある土坑を検出するため全体を20cm以上上げて確認したので、ないと思われる）。平面写真で高く残っているところが床面であり実測もしてきたが、図面に記すと煩雑になるので割愛した。

壁もはっきりせず、北西隅は、土器の出土もほとんどなく、床も他と比べてきれいなIV層であったことから、掘りすぎの可能性もある。

北東隅の柱穴跡のものは、ベルト残しての掘削時作業員にいつの間にか掘られていたもので、近くに土坑（第41号）のシミが検出されていたこともあり、意味のない掘り過ぎと考えていた。しかし、その後だめ押しで柱穴9が確認され、この穴と対角線上にあることから、柱穴であった可能性もある（レベル未記入で深さ不明）。

〔重複〕南西隅に第29号土坑あり。重複するか微妙なところだが、検出面から焼土の方が新しい可能性がある。床面から第42・44号土坑検出。新旧関係ははっきりしないが、検出面で輪郭全く掴めなかったことから土坑の方が古いと考えていたが、ベルトを残しての精査時にかなり高い面で確認できたことから、土坑の方が新しい可能性も捨てきれない。東壁に第43号土坑があるが、土坑は住居精査時に検出できず第30号施

土を断ち割ったときに初めて確認できたので、新旧関係ははっきりしないが上坑の方が古い可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕断面図の2層以下が相当するのだと思われるが、Ⅲ層とほとんど同じであり、3層以外は各層の間もほとんど区別できない。上述のように床面との違いも定かでない。なお、7層は、A-A'断面の裏側にあり（8層の裏にある）、図中には出ていない。

〔平面形・規模〕壁、床ははっきりせず（特に北西隅、不確かだが、5.8×4.8m程度の隅丸長方形へ楕円形か。

〔壁・床・掘り方〕壁・底は汚れたⅣ層と言った感じではっきりしない。掘り方は、トレンチを入れたり、だめ押しで深掘りをかけたが、確認できなかった。

〔柱穴〕床面で、はっきりしないものを含み半掘した結果5つを登録した（柱穴1～5）。床面を下げだめ押しで1つ検出した（柱穴4～9）。第43号土坑精査後撮影のためクリーニングした際2つ検出（柱穴10、11）。構造は読みとれないが、一箇所に集中するものがあり建て替えが行われている可能性が高い。覆土は、柱穴1が、僅かな上層と下層に分かれ、上層は灰黄褐色土（10YR4/2）地に黄褐色土（10YR5/6）のブロック、シルト、炭化物含むⅣ層粒子多い（1層とする）。下層は無褐色土（10YR3/2）シルト、粘性あり、他は上層と同じ性質（2層とする）。柱穴2は、立ち上がりがはっきりしないが、大部分を占める上層は、柱穴1の上層に似るが、より黄褐色土の部分多く、Ⅳ層に根が入って汚れているようにも見える。下層は2層。柱穴3は、上から下まで柱穴2の上層とほとんど同じ。柱穴4は、2層とほとんど同じだが、底に黄褐色土が顕著。柱穴5は、1層で、土器が逆位に埋設（土器は上半部のみ）。柱穴6は、褐色土（10YR4/4）シルト、粘性あり、1mm程度の炭化物散る。柱穴7は、柱穴6に似るが、より濃い色である。柱穴8は、薄い上層は、柱穴6、7よりずっと淡くおび黄褐色土（10YR5/4）で、根穴とも思われるが、大部分を占める下層は、褐色土（10YR4/6）シルト、ほんの僅かな炭化物含む。下層に最初気づかなかったで疑似現象かとも思っていた。柱穴9は、柱穴6～8と異なるが、強いて言えば8に近い。掘上粒目立つ。褐色土10YR4/4。柱穴10は、柱穴6に似るがもっと淡い。褐色土（10YR4/4）シルト、粘性強い、ローム粒多く、炭化物、焼土粒含む。柱穴11は、柱穴1～5に似る。おび黄褐色（10YR4/3）地に黄褐色土（10YR5/6）の底、シルト、Ⅳ～Ⅴ層粒子多く、炭化物比較的多く含む。

〔灰〕上面では焼土しか確認できなかったが、断ち割った結果土器埋設炉であることがわかった。土器の周囲80×50cmの範囲にしっかりした焼土が形成されている。

〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕〔出土状況〕9点の比較的残りの良い土器が出土した（第8図、写真図版5参照）。No.1～8の順は、出土レベルの高い→低い順であるが、何れも6層から出土している（8はほぼ床面）。No.9（第68図11・12）は、柱穴5に逆位に埋設。No.1（第68図2～3）は、ほぼ水平に横倒しになって土圧で押しつぶされた状態で出土。No.2（第68図4）は、バラバラの土器破片の寄せ集めと言った感じで、立っている底部破片も見える。No.3（第68図5）も、横倒しになって土圧で押しつぶされたような状態だが、住所中央に向かって傾斜している（床面も？）。No.4（第68図6）も、ほぼ水平に横倒しになって土圧で押しつぶされたような状態で出土しているが、下の土に接している部分は残っていないかも知れない。No.5は、集中部分から三つに分かれ（5a～c）（5b・cは不掲載）、5a（第68図7）は、口～胴部が水平に横倒してつぶれたような状態で出土、5bは、底部破片で横倒しになった状態で（底部自体は立ったような位置）で出土、5cは胴部破片。No.6（不掲載）は、黒こげになった破片（寄せ集め？）が、ほぼ水平の

状態で出土。No.7(第68図9)は、口~胴部の比較的大きな破片が、内側を上に向けてほぼ水平に出土。No.8(第68図10)は、口縁部破片が、外側を上に向けてほぼ水平に出土。No.9(第68図12)は、底を欠いているが、ほぼ倒立したような状態で出土。

〔遺物〕第68図1~25の土器、写真図版117の1~119の37の石器(第69図に一部図示)、写真図版171の791~178の965の石器製作時の剥片(一部Rフレイク含む)(総量1,192.61g)、写真図版116の10の焼粘土塊、写真図版183の1~3のコハクが出土。土器は、1、7は、縄文中期前葉、2-3は、円筒土層b式、5?、6、10-12、13?、16、18?、20、21?、22?、24は、円筒土層a1式、9は、円筒土層a2式、23?~25は円筒土層d1式?、4、8、14、15、17、19は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×6程度の土器破片が出土。

〔時期〕山土土器から、縄文時代中期前葉(円筒土層a1~2式期?)と思われる。

第2号住居跡(第10・11・69~73図、写真図版6~8・119~126・183)

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。7~8日グリッド。前年度調査終盤に確認。次年度1号に検出したが、明確なプラン、第3号住居跡との新旧関係は掴めなかった。仕方がないので、本住居の主軸方向のベルトを第3号住居まで通して設定し、それと直交する方向にも多めのベルトを掛けて、断面から、プラン、新旧関係を明確にしようとした。精査に入ったのは、土坑の精査がほぼ通り終わり、再び調査員3人体制に戻った10日以降である。思った以上に浅く、壁がはっきりしなかったが、第3号住居の床とはレベル差があり、二つの住居の重複であろうという見通しはあったので、登録。半露時に出土した土器は、登録前だったので、第2・3号として上げている。

〔図・精査状況〕住居断面のセクション・ポイントB'とC、写真撮影のための清掃時に動かされていた。跡跡、焼土のセクション・ポイントは、調査最終局面でだめ押しと平行して調査を進めていたため、なくなったり記録されたりで、セクション・ポイントE以外平面図に残っていない。何れも東西方向に割り、南側の断面を記録している。

〔重複〕東側第3号住居と重複し、はっきりしないが覆土の延び具合から考えて(A-A')、本遺構の方が新しい可能性が高い。第4・5号炉体土器の下に第64号、第65号土坑がある(本遺構の方が新しい)。南東側第67号土坑があり第3号住居より古いので、本遺構より古い。上に切り株あったため木根多く、さらに元の水路が横切り本遺構中に方向変換用の水槽(図示)があり、カクランを多く受けている。

〔覆土・地積状況〕暗褐色の今回よく見られた一般的な造構の覆土。浅いため、ほぼ単層。

〔平面形・規模〕壁がはっきりせず、特に第3号住居跡との重複部分が全く不明なため、よくわからないが、短軸4m程度、長軸9m以上の朝丸長方形~長楕円形か。

〔壁・床・掘り方〕重複していない部分は、IV層上部、東側は第3号住居覆土。何れも軟らかく、床らしくない。所々トレンチを入れため押しをしたが、掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕床面浅く地表面に近く汚れており、検出は困難を極めた。それらしいものを断ち割った結果、あまりはっきりしないが、9つ登録した。覆土は、柱穴1~5、9は、褐色土(10YR4/4)シルト、粘性あり、炭化物顕著を含む。柱穴6~8は、怪しく根穴かも知れないが、ぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト、IV層粒片、ブロック多く含む。柱穴7・8は、1~5に似るがより浅い。

〔炉〕土器埋設炉。東西方向に土器が3つ並び、軸方向がややずれているような気がするが、その延長上の第3号住居内に2つの土器が並ぶ。3つ並んだ部分の西側には土器の抜き取り痕跡の黒いシミが見られ、さ

らにその西側は水溜によって壊されているので、もっと多くの土器が埋設されていた可能性が高い。炉は強く火を受けて赤く焼けており、焼上は大きく発達している（最大厚14cm）。掘り方ははっきりしない。

【その他の付属施設】床面に焼土が2箇所発見されたが、周州にも焼土が見られるところであり、木遺構とは関係ないかも知れない。

【出土遺物】（出土状況）浅いため、本住居に帰属すると特定されたものは少ないが、柱穴9の覆土層から比較的大きな土器片、枘によるカクランの南西側床面から石皿が出土している。

【遺物】第69図26～第70図34の土器、写真図版119の38～120の50の石器（第70図に一部図示）、写真図版183の4のコハク、石器製作時の剥片524.56gが出土。土器は、26～28、32は円筒土層a1式、31、33、34は、円筒下層d1式、29、30は、縄文前期後葉～中期前葉。掲載した以外に、土器片が、10×10cm1点、9号袋×5袋程度出土。

なお、以上の他に、第71図46、52～55他の土器、写真図版121の69～122の72、123の102、103他の石器も出土している（第71～73図に一部図示）。土器は、46、53、54は、円筒土層a1式、52は、五領ヶ台1a式であろう。55は時期不明だが古いかも知れない（縄文早期～前期前半）。ところで、第2～3号住居跡。となっているのは、第2号と第3号を通してベルトを設置し掘り下げたためで、遺物は、四区画に準じた方向で、北側に①→②→③→④、南側に⑤→⑥→⑦→⑧の区画で取り分けている（③、⑦はどちらに帰属するか不明。①、②、⑤、⑥は本住居）。また第2号か3号住居のどちらから出たかはっきりしない土器片が、9号袋×2程度出土している。第71図6の円盤状土製品、写真図版183の5のコハクも、どちらから出土したかはっきりしない。また、第2～3号住居跡で取り上げた石器製作時の剥片が、6,432.28gある。

【時期】出土土器から、縄文時代中期前葉円筒土層a1式期と思われる。

第3号住居跡（第12・13・70～73図、写真図版8・9・120～126・178～181・183）

【位置・検出状況】調査区中央部。8B～Cグリッド。前年度調査終盤に確認。次年度丁寧に検出したが、明確なプラン、第3号住居跡との新旧関係は掴めなかった。仕方がないので、第2号住居の軸方向のベルトを第3号住居まで通して設定し、断面から、プラン、新旧関係を明確にしようとした。南北ベルトは、土坑あるいは出入り口状遺構らしいものが確認されていたので（第64号土坑）、それを通して設定した。精査に入ったのは、土坑の精査がほぼ一通り終わり、再び調査員3人体制に戻った10月以降である。第2号住居が思った以上に浅く、壁がはっきりしなかったが、第3号住居の床とはレベル差があり、二つの住居の重複であろうという見通しはたったので、登録。半截時に出土した土器は、登録前だったので、第2・3号として上げている。

【図・精査状況】南北断面（A-A'）、石囲炉の南側の石の北側の土場、認識の違いか、合わない。東西断面（B-B'）の石囲炉の西側の石の西側の土場、合わない。B'側のカクラン輪圍、崩れたせいか合わない。石囲炉のセクション・ポイント、調査最終期でだめ押しと平行していたせいか、セクション・ポイント抜かれてなくなり記入していない。お詫び申し上げます。次第である。C-C'は、東西方向に割り南側から記録、D-D'は、南北方向に割り西から記録している。

最後に精査した住居であり、下に土坑が隠れているという見通しを持っていたので、かなり焦って精査したため、多くの不備がある。

【重複】西側、第2号住居と重複し、覆土および炉の位置から第2号の方が新しいと思われる。北西側第61号土坑と重複し、断面から土坑の方が新しい。北側、第68号土坑と重複し、住居検出前では確認できず床面

で確認したが、第64号土坑との関係から、第68号土坑の方が新しい。西側第67号土坑と重複し、土坑上面に黄褐色土を貼っていたことから、土坑の方が古い可能性が高い。南側、第72号土坑と重複。本十坑は、第3号住居の柱穴検出時に確認したもので、土坑の方が古い可能性がある。北西隅、第65号、第66号土坑と重複するが、向土坑とも上面にある第2号住居跡の炉を断ち割った際に検出したため、新旧関係ははっきりしない。

〔覆土・堆積状況〕3層を基本的な覆土とするようだが、IV層再堆積土に炭化物を含むという今回の調査で多くの遺構に見られた土。

〔平面形・規模〕6.8×4.7m程度の楕円形。周溝があるので間違いないと思われる。

〔壁・床・掘り方〕壁～底IV層で、汚れており固く締まらない。浅く、壁の上面が木根等によって汚れており、取も床も明確には検出できなかった。第67号土坑との重複部分は、黄褐色土を貼っているようである。ため押しで20cm以上掘り下げてみたが、掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕床面検出時に10個、土坑合せて精査全て終了したダメ押し時に6個登録。床面が汚れていて明確には検出できなかった。床面検出時には、その他にも柱穴らしいものを確認したが、半歳した結果ボツ。柱穴4・6は怪しく、9もやや怪しい。覆土は、皆同じで、にぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト、汚れIV層再堆積、フカフカ、根穴より淡い。ため押し時に検出したものは、柱穴11、12が、褐色土(10YR4/4)シルト、ローム粒多く、1～2mmの炭化物含む。柱穴13・15は、褐色土(10YR4/6)シルト、粘性あり、全体が様で汚れIV層再堆積、炭化物含まず疑似現象との区別つきづらいが、検出面から柱穴に間違いないと思われる。柱穴14は、柱穴11・12より地の色が濃く、床面で検出したものに近い。暗褐色土(10YR3/4)シルト、ややボツボツ、他の性質は柱穴11・12と同じ。柱穴16は、柱穴11・12により地の色がずっと明るく、ローム粒多く、他は柱穴11・12と同じ。

4本柱四角形という本柱穴の構造をとるものと思われる。それぞれの位置に複数の柱穴が確認されたことから、建て替えがなされているのであろう。北西部分の柱穴が極端に少ないのは、第2号住居の、第65号、第66号土坑と重なる位置にあり、検出しにくかったためと思われる。

〔炉〕75×70程度の楕円に、溝跡が巡り、中央に土器底部が埋設される土器埋設石囲炉。土層は赤く良く焼けており石のほとんどは火を受けて赤くなっているが、焼土の形成は非常に弱い。調査最終時に焦って精査を進め、善段精査を担当していない作業員に精査をやってもらったため指示が十分に伝わらず、断ち割り時に石を取り除かれてしまった。平面図が断面図とうまく合わないのはこのためである。お詫び申し上げます次第である。

〔その他の付属施設〕周溝が巡る。北～西にかけて検出できなかったのは、この部分が遺構の重複著しく確認しづらかったりかも知れない。二重に巡る場所もあり、柱穴のみならず周溝からも建て替えの可能性が示唆される。覆土は、柱穴1～10と同じで、にぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト、汚れIV層再堆積、フカフカ、根穴より淡い。

〔出土遺物〕第70図35～45の土器、写真図版120の51～122の68の石製類(第71図に一部図示)、写真図版178の966～181の1060他の石器製作時の剥片(Rフレイク含む)(掲載分348.45g、総量1,558.01g)が出上している。土器は、36～38、45は、円筒上層a1式、41は、円筒上層a2式の可能性が高い。40は、縄文前期後葉～中期前葉、35、39、42～44は、時期不明。

なお、以上の他に、第71図49～51、62、63等の土器、写真図版122の82～123の101、125の131～126の146他の石器も出土している(第71～73図に一部図示)。土器は、49は円筒上層b式?、50、62は、円筒上層a1

式、51、63は時期不明。ところで、「第2～3号住居跡」となっているのは、第2号と第3号を通してベルトを設置し掘り下げたため、遺物は、四区画に準じた方向で、北側に①→②→③→④、南側に⑤→⑥→⑦→⑧の区画で取り分けている(③、⑦はどちらに帰属するか不明。④、⑧は本住居)。掲載した以外に、9号袋×7程度の土器片が出土し、その他、第2号か3号住居のどちらから出たかはっきりしない土器片が、9号袋×2程度出土している。第71図6の円蓋状土製品、写真図版185の5のコハクも、どちらから出土したかはっきりしない。また、「第2～3号住居跡」で取り上げた石器製作時の剥片が、6,432.28gある。

〔時期〕出土土器と重複関係から、縄文時代中期前半(円筒Ⅱ類a1式期?)の可能性が高い。

第4号住居跡(第14・15・73・74図、写真図版10～12・126・127)

〔位置・検出状況〕第4A号、第4B、C号が跡を精査した後、これにレベル的に合う床面を見つけ、竪穴住居跡の存在を考えたが、それは初年度の調査終盤であった。次年度は、この住居の柱穴を捜すところから始めた。周囲に古代の住居があり汚れているせいか、なかなか検出できなかった。あまりそれらしくはなかったが、4つの柱穴、さらにダメ押しで2つの柱穴を見つけた。しかし、本住居の床と考えて残しておいたⅢ層の下から、焼上(第11号)が検出され、柱穴が、この焼上に伴うものである可能性も捨てきれないので、一緒に掲載した。ただし、詳細は、本章最後の焼上の節参照。

〔図・精査状況〕柱穴6は、調査員の意図疎漏がうまくいかず平面図を作成していなかった。お詫び申し上げる次第である。柱穴6の位置は、柱穴4の頁隣か、柱穴3の頁隣である。同じくF-F'は、F側崩れて合わず、H-H'は、崩れたのか全く合わない。炉跡については、後述。第41号焼土については、焼上の節参照。

〔重複〕古代の第10号住居跡に切られる。周囲に第2号～第6号土坑があるが、新旧関係は不明。想定した床面が正しいとしたら、第41号焼土は、本遺構より古い。

〔覆土・堆積状況〕認定時既になくなっていたので、不明。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕が跡東側に残したⅢ層が床面だとすれば、水旱で、比較的固く締まるが、表面に凹凸がありボツボツした部分もある。壁、掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴1～4は、同時に検出し、1は比較的是っきり検出。他は断ち割ってみた結果それらしいものを登録(ボツになったものも多かった)。3は、怪しいが、1、2との並びがよいので、含めた。覆土は、全体的ににぶい黄褐色～灰黄褐色上だが、3と4はやや異質である。柱穴5と6は、地上1.1面を20cm下げて第5～6号土坑のプランを確認する際に検出。

〔炉〕3つの土器埋設遺構。詳細は、後で別に述べる。

〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕以下に述べる炉体土器の他に、本住居に帰属する可能性のある遺物として、第73図68～70の土器、写真図版126の147～127の159の石器類(第73～74図に一部図示)、石器製作時の剥片26,24gある。土器は、69は円筒下層d1式、その他も円筒下層d式の可能性が高い。掲載した以外に、本遺構に関係する土器破片が、9号袋×1分あるが、本遺構に帰属するかどうかは不明である。

〔時期〕出土土器から縄文時代前期末(円筒下層d1式期?)の可能性が高い。

第4A号炉跡(第14・15・第73図、写真図版10)

〔位置・検出状況〕調査区西端。2Dグリッド。Ⅲ層中で確認。

〔図・精査状況〕検出前で確認した焼上の範囲が、断ち割った際の焼上の範囲と大きく異なったため、焼土

範囲合わない。その理由としては、検出面で、覆土が被っていたことや焼土粒が密集していたことにより燃焼範囲を見誤ったことが挙げられる。

〔重複〕東側第10号住居と重複し、壊されている。

〔覆土〕検出時に既になくなっていたため不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕土器埋設炉。土器の周囲に約80×50cmの範囲で焼土が不整形に広がっている。土器は、深鉢形土器の底部が正位に埋設されている。

〔焼土〕土器の周囲に約80×50cmの範囲で焼土が不整形に広がっていたが、不整形なのは視認を受けているためか。検出時の最大厚約14cm。Ⅲ層中に形成されているためか、あまりしっかりしていないようである。

〔付属施設〕ないとと思われる。

〔所属施設〕Ⅲ層上面ではほぼ検出され周囲にⅢ層が広がるが、第10号住居のカマド東側に残っていたⅢ層上面がどうやら住居床面であることが1年目の調査の最後に判明し、この点から判断すると、この住居の炉跡である可能性が高い。なお、本遺構の北東側に隣接して第4B、C号炉跡があるが、検出面の高さがほぼ同じであることから、これも同じ住居の炉跡の可能性が高い。これらを総称して第4号住居跡と仮称する。第4号住居の詳細は、上で別に述べた。

〔出土遺物〕炉体土器は、口縁部が欠損しており（第73図64）、時期の特定が難しいが、円筒下懸d式の可能性があるか。

〔時期〕炉体土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

第4B、C号炉跡（第14・15・73図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕調査区西端。2Dグリッド。Ⅲ層中で確認。

〔図・精査状況〕西（B'）側の焼土が、断ち割りの際に崩れたため、平面図と断面図の範囲合わない。

〔重複〕南側第10号住居と重複し、壊されている。

〔覆土〕検出時に既になくなっていたため不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕土器埋設炉で、東西に隣接して二つの土器がI字状に並んで埋設されている。土器は、何れも深鉢形土器の底部が正位に埋設されている。河尻には焼土が広がるが、南側が第10号住居で壊されているため範囲は不明である。

〔焼土〕東西方向に約70cm、南北方向は35cm以上（住居に壊されているため不明）にわたって広がる。検出面からの最大厚10cm。

〔付属施設〕ないとと思われる。

〔所属施設〕Ⅲ層上面ではほぼ検出され周囲にⅢ層が広がるが、第10号住居のカマド東側に残っていたⅢ層上面がどうやら住居床面であることが1年目の調査の最後に判明し、この点から判断すると、この住居の炉跡である可能性が高い。なお、本遺構の南西側に隣接して第4A号炉跡があるが、検出面の高さがほぼ同じであることから、これも同じ住居の炉跡の可能性が高い。これらを総称して第4号住居跡と仮称する。第4号住居の詳細は、上で別に述べた。

〔出土遺物〕炉体土器（第73図65～67）は、何れも口縁部が欠損しており、時期の特定が難しいが、円筒下懸d式を中心とした時期のものと思われる。

〔時期〕炉体土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

第5号住居跡 (第16・17・74図、写真図版12・13・116・127・128)

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。14Cグリッド。法面クリーニングして第5A、B号炉跡検出。前年度県教育委員会の試掘で竪穴住居跡とされたものは、本遺構かも知れない。周囲をクリーニングして竪穴を捜したが、検出位置が法面の一番上近くにあり、ほとんどが削平されているためか見つけることはできなかった。それで現場では炉跡として登録したが、後に柱穴が確認されたこともあり、また調査区境の断面に竪穴らしいものも確認されたため、住居跡を想定した。なお、調査区境をクリーニングした際、別の炉跡(第5C号)も検出されたが、この炉跡が属する竪穴範囲が推測できず、この炉より東側の調査区境断面図の作成を省略したため、一緒に掲載する。また、第42号焼土も、炉跡と柱穴から推定される竪穴の範囲に入るのと一緒に掲載する。ただし、詳細は、本章最後の焼土の節参照。

〔図・精査状況〕調査区境断面図(A-A')のセクション・ポイント平面図に記入漏れ。西側の角がセクション・ポイントAの位置になる。炉跡については後述、焼土については本章最後の焼土の節参照。

〔重複〕第5B号炉跡は第91号土坑、第42号焼土は第90号土坑の検出面にある(より新しい)。周囲には、その他の遺構も広がるが、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕断面図(A-A')の2層が相当するか。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕壁、底は、調査区境に相当する部分があるか。掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕周囲を丹念に検出したが、法面に位置し水田造成時に南側は大きく削平されたためか、北側の高い方にしか見つけられなかった。断ち割った結果7基を登録。あまりはっきりしないが、第4号、第6号住居跡に比べればそれらしい。断面図は、次年度の調査最終時であったため作成しなかったが、覆土は、柱穴1～3が、濃淡の違いはあるが、にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト、粘性あり、V層ダマ状(径1cm)ブロック、炭化物含む。すごく淡く、周囲の根穴とほとんど区別できない。柱穴4、5は、灰黄褐色土(10YR4/2)シルト、性質は1～3と同じ。柱穴6は、灰黄褐色土(10YR4/2)～黒褐色土(10YR3/2)の間、性質は1～3と同じ。柱穴7は、いったんは疑似現象かと思ったが思い直した。1～3と4～5の中間的。深さは、柱穴1約19cm、2約44cm、3約44cm、4約33cm、5約20cm、6約56cm、7約59cm。

〔炉〕最初は第5A、B号炉跡のみかと考えていたが、第5C号炉跡、第42号焼土も同じ軸線上に乗り、1速のものかも知れない。詳細は、炉跡については後述、焼土については本章最後の焼土の節参照。

〔その他の付属施設〕不明。

〔出土遺物〕以下の第5A～C号炉跡炉体土器の他、第74図75～78の土器、石器製作時の剥片41.69g出土。土器は、75、76は、出筒下層c1式か、77、78?は、縄文中期前葉。写真図版127の165～128の172の石器類(一部第74図に図示)も、周厩から出土している。

〔時期〕第5A～C号炉跡の炉体土器から、縄文時代中期前葉と思われる。

第5A・B号炉跡 (第16・17・74図、写真図版13・116・127)

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。14Cグリッド。法面クリーニングして検出。前年度県教育委員会の試掘で竪穴住居跡とされたものは、本遺構かも知れない。周囲をクリーニングして竪穴を捜したが、検出位置が法面の一番上近くにあり、ほとんどが削平されているためか見つけることはできなかった。それで現場では炉跡として登録した。

〔図・精査状況〕断面図はB-B'で、土器東側測り間違いか合わない。線上範囲は認識の差で合わない。

〔重複〕第91号土坑の検出面にある(より新しい)。なお、検出時には、土坑があまりに小さかったため炉跡の掘り方かと思っていた。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕 土器埋設炉。土器の数から考えると2基になるが、一連のものと思われる。5 A号炉は、深鉢形土器の底部を正位に埋設。5 B号炉は、円筒上層a1式の底部を欠いた深鉢形土器を正位に埋設（口縁部も欠いているが、元はあった可能性がある）。掘り方は、一応それらしいものが確認されている（断面図参照）。

〔焼土〕 東側の土器の周囲には、円形に焼土が発達している（直径約50cm、最大厚10cm）。そこから、西側の土器にかけてはブロック状の焼土が見られ、西側の土器の周りには焼土は検出されていない。

〔付属施設〕 不明。

〔所属施設〕 周囲に検出された柱穴は、木炉跡が帰属する竪穴住居跡のもの可能性がある。また、調査区域を記録した断面図（A-A'）中央に見られる落ち込みは、その竪穴である可能性もある。第5 C号炉跡、第42号焼土とも同じ軸線に乗っており、より大きな住居の炉跡の可能性もある。

〔出土遺物〕 第74図71が5 A号炉の炉体土器、72が5 B号炉の炉体土器。71は、はっきりしないが、72は円筒上層a1式と思われる。77も5 A号炉付近から出土しているが、時期ははっきりしない。78も同様である。写真図版127の160、161の石器類（一部第74図に図示）、写真図版116の11の焼粘土塊も出土している。掲載した以外に、本遺構に関係する（検出時も）土器として、10×10cm 2個、9号袋×0.8程度の土器片が出土しているが、本遺構に帰属する可能性は低いものと思われる。

〔時期〕 5 A号炉は、はっきりしないが、縄文時代前期末～中期前葉辺りか。5 B号炉は、縄文時代中期前葉円筒上層a1式期と思われる。

第5 C号炉跡（第16・17・74図、写真図版13・127）

〔位置・検出状況〕 調査区東部中央。15Cグリッド。第5 A、B号炉跡が帰属する竪穴を捜そうと、調査区域をクリーニングしていたときに検出。すぐ横の断面の丁度良い高さに床面らしいものが確認されたが、立ち上がりがはっきりせず（そのため、時間が取られていたこともあって、本炉跡より東側の断面は記録しなかった）、また周囲に柱穴も確認されなかったため、炉跡として登録。

〔図・精査状況〕 炉土類明確な違いで、合わない。〔重複〕 ないものと思われる。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため不明だが、A-A'断面図の2c層が相当する可能性が高い。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕 土器埋設炉。円筒上層a1式の底部を欠いた深鉢形土器を正位に埋設（口縁部も欠いているが元はあった可能性が高い）。掘り方は、それらしいものが確認された。

〔焼土〕 やや偏ってはいるが、土器を中心に周囲直径約50cmの円形に広がる（厚さ10cm弱）。

〔付属施設〕 不明。

〔所属施設〕 竪穴住居跡に帰属する可能性が高く、断面図には床らしいものが確認されたが、その広がりには不明で、付近には柱穴も確認できなかった。ただし、第5 A号、第5 B号、さらに第42号焼土とも同じ軸線に乗っており、これらは一連の炉で一つの竪穴住居跡に帰属するのかもしれない。

〔出土遺物〕 第74図73-74が炉体土器で、円筒上層a1式と思われる。掲載した以外に、本遺構に関係する（検出時も）土器として、5×5cm未満の土器片が10個程度出土しているが、本遺構に帰属する可能性は低いものと思われる。また、炉体土器から、写真図版127の162-164の石器類が出土（一部第74図に図示）。

〔時期〕 炉体土器から、縄文時代中期前葉円筒上層a1式期と思われる。

第6号住居跡（第17・74図、写真図版14・15・116・128）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5Cグリッド。前年度終盤、築土群と共に第6号炉跡検出。次年度の最初にクリーニングした後、これに伴う柱穴を捜した。あまりはっきりしなかったが、それらしいものが確認されたので、竪穴住居跡に認定した。

〔図・精査状況〕柱穴1、測り間違いか、合わない。炉跡については後述。

〔重複〕がの上に第13号焼土がある（より新しい）。その他にも焼土群が周囲に見られるが、形成層から考えて、何れの焼土も本炉（住居）跡より新しいと思われる。その他、周囲に第35号等の土坑が見られるが、新旧関係は不明。

〔覆土・堆積状況〕（炉跡）検出時既になくなっていたため、不明。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕炉跡の状態から考えて、柱穴検出面（IV層上面）が床であったと推測される。特に硬く締まることもなく全くぶらしない。掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕最初のクリーニング時に2つ、後で20cm下げた土坑検出時に1つ認定。クリーニング時には、その他にも3つ検出したが、半載した結果疑似現象とわかった。何れの柱穴も立ち上がりははっきりせず、周周に見られる根穴との区別は明確ではない。柱穴1の覆土には焼土が認められた。前年度の調査範囲にも存在していた可能性があるが、認定されたものはなかった。一応それらしいものも検出され半載したと記憶しているが、疑似現象ばかりで柱穴と認定できるものはなかった。ただし、次年度の柱穴も上記のようなものだったので、積極的に柱穴とするかどうかの判断の違いによるだけの可能性が高い。

〔炉〕石州が。詳細は後述。〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕写真図版116の12の焼粘土塊が柱穴から出土。周囲から、第74図79～82の土器が出土している。土器は、80?＝81?は付筒下層b2式の、82は円筒下層b1式の可能性ある。79は時期不明。

〔時期〕時期を特定できるものがないが、出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性ある。

第6号炉跡（第17・74図、写真図版14・128）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5Cグリッド。前年度焼土群と共に既に検出していた。

〔図・精査状況〕焼土範囲、認識の違いで合わない。石も、新し掘り時に落下してしまっただけで、合わない。

〔重複〕北西側、本遺構の上面に第13号焼土がある（より新しい）。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため、不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕石州が。75×70cmの、南東側に開くコ字形。石の抜き取り痕は確認できず、元々開いていた可能性が高い。コ字の南西部分の石がないのは、この部分に焼土が重複しており、また木根があり、抜き取り痕らしい黒土も見られたことから、石が抜き取られた可能性が高い。この位置は、開口部から見て第7号炉跡と同じ位置で、事実としたら、当時の慣習を垣間見せるもので非常に興味深い。各石の炉内側は、何れも良く焼けており、特に北西部分の石は、花崗岩であるためボロボロになっている。掘り方は、はっきりしないが、それらしいものが確認されている。

〔焼土〕直径約50cmの円形の範囲に見られ、北東側は一部石の向こう側まで形成されている。最大厚10cmで、比較的良く焼けているが、根によるカクランを多く受けている。

〔付属施設〕不明。

〔所属施設〕上で別に述べた柱穴が伴うとしたら、竪穴住居跡だった可能性が高い。

〔出土遺物〕コ字形の円筒状の石の反対側に、写真図版128の173の石器類出土（第17図）。北西側の向こう側に土器の底部片が正位で出土（第74図79）。黒こげである。石器製作時の剥片9.25g出土。掲載した以外にも、本遺構に關係する（検出時等）土器破片が9号袋×1分ある。本遺構に属するものはほとんどないと思われるが。

〔時期〕時期を特定できるものがなく不明だが、出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第7号住居跡（第18・74図、写真図版15～17・128）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西。7 B グリッド。前年度の調査終盤、IV層上面で第7号が跡検出。次年度、この面で柱穴を獲したところ、あまりそれらしくないが比較的多くの柱穴が検出されたので、堅穴住居跡を想定した。

〔図・精査状況〕柱穴の、B-E'のセクション・ポイントFが合わない。J-J'のセクション・ポイントJ'完備後崩れた。炉跡については後で別に述べる。

〔重複〕炉跡下に第47号土坑がある（本遺構の方が新しい）。周囲に土坑群が広がるが、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕検出時既になくなっていたため、不明。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕炉の位置から、柱穴検出前が床面であると思われるが、特に固く締まらず全くそれらしくない。壁は消失。掘り方は不明。

〔柱穴〕炉跡検出面（IV層上面）で、13個検出し、半截の結果2個は疑似現象と判断し、2基を除いて、あまりそれらしくないが11個を認定。柱穴が南側に広がらず不自然なのは、調査を別々にを行ったためである。南側調査時にも、柱穴らしいものは確認されたが、半截した精貝立ち上がりもはっきりせず、それらしくなかったので疑似現象と考え遺構と認定しなかった。北側を調査したときは、炉跡があるということで、怪しいものでも積極的に柱穴に認定した。その差がこの結果になっていると思われる。柱穴6と11は、覆土等から柱穴らしいが、他は立ち上がりもはっきりせず根穴ともほとんど違わない。柱穴11は、土坑と予測していたシミを掘り下げた底から検出されたもので、確認面が低いせいか極めてはっきり円を描いて確認された。

〔炉〕石囲炉。詳細は、後述。〔その他の付属施設〕不明。

〔出土遺物〕柱穴から第74図83～86の土器、写真図版128の174～176（一部第74図に図示）の石器類が出土。土器は、83は時期不明、84、85？、86？は門筒上層a1式の可能性がある。掲載した以外にも、本遺構に關係する（検出時等）土器破片が9号袋×1/2分ある。本遺構に属するものはほとんどないと思われるが。

〔時期〕出土遺物から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

第7号炉跡（第18図、写真図版15・16）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西。7 B グリッド。前年度IV層上面で検出。

〔図・精査状況〕断面B-B'のBの方の石、合わない。

〔重複〕第47号土坑の上面にある（本遺構の方が新しい）。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため、不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕石囲炉。60×40cmのコ字形。西側、石の抜き取り痕は見られず、元々なかったものと思われる。コ字の北東側の石がないが、検出面黒く、抜き取られた可能性もある。この位置は、開口部から見て第6号炉跡と同じ位置で、事実としたら、当時の慣習を垣間見せるもので非常に興味深い。南

側の比較的大きな石を除き、何れの石も火を受けて赤くなっており、特に東側の小さな石は花崗岩であるためボロボロである。南北断面の北側の石は、下がきれいな黄褐色土であるため割り方をはっきり確認することができた。しかし、同断面の南側の石は、周囲が黒っぽい土のため、はっきりしない。

〔焼土〕焼土粒は多く見られるが、焼けている向は残っていない。片づけがなされたせいか、石器製作時の剥片も多く出土している。

〔付属施設〕不明。

〔所属施設〕上で述べた柱穴が本遺構に帰属するとしたら、竪穴住居跡であった可能性が高い。

〔出土遺物〕石器製作時の剥片69.72g出土。

〔時期〕不明だが、今回の調査結果全体から縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第8号住居跡（第19回、写真図版17・18・128）

〔位置・検出状況〕調査区東部西。10Cグリッド。周囲（西以外）の調査範囲外に続く。前年度の最後に炉跡検出。規模が大きく焼土が明瞭に形成されていることから、最初から竪穴住居跡を想定して精査。次年度最初に、周囲を丹念に検出したところ、はっきりした柱穴が確認された（はっきりしすぎて新しい可能性もあるか）。南側は水田造成時の削平、北～東側は調査範囲外のため、空容不明。本遺構は当初から竪穴住居跡として登録されていたが、今回報告するに当たって他の同様遺構の様式に合わせて報告するものである。

〔図・精査状況〕炉跡については後述。

〔重複〕が跡第100号土坑と重複（土坑の方が新しい）。

〔覆土・堆積状況〕検出時既になくなっていたため、不明。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕炉跡の南側は硬く締まり（IV層）、それらしい。壁、掘り方は確認できず。

〔柱穴〕西側に弧を描いて並ぶように4基検出。柱穴4（E-E'）は、ややあやしいが、他は黒褐色の柱あたりらしいものが確認され、今回の調査では最も明瞭に認定できたものである（ただし、はっきりしすぎて、新しいものの可能性をめぐり去れない）。南側は水田造成時の削平（法面）、北～東側は調査範囲外のため、柱穴の広がり不明。

〔炉〕後述。〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕柱穴から写真図版128の177の石器類出土。5×5cm未満の土器破片4個が出土しているが、本遺構に本当に帰属するかは定かでない。時期も不明。

〔時期〕不明だが、今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第8号炉跡（第19回、写真図版17・18）

〔位置・検出状況〕調査区東部西。10Cグリッド。東側の調査範囲外に続く。前年度の最後に検出。規模が大きく焼土が明瞭に形成されていることから、最初から竪穴住居跡を想定して精査。次年度最初に、周囲を丹念に検出したところ、はっきりした柱穴が確認された（はっきりしすぎて新しい可能性もあるか）。こうした経緯のため、本遺構は当初から竪穴住居跡の炉跡として登録されていたが、今回報告するに当たって他の同様遺構との兼ね合いから、あえて炉跡として別に報告するものである。

〔図・精査状況〕平面実測時出したらなかったせいか、合わない。

〔重複〕西側に飛び地状に柱穴内に広がる焼土を第100号土坑が切る（より新しい）。

〔覆土〕検出時既になかったため、不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕地床炉か。石囲炉の可能性も十分あるが、上面が根穴により汚れており、炉石の抜き取り痕は確認できなかった。規模は、東側の調査範囲外に続くため不明。

〔焼土〕規模も大きく良く焼けている。調査した範囲では、最大厚約7cm。本遺構は次年度の最初に調査しており、大量の土坑群を早く手に付けなければとあせっていたためか、断ち割り時の注記をし忘れて完損してしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔付属施設〕不明。

〔所属施設〕周囲に検出された柱穴と共に、木遣構を炉跡とする竈穴住居跡に帰属する可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕時期を特定できるものがないが、今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第9号住居跡（第19図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6Cグリッド。初年度の最初の頃に調査した第9号炉跡は、焼土が確認できず、また石が焼けていないこともあって、当初配石遺構としていた。しかし、二カ年の調査を終えて、周囲には竈穴生居跡が広がり、また石囲炉も近くにあることがわかり、炉跡と考えた方が良いと思うようになった。今回の調査で明らかに内外炉と言えるものは存在せず、竈穴住居跡の存在を想定した。このような経緯のため、柱穴は登録されていない。根穴かどうかははっきりしないものは検出し、断ち割りしたが、それらしいものはなかったので、積極的に柱穴とする気持ちはなかった。第6号、第7号住居跡などの柱穴から考えれば、柱穴がないのは、早にその気持ちによる部分の可能性が高い。ここに、調査範囲を細かく分断して行った弊害が如実に表れている。以下、配石遺構改め炉跡について詳述する。

第9号炉跡（第19図、写真図版18、183）

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6Cグリッド。IV層検出面で確認。規模から炉跡と考えたが、酸が全く火を受けておらず焼土も確認できなかったので、配石遺構として登録。ただし北西側1mほど離れた地点の土坑（第101、102号土坑）検出面では焼土ブロックが確認されている。

〔図・精査状況〕西側の配石断面図と合わない。

〔重複〕配石遺構検出時には確認できなかったが、下部から第101号、第40号土坑が検出されている。明らかに本遺構の方が新しい。

〔覆土・堆積状況〕調査員が確認した時には既に配石が露頭していたため不明だが、検出状況から考えてⅢ層の一部として良いと思う。

〔平面形・方向・規模〕北西～南東方向に主軸を持つ長方形～長楕円形。約75×35cm。

〔配石の構成〕石囲炉のように角線を長方形～長楕円形に配置しただけで特に粗んではないようである。

〔石の性質〕火は受けていないようである。石質は鑑定していない。

〔石の掘り方・設置の仕方〕根等の攪乱もあり、はっきりしないが、断面から推測すると、皿状に掘り窪めたところに石を並べ、その上に1層の土を被せたものか。

〔付属施設〕確認できなかった。

〔下部構造〕下に第101号土坑（第40号土坑も関係？）があり、これに関係する可能性が高い。ただし、第101号の覆土はⅣ～Ⅴ層再堆積の褐色土で積極的に埋め戻したとする根拠はなく（第40号は後述のように不明）、草叢かどうかは不明であるが、角張った楕円形という今回の調査で他とはやや異なる形から墓塚の可

能性が窺われるかも知れない。

【所属施設など】もし本遺構が炉跡だとしても、付近に柱穴は検出されておらず竪穴住居跡の一部にはならないものと思われる。

【出土遺物】すぐ南側の検出面で埴圴出土（写真図版183の16）。確認時には壊れてしまったので加工品かどうかは不明。

【時期】時期を特定できる遺物はないが、重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

第10号住居跡（第20・75図、写真図版19～21・128・129）

【位置・検出状況】調査区西端。2 Dグリッド。南側の調査範囲外に続く。主としてIV層上面で黒土で検出したが、周囲にⅢ層に近い暗褐色土が広がり、第11号住居ほど明確には検出できなかった。13年度調査終盤に、それは、洞窟に縄文時代の遺構が広がり、それを掘り込んで構築されているためと気づいた。道路造成時に削平され、南に行くほど削平の度合いは大きい。【図・精査状況】カマド断面、平面図と焚き口部分合わない。平面区では3層の一部まで焼土範囲と含めていたためである。

【重複】第4 B、C号が跡を壊して構築。床下から、第5、6号土坑を検出。調査区地付近水路によって壊されている。

【覆土・堆積状況】上部黒土、下部黒褐色～暗褐色土。4層は住居外から続くカマドと推測される部分を覆っている。

【平面形・規模】南側の調査範囲外に大きく続くため不明。東西は約4.7m。

【壁・床・掘り方】壁は削平されているため非常に浅く不明である。床は特に締まる部分はなく、北西隅は根による擾乱のためカボソノナ所がある。Ⅲ～Ⅳ層を壁、Ⅳ層を床とする。完掘後セクションポイントに沿ってトレンチを入れたが、掘り方ははっきりせず、少なくとも正的な広がりを持っている部分はなかった。

【柱穴】数回床面をクリーニングし、あやしいものを断ち割ったが、片断似現象で柱穴と思しきものはほとんど確認できなかった。南東部分に検出された1基も、輪郭がボヤーとしていて確実性は薄い。半歳時断ち割り、完掘時掘りすぎたので、形は確かでないが、直径約30cm、床面からの深さ約15cm。覆土は、黒褐色(10YR3/2)シルト、わずかに炭化物含む。

【カマド】カマド本体は残っておらず、その部品と思しき礫を含む4層が相当部分に広がる。この4層は住居北側から流入する形で広がっているが、由来がはっきりせず、カマド本体が崩れたとしては、粘土やロームブロック、焼土ブロックの混入が少ない。

焚き口は、65×50cmにわたって焼土が形成されており、最大厚約10cm。煙道および煙山には、熱を受けて硬化した部分はない。これは、煙道が縄文時代の土坑を壊して構築されているためか。

【その他の付属施設】確認できなかった。

【出土遺物】(山土状況) 南西隅の水路近くの床面で（1cm厚く）、土師器製の破片が傾倒しになった状態で出土（写真図版20～21）（第75図1）。同一個体と思われる破片が、そのすぐ西から出土し、付近に木炭があることから、これによって擾乱されたのかも知れない。カマド焚き口前方の4層中で、住居方向に傾斜して底部破片が出土（写真図版20）（第75図2）。そのすぐ下南側に礫石出土。

（遺物）第75図1～3の土師器出土。出土量が少なく残りが悪いので、はっきりしないが、八木編年のG期

(9世紀後葉)(第V章第2節参照)に相当するか。写真図版128の178~129の193(一部第75図に図示)の石器類が出土しているが、その多くは周囲の縄文時代の遺構からの紛れ込みと思われる。

【時期】出土土器から、平安時代(9世紀後葉?)と思われる。

第11号住居跡(第21・22・75図、写真図版21・22・129・130)

【位置・検出状況】調査区中央。7Cグリッド。古代の竪穴住居跡によく見られる黒土で明確に検出。

【図・精査状況】西北断面(A-A)完掘時掘り広がつたため上場、下場平面図と合わない。東西断面の東(B)側の上場も。カマド断面、石が平面図と微妙に合わない(測り位置によるものと思われる)。樫山、完掘時掘り広がつたため平面図と合わない。

カマド断面

【重複】覆土上面から第105号土坑が掘り込まれている(住居より新しい)。

【覆土・堆積状況】1層は、住居と第105土坑の覆土。上半部黒褐色~黒色土、下半部褐色~黄褐色土。11層には灰白色火山灰が含まれる。覆土の性質及び形態から、自然堆積の可能性が高い。

【平面形・規模】約3.3×3mの隅丸方形。

【壁・床・掘り方】壁は、垂直に近く外反するようである。床は特に締まる部分はなかった。IV層を壁と床とする。完掘後セクションポイントに沿ってトレンチを入れたが、掘り方は確認できなかった。

【柱穴】床面を数回クリーニングし、あやしいものを断ち割ったが、替疑似現象で柱穴と思しきものは確認できなかった。

【カマド】検出時、煙出は黒いシミが柱穴状に写りこぼり見え、カマド本体との間は、地山の黄褐色土に近い土が広がって所々黒褐色土がブロック状に見られるという状態であった。断ち割り時には煙道上面には既に黄褐色土は見られず、この点から考えれば掘り込み式ということになるが、検出状況からはくり抜き式の可能性が窺われる。本来くり抜き式だったものが煙道部分が大きく削平されたため掘り込み式に見える可能性もある。

カマド本体は石組の立派なものであるが、それを覆っていたはずの粘土は残っておらず石も多くは崩れ、その上の煙出に向かう部分も家の中に向かって崩れていた(カマド断面の2、3、7?層)。焚口炬土に接する北側の石、およびそれに東側に隣接する石は立石で、地中に15cm程度埋設されていた。西側の石は赤く明らかに火を受けているが、東側の石は赤くない。ただしやや脆いので火を受けているかも知れない。

焚口は、90×70cmの範囲で焼土が形成されており、最大厚約8cm。焼道および煙出は、熱によって硬化した部分は全く見られなかった。

【その他の付属施設】カマド南側、住居南東隅に浅い窪みが検出された。約60×50cmの不整形形で、床面からの深さ約5cm、覆土は単層で、暗褐色(10YR3/4)シルト、ややボソボソでダマ条のロームブロック、焼土ブロック、炭化物含む。埋め戻したような土であり、壘穴を掘った時の窪みを平らにならしただけなのかも知れない。

【出土遺物】(出土状況)カマド北側の床面直上から比較的残りの良い土師器(a上層)(第75図4)、その他の土器片が出土した(第22図)。(遺物)第75図4の土師器が出土。1点のみで、また残りが悪いので、時期を特定するのは難しいが、第10号住居跡出土上層とほぼ同じくらいか。写真図版129の194~130の208(一部第75図に図示)の石器類出土しているが(一部第105号土坑出土土器含む)、その多くは周囲の縄文時代の遺構からの紛れ込みと思われる。

〔時期〕 山土土器から、平安時代と思われる。

2. 住居状遺構

竪穴住居跡に類似するが、炉やカマドを持たない遺構である。縄文時代Ⅰ基と古代Ⅱ基検出された。規模は何れも小さい。

第1号住居状遺構（第23・75図、写真図版22・116・130）

〔位置・検出状況〕 調査区西部東。6Cグリッド。IV層上面で、輪郭はぼんやりしていたが、中央に濃い灰黄褐色土を持つ比較的大きなシミを検出。規模から住居状遺構かと考えたが、比較的小さいので半蔵した。その結果、浅く底が平らだったので、住居状遺構に認定。土坑でなく住居状遺構としたのは、規模、深さ、底が平らという3点からであるが、素と推定した第104号土坑も、これらの条件を満たし、本遺構よりさらに大きい。位置も近く、同じ仲間とすることも不可能ではないが、覆土が全く異なり、本遺構は他の多くの遺構に近く、同じ時期と考えられる。しかし、規模と深さが他の土坑類と全く異なるので、別の遺構と考えた。すぐそばに該期の竪穴住居跡が存在することも、住居状遺構に分類する根拠である。

〔図・精査状況〕 浅いため底が軟らかく汚れており、半蔵時中央付近掘りすぎ（副穴状の部分）。その他の壁、底の部分も掘りすぎが多い（特に半蔵時に掘った南側）。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 全て似たような土だが、下に行くほど深い。北西隅、6層の下にIV層再堆積土あり（炭化物少し混じる）。

〔平面形・規模〕 1.9×1.4m程度の楕円形か。

〔壁・床・掘り方〕 壁上25cmIV層、壁下5cm～底V層。掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕 確認できなかった。〔その他の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 第75図87～95の土器、写真図版130の209～210の石器類（一部第75図に写小）、写真図版116の13の焼粘土塊、石器製作時の剥片39.73gが出土。土器は、93、95は円筒土器a1式の可能性があり、87～92、94は、縄文前期中葉～中期前葉。掲載した以外に、9号袋×1.3程度の土器破片山十。

〔時期〕 山土遺物と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

第2号住居状遺構（第23・75図、写真図版23・130）

〔位置・検出状況〕 調査区西。3Dグリッド。IV層黒土で検出。検出前では第1号竪穴状遺構とくっついて見え、隅丸方形の土坑の北西隅に溝状の上坑が連続しているように見えた。半蔵した結果、壁と底を確認して土坑と認定したが、その形態と規模から、報告書記載の時点で住居状遺構に改めた。

〔図・精査状況〕 西（A）側の土場完掘時掘り広かったため合わない。第1号竪穴状遺構との重複関係を把握するため、北西隅にサブトレンチを入れたが、その際狭くて土層が十分に把握できなかったため、掘り広げて本遺構を壊した。

〔重複〕 北西隅第1号竪穴状遺構と重複。覆土はよく似ているが、断面から住居状遺構の方が新しい。

〔覆土・堆積状況〕 上部黒土、中部黄褐色土、黒褐色土と黄褐色土の混じり、下部黒～黒褐色土。中部は埋め戻した土のようである。断面図に示したように、底面中央から北側にかけて焼土粒を多量に含むブロックが検出された。炭化物や炭化材らしいものも含み、底面から約10cmの高さで見られたが、断面図の相当層は確認できなかった。

〔平面形・規模〕約2.2×1.9mの牌丸方形。

〔壁・底・掘り方〕壁は垂直に近く外反。掘り方は確認しなかった。壁～底IV層。

〔柱穴〕検出できなかった。

〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕写真図版130の2:1～2:5の石磨新が出土しているが（一部第75図に図示）、その多くは周囲の縄文時代の遺構からの紛れ込みと思われる。

〔時期〕縄土から古代の可能性が高く、今回の調査結果全体から平安時代（9世紀後半）の可能性がある。

〔所見〕古代の第10号住居跡に隣接することから、物置などの付属施設なのかも知れない。

3. 土坑・墓墳

（人によって）地面に掘られた穴のうち、壑穴住居跡（第1節）、住居状遺構（第2節）、溝状の陥し穴状遺構（第4節）を除いたものである。

縄文時代104基（第1号～第104号）、古代1基（第105号）ある。縄文時代のものは、墓墳の可能性のあるもの（第101号～第104号）とそれ以外に分け、それ以外のものは、フラスコ然としたものとそうでないもの（第98号～第100号）に分けた。同じ種類の中では、西から東へ番号をふっている。前期中葉～中期前葉のものがほとんどを占め（中でも前期末～中期初頭）、その他早期の可能性のあるフラスコ状土坑が2基ある（第18号、第57号）。なお、フラスコ状土坑については、第VII章に一覧表がある。

木遺跡では、オーバーハングがきつく三角形に近いフラスコ状土坑が多かった。そのため、口が狭く、また掘り終わると、そのそばから崩れてしまい、精査するのも容易でない。そこで、半截する際には、トレンチ状に掘って断ち割り、他の部分の壁は完掘時に同時に掘ることにした（写真図版25等参照）。なお、こうした方法のため、完掘時には、通常の部分（断面実測した部分）と正反対の方向にも覆土が残ることになる。これについても、基本的には断面実測した部分と同様に層ごとに遺物を取り上げたが、断面実測した層と同じかどうか見極めが付かない場合には「○○相当層」という言葉を使っている。

〔平面形・規模〕の欄の「上場」は、上述のような形のため、検出時の姿がどれだけ本来の「開口部」の形を示しているか不明なため、あえて使用したものである。〔断面形・深さ〕の欄の「袋状」は、「口」が底より小さく壁がオーバーハングしているものを総称しており、「フラスコ状」は、「袋状」のうち、口付近が垂直に近く立ち上がるもので「フラスコ形」に近いものを指す。

第1号土坑（第24・75図、写真図版23・130・131・182・183）

〔位置・検出状況〕調査区西端。2D～Eグリッド。IV層褐色土で検出。水路を除去しクリーニングしたところ暗褐色の門いシミを検出。半截したところ壁と底を確認し土坑と認定。南側の調査範囲外に続く。

〔図・精査状況〕東（A'）側の底、平面図測り間違いのため合わない。深さの割に口が狭く、精査が難しくなったのでサブトレンチを入れて上場南側を壊した。

〔重複〕上面に第24号焼土を検出。

〔覆土・堆積状況〕濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の暗褐色～褐色土。

〔平面形・規模〕上場は上記の理由で不明。底は、直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕三角形に近い袋状。約90cm。

〔壁・底面〕壁は、直線的にオーバーハングする。壁1:30cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 調査した範囲では確認できなかった。

〔出土遺物〕 第75図96、97の土器片、写真図版130の216～131の222の石器類（一部第75図に図示）、写真図版182の3の柘石加工品？、写真図版183の6のコハク、石器製作時の剥片4.93gが出土。土器は、96は円筒下唇d1式、97は特定できない。

〔時期〕 出土遺物と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前期の可能性はある。

第2号土坑（第24・76図、写真図版23・24・131）

〔位置・検出状況〕 調査区西端。2 Dグリッド。IV層褐色土で検出。水路を除去しクリーニングしたところ暗褐色の円いシミを検出。半截したところ壁と底を確認し土坑と認定。南側の調査範囲外に続く。

〔図・精査状況〕 上場崩れたせいか合わない。深さの割に口が狭く、精査が難しくなったのでサブレンチを入れて上場南側を壊した。サブレンチの位置は、図が煩雑になるので今回は省略した。

〔重複〕 北側第3号土坑と重複。検出面では重複しておらず完掘時に重複だと気づいたため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の暗褐色～褐色土。下半の方が暗い。15～16層は、自然現象によってV層が変化したもので掘りすぎと考えていたが、15層は違うかも知れない（後述）。

〔平面形・規模〕 上場は、直径90cm程度の円形か。底は、直径約1.5mの円形。

〔断面形・深さ〕 三角形に近い袋状。約1.1m。

〔壁・底面〕 直線的にオーバーハング。壁は40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 副穴があった可能性がある。今断面図を見ると、ほぼ中央にそれらしい落ち込みがあり、15層を後から堆積したものと捉えることも可能だからである。ただし、現場では、15層が下で掘るとブロック状に分かれ、いかにも自然現象で地層が変化した土のようであり、副穴の覆土とは思えなかった記憶がある。副穴と想定される部分の西側の下場も不整形であった。いずれにしろ記録が残っていないので定かではなく、調査がなかったことは認めざるを得ない。

〔出土遺物〕 〔出土状況〕 断面図1層下部の礫の上から比較的大きな土器片出土（写真図版24）。北西方向にやや傾斜している。〔遺物〕 第76図98～101の土器片、写真図版131の223～227の石器類（一部第76図に図示）が出土。土器は、時期が特定できないが、何れも縄文時代前期末～中期前期の可能性が高い。

〔時期〕 出土遺物と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前期の可能性はある。

第3号土坑（第24・76図、写真図版21・131）

〔位置・検出状況〕 調査区西端。2 Dグリッド。IV層褐色土で検出。上面の土が非常に淡かったので疑似現象だと思っていた。念のため半截したところ暗褐色土が下に続き、壁と底を確認して土坑と認定。

〔図・精査状況〕 深さの割に口が狭く、精査が難しくなったのでサブレンチを入れて上場南側を壊した。サブレンチの位置は、図が煩雑になるので今回は省略した。

〔重複〕 南側第2号土坑と重複。検出面では重複しておらず完掘時に重複だと気づいたため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 口（首）が狭いせいか、極めて特徴的な堆積状態である。上部褐色土、その下は基本的に黒褐色～暗褐色土と褐色土～黄褐色土の交互層で、下部に黒褐色土があり、その上付近から大量の土器破片が出土している。

〔平面形・規模〕 上場は直径90cm程度の円形か。底は、直径約1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕口が大きく外反するフラスコ形。約1.5m。

〔壁・底面〕壁は、底からやや丸みを帯びて強くオーバーハングし、その後垂直に近い状態で立ち上がり、最後に強く外反する。壁上20cm IV層、その下～底V層。底に花崗岩の露頭が見える。

〔副穴等の付属施設〕底面ほぼ中央に約0.6×0.4mの隅丸長方形の副穴検出。底面からの深さ約20cmで、四隅に深さ約5cm（何れも）の細い溝が付く。

〔出土遺物（出土状況）〕底面から約32cm、炭化物、ロームブロックが顕著な15～16層（白色粘土含まれていないから、おそらく16層）から大量の土器片出土（写真図版24）。ほぼ水平方向に面的に広がるが、基本的に中央（南側？）に向かって傾斜しているようで、中央付近では緩やかに、壁付近ではやや強く傾斜している。半壊時には記録していないので、南側にも続いていたかどうかは定かでないが、記憶では同様に土器が出土したと思う。北壁の底から上2cmでも比較的大きな土器片が出土（平面図に記載）。下は灰黄褐色（10YR4/2）のボンボンの土で南東方向にやや傾斜している。

〔遺物〕第76図102～115の土器、写真図版131の228～234の石器類（一部第76図に図示）が出土。土器は、102～104、107、108、111、113、114は円筒下層d1式、106、109、110、112は、円筒下層c～d式？、115は縄文前期後半。105は時期不明。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末（円筒下層d1式期？）と思われる。

〔分類・所見〕検出面から出土した土器（114）と下部から出土した土器（107、108）がほぼ同時期ということ、埋めもとされている可能性が高い。覆土、断面形、底面施設、遺物の出土状況に顕著な特徴が見られ、特異な土坑である。

第4号土坑（第25・77図、写真図版25・132）

〔位置・検出状況〕調査区西部西端。2Dグリッド。地山上面で、ほんやりではあるが円形のシミが確認できた。ただし、周囲にはっきりしない土坑があったため、20cm下げてから掘り始めた。

〔図・精査状況〕トレンチの西側、東側の土場、崩れたため合わない。北壁、中段に洞窟状の庇がある。調査者は掘れる土だったと言うが、周囲に根が見られて締まり弱かっただけの可能性が高い。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、黄褐色～褐色土と灰黄褐色～黒褐色土の交互層、下半、締まり弱くボロボロのV層ブロック顕著に含むが、上半と同じく交互層。締まり等土性から、1～7層以外、全て埋めもどした土と思われる（1、7層も？）。

〔平面形・規模〕土場は約1.7×1.4mの楕円形、底は直径約1.3mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕約1.5mの袋状で、口が大きく広がる。

〔壁・底面〕壁上20～30cm IV層、その下V層、底から15cm以下VI層？ 底は、大きな礫を含む砂質シルトで、他のVI層とやや異なる。川砂がキラキラしている。いわゆる段丘堆積物。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われるが、地層の関係で不明。

〔出土遺物〕第77図116～118の土器、写真図版136の235、236の石器類（第77図に図示）が出土。土器は、118は円筒下層b2式、他は不明。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕口が大きく広がることと覆土から、周囲を削って埋め戻していると思われる。基盤層を掘り抜いている。

第5号土坑(第25・77図、写真図版25・132・183)

【位置・検出状況】調査区西部西。2 Dグリッド。第2号住居の床を10cm下げて確認。

【図・精査状況】西側の土場崩れて合わない。副穴、測り間違いか、西側の上、下場全く合わない。

【重複】上に第2号住居がある(新しい)。

【覆土・堆積状況】黄褐色～褐色土と灰黄褐色土の交互層。

【平面形・規模】上場は、約1.2×1mの楕円形。底は直径約1.5mの不整形円形。

【断面形・深さ】深さ約0.8mの袋状。

【壁・底面】V層。

【副穴等の付属施設】副穴あり(底V層)。

【出土遺物】(出土状況)北東壁付近、9層から完形に近い土器～大きな土器片出土(写真図版25)。No. 1は、9層上部で、東西方向にはほぼ水平に横倒しになって出土。No. 2も、9層上部で、土坑の中央に向かって傾斜して出土。No. 3は、9層中部で、南北方向に横倒しになって(上床でつぶされている)壁側に僅かに傾斜して出土。土器を含む層の下の土はボロボロと崩れる土。

【遺物】第77図119～127の上器、写真図版132の237、238の石器類(一部第77図に図示)、写真図版183の7のコハク、石器製作時の剥片21.07gが出土。土器は、122は円筒下層c式?、125は円筒下層d 2式、127は円筒下層c 1式?、120は縄文前期末～中期初葉、119、121、123、124、126は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片出土。

【時期】出土土器から、縄文時代前期後葉の可能性はある。

第6号土坑(第25・77図、写真図版25)

【位置・検出状況】調査区西部西。2 Dグリッド。前年度第10号住居跡カマド掘進半途中に下に土坑があることに気づいた。次年度にプラン検出を試みたが、住居内で汚れているせいか、なかなか掘めず、結局20cm下げてやっと確認できた。【図・精査状況】完掘時掘り方悪く、西側の下場掘りすぎで合わない。北側に見えるのは、カマド半掘時のトレンチ後である。【重複】上部に第10号住居跡あり(新しい)。

【覆土・堆積状況】上に住居あり、さらに下げすぎたせいか、単層に近い。ほとんどを占める1層は、蒸降り土で埋めもどしたものである。2層は、ほぼIV層そのもの、3層は、褐色土。

【平面形・規模】約1.7×1.5mの不整形円形。北西側に突出部があるのは、崩れたのか(明らかに掘れる上で、掘りすぎではない)。

【断面形・深さ】深さ約30cmのタライ形。

【壁・底面】V層。底はガチガチに固く締まる。

【副穴等の付属施設】ないと思われる。

【出土遺物】第77図128の土器片が出土、円筒下層b 2式か。掲載した以外に9号袋×1/4程度の土器片出土。

【時期】今回の調査結果全体から、縄文時代中期中葉～中期前葉の可能性はある。

【分類・所見】覆土の共通性から、フラスコ状土坑に含めたが、深さと断面形が顕著に異なり、別に扱った方が良かったかも知れない。

第7号土坑（第26図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕調査区西部。3 C～Dグリッド。北側調査範囲外に続く。地上上面は、ほとんど区別できない土（2層）だったため確認できなかったが、20cm下げたところ、はっきり区別できる3層が出てきたため、明確に検出。〔図・精査状況〕副穴東側下場合わない。

〔重複〕調査できた範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕霜降り土（ロームブロック多く散る）と黄褐色土の交互層。水平堆積。堆積状礫及び土性（特に霜降り）から、埋めもどしていると思われる（特に3、5、6層）。

〔平面形・規模〕土場は不明。底は直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約1.4mのフラスコ形。

〔壁・底面〕壁上部IV層、その下～底V層。断面図参照。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕5×5cmおよびそれ以下の土器片が6点出土、時期は特定できない（手選いで1点も掲載していない）。石器製作時の削片52.38g出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕掘り込み面がわかる。水平堆積。

第8号土坑（第26・77図、写真図版26・132）

〔位置・検出状況〕調査区西部。3 Dグリッド。IV層中褐色土に既に検出されていた。水田造成時にIV層まで削平されて盛土がなされ、北半分上を水路が東西に走っていた。半截の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕半截後土場崩落したため不明。平面図は、現地での判断で作成しており、最終的な判断とは異なっている（詳細は次項参照）。

〔重複〕東側第9号土坑と重複し、9号の方が新しい（詳細は後述）。北側第10号土坑と重複。半截途中で東隣の第9号土坑と重複しているとわかった。境界付近があいまいで、またフラスコ状土坑という狭い中で作業のためわかりづらく新旧関係に悩んだが、第8号の覆土が特徴的であったため、これを前りにし、9号の東壁との非対称性から西壁は壊されているものと考え、問題となる11層は、8号を作る際に掘り出された13層が再堆積したものと考え、9号>8号と半截時には考えた。狭く暗かったこともあり、この時には8号と9号の間の段差はそんなに大きくないように見え、その不自然さには気づいてなかった。底と立ち上がりも確認したが、この段差が取れるようには思えず、これで間違いないと判断した。8号の方が新しいのなら、こうしたこともあり得ると考えていたのである。その後、半截時に残っていた上の水路が撤去され口も崩れて中の様子が見やすくなり、その不自然さに気づいた。11層を9号確認と考え、8号→9号と逆転させた方が合理的ではないかと思い始めたのである。しかし、忙しさにかまけ例の段差については忘れてしまった。完掘写真を撮る時も、底面に全く不自然なところがなく通常のV層に見えたこともあって思い出せなかった。さらに、完掘した結果北側に8号土坑の底が続いて重複していることがわかり、前がそのことにばかり向いてしまったためでもある。報告書執筆の時点で、その不自然さにやっと気づいたのである。平面図を見てわかるように、8号の方が新しく底をより深く掘り込んでいて、境の段差が逆ならありうるが、その逆はあり得ないはずである。したがって、2層の東は掘り足らず9号の方が新しいと現時点では考える。

〔覆土・堆積状況〕上部褐色土、中部上半暗褐色土、下半黄褐色土、下部褐色～黄褐色土。東から西に向かっ

て傾斜。11層は、前述のように第9号の方に帰属する可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場は全て崩落し、前述のように精査に問題があり、はっきりしない。底径約1.5m?

〔断面形・深さ〕袋状。約80cm。

〔壁・底面〕壁はかなりきつくオーバーハングする。底は平らで広く締まる。壁上20cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕(出土状況)底面直上北西隅に比較的大きな土器片出土(第77図129)(写真図版26)。北西方向に傾斜し、南東側は底面から約1cm、北西側は約4cm、南東側は底から8cmがロームブロック多い褐色土(10YR4/4)で、その上に黒褐色土(10YR3/1)が2cmあり、その上に土器はある。

〔遺物〕第77図129～131の上層、写真図版132の239、240の石器類(一部第77図に図示)が出土。土器は、129は出筒下層b2式、130は同d1式、131は同c式。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期中華の可能性がある。

第9号土坑(第26・77図、写真図版26・132)

〔位置・検出状況〕調査区西部。3Dグリッド。IV層中褐色土で既に検出されていた。水田造成時に削平されて盛土がなされ、北半分上を水路が東西に走っていた。半截の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕半截後上場崩落したところがあり一部不明。平面図は、現地での判断で作成しており、最終的な判断とは異なっている(詳細は第8号参照)。底面直上に14層があり、はっきりしないので、サブレンチを入れて確認した。

〔重複〕西側第8号土坑と重複し、最終的に9号が新しいと判断した(詳細は第8号参照)。

〔覆土・堆積状況〕上半褐色土、下半黄褐色土。1層は本土坑に誤し、両層の中間的。

〔平面形・規模〕上場は崩落し前述のように精査に問題があり、はっきりしない。底、約1.8×1.6mの楕円形か。

〔断面形・深さ〕袋状か。約80cm。

〔壁・底面〕東壁から判断すると、直線的にオーバーハングするようである。底はほぼ平ら。壁上10cmIV層、その下～底V層。底はサブレンチを入れて確認。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第77図132の上層出土、縄文時代前期後半か。写真図版132の241の石器が出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中華～中期前半の可能性がある。

第10号土坑(第27・77図、写真図版27)

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3Dグリッド。前年度調査した第8号土坑と底面が重複していたため検出できたが、上面の覆土は周囲の地山とほとんど同じで、検出面では確認できない。〔図・精査状況〕西側の上場崩れたのか合わない、西側下場掘り間違いか合わない。南側に重複している第8号土坑の平面図が前年度作成したもの微妙に異なるが、前年度の調査範囲は埋めもどしてしまっただけ合わせられない。底は、根が入り込んでいるせいもあってわかりづらく、半截時サブレンチ状に掘りすぎ。

〔重複〕南側第8号土坑と重複。底面付近のみ重複し、新旧関係は確認できなかった。

〔覆土・堆積状況〕上半、IV～V再堆積の黄褐色土、下半、今回の調査でよく見られた炭化物散る灰黄褐色

上と、黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕上場、直径約1mの不整形円形。底は、約1.6×1.4mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約0.9mのフラスコ状で、底に段があるようだ（次項）。

〔壁・底面〕壁IV～V層、底V層。底中央付近に段があるようである。半歳時には、根が入り込んでいたこともあって、フラスコ状土坑に段があるはずがないと思いきり、二も締まり以外はV層によく似ており9層は根によるカクランと考えていた。しかし、後からよく見ると、良く締まる部分が面的に広がって顕著に連続的に落ち込み、段があると考えた方が自然である。

〔副穴等の付属施設〕かなり印象が異なるが、一段落ち込む部分を副穴と捉えることも可能か。

〔出土遺物〕第77図133の上器が出土、時期は特定できない。掲載した以外に、5×5cmより小さい土器片6点出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕底に段を持つ。

第11号土坑（第27・77図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3Dグリッド。IV層を10cm下げた面で、にぶい黄褐色土がはっきりした面を描いているのを確認。〔図・精査状況〕平面実測前に上場崩落。東側下場、測り間違いが全く合わない。半歳時、底がわかりづらいこともあって、トレンテ状に掘りすぎ。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕今回の調査でよく見られた炭化物散る灰黄褐色土を基本とし、西端と、東端の中層にIV～V層再堆積の黄褐色土が見られる。西端は根によるカクラン多くてははっきりしない。灰黄褐色土の部分は、全体的によく似ているが最上層は黒っぽい土が混じっていて顕著に異なる。その他はよく似ていて、汚れIV層の再堆積に炭が散るもので、各層の違いは色の濃淡の相対的な差でしかない。

〔平面形・規模〕上場は崩落して不明。底は、直径約1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約40cmの袋状。

〔壁・底面〕壁30cmIV層、壁下10cm～底V層。

〔副穴等の付属施設〕半歳時掘りすぎのため不明。

〔出土遺物〕（出土状況）土器、種比較的多く出土。オーバーハングに隠れた遠くからNo.1～3土器が出土（第27図、写真図版27）。第77図134の大部分を占めるNo.2土器は、表面を上にして口縁部を奥に胴部を上坑中心に向け壁かに傾斜した状態で出土。134の一部を占めるNo.1土器は、内面を上にしてほぼ水平に出土。No.3土器も内面を上にし、東に向かってやや緩やかに傾斜して出土した。No.1土器より大きな破片ではあったが、胴部破片だったため掲載基準を満たさず不掲載。

〔遺物〕第77図134～136の土器、石器製作時の剥片32.33g出土。土器は、134は、半完形の土器ながらもやや特異であるため時期が特定しにくい。縄文時代前期後葉～末か。135、136は、前期末～中期前葉か。掲載した以外に、10×10cm 1点、9号袋×3程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後半の可能性はある。

〔分類・所見〕浅い。

第12号土坑（第27・78図、写真図版27・28・132）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3C～Dグリッド。北側調査範囲外に続く。地山面を10～20cm下げた

ところで、ぶい黄褐色土上の半円を見つけた。周囲に広がる根によるカクランと同じものと考えたが、念のため半載したところ1m以上下がり、土器も出てきて土坑と判明。

〔図・精査状況〕土器の位置東側合わない。背側奥の壁、軟らかくどんどん奥に入っていってしまい、暗くてよく見えないのでサブトレンサを入れた結果、土は全く汚れていないので、たまたまこの部分の上が軟らかいのだと判断。〔重複〕調査範囲内では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上1/3段によるカクランに近いぶい黄褐色土の汚れて、区別ほとんどなし。下2/3土坑によく見られる灰黄褐色土で互によく似る。

〔平面形・規模〕上場不明だが、楕円形か。底も、不整形で不明。

〔断面形・深さ〕深さ約1.1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上50cmIV層、その下～底V層で、底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕覆土、黄褐色(10YR5/6)地に灰黄褐色(10YR4/2)の斑。シルト。炭化物含み、固く締まる。

〔出土遺物〕(出土状況)底面直上から2つの破片(No.1と2)(第78図137～139)、2つの完形土器(No.3と4)(第78図140、142?)が出土した(第27図、写真図版27～28)。1と2は、4の上から出土し、1はほぼ水平だがほんの僅か中央に向かって傾き、2は中央奥に向かって傾き、両方とも9層上面の出土らしい。3と4は中央に向かって横倒しになっており、3は上床でつぶれているが、4はつぶれていない。両方とも12層上面から出土しているようで、土器の中には上から9層、10層が、ほぼ水平に堆積している。

〔遺物〕第78図137～142の土器、写真図版132の242の石器、石器製作時の剰片21.45g出土。土器は、139?、140、142は円筒下層d1式、141は同b2式、157は、同c～d式か、138は特定できなかった。なお、139は、第17号出土破片と接合している。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕他の時期の土器片が混じっているものの、完形に近い土器は円筒下層d1式が主体を占めるので、縄文時代前期末か。

〔分類・所見〕掘り込み面がわかる。断面形、土器の出土状況に特徴。

第13号土坑(第28・77図、写真図版28・132)

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3C～4Dグリッド。うすぼんやりとした灰黄褐色土で検出。

〔図・精査状況〕セクション・ポイントAが崩落してしまっていたが、西側下場以外合っているようだ。隣の第14号土坑と同時に検出し、検出面では重複していなかったが、これまでの例からその可能性があると思い、通してトレンチ状に半載した。第14号との境付近崩落。

〔重複〕第14号土坑と重複し、接するような微妙な重複の仕方、断面図の形から第14号の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ていることもあり、確信はない。

〔覆土・堆積状況〕2層以外ほぼ同じ灰黄褐色土で、各層の違いは、黄色みの強さ、炭化物の大きさの違いに過ぎない。

〔平面形・規模〕上場、直径約0.9mの円形。底は、約1.6×1.3mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕深さ約0.9mの袋状。

〔壁・底面〕壁は根穴多く、上部20～40cmIV層、その下～底V層で、底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕掘りすぎてよくわからなくなってしまったが、あったようだ。

〔出土遺物〕(出土状況)北側奥18層上面で、完形に近い土器がほぼ水平に横倒しになった状態で出土(第

77図143) (写真図版28)。(遺物) 第77図143~145の土器、写真図版132の243の石器、石器製作時の剥片31.32g、剥片B類24.01gが出土。土器は、143は円筒下層c式、144、145は河d式。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期後葉(円筒下層c式期?)の可能性はある。

第14号土坑 (第28・78図、写真図版28・29・132)

〔位置・検出状況〕 調査区西部中央。4C~Dグリッド。うすぼんやりとした灰黄褐色土で検出。

〔図・精査状況〕 セクション・ポイントAが崩落してしまったが、合っているようだ。隣の第13号土坑と同時に検出し、検出前では重複していなかったが、これまでの例からその可能性があると思い、通してトレンチ状に半蔵した。第13号との境付近崩落。

〔重複〕 第13号、第15号土坑と重複。第13号とは、接するような微妙な重複の仕方、断面図の形から本土坑の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ていることもあり、確信はない。第15号とは、底部付近しか重複しておらず、新旧不明。

〔覆土・堆積状況〕 東側中央部黄褐色土である他は、全体的に似た灰黄褐色土で、第13号土坑との違いは黄色みが強いだけ。

〔平面形・規模〕 上場、約1.2×1mの不整楕円形。底は、直径約1.8mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約0.7mの袋状。

〔壁・底面〕 壁上部30cm程度IV層、その下~底V層で、底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕 第78図146~148土器、写真図版132の244~246の石器類、石器製作時の剥片4.65g、剥片B類18.79g出土。土器は、147、148は円筒下層d1式、146は特定できない。掲載した以外に、9号袋×2種類の土器片出土。

〔時期〕 山土土器から、縄文時代前期後葉の可能性はある。

第15号土坑 (第28・29・78図、写真図版29・132)

〔位置・検出状況〕 調査区西部中央。4Cグリッド。調査区側に疑似現象ともつかない薄いシミを見つけ、試しに半蔵したところ、はっきりした覆土が出てきて土坑と認定。〔図・精査状況〕 セクション・ポイントBが崩落してしまったが、大体合っているようである。北西側、第16号土坑との重複部分崩落。

〔重複〕 西側第16号土坑、南側第14号土坑と重複。いずれも底面付近のみの重複で、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 上半部はにがい黄褐色土で、ほとんど区別できない。中部は灰黄褐色土でやはりほとんど区別つかないが、その下の9層ははっきり暗い。下部は黄褐色土。

〔平面形・規模〕 上場崩落したため不明だが、楕円形か。底は、直径約1.8mの不整円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.2mの袋状。

〔壁・底面〕 壁は上部40cmIV層、下部~底V層。壁の下の方は、凹凸が激しく、棒状の工具でつついて掘っている様子が窺われる。底は今一つ固く締まらない。

〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕 (出土状況) 南西側の底から9cmの部分(10層?)で、内面を上に向けたほぼ水平の状態で比較的大きな土器片が出土(第78図149)(第28図、写真図版29)。

〔遺物〕第78図149～153の土器、写真図版132の247～249の石器類（一部第78図に図示）、石器製作時の剥片220.63g、剥片B類61.00g出土。土器は、150、153は円筒下層d1式、149、151、152は縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕開口部狭い。

第16号土坑（第28・29・78図、写真図版29・132・133・182）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3～4Cグリッド。北側の調査範囲外に続く。地山を10～20cm下げたところで調査区域に直径30cm程度の半円形のシミがはっきりと確認できた。

〔図・精査状況〕半蔵し始めたところ、南側に比較的大きな土器片が出上したため狭く掘りづらくなったので北側に掘り広げた結果、上場があまりに狭かったため北側の上場がなくなってしまった。南側の土場も鶴崩落。〔重複〕東側第15号土坑と重複し、底付近のみのため新記不明。

〔覆土・堆積状況〕掘りすぎて上場付近なくなってしまったが、上半灰黄褐色土、下半、灰黄褐色土とにふい黄褐色土の薄い交互層（ただし違いはあまり顕著でない）。底はV層ブロック。

〔平面形・規模〕土場は、直径0.3m程度の円形だった。底は、直径約1.5mの円形か。

〔断面形・深さ〕袋状。深さは、崩落したため不明。

〔壁・底面〕壁1.40cmIV層、その下～底V層。底は硬く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕〔出土状況〕南側上場直下、比較的大きな土器片が出土（写真図版29）。内面を上に向けてほぼ水平（ほんの少し西側に傾斜）（第78図154）。底部直上、副穴の南西横、内面を上に向け土坑の中心に向かって傾斜して土器片が出土（第78図159）。9～10層上面。

〔遺物〕第78図154～160の土器、写真図版132の250～133の252の石器類（一部第78図に図示）、写真図版182の4の軽石加工品？、石器製作時の剥片17.51g出土。土器は、154、155、156、158、159？、160？は、円筒下層d1式、157も同様か。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第17号土坑（第29・79図、写真図版30・133）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。4Dグリッド。地山を20cm下げた直の灰黄褐色土で比較的是っきり検出。

〔図・精査状況〕西側上場ほんの少しだが崩れたため合わない。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕中部西側隅が黄褐色土である他は、上から下までほとんど同じ（今回の調査でよく見られた）炭混じりの灰黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場は、0.8×0.6mの楕円形か。底は、直径約1.6mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30～40cmIV層、その下～底V層。壁は根にやられてははっきりしない部分ある。底は固く締まる。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第79図161～165土器、写真図版133の258、254の石器類、石器製作時の剥片87.32g、剥片B類3.71g出土。土器は、161？=165、162～164は、円筒下層d1式、163は時期不明（古いか）。第78図139にも、木遺構から出土した破片が含まれていて「半蔵時」で取り上げ、詳細は第V章本文補足参照）、第12号土坑

出土破片と接合している(内筒上層d1式?)。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後半の可能性がある。

〔分類・所見〕開口部狭い。

第18号土坑(第29・79図、写真図版30・133)

〔位置・検出状況〕調査区西。4 Dグリッド。IV層上面褐色土で検出。半蔵の結果照と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕東(A')側完掘時底が掘り広がったため合わない。上場が崩れたので下場のみ掲載。精査時に北側にまだ水路が走っていたので、該当部分だけ掘り広げた。掘り慣れない作業員が掘ったので南側掘りすぎ多い。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕IV～V層再堆積の褐色土。淡色の灰や含まれるものが異なるが、ほとんど同じ。

〔平面形・規模〕上場は崩れたため不明。底は、直径約1.5mの円形。

〔断面形・深さ〕袋状。約50cm。

〔壁・底面〕全周オーバーハングか。壁IV層、底V層。

〔副穴等の付属施設〕底面中央よりやや北西寄りに直径約45cmの副穴検出。半蔵時掘りすぎ、完掘時それに合わせて掘られてしまったので、深さ不明。覆土は、黄褐色土(10YR5/6)シルト、ややもろく炭化物含む。

〔出土遺物〕第79図166の土器山土、縄文時代早期後葉赤御堂式か。写真図版133の255～257の石器類山土(一部第79図に図示)。

〔時期〕今回の調査で検出された他の土坑に比べ特に異なった特徴は見られないが、出土土器から考えると古いのかも知れない。

〔分類・所見〕早期後葉土器片出土。

第19号土坑(第30・79図、写真図版30・133・182)

〔位置・検出状況〕調査区西部。4 Dグリッド。南側の調査範囲外に続く。周囲は手造りで重複によりV層まで下げられてしまったようである。V層中褐色土のシミで検出。半蔵の結果照と底が確認されたので土坑と認定。覆土は地山が汚れたような土でわかりづらかった。水田造成時に削平。

〔図・精査状況〕上場は、削平されてしまったのでない(写真に写っているのはあくまで早に掘り始めた面である)。

〔重複〕調査できた範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕ほとんどが地山が汚れたような粘土質の土でよく似ている。

〔平面形・規模〕上場は削平されてしまったため不明。底は、直径約1.9mの円形?

〔断面形・深さ〕断面図を見ると、袋状を呈するようである。約70cm。

〔壁・底面〕壁はオーバーハングするようである。底は平らなようであり、断面図の西側は、写真を見ると掘り間違いで、もっとスムーズに傾斜するようである。壁はIV層、底はV層のようである。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。断面図にあり写真に写っている副穴状のものは掘りすぎである。

〔出土遺物〕第79図167、168の土器、写真図版133の258、259の石器類出土（一部第79図に図示）。写真図版182の5の軽石加工品？出土。土器は、167は円筒下層c～d式、168は不明。

〔時期〕山土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕断面非対称。

第20号土坑（第30図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕調査区西部。4 D グリッド。南側の調査範囲外に続く。周囲は手違いで重機によりV層まで下げられてしまったようである。V層中褐色土のシミで検出。水山造成時に削平。半截の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕上場は、削平されてしまったのではない（写真に写っているのはあくまで単に掘り始めた面である）。

〔重複〕調査できた範囲では、ないようである。

〔覆土・堆積状況〕：層と8層以外、ほとんど同じで汚れたIV層。

〔平面形・規模〕削平されてしまったため不明。底は、直径約1.7mの円形？

〔断面形・深さ〕断面図を見ると、袋状を呈するようである。約70cm。

〔壁・底面〕壁はオーバーハングするようである。底は平ら。壁はIV～V層、底はV層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第21号土坑（第30・31・79図、写真図版31・116・133）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。4 C グリッド。灰黄褐色土で検出。北隣にも同様なシミが検出されたので、同時にトレンチ状に半截した結果、南側のみが土坑と判明。副溝、壁、底根によるカクラン多い。

〔図・精査状況〕東側上場崩壊（西側上場は正しいと思う）。半截時、南側隅掘り誤って、残すべき部分も掘ってしまった。〔重複〕北東隣、第23号土坑と重複。底面付近のみ重複し、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上2/3灰黄褐色土で、ほとんど区別つかない。下部暗褐色土、最もきれいな黄褐色土（IV層再堆積）。

〔平面形・規模〕上場は不明。底は、直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約1.1mのフラスコ形。

〔壁・底面〕壁1.40～50cm IV層、その下V層（赤色バミス含む）。底はVI層で軟らかい。

〔副穴等の付属施設〕底に小穴が見られるが、根によるカクラン等を円く掘ってしまったもので、副穴ではないと思う。

〔出土遺物〕第79図169～174の土器、写真図版133の260、261の石器類（一部第79図に図示）、写真図版116の14の焼粘土塊、石器製作時の剥片222.92g出土。土器は、169は円筒下層b1式か、170は円筒下層d1か、171～172、173？～174は、円筒下層d2式。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕山土土器から、縄文時代前期後半（末？）の可能性はある。

〔分類・所見〕口狭い。

第22号土坑 (第30・31・79図、写真図版31・116・133)

〔位置・検出状況〕調査区西部中央東寄り。4Cグリッド。地山を10～20cm下げたところ、にぶい黄褐色土が検山された。根によるカクランによく似ており形が変なので疑似現象だろうと思ったが念のため半蔵してみた。しばらくその思いは変わらなかったが、約1m下から土器が出てきたので、もっと掘り下げたところ、はっきりした黒土が出てきた。〔図・精査状況〕上場崩壊。(重複)第23号土坑と接するか。

〔覆土・堆積状況〕上半、根による汚れとほとんど区別できないにぶい黄褐色土、下半、一部にV層ブロック多く含む特徴的な層が見られるが(14層)、その他は黒褐色と黄褐色の交互層。

〔平面形・規模〕上記の検出状況と上場崩壊したため、不明。底は、約2.3×2mの円形。

〔断面形・深さ〕上半分は上記のような覆土のため、はっきりしない。北側下部にも同様の場所がある。上場が崩壊したような不整フラスコ状。約1.1m。

〔壁・底面〕壁はIV層、その下V層で、底はVI層。底と壁明確に区別。底は軟らか。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第79図175～181の土器、写真図版133の262～264の石器類(一部第79図に図示)(一部第23号土坑出土品含む)、写真図版116の15の焼粘土塊、石器製作時の剥片57.42g出土。土器は、175は円筒下層d2式、176=177?、178は、円筒上層b式、179は中期前葉?、180は縄文時代前期後半、181は不明、掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕山上土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性ある。

〔分類・所見〕断面非対称。大型?

第23号土坑 (第30・31・79図、写真図版31・32・133・134)

〔位置・検出状況〕調査区西部中央東寄り。4Cグリッド。地山を10～20cm下げたところで、灰黄褐色土を検出。疑似現象の可能性は低いのではないかと考えていたが、半蔵時下の方から地山とほとんど区別できない黄褐色土が出てきて底が不整形になり、トレンチ状に狭く掘っていたこともあって土坑として良いか悩んだ。曇りの日によく見たら黄褐色土の周りに境界線(壁・底)が引けることがわかり、土坑と認定。

〔図・精査状況〕完掘時掘り広がったため、南側の下場、副穴の上、下場合わない。段取り悪く、半蔵時第22号土坑のトレンチと接してしまい、その後崩落。西側の上場も、北側の一部崩れた。半蔵時下げすぎ。

〔重複〕第21号土坑と重複するが、底部付近のみのため新旧不明。第22号土坑と接するか。

〔覆土・堆積状況〕上部、濃淡の違いはあるがほとんど同じ灰黄褐色土(南側下部は崩落に遭い)、下部地山とほとんど区別できない黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場崩壊したため不明。底は、約2.2×1.9mの楕円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1mの袋状。

〔壁・底面〕南側壁50cm、北側壁30cm、IV層、その下～底V層。根特に多い。

〔副穴等の付属施設〕あり。

〔出土遺物〕〔出土状況〕中央より西寄り副穴西、直直上(底から5cm、下は10層)、比較的大きな破片(No.1)が内面を上に向けて完全に水平に出土。(第79図182)(写真図版31～32)。

〔遺物〕第79図182～187の土器、写真図版134の265の石器、石器製作時の剥片12.3g、剥片B類92.20g出土。写真図版133の263、264の中にも、本遺構出土品が含まれているかも知れない。土器は、182、183、185?、187は、円筒下層d1式、186は円筒下層c～d式、184は不明。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出

十。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末円筒下層d1式期の可能性が高い。

第24号土坑（第32・80図、写真図版32・134・183）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。4～5Cグリッド。地山面を10～20cm下げたところで、輪郭ははっきりしなかったが中央の黒褐色土ではっきりと確認。東側にうすぼんやりしたにぶい黄褐色土が認められ、重複している上坑があるかと同時に半掘したが、30cm程度の深さはあったが、底がはっきりせず、第52号上坑と同様人によって意図的に掘られたもの（遺構）ではないと判断。出土遺物もほとんどなかった。

〔図・精査状況〕副穴合わず、平面図の方が間違っているか。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部（両脇）黄褐色～にぶい黄褐色土、下部、灰黄褐色～黒褐色土と黄褐色～にぶい黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕上場、直径約1.5×1.3mの円形。底、直径約2.5mの円形。

〔断面形・深さ〕上場陥落しているのか、口の広いフラスコ状。深さ約1.2m。

〔壁・底面〕壁は30cmIV層（北側は引平してしまっただけ無い）、その下～底V層。底は、西半VI層、東半V層、副穴底VI層。底は河く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。最下層の12層下面で副穴は検出できた。

〔出土遺物〕第80図188～194の上器、写真図版134の266～273の石器類（一部第24図に図示）、写真図版183の8、9のコハク、石器製作時の剥片268.15gが出土。土器は、188?～190～192は、円筒下層b1式、189、191、193、194は不明。図示した以外に9号袋×3程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期中葉の可能性が高い。

〔分類・所見〕東側に見られたのは、埋め戻し穴の可能性が高い（第52号土坑参照）。大型。

第25号土坑（第32・80・81図、写真図版32・83・134～137・182）

〔位置・検出状況〕調査区西。5C～Dグリッド。IV層嶺山面で、周囲の土坑と異なりはっきりとした黒土（III層）で検出。ただし黒土の周囲は他の上坑と同様のためプランははっきりとは確認できなかった。半掘の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕完掘時西側掘り広かったため、断面図の上場、下場と合わない。東側の壁上部6層と区別し難かったのでサブトレンチを入れた。北側の壁中央の一部掘りすぎ。南側の壁上部一部掘りすぎ。西側底掘りすぎ。調査序盤に慣れない作業員が掘ったため掘りすぎが多い。

〔重複〕南側に第2号陥し穴状遺構が重複。検出面および上場では重複しておらず、第25号土坑を精査中に重複に気づいたため新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色～暗褐色土、中部（両脇）黄褐色～褐色土、下部暗褐色土と褐色土の交互層。フラスコ状土坑に一般的堆積状況から自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕1.8×1.8m程度の測丸方形～円形。下場は直径2.4m程度の円形～隅丸方形。

〔断面形・深さ〕フラスコ状。約1.1m。

〔壁・底面〕全周オーバーハング。壁上40～50cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕検出できなかった。

〔出土遺物〕(出土状況) 第3時3層下部～9層上面から比較的大きな土器破片出土(写真図版32～33)。断面図にあるように7層と10～11層の間からはほぼ水平に比較的大きな土器片出土。15層から比較的大きな土器片がまとまって出土(水平)(写真図版60)。

〔遺物〕第80図195～204の土器、第81図1の石製垂飾品、写真図版134の274～136の297の石器類(一部第80～81図に図小)、写真図版182の6の軽石加工品?出土。写真図版136の298～137の3:3の石器類の中にも、本道樽州土品が含まれているかも知れない。土器は、195は円筒上層b式、199?、202は、円筒下層d1式、203は円筒下層d2式?、197?、198?は、円筒上層a1式?、196、204は、円筒下層c～d式、200は不明、201は縄文時代前期末～中期初頭。なお、196は、第36号土坑出土土器片と接合しているようである。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕大型。

第26号土坑(第33・81図、写真図版33・137・183)

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。5Cグリッド。地山を10～20cm下げたところで、輪郭はぼんやりだが中央に黒褐色土が見られ、比較的はっきり検出。〔図・精査状況〕セクション・ポイントA'側トレンチ崩れ、半截時掘り足らなかったため東側下場合わない。北東側上～壁崩落、南側壁崩落で、南側の土場以外は全て原形を留めていない。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、最上部黒褐色土、その下黄褐色土、下半、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の交互層。2層は、周壁の根穴による汚れと区別できない。

〔平面形・規模〕上場楕円形。底、直径約2.6mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.4mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上、東側30cm、西側50cm、IV層、その下V層。底は、南東部はV層で固く締まり、それ以外はVI層。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕(出土状況)北側奥壁底面直上(底から2cm)から完形土器が倒立して出土(No.1)(第81図205)(写真図版53)。逆位にほぼ直立しており(やや東から西に傾く)、下は北側の奥壁まで16cm、上は同じく6cm、上部は6cmで壁に到達する、底の最も奥に安置されていた。炭化物を含む灰黄褐色土(15層)上にあり、10層の上まで被っていたようである。

〔遺物〕第81図205～217の土器、写真図版137の314～316の石器類(一部第81図に図示)、写真図版183の10のホコク、石器製作時の剥片461.72g、剥片B型139.99gが出土。土器は、206は円筒上層a2式、207は大木7a式系、209は円筒上層a1式?、210、216は、円筒上層b式、212は円筒下層c～d式、205、215は不明、208?、211、213?、214、217?は、中期前葉。掲載したほかに、9号袋1分の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕上半の黄褐色土は頭が崩れたものか。断面図は山形。大型。

第27号土坑(第33・81図、写真図版33・34・137)

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5Cグリッド。地山を10cm下げたところで比較的はっきり確認。

〔図・精査状況〕南西隅崩落。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部面影(4層)黄褐色土、下部(6層)黒土、それ以外ほとんど同じにぶい黄褐色土。

〔平面形・規模〕崩落しているのか、上場は約1.7×1.6mの不整形円形。底は、約2.4×2.1mの楕円形。

〔断面形・深さ〕深さ約0.8mの袋状。北側は検出時に削平してしまったため底まで45cmしかない。

〔壁・底面〕壁上5cmIV層、その下～底V層。周囲に根もあるので確信は持てないが、底に見える黒い点々は掘り方か（写真図版34）。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）底面直上から5点の比較的大きな遺物が出土し、うち1点は、半截トレンチ状に掘った部分の東端7層上面ほぼ水平の状態で出土した土器だったが、精査時に動かしてしまったので位置は記録していない（第81図223?）。その他の4点のうちNo.1～3は土器で（第81図218～220）（第33図、写真図版33～34）、1は底部が傾倒しになった状態で土に接する部分は水平、2もほぼ水平、3は中心に向かってほんの僅か傾斜し、2と3は7層、1は出土層が確認できなかったが7層より上である。No.4は自然降であるが、枕石状であり、南東側奥の壁際で7層上面にほぼ水平に出土し（底面から北側16cm、南側18cm）遺棄している可能性を窺わせる。

〔遺物〕第81図218～223の土器、写真図版137の317、318（第81図に図示）の石器類、石器製作時の剥片33.99g出土。土器は、219は円筒下層d2式?、220、222?は、円筒下層d1式、223は円筒上層a1式、218は円筒下層c～d式、221は前期末～中期初頭。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

〔分類・所見〕大型。

第28号土坑（第34・81図、写真図版34・137・138・185）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5Cグリッド。地山を10～20cm下げたところで、中央が黄褐色土、その周囲に灰黄褐色土が広がる二重の円をはっきりと確認。

〔図・精査状況〕セクション・ポイント合わない（おそらくA）。北四角トレンチ横上から底まで崩落。南東隅、第104土坑との間も崩落。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕最上部黄褐色土、その下灰黄褐色土、中部褐色～黄褐色土、最下部黒褐色土。中部は比較的特徴があり、両端の上以外は比較的はっきり識別できる。ただし層は厚いが細分はできない。8層は堆積量が多く、残り半分では、奥の壁際まで半周広がり西側では底まで広がっていた。

〔平面形・規模〕土場は崩落しているのか、約1.7×1.7mの不整形。底は、直径約2.7mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.3mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30cmIV層、その下～底V層。底は強く締めり凹凸ある。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）1、9層は土器出てない。10層は出土。

〔遺物〕第81図224～228の土器、写真図版137の319～138の323の石器類（第81図に図示）、写真図版183の11のコハク、石器製作時の剥片529.09gが出土。土器は、224、225、227は、円筒下層d1式、226は円筒上層b式、228は円筒上層a1式か。掲載した以外に、9号袋×2.5程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

〔分類・所見〕大型。

第29号土坑（第34・82図、写真図版34・35・138・182）

〔位置・検出状況〕調査区西部頂。5～6Cグリッド。上に切り株あって検出面にも多くの木根が残り、検出面を20cm下げてもギョーとしたにふい黄褐色土や灰黄褐色土が幾つか並ぶのが確認できただけであった。

そこで、既に検出精査を進めていた第31号土坑まで通して半蔵してみた。それでもよくわからなかったが、曇りの日に熟視、熟慮し、4つの土坑が並んでいるのだと考えた。第103号、第104号は、よく見れば、はっきりと確認できたが、第29号、第30号はやや苦勞した。上面の土及びその長さから、2つの土坑が重複していると思われるのだが、似た土で、また周囲の地山が根で汚れているため、底と壁がはっきりしないのだ。何とか一応の結論は出したが（断面図での第29号の北側の壁は不自然とは思っていた）、次項に記すように行余曲折がある。

〔図・精査状況〕上場崩落し、A'断面図より掘り広がった。完掘時、重複する第30号土坑に変化が見られ、30号土坑と一続きの一つの楕円形土坑と思うに至ったが、報告書執筆時点で再び疑問に感じている（詳細は第30号土坑参照）。しかし、既に真相は不明である。お詫び申し上げる次第である。壁、底も含めて木根非常に多い。

〔重複〕北側第30号土坑と重複するが、前述のように一つの同じ土坑の可能性もある。

〔覆土・堆積状況〕灰黄褐色土と黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕重複と崩落のため、不明。

〔断面形・深さ〕深さ約1mか。

〔壁・底面〕壁上20cmIV層、その下～底V層。底はあまり固く締まらない。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）No. 1は、比較的大きな土器片で内面を上に向け北東方向（中央）に向かって急傾斜して3層上面から出土（第82図229）（写真図版35）。No. 2は、2層の比較的上から西に傾斜して出土（第82図252）。

（遺物）第82図229～234、252の土器、写真図版182の7の軽石加工品？、石器製作時の剥片230.53g、剥片B類2.80gが出土。土器は、230、234は、円筒上層a1式、232は中期前葉？、229、231、233、252は、時期不明。また、第90図367にも、本土坑から出土した破片が含まれていて（5層出土。詳細は第V章本文補則参照）、第58号、第63号土坑出土破片と接合している（縄文前期末）。掲載した以外に、10×10cm程度の破片1、9号袋×1程度の土器片が出土。その他、半蔵時に、第29、30、31、103、104号土坑一括で取り上げた土器があり（第82図247～252）、不掲載破片が、9号袋×1程度ある。写真図版188の324～329の石器類（一部第82図に図示）、第82図2の上側（円筒上層a1式期）も、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。土器は、247は円筒下層d2式？、248は五領台1a式系、249？、251は、円筒上層a1式、250は、縄文早期貝殻文期（白浜式？）、252は時期不明。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

第30号土坑（第34・82図、写真図版34・35・138）

〔位置・検出状況〕調査区西端東。5～6Cグリッド。上に切り株あって検出面にも多くの木根が残り、検出面を20cm下げてもボーヤとしたにぶい黄褐色土や灰黄褐色土が幾つか並ぶのが確認できただけであった。そこで、既に検出精査を進めていた第31号土坑まで通して半蔵してみた。それでもよくわからなかったが、曇りの日に熟視、熟慮し、4つの土坑が並んでいるのだと考えた。第103号、第104号は、よく見れば、はっきりと確認できたが、第29号、第30号はやや苦勞した。上面の土及びその長さから、2つの土坑が重複していると思われるのだが、似た土で、また周囲の地上が根で汚れているため、底と壁がはっきりしないのだ。何とか一応の結論は出したが（断面図での第29号の北側の壁は不自然とは思っていた）、次項に記すように

紆余曲折がある。

〔図・精査状況〕上場崩落し、A' 側断面図より起り広がった。完掘時、18層もその上のIV層と考えていた土も覆土とわかった。またV層と考え底と混っていた土も覆土とわかり、結果的に底は第29号土坑と同じ高さで繋がってしまった。そうして、改めて平面形や壁を見ると楕円形の一つの土坑と見てさほど不自然ではないように思われ、野外調査の最後にはそのように考えるようになっていた。しかし、報告書執筆時点で改めて検討してみると、壁は二つの弧を描くように続いており、平面形が楕円形に見えるに至ったのは上場が崩れた部分が多かったせいだったのではないかと思直している。ただし事実がどうだったかはわからない。壁、底も含めて木根非常に多い。東側の壁は全て崩落。

〔重複〕南側第29号土坑と重複するが、前述のように一つの同じ土坑の可能性もある。

〔覆土・堆積状況〕中部に黄褐色土入る他は、にぶい黄褐色土～灰黄褐色土。

〔平面形・規模〕崩落と重複のため不明。

〔断面形・深さ〕深さ約0.7mか。

〔壁・底面〕壁上20cmIV層、その下～底V層。底はあまり固く締まらない。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕時期を特定できる土器は出土しなかった（手違いで1点も掲載しなかった）。9号袋×1/2程度の土器片が出土。その他、半截時に、第29、30、31、103、104号土坑一括で取り上げた土器があり（第82図247～252）（時期は、第29号土坑参照）、不掲載土器片が9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類（一部第82図に図示）、第82図2の土偶（円筒土器a式期）も、石器製作時の剥片387.64gも、同様である。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中環～中期前半の可能性がある。

第31号土坑（第35・82図、写真図版35・116・138・139）

〔位置・検出状況〕調査区西部東側。5～6Cグリッド。前年度の調査区との境で、上部に黒褐色土が見られることもあって地山上面で既に検出し南側の一部を掘り下げた。今年度は検出面をさらに10cm下げたため明確に検出。〔図・精査状況〕西側の下場起りすぎのため合わない。平面図の下場の形ももう少しきれいな形になる。本土坑半截後、北側に広がる土坑群が確認され、検出面でプランが確認できなかったため、本土坑まで通って南北に半截した。

〔重複〕北側、第104号土坑と重複し、本土坑の方が新しい。覆土がはっきり異なるので間違いない。東側に黒いシミを見つけ、別の土坑がからんでいるのかと思ったが、精査したところ底がはっきりせず疑似現象であることがわかった。

〔覆土・堆積状況〕上土、黒～灰黄褐色のブロック状の土（あまり広がらない）、下半、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径約2.2mの円形。

〔断面形・深さ〕全周強いオーバーハング。深さ約1.1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁1.20cmIV層、その下～底V層。底は一部赤色パミス含む固く締まる（泥沼土のような感じ）。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第82図235～246の土器、写真図版138の330～335の石器類（134は写真図版139）（一部第82図に図示）、写真図版116の16の焼粘土塊、石器製作時の剥片587.38g出土。土器は、235？、237？？、

238?、243?は、円筒下層d 2式、236、246?は、円筒上層b式、239、242は、円筒上層a 1式?、244は五領ヶ台1 a式系、245は円筒下層d 1式、241は円筒下層c～d式、240は時期不明。図示した以外に9号袋×3程度の土器片が出た。その他、半蔵時に、第29、30、31、108、104号土坑一掃で取り上げた土器があり(第82図247～252)(時期は、第29号土坑参照)、不発土器片が9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類(一部第82図に図示)、第82図2の上段(円筒上層a式期)も、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

第32号土坑(第35・82・83図、写真図版35・138～140)

〔位置・検出状況〕調査区西。5 Dグリッド。IV層褐色土で検出。周りに疑似現象が点々とあり、土坑かどうか確信は持てなかったが、半蔵の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。南側の調査範囲外に続く。

〔図・精査状況〕上場全て崩落したので下場のみ掲載。半蔵時予想より深く狭く掘れなくなってしまったのでサブトレンチを入れた(南側)。

〔重複〕上面に第6号焼土を検出。東側第33号土坑と重複。検出面では重複しておらず、精査中に重複しているとわかったため、新旧関係を確認することはできなかった。なお、両土坑の間に褐色土のシミが見られるが、あまり広からず不整形であり、周囲に点在するものと同じ疑似現象であろう。

〔覆土・堆積状況〕上部褐色土(一部黄褐色土)、中部暗褐色土、下部黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場は崩落、底は調査範囲外に続くため不明だが、1.8×1.5mの楕円形か。

〔断面形・深さ〕袋状。約85cm。

〔壁・底面〕壁は全周オーバーハングするようである。壁は40cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕調査した範囲では確認できなかった。

〔出土遺物〕第82図253、254の土器、写真図版138の336～140の355の石器類(一部第82～83図に図示) 土土器は、253は縄文前期末か?、254は不明。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期山岳～中期前葉の可能性はある。

第33号土坑(第35・83図、写真図版36・140・141)

〔位置・検出状況〕調査区西。5 Dグリッド。IV層褐色土で検出。周りに疑似現象(板による攪乱)が点々とあり、土坑かどうか確信は持てなかったが、半蔵の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。南側の調査範囲外に続く。

〔図・精査状況〕口が非常に狭く深いので通常のやり方では精査できず、サブトレンチを入れた。

〔重複〕上面に第10号焼土を検出。西側第32号土坑と重複。検出面では重複しておらず、精査中に重複しているとわかったため、新旧関係を確認することはできなかった。なお、両土坑の間に褐色土のシミが見られるが、あまり広からず不整形であり、周囲に点在するものと同じ疑似現象であろう。上場東側にも同様のものが広がる。

〔覆土・堆積状況〕6、8層がV層のブロックを含むのが特徴的なくらいで、濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土。

〔平面形・規模〕上場(口)は、根による攪乱を受けているのではっきりしない点があるが直径約30cmの円～楕円形か。底は、直径約1.6mの円～楕円形。口は、底部に比べ著しく北西に偏っている。

〔断面形・深さ〕口が極めて細いフラスコ状。深さ約1.5m。

〔壁・底面〕壁は全周強くオーバーハング。壁上40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第83図255、256の土器十、255は円筒下層d1式か、256は時期不明。写真図版140の356～141の382の石器類出土（一部第83図に図示）。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕今回の調査を代表するように細い頸口部を持つ。縄文人はどのように掘ったのか。

第34号土坑（第96・83図、写真図版36・141）

〔位置・検出状況〕調査区西寄り、調査範囲際。5Dグリッド。IV層で黄褐色土で検出。疑似現象との区別が難しく、プランは半裁後に確認。半裁後底と立ち上がりが確認できたので上坑と認定。

〔図・精査状況〕半裁後上場崩落したため、平面図は下場のみ掲載。北側は疑似現象と重複しており掘りすぎで半裁時に壊してしまったので、下場も不明。

〔重複〕ないと思われる。北側は疑似現象（根）と重複。

〔覆土・堆積状況〕疑似現象と見間違えような褐色土で、全体的によく似ている。

〔平面形・規模〕上場は崩落したため不明。下場は、直径約1.1mの円形。

〔断面形・深さ〕北側が疑似現象と重複しているためか不整形である。約50cm。

〔壁・底面〕北壁以外はオーバーハングしている。底は平ら。壁上26cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕底面中央よりやや北側から直径約25cm、底面からの深さ約7cmの副穴検出。覆土は手違いで記録されておらず不明。

〔出土遺物〕〔出土状況〕西壁に近接した底面直上から、ほぼ完形の鉢形土器が北側に口を向けて、そのまま上で押しつぶされたような形で出土（第83図257）（第96図、写真図版36）。底面からは約6cm浮いているが底面と平行に寝た状態で、4層から出土しているようである。黒こげでボロボロになった状態のため、復元することはできなかった。

〔遺物〕第83図257の土器出土。時期は縄文時代前期末辺りか。写真図版141の383、384の石器類出土（一部第83図に図示）。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

〔分類・所見〕断面非対称。

第35号土坑（第96・83図、写真図版36・141・142）

〔位置・検出状況〕調査区西。5C～Dグリッド。IV層褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集集中区で、径しいものを半裁したところ褐色土が下に続き、底と壁を確認できたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕口が狭い割に深く掘るのが容易でなかったので断ち割ってサブトレンチを入れた。

〔重複〕上面に第8号堀土を検出。

〔覆土・堆積状況〕濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土。

〔平面形・規模〕上場直径約50cmの円形？、底直径約1.4mの円形。

〔断面形・深さ〕口が非常に狭いフラスコ形。約90cm。

〔壁・底面〕底から途中までかなりオーバーハングがきつく、その上には垂直に近く立ち上がる。壁上40cm

IV層、そのド～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第83図258～260の土器、写真図版141の385～142の389の石器類（一部第83図に図示）が出土。土器は、259は円筒下層c～d式、258は縄文時代前期後半、260は時期不明。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性もある。

〔分類・所見〕首狭いフラスコ状。

第36号土坑（第36・80・83・84図、写真図版36・37、142～144・170）

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6Cグリッド。IV層検出面で、周囲の土坑と異なりはっきりとした黒土（Ⅲ層）で検出。ただし黒土の周囲は他の土坑と同様のためプランははっきりとは確認できなかった。半截の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕南側の土場、崩れたりして正確でないので省略。西（A'）側の土場、測り間違いか、合わない。半截時、狭く深いため精査が容易でなく、サブレンチを入れた。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、そのド全てIV～V層再堆積の褐色土。濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じ。

〔平面形・規模〕土場は崩落したため不明。底は、直径約2.6mの円形。

〔断面形・深さ〕フラスコ状。約1.6m。

〔壁・底面〕全周オーバーハングか。壁上約50cmIV層、そのド～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕〔出土状況〕13層中深鉢形土器の胴部が西から東へ傾斜して出土。14層中（上面？）にはほぼ水平の状態ですり片がまとまって出土し、一番東側の土器は南東側にやや傾き、その上に石皿が南向きに傾斜して出土（写真図版37）。石皿は、底面のほぼ中央の位置になる。

〔遺物〕第83図261～第84図270の土器が出土。第80図196土器の一部破片も、本遺構（検出面？）から出土しているようである。写真図版142の390～144の419の石器類も出土（一部第84図に図示）。土器は、261は人木7a式系？、262？、264、269は、円筒上層b式、263、266、268、270は、円筒下層d1式、267は円筒上層u2式、265は不明。写真図版170の786、787の石器類も本遺構から出土している可能性がある。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前半の可能性が高い。

〔分類・所見〕大型、口広いフラスコ。

第37号土坑（第37・84図、写真図版144・145）

〔位置・検出・精査状況〕調査区西～中央。6C～Dグリッド。大部分が南側の調査範囲外にある。第38、39号土坑の半截時、覆土層の断層状に不自然なところがあり、南側に土坑が重複していることがわかった。ほとんどが調査範囲外であり、また表土から底面までは深く（約1.4m）、調査範囲内の狭い範囲（40cm幅）を精査するにはかなりの危険が伴うので、精査はしなかったが、断面から37号の方が新しいことは確実である。

〔重複〕上記のように、北側第39号土坑と重複し、37号の方が新しい。

〔出土遺物〕重複が著しく特定できず、第37～40号土坑出土として取り上げた土器片が2点あり（第84図271、

272)、円筒上層a1式と思われる。写真図版144の420～145の444（一部第84図に図示）の石器類も同様である。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第38号土坑（第37・84図、写真図版37・144・145）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6 C グリッド。IV層褐色土で検出。土坑が重複して集中する場所があるが、周囲に疑似現象が広がりプランは全く確認できなかった。重複する第40号土坑も同様で、こちらは検出時には認識できなかった。本土坑の場合は、半截の結果表と底が確認されたので土坑と認定したが、三つの土坑が重複していた。

〔図・精査状況〕 底半截後に掘り広がったため合わない。

〔重複〕 南側第39号土坑と重複。 竊に半截したが底面が二段になり重複と判断。段差の最も自然な解釈、黄褐色土がブロック状に入るという第39号土坑の覆土の特徴、39号の南壁から類推した北壁の形状から、断面図のように判断し、39号の方が新しいと考えた。東側第40号土坑と重複。検出前では確認できず、39号土坑完掘の際底面で、黒土が東側に続いていることから初めて別の土坑と重複していると気づいたため新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕 最上部黒褐色土、下部濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じ暗褐色土。

〔平面形・規模〕 上場は崩落してしまったので不明。底は、重複しているためはっきりしない。

〔断面形・深さ〕 袋状か。約80cm。

〔壁・底面〕 全周オーバーハングか。壁土50cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 重複が著しく特定できず、第37～40号土坑出土として取り上げた土器片が2点あり（第84図271、272）、円筒上層a1式と思われる。写真図版144の420～145の444の石器類（一部第84図に図示）も同様である。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第39号土坑（第37・84図、写真図版37・144・145）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6 C グリッド。IV層褐色土で検出。土坑が重複して集中する場所があるが、周囲に疑似現象が広がりプランは全く確認できなかった。重複する第40号土坑も同様で、こちらは検出時には認識できなかった。本土坑の場合は、半截の結果表と底が確認されたので土坑と認定したが、三つの土坑が重複していた（第37図）。

〔図・精査状況〕 底半截後に掘り広がったため合わない。上場崩落したため底のみ記載。

〔重複〕 北側第38号土坑と重複。 竊に半截したが底面が二段になり重複と判断。段差の最も自然な解釈、黄褐色土がブロック状に入るという第39号土坑の覆土の特徴、39号の南壁から類推した北壁の形状から、断面図のように判断し、39号の方が新しいと考えた。南側第37号土坑と重複。覆土10層の際南壁に不自然なところがあり、南側に土坑が重複していることがわかった。ほとんどが調査範囲外であり、また表土から底面までは深く（約1.4m）、調査範囲内の狭い範囲（40cm幅）を精査するにはかなりの危険が伴うので、精査はしなかったが、断面から37号の方が新しいことは確実である。東側第40号土坑と重複。検出前では確認できず、39号土坑完掘の際底面で、黒土が東側に続いていることから初めて別の土坑と重複していると気づいた

ため新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕最上部黒褐色土、上部黒褐色土と黄褐色土の混土（黄褐色土上のブロック）、中部黒褐色土、下部黄褐色土。最上部は自然堆積、上部は人為堆積（埋め戻し）の可能性が窺われる。

〔平面形・規模〕上場は崩落してしまったので不明。底は、重複しているためはっきりしないが、2.1×1.9m程度の楕円形か。

〔断面形・深さ〕袋状。約1.3m。

〔壁・底面〕全周オーバーハングか。壁上60cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕断面写真にはそれらしいものが底面中央付近に見られるが、雨後のクリーニングの際倒って無くなってしまったようである。お詫び申し上げる次第である。

〔出土遺物〕重複が著しく特定できず、第37～40号土坑出土として取り上げた土器片が2点あり（第84図271、272）、円筒上層a1式と思われる。写真図版144の420～145の444の石器類（一部第84図に図示）も同様である。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第40号土坑（第37・84図、写真図版37・144・145）

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6Cグリッド。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面では確認できなかった。半截時に検出した結果、口が直径約40cm程度で非常に狭かったため土坑の可能性を疑うことができず、第37～39号土坑等を割ったトレンチから外れた模様である。第39号土坑充填の際底面で、黒土が東側に延びていることから初めて土坑があると認識できた。

〔図・精査状況〕土坑があると確認できた時点では、東側の覆土は残っていたので半截した。ところが二ヨの休みを挟んで現場に来てみると上場は全て崩落していたのである。オーバーハングがかなりきつい壁だったせいと思われるが、いかに初年度の調査終盤で急いでいたとは言え、あまりに考えがなかったと反省する次第である。以上の経緯のため、断面図も上場もなく、底のみの掲載である。なお、図面上本土坑の底が一周しているのは、全ての土坑の中で最も深く掘り込まれていたためで、新旧関係を表現しているわけではない。

〔重複〕北東隅上面に第9号炉跡があり明らかに炉跡が新しい。西側第38、39号土坑、東側第31、102号土坑と重複するが、上記の検出状況のため、新旧関係はいずれも不明である。お詫び申し上げる次第である。

〔覆土・堆積状況〕上記の経緯のため不明である。

〔平面形・規模〕上場は崩落して不明。底は直径約2mの円形。

〔断面形・深さ〕袋状か。約1.5m。

〔壁・底面〕全周オーバーハングか。壁上60cmⅣ層（下方、根が深く入っているためⅤ層を誤認？）、その下～底Ⅴ層。南東壁の底面直上に花崗岩の露頭。

〔副穴等の付属施設〕底面中央に約40×30cmの楕円形で底面からの深さ約10cmの副穴検出。調査員が確認したときには完掘されていたため覆土は不明。

〔出土遺物〕重複が著しく特定できず、第37～40号土坑出土として取り上げた土器片が2点あり（第84図271、272）、円筒上層a1式と思われる。写真図版144の420～145の444の石器類（一部第84図に図示）も同様である。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第41号土坑（第37・85図、写真図版37・145・146）

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6～7Cグリッド。南側調査範囲外に続く。周囲に類似現象が広がる土坑集中区で、IV層褐色土で検出し、半掘したところ、壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕西側の壁ははっきりしなかったのでサブレンチを入れた。うっかり底まで入れてしまったので底も不明になってしまった。

〔重複〕調査した範囲ではないと思われる。壁の項参照。

〔覆土・堆積状況〕上部暗褐色土（III層に似似）、中部褐色土（今回の調査でよく見られるIV～V層再堆積土）、下部黄褐色土と褐色土の交互層。上部と下部から、自然の堆積の可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場はサブレンチで壊してしまったため推測できない。底は、直径1.8m前後の円形か。

〔断面形・深さ〕袋状（次項参照）。約1.1m。

〔壁・底面〕断面を見ると、西壁が不自然な形をしているが、サブレンチを入れた結果、15層の下が掘れるようには思えなかった。途中の突出部を底にして上にもう1基ソラスコ状土坑が重複しているのかも知れないが、覆土は比較的似ており顕著な違いは見いだせず、また底を認識することはできなかった。ただし、報告書執筆時点で再検討してみれば、16～17層と18～19層の間が比較的大きく異なっており、覆土を底としたためしっかりせずに落ち込んだ可能性も考慮すれば、上にもう1基あると考えた方がより自然かも知れない。壁はオーバーハング。壁、検出面から50cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕調査した範囲では確認できなかった。

〔出土遺物〕第85図273、274の土器、写真図版145の145～146の450の石器類（一部第85図に図示）出土。土器は、273は円筒下層d2式？、274は円筒下層c～d式。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

〔分類・所見〕断面非対称。

第42号土坑（第38・85図、写真図版38・146）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6Cグリッド。住居ベルト残して掘り下げた際、黒かったので間違えて掘り下げた。この時点ではプランは確認できず、当初は住居の周溝かと思っていたが、予想より深く大きく、土坑であろうとわかった。住居精査終了後、床面を下げてプランを大きめに描み、半掘。

〔図・精査状況〕トレンチ南側崩れ、上場全く合わない。上場が段をなしてわかりにくいこともあり、上場をどこと捉えるかという認識の違いのせいかも知れない。南側上場、徳利状に開き、住居の壁を削っている可能性を疑ったが、根による汚れと判断。

〔重複〕第1号住居跡中に検出。新旧関係ははっきりしないが、検出状況から本土坑の方が古い可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕上から下までほとんど同じボロボロの灰黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径約1.6mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕上面皿状に開いて段をなし、壁はオーバーハングきつい。ソラスコ状。深さ約1.5m。

〔壁・底面〕壁上IV層、下V層、底VI層（白色粘土層）。壁と底ははっきり分かれる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕第85図275～280の上器、写真図版146の451～454の石器類（一部第85図に図示）、石器製作時の剥片189.34gが白土。土器は、275は円筒下層b2式？、277は五領ヶ台1a式系？、278？、279？？は、円筒下層b1式？、280は円筒上層a1式？、276は縄文前期中葉か。掲載した以外に、9号袋×1程度の上器片出

土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕皿状に開く上場は、第52号土坑のように、埋め戻し穴の可能性もあるかも知れない。首狭い。

第43号土坑（第38・85区、写真図版38・146）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6～7Cグリッド。焼土断ち割り時、下の様子がおかしいと気づいた。両側に地山そっくりの上が入っていたので確信は持てなかったが、掘り上げてみたら土坑とわかった。

〔重複〕上面に第30号焼土あり（より新しい）。第1号住居跡と重複し、新旧関係ははっきりしないが、住居精査時全く確認できなかったことから、土坑の方が古い可能性が高い。

〔覆土・堆積状況〕上部にぶい黄褐色土、中部IV～V層内堆積の黄褐色土、下部にぶい黄褐色土（一番下はV層内堆積？）。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径約1.5mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕検出面のせいひ、壁～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色土（10YR4/6）シルト、粘性あり、1～2mmの炭化物、5mm～1cmのV層ブロック多く含む。

〔出土遺物〕第85区281の土器（門筒下層c～d式か？）、写真図版146の455～457の石器類（一部第85区に図示）、石器製作時の剥片529.57g出土。掲載した以外に、10×10cm 1点、9号袋×1/4程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第44号土坑（第38・85区、写真図版38・146）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6B～Cグリッド。第1号住居跡柱穴掘すため床面をクリーニングした時に発見。プランは頼めなかったが、半截した結果、柱穴ではなく土坑と確認。住居跡精査後、改めて床面を下げてプランを確認。

〔図・精査状況〕両側上場崩れて合わない。北側上場割り間違いで合わない。上場、区示したものとそれほど遠くなかったと思われるが、精査中に崩れている可能性が高い。

〔重複〕第1号住居跡と重複。検出状況から、本土坑の方が古い可能性が高い。

〔覆土・堆積状況〕汚れIV～V層の再堆積土と暗褐色土の交互層。南側の上段に確認された層は、地山とほとんど区別できない。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径約1.4mの円形。

〔断面形・深さ〕崩れているためか不整形。約0.9m。

〔壁・底面〕検出状況のせいひ、壁～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり？ 他と異なり上場がはっきりせず、グラグラと立ち上がる。

〔出土遺物〕第85区282～284の土器、写真図版146の458（＝第85区458）の石器、石器製作時の剥片13.90g出土。土器は、282、284は、縄文中期前葉、283は縄文前期末～中期初頭。掲載した以外に、10×10cm 2点、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

〔分類・所見〕 断面非対称。

第45号土坑（第39・85図、写真図版38・146～147）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部西端。7 B～C グリッド。地山上面で、第7号号跡に伴う柱穴を掘っていた際に検出。炭化物を花崗岩のように顕著に含む灰黄褐色土だったので、比較的はっきり確認したが、あまりに小さかったので、半蔵前は柱穴と思っていた。〔図・精査状況〕 北側上場ははっきりなかったのでサブトレンチを入れた。

〔重複〕 東側第48号土坑と重複し、断面から48号の方が新しい。底付近のみ重複。本上坑を精査したときには、まだ48号は検出しておらず、半蔵した際に偶然あつた。48号は、初め住居状遺構と考えていたので、さらに別の土坑があるのだと誤っていた。

〔覆土・堆積状況〕 断面図に見える下部の花崗岩の直下と間を置いて、その下がやや黄色みが強いというだけで、ほとんど同じ灰黄褐色土。炭化物を花崗岩のように特徴的に含む。

〔平面形・規模〕 上端0.8×0.6mの楕円形。底、直径約1.3mの円形。

〔断面形・深さ〕 両側上部洞穴状に僅かにオーバーハングし、二段のオーバーハングになっている。深さ約1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕 壁上30cm IV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕 〔出土状況〕 炭化物多く含むのに、他に比べて土器が出土しない層が非常に多かった。

〔遺物〕 第85図285、286の土器、写真図版147の459、146の460の右器類、右器製作時の剥片89.42g出土。土器は、286は円筒下層c～d式か、285は時期不明。掲載した以外に、9号袋半分強程度の土器片が出土している。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 円狹い。

第46号土坑（第39・85・86図、写真図版39・146～148）

〔位置・検出状況〕 調査区中央。7 C グリッド。IV層面褐色土で検出。半蔵の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 測り間違いでセクションポイント合わない。完掘時掘り広がつたため（おそらく掘りすぎ）、断面図と平面図合わない。半蔵時口が狭かったので南側を壊して精査（トレンチ）。ところが、調査序盤で作業員が慣れていなかったため断面を垂直に下ろすことができず、下方をかなり抉ってしまった。下方に合わせて断面を垂直にするように求めたが、なかなか垂直に下ろすことができず、とうとう上場がなくなってしまった。

〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 断面穴割ってきたところでは、全てIV～V層再堆積の褐色土。濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じ。

〔平面形・規模〕 前述のように、上場は精査中に壊してしまったため不明であり、下場は掘りすぎている可能性が高いので不明。

〔断面形・深さ〕 フラスコ状か。約90cm。

【壁・底面】全周オーバーハング？ 壁上部IV層、壁下部～底部V層。

【副穴等の付属施設】確認できなかった。

【出土遺物】第85図287、288の上器、写真図版146の461～148の466の石器類（一部第85～86図に図示）出土。十器は、287は円筒上層a1式？、288は縄文時代前期末辺りか。

【時期】出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前半の可能性はある。

第47号土坑（第39・40・86図、写真図版39・148）

【位置・検出状況】調査区中央部西。7B～Cグリッド。地上上面で、前年度既に検出し少し掘り下げていた。【図・精査状況】オーバーハングきつく、南半分上場崩落。【重複】上面で第6号伊跡を検出（新しい）。精査中に、北側の第48号土坑とくっついてしまったが、重複はしていない。後述のように、木土坑口体が2つの土坑の重複の可能性もある。

【覆土・堆積状況】西側の1、2、10層以外、V層ブロックの含む量と濃淡の違いはあるが、ほとんど同じ灰黄褐色土。3層はIV層そのものに近く、壁が崩落したものか。

【平面形・規模】検出面では気づかなかったが、掘り上げた後、壁と底を見ると、中央付近がくびれて二つの口が連続したようになっており、本来は二つの土坑が重複していたのが、上場が崩れて一つに見えた可能性もある。

【断面形・深さ】オーバーハングきつい。深さ約0.7mの袋状。

【壁・底面】壁土20～30cmIV層、その下～底V層。【副穴等の付属施設】ないと思われる。

【出土遺物】（出土状況）北側壁近く、比較的まとまった十器片が土坑の中心に向かって傾きに傾斜して出土。（写真図版39）。【遺物】第86図289～296の土器、写真図版148（＝第86図）の467の石器、石器製作時の割片132.9gが出土。土器は、290、293は、円筒下層d1（d2?）式？、289?、291、292?、294、295?は、円筒上層a1式、296は円筒下層d2式。陶載した以外に、9号袋×3/4程度土器片出土。

【時期】出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

【分類・所見】断面非対称。

第48号土坑（第39・40・86・87図、写真図版39・40・148）

【位置・検出状況】調査区中央部西。7Bグリッド。IV層上面で住居状のように広いシミを確認。プランははっきり掴めなかったが、近くに壁穴住居跡があるため、これ以上下げられず、十字ベルトを設定して、これに沿ってトレンチ状に掘り下げた。その結果、第52号土坑と同様に上面に埋め戻し穴がある土坑であることがわかり、東西方向のベルトを除去して掘り下げた。

【図・精査状況】セクション・ポイントB崩落。全体的に崩落ひどく、ずれている。

【重複】覆土上部両側に第33号焼土がある（より新しい）。西側、第45号土坑と重複し、断面から本土坑の方が新しい（第45号の断面参照）。南側に第47号土坑があるが、重複していない（間が崩落しただけ）。後述のように、木土坑口体が重複かも知れない。

【覆土・堆積状況】上部埋め戻し穴覆土は、淡い土、その下は、よく似ており、濃淡の違いはあるがV層ブロックを特徴的に含む灰黄褐色土。中に段があるが、土層の類似性、堆積状況から、土坑の重複でなく一つの土坑に段があるのだと考えた。

【平面形・規模】崩落ひどく、不明。

〔断面形・深さ〕全体的にオーバーハングきつ、上場全周精在しているそばから崩れたため不明。中位段～下位底にかけての壁もオーバーハングしており、すぐ崩れてしまった。深さ約0.8m。

〔壁・底面〕壁上20cm IV層、その下～底V層。下位の段（底）はネトネトして、中位の段の底の方が固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕〔出土状況〕No.1土器（第86図297）は、ほぼ完形で、土坑中央部から、北から南に僅かに傾斜して出土（ト8層）。No.2土器（第86図298）は、ほぼ水平に略完形の土器が上圧で押しつぶされたような状態で出土（1層）（第39図）。写真図版40参照。

〔遺物〕第86図297～316の土器、第87図7の円盤状土製品、写真図版148の468～479の石器類（一部第87図に図示）、石器製作時の剥片961.12g、剥片B類10.29g出土。土器は、297、298？、300（ト層d2式？）、307、308？、310、314、316は、円筒上層a1式、304、312は、円筒下層d1式、305は円筒上層a2式、311は円筒下層d2式？、315は円筒下層b2式？、299は縄文前期末～中期初葉、301？、303？、309は、中期前葉、302、306、313は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×3程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性はある。

〔分類・所見〕半截時確認された段を、同じ土坑の段と考えていたが、完結後、北西側に段が確認され、中段が一つの楕円形になり、下位が円形を呈することがわかった。これを見る限り、二つの土坑の重複と考えた方が自然である。しかし、覆土は上記の通りで、真相は不明である。上場の広がり、第52号土坑同様、深い土坑を埋め戻すために掘られた穴と考える。大型？

第49号土坑（第40・87図、写真図版40・148・149）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド。IV層黒褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面でプランは確認できなかった。最も濃い部分にトレンチを入れた結果、三つの土坑の底と壁が確認された。

〔図・精査状況〕上場は、トレンチと掘りすぎ（疑似現象との重複）によってほとんどがなくなってしまった。南側疑似現象があり、一緒に掘ってしまったので第75号土坑と重複しているように見える。

〔重複〕北側第50号土坑、第51号土坑と重複。間にトレンチが入ってしまったため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、その下基本的には黄褐色土と黒褐色～暗褐色土の交互層。自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕上場トレンチと崩落によって不明。底、直径約1.5mの円形。

〔断面形・深さ〕断面図を見る限り、口がほぼ垂直に立ち上がるフラスコ形。約1.1m。

〔壁・底面〕壁は、底からきつくオーバーハングし中程からほぼ垂直に立ち上がる。壁～底IV～V層（壁による攪乱を受けているせいか境界が曖昧で区別できない）。

〔副穴等の付属施設〕底面中央よりやや北東寄りに約45×30cmの楕円形の副穴が検出された。底面からの深さは約20cmで覆土は9層である。

〔出土遺物〕重複著しく、本遺構に属すると特定できた遺物はない（第87図、写真図版148の480～149の485参照）。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕首狭い。

第50号土坑（第40・87図、写真図版41・148～152）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド。IV層黒褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面でプランは確認できなかった。最も濃い部分にトレンチを入れた結果、三つの土坑の底と壁が確認された。

〔図・精査状況〕上場はトレンチによって南半分消失。

〔重複〕東側第51号土坑と重複。断面から判断すると第50号の方が新しい。南側第49号土坑と重複し、間にトレンチが入ってしまったため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上から下まで、濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場は、直径50cm程度の円形か。底は、直径約1.25mの円形。

〔断面形・深さ〕断面図を見る限り、口が極めて細いフラスコ形。約1m。

〔壁・底面〕壁は、底から緩やかにオーバーハングした後急傾斜で立ち上がり、最後に外反するようである。

壁上部60cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕重複著しく、本遺構に帰属すると特定できた遺物は少ない（第87図、写真図版148の480～152の535参照）。319土器の一部は、本土坑からも明らかに出土している。縄文中期前葉か。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕首狭い。

第51号土坑（第40・87図、写真図版41・148～152）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド。IV層黒褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面でプランは確認できなかった。最も濃い部分にトレンチを入れた結果、三つの土坑の底と壁が確認された。

〔図・精査状況〕上場は、トレンチによって南半分消失し、北側は疑似現象と重複していたため掘りすぎ、不明である。東（B'）側完掘時底掘り広がったため合わない。

〔重複〕西側第50号土坑と重複。断面から判断すると第50号の方が新しい。南側第49号土坑と重複し、間にトレンチが入ってしまったため新旧関係不明。北～東側疑似現象による攪乱を受けている。

〔覆土・堆積状況〕上から下まで、濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。

〔平面形・規模〕上記の理由で上場不明。底も重複によって壊されたため不明。

〔断面形・深さ〕断面図を見る限り袋状。約60cm。

〔壁・底面〕壁は、オーバーハングするようである。壁上部60cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕重複著しく、本遺構に帰属すると特定できた遺物は少ない（第87図、写真図版148の480～152の535参照）。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中華～中期前葉の可能性がある。

第52号土坑（第41・88図、写真図版41・42・152）

〔位置・検出状況〕調査区西部北東隅。6 Bグリッド。地山上面で、淡い色（にぶい黄褐色）のシミを見つけた。それらは、不整形で輪郭はボヤーとしていたが、比較的濃いところに注目すれば、南北に延びる楕円形とその西側の円形、あるいは南北に並ぶ円形2つと西側の1つと見るわけにはいかず、これらを同時に掘ることとし、楕円形の西側を掘り、その南側から隣の土坑にベルトを通して、歪んだ「T」字状に土層を残して掘り始めた。検出間で確認されたシミは30cm程度と浅く、その下の中央部には大きな二坑が検出された。このシミの部分は、ボヤーとして底も壁もはっきりしないが、ある程度の深さを持って面的に広がり、住居状の楕円形遺構2基が南北と東西に広がり、それが重複しているのか、そして、その下に土坑があるのかとしばらく悩んだ。完形に近い土器（No.0）が出土していることも拍車を掛けた。結局、フラスコ状土坑より新しい割にはあまりに輪郭がぼんやりしており、覆土も地山汚れ土で、底が不整形でうねっているため、人によって意図的に掘られたものではないと判断し遺構とは認定せず、下の土坑だけ遺構として扱った。その正体はわからなかったが、下の土坑を中心に広がるということで、土坑の土場が崩れたのかと漠然と考えていた。

〔図・精査状況〕西側土場崩落。底面下げすぎ。その他にも掘りすぎ多い。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕最上部、にぶい黄褐色土、中央（上部）灰黄褐色～黒褐色土、両脇（下部）黄褐色土、最下部灰黄褐色土と黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕土場、不明（埋め戻し穴あり）。底、直径約2.1mの円形

〔断面形・深さ〕袋状。深さ約1.3m。

〔壁・底面〕壁上面30～40cmIV層、その下～底V層。底の一部、東壁の境付近軟らかい。土は地山の色で炭はほとんど含まないので、再堆積土でなく、地山そのものが何らかの影響で軟らかくなったものと判断。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物（出土状況）〕2層中からNo.0土器出土（第88図322）。胴部下半で、底を北側に向けながら大きく傾斜している。No.1（第88図323）は、比較的大きな破片で、11～12層上面から北側に強く傾斜して出土。No.2（第88図324）は、完形土器で、12層上面層からはほぼ水平で北東方向に向かってやや傾斜して出土。写真図版41～42参照。

〔遺物〕第88図322～334土器、写真図版152の536～540の石器類（一部第88図に図示）、石器製作時の刮片352.27g、刮片B類3.73gが出土。土器は、323は五頸ヶ合I a式系、324、327、328？、330、332、333は、円筒下層d1式、325、331、334は、円筒上層a1式、326は円筒下層d2式、329は円筒下層c～d式、322は中期前葉？ 図示した以外に9号袋×3程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕上面のシミが何なのか、ずっと悩んでいたが、第48号土坑でも同様なものが見られたとき、ひらめくものがあった。本土坑は、第48号と同様比較的規模が大きく、また作層のそばにある。今回の調査では、フラスコ状土坑はしばしば埋めもどしているのが確認された。埋めもどすにあたって土をどこから持ってくるかが問題となる。本土坑の場合は、規模が大きいため埋めもどすために多くの土が必要になる。土が足りなくなったため周囲の地山を削って埋めたのではないだろうか。同時期に存在したか不明だが、住居のそばにあったため早急に埋めもどす必要があったのかも知れない。埋めもどすために掘った浅い穴は、住居のそばに窪地があるのは不都合ということで、後日また改めて地山土で埋めもどしたのではないかと。

第53号土坑（第41図、写真図版42・152）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北西隅。6～7 Bグリッド。地山上面で比較的是っきり円形の灰黄褐色土を確認。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部灰黄褐色土、中部汚れIV～V層再堆積でほとんど同じ、下部は一番上が黒褐色土で炭化物多い、その下がふい黄褐色土、最下層がV層再堆積。

〔平面形・規模〕上場、約1.1×0.6mの楕円形。底、直径約1.9mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕写真図版152の541～543の石器類、石器製作時の割片713.58g山土。時期が特定できる土器はなかったようである（写しで1点も掲載しなかった）。5×5～10×10cmの破片1、5×5cmの破片2、それ以下の破片33点出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第54号土坑（第42・88図、写真図版42・152・153）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北西隅。7 Bグリッド。地山から20cm下げたところで検出。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕中央部炭化物多く、下部は黄褐色土で、その他は全体的によく似たにふい黄褐色～灰黄褐色土。下半部は細かく分かれる。

〔平面形・規模〕上場、直径約0.9mの不整円形。底、直径約1.7mの円形

〔断面形・深さ〕深さ約1.2mの袋状。

〔壁・底面〕壁上30cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕第88×335～337の石器、写真図版152の544～153の549の石器類（一部第88図に図示）、石器製作時の割片87.79g山土。土器は、335は円筒下層c～d式、336は円筒下層d1式？、337は前期末～中期初葉あたりか。掲載した以外に、5×5～10×10cmの破片2、5×5cmの破片2、それ以下の破片42点出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後半の可能性はある。

〔分類・所見〕堆積状態に特徴。

第55号土坑（第42・89図、写真図版43・153）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北西。7 Bグリッド。地山上面で疑似現象ともつかないシミを見つけたが、近くに作目が検出されたためこれ以上下げられず、試しに半截したところすぐ多量の土器が出土して土坑とわかった。西側に検出されたシミは、半截の結果疑似現象とわかった。周囲は木根多い。

〔図・精査状況〕上場の形がわかりづらく、平面図作成時の西側上場の認識が断面図と異なっていたため合わない。南側上場崩れていないようである。

〔重複〕西側第56号土坑と重複し、断面図から本土坑の方が古い。第56号は、本土坑と違って炭化物もほとんど含まず黄色みが強いので、はっきり区別できる。

〔覆土・堆積状況〕上半、灰黄褐色土～にふい黄褐色土、下半、最上部特徴的な黒褐色土、その下IV～V層

再堆積の黄褐色土。

〔平面形・規模〕 上場、約1.2×1mの不整楕円形。底、直径約2.2mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.3mの袋状。

〔壁・底面〕 壁上20～30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。底には、レモン色(2.5Y8/6)のブロックが見られ、硬質でツルツル。

〔副穴等の付属施設〕 底中央が窪んでいるが、副穴あったのか不明。

〔出土遺物(出土状況)〕 3層上面に土器片多く発見。No.1(第89図339の一部)(写真図版43)は、ほぼ水平に堆積、No.2(第89図339の一部)は、西側下方に向かって緩やかに傾斜。No.3(第89図339の一部)は、礫の上であり、北東に向かってやや強く傾斜。底面中央付近で完形土器出土(第89図338)。6層上面で頭を白した。西に向かって傾斜している。

〔遺物〕 第89図338～347の土器、写真図版153の550～555の石器類(一部第89図に図示)、石器製作時の剥片123.84g、剥片B類1.05g出土。土器は、338、342?、347?は、円筒下層d2式、339?、341、343?、344、345、346は、片筒下層d1式、340は円筒下層c～d式。掲載した以外に、9号袋×1.3程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

〔分類・所見〕 大型?

第56号土坑(第42・43・89図、写真図版43・44)

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北隅。7Bグリッド。上に切り株あり木根多く、また生居の近くだったため下げられず、検出面では確認できなかった。第56号土坑の重複から存在を確認。確認前、上面の上は第2号住居に似ていたので、住居の張り出し部かと思っていた。

〔図・精査状況〕 両側の中間場の落ち際、水系からの高低差大きかったせいか、少しずれている。西側オーバーハングきつく大幅に崩れた。

〔重複〕 西側第56号土坑と重複し、第56号の断面から本土坑の方が新しい(55号の記載参照)。北側、第57号土坑と重複しているが、第57号の精査中底付近で気づいたので、新旧不明。

〔覆土・堆積状況〕 上部、ボヤーとしたにぶい黄褐色土、中部、中央黒褐色、両脇黄褐色土、下部、黄褐色土と黒褐色土の薄い交互層。中層と下部の間大きな礫目立つ。

〔平面形・規模〕 上場不明だが、「燃め灰し穴」を持つと考える。底、直径約2.5mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.8mのフラスコ状。

〔壁・底面〕 壁上30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物(出土状況)〕 覆土中央部、8層以下、一抱えもある礫がゴロゴロ出土、板状が多いが砕状もある。その下から、半完形土器が押しつぶされて大きな破片となって出土(写真図版48～44)。

〔遺物〕 第89図348～353土器、石器製作時の剥片161.64g、剥片B類27.95g出土。土器は、348、349?、350、351、352?、353?は、片筒下層d1式。掲載した以外に、10×10cm以上2、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期後葉～末の可能性がある。

〔分類・所見〕 第52号土坑同様、「埋め戻し穴」を持つと考える。覆土中位から大きな礫。大型。

第57号土坑 (第43・89図、写真図版44)

〔位置・検出状況〕調査区中央部北西隅。7A～Bグリッド。地山を10cm下げたところで検出。上に切り株あり、また検出面にも根が多く残存し、覆土も根による汚れとほとんど区別できなかったが、試しに半截したところ、灰黄褐色のよりはっきりした土が出てきて底も確認され、土坑と認定。

〔図・精査状況〕上場崩れたためか廻り広がって合わない。

〔重複〕南側第56号土坑と重複。底面付近のみなので新旧不明。

〔覆土・堆積状況〕IV～V層の再堆積である褐色～にぶい黄褐色土とにぶい黄褐色～灰黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕上場、直径約1.1mの円形。底、直径約1.6mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1mの袋状。

〔壁・底面〕壁上40cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴とそれに繋がる3つの小溝跡。

〔出土遺物〕第89図354～360の土器、石器製作時の剥片29.72g出土。土器は、355は縄文早期日鼓文守の沢式、357は縄文前期前葉？、354、356、358～360は、時期不明。図示した以外に9号袋半分程度の土器片が出土。

〔時期〕他より古い土器が出ているが数が少なく、また遺構自体は他と特に異なっていない、混入の可能性も否定できない。

〔分類・所見〕副穴に小溝。早期土器片出土。

第58号土坑 (第43・90図、写真図版44)

〔位置・検出状況〕調査区中央部北。7Bグリッド。地山上面で検出。根による汚れに近い色だが、はっきりした円形だった。〔図・精査状況〕半截時副穴未検出。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕両脇の一部黄褐色土、の他は、みなにぶい黄褐色土でほとんど区別つかない。

〔平面形・規模〕上場。直径約0.8mの不整形円形。底、直径約1.6mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約0.9mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴とそれに繋がる小溝跡あり。

〔出土遺物〕〔出土状況〕中位の高さから比較的大きな土器片が、ほぼ水平に出土 (No.1) (第90図361)。層不明。写真図版44参照。

〔遺物〕第90図361～368土器、石器製作時の剥片62.6g出土。土器は、362、363、366は、円筒下層d1式、361？、368？？は、円筒下層d2式、364は円筒上層a1式？、365、367は、縄文前期末？ 367は、第29号、第63号土坑出土破片と接合している。掲載した以外に、10×10cmの破片1、9号袋×1/2程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文前期末の可能性がある。

〔分類・所見〕副穴に小溝。

第59号土坑 (第44・90図、写真図版45・153)

〔位置・検出状況〕調査区中央部北隅。7A～Bグリッド。地山面を20cm下げたところで検出。はっきりし

ない根による汚れのような上で、あまり期待していなかったが、半截し深く掘り下げた結果、壁と底が確認できたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕土崩れたせいか合わない。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上記のような土で、また浅いせいか区別できなかったが、濃淡で2層に細分。上部の方がロームブロック多い。ただし、土器の出土状況を見ると、1層は土器の上を通過して東西に続きそうである。

〔平面形・規模〕上場崩落したため不明。底は、約1.5×1.2mの不整楕円形。

〔断面形・深さ〕約0.4mの袋状。

〔壁・底面〕壁IV層、底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕検出面で土坑と確認できなかったため半截時トレンチ状に深く掘り下げたため不明。

〔出土遺物〕〔出土状況〕完形に近い土器が、土坑のほぼ中央から水平に近い状態で、口を北東方向に向けて出土している(No.1)(第90図369)(第44図、写真図版45)。2層上面からか。北東側の一部は土圧つぶされたような状態で出土しているが、それ以外は本来の位置から外れており、立っている破片もある。

〔遺物〕第90図369～372の土器、写真図版153の556、557の石器類(一部第90図に図示)出土。土器は、369、372は円筒上層d1式?、370は縄文前期後半、371は時期不明。掲載した以外に10×10cmの破片1、9号袋×2程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

〔分類・所見〕浅い。

第60号土坑(第44・90図、写真図版45・153)

〔位置・検出状況〕調査区中央部北隅。7 Aグリッド。地山を10～20cm下げたところで根によるカクランに近い汚れたIV層を検出。あまり望みはないと思って半截したら、はっきりした灰黄褐色土が出てきた土坑と判明。〔図・精査状況〕西側上場崩れたため合わない。根によるカクラン受けているため、半截した断面でも東西両側の境ははっきりしなかった。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半IV～V層再堆積の黄褐色土(炭化物もほとんどない)、下半灰黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場、約1.3×1.2mの不整楕円形。底、直径約1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約0.7mの袋状。

〔壁・底面〕壁20cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴とそれに続く「」字状の小溝跡が検出。底面からの深さ、副穴30cm、溝3cm、副穴の底には花崗岩がある(元々現地にあったものではないようだ)。薄層土、黄褐色土(10YR5/6)粘土質シルト、IV層再堆積。

〔出土遺物〕第90図373の土器(時期不明)、写真図版153の558の石器、石器製作時の剥片1.69g出土。出土遺物は少なく、掲載されたもの以外に土器片が5×5cmより小さなものが4片。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕副穴に小溝。

第61号土坑(第45・90図、写真図版45・153)

〔位置・検出状況〕調査区中央部北隅。7～8 Aグリッド。地山を20cm下げたところで検出。土に切り株あり、木根が多く残存しているところでぼんやりとした土で検出されたため、ほとんど期待はしていなかった。

試しに半載し大きめに掘り下げたところ、底と壁が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕東側、崩れたのか掘りすぎたのか、上、下場とも合わない。木根のどくて上が汚れており、壁わかりづらい。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕西上隅がやや黄色みが強い程度で、ほとんど同じにぶい黄褐色～灰黄褐色土。ただし、周囲のIV層よりは濃くはっきりと区別できる。

〔平面形・規模〕上場、約1.3×1.2mの円形。底は、約1.6×1.5の不整楕円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。約0.4mの袋状。

〔壁・底面〕壁1.15cmIV層、その下～底V層。底は区く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、樹色(10YR6/4)シルト、5mm程度のダム状のロームブロック含む。周囲の塚穴とほとんど同じ土。

〔出土遺物〕第90図374～376土器、写真図版153(=第90図)の559の石器類、石器製作時の剥片34.28g出土。土器は、376は円筒上層a1式?、374、376は時期不明。掲載した以外に9号袋1/2程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕浅い。

第62号土坑(第44・90図、写真図版46・154)

〔位置・検出状況〕調査区中央部北隅。7A～8Bグリッド。検出面を10cm下げたところ、にぶい黄褐色土ながら比較的はっきり検出できた(基準杭直下)。

〔図・精査状況〕セクション・ポイントのBは穴測時動かされていた。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕黄褐色～にぶい黄褐色土と灰黄褐色土の交互層に近い。中央に最も暗い層がある。

〔平面形・規模〕上場、約1.3×1.2mの不整楕円形。底は、直径約1.9mの円形。

〔断面形・深さ〕約1mの袋状。

〔壁・底面〕壁上30cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色(10YR4/4)シルト、IV～V層の粒子細かいブロック多く、2mm大、1cm大の炭化物も多い。深さ5cm。これとは別に、底面のより東寄り、下から二番目のV層再堆積土の上面で柱穴様の副穴らしいものが確認された。西端がはっきりしなくて変だったので、さらに下げたら、なくなってしまい、底面中央に前述のはっきりした副穴が検出されたのである。

〔出土遺物〕第90図377土器(時期不明)、写真図版154の560、561の石器類、石器製作時の剥片13.39g出土。掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第63号土坑(第45・90図、写真図版46・154・182)

〔位置・検出状況〕調査区中央部北。8Bグリッド。地上上面で検出。上部に切り株あり、検出面にも木根多く残りわかりづらかったが、近くに住居が検出されたため、これ以上下げられなかった。プランははっきりしない根による汚れのようなもので、あまり期待しないで試しに半載したところ、炭化物多く含むはっきりした覆土が検出され、壁と底も確認できたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕西側の土場少し崩れたせいで合わない。

〔重複〕ないと思われる。ただし、西側、第58号土坑の半載時のトレンチと重複している。

【覆土・堆積状況】中部に炭化物多く含む灰黄褐色土が見られる他は、全てよく似た（特に上はほとんど区別できない）におい黄褐色土。

【平面形・規模】上場、約1×0.8mの楕円形。底は、直径約2.1mの円形

【断面形・深さ】上部は皿状に広がり段を持つ。オーバーハンクつきで、深さ約1.1mのフラスコ状。

【壁・底面】壁上30cm IV層、その下～底V層。底は内く締まる。

【副穴等の付属施設】小さめの副穴あり。覆土は、褐色（10YR4/6）シルト、1cm台のV層ブロック、1～3mmの炭化物含む。

【出土遺物】第90図378～388土器、写真図版154の562～565の石器類（一部第90図に図示）、写真図版182の8の軽石加工品、石器製作時の剥片71.17g出土。土器は、378?、380、381-382=383-388、385、387は、円筒下層d1式、8は円筒下層c～d式、386は縄文前期後半、379は縄文前期末～中期初頭。第90図367にも、本土坑から出土した破片が含まれていて（「半裁時」で取り上げ。詳細は第V章木文補足参照）、第29号、第58号土坑出土破片と接合している（縄文前期末）。掲載した以外に9号釜×1.5程度の土器片が出土。

【時期】山土土器から、縄文時代前期末の可能性もある。

【分類・所見】首極端に狭い。

第64号土坑（第46・91図、写真図版46・154・155）

【位置・検出状況】調査区中央部中央～北。8 B グリッド。第3号住居跡検出時、住居覆土上面に皿層に近い黒褐色土の円いシミを幾つか検出。半裁したところ、そのほとんどは木根によるⅡ～Ⅲ層の落ち込みであったが、本遺構は土坑になった。検出時、木遺構は住居の外にも広がり、出入り口状遺構の可能性もあると考えていたので、作居の南北ベルトに合わせて半裁した。上面には木の切り株が多くあった。

【図・精査状況】トレンチの南側崩れて合わない。

【重複】第3号住居跡と重複し、検出状況及び断面から、本土坑の方が新しい。南西側第68号土坑と重複。検出面が異なり、また第68号は検出面でもプランがはっきり確認できなかったため、新旧関係ははっきりしないが、第68号の第64号二坑と重複する部分が、IV～V層の土で補強してあった。明らかに第68号の中心に向かって傾斜しており、このことから第68号の方が新しいと考えても良からう。南側、第65号土坑と重複。第65号は、第2号住居跡炉断り割りに確認したもので、検出面が異なり新旧関係不明。ただし、第65号の覆土が一般的なフラスコ状土坑の覆土で、第64号土坑の最上部に黒褐色土が入っていることを考えて、第64号土坑の埋没時間が他と比べて特長長くかかっていないと仮定すれば、第64号の方が新しい可能性もある。

【覆土・堆積状況】上部黒褐色土、中部（両端）黄褐色土、下部黒褐色～暗褐色土と黄褐色土の薄い交互層。底面直上一抱えもある礫多く出土（写真図版46）。

【平面形・規模】上場、約2×1.7mの楕円形。底は、約2.5×2.25mの楕円形。

【断面形・深さ】深さ約1.4mのフラスコ状。

【壁・底面】壁上20～30cm IV層、その下～底V層。

【副穴等の付属施設】ないと思われる。

【出土遺物】第91図389～413の土器、写真図版154の566～155の581の石器類（一部第91図に図示）、石器製作時の剥片724.1g、剥片B類50.19g出土。土器は、389は円筒上層a2式?、392、393、396、397?、398?、

401、404?、405、406、407（下層d2式?）、408、409、412（下層d2式?）は、円筒上層a1式、393?、397は、円筒上層b式、403、413は、円筒下層d1式、410?、411は、大木7a式系、399、400?は、前期末～中期初頭、390?、395?、402は、中期前葉、391、394、402は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×3程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性が高い。

〔分類・所見〕 上場が広いのは、第52号土坑同様、「惣め戻し穴」によるためか。住居より新しい。

第65号土坑（第46・47・92図、写真図版46・47・155）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部中央。8 B グリッド。第3号住居4～5号炉検出の際周囲が褐色土で覆われているのをいぶかしくは思っていたが、検出面上部に切り株があり周囲に木根が多く残っていたことから、土坑だという認識はなかった。結局炉断ち割り後土坑と認定。

〔図・精査状況〕 調査最後に確認・精査したため、周囲はだめ押しを併行して行っており、そのせいでセクション・ポイントのA'消失。周囲が木根によって汚れており、全体的に掘りすぎ。

〔重複〕 上面に第2号住居の炉がある（より新しい）。第3号住居の範囲内でもあるが、新旧関係ははっきりしない。東側第66号土坑と重複し、境界付近ははっきりしない部分はあるが、断面から本土坑が新しいと判断。北側、第64号土坑と重複するが、検出面が異なり新旧関係不明。ただし、第65号の覆土が一般的なフラスコ状土坑の覆土で、第64号土坑の最上部に黒褐色土が入っていることを考えて、第64号土坑の埋没時間が他と比べて特に長くなかっただけでないと仮定すれば、第64号の方が新しい可能性もある。

〔覆土・堆積状況〕 上部IV層粒子多く散る褐色土、下部暗褐色土。

〔平面形・規模〕 重複著しく、不明。

〔断面形・深さ〕 約0.5mの袋状。

〔壁・底面〕 壁IV層、底V層最上面。

〔副穴等の付属施設〕 ないとと思われる。

〔出土遺物〕 時期を特定できる土器はなく（予選いで1点も掲載しなかった）、5×5cm以下の土器破片23点出土。写真図版155（＝第92図）の582～584の石器類、石器製作時の割片70.65g出土。

〔時期〕 重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性がある。

〔分類・所見〕 浅い。

第66号土坑（第46・47・92図、写真図版46・47）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部中央。8 B グリッド。第3号住居4～5号炉検出の際周囲が褐色土で覆われているのをいぶかしくは思っていたが、検出面上部に切り株があり周囲に木根が多く残っていたことから、土坑だという認識はなかった。結局炉断ち割り後土坑と認定。

〔図・精査状況〕 調査最後に確認・精査したため、周囲はだめ押しを併行して行っており、そのせいでセクション・ポイントのA'消失。周囲が木根によって汚れており、北側は全体的に掘りすぎ、南側は炉断ち割り時のトレンチで消失。

〔重複〕 上面に第2号住居の炉がある（より新しい）。第3号住居の範囲内でもあるが、新旧関係ははっきりしない。東側第66号土坑と重複し、境界付近ははっきりしない部分はあるが、断面から本土坑が新しいと判断。南側第67号土坑と重複しているようだが、間に木根入っているので定かでない。

〔覆土・堆積状況〕黄褐色土とぶい黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕重複著しく、はっきりしない。底は、楕円形？

〔断面形・深さ〕重複著しく、はっきりしないが、フラスコでない？ 深さ約0.4m。

〔壁・底面〕壁IV層、底V層。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第92図414の土器が出土し、縄文中期前葉か。掲載した以外に、9号袋×1/4程度の土器片出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕浅い。

第67号土坑（第46・47・92図、写真図版17・155）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8 B グリッド。住居跡重複部分で床と壁の把握に苦慮していたとき、第3号住居跡の床面と考えていた黄褐色土が剥がれることに気づいた。その下に土坑があるのを確認。生層精査後、改めて検出したら、黄褐色土の層間に灰黄褐色土が円形に巡ることが、わかった。

〔図・精査状況〕オーバーハングきつく、上場全周崩落。

〔重複〕第2号、第3号住居跡と重複し、検出状況から何れよりも新しいと思われる。北側、第66号土坑と重複（間に木根入っているのでは定かでない）？

〔覆土・堆積状況〕最上部（壁際）灰黄褐色土、上半ロームブロック多い埋めもどした土、下半暗褐色土と黄褐色土の薄い交互層。

〔平面形・規模〕上場、崩落したため不明。底、直径約1.8mの円形。

〔断面形・深さ〕オーバーハングきつ。深さ約0.8mの袋状。

〔壁・底面〕壁土20～30cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕〔出土状況〕No. 1 土器（第92図415）は、内面を上に向けて、9層上面から壁際ほんの僅か中央に向かって傾斜して出土。（写真図版47）。

〔遺物〕第92図415～417の土器、写真図版155の585～588の石器類（一部第92図に図示）、石器製作時の剥片434.27g出土。土器は、415、417は、円筒上層a1式、416は中期前葉か（大木7 a 式系？）。掲載した以外に、9号袋×1/2程度の上層片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

第68号土坑（第47・92図、写真図版48・155・156・183）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8 B グリッド。住居柱穴検出時、柱穴の北西側に黒褐色土が細長く長楕円形に広がるのを確認したが、あまりに長いので土坑にはならないと考えていた。試しに半載したところ土坑になることがわかった。

〔図・精査状況〕東側の上場、第3号住居跡の柱穴の形の可能性が高い。ただし、これが本当に柱穴だったかどうか定かでない、本来第68号土坑の上場だった可能性もある。北西側上場崩落。

〔重複〕北西側、第64号土坑と重複。第64号の底の方が低いのだが、そこに地山土が貼っており、本土坑の底の高さに合わせてある（写真図版48）。明らかに本土坑の中心に向かって傾斜しており、本土坑に伴うものと思われる。このことから、本土坑の方が新しい。第3号住居跡と重複。検出状況からははっきりしないが、住居跡が重複する第64号土坑との関係から、本土坑の方が新しいようである。

〔覆土・堆積状況〕最上部炭化物多い黒褐色土、上部暗褐色土、中部焼土粒目立つ暗褐色土（一部壁崩落土）、下部暗褐色土、最下部IV層再堆積土。

〔平面形・規模〕上場、約2.2×0.8mの不整長楕円形。底は、約2.3×1.5mの楕円形。

〔断面形・深さ〕北西側上場、段になっており、浅く細長く第64号土坑の方へ続く。深さ約1.2mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上20～30cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴はないと思われる。第64号土坑との重複部分に埴山土を貼って、底と壁の延長部分がスムーズになるよう調整している。中から遺物は出土しなかった。

〔出土遺物〕第92図418～426の土器、写真図版155の589～156の609の石器類（一部第92図に図示）、写真図版189の12のコハク、石器製作時の剥片1.792.79g、剥片B類93.25gが出土。土器は、420?、422?、424、426は、円筒上層a1式、421?、423は、円筒上層b式、419は円筒上層a1～e2式、425は縄文中期前葉、418は時期不明。割破した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕北西側の段は、第52号土坑のように、埋め戻し穴か。口狭い。底、極端な楕円形。

第69号土坑（第48・93・94図、写真図版48・156・157）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北段。8 Aグリッド。東側の調査範囲外に続く。地山を20cm下げたところで検出。上部に黒土があったためはっきりと確認。〔図・精査状況〕南側トレンチ崩れたのか合わない。西側上場は崩れていない。〔重複〕調査した範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部III層に似た上、中部、にぶい黄褐色土でほとんど同じ、下部、炭化物と焼土粒多く含む黒褐色土と、にぶい黄褐色土の薄い交互層。

〔平面形・規模〕上場、不明。底は、直径約2.2mの円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約2.2mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上、西側30cm、東側60cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あるが、調査員が確認する前に掘られてしまったので復土不明。

〔出土遺物〕（出土状況）土器が非常に多く出土した。ただし、上坑の約半分が調査範囲外に続き狭いこともあって土器を残して掘り進めることが難しく、出土位置を記録できたものは少ない。No.1と2は、半歳時トレンチより西側から出土した。No.1（第93図427、428）は、23相当層（黒土）から18cm上の21層相当層?（底から31cm）から、多くの破片がほぼ水平に折り重なって出土。No.2土器（第93図430）は、底から37cm、25層上面からはほぼ水平に裏面を上にして口縁を奥に向けて出土。No.3と4は、半歳時のトレンチより出土（第48図）。No.3（第93図429）は、底から14cm、26層上面、ほぼ水平に裏面を上に向けて出土（写真図版48）。No.4（第93図431～433）は、24層から破片が折り重なるように出土。なお、調査時に誤って重複して番号を付けてしまったので、No.1と2が二つずつあり、No.3を調査時には「No.1」と、No.4を「No.2」と付けている。層名を併記していたので、該当する土器の番号変更は無理はなかったが、層名を併記していない「No.2土器の奥」、「No.2土器胎」は、記憶にのみ基づいているので、誤りがあるかも知れない。

〔遺物〕第93図427～第94図465の土器、写真図版156の610～157の622の石器類（一部第94図に図示）、石器製作時の剥片975.35g、剥片B類8.35g出土。本遺構山土土器は、円筒下層d式か円筒上層a1式か微妙なも

のが多いので、意味な部分を残すが、427、454?は、円筒下層d2式、430、437、440、445、465?は、円筒下層d1式、429、434、436?、439、441、444??、445、447~449、450?、451、452?、453?、455~458、460は、円筒上層a1式、428、461は、円筒下層d2式と大木6式との折衷土器、431、464は、縄文前期末?、432は縄文時代前期後葉~中期前葉、433、435、438は、縄文前期末~中期初頭、426、459?は、円筒下層c~d式、442は縄文中期前葉?、462、463は、縄文時代前期後葉~中期前葉。掲載した以外に9号袋×3程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性が高い。

〔分類・所見〕掘り込み面わかる。深い。土器の出土量多い。大型?

第70号土坑 (第48・95図、写真図版49・157・158)

〔位置・検出状況〕調査区中央部北東隅。8A~Bグリッド。東側調査範囲外に続く。地上上面で、あまりはっきりしない灰黄褐色土で検出。近くに住居あるため下げられず、取りあえず半截してみたら、壁と底が確認されて土坑と認定。

〔図・精査状況〕下部出張ったまま断面図を作成してしまったため、平面図に大きな不整合が見られる。調査穴壁に検出され、上場が小さな割に深かったため、西側(調査範囲内)の土場なくなってしまった。周囲木根多く、かなり下の方まで地山は壊されている。

〔重複〕南西側上部で、第23号焼土検出(焼土の方が新しい)。その他は、調査した範囲ではないと思う。

〔覆土・堆積状況〕中部汚れた黄褐色土、最下部V層海地積?の褐色土、その他はほとんど全て黄褐色のダマが入る灰黄褐色土。土性から、全て埋めもどした土と思われる。

〔平面形・規模〕上場、不明。底は、直径約1.5m程度の円形か。

〔断面形・深さ〕範囲内は全周オーバーハング。深さ約1.7mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁土Icc土IV層、その下~底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕半截時下げすぎたためはっきりしないが、6~7cmの深みがあり副穴あったかも。

〔出土遺物〕〔出土状況〕西側部分6層より上は何も出土しなかった。

〔遺物〕第95図466、467の上器出土し、何れも円筒上層d2式(上層a1式?)? 写真図版157の623~158の628の右器(一部第95図に図示)、右器製作時の剥片979.38g出土。掲載した以外に、9号袋×1程度の上器片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉~中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕上場が大きく開くのは、覆土の堆積状況から、第52号土坑同様「埋め戻し穴」と考えられる。掘り込み面わかる。首狭い。

第71号土坑 (第49・95図、写真図版49・158)

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央東端。8B~Cグリッド。地上上面、楕円形の灰黄褐色土で検出。周囲に木根多く残っており、はっきりした土でなかったので確証は持てなかった。半截し上層まで下げ、土層は出てきたが木根によるカクランと区別できなかった。一応さらに下げてもらったら、はっきりした底と副穴が確認できたので、土坑と認定。

〔図・精査状況〕南側半截時のトレンチにより消滅。南側壁崩落。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕根によるカクラン著しく、層プライマリーではないようだ。上層、灰黄褐色土、下層、

黄褐色土と灰黄褐色土上の交互層だが、特徴的な土なし。9層は、8層が、11層は、10層が、假によるカクランを受けて彫くなったものと思われる。

〔平面形・規模〕上場、楕円形か。底、直径約2mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.3mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上20～30cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘土質シルト、固く締まる。

〔出土遺物〕第95図468～473の上器、写真図版158の629～632の石器類、石器製作時の剥片162.28g出土。土器は、468-471、469?、470?、472、473は、円筒下層d1式。図示した以外に、9号袋×1分の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性が高い。

第72号土坑(第49・95図、写真図版49・158)

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8B～Cグリッド。住居柱穴検出時に確認。プランははっきり確認できなかったが、他の柱穴と比べて特に黒さ目立ち、土坑との目星を付けていた。

〔重複〕第3号住居跡と重複し、検出状況から本土坑の方が古い可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕上部炭化物多い黒褐色土、中部地山が削れたような土、下部暗褐色土。

〔平面形・規模〕上場、1.2×0.8mの不整楕円形。底、直径約1.8mの円形。

〔断面形・深さ〕オーバーハングかなりきつい。深さ約1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上20～30cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第95図474の上層土土、円筒上層a1式と思われる。写真図版158の633～636の石器類(一部第95図に図示)、石器製作時の剥片434.35g出土。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前半の可能性がある。

〔分類・所見〕首狭い。

第73号土坑(第49・95図、写真図版49・158)

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8Cグリッド。地山上面で、南側の黒褐色土で検出。平裁後、この黒褐色土は、本遺構とは直接関係なく、より北側が中心であることが判明。

〔図・精査状況〕オーバーハングきつい上場全周崩落。

〔重複〕南東側第5号陥し穴状遺構と重複、断面図から明らかに本遺構の方が古い。

〔覆土・堆積状況〕最上部黒褐色土、上～中部、暗褐色土(5、6層以外よく似る)、下部、黒褐色土→黄褐色土→暗褐色土。

〔平面形・規模〕上場崩落のため不明。底、直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハングきつい。西側上部、洞窟状に段をなすが、本当かどうか調査員が確認する前に削られてしまったのではっきりしない。深さ約1.1mの不整袋状。

〔壁・底面〕壁上20～30cmIV層、その下～底V層。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第95図475～484の土器、第95図3の上側、写真図版158の637～640の石器類(一部第95図に図示)、石器製作時の剥片278.03g出土。上器は、476?、477?、478?、479?、480、481?、482?は、円筒

上層a1式、483は円筒下層d1式？、484は縄文前期末～中期初頭の、475は時期不明。掘載した以外に、9号袋×1.5程度土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性が高い。

〔分類・所見〕最上部の黒褐色土は、カクランか（根腐れ？）。第52号土坑のような埋め戻し穴の可能性もなくはないが、埋め土が他と全く異なる。

第74号土坑（第50・95図、写真図版50・158・159）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド記東隅。IV層褐色土で検出。周囲に疑似現象が点々と見られる地区である。半載の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕調査序盤で作業員が慣れていなかったため断面を垂直に下ろすことができず、下方をかなり抉ってしまった。下方に合わせて断面を垂直にするように求めたが、なかなか垂直に下ろせず、とうとう上場がなくなってしまった。底も掘りすぎの部分があり破線にしてある。お詫び申し上げる次第である。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土。

〔平面形・規模〕上場はなくなってしまったので不明、底は直径約1.3mの円形。

〔断面形・深さ〕袋状。深さは、上場壊してしまったので不明だが、70cm程度か。

〔壁・底面〕全頁オーバーハングか。壁上40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕底面中央よりやや南寄りに直径約30cm、底面からの深さ約8cmの副穴検出。確認した時には既に完掘されてしまっていたので覆土不明。

〔出土遺物〕第95区485、486の土器、写真図版158の641～159の641の石器類（一部第95図に図示）出土。土器は、485は大木7a式系、486は円筒上層a1式？

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第76号土坑（第50・95図、写真図版50・151・152・159・160）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド。IV層点々と広がる黒褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面でプランは確認できなかった。最も濃い部分を東西方向に半載したところ下に褐色土が読いていたが、疑似現象との区別がなかった。そこで西北方向にもトレンチを入れ、やっと底と壁を確認して土坑と認定した。

〔図・精査状況〕北側根による攪乱とサブトレンチと崩落により上場不明。

〔重複〕ないと思われる。北側根による攪乱。

〔覆土・堆積状況〕濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。上面の黒褐色土は本土坑とは関係なく根による攪乱と思われる。

〔平面形・規模〕上記の掘出で上場不明。底は直径約1.9mの円形。

〔断面形・深さ〕断面から推測するとフラスコ状。約80cm。

〔壁・底面〕断面から推測すると、底から垂直に近い状態でオーバーハングし、その後直線的にオーバーハング、最後に外反するようである。〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第95区487～489の土器、写真図版159の645～160の671の石器類（一部第95図に図示）出土。土器は、487は円筒上層a1式、488、489は、円筒下層d2式？ 写真図版151の521～152の535の石器の中にも、

木遣構出二品が含まれているかも知れない。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第76号土坑（第50・96図、写真図版50・160）

〔位置・検出状況〕 調査区中央。7～8 C グリッド。IV層面点々と広がる黒褐色土で検出。疑似現象と思いながら念のため半裁したところ、下は褐色土が続いた。ただし遺構と断定するには難しい土だったので、サブトレンチを入れたところ、壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 土場は崩落したため底部のみ形成。副穴測り間違いか合わない。

〔重複〕 東側第4号陥し穴状遺構と重複し、陥し穴の方が新しい（第77号土坑の断面図参照）。第77号土坑とも重複しているようだが、検出面では重複しておらず、また断面では間に第4号陥し穴状遺構があるためはっきりしないが、底部の形から判断すると第76号の方が新しいと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土だが、上半明るく下半暗い。

〔平面形・規模〕 土場は崩落したため不明。底は直径1.6m程度の円形か。

〔断面形・深さ〕 袋状。約70cm。

〔壁・底面〕 全周オーバーハングか。壁上部30～50cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 室内中央よりやや南寄りに直径約50cm、底面からの深さ約13cmの副穴検出。南側から細い溝（深さ約4cm）が接続する。東側の境は掘りすぎか。この穴は、半裁時には掘りすぎと判断していたため覆土等は不明。完掘時溝状のものが検出されたため副穴かと思いついたものである。

〔出土遺物〕 第96図490、491の土器、写真図版160の672～680の石器類（一部第96図に図示）出土。土器は、490は縄文前期末～中期初頭？、491は時期不明。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 断面非対称。副穴に小溝。

第77号土坑（第50・96図、写真図版50・160・161・169）

〔位置・検出状況〕 調査区中央。7～8 C グリッド。IV層面点々と広がる褐色土で検出。疑似現象と思いながら念のため半裁したところ、下にはっきりした褐色土が出てきた。ただし遺構と断定するには難しい土だったので、断ち割ったところ、壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 東（B'）側下場完掘時掘り広がったため合わない。検出面では疑似現象と断定できるような状態であったため半裁した場所が悪く、北側の土場は壊してしまった。西側の土場は崩落してしまったため、底のみ記載。

〔重複〕 西側第3号陥し穴状遺構と重複し、陥し穴の方が新しい（断面図参照）。第76号土坑とも重複しているようだが、検出面では重複しておらず、また断面では間に第3号陥し穴状遺構があるためはっきりしないが、底部の形から判断すると第76号の方が新しいと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 半裁した場所が悪く上部は不明だが、下部は、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。

〔平面形・規模〕 土場は崩落したため不明。底は直径1.6m程度の円形か。

〔断面形・深さ〕 袋状。約70cm。

〔壁・底面〕 全周オーバーハングか。周囲の土は、IV層とV層の境がはっきりしない。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第96図492（時期不明）が、本遺構と第4号陥し穴状遺構のどちらからか出土。写真図版160の681～161の688の石器類出土（一部第96図に図示）（684～688は第4号落とし穴状遺構出土の可能性はある）。写真図版169の778のフレイクも本遺構出土の可能性はある。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第78号土坑（第51・96図、写真図版51・161）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Dグリッド。IV層で検出。極めて淡い褐色土だったので疑似現象と考えていた。念のため半蔵したところ下に褐色土が深く続き、はっきりした壁と底を確認して土坑と認定。

〔図・精査状況〕副穴の特に西側、断面図と合わない。深かったため掘り間違えたものと思われる。深さの割に口が狭く精査が難しくなったので南側にサブトレンチを入れた。

〔重複〕南側第79号土坑と重複。検出面では重複せず1mも離れており、底まで掘り下げた時点で重複とわかったため、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。本土坑の場合は特に黄色みが強く地山とよく似ている。

〔平面形・規模〕上場は直径50cm程度の円形か。底は直径約1.9mの円形。上場は底面の中心より北に偏るようである。

〔断面形・深さ〕フラスコ状。約1.3m。

〔壁・底面〕壁は、底から直線的にオーバーハングし最後に外反。壁上50cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕底面はほぼ中央に直径約40cm、底からの深さ約20cmの副穴が検出された。覆土は10層。

〔出土遺物〕第96図493の石器出土。縄文前期中葉か。写真図版161の689、690の石器類出土。

〔時期〕出土石器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕首狭い。

第79号土坑（第51・96図、写真図版51・161～163）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Dグリッド。IV層で検出。極めて淡い褐色土だったので疑似現象と考えていた。念のため半蔵したところ下に褐色土が深く続き、はっきりした壁と底を確認して土坑と認定。

〔図・精査状況〕西（B）側の底、完掘時掘りすぎたため断面図と合わない。深さの割に口が狭く精査が難しくなったので掘り上げたが、半蔵箇所が結果的に上場の中心から大きく北にずれていたため、北側を掘りすぎて、半蔵した（断面実測した）場所は上場がなくなってしまった。

〔重複〕北側第78号土坑と重複。検出面では重複せず1mも離れており、底まで掘り下げた時点で重複とわかったため、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。本土坑の場合は特に黄色みが強く地山とよく似ている。1層は本土坑に含まれるかどうか微妙である。

〔平面形・規模〕上場は、上記のように北側を大きく掘りすぎたため不明。底は、約2.6×2.1mの楕円形。

〔断面形・深さ〕フラスコ状のようである。約1.6m。

〔壁・底面〕全周オーバーハングのようだが、壊してしまい詳細不明。壁は、上部40cmIV層、その下V層。

底は、ふい黄褐色（10YR6/3）を中心にして様々な色が混じり合う砂礫層（ただし礫はほとんどない）。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第96図494～496の土器、写真図版161の691～163の707の石器類（一部第96図に図示）出土。土器は、495は円筒上層a 2式？、496は円筒上層a 1式、494は時期不明。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕大型？

第80号土坑（第51・97図、写真図版51・163）

〔位置・検出状況〕調査区中央部南東。8 C グリッド。地上上面で、円形の灰黄褐色土を検出。小さく柱穴と考えていたが、底に大きく広がった。

〔図・精査状況〕周囲に疑似現象多く、それらを全て断ち割ったため、北側の上場崩落。

〔重複〕検出面より上で第80号焼土検出（より新しい）。北西側第5号始し穴状遺構と重複。検出面では重複しておらず、底付近のみで、新旧関係不明だが、陥し穴状遺構の覆土がⅢ層に近いことから、土坑の方が古い可能性が高い。

〔覆土・堆積状況〕上から下までほとんど全く同じローム粒混じり灰黄褐色土。特に1～3層はほとんど同じ、4層は、やや暗く、ロームブロックや土器の位置から考えると、さらに細かく分層できるかも。1～3層の差は、1層は締まり、3層はやや暗くロームブロック含むこと。

〔平面形・規模〕上場不明。底、約1.9×1.7mの楕円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハンギつき。深さ約0.8mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁土30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕〔出土状況〕No.1土器は、口縁部破片で、ほぼ水平で3層二面から出土しているらしい（第97図497）（第51図、写真図版51）。

〔遺物〕第97図497～504の土器出土。写真図版163の708、709の石器類（一部第97図に図示）、石器製作時の剥片145.58g出土。土器は、497、501？は、円筒下層d2式、498？、499？～500？、502、503？、504？は、円筒上層a 1式。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性が高い。

〔分類・所見〕首狭い。

第81号土坑（第52・97図、写真図版52・163）

〔位置・検出状況〕調査区中央部南東隅。8 C グリッド。Ⅳ層上層1層で確認。はっきりしない土で疑似現象の可能性もあったが、その広さから住居状遺構の可能性もあると考え、十字に二層ベルトを設定して掘り始めた。1層を取り除いた結果、中央付近境ははっきりしないが円形に落ち込むことがわかったので、南北ベルトを取り去り土坑として掘り始めた。また、東側の1層下にこれとは別の土坑が存在することもわかった（第82号土坑）。

〔図・精査状況〕覆土が、1層以外地山とほとんど区別できないため、トレンチ状に東西に大きく掘り広げた。また互いに極めてよく似ているため分層発掘は難しかった。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕全体的によく似た黄褐色土で、1～4層は極めてよく似ているが、5層は黄色みが強く、

7層は、肌色っぽい。1層は、穴の範囲よりかなり広く周周に広がり、この穴に関係ないかもしれない。1層は、2層に似た土に根によるものか淡い黒土の底が入る。

〔平面形・規模〕上場みな崩れたので不明。底は、直径1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕オーバーハングきつく、上場みな崩れた。深さ約0.9m。

〔壁・底面〕壁は30cmIV層、その下へ底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕(出土状況) 西側の上部から完形に近い大きな土器が出土した(写真図版52)。No.1(第97図505)は、口を南側に向けて西北方向に横倒しになって土圧でつぶれたような状態で出土した完形土器である。口は水平で2層上面から1層の土を被って出土。No.2(第97図506)は、その北側から、内面を上に向けて、穴の中央に向かって大きく傾斜して3層上面から出土。

〔遺物〕第97図505～509の土器、写真図版163の710～712の石器類(一部第97図に図示)、石器製作時の剥片30.26g出土。土器は、505は円筒上層a1式、508は円筒下層c式?、509は円筒上層b式?、506、507は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片山土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後葉～中期前葉の可能性ある。

〔分類・所見〕覆土から考えると、黒土が全く入っていないのが気になるが、堀めもどしているのかも知れない。そう考えると、1層の在り方が第52号土坑と共通しており、周周の地山を掘って埋めたため黒土が全く入っていないのかも知れない。底と開口部の差なく、特徴的な断面形。

第82号土坑(第52・97図、写真図版52・163)

〔位置・検出状況〕調査区中央部南東隅。8Cグリッド。東側調査範囲外に続く。地山上面で第81号土坑の元となる居住遺構を検出し、十字ベルトを掛けてトレンチ状に掘り下げてクリーニングした際、東端に黒い半円形のシミがあることがわかった。境ははっきりしておらず、上に切り株があったので根によるカクランと考えたが、試しに掘り下げたところ、非常に深い土坑であることがわかった。

〔図・精査状況〕調査できた範囲は少しく土坑が非常に深かったため掘り広げざるを得ず、調査した範囲には上場全く残っていない。西側に見える小穴は、第81号土坑半掘の際のトレンチである。

〔重複〕ないと思われる。上から見ると第81号土坑に重複しているように見えるが、高低差があり重複していない。

〔覆土・堆積状況〕上部黒土、中部におい黄褐色土で5～8層ほとんど区別なし、下部におい黄褐色土と黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕上場、直径1.8m程度の円形か。底、直径約3mの円形か。

〔断面形・深さ〕オーバーハングかなりきつい。深さ約1.9mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁は、上が削れているのか、底からオーバーハングした後垂直に近く立ち上がる。底はVI層上面かV層がグライ化したものと思われるクリーム色～オレンジ色の土。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第97図510～515の土器、写真図版163(=第97図)の713、714の石器類、石器製作時の剥片261.75g、剥片B類2.59g出土。土器は、510?、512は、円筒上層b式、511は円筒上層a2式、513、515は、円筒上層a1式、514は大木7a式系。掲載した以外に9号袋×1程度の土器片が山土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性ある。

〔分類・所見〕大型。特徴的な断面形。

第83号土坑（第53・第97図、写真図版52・163・183）

〔位置・検出状況〕調査区東部内端。9 Dグリッド。地山を15cm下げたところで炭化物散る灰黄褐色土を検出。〔図・精査状況〕副穴の東側の下場合わない（完掘時掘り広がりたためか）。〔重複〕ないと思う。

〔覆土・堆積状況〕全体的によく似るが、中部の両脇、下部はIV層の再堆積土で、中部はブロック状。その他は灰黄褐色土によく似るが、最上部、上部は炭化物多い。

〔平面形・規模〕上場、約0.8×0.7mの楕円形。底、直径約0.9mの円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約0.8mの袋状。

〔壁・底面〕V層。上部は根の影響を受けているのでそうでもないが、下は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ある。深さ約20cm。

〔出土遺物〕〔出土状況〕南側上場付近覆土上部（2か4層。傾斜方向から考えれば2層）から、土器底部正位で出土（第97図517）。北西から南東方向に傾斜。

〔遺物〕第97図516～518の土器、写真図版183（＝第97図）の715の石器類、写真図版183の13のコハク、石器製作時の剥片23.51g出土。土器は、516は円筒下層d2式（上層e1?）、518は円筒上層a1式、517は時期不明。掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕小型。上場と底の差ない。

第84号土坑（第53・97図、写真図版53）

〔位置・検出状況〕調査区東部西。11C～Dグリッド。法面をクリーニングした時点では確認できなかったが、20cm下げたら、はっきりした円形のプランを確認できた。ただし覆土は周囲の上とほとんど同じかより軽い程度であった。水田造成時に削平されているが、検出時の高さから、北側はそれほどでもないと思われる。〔図・精査状況〕副穴掘りすぎたのか断面図と合わない。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、にぶい黄褐色土、下半、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の薄い交互層。異様に水平に堆積しており、土性からも埋めもどしている可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場、直径約0.9mの不整形円形。底、直径約1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.3mの袋状。

〔壁・底面〕壁は直線的にオーバーハングする。北壁上部IV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。周囲は花崗岩がむき出しになっている。

〔出土遺物〕第97図519の上層出土（円筒下層d1式?）。石器製作時の剥片4.56g出土。出土遺物は少なく、掲載した以外に、5×5cm以下の土器片が19個出土しているのみ。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕堆積状態に特徴。底に花崗岩。

第85号土坑（第53・54・98図、写真図版53・54・116・163・164）

〔位置・検出状況〕調査区東部西。11C～Dグリッド。法面をクリーニングしてすぐ検出。ただし、ボソボ

ソの上だったので重復関係が読みとれず、20cm下げた。それでもはっきりしなかったが、おそらく2層が重複しているのだらうと思い、東西に通して半載。底～壁を出した結果、南側にもう1基あることがわかった(第87号)。水田造成時に削平され、南側上場はほとんど残っていない。

〔図・精査状況〕完掘後北側上場崩落。

〔重複〕東側第86号土坑と重複。断面から第86号の方が新しい。南側第87号土坑と重複しているが、水田造成時に削平され、さらに検出時に確認できなかったため、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上部ボソボソの黄褐色土、中部、炭化物、焼土粒多い灰黄褐色～黒褐色土で、それぞれの層は薄い、下部灰黄褐色～白黄褐色土。東から西に傾斜。

〔平面形・規模〕上場崩落し重複ひどく、不明。

〔断面形・深さ〕壁が崩れているのか、深さ約0.6mの不整袋状。

〔壁・底面〕削平されているため、ほぼV層。上の方は根によってボソボソ。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕〔出土状況〕写真図版53～54参照。No. 2 (第98区523) は、外側を上に向けて、ほぼ水平で出土(下は6層)。No. 3 (第98区521の一部) は、内面を上に向けてその下から土層の傾斜に沿って東から西に向かって大きく傾斜(下は8層)。No. 4 (第98区521の一部) も、内面を上に向けて土層の傾斜に沿って北側から南側に大きく傾斜して出土(下は6層)。No. 5 (第98区524) は、底部破片で底を上に向けて、土層の傾斜に沿って東から西に大きく傾斜して出土(下は9層)。

〔遺物〕第98区520～532の土器、写真図版163の716～164の721の石器類(一部第98区に図示)、写真図版116の17の焼粘土塊、石器製作時の剥片408.18g出土。写真図版164の722、723の石器も出土か(一部第98区に図示)。土器は、520、523、526?、527～531、532?は、F向土層a1式、525は縄文中期前葉、521、524は、縄文前期末～中期前葉、522は時期不明。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。その他、「第85～86号土坑」で取り上げた石器製作時の剥片が92.11gある。

〔時期〕出土層から、縄文時代中期前葉の可能性が高い。

〔分類・所見〕断面非対称。

第86号土坑(第53・54・98区、写真図版53・54・164)

〔位置・検出状況〕調査区東部西。11Cグリッド。法面をクリーニングしてすぐ検出。ただし、ボソボソの上だったので根穴と勘違いされ、一部掘られてしまった。重複関係が読みとれず、20cm下げた。それでもはっきりしなかったが、おそらく2基が重複しているのだらうと思い、東西に通して半載。底～壁を出した結果、南側にもう1基(第87号)あることがわかった。水田造成時に南側大きく削平。

〔図・精査状況〕オーバーハングきつく、北側上場崩落。

〔重複〕西側第85号土坑と重複。断面から木土坑の方が新しい。南側第87号土坑と重複しているが、水田造成時に削平され、さらに検出時に確認できなかったため、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上半、炭化物混じりIV層再堆積土、下半、稻降りの埋め戻し土～IV層再堆積土。水平堆積。

〔平面形・規模〕上場崩落のため不明。底、約2.5×2.1mの楕円形。

〔断面形・深さ〕深さ約0.9mの袋状。

〔壁・底面〕削平されているためか全てV層のようである。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色土(10YR/4)シルト、もろい。汚れIV層再堆積。

【出土遺物】第98図533～536の土器、石器製作時の剥片480.34g出土。534、535?は、円筒下層d1式、536は円筒下層b1式?、533は、縄文中期前葉? 掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。写真図版164の722、723の石器も出土か（一部第98図に図示）。その他、「第85～86号土坑」で取り上げた石器製作時の剥片が92.1gある。

【時期】出土土器から、縄文時代前期後半の可能性がある。

第87号土坑（第53図、写真図版53・54）

【位置・検出状況】調査区東部西。11C～Dグリッド。法面をクリーニングしてすぐ検出。ただし、重複関係が読みとれず、20cm下げた。それでもはっきりしなかったが、おそらく2基が重複しているのだろうと思われ、東西に通して半壊（第85号、第86号。その結果、南側にもう1基あることがわかった（第87号土坑）。水田造成時に大きく削平され、東側の壁と副穴のみ残存。（図・精査状況）上記理由で平面図のみ。

【重複】北西側第85号、北東側第86号土坑と重複するが、上記検出状況のため新旧関係不明。

【覆土・堆積状況】掘り上げた後気づいたため不明。

【平面形・規模】削平のため不明。【断面形・深さ】削平のため不明。

【壁・底面】確認できたのはV層のみ。

【副穴等の付属施設】副穴あり。覆土は、にぶい黄褐色土（10YR3/3）シルト、固く締まる。ローム粒、1mm程度の炭化物含む。

【出土遺物】なかったようである。

【時期】今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第88号土坑（第54・98図、写真図版55・164）

【位置・検出状況】調査区東部中央。14Cグリッド。法面を20cm下げたところではっきりと確認。南側に位置するので、水田造成時に大きく削平されているものと思われる。

【図・精査状況】上場崩れたため合わない。副穴が対応しないのは測り間違いか。

【重複】ないと思われる。

【覆土・堆積状況】ほぼ同じ黒褐色のブロック状の土（V層ブロック含む）。埋めもどした土と思われる。

【平面形・規模】上場崩落のため不明。底、直径約2.1mの円形。

【断面形・深さ】全土オーバーハング。深さ約0.8mの袋状。

【壁・底面】壁はV層、底はVI層（砂混じり土）。底は固く締まる。

【副穴等の付属施設】副穴あり。覆土は、褐色（10YR4/6）粘上質シルト、汚れIV層再堆積土で、V層ブロック含む、固く締まる。

【出土遺物】第98図537～540の上器、写真図版164の724の石器、石器製作時の剥片21.58g出土。土器は、537、538?、539?、540は、円筒下層c1式。掲載した以外に、土器が、10×10cmの破片1、5×5cmの破片1、それ以下の破片8点出土している。

【時期】出土土器から、縄文時代前期後葉～末の可能性がある。

【分類・所見】堆積状態に特徴。

第89号土坑（第51・98図、写真図版55・164・183）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。14Cグリッド。西側の調査範囲外に続く。法面下を20cm下げたところで覆土が無いのははっきり確認。水刃造成時に大きく削平されているものと思われる（法面及び水路。東西方向にトレンチ状に延びるのは水路跡である）。

〔図・精査状況〕東側土場僅かに崩れたため合わない。副穴は本物かどうか不明。北側土場完掘後崩れたものと思われる。（重複）調査した範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土とぶい黄褐色土（ブロック状）の交互層。埋めもどした上と思われる。

〔平面形・規模〕上場、直径約1.5mの不整形円形。底、約1.9×1.7mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕深さ約0.6mの袋状。

〔壁・底面〕削平されているせいかV層。底は固く締まる。底には火山灰状のものが見られる（鹿沼土のよう）。

〔副穴等の付属施設〕平面図に記録されているが、非常に浅く不整形で小さく、掘り方（掘削時の工具痕）と考えた方がよいと思われる。

〔出土遺物〕第98図541～547の土器、写真図版164の725～729の石器類（一部第98図に図示）、写真図版183の14のコハク、石器製作時の剥片1,204.9g、剥片B類11.65g出土。土器は、541は五領ヶ台1a式系、544、546、547は、円筒下層d1式、545は円筒下層d2式？、542は縄文前期末？、543は縄文前期後葉～中期前葉、掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後葉～末の可能性がある。

第90号土坑（第55・99図、写真図版55・164）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。14Cグリッド。法面をクリーニングした際、上面に焼土が検出され、周囲に灰黄褐色土が広がっていた。焼土断ち割り時に土坑と確認。水刃造成時に大きく削平されているものと思われる。

〔図・精査状況〕西側の下場、湧り間違いか2段とも合わない。半掘時西側に段が見えたが、調査終盤で忙しかったこともあり、特に気にとめなかった。覆土が似ているので、重複ではないと思う。周囲の柱穴確認するため、特に北側を20cm程度下げている。法面の傾斜が緩やかに見えるのは、このためである。

〔重複〕上面に第42号焼土（第5号住居跡？）あり（より新しい）。北東側柱穴と重複するが（第5号住居跡）、検出面が異なり新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕基本的に幕降り、黄褐色土と灰黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕上場、崩れているのか、不整形のため不明。底、直径約1.5mの円形。中段に西側に張り出す段あり。

〔断面形・深さ〕西側に段がある。深さ約1mの袋状。

〔壁・底面〕北側壁上5cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、灰黄褐色土（10YR4/2）シルト、もろい、汚れIV層再堆積。

〔出土遺物〕第99図548～550の土器、写真図版164（＝第99図）の730～732の石器類、石器製作時の剥片177.02g、剥片B類11.54gが出土。土器は、548は円筒上層a1式、550は円筒下層d1式、549は縄文中期前葉。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性がある。

【分類・所見】段あり。

第91号土坑（第55・99図、写真版56・164・165）

【位置・検出状況】調査区東部中央。14Cグリッド。法面クリーニングしたら土器埋設炉を検出。周囲に灰黄褐色土広がっていたが、掘り方かと思っていた。炉跡断ち割り時、土坑と確認。水田造成時に削平されているものと思われる。

【図・精査状況】風因、炉跡（第5号住居跡）に伴う柱穴すため、20cm程度下げ、段状になっている。

【重複】上面に第5A、B号炉跡（住居跡）検出（より新しい）。

【覆土・堆積状況】上部（中心部）灰黄褐色土、上部東端IV層再堆積土、下半両端黒褐色～暗褐色土。最下部（底中央）V層再堆積土。

【平面形・規模】上端、直径0.9m程度の円形か。底、直径約1.5mの円形。

【断面形・深さ】全周オーバーハング。深さ約1.3mの袋状。

【壁・底面】北側、壁上20cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

【副穴等の付属施設】ないと思われる。

【出土遺物】第99図551、552の土器、写真版164の733～165の石器類（一部第99図に図示）、石器製作時の剥片555.3g、剥片B類24.23gが出土。土器は、両方とも門前下層d1式か。掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器破片出土。

【時期】出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第92号土坑（第55・99図、写真版56・165）

【位置・検出状況】調査区東部中央～西。14～15Cグリッド。南側調査範囲外に続く。法面下を20cm下げたところで、覆土が黒いのはっきり確認。水田造成時に大きく削平されているものと思われる（法面及び水路。東西方向にトレンチ状に延びるのは水路跡である）。

【図・精査状況】上端は完掘後全て崩落。副穴、東側上場合わないのは認識の違いか。

【重複】調査した範囲では、ないと思われる。

【覆土・堆積状況】上端、やや霜降りの灰黄褐色土、下半、炭化物含むにびい黄褐色～暗褐色土。埋めもどした土と思われる。

【平面形・規模】上端崩落のため不明。底、直径約1.8mの円形

【断面形・深さ】全周オーバーハング。深さ約0.5mの袋状。

【壁・底面】削平されているためV層。底は固く締まる。

【副穴等の付属施設】副穴あり。

【出土遺物】第99図553、554の土器、写真版165（＝第99図）の740の石器、石器製作時の剥片97.39g出土。土器は、553、554？？は、円筒下層d1式。掲載した以外に、9号袋×1/2程度土器破片出土。

【時期】出土土器から、縄文時代前期後葉～末の可能性がある。

第93号土坑（第56・99図、写真版56）

【位置・検出状況】調査区東部中央～東。15Cグリッド。北側の調査範囲外に続く。法面をクリーニングしたら、西に炉跡、東に竈上が検出された。いくらクリーニングしても住居のプラン掴めなかったので、20cm

下げたところ、土坑を確認。水田造成時に削平されているものと思われる。

〔図・精査状況〕セクション・ポイント、測り間違いで全然合わない（特にA）。南半の上場崩落。

〔重複〕調査できた範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上から下まで同じような層が見られるが、上半が大きなまとまりを持つのに対し、下半は薄い層に分かれる（地山ブロック含む霜降り層と灰黄褐色土の交互層）。埋めもどした可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約1.4mのフラスコ状。

〔壁・底面〕北側上20cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色（10YR4/4）地に黄褐色（10YR5/6）の霜降り、シルト、IV層ブロック多く、炭化物含む。

〔出土遺物〕第99図555の上場出土（出筒下層d1式?）。掲載した以外に、5×5cmより小さい土器破片16点出土。石器製作時の割片58.74g出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕首狭い。特徴的な堆積状況。

第94号土坑（第56・99図、写真図版56）

〔位置・検出状況〕調査区東部東。15～16Cグリッド。法面を20cm下げたところで覆土が黒いのははっきり確認。水田造成時に大きく削平されているものと思われる。

〔図・精査状況〕東側下場、完掘時掘りすぎたのか合わない。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕弱い霜降りの灰黄褐色土～におい黄褐色土。埋めもどした上と思われる。

〔平面形・規模〕上場、直径約1.3mの不整形円形。底、直径約1.8mの円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約0.55mの袋状。

〔壁・底面〕削平されているためかV層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、におい黄褐色土（10YR4/3）シルト、 moreover、細かいV層ブロック散る。

〔出土遺物〕第99図556の土器出土（時期不明）。掲載した以外に、5×5cm以下の土器破片11点出土。石器製作時の割片15.12g出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第95号土坑（第56・99図、写真図版57・165）

〔位置・検出状況〕調査区東部東端。16Cグリッド。地山を20cm下げたところで、比較的はっきりした土で検出。水田造成時に、下方中心に削平されていると思われる。

〔図・精査状況〕セクション・ポイント全く合わない。動かされたのか、測り間違いか不明。両方ともそうだが、A側は上場少し崩れているが、ほぼそのままの状態を示していると思われる。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部、におい黄褐色土と灰黄褐色土の交互層（やや霜降り）、中形、V層ブロックの層、下部、灰黄褐色土。①～④部は、その土性から埋めもどされていると思われる。

〔平面形・規模〕上場、直径0.8m程度の円形か。底、直径約1.9mの円形

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約1.4mのフラスコ状。

〔壁・底面〕削平されているためかV層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕第99図557～560の1器、写真図版165の741、742の石器類（部第99図に図示）、石器製作時の割片840.53g出土。土器は、557?、558、559は、円筒下層d1式、560は円筒下層c式?。掲載した以外に、5×5cm以下の土器片が15点出土。

〔時期〕山土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性はある。

〔分類・所見〕堆積状況に特徴。

第96号土坑（第57図、写真図版57）

〔位置・検出状況〕調査区東部東端。16B～Cグリッド。北側の調査範囲外に続く。地山を20cm下げた比較的是っきりした土で検出。〔図・精査状況〕調査できた範囲が狭く、また深かったため、掘り広げざるを得ず、土場は全くなくなってしまった。〔重複〕調査できた範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、におい青褐色土、下半、中央に黒褐色土、その他はにおい黄褐色～灰黄褐色土の交互層（やや霜降り土）。下半は、その土性から埋めもどしていると思われる。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径1.5m程度の円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約1.4mのフラスコ状で、上が開く。

〔壁・底面〕北側、壁1.20cmV層、その下から底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕調査できた範囲にはなかった。

〔出土遺物〕時期を特定できる土器片はなかった（手違いで1点も掲載しなかった）。掲載した以外に、5×5cmより小さい土器破片2点出土。石器製作時の割片0.42g出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕断面形・堆積状況に特徴。

第97号土坑（第57・99図、写真図版57）

〔位置・検出状況〕調査区東部東端。17B～Cグリッド。南側の調査範囲外に続く。地山を20cm下げたところで、黒褐色土ではっきり確認。南側にあり、水田造成時に大きく削平されている。

〔図・精査状況〕オーバーハングきつく上場全周崩れた。副穴上場西側、測り間違いか合わない。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕霜降り弱い、灰黄褐色～におい黄褐色土。土性から、埋めもどした土の可能性はある。

〔平面形・規模〕上場崩落のため不明。底、直径約2.3mの円形

〔断面形・深さ〕オーバーハングきつい。深さ約0.6mの袋状。

〔壁・底面〕削平されているせいかV層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色土（20YR4/4）シルト、もろい、1～5mm程度のロームブロック霜降り状を含む。

〔出土遺物〕出土遺物非常に少ない。第99図561の土器出土（時期不明）。掲載した以外に、5×5cmより小さい土器破片1点出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第98号土坑（第57図、写真図版57）

〔位置・検出状況〕調査区東部西端。10C～Dグリッド。周円削平されているためか、IV層で灰黄褐色土の凹形をはっきりと確認。〔図・精査状況〕掘りすぎ多く、上立場推定。〔重複〕ないと思う。

〔覆土・堆積状況〕削平されているためか浅く、単層。ルーム隆霜降る、埋めもどした土。

〔平面形・規模〕上場、0.8×0.7m程度の楕円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約10cmの浅皿状。

〔壁・底面〕IV層で、締まらない。

〔副穴等の付属施設〕掘りすぎのせいか、確認できなかった。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕浅く、覆土は第8号炉跡に伴う？柱穴2に似る。この土質に偏属する可能性が高いが、覆土はフラスコ状土坑によく似る。

第99号土坑（第57・99図、写真図版58）

〔位置・検出状況〕調査区東部西端。9Dグリッド。ダメ押しで、地面から45cm下げた面で土器片が出土し注意したが、瓦目より土がボソボソしている程度で、はっきり穴とは確認できなかった。半截したところ、覆土は一様のフカフカのルームで根によるカクランと見間違えが全体が一様で周囲との境をはっきりし、底・壁が明瞭に確認できたので、土坑と認定。〔図・精査状況〕西側上部崩れたせいか合わない。半截時、中央付近下げすぎ。〔重複〕ないと思う。

〔覆土・堆積状況〕一様のフカフカのルーム。

〔平面形・規模〕上場、1.3×1.1m程度の隅丸長方形～楕円形。

〔断面形・深さ〕深さ約0.3mの袋状。

〔壁・底面〕V層。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

〔副穴等の付属施設〕不明。

〔出土遺物〕第99図562の土器出土（縄文中期前葉）。掲載した以外に、5×5cm未満の土器破片10点出土。石器製作時の剥片5.45g出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕ダメ押しで検出したので、浅い？

第100号土坑（第58・99図、写真図版58・165）

〔位置・検出状況〕調査区東部西端。10Cグリッド。IV層黒褐色土で、第8号炉跡に伴う？塼土を切っていることもあり、明確に検出。〔図・精査状況〕南側掘りすぎ、下げすぎ。

〔重複〕第8号炉跡に伴う？塼土を切る。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、下部黄褐色土。上面はフラスコ状土坑に比べ顕著に黒い。

〔平面形・規模〕上場、直径約0.8mの不整形円形。〔断面形・深さ〕深さ約0.3mの浅皿状。

〔壁・底面〕ほぼV層。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第99図563の土器出土（縄文中期前葉）。写真図版165の743の石器出土。掲載した以外に、5×5cm未満の土器破片5点出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕断面形、覆土、深さなどから、フラスコ状土坑とは顕著に異なる。

第101号土坑（第58・99図、写真図版58・165）

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6 C グリッド。IV層面褐色土で検出。土坑が重複して集中する場所であるが、周囲に疑似現象が広がりプランは全く確認できなかった。重複する第40号土坑も同様で、こちらは検出時には認識できなかった。本土坑の場合は、半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定したが、二つの土坑が重複していた（第101、102号）。

〔図・精査状況〕セクションポイントAは推定復元である（完掘時に作業員が移動）。周囲に疑似現象が広がり掘りすぎが非常に多く、完掘時には形がほとんど捉えられなくなってしまった。

〔重複〕南東隅上面に第9号が跡があり明らかに配石遺構が新しい。北側に第102号土坑が重複。検出向では1基（102号）しか確認できなかったが、半裁の結果、想定より南側まで土坑が続いていること、底面に段差が見られることから、二つの土坑の重複を考えた。覆土の違いはほとんどないが、段差との整合性および北壁の形から、2～3層と5層の間に不連続面を想定し、二つの土坑を区別した。上面が第101号土坑であり、こちらが新しい。下に第40号土坑が重複しているが、これは第39号土坑の完掘時に初めて認識できたため、新旧関係も確認できなかった。

〔覆土・堆積状況〕ほとんど同じIV～V層内堆積の褐色土。

〔平面形・規模〕掘りすぎが多く不明だが角張った槽形形か。

〔断面形・深さ〕階段状の不整形。約40cm。

〔壁・底面〕底は階段状。ほぼⅣ層、底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第99図564の土器出土（時期不明）。第99図565の土器（時期不明）、写真図版165の744～747の石器類（一部第99図に図示）も、本遺構出土の可能性もある。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕形から、蓋竈の可能性もある。

第102号土坑（第58・99図、写真図版58・165）

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6 C グリッド。IV層面褐色土で検出。土坑が重複して集中する場所であるが、周囲に疑似現象が広がりプランは全く確認できなかった。重複する第40号土坑も同様で、こちらは検出時には認識できなかった。本土坑の場合は、半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定したが、二つの土坑が重複していた（第101、102号）。

〔図・精査状況〕セクションポイントAは推定復元である（完掘時に作業員が移動）。周囲に疑似現象が広がり掘りすぎが非常に多く、完掘時には形がほとんど捉えられなくなってしまった。

〔重複〕南側に第101号土坑が重複。検出向では1基（102号）しか確認できなかったが、半裁の結果、想定より南側まで土坑が続いていること、底面に段差が見られることから、二つの土坑の重複を考えた。覆土の違いはほとんどないが、段差との整合性および北壁の形から、2～3層と5層の間に不連続面を想定し、二つの土坑を区別した。上面が第101号土坑であり、こちらが新しい。下に第40号土坑があるが、これは第39号土坑の完掘時に初めて認識できたため、新旧関係も確認できなかった。

〔覆土・堆積状況〕ほとんど同じIV～V層市堆積の褐色土だが、7層がやや濃い。中央に礎が見られ、隣接する第101号土坑や、最終的に炉跡として報告したが配石遺構（第9号炉跡）との関連も窺われる。

〔平面形・規模〕掘りすぎが多く不明。

〔断面形・深さ〕掘りすぎが多く不明。約50cm。

〔壁・底面〕壁はオーバーハングしているところがある。壁下20cm～底V層、その上IV層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第99図565の上器が本遺構出土の可能性もある（時期不明）。写真図版165の744～747の石器類（一部第99図に図示）も、本遺構出土の可能性もある。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕形から墓塚の可能性もある。

第103号土坑（第58・59・82・99図、写真図版59・138・165）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5～6Cグリッド。上に切り株あって検出面にも多くの木根が残り、検出面を20cm下げてもボヤーとしたにぶい黄褐色土や灰黄褐色土が幾つか並ぶのが確認できただけであった。そこで、既に検出精査を進めていた第31号土坑まで通してトレンチ状に半載してみた。それでもよくわからなかったが、曇りの日に熟視、熟慮し、4つの土坑が並んでいるのだと考えた。第103、104号は特に淡い土だったが、断面の立ち上がりを追ってよく見れば上面でも一応プランは確認できた。ただし、トレンチ状に半載した部分より東側のプランはなかなか掴めず、地山面から30cm下げ移植ペラで丁寧に検出してやっとわかった。

〔重複〕北側第29号土坑、南側第104号土坑に極めて近接するが、重複はしていないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上層はV層ブロック多く含む褐色土、中層はにぶい黄褐色土、下層は灰黄褐色土と、假てはいるがはっきり識別できる。ほぼ水平堆積で、覆土の特徴からも埋めもどしている可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場、1.2×1.2m程度の不整隅丸方形。

〔断面形・深さ〕壁はほぼ垂直に立ち上がる。深さ約0.5m。

〔壁・底面〕壁上10cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第99図566、567の上器、写真図版165（一部99図）の748の石器、石器製作時の剥片2.46g山土。上器は、566は刃筒下層の1式？、567は時期不明。掲載した以外に9号袋×1/3程度上器片が出土。その他、半載時に、第29、30、31、103、104号土坑一層で取り上げた上器があり（第82図247～252）（時期は第29号二坑参照）、不掲載土器が9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類（一部第82図に図示）、第82図2の土偶（F7筒上層a式刷）、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。

〔時期〕第104号土坑と極めて類似した検出状況と山土土器、および今回の調査結果全体から、縄文時代前期中後半の可能性もある。

〔分類・所見〕形と覆土から、墓塚の可能性が高い。

第104号土坑（第58・59・82・100図、写真図版59・60・138・165～168）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5～6Cグリッド。上に切り株あって検出面にも多くの木根が残り、検出面を20cm下げてもボヤーとしたにぶい黄褐色土や灰黄褐色土が幾つか並ぶのが確認できただけであった。そ

ここで、既に検出精査を進めていた第31号土坑まで通して半裁してみた。それでもよくわからなかったが、曇りの日に熟照、熟照し、4つの土坑が並んでいるのだと考えた。第103、104号は特に淡い土だったが、断面の立ち上がりを追ってよく見れば上面でも 必ずプランは確認できた。ただし、両側の第31号土坑と重複している部分は、中間的な覆土が見られ、どっちに帰属するかはっきりせず、またその西側は地山が汚れているのか覆土なのかははっきりせず、プランは掴めなかった。

〔図・精査状況〕北側の場合合わない。プランが掴めなかった南西部については、重複する第31号土坑を完掘した後その壁を精査し、ここから立ち上りを捜し上面と対応させた。すると、黒土が点々と弧を描いて続いていること(30層)に気づき、その周囲に32層がとりまくことがわかった。半裁ベルト挟んで南東側、34層の下にぶい黄褐色(10YR4/2)地に黄褐色(10YR5/6)の斑、シルトで、IV層ブロック、炭化物、土器混じりの上が見られたが、底は木根でボコボコで傾斜しており、根穴か、崩れたもので、第104号土坑とは関係ないらしい。

〔重複〕南西第31号土坑と重複し、断面から本土坑の方が古い。北側第103号土坑と接するが重複はしていないと思われる。北西側第28号土坑と接するが、精査中に間が崩落してしまった。

〔覆土・堆積状況〕上層にぶい黄褐色土、中層地山再堆積の黄褐色土、下層灰黄褐色土。覆土の特徴及び水平堆積から、埋めもどしている可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場、2.5×1.7m程度の隅丸長方形～楕円形。

〔断面形・深さ〕壁はほぼ垂直に立ち上がる。深さ約0.45m。

〔壁・底面〕西側、壁上10cm、東側、壁上20cm、IV層、その下へ底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕(出土状況)第59図参照。半裁時トレンチ状に掘った部分の東隅から、2点の比較的大きな土器片が出土(写真図版60)。No.1は(第100図568の一部)、外面を上に向けて(下にあるのは32層)、No.2は(第100図568の一部)、内面を上に向けて(下にあるのは32層最下部)、どちらも土坑の中心に向かって緩やかに傾斜。また、土坑中央へ西寄りの34層上面から、No.3～9の比較的大きな土器片が出土(第100図568、No.4を除く)(写真図版59)。3は北隅にあり、北から南に大きく傾斜(底から北36cm、南24cm、以下同じ)、4はその南で北西から南東に傾斜(30cm)(接合せず時期特定できないため不掲載か)、5は北から南に傾斜(22～13cm)、6(30cm)と7(30～24cm)は、ほぼ水平だが、6は南西から北東へ、7は東から西へ緩やかに傾斜、8は北東から南西に強く傾斜(33～21cm)、9は西から東へ緩やかに傾斜(20～16cm)。同じ層中だが、さらに下から、後述の粘土板を挟んで2点の「抱えもある板状の礫」が出土(写真図版167の756、168の757)。北側のものは底から2cmでほぼ水平、南西側のものは底から3cmでほぼ水平。土坑中央で底に接して「抱えもある白色粘土板」が出土。粘土板と礫はほぼ同じ形状規模である。

〔遺物〕第100図568～580の土器、写真図版165の749～166の755、167の756、168の757の石器類(一部第100図に図示)、石器製作時の剥片123.81g、剥片B削9.71gが出土。土器は、568は円筒下層b2式、570?、574?、575?、580?は、円筒下層b1式、571、573?は、縄文中期前葉、569は縄文前期中葉、572、576=577=578? =579は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片出土。その他、半裁時に、第29、30、31、103、104号土坑一括で取り上げた土器があり(第82図247～251)(時期は、第29号土坑参照)、不掲載土器破片が9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類(一部第82図に図示)、第82図2の上隅(円筒上層a式期)、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。

〔時期〕縄文中期前葉の可能性のある土器は、重複する第31号土坑に本来帰属する可能性が高いと考えられ、

出土土器から、縄文時代前期中葉田岡下層b式期の可能性が高い。

〔分類・所見〕形、遺物の出土状況、覆土から、墓塚の可能性が高い。

第105号土坑（第59図、写真図版60・129）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド、第11号住居内。住居にベルトを設定して掘り下げているところ、土坑状の落ち込みが検出された。断面を観察した結果、住居床面より高い位置から掘り込まれていたので土坑として独立して認定した。

〔図・精査状況〕北西部分掘りすぎ。

〔重複〕第11号住居と重複し、より新しい。

〔覆土・堆積状況〕上部黒土、中部黒褐色土、下部黒褐色土と黄褐色土の交互層。1層は、大幅に東側まで広がっているが、これは、土坑の東壁は住居覆土であるため崩れやすく、そこに流入したためと考えられる。

〔平面形・規模〕東壁を上記のように判断すれば、約1.6×1.2mの隅丸長方形。

〔断面形・深さ〕約80cm。

〔壁・底面〕壁は、底から中央付近までほぼ垂直に立ち上がり、そこから大きく直線的に外反する。底へ壁下20cmV層、その上IV層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。覆土下部から比較的大きな隙が出土している。

〔出土遺物〕写真図版129の194～197の石器類の中に本遺構からの片土品が含まれている可能性があるが、その多くは周囲の縄文時代の遺構からの紛れ込みと思われる。

〔時期〕重複関係と覆土から、平安時代と考えられる（9世紀後半？）。

4. 陥し穴状遺構

平面形が溝状で、底が極端に細く狭い土坑である。7基検出したが、第7号は疑似現象の可能性が高い。調査区中央部の3基は並んでいるようにも見えるが、基本的にはみな単独で点状しているようである。

遺構記載の用語について。平面形は、長軸の長さ：短軸の長さの比率によって楕円形、長楕円形、溝状に区別している。断面形は、縦断面は、壁の立ち上がりの形態によって、逆三角形、四角形、直角三角形（片側オーバーハング）、三角形（両側オーバーハング）に区別している。横断面は、Y字状、V字状、I字状を区別しているが、これは本来同じ形状のものが削平がひどくなるほど変わり（右に行くほどひどくなる）、削平の度合いしか示していない可能性がある。

第1号陥し穴状遺構（第60・100図、写真図版60）

〔位置・検出状況〕調査区西端。3Dグリッド、IV層黒土で検出。第2号住居状遺構と同時に検出し、覆土がよく似ていたため、その一部のように見えた。

〔図・精査状況〕口の側に深く精査が難しくなったためサブレンチを入れ、底も壊した。検出面ではっきりしなかった第2号住居状遺構との重複関係をはっきりさせるためにサブレンチを入れ、壁と底を一部壊した。

〔重複〕南東側第2号住居状遺構と重複し、住居状遺構の方が新しい（第23図参照）。

〔覆土・堆積状況〕上部暗褐色土、中部褐色土、下部暗褐色土。

〔平面形・規模〕約2.2×0.5mの長楕円形。

〔断面形・深さ〕縦断面直角三角形。横断面V字状。約80cm。

〔壁・底面〕長軸方向東側オーバーハング。壁上20cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第100図581の土器出土（縄文前期末～中期初頭か）。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代中期の可能性ある。

第2号陥し穴状遺構（第60・100図、写真図版61・166）

〔位置・検出状況〕調査区西。4～5Dグリッド。検出面IV層、黒土ではっきりと陥し穴状遺構と確認。トレンチを入れた結果、壁と底が確認できたので陥し穴状遺構と認定。

〔図・精査状況〕セクションポイントA、精査中に動かされたため合わない。

〔重複〕東端第25号土坑と重複。検出面および上場では重複しておらず、第25号土坑を精査中に重複に気づいたため新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部褐色土、下部暗褐色土。自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕約3.8×0.6mの溝状だが、東端が北側に向かって曲がっている。

〔断面形・深さ〕縦断面は三角形。横断面I字状で幅広い。約80cm。

〔壁・底面〕長軸方向の両端オーバーハング。底は、東側に向かって傾斜（西端は約50、東端は約90cm）、西端は四角になっている。壁上30cmIV層、その下～底はV層。底はガリガリと固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第100図582～584の土器、写真図版166の758～765の石器類（一部第100図に図示）が出土。土器は、582？、583は、円筒上層り式、584は円筒下層e～d式？

〔時期〕出土土器の時期は重複する第25号土坑の時期と重複しているので、どちらに本来的に帰属するかどうかわからない。覆土と今回の調査結果全体から、縄文時代中期の可能性ある。

第3号陥し穴状遺構（第61・101図、写真図版61・166～169）

〔位置・検出状況〕調査区中央。8Cグリッド。北西に隣接して第4号陥し穴状遺構がある。IV層黒土ではっきりと陥し穴状遺構と確認。トレンチを入れた結果、壁と底が確認できたので陥し穴状遺構と認定。

〔図・精査状況〕最初にトレンチを入れたところ若干掘りすぎあり。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部褐色土、下部黄褐色土、最下部黒褐色土。自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕約3.9×0.9mの溝～長楕円形。

〔断面形・深さ〕縦断面三角形。横断面底幅のV字状。約1.1m。

〔壁・底面〕長軸方向の両端オーバーハング。特に西端は上場端から50cmも滑り込む。底はV層。壁も全てV層？

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第101図585の土器出土（時期不明）。写真図版166の766～169の777の石器類出土（一部第101図に図示）。

〔時期〕覆土と今回の調査結果全体から、縄文時代中期の可能性ある。

第4号陥し穴状遺構 (第61・96・101図、写真図版61・169)

〔位置・検出状況〕調査区中央。8Cグリッド。南東に隣接して第3号陥し穴状遺構がある。IV層面黒上で陥し穴状遺構と確認。トレンチを入れた結果、壁と底が確認できたので陥し穴状遺構と認定。

〔図・精査状況〕口の割に深く精査が難しくなったためサブトレンチを入れた。検山時には第76号、第77号土坑は認識しておらず、結果的に重複関係にありながら同時に精査してしまった。そのため重複部分の上場は消失。

〔重複〕北西側第77号土坑と重複し、陥し穴状遺構の方が新しい(第50図参照)。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部黄褐色土と褐色土の交互層、下部暗褐色土。自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕約3.2×0.5mの溝～長楕円形。

〔断面形・深さ〕縦断面四角形。横断面V字状。約90cm。

〔壁・底面〕壁1:40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第101図586の土器出土(円筒上層b式?)。写真図版169の778の石器類出土(第77号土坑出土の可能性も)。その他、第96図492(時期不明)が、木遺構と第77号土坑のどちらからか出土。

〔時期〕覆土と重複関係と出土土器から、縄文時代中期の可能性が高い。

第5号陥し穴状遺構 (第62・101図、写真図版61・62・169)

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8Cグリッド。上面に黒褐色土が溝状に広がり、IV層上面ではっきりと確認。〔図・精査状況〕A-A'断面、A側掘り間違いか合わない。C-C'断面、掘り間違いかほとんど合わない。狭く深く、掘りすぎ多い。また第73号土坑と重複部分は、狭くて暗くて掘りづらく、土坑完掘時に見たら奥行き16cm程掘り足らなかったことがわかった。

〔重複〕北西側、第73号土坑と重複。検山面でも重複しているのがわかったが、土坑の上面にカクランによるものか黒褐色土が広がっていたので新旧関係はよくわからなかった。そこで重複部分をトレンチ状に断ち割った結果、本遺構の方が新しいとわかった。南東側、第80号土坑と重複。底付近しか重複しておらず、新旧関係不明だが、覆土と本遺構のこれまでの調査例から、陥し穴の方が新しい可能性が高い。

〔覆土・堆積状況〕上部、黄褐色土と黒褐色土混じり、中部、黄褐色土のブロック含む暗褐色土、下部、ボンボンの暗褐色土。

〔平面形・規模〕約3.1×0.5mの溝形。

〔断面形・深さ〕縦断面三角形。横断面V字形。深さ約1.2m。

〔壁・底面〕壁1:20cmIV層、その下から底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第101図587の土器出土(円筒上層a1式)。写真図版169の779、780の石器類出土(一部第101図に図示)。掲載した以外に、5×5cm以下の土器破片23個出土。石器製作時の剥片35.33g出土。

〔時期〕覆土と重複関係と出土土器から、縄文時代中期前葉以降の可能性が高い。

第6号陥し穴状遺構 (第62・101図、写真図版62・170)

〔位置・検出状況〕調査区東部東。15Cグリッド。法面を20cm下げたところで、細長いボヤーとした灰黄褐色土を確認。倒木が腐ったものかとも思ったが、半截。大きく断ち割っても、あまり陥し穴らしくない型土

で遺構との確信は持てなかったが、下場が水平に延びることを重視して、遺構と判断。陥し穴状遺構が、法面に切られ、特に斜面下側が大さく削平されたため消失したものと考えた。

〔図・精査状況〕A-A'断面、A側の上場削れたのか合わない。下場は掘りすぎでなくなった。B-B'断面、平面図のセクション・ポイントのB'の位置おそらく間違い。トレンチの位置合わない。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕削平されているためか単層。一般的な覆土と異なって固く締まり、地山が根で汚れたような土。

〔平面形・規模〕溝形？ 斜面下（南）側消失したため不明。

〔断面形・深さ〕縦断面の北側階段状にオーバーハング。南側は削平されたため不明。横断面1字形。深さ約45cm。

〔壁・底面〕削平されているため、全てV層？

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第101図588の土器出土（F尚下層c式？）。写真図版170（-第101図）の781の石器出土。掲載した以外に、5×5cm未満の土器破片1個出土。石器製作時の剥片0.31g出土。

〔時期〕今回の調査結果全体からは、縄文時代中期の可能性があるが、他の陥し穴状遺構とやや異なること、出土土器から、他の時期の可能性もある。

第7号陥し穴状遺構（第62図、写真図版62）

〔位置・検出状況〕調査区西端。2Dグリッド。第10号住居内。水路下であり、南側の調査範囲外に続く。住居平面写真撮影の清掃の際に、調査範囲外に延びる溝状の褐色土を確認。他と比べて覆土が深く木根が含まれていたため疑似現象と思ったが、一応調査範囲境を掘り下げてみた。よくわからないので両側、下方に広げサブトレンチを入れたが、何とも言えない。周囲に木根があり疑似現象（木根の攪乱）の可能性が高いと思われるが、決め手に欠けるので一応陥し穴状遺構に認定して、精査・報告した。

〔図・精査状況〕測り間違いのせいかセクションポイントA'合わない。精査状況は上記参照。

〔重複〕第10号型穴住居下に検出。この部分は水路に壊されているので決め手に欠けるが、検出状況からは住居の方が新しい可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕削平されているためか、他と異なり下まで淡い黄褐色土でIV～V層の再堆積の黄褐色土。1層はV層そのもののようにも見え、やはり疑似現象か。

〔平面形・規模〕サブトレンチで壊し、大部分が調査範囲外にあるので不明だが、残っている部分から推測すると、溝状か。

〔断面形・深さ〕縦断面不明。横断面1字形か。約40cm。削平されている（V層中）とは言え、他と比べてあまりに浅く、やはり疑似現象か。

〔壁・底面〕調査範囲内に検出された長軸方向の北端はオーバーハングしない。壁～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕山土土器がないことと、今回検出された他の陥し穴状遺構と大きく異なるため、時期不明。

〔分類・所見〕疑似現象（木根による攪乱）の可能性が高い。

5. 焼土

焼土は、2基検出され、その他、第2号住居床面に検出されたものが2基ある。炉跡の可能性もなくなっているが、ご今回の調査で検出された縄文住居跡の炉は、土器埋設炉、石囲炉と、はっきりした施設を持つ場合がほとんどであり、検出された焼土は、数カ所に極端に集中し、炉跡と異なった傾向を持つので、炉跡の可能性は低いと考える。ほとんどがⅢ層中に形成されており、縄文時代の可能性が高い。

以下、報告は、集中ごとにまとめて行うが、概要について。

本章冒頭でも述べたように、東部（水路部分）以外の焼土は基本的に前年度に行っていて、東部（水路部分）、第22号、第33号、第35号、第41号以外の焼土は、前年度の検出の後シートを被せて冬～春を過ごしており、残存状況に影響があったかも知れない。

今回検出された焼土の性格は不明だが、数カ所に極端に集中することが特徴としてあげられ、また他の遺跡に比べて石器製作時の割片が石器類の組成の中で多くを占め、そのほとんどが遺構外のⅢ層から出土し、集中焼土の近くから見つけることも多かったことから、石器製作に何らかの関係があるかも知れないが、本書では、遺物の取り上げ区画が大きかったこと（5×5m）、時間的な余裕のなさなどから、地点ごとの割片出土量を示せなかった。

第1号～第10号焼土（第63・101図、写真図版62～64）

〔位置・検出状況〕調査区西。5C～Dグリッド。土坑集中区と重なるが、中心はより西にずれている。検出作業中ほとんどがⅢ層中に検出されたが、IV層まで下げてしまったので、かなり薄くなってしまった。

〔図・精査状況〕平面図は多少のカクランを無視して作成しているため、断面図と合わないところがある。第1号、第5号は、下げすぎで焼土ほとんどなくなってしまったので断面図は作成していない。第2号は、セクションポイントAが測り間違いで位置合わない。第4号は、セクションポイント合わない（C'測り間違い?）。第8号は、平面図と断面図合わない（測り間違いか）。

〔重複〕第6号の下に第32号土坑、第8号の下に第35号土坑、第10号の下に第33号土坑が検出された。周囲に根によるカクランも多い。

〔覆土〕検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕1号→長楕円形?・不明・10cm、2号→長楕円形?・不明・約5cm、3号→不整形円形・約80×65cm・約5cm、4号→楕円形?・不明・約5cm、5号→円形・約24×24cm・6cm、6号→円形・約40×36cm・約5cm、7号→長楕円形・約80×30cm・約8cm、8号→円形・約50×50cm・約8cm、9号→不整形楕円形・約64×46cm・約10cm、10号→楕円形・約40×30cm・約4cm。

〔燃焼状態〕記録が残っていない。

〔形成層〕Ⅲ層。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕第3号焼土とその周辺から、第101図589の土器出土（円筒下層c～d式?）。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第11号～第14号焼土（第63・101図、写真図版64・170）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。5Cグリッド。Ⅲ層で検出。調査した年度が異なるので別々に扱った

が、第1号～第10号焼土と一連のもの可能性もある（特に第9号）。ただし、その間は比較的疎らである。

【図・精査状況】第11号焼土のA'側合わない。第12号焼土、標上範囲の認識の違いが全く合わない。これらは、平面図を光波測量によって作成したことに拠るもの可能性が高い。

【重複】第13号焼土、一部第6号が跡覆土上に形成（より新しい）。

【覆土】検出時に既になくなっていたので不明。

【平面形・規模・厚さ】11号→三日月形・約30×23cm・約5cm、12号→不整楕円形・約45×35cm・約8cm、13号→不整楕円形・約70×45cm・約10cm、14号→楕円形・約25×14cm・約6cm。

【燃焼状態】第11号は、根によるカクランを受けているせいか焼土の形成今一つ。値は良く焼けている。

【形成層】Ⅲ層。

【所属施設】不明。

【出土遺物】第12号焼土を中心として、第101図590～593の土器出土。590、593は、円筒上層a1式？、592は円筒上層b式？、591は時期不明。第13号焼土から写真図版170（＝第101図）の783の石器、石器製作時の剥片1.22gが出土しており、またクリーニングの際写真図版170（＝第101図）の782の石器出土している。掲載した以外に、第12号から5×5cm未満の土器破片2個、第13号から5×5cm未満の土器破片3個出土。その他、周囲から、5×5cm以下の土器破片10個出土。「第11～14号焼土」から石器製作時の剥片12.75g出土。

【時期】形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第15号～第23号焼土（第64・101図、写真図版64～66・170）

【位置・検出状況】調査区中央部北東隅。8A～Bグリッド。東側の調査範囲外に続くと思われる。Ⅲ層で検出。第22号だけは後で検出したもので、第70号土坑のプランをはっきりさせるため検出作業を繰り返したところ、焼土の一部が検出されたので、東側に調査範囲を拡張したものである。上に切り株多く残っていたところで、木根によるカクラン著しい。

【図・精査状況】第15号、A側焼土範囲の認識の差により合わない。第16号、平面図A'側焼土でないものを含んでいた。第17号、第20号、焼土範囲の認識の差によりほとんど合わない。第18号、第19号、第21号、平面図焼土でないものを含んでいたため合わない。第22号、G'側、焼土範囲の認識の差に寄り合わない。第23号のH側も同様である。

【重複】第23号焼土は、第70号土坑覆土に一部かかる（より新しい）。その他、第69号土坑が近くにある。

【覆土】検出時既になくなっていたため不明。

【平面形・規模・厚さ】15号→楕円形・約44×28cm・約6cm、16号→不整形円形・約46×44cm・約12cm、17号→不整楕円形・約66×40cm・約16cm、18号→不整楕円形・約84×60cm・約12cm、19号→不整楕円形・約36×24cm・約6cm、20号→円形・約40×35cm・約10cm、21号→不整形円形・約52×46cm・約6cm、22号→不整形円形・約74×70cm・約10cm、23号→楕円形・約26×18cm・約4cm。

【燃焼状態】根によるカクランのせいか、全体的にあまり良くないが、第16号、第22号は厚く焼土が形成され、第22号は表面が非常に固く締まっていた。

【形成層】Ⅲ層上面。第22号だけは、他より標高が低いのが、それはこの場所のⅢ層が落ち込んでいたためである。

【所属施設】不明。

〔出土遺物〕 第101図594～598の土器出土。594は門筒下層d 2式？、595は門筒下層c～d式、596～598は時期不明。第15号～第21号築上クリーニングの際、写真図版170（＝第101図）の781、785の石器類出土。掲載した以外に、第21号から5×5cm未満の土器破片1個、第22号から5×5cm未満の土器破片4個、第29号から5×5cm未満の土器破片5個出土。その他、周囲から5×5cm以下の土器破片23個出土。石器製作時の剥片が、16号から5.05g、17号から2.16g、18号から0.70g、21号から5.70g、22号から4.19g、29号から1.70g、「第15～21号焼土」として36.30g出土している。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第24号・第25号焼土（第65図、写真図版66）

〔位置・検出状況〕 調査区最西端。2 Dグリッド。

〔重複〕 第24号焼土の下に第1号土坑を検出。

〔覆土〕 検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 24号→不整円形・約36×30cm・約4cm、25号→不整長楕円形・約70×35cm・約4cm。

〔燃焼状態〕 記録が残っていない。

〔形成層〕 III層。

〔所属施設〕 両方とも固く焼けしまっている。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第26号焼土（第65図、写真図版66）

〔位置・検出状況〕 調査区西。3 Dグリッド。検出作業中ほとんどがIII層中に検出されたが、IV層まで下げてしまったので、かなり薄くなってしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔図・精査状況〕 断面図作成時セクションポイントの落とした位置が間違っていたようで、平面図の焼土範囲と断面図のそれは、セクションポイントをずらせば合う。

〔重複〕 第11号土坑の上面に検出（より新しい）。

〔覆土〕 検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 きのこ形・約11×11cm・約8cm。

〔燃焼状態〕 固く焼けしめる。

〔形成層〕 第11号土坑覆土上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 重複関係から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

第27号・第28号焼土（第65図、写真図版67）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6 Cグリッド。検出作業中III層中に検出されたが、IV層まで下げてしまったので、かなり薄くなってしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔図・精査状況〕 下げすぎで焼土ほとんどなくなってしまったので断面図は作成していない。

〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土〕 検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・断面形・厚さ〕 27号→楕円形・約38×26cm・厚さ下りすぎて不明、28号→楕円形・約40×24cm・4cm。

〔燃焼状態〕 記録が残っていない。

〔形成層〕 III層上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第29号焼土（第65・101図、写真図版67・116）

〔位置・検出状況〕 調査区西部東端。6Cグリッド。住居検出時、IV層上面で検出。根によるカクランあり。

〔図・精査状況〕 半炭時、A側欠けてしまったためか合わない。

〔重複〕 第1号住居跡に近接するが、重複してはいないと恐われる。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 楕円形・約51×37cm・約8cm？

〔燃焼状態〕 根によるカクランを受けているせいか、あまり良くない。

〔形成層〕 IV層上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 第101図599の上器（時期不明）、写真図版116の18、19の焼粘土塊出土。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第30号焼土（第65図、写真図版67）

〔位置・検出状況〕 調査区西部東端。6～7Cグリッド。IV層上面に検出した際には、そのンベルから第1号住居跡に属するものと考えていたが、住居精査の結果、住居外に位置することがわかった。

〔図・精査状況〕 焼土範囲の認識の違いか、A'側合わない。

〔重複〕 第43号土坑の覆土上面に形成（より新しい）。第1号住居跡に近接。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不整形・約120×70cm・約8cm。

〔燃焼状態〕 土坑覆土中に形成されているわりには、非常に良い。

〔形成層〕 第43号土坑覆土上面～IV層上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 重複関係と今河の調査結果全体から、縄文時代前期後葉～中期前葉の可能性が高い。

第31号焼土（第65図、写真図版67）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部西端。7B～Cグリッド。III層上面で検出。中央が窪み、カクランを受けている。〔図・精査状況〕 焼土範囲の認識の違いか合わない。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・断面形・厚さ〕不整形（方形?）・140×80程度?・約4cm。

〔燃焼状態〕カクランを受けているせいか、あまり良くない。

〔形成層〕Ⅲ層上面。

〔所属施設〕周溝を検出したが、柱穴らしいものは確認できなかった。ただし、第7号炉跡に伴うとした柱穴の中に本遺構に帰属するものが存在する可能性もある。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第32号焼土（第66・101図、写真図版68）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西端。7Bグリッド。Ⅲ層上面で検出。根によるカクラン著しい。現地性の焼土でない可能性もある。

〔重複〕ないと思われるが、第45号、第48号土坑に近接。

〔覆土〕検出時既になくなっていたので不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不整形・約12×40cm・不明。

〔燃焼状態〕根によるカクランのせいか、非常に悪くブロック状。投げ捨て焼土の可能性もある。

〔形成層〕Ⅲ層上面。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕周溝から第101図600の土器出土（時期不明）。掲載した以外に、5×5cm未満の土器破片3個出土。石器製作時の剥片0.54g出土。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第33号焼土（第66図、写真図版68）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西。7Bグリッド。第48号土坑精査中に検出。変な形だが、面的な広がりをもっており、現地性の焼土と判断。〔図・精査状況〕焼土範囲の認識の違いか、合わない。

〔重複〕第48号土坑覆土上層に形成（より新しい）。〔覆土〕第48号土坑覆土（1層最上層?）。

〔平面形・規模・厚さ〕不整形・約28×6cm・約8cm。

〔燃焼状態〕比較的しっかり焼けている。

〔形成層〕第48号土坑覆土（1層?）。

〔所属施設〕不明だが、第7号炉跡に伴うとした柱穴の中に本遺構に帰属するものがある可能性もなくはない。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

第34号焼土（第68図、写真図版68）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。7Bグリッド。Ⅲ層上面で検出。木根によるカクラン著しい。

〔図・精査状況〕平面図光波測定で行ったせいか、A'側合わない。

〔重複〕ないと思われるが、第2号住居跡に近接。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不整楕円形・約18×10cm・不明。

〔燃焼状態〕根によるカクランを受けているせいか、非常に悪い。

〔形成層〕Ⅲ層上面。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第35号焼土（第66図、写真図版68）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北。7Bグリッド。住居プランを確定しようと検出作業を繰り返す中で、検出。Ⅲ層上面～第56号土坑覆土上面。上面切り株多かったところで、木根によるカクラン著しい。〔図・精査状況〕焼土範囲の認識の違いか、合わない。〔重複〕第56号土坑の上面に検出（より新しい）。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不明・60×30cm程度？・約2cm。

〔燃焼状態〕平均的。〔形成層〕Ⅲ層上面～第56号土坑覆土上面。〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕石器製作時の剥片7.15g出土。

〔時期〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性はある。

第36号焼土（第66図、写真図版69）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド。検出作業中Ⅲ層中に検出されたが、IV層まで下げてしまったので、かなり薄くなってしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土〕検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不整楕円形・約46×20cm・約6cm。

〔燃焼状態〕固く締まる。

〔形成層〕Ⅲ層。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第37号焼土（第67図、写真図版69）

〔位置・検出状況〕調査区中央部東。8Cグリッド。Ⅲ層上面で検出。木根によるカクラン著しい。

〔重複〕下に第80号土坑がある（より古い）。〔覆土〕検出時に既になくなっていたので不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不整楕円形・約26×14cm・不明。

〔燃焼状態〕カクランを受けているせいか、焼土の形成弱い（淡い）。〔形成層〕Ⅲ層上面。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕時期が特定できない5×5cm未満の石器破片2個出土（手遣いで1点も掲載しなかった）。石器製作時の剥片8.78g出土。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第38号焼土（第67図、写真図版69）

〔位置・検出状況〕調査区中央部南。8 C グリッド。〔重複〕ないと思われる。北西方向に根によるカクラン。〔覆土〕検出時に既になくなっていたので不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不整形円形・約42×34cm・約4cm。

〔燃焼状態〕明瞭に焼土が形成されている。〔形成層〕Ⅲ層上面。〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕石器製作時の剥片2.55g出土。

〔時期〕形成位置から、縄文時代前期前葉～中期前葉の可能性はある。

第39号焼土（第67図、写真図版69）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。15 C グリッド。第5 C号が跡が帰属する竪穴住居跡を確認しようと検出を繰り返していた際に、調査区域に検出。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不整形円形・約30×28cm・約3cm。

〔燃焼状態〕法面上面で根によるカクランを受けているせいか、あまり良くない。

〔形成層〕Ⅲ層上面か。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第40号焼土（第67図、写真図版70）

〔位置・検出状況〕調査区東部東。15 C グリッド。第5 C号が跡が帰属する竪穴住居跡を確認しようと検出を繰り返していた際に、調査区域に検出。〔図・精査状況〕焼土範囲の認識の違いか、合わない。

〔重複〕ないと思われる。〔覆土〕検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不整形円形・約30×20cm・約6cm。

〔燃焼状態〕法面上面にあり根によるカクランを受けているせいか、あまり良くない。

〔形成層〕Ⅳ層上面か。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第41号焼土（第14～15図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕調査区西部西端。2 D グリッド。第4号が跡に伴うと考えていた床（Ⅲ層）の下から検出。中央部が窪んでいた。

〔図・精査状況〕作業手順の都合上、検出した後しばらく放置していたためボロボロになってしまった。

〔重複〕第4号住居（第7）と重複し、より古い。

〔覆土〕汚れたⅣ層表堆積土。

〔平面形・規模・断面形・厚さ〕直径約60cmの不整形円形。約5cm。

〔燃焼状態〕検出時に比較的良かったという記憶がある。〔形成層〕Ⅲ層上面か。〔所属施設〕第4号住居に

伴うと考えている柱穴群は、木遺構を印跡とする住居に帰属する可能性もなくはない。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性がある。

第42号焼土（第16～17図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 調査区東部中央。14Cグリッド。法面をクリーニングした時点で検出。

〔図・精査状況〕 焼土範囲認識の違いで、合わない。

〔重複〕 第90号土坑覆土中にある（より新しい）。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・断面形・厚さ〕 30×15cmの不整楕円形。約5cm。

〔燃焼状態〕 覆土中にしては比較的良好と思われる。

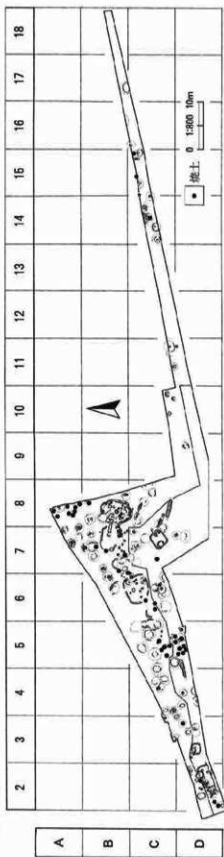
〔形成層〕 第90号土坑覆土。

〔所属施設〕 周囲に検出された柱穴は、第5号印跡ではなく、木遺構に伴うものかも知れない。

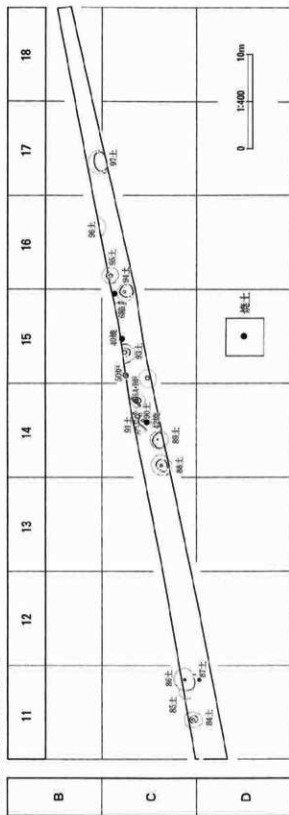
〔出土遺物〕 石器製作時の剥片441.79g出土。

〔時期〕 重複関係から、縄文時代中期前葉の可能性がある。

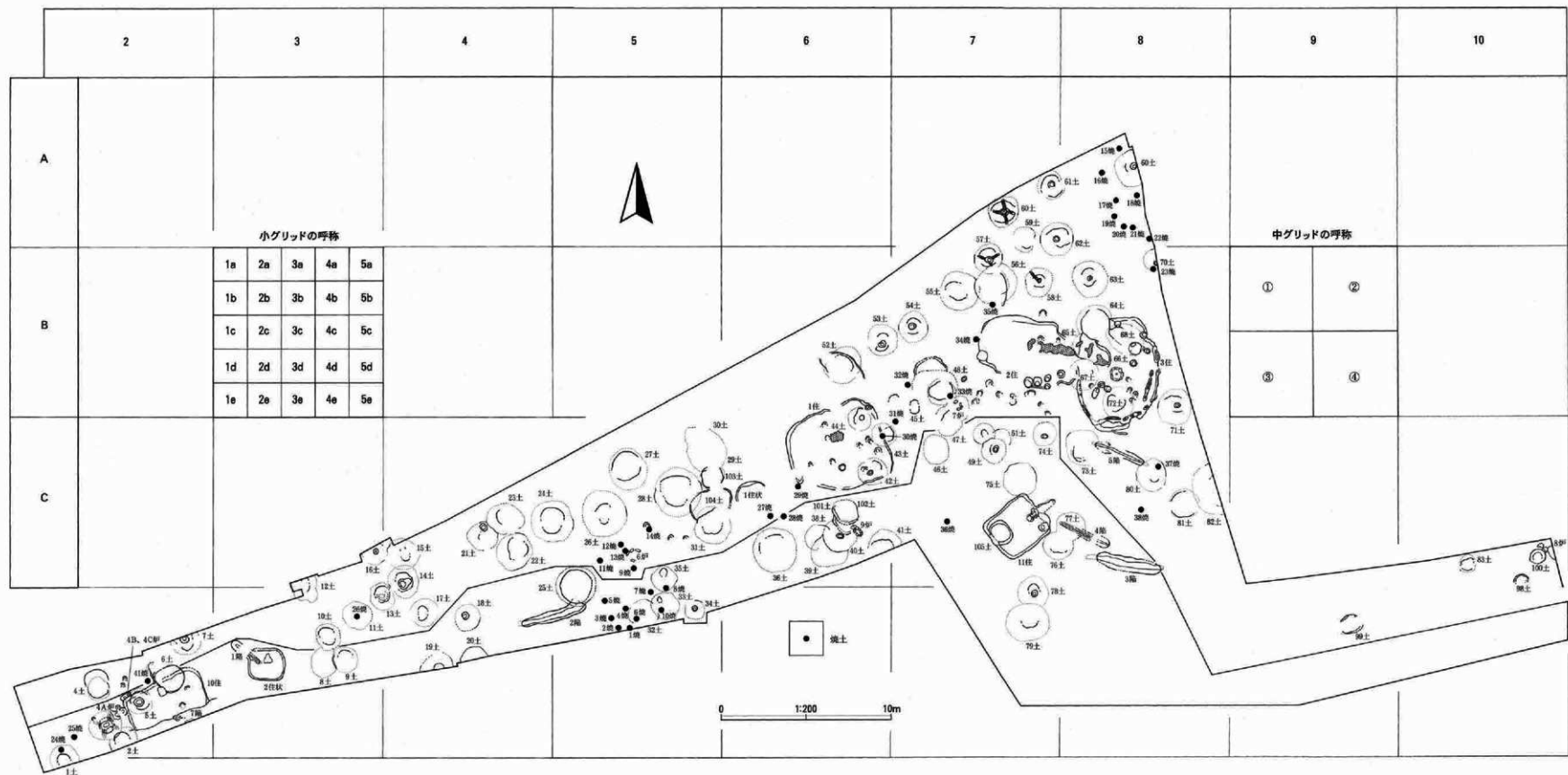
●遺構全体図



●地区別全体図(水路部分)

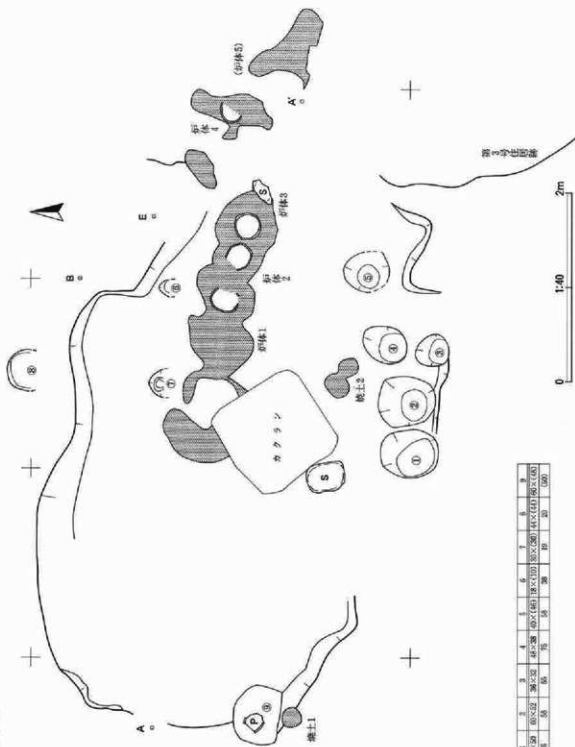


第6図 遺構全体図・地区別全体図(1)



第7図 地区別全体図(2) (道路部分)

●第2号住居跡



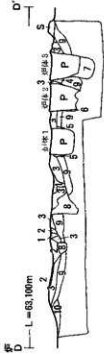
柱穴

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
径 (cm)	60	52	58	52	48	58	40	46	18
深 (cm)	60	52	58	52	48	58	40	46	18

第10図 第2号住居跡(1)



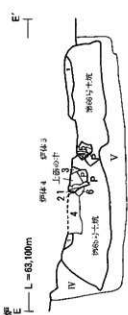
1. 窓間(GYTR)窓と柱間(GYTR)窓の間の、柱間の中で、本館取巻の張り方壁(オタカン)。
2. 窓間(GYTR)窓(シット 1-2)窓間(取、IV-V)窓(ソフ)窓の、よくある窓間の壁。
3. 窓間にふたつある窓間の、窓間の高い部分、窓間である。窓間である。窓間に囲く。
4. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。



1. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
2. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
3. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
4. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
5. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
6. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
7. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
8. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
9. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
10. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
11. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。



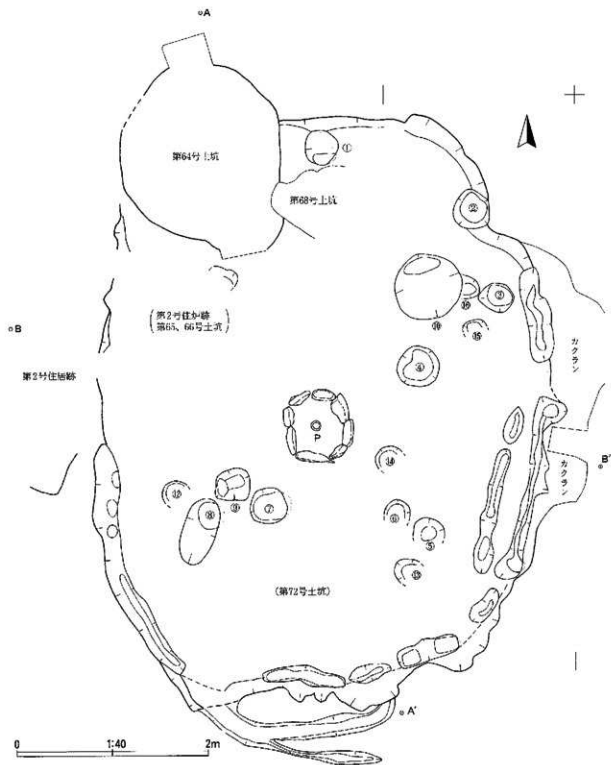
1. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
2. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
3. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。



1. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
2. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
3. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
4. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。
5. 窓間(GYTR)窓(シット)窓、窓間にふたつある窓間の、窓間である。窓間に囲く。

第11図 第2号住居跡(2)

●第3号住居跡

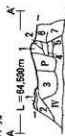


柱穴

幅	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
長 (cm)	97×34	42×38	36×50	43×42	35×42	38×42	38×42	39×42	39×42	40×42	40×42	40×42	40×42	40×42	40×42	40×42
深さ (cm)	97	28	33	17	33	28	24	66	45	88	30	17	23	21	18	29

第12図 第3号住居跡(1)

A号住戸



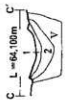
1. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。
2. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
3. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
4. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
5. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
6. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
7. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。

B,C号住戸



1. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。
2. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
3. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
4. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
5. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。

第4号住戸



1. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。
2. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。

第15図 第4号住居跡(2)

D.L=64,200m D'



E.L=64,200m E'



F.L=64,200m F'



G.L=64,200m G'



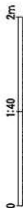
H.L=64,000m H'



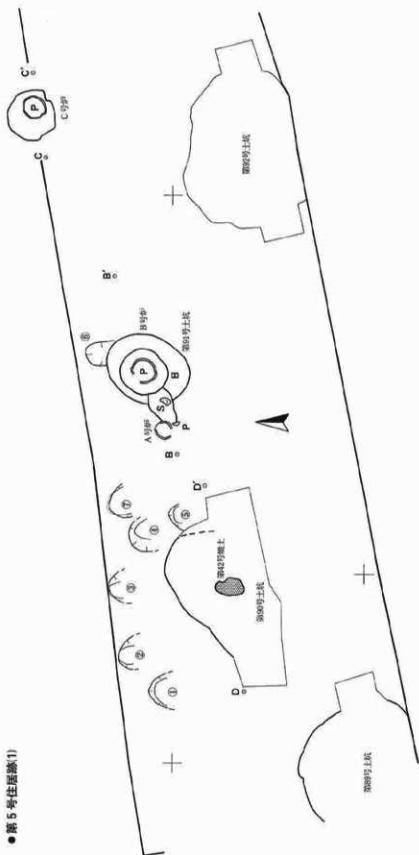
I.L=94,000m I'



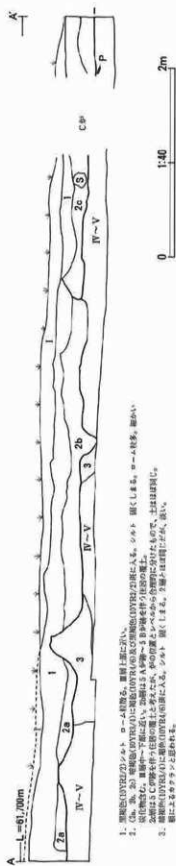
1. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。
2. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
3. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
4. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
5. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
6. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
7. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
8. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。
9. 広帯窓(SYMA)の砂壁シフト 置くしる。横す。正面の壁によって置くしる。



●第5号住居跡(1)



第16図 第5号住居跡(1)



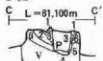
1. 築込円礫土のシロト、モーム積層、遺跡上に示す。
2. 築込円礫土の下層に示す。築込円礫土の層の上層、シロト、築くし、モーム積層、築込円礫土、築込円礫土の下層に示す。築込円礫土の層の上層、シロト、築くし、モーム積層、築込円礫土、築込円礫土の下層に示す。
3. 築込円礫土の層の上層に示す。築込円礫土の層の上層、シロト、築くし、モーム積層、築込円礫土、築込円礫土の下層に示す。

●第5号住居跡(2)



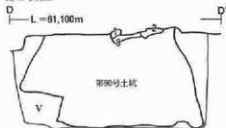
1. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 5号跡跡の礎上。
2. 暗褐色(10YR3/3)土褐色(5YR4/6)、赤褐色(5YR4/6)泥に入る。シルト 混くします。4層に焼土粒多く含む。
3. 2層の中とはほとんど同じだが、焼土粒少ない。もろい。5号跡跡の方層上か。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト ややもろい。焼土粒含む。5号跡跡の方層上か。
5. 暗褐色(10YR3/3)赤褐色(5YR4/6)ブロッケン。シルト 混くします。3層に似るが、ロームブロック含む。
6. 暗褐色(10YR3/4)シルト 4層に似るが焼土粒少ない。
7. 褐色(10YR4/3)シルト 混くします。ローム粒含む。

C号跡



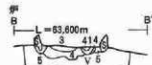
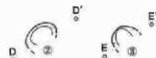
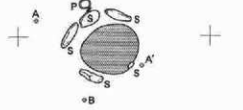
1. 暗赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 混くします。礎上。
2. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 混くします。礎上。
3. 赤褐色(5YR4/6)土褐色(5YR4/6)、褐色(5YR4/6)の泥色。シルト 焼土粒多く含む。掘り方層上?
4. 暗褐色(10YR3/3)と暗褐色(10YR2/3)の泥。焼土質シルト 混くします。礎上粒含む。掘り方層上?
5. 褐色(5YR4/3)の焼土 周囲のV層よりやや汚れて見える。掘り方層上?
6. 褐色(10YR4/4)焼土 混くします。V層が熱で変化したもの。

第42号焼土



1. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 混くします。礎上。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 混くします。焼土粒。ローム粒多い。
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト 混くします。ローム粒含む。

●第6号住居跡



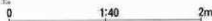
1. 褐色(7.5YR4/4)シルト もろい。掘りによるカララン。
2. に近い黄褐色(10YR3/4)シルト もろい。掘りによるカララン。
3. 褐色(7.5YR4/4)シルト 赤褐色に混くします。焼土粒多い。赤層上?
4. 赤褐色(5YR4/6)シルト 礎上。
5. に近い黄褐色(10YR3/3)シルト 部分的に焼土粒含む。2層との違いはほとんどないが、卵石混り方層上か。



1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 焼土粒混じる。汚れたV層の再堆積上。
2. 赤褐色(5YR4/6)シルト 混くします。礎上のように見えたが、掘りブロッケンが多く含まれているだけだった。
3. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 混くします。焼土粒が混じる以外はV層とはほとんど同じ。
4. 褐色(10YR4/3)粘土 混くします。V層が汚れた再堆積上。
5. 暗褐色(10YR3/3)粘土 混くします。V層とはほぼ同じ。
6. 暗褐色(10YR3/4)粘土 花崗岩状の1mm程度の炭化物含む。水溜りのフラスコ状土坑によるものである。



1. 褐色(10YR4/4)シルト ローム粒多く。焼土粒数り。1mm程度の炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性強い。1層に似るが、ローム粒より多く。焼土粒含まず。3mm程度の炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。ローム粒含む。1mm程度の炭化物含む。

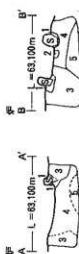


第17図 第5号住居跡(2)、第6号住居跡

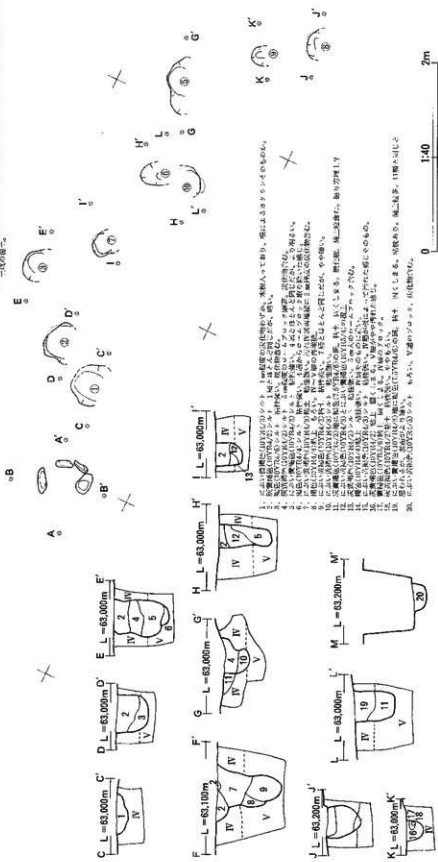
●第7号住居跡



68/7/8
60/7/8

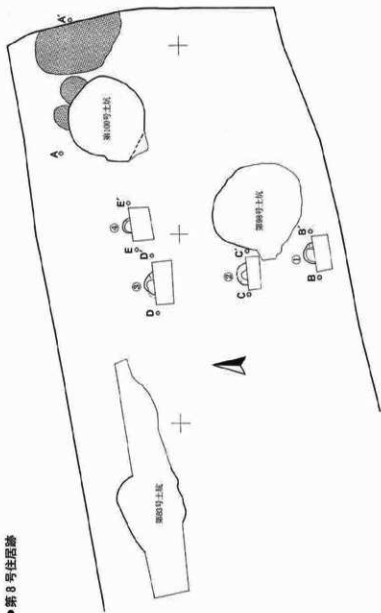


1. 東側壁のIVVのコンクリート。ややもろい。工法とはともなう、やや傾斜有り。
2. 西側壁のIVVのコンクリート。東壁と同様に、やや傾斜有り。
3. 北側壁のIVVのコンクリート。東壁と同様に、やや傾斜有り。
4. 南側壁のIVVのコンクリート。東壁と同様に、やや傾斜有り。
5. 西側壁のIVVのコンクリート。東壁と同様に、やや傾斜有り。
6. 東側壁のIVVのコンクリート。東壁と同様に、やや傾斜有り。
7. 西側壁のIVVのコンクリート。東壁と同様に、やや傾斜有り。
8. 北側壁のIVVのコンクリート。東壁と同様に、やや傾斜有り。
9. 南側壁のIVVのコンクリート。東壁と同様に、やや傾斜有り。

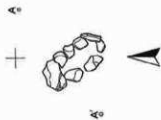


第18図 第7号住居跡

●第8号住居跡



●第9号住居跡



1. 堀込(IVYR6)のシロト 北を向く。1層と2層と、堀込(IVYR6)の周上、内側に存在する中央の堀込、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。
2. 堀込(IVYR6)の周上、内側に存在する中央の堀込、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。
3. 堀込(IVYR6)の周上、2層と1層との中間に、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。
4. 堀込(IVYR6)の周上、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。

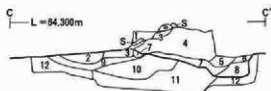
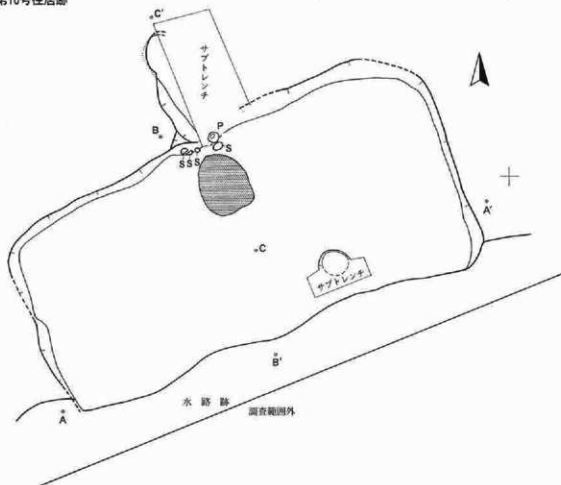


1. 堀込(IVYR6)の周上と堀込(IVYR6)の周上、シロト コーナが多い。2層程度の掘削がある。2層と3層と、堀込(IVYR6)の周上、内側に存在する中央の堀込、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。
2. 堀込(IVYR6)の周上、内側に存在する中央の堀込、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。
3. 堀込(IVYR6)の周上、2層と1層との中間に、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。
4. 堀込(IVYR6)の周上、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。
5. 堀込(IVYR6)の周上、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。
6. 堀込(IVYR6)の周上、堀上より内側の掘削があるが、堀上より内側の掘削は不明。



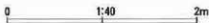
第19図 第8号、第9号住居跡

●第10号住居跡



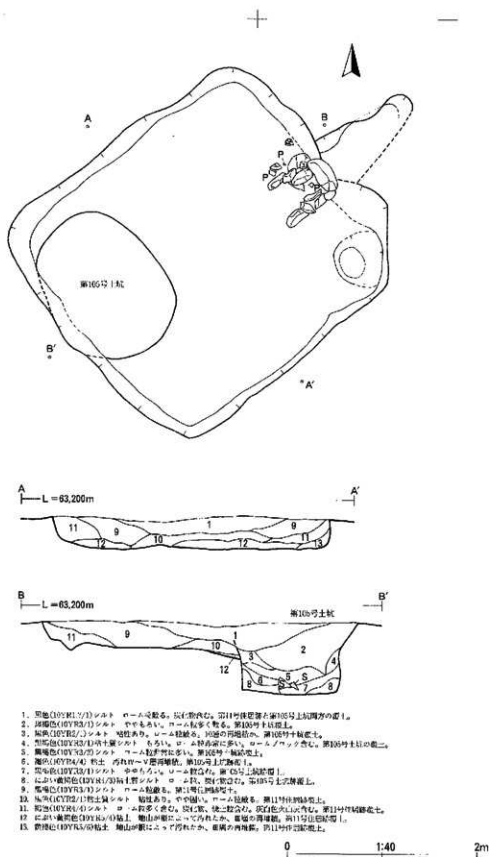
1. 黒色(10YR3/1)シルト ローム粒数多。ラゴボク土。
2. 黒褐色(7.5YR3/1)シルト 1層と2層間の層移的。黒土ブロック含む所がある。
3. 黒褐色(10YR3/1)シルト ローム粒多。黒土ブロック含む。
4. 黒褐色(10YR3/1)シルト ローム粒多。黒土ブロック含む。3層に似るが色調が暗い。住居外に散くモザクを積している土。単大〜単小もある層が多い。
5. 黒褐色(10YR3/1)シルト ローム粒多。4層に似るがより暗く、3層より黄色味が強い。

1. 黒褐色(10YR3/1)シルト もろい。ローム粒数多。住居壁上の4層に同じ。
2. 赤褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。黒土。
3. 黒褐色(7.5YR3/2)シルト 固くしまる。黒土ブロック、炭化物含む。
4. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。ブロック状の塊多く含む。黒腐が顕著したものの。
5. 黒色(10YR2/1)シルト もろい。炭腐に黒土ブロック。煤油の塊土。
6. 濃い黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト ややもろい。ロームブロック。煤油の塊土。
7. 暗褐色(10YR4/1)シルト 固くしまる部分とろい部分あり。煤油塊土。
8. 黒褐色(10YR3/1)シルト ややもろい。2m次の黒土ブロック。ロームブロック多い。炭化物含む。煤油塊土。
9. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。黒土ブロック。炭化物含む。カマノ層より厚土か。
10. 褐色(10YR4/4)シルト 弱め土質の塊土。
11. 濃い黄褐色(10YR4/3)シルト 弱め土質の塊土。
12. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。V層の。



第20図 第10号住居跡

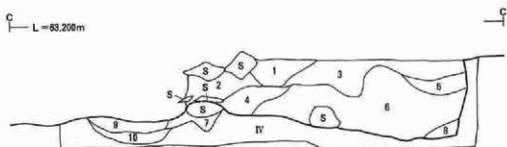
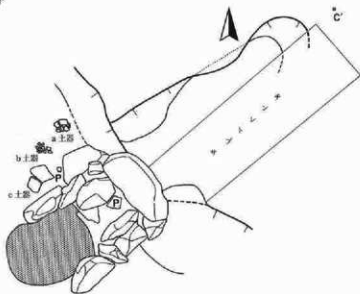
●第11号住居跡



1. 黒色(CYR12/3)シルト ローム状なる。灰化散在。第11号住居跡と第10号土坑間の間に。
2. 黒褐色(CYR12/2)シルト やや多い。ローム状多量散在。第10号土坑底上。
3. 黒赤(CYR12/1)シルト 粘性あり。ローム粒散在。10号の西隣部。第10号土坑底上。
4. 黒褐色(CYR12/1)粘土質シルト もろい。ローム粒非常に多い。ロームブロック含む。第10号土坑の底上。
5. 黒褐色(CYR12/3)シルト ローム粒非常に多い。第10号土坑底上。
6. 黒赤(CYR12/4)粘土 汚れや〜V層の層状。第10号土坑底上。
7. 黒褐色(CYR12/1)シルト 赤褐色の。ローム散在。第10号土坑底上。
8. におい黒褐色(CYR12/3)粘土質シルト ローム粒。灰化散在。第10号土坑底上。
9. 黒褐色(CYR12/1)シルト ローム粒散在。第11号住居跡底上。
10. 黒赤(CYR12/1)粘土質シルト 粘性あり。やや多い。ローム粒散在。第11号住居跡底上。
11. 黒赤(CYR12/4)シルト ローム散在多量。灰化散在。壁土散在。第11号住居跡底上。
12. におい黒褐色(CYR12/4)粘土 粘土が層によって汚れたか。壁層の薄層部。第11号住居跡底上。
13. 黒褐色(CYR12/3)粘土 粘土が層によって汚れたか。壁層の薄層部。第11号住居跡底上。

第21図 第11号住居跡(1)

●第11号住居跡 カマド

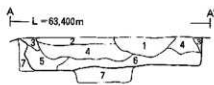


1. 黒色(10YR2/1)シルト ローム状礫層。上面に灰化層。住居層土の1層と同じ?
2. 黒褐色(10YR2/2)シルト もらい。ローム状礫層。住居層土と同じ?
3. 黒褐色(10YR2/2)シルト 灰白色火山灰。ロームブロック含む。
4. 黒褐色(10YR2/2)シルト ややもらい。ロームブロック、焼土ブロック含む。灰化物含む。3層に似る。カマド天井部が露出したもの?
5. 暗褐色(10YR2/3)シルト ローム状礫層。灰化物含む。6層に似るが、より細い。
6. 暗褐色(10YR2/3)シルト 硬化したロームブロック。焼土ブロック含む。ローム較多。灰化物含む。カマド天井部が露出したものらしい。ただし壁面は焼けておらず、硬化していない。
7. 暗褐色(10YR2/2)シルト 赤紫にもらい。ローム状礫層。石をどけてみたところ、2層と同じようである。
8. 暗褐色(10YR2/1)シルト 焼土ブロック含む。
9. 赤褐色(5YR4/5)砂質シルト 焼土。
10. 濃い黄褐色(10YR5/4)砂質シルト 灰層が火を受けて硬化したものを。

0 1:20 1m

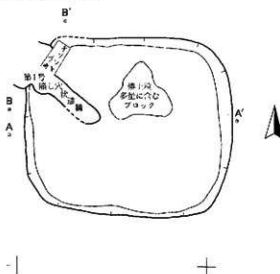
第22図 第11号住居跡(2)

●第1号住居状遺構

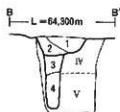


1. 黒褐色(10YR5/2)シメント 5層程度の炭化物多く、ローム状を含む。黒土層に属す。
2. 暗灰色(10YR5/3)シメント 1層より明るく、炭化物の粒小さく少ないが、それ以外は同じ。
3. 褐色(10YR4/4)シメント V層の再堆積。
4. 暗褐色(10YR3/4)シメント 2層よりローム粒多く硬さる。粘土ブロック含む。
5. 褐色(10YR4/4)シメント V層の再堆積が炭化物を含む。
6. 暗褐色(10YR3/4)に高褐色(10YR2/6)がブロック状に入る。粘土質シメント。1層に黒土がV層ブロック多く含む。
7. 深褐色(10YR3/3)粘土。V層が崩れによるクラッキングを受けて汚れたもの。

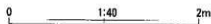
●第2号住居状遺構



1. 灰色(10YR7/1)シメント クロム多。
2. 黒色(10YR2/1)シメント
3. 黒褐色(10YR3/2)シメント ローム粒多い。
4. 黒褐色(10YR3/1)シメント ロームブロック含む。
5. 暗褐色(10YR2/2)シメント デコにロームブロック含む。ローム粒多い。
6. ざらみ武蔵色(10YR4/2)シメント もろい層分あり。ロームブロック含む。
7. 赤褐色(10YR4/3)粘土質シメント ロームブロック多く、埋めもどした予定。
8. 黒褐色(10YR3/1)地に暗褐色に属す暗褐色(10YR5/6)シメント 埋めもどした。
9. 褐色(10YR4/4)単土質シメント 内層のブロック。
10. 深褐色(10YR3/1)粘土質シメント やや固い。上部に褐色(10YR2/1)の層も入るもの。
11. 深赤(10YR2/1)粘土質シメント ややもろい。ロームブロック含む。
12. 暗褐色(10YR3/2)シメント ややもろい。

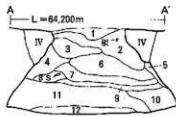
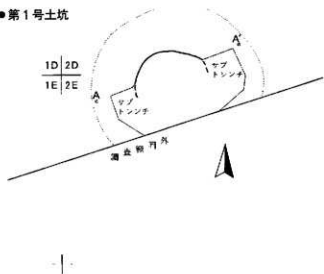


1. 深褐色(10YR3/1)～暗褐色(10YR3/2)シメント ローム状硬さる。炭化物含む。
2. 深褐色(10YR4/1)シメント 粒多あり。内層の再堆積。
3. 粘土質赤褐色(10YR4/3)粘土質シメント 粒多あり。内層の再堆積。
4. 褐色(10YR4/4)単土質シメント 内層硬い。もろい。汚れたIV層の再堆積。



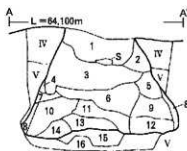
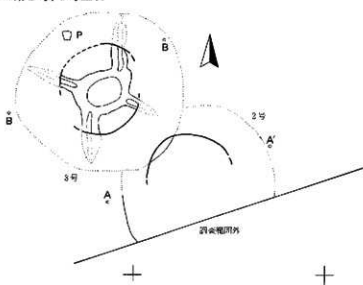
第23図 第1号、第2号住居状遺構

●第1号土坑

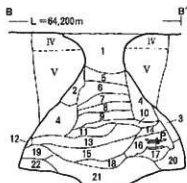


1. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしめる。2~3mmの炭化物多い。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 炭粒あり。汚れIV~V層の再堆積に炭化物含む。
3. によい黄褐色(10YR4/5)シルト ダマ状のロームブロック含む。
4. によい黄褐色(10YR4/5)シルト 炭粒あり。3層によく目立つロームブロック少ない。
5. 褐色(10YR4/4)シルト 非常に多い。汚れIV層の再堆積。
6. によい黄褐色(10YR4/5)シルト V層のブロック含む。炭化物含む。
7. 褐色(10YR4/4)シルト やや少ない。V層のブロック非常に多い。
8. 褐色(10YR4/4)シルト
9. 褐色(7.5YR4/4)シルト 非常に多い。汚れIV層の再堆積。
10. 褐色(7.5YR4/4)シルト 炭粒あり。汚れIV層の再堆積で、9層によく目立つ。より明るい。
11. 褐色(10YR4/4)シルト ローム粒が多い。
12. 褐色(7.5YR4/4)シルト IV~V層の再堆積。

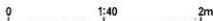
●第2号、3号土坑



1. によい黄褐色(10YR4/5)シルト 炭化物多い。
2. によい黄褐色(10YR4/5)シルト 固くしめる。炭化物含む。1層によく目立つが、より明るい。
3. によい黄褐色(10YR4/5)シルト 炭粒あり。V層のブロック含む。1層と2層の4層間にも含む。
4. 褐色(7.5YR4/4)シルト 非常に多い。V層のブロック含む。
5. 褐色(7.5YR4/4)シルト 炭粒あり。2層によく目立つ。より明るい。
6. 褐色(7.5YR4/4)シルト 炭粒あり。炭化物、小さなロームブロックを含む。
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト ダマ状のロームブロック含む。
8. 褐色(7.5YR4/4)シルト 炭粒あり。非常に多い。
9. 暗褐色(10YR3/4)シルト 1層シルト IV~V層の汚れ再堆積に炭化物含む。
10. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭化物多い。ローム粒含む。
11. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。
12. によい黄褐色(10YR4/5)シルト 固くしめる層分あり。
13. 褐色(10YR4/4)シルト 炭粒あり。
14. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしめる。
15. 褐色(7.5YR4/4)シルト 炭粒あり。非常に多い。
16. 褐色(10YR4/4)シルト 非常に固くしめる。V層が顕著によって炭化したものと思われる。

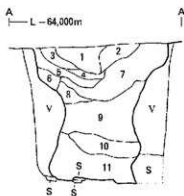
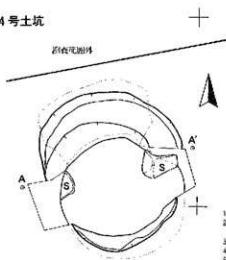


1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしめる。炭化物、ダマ状のロームブロック含む。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト 非常に多い。ローム粒含む。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。炭粒あり。IV~V層の再堆積。
4. によい黄褐色(10YR4/5)シルト 非常に多い。炭粒あり。2層によく目立つが、より明るい。
5. 褐色(7.5YR4/4)シルト 非常に多い。汚れIV層の再堆積。
6. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。炭化物含む。
7. によい黄褐色(10YR4/5)シルト 非常に多い。炭粒あり。炭化物含む。
8. 褐色(7.5YR4/4)シルト 炭粒あり。汚れIV層の再堆積。
9. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしめる。炭化物含む。
10. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。汚れIV層の再堆積。
11. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしめる層分あり。
12. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。
13. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしめる。炭粒あり。
14. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。
15. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。非常に多い。
16. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。非常に多い。
17. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。非常に多い。
18. によい黄褐色(10YR4/5)シルト 非常に多い。ローム粒含む。
19. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。
20. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。
21. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。
22. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭粒あり。非常に多い。



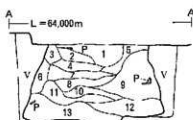
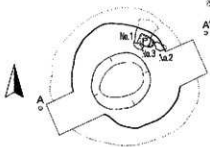
第24図 第1号~第3号土坑

●第4号土坑



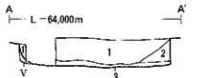
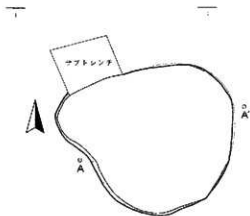
1. 地色(10YR6/4)シロト 固くしまる。Pc2の底。2~10cmの厚さの層。
2. 褐色(10YR5/3)粘土質シロト しまる割合が多い部分あり。IV-V間の赤褐色(黄か-V質プロック)にて割れし癒し。
3. 白色(10YR8/4)シロト 固くしまる。IV-V間の厚層(黄か-V質プロック)の1層に上癒し。
4. 土黄色(10YR6/3)シロト 固くしまる。1層と2層とを7cm(無層状)に癒し。
5. 褐色(10YR5/3)粘土質シロト しまる割合と厚さの異なる層と2層とを7cm(無層状)に癒し。
6. 褐色(10YR4/3)シロト もろい。2~5cm厚のV質プロックあり。
7. 7層(10YR4/3)シロト 固くしまる。1~2cmの厚さの層。V質プロックあり。
8. 土黄色(10YR6/3)粘土質シロト 固くしまる。黄かIV-V間の厚層(黄か-V質プロック)に依り癒す。
9. 褐色(10YR4/3)粘土質(10YR3/3)をだて入る。粘土質シロト もろい。IV-V間の赤褐色(V質プロック)は1cm厚だが、2cm厚のものも1層上の層に、所々見られる。
10. 黄褐色(10YR5/3)粘土質シロト もろい。IV-V間の赤褐色(1~2cm厚のV質プロック)あり。
11. 黄褐色(10YR5/3)シロト もろい。8層と9層とを7cmにIV-V間の厚層(黄か-V質プロック)で癒す。

●第5号土坑



1. 褐色(10YR5/3)シロト 2~3cmの厚さの層。
2. 褐色(10Y5/4)粘土質シロト 固くしまる。V層の再堆積に依り癒す。
3. 褐色(10Y5/3)シロト ややもろい。
4. 褐色(10YR5/3)シロト 2~3cmの厚さの層。
5. 褐色(10YR4/3)粘土質シロト V層の粘土質層。
6. 褐色(10YR4/3)シロト 厚層あり。ややもろい。3,7層とはほとんど同じだが、もろい。
7. 土黄色(10YR6/3)シロト 3層と4層とをほとんど同じだが、ややもろい。
8. 褐色(10YR4/3)粘土質シロト 固くしまる。V層の再堆積に依り癒す。
9. 褐色(10YR4/3)粘土質シロト V層のプロックあり。IV-V間の赤褐色。
10. 黄褐色(10YR5/3)シロト 固くしまる。
11. 土黄色(10YR6/3)粘土質シロト IV-V間の再堆積に依り癒す。
12. 褐色(10YR4/3)粘土質(10YR4/6)をだて入る。粘土質シロト もろい。IV層の粘土質層。
13. 黄褐色(10YR5/3)に褐色(10YR4/6)の小ブロックあり。シロトもろい。

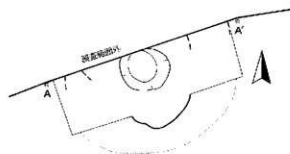
●第6号土坑



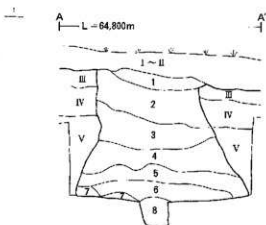
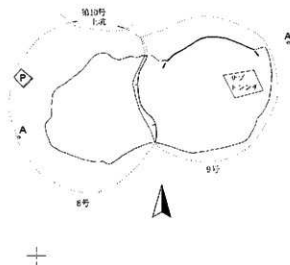
1. 褐色(10YR4/3)シロト 固くしまる。黄褐色(土)に依り粘土質プロックに癒す。明らかに癒した上。
2. 土黄色(10YR6/3)をだて(10YR6/6)の層。粘土質シロト IV-V間の再堆積。
3. 土黄色(10YR6/3)粘土質シロト 赤褐色に癒す。V層の再堆積に依り癒す。

第25図 第4号~第6号土坑

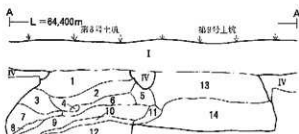
●第7号土坑



●第8、9号土坑



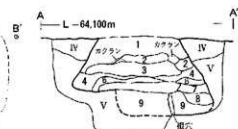
1. 土坑底(10YR4/2)シルト Ⅲ～Ⅴ層ブロック多。2～3mの硬化層。焼土見出し。埋戻し土に似る。
2. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 以佐物。強～弱粘土。高度の層厚と区別できない。
3. 褐色(10YR4/6)に黒褐色(10YR2/2)のある。粘土質シルト。しまり強と柔らかい部分あり。骨～骨層/ワラ層を含む層に似る。
4. 灰褐色(10YR6/5)粘土質シルト 骨～骨層の層に似る(骨質ブロック含む)。
5. 褐色(10YR4/6)に黒褐色(10YR2/2)のある。粘土質シルト。しまり強と柔らかい部分あり。
6. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 弱くしまる。包埋は少ないが、3層とほとんど同じ。
7. におい黄褐色(10YR4/3)に黒褐色(10YR2/2)ブロック層の。シルト。しまり強部分もあり埋戻しあり。6層とほとんど同じだが、Ⅴ層ブロック層。
8. におい黄褐色(10YR4/3)に黒褐色(10YR2/2)ブロック層の。シルト。柔らかい。7層とほとんど同じだが、Ⅴ層ブロック層に、柔らかい。



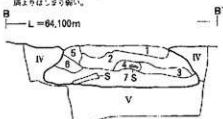
1. 灰色(10YR4/0)砂質シルト 弱くしまる。骨～骨層。灰化層含む。15層によく似る。第8号土坑の底上。
2. におい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト 弱くしまる。1層によく似るが、より軟く、骨～骨層の層を含む。第8号土坑の底上。
3. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。2層とほとんど同じだが、より軟い。第8号土坑の底上。
4. におい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト 弱くしまる。Ⅴ層のブロック。第8号土坑の底上。
5. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。2層とほとんど同じだが、より軟い。15層に子集によく似るが、第8号土坑の底上。
6. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。3層とほとんど同じだが、より軟く。第8号土坑の底上。
7. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。3層とほとんど同じだが、ワラの骨質層を含む。より軟い。第8号土坑の底上。
8. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。4層とほとんど同じだが、ワラの骨質層を含む。より軟い。第8号土坑の底上。
9. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。骨～骨層の層に似る。第8号土坑の底上。
10. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。骨～骨層の層に似る。第8号土坑の底上。
11. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。骨～骨層の層に似る。第8号土坑の底上。
12. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。骨～骨層の層に似る。第8号土坑の底上。
13. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。骨～骨層の層に似る。第8号土坑の底上。
14. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 弱くしまる。骨～骨層の層に似る。第8号土坑の底上。

第26図 第7号～第9号土坑

●第10,11号土坑

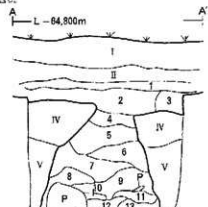
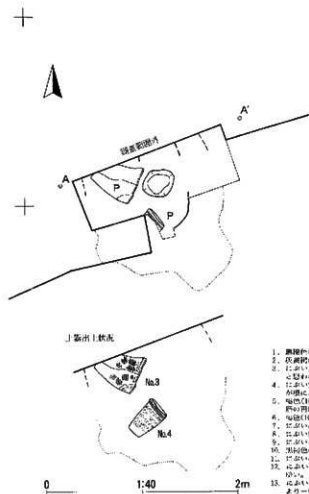


1. 黄砂土(10YR5/3)シット。堀によるカクタン多く、溝のソコゾ。IV～V間の付随物。
2. 紅土(10YR4/4)シット。固くしまる。浅れた層～V層の付随物。
3. No土(10YR4/4)シット。固くしまる。3mm程度の石灰粒多く含む。石灰粒散らばり。IV～V間の付随物。
4. 黄砂土(10YR5/6)層に黄砂土(10YR6/2)シット。固くしまる。石灰粒散らばり。IV～V間の付随物。
5. 黄砂土(10YR5/6)粘土質シット。固くしまる。IV～V間の付随物。
6. 石灰質黄砂土(10YR6/2)シット。固くしまる。硬質物、多く含む。
7. 石灰質黄砂土(10YR6/2)シット。固くしまる。砂粒とほとんと同じだが、粘り強い。
8. 黄砂土(10YR5/4)シット。固くしまる。粘り強い。層によるカクタン多。
9. 黄砂土(10YR5/4)粘土。V層が厚いによるカクタンを受けよう。V層よりは粘り強い。



1. 石灰質黄砂土(10YR6/2)上に黄砂土(10YR5/7)の層。粘土質シット。固くしまる。レンガ色の上のブロック。石灰質強い。
2. 黄砂土(10YR5/6)粘土質シット。固くしまる。石灰質強い。石灰質強い。
3. 黄砂土(10YR5/6)粘土質シット。固くしまる。2層に粘るの石灰質多。石灰質強い。
4. 石灰質黄砂土(10YR6/2)粘土質シット。固くしまる。
5. 黄砂土(10YR5/4)粘土。固くしまる。IV～V間の付随物。
6. 黄砂土(10YR5/4)粘土。固くしまる。IV～V間の付随物。堀によるカクタン多。
7. 黄砂土(10YR5/4)シット。粘り強い。石灰質強い。石灰質強い。

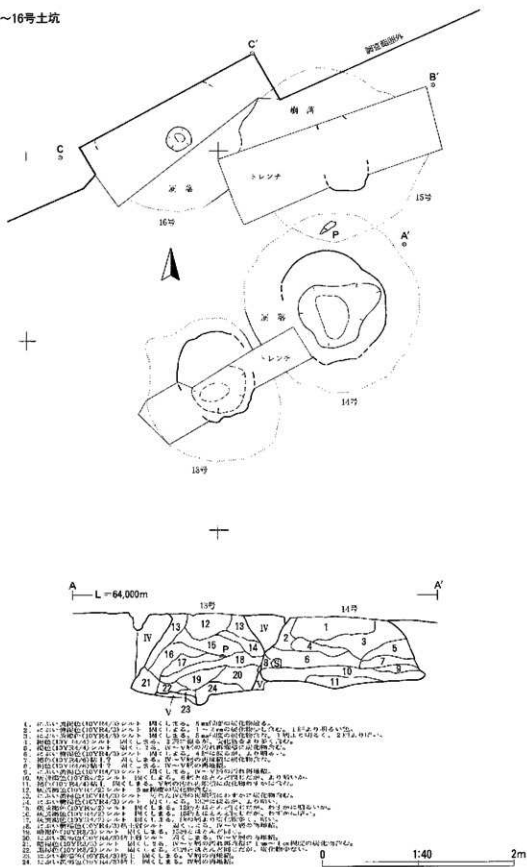
●第12号土坑



1. 黄砂土(10YR5/3)シット。固くしまる。
2. 黄砂土(10YR5/3)シット。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
3. 石灰質黄砂土(10YR6/2)シット。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
4. 石灰質黄砂土(10YR6/2)シット。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
5. 黄砂土(10YR5/4)粘土。4層との違いは石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
6. 黄砂土(10YR5/4)粘土。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
7. 石灰質黄砂土(10YR6/2)粘土。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
8. 石灰質黄砂土(10YR6/2)粘土。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
9. 石灰質黄砂土(10YR6/2)粘土。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
10. 黄砂土(10YR5/3)粘土。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
11. 石灰質黄砂土(10YR6/2)シット。粘り強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
12. 石灰質黄砂土(10YR6/2)シット。粘り強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。
13. 石灰質黄砂土(10YR6/2)シット。粘り強い。石灰質強い。石灰質強い。石灰質強い。

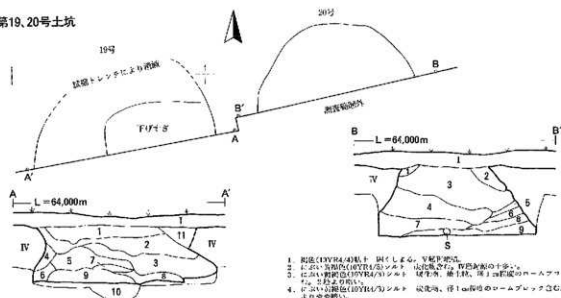
第27図 第10号～第12号土坑

●第13～16号土坑



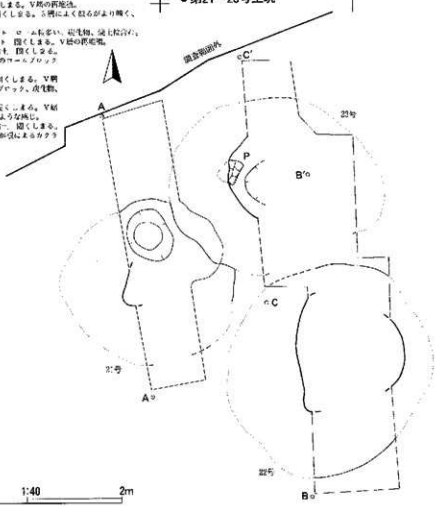
1. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
2. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
3. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
4. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
5. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
6. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
7. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
8. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
9. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
10. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
11. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
12. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
13. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
14. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
15. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
16. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
17. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
18. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
19. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
20. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
21. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
22. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
23. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。
24. 穴(13号)の断面図(13号)の断面図。同じくして、IV-V層の境界線を示す。

●第19、20号土坑

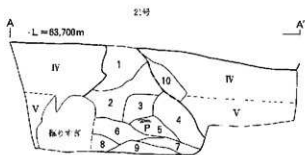


1. 陶器(IVYR4/4)シット 隠くしまる。炭化物多い。V層と2層の境界線。
2. 土の多い陶器(IVYR3/3)シット 隠くしまる。炭化物量も多い。ブー状のロームブロックあり。
3. 陶器(IVYR4/4)シット 隠くしまる。2層とよく混るが、より混る。炭化物少ない。
4. 陶器(IVYR4/4)シット 隠くしまる。V層の陶器類。
5. 陶器(IVYR4/4)シット 隠くしまる。5層によく混るがより混る。土層より多い。
6. 灰包(IVYR4/4)粘土層シット ロムが多い。炭化物、焼土粒あり。
7. 灰包(IVYR4/4)粘土層シット 隠くしまる。V層の陶器類。
8. 土の多い陶器(IVYR4/4)シット 隠くしまる。IV-V層の陶器類にブー状のロームブロックあり。
9. 炭化物(IVYR5/4)物上 隠くしまる。V層の陶器類にブー状のロームブロック、炭化物、焼土粒あり。
10. 陶器(IVYR5/4)物上 隠くしまる。V層に混っているが、やや混ったような感じ。
11. 土の多い陶器(IVYR4/4)物上 隠くしまる。炭化物と焼土に多い。お粥が混りこんだ状態をみられる。

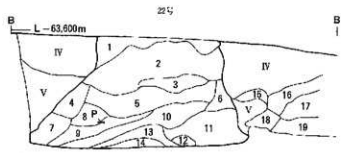
●第21～23号土坑



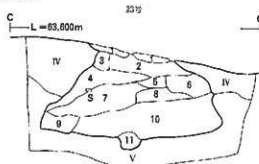
第30図 第19号、第20号土坑、第21号～第23号土坑(1)



1. 土の黄色(IVYR/2)地に黄褐色(CYR/5)の層、シルト コム较多く、1mm以上の炭化物あり。
2. 土の黄褐色(IVYR/2)シルト 同くしる。1層に黒みを、コム多し中なく、炭化物の粒が大きい(3~5mm)。
3. 土の黄褐色(IVYR/2)シルト 2層よりさらにコム減少ない。
4. 褐色(IVYR/4)シルト 同くしる。IV~V層の厚縮む。3~5mmの炭化物あり。
5. 灰黄色(IVYR/4)シルト 同くしる。3層とほとんど同じだが、より細い。
6. 灰黄色~土の黄褐色(IVYR/2)シルト 粘り強い、コム多、炭化物含む。炭も細い。
7. 土の黄褐色(IVYR/2)シルト 粘り強い、IV~V層の内れ薄縮む。
8. 褐色(IVYR/4)の上に黄褐色(IVYR/5)の炭土、シルト 粘り強い、6層に似るが、まろ ム多し。
9. 土黄(IVYR/4)の層上、もはや炭土は同くしる3層あり。IV~V層の厚縮む。
10. 土の黄褐色(IVYR/2)地に黄褐色(CYR/5)の層、シルト 1層に黒みをよく見らる、コム多し、炭化物ほとんど皆ない。層によるラフランド考える。



1. 褐色(IVYR/4)の上に黄褐色(IVYR/5)の層、シルト IV層が層によるラフランドを受けたものらしい。
2. 褐色(IVYR/4)の層、ごくわずかに黄褐色の炭土あり。粘りの厚縮む。
3. 褐色(IVYR/4)に黒褐色(IVYR/5)の層、シルト もろい、IV層の厚縮む、炭土あり。
4. 土黄(IVYR/4)の層、IV~V層の厚縮む。
5. 褐色(IVYR/4)の層、同くしる。3層とほとんど同じだが、より細い。
7. 黄褐色(IVYR/4)の層、IV~V層の厚縮む。
8. 褐色(IVYR/4)シルト もろい、IV~V層の厚縮む。
9. 灰黄色(IVYR/4)シルト 中もろい、炭も細い。
10. 褐色(IVYR/4)シルト 粘り強い、IV層の厚縮む。
11. 灰黄色(IVYR/4)の層上、非常に細く、まろ縮む(3層)あり。IV~V層の厚縮む。赤土上のV層アックあり。
12. 褐色(IVYR/4)の層上、もろい、IV~V層の厚縮む。
13. 灰黄色(IVYR/4)シルト 粘り強い、3層に似るが、コム多し。
14. 土黄(IVYR/4)の上に黄褐色(IVYR/5)の層、シルト 粘り強い、1層に似るが、土層にV層アックあり。
15. 黄褐色(IVYR/5)の上に黄褐色(IVYR/5)の層、黒土 非常に同くしる。Vの層によるラフランドを受けたもの。
16. 黄褐色(IVYR/5)の層
17. 黄褐色(IVYR/5)の層
18. 黄褐色(IVYR/5)の層
19. 黄褐色(IVYR/5)の層

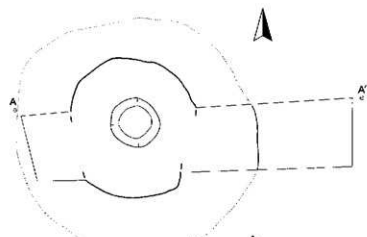


1. 褐色(IVYR/4)シルト 同くしる。
2. 褐色(IVYR/4)シルト 同くしる。3層程度の炭化物あり。
3. 褐色(IVYR/4)シルト 3層の炭化物は炭化していないと見られ、炭が小さい。
4. 褐色(IVYR/4)シルト 同くしる。コムアック縮むに似るが、粘り強い。
5. 褐色(IVYR/4)シルト 同くしる。粘り強い、炭も細い。
6. 褐色(IVYR/4)シルト 粘り強い、IV層の内縮む。
7. 土の黄褐色(IVYR/2)シルト 同くしる。炭も細い、炭化物は炭が多い。
8. 褐色(IVYR/4)シルト 同くしる。粘り強い、炭も細い。
9. 褐色(IVYR/4)シルト 同くしる。粘り強い、IV層の厚縮む。
10. 褐色(IVYR/4)シルト 同くしる。粘り強い、IV層の厚縮む。
11. 褐色(IVYR/4)の層上、粘り強い、IV層の厚縮む。

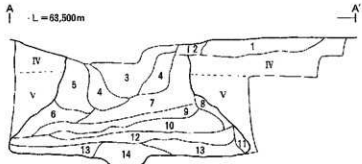
0 1:40 2m

第31図 第21号~第23号土坑(2)

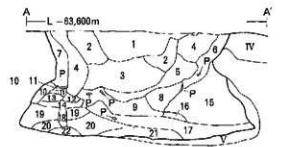
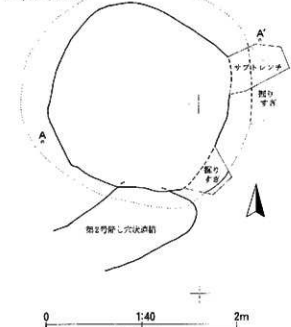
●第24号土坑



1. ほぼ円形溝底(10YR4/2)シメント 厚壁中継で何れな様。下部が
なまりないので別の半坑とはせず、25号坑土坑と同様に判断。
2. 溝底(10YR4/1)土に灰褐色(10YR4/7)の砂。シメント。ローム
多し。灰褐色の砂が混入。1層より多量に存在するがランダム。
3. 溝底内(10YR4/1)シメント 1層程度の灰化物多し。
4. 溝底(10YR5/1)と別地(10YR4/4)の延長。シメント 1層程度
の灰化物多し。
5. 立脚地(10YR5/5)地に灰褐色(10YR4/7)の砂。シメント 灰化
物多し。灰化の内外層構造。
6. 立脚地(10YR5/5)地上。立脚地の細かいブロック構造。
7. 立脚地(10YR4/5)溝にわずかに灰褐色(10YR5/1)の砂。粘土。立
脚地の厚層状灰化物多し。
8. 立脚地(10YR4/5)地上。立脚地の粗粒層状。
9. 立脚地内(10YR4/2)シメント 灰化物多し。
10. 立脚地(10YR4/3)地に灰褐色(10YR4/7)の砂。粘土。IV-V
層の厚層状。
11. ほぼ円形溝底(10YR4/3)シメント 赤褐色もあり。ローム多量。
12. 溝底(10YR4/1)シメント
13. 立脚地(10YR4/2)シメント 11層とほとんど同じだが、より明
か。
14. ほぼ円形溝底(10YR4/2)シメント 11層とよく似るが、より明か。



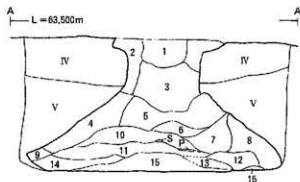
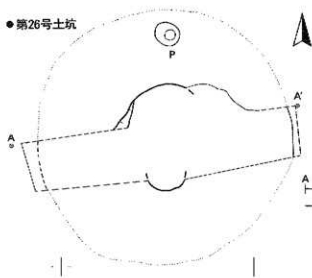
●第25号土坑



1. 溝底(10YR2/2)シメント 固くしまる。ローム多量。灰化物にわずかに含む。
2. 溝底(10YR2/2)シメント 固くしまる。1層とほとんど同じだが、より明か。
3. 立脚地(10YR2/2)シメント 固くしまる。1層とほとんど同じだが、色も明か。
4. 溝底内(10YR2/2)シメント 固くしまる。ローム多量。灰化物多し。
5. 溝底(10YR2/2)シメント 固くしまる。ローム多量。灰化物多し。
6. 溝底(10YR3/4)シメント 固くしまる。内層V層の立脚地に灰化物多し。
7. 溝底(10YR3/4)シメント 固くしまる。5層によく似るが、基本的な色調がこ
ろり。
8. 溝底(10YR3/2)シメント 固くしまる。ローム多量。灰化物多し。
9. 溝底(10YR3/2)シメント 固くしまる。灰化物多し。
10. 溝底(10YR3/2)シメント 固くしまる。灰化物多し。
11. 溝底(10YR3/2)シメント 固くしまる。灰化物多し。
12. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
13. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
14. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
15. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
16. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
17. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
18. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
19. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
20. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
21. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。
22. 溝底(10YR4/4)粘土質シメント 赤褐色もあり。粘土あり。内層V層の厚層状。

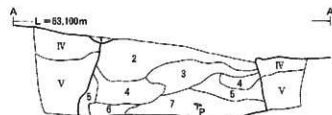
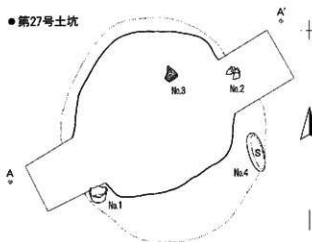
第32図 第24号～第25号土坑

●第26号土坑

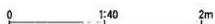


1. 黄褐色(IVYB3/1)と赤褐色(IVYB3/3)の混じりシロト。固くし、また、細かい酸化鉄質、ロームが多い。
2. 灰褐色(IVYB4/2)と黄褐色(IVYB4/6)の混じり。砂。
3. 黄褐色(IVYB3/4)の砂。IV-V間の境界部でV層がブロック状。
4. 灰褐色(IVYB3/2)シロト。粗粒多い。ローム多。
5. 灰褐色(IVYB3/2)シロト。粗粒多い。ローム多。炭化物多。
6. 灰褐色(IVYB3/2)シロト。粗粒多い。ローム多。炭化物多。
7. 灰褐色(IVYB4/2)と黄褐色(IVYB3/3)の混じり。シロト。粗粒多い。ローム多。鉄質多。鉄質多。
8. 灰褐色(IVYB4/2)と黄褐色(IVYB3/3)の混じり。シロト。鉄質多。鉄質多。
9. 黄褐色(IVYB3/4)の砂。IV-V間の境界部。
10. 黄褐色(IVYB3/4)と黄褐色(IVYB3/2)の混じり。砂。粗粒の粗粒多。
11. 黄褐色(IVYB3/2)シロト。粗粒多。酸化鉄多。5層に鉄質多。
12. 赤褐色(IVYB3/3)の砂。粗粒多。IV層の粗粒多。粗粒多。
13. 赤褐色(IVYB3/3)と黄褐色(IVYB3/6)の混じり。No.1。粗粒多。鉄質多。
14. 黄褐色(IVYB4/2)シロト。粗粒多。IV層の粗粒多。粗粒多。
15. 黄褐色(IVYB4/2)シロト。鉄質多。IV層の粗粒多。粗粒多。

●第27号土坑

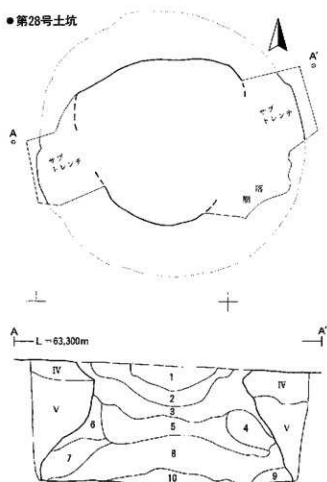


1. 赤褐色(IVYB4/2)シロト。粗粒多。酸化鉄多。
2. 黄褐色(IVYB4/2)シロト。粗粒多。酸化鉄多。
3. 赤褐色(IVYB4/2)シロト。粗粒多。酸化鉄多。
4. 黄褐色(IVYB4/2)シロト。粗粒多。酸化鉄多。
5. 黄褐色(IVYB4/2)シロト。粗粒多。酸化鉄多。
6. 黄褐色(IVYB4/2)シロト。粗粒多。酸化鉄多。
7. 赤褐色(IVYB4/2)シロト。粗粒多。酸化鉄多。



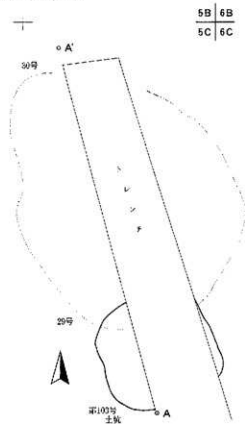
第33図 第26号、第27号土坑

●第28号土坑



1. 堀内(IVR4/3)坑土 堀くさまる。西側の耳無状。
2. 横溝掘込(IVR4/2)シット 1-5mの炭化物含む。
3. 堀内(IVR4/3)シット IV部の汚濁層中に3m程度の炭化層含む。
4. 堀内(IVR4/3)坑土 V部のボツトレンチ跡で、西側の耳も崩れる。
5. 堀内(IVR4/3)坑土 3層と5mと同じだが、入り替る。
6. 堀内(IVR4/3)坑土 4層のほとんど同じ。
7. 堀内(IVR4/3)坑土 6層によく似るが、西側北縁の土加角まないうである。
8. 堀内(IVR4/3)坑土 炭化層(IVR4/2)の底 跡上 やや多い。3層とほとんど同じ。西側埋土はV部のこまかいワラコを多く含む。目録参照。
9. 堀内(IVR4/3)坑土 もない。V部の掘かいブロッコ跡あり。
10. 横溝掘込(IVR4/2)シット 5層の掘かいブロッコ。炭化物あり。

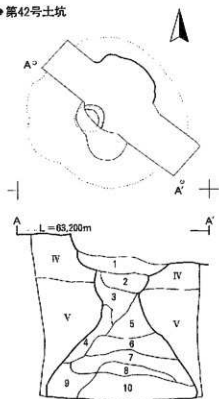
●第29、30号土坑



1. 横溝掘込(IVR4/2)シット 5m程度の炭化物埋土あり。下段に土器破片。目録参照。
2. 堀内(IVR4/4)シット 汚濁層層層。第29号上上。
3. 二層の横溝掘込(IVR4/2)シット 1層の掘かい。より厚く炭化層少ない(1m程度のもの)。第29号上上。
4. 横溝掘込(IVR4/2)坑土? 西側等深部。第29号上上。
5. 横溝掘込(IVR4/2)坑土? 4層とほとんど同じだが、より多い。第29号上上。
6. 二層の横溝掘込(IVR4/2)坑土 炭化層中にIVR4/5)の泥。シット 横溝ブロッコあり。第29号上上。
7. 横溝掘込(IVR4/2)坑土 西側埋土に1m程度の炭化層のこまこまの。両坑同一。
8. 横溝掘込(IVR4/2)坑土 西側の埋土。7層とほとんど同じ。横溝上上。
9. 堀内(IVR4/3)シット やや多い。第29号上上。
10. 堀内(IVR4/3)坑土 IV部埋土。横溝上上。
11. 横溝掘込(IVR4/2)坑土と横溝掘込(IVR4/2)の横上。シット IV部埋土含む。1m程度の炭化層のすか。第29号上上。
12. 横溝掘込(IVR4/2)シット 2層とほとんど同じだが炭化物もより多いようだ。第30号上上。
13. 堀内(IVR4/3)シット 汚濁層層層にIV部埋土を含む。炭化層含む。第30号上上。
14. 横溝掘込(IVR4/2)シット IV部埋土多。
15. 横溝掘込(IVR4/2)シット IV部埋土多。
16. 横溝掘込(IVR4/2)坑土 IV部の埋土。
17. 横溝掘込(IVR4/3)坑土 やや厚く内れているが、西側の一部が。
18. 横溝掘込(IVR4/3)坑土 やや厚く内れているが、西側の一部が。本根多。

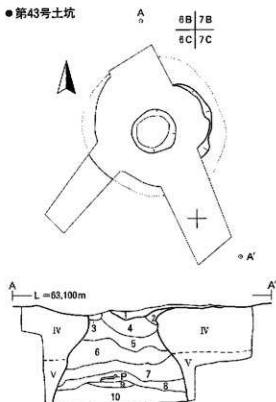
第34図 第28号～第30号土坑

●第42号土坑



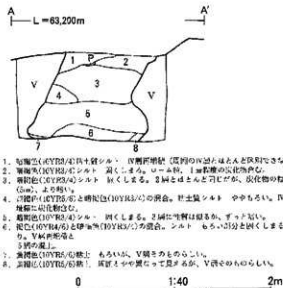
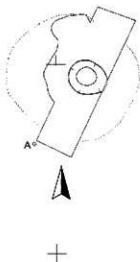
1. 層位(IVYB4)のシルト 厚約10cm、ブロック多し、灰化現象あり。
2. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。ブロック多し。
3. 層位(IVYB3)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
4. 層位(IVYB3)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
5. 層位(IVYB3)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
6. 層位(IVYB3)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
7. 層位(IVYB3)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
8. 層位(IVYB3)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
9. 層位(IVYB3)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
10. 層位(IVYB3)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。

●第43号土坑



1. 層位(IVYB4)のシルト 厚約10cm、ブロック多し、灰化現象あり。
2. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
3. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
4. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
5. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
6. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
7. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
8. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
9. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
10. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。

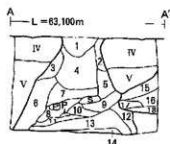
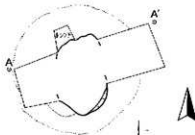
●第44号土坑



1. 層位(IVYB4)のシルト 厚約10cm、ブロック多し、灰化現象あり。
2. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
3. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
4. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
5. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
6. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
7. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。
8. 層位(IVYB4)のシルト 厚くしまる。2層位はほとんど同じだが、より暗い。

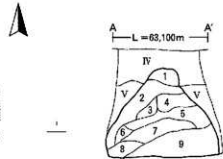
第38図 第42号～第44号土坑

●第45号土坑



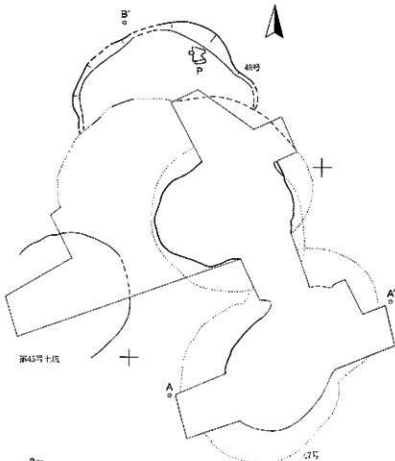
1. 灰赤褐色(SYR4/2)シルト 2-3cmの炭化木、同じ大きさのロームブロック多い。
2. 褐色(SYR4/4)粘土に灰赤褐色(SYR4/2)の泥。シルト、細く多量。灰化物あり。ロームブロック多い。
3. におい黄褐色(SYR4/2)シルト 土質はほとんど同じだが、よりローム多量、灰色。
4. 灰赤褐色(SYR4/2)シルト 細く多量。1層より厚く、3層より薄い灰赤褐色とほぼ同じ。
5. におい黄褐色(SYR4/2)シルト 細く多量。3層よりはるかに厚い。
6. におい黄褐色(SYR4/2)シルト 3層とほとんど同じがより厚く、4層より多い。
7. 灰赤褐色(SYR4/2)シルト 4,6層とはほとんど同じだが、より厚い。
8. 灰赤褐色(SYR4/2)シルト 粘り強い。6,7層とはほとんど同じだが、ローム泥より多く黄色い。
9. におい黄褐色(SYR4/2)シルト 粘り強い。同じく多量。層が厚くほとんど同じだが、3cm大のロームブロック多い。
10. におい黄褐色(SYR4/2)シルト 細く多量。8層よりロームブロック少く軽い。
11. 褐色(SYR4/4)粘土 やや少ない。IV層の再堆積。
12. 灰赤褐色(SYR4/2)シルト 細く多量。3層とほとんど同じだが、ロームブロック少ない。
13. 灰赤褐色(SYR4/2)シルト 細く多量。
14. におい黄褐色(SYR4/2)シルト 細く多量。粘り強い。1層よりはるかに厚い。ロームブロックほとんど含まない。
15. 褐色(SYR4/4)粘土 赤褐色。IV層の再堆積に炭化木あり。家の土柱の礎上。
16. 灰赤褐色(SYR4/2)シルト 粘り強い。ほとんど同じで、1層より厚い。家の土柱の礎上。
17. 灰赤褐色(SYR4/2)シルト 粘り強い。ほとんど同じで、1層より厚い。家の土柱の礎上。5cm大のロームブロック多い。鉄の上の礎上。

●第46号土坑



1. 褐色(SYR4/2)粘土シルト やや少ない。炭化木あり。
2. 褐色(SYR4/2)粘土シルト 粘土多量。炭化木あり。
3. 褐色(SYR4/2)粘土 少ない。IV層の再堆積。
4. 褐色(SYR4/2)粘土 少ない。IV層の再堆積。3層よりやや厚い。
5. 褐色(SYR4/2)粘土 少ない。粘り強い。IV層の再堆積。
6. 褐色(SYR4/4)粘土 少ない。粘り強い。IV層の再堆積。
7. 褐色(SYR4/4)粘土 少ない。粘り強い。IV層の再堆積。
8. 褐色(SYR4/2)粘土シルト 赤褐色。IV層の再堆積。
9. 褐色(SYR4/4)粘土 粘り強い。IV層の再堆積。

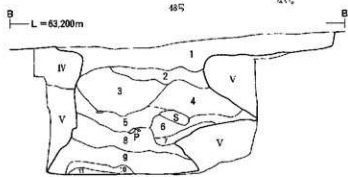
●第47号、48号土坑



第39図 第45号、第46号土坑、第47号、第48号土坑(1)

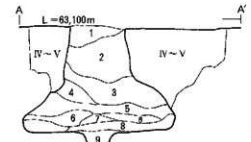
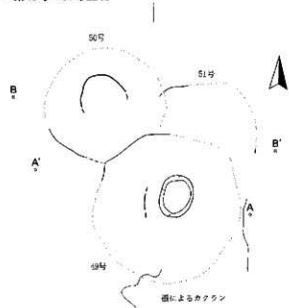


1. 紫褐色(10YR5/2)シルト 固く締まる。5mm程度のV型ブロック、3~5mmの炭化植物体。前記と区別された。
2. 紫褐色(10YR5/2)と紫褐色(10YR5/3)の混合。シルト 均質の均質塊。
3. 灰白色(10YR8/4)粘土 V型ブロック(そのものに近い)。上が厚くなる。
4. 近い黄褐色(10YR4/2)シルト 固く締まる。1~2mmの炭化植物体。下に紫褐色が、より軽い。
5. 紫褐色(10YR5/4)シルト 1, 4, 6の中間。
6. 褐色(10YR4/4)シルト 4層より厚~V型ブロック。ブロックから多く出る。
7. 均質(10YR5/3)シルト 下に紫褐色。V型ブロックが多数のものを有する。紫のカタクリが多い。
8. 紫褐色(10YR5/4)シルト 固く締まる。2層に紫褐色が、より軽い。
9. 紫褐色(10YR5/4)と黄褐色(10YR5/3)ブロック混合。シルト 固く締まる。7層に紫褐色が、炭化植物が多い。その間にカタクリ。
10. 均質(10YR5/3)シルト 均質であり、もろい部分あり。7層に紫褐色が厚い層の1~5mmと入る。やや軽い。紫によるカタクリあり。
11. 紫褐色(10YR5/4)シルト 固く締まる。2層とほとんど同じだが、V型ブロックはほとんど入らない。

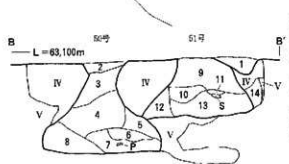


1. 褐色(10YR4/4)と灰(10YR6/6)ブロック入り。シルト 季次のIV~V層ブロック混合。3~5mmの炭化植物体。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 1層とほとんど同じだが、やや軽い。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 1層に紫褐色が、5cmのIV~V層ブロック混入でより軽い。
4. 均質(10YR5/4)シルト 3層とほとんど同じだが、ブロック少ない。
5. 均質(10YR5/4)シルト 4層とほとんど同じだが、より軽い。
6. 均質(10YR5/4)と紫褐色(10YR5/3)とまざり入る。シルト 固く締まる。4層とほとんど同じだが、より軽い。
7. 褐色(10YR4/4)と紫褐色(10YR5/3)の小ブロック入る。シルト 固く締まる。5層とほとんど同じだが、より軽い。
8. 褐色(10YR4/4)と紫褐色(10YR5/3)ブロック入り。シルト 固く締まる。5層とほとんど同じだが、ブロック3~5mm。
9. 均質(10YR5/4)シルト 5層とほとんど同じ。
10. 均質(10YR5/3)と均質(10YR5/4)ブロック入り。シルト 固く締まる。基本的な性質は5層と同じだが軽い。
11. 黄褐色(10YR6/6)と均質(10YR5/3)ブロック入り。地上層シルト 固く締まる。V層の再堆積。

● 第49号~51号土坑



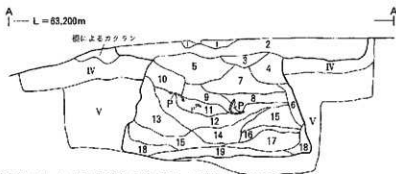
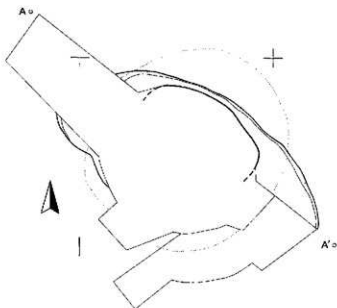
1. 均質(10YR5/3)シルト 固く締まる。炭化植物体。
2. 紫褐色(10YR5/3)粘土質シルト 固く締まる。5mm程度のV型ブロック、2mm程度の炭化植物体が多い。
3. 近い黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト 固く締まる。2層に紫褐色が、やや多い。
4. 紫褐色(10YR5/4)粘土質シルト 固く締まる。3層とほとんど同じだがより軽い。
5. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固く締まる。2層に紫褐色。
6. 均質(10YR5/4)粘土 均質の均質塊。炭化植物体。
7. 灰白色(10YR8/2)シルト 炭化植物体。5層に紫褐色。
8. 均質(10YR5/4)シルト 固く締まる。もろい部分あり。炭化植物体が多い。
9. 均質(10YR5/4)シルト ボツボツ。IV層の再堆積に炭化植物体。



1. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト 紫による均質。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 固く締まる。炭化植物体。均質の土層堆積上。
3. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト アーレンの多い。炭化植物体。均質の土層堆積上。
4. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト 3層より軽い。炭化植物体。均質の土層堆積上。
5. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト ケムシ。ブロックが多い。炭化植物体。均質の土層堆積上。
6. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト 炭化植物。均質の土層堆積上。
7. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト 均質。炭化植物体。4層より軽く。均質の土層堆積上。
8. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト 固く締まる。均質の土層堆積上。
9. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト 均質。均質の土層堆積上。
10. 褐色(10YR4/4)シルト 均質。均質の土層堆積上。
11. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固く締まる。炭化植物体。均質の土層堆積上。
12. 近い黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 固く締まる。炭化植物体。均質の土層堆積上。
13. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト V層の再堆積によって汚染。均質の土層堆積上。
14. 近い黄褐色(10YR5/4)シルト V層の再堆積によって汚染。均質の土層堆積上。

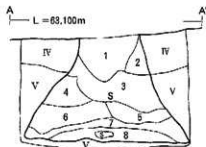
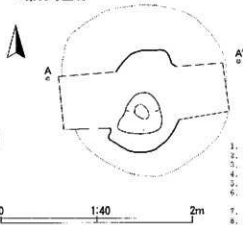
第40図 第47号、第48号土坑(2)、第49号~第51号土坑

●第52号土坑



- 1 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 2 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 3 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 4 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 5 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 6 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 7 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 8 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 9 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 10 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 11 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 12 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 13 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 14 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 15 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 16 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 17 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。
- 18 褐色(10YR5/6)シロト 1層厚の炭化物層。底層に属して内容不詳。

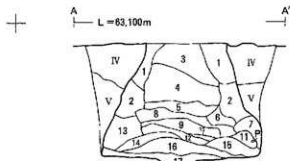
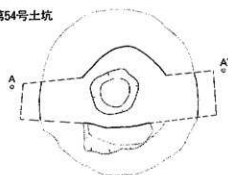
●第53号土坑



- 1 二色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト
- 2 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト
- 3 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト
- 4 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト
- 5 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト
- 6 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト
- 7 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト
- 8 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト 褐色(10YR5/6)シロト

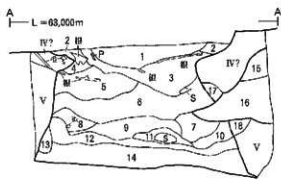
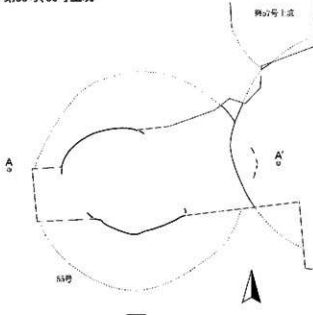
第41図 第52号、第53号土坑

●第54号土坑



1. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の下部層間に分布する砂質シルト
2. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の上部層間に分布する砂質シルト
3. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の下部層間に分布する砂質シルト
4. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の上部層間に分布する砂質シルト
5. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の下部層間に分布する砂質シルト
6. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の上部層間に分布する砂質シルト
7. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の下部層間に分布する砂質シルト
8. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の上部層間に分布する砂質シルト
9. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の下部層間に分布する砂質シルト
10. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の上部層間に分布する砂質シルト
11. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の下部層間に分布する砂質シルト
12. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の上部層間に分布する砂質シルト
13. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の下部層間に分布する砂質シルト
14. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の上部層間に分布する砂質シルト
15. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の下部層間に分布する砂質シルト
16. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の上部層間に分布する砂質シルト
17. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の下部層間に分布する砂質シルト

●第55号、56号土坑

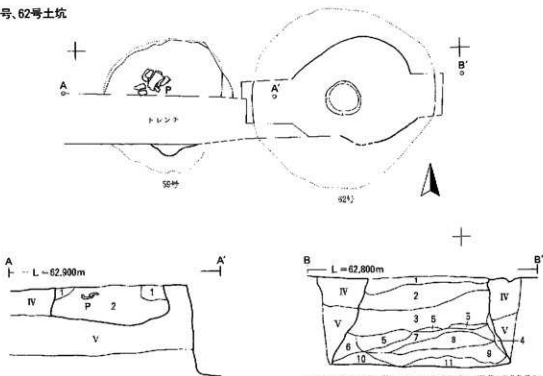


1. 北側の土層(IV区)のシルト 2~3区間の下部層間に分布する砂質シルト
2. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の下部層間に分布する砂質シルト
3. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の上部層間に分布する砂質シルト
4. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の下部層間に分布する砂質シルト
5. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の上部層間に分布する砂質シルト
6. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の下部層間に分布する砂質シルト
7. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の上部層間に分布する砂質シルト
8. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の下部層間に分布する砂質シルト
9. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の上部層間に分布する砂質シルト
10. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の下部層間に分布する砂質シルト
11. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の上部層間に分布する砂質シルト
12. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の下部層間に分布する砂質シルト
13. 北側の土層(IV区)のシルト 3区間の上部層間に分布する砂質シルト
14. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の下部層間に分布する砂質シルト
15. 北側の土層(IV区)のシルト 4区間の上部層間に分布する砂質シルト
16. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の下部層間に分布する砂質シルト
17. 北側の土層(IV区)のシルト 2区間の上部層間に分布する砂質シルト

0 1:40 2m

第42図 第54号土坑、第55号、第56号土坑(1)

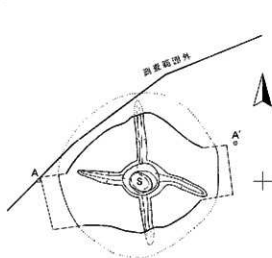
●第59号、62号土坑



1. 褐色(OYV3/6)粘土層シット iv部の埋埋物。
2. 褐色(OYV3/6)シット 固くしまる。1~5mmの炭化物散ら。

1. 褐色(OYV3/6)粘土層シット iv-V部の内れ再埋成に炭化物散ら。
2. におい高麗泥(OYV3/6)シット 炭化物散らも多く含む。iv-V部の内れ再埋成。
3. 褐色(OYV3/6)シット iv-V部の再埋成に炭化物散ら。
4. 褐色(OYV3/6)シット もみれ部分散ら。V部のプロッタ。炭化物散ら。高麗泥(OYV3/6)粘土層シット もみれ部分と固く散らあり。V部のプロッタ散らiv-V部の再埋成。
5. 褐色(OYV3/6)シット もみれ部分あり。V部のプロッタ多量に散ら。炭化物散ら。
6. 褐色(OYV3/6)シット 固くしまる。炭化物散ら。炭も散ら。
7. 褐色(OYV3/6)シット 固くしまる。再埋成の再埋成に炭化物散ら。
8. 褐色(OYV3/6)粘土層シット もみれ部分と固くしまる散らあり。V部の再埋成。
9. 褐色(OYV3/6)粘土層シット もみれ部分と固くしまる散らあり。V部の再埋成。
10. 褐色(OYV3/6)粘土層シット もみれ。iv-V部の再埋成。
11. におい高麗泥(OYV3/6)粘土層シット 固くしまる。V部の内れ再埋成。

●第60号土坑

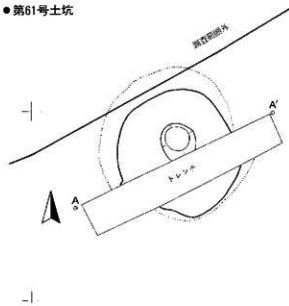


1. 褐色(OYV3/6)シット 2,3部より少く散らあり。層による内れはほとんどない。
2. 高麗泥(OYV3/6)粘土 ほとんど再埋成のもの。
3. 褐色(OYV3/6)シット 2部とほとんど同じだが、V部のプロッタ散らを含む。iv-V部の再埋成。
4. 褐色(OYV3/6)シット 散らあり。2部とはほとんど同じだが、より薄い。
5. におい高麗泥(OYV3/6)粘土 非常に固くしまる。散らに固く、十層散ら。炭化物散らも散らあり。
6. におい高麗泥(OYV3/6)粘土 非常に固くしまる。iv-V部の内れ再埋成。

0 1:40 2m

第44図 第59号、第60号、第62号土坑

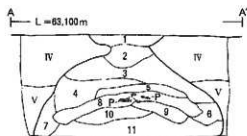
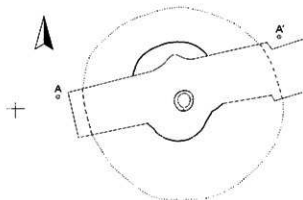
●第61号土坑



1. 褐色(OYR4/3)シルト 固くしまる。浮遊結核の1多く、1~2mmの炭化物散在。
2. 灰赤(OYR4/5)粘上質シルト 内穴層内層部に炭化物散在。
3. 暗紅色(OYR2/4)シルト 固くしまる。IV~V同記測の1。1~2mmの炭化物散在。
4. 暗褐色(OYR5/4)シルト 固くしまる。5層とはほとんど同じだが、5層プロックが多く、より明る。

●第63号土坑

7A	8A
7B	8B

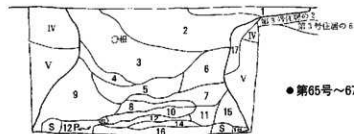
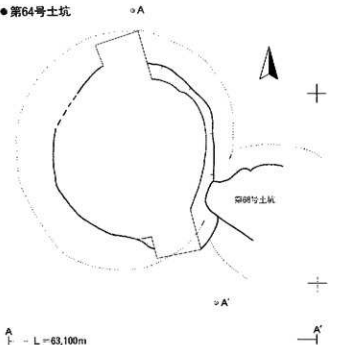


1. 濃い黄褐色(OYR4/3)シルト 固くしまる。厚約1mm炭化物、粘土結核。
2. 褐色(OYR4/4)シルト 厚層プロック、散在多、1mm程度の炭化物散在。
3. 暗赤(OYR4/4)シルト 2層とほとんど同じだが、より明る。
4. 暗色(OYR4/4)シルト 2層とほとんど同じだが、より暗く、炭化物大散在(5mm)。
5. 暗赤(OYR4/4)粘上 浮遊浮遊層内に炭化物散在。2層より明る。
6. 濃い黄褐色(OYR4/3)シルト V層プロック散在に多い。炭化物散在。内穴層内層部。
7. 褐色(OYR4/4)粘上 浮遊層結核。
8. 灰赤(OYR4/5)粘上質シルト 炭化物散在多く、厚い。粘土結核に1散在多い。
9. 黄褐色(OYR5/4)粘上 浮遊層内層部に炭化物散在。
10. 高褐色(OYR5/4)粘上 散在散在。5層とほとんど同じだが、より汚れている。
11. 濃い黄褐色(OYR5/3)シルト 内穴層~V層内層部。

0 1:40 2m

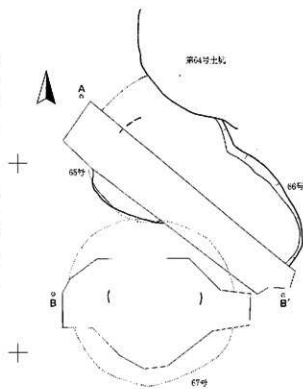
第45図 第61号、第63号土坑

●第64号土坑

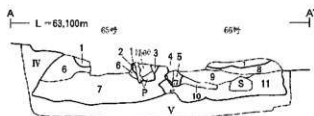


1. 画面内(10YR2/2)シルト ローム地盤。第3号作跡の2に似る。粘土割合多。
2. 黒褐色(10YR2/2)粘土(10YR4/4)層に入る。シルト やや多い。土層とほとんど同じ。やや濃い。
3. 黒褐色(10YR2/2)に褐色(10YR4/4)層に入る。シルト 土層とほとんど同じだが粘分多い。
4. 褐色(10YR4/6)シルト 粘れIV層再帰。
5. 黒褐色(10YR2/2)に褐色(10YR4/4)層に入る。シルト 粘れあり。土層とほとんど同じ。
6. 褐色(10YR4/6)シルト 粘れあり。土層と土層の間。
7. 黒褐色(10YR2/2)粘土層シルト IV-V層の再帰。
8. 黒褐色(10YR2/2)シルト 粘れあり。土層とほとんど同じ。基本は土層と同じ。
9. 褐色(10YR4/6)粘土層シルト 粘れあり。土層とほとんど同じ。
10. 黒褐色(10YR2/2)粘土層シルト 粘れある。粘れIV層再帰。
11. 黒褐色(10YR2/2)に褐色(10YR4/4)層に入る。シルト 粘れあり。土層とほとんど同じ。
12. 黒褐色(10YR2/2)シルト 粘れあり。土層とほとんど同じ。基本は土層と同じ。
13. 黒褐色(10YR2/2)に褐色(10YR4/4)層に入る。シルト 粘れあり。大部分は土層。粘れブロックあり。
14. 黒褐色(10YR2/2)粘土層シルト V層再帰。
15. 黒褐色(10YR2/2)粘土層(10YR4/6)層に入る。シルト 粘れあり。土層とほとんど同じ。基本は土層と同じ。
16. 黒褐色(10YR2/2)粘土層(10YR4/6)層に入る。シルト 粘れあり。
17. 褐色(10YR4/6)粘土層シルト IV-V層の間に土層のブロックを受け付けたもの。

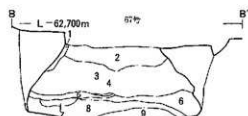
●第65号~67号土坑



第46図 第64号土坑、第65号~第67号土坑(1)

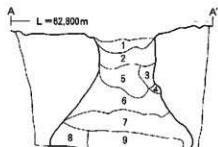
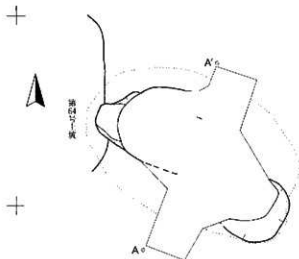


1. 赤色(10YR4/6)と緑黄色(10Y3/3)の混合。シルト。薄層状にロームブロックあり。鉄屑あり。IV~V層ブロックあり。
2. 黄褐色(10Y7.5/6)粘土質シルト。IV~V層ブロック層状。
3. 灰色(10Y5/6)粘土質シルト。2層と同じだが鉄屑がやや多い。
4. 黒褐色(10Y3/3)シルト。黄褐色あり。
5. 褐色(10YR4/6)に黒褐色(10Y2/2)混入。粘土質シルト。ややもろい。鉄屑あり。IV~V層ブロック。
6. 黒褐色(10Y3/3)シルト。IV~V層ブロックあり。
7. 灰色(10Y5/6)シルト。もろい。IV~V層ブロック。
8. 黄褐色(10Y7.5/6)シルト。鉄屑あり。IV~V層ブロックあり。
9. 褐色(10Y5/6)粘土質シルト。固くしめる。IV~V層ブロック。鉄屑あり。
10. 黄褐色(10Y7.5/6)粘土質シルト。固くしめる。8層とほぼ同じ。
11. 黄褐色(10Y7.5/6)粘土質シルト。10層とほぼ同じ。より硬い。

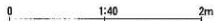


1. 褐色(10YR4/6)と緑黄色(10Y3/3)の混合。シルト。もろい部分と固くしめる部分あり。IV~V層ブロックあり。
2. 黄褐色(10Y7.5/6)粘土質シルト。IV~V層ブロック層状。
3. 灰色(10Y5/6)粘土質シルト。2層と同じだが鉄屑がやや多い。
4. 黒褐色(10Y3/3)シルト。黄褐色あり。
5. 褐色(10YR4/6)に黒褐色(10Y2/2)混入。粘土質シルト。ややもろい。鉄屑あり。IV~V層ブロック。
6. 黒褐色(10Y3/3)シルト。IV~V層ブロックあり。
7. 灰色(10Y5/6)シルト。もろい。IV~V層ブロック。
8. 黄褐色(10Y7.5/6)シルト。鉄屑あり。IV~V層ブロックあり。
9. 褐色(10Y5/6)粘土質シルト。IV~V層ブロックあり。

● 第68号土坑

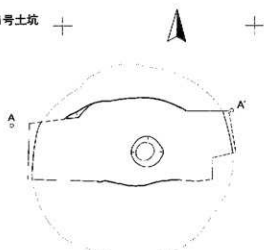


1. 黄褐色(10Y7.5/6)シルト。酸化腐食を含み、ローム状を含む。
2. 黄褐色(10Y7.5/6)シルト。灰化物。ローム状を含む。
3. 灰色(10Y5/6)に黄褐色(10Y7.5/6)ブロックはいる。粘土質シルト。IV~V層ブロック。
4. 黄褐色(10Y7.5/6)粘土質シルト。V層ブロック。
5. 黄褐色(10Y7.5/6)シルト。2層より固く、酸化腐食少ない。
6. 黄褐色(10Y7.5/6)粘土質シルト。2層とほぼ同じ。ローム状に入る。シルト。もろい。粘土質シルト。灰化物を含む。
7. 黄褐色(10Y7.5/6)シルト。もろい。2層とほぼ同じだが、やや固い。
8. 黄褐色(10Y7.5/6)シルト。もろい。2層とほぼ同じだが、やや固い。
9. 褐色(10Y5/6)粘土質シルト。IV~V層ブロック。

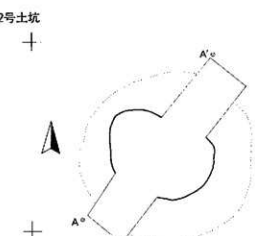


第47図 第65号~第67号土坑(2)、第68号土坑

●第71号土坑

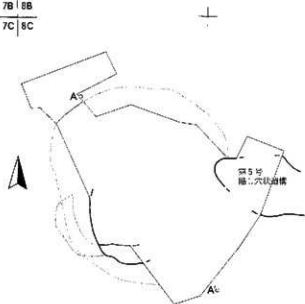


●第72号土坑

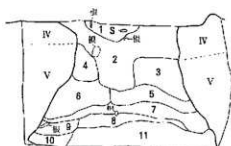


●第73号土坑

7B | 8B
7C | 8C

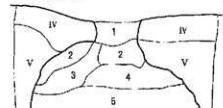


A L=63,300m A'



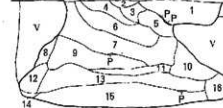
1. 掘削部(4V7B/4C)シロト 掘くしきる。竪穴状、地下約40cmに完成。
2. 掘削部(4V7B/4C)と掘削部(10V7B/7C)の竪穴。シロト 掘削部あり。IV-V間の埋積。
3. 掘削部(30V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。V層の埋積部に居住物あり。
4. 掘削部(4V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。埋積部。
5. 掘削部(4V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。埋積部あり。IV-V間の埋積。
6. 掘削部(10V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。埋積部あり。
7. 掘削部(10V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
8. 掘削部(10V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
9. 掘削部(10V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
10. 掘削部(10V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
11. 掘削部(10V7B/7C)土層シロト 掘くしきる。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。

A L=62,900m A'



1. 掘削部(10V7B/7C)と掘削部(10V7B/7C)のシロト。シロト 掘削部あり。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
2. 掘削部(10V7B/7C)のシロト。シロト 掘削部あり。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
3. 掘削部(10V7B/7C)のシロト。シロト 掘削部あり。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
4. 掘削部(10V7B/7C)のシロト。シロト 掘削部あり。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
5. 掘削部(10V7B/7C)のシロト。シロト 掘削部あり。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。

A L=63,100m A'



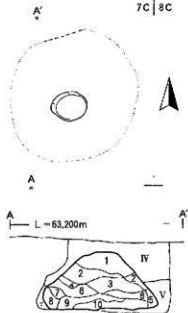
1. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
2. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
3. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
4. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
5. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
6. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
7. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
8. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
9. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
10. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
11. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
12. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
13. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
14. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
15. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。
16. 掘削部(10V7B/7C)シロト 掘くしきる。IV層に於ける。埋積部あり。埋積部は本層に於けるシロトで埋積されている。

0 1:40 2m

第49図 第71号～第73号土坑

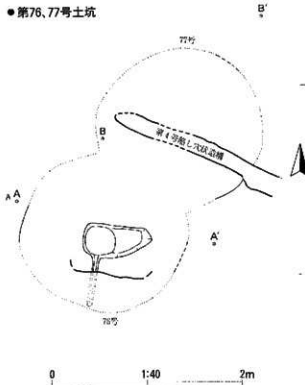
●第74号土坑

7B | 8B
7C | 8C

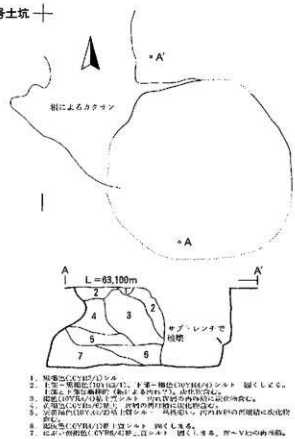


1. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。
2. 灰色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。ローム粒、小石、アラック多い。炭化物わずかに含む。
3. 灰色土(IV)層(4)シルト。2層の境とみなす同層だが2層より硬い。
4. 灰色土(IV)層(4)シルト。IV-V間のシルト。
5. 灰色土(IV)層(4)シルト。外れからロームの薄層。
6. 褐色土(IV)層(4)シルト。やや柔らかい。ローム粒多い。
7. 灰色土(IV)層(4)シルト。柔らかい。炭化物含む。
8. 褐色土(IV)層(4)シルト。柔らかい。外れにIV-V間の砂泥層。
9. 灰色土(IV)層(4)シルト。硬く柔らかい。
10. 灰色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。ローム粒、炭化物含む。2層にわたる、より柔らかい。

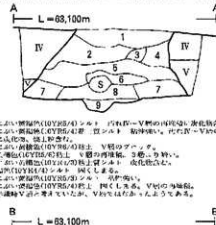
●第76、77号土坑



●第75号土坑



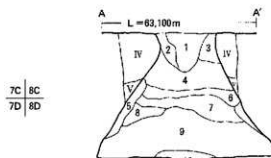
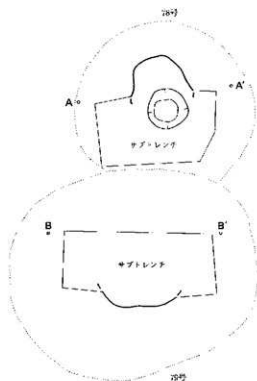
1. 褐色土(IV)層(4)シルト。
2. 灰色土(IV)層(4)シルト。下層一層(IV)層(4)シルト。硬く柔らかい。
3. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。ローム粒、小石、アラック多い。炭化物含む。
4. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。ローム粒、小石、アラック多い。炭化物含む。
5. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。ローム粒、小石、アラック多い。炭化物含む。
6. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。ローム粒、小石、アラック多い。炭化物含む。
7. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。ローム粒、小石、アラック多い。炭化物含む。



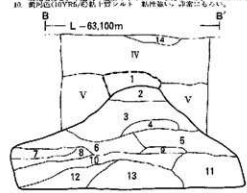
1. 灰色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。
2. 灰色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。
3. 灰色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。
4. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。
5. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。
6. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。
7. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。
8. 褐色土(IV)層(4)シルト。砂粒多い。IV-V間の砂泥層に炭化物を含む。

第50図 第74号～第77号土坑

●第78号、79号土坑

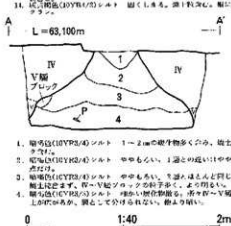
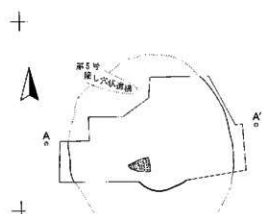


1. 上部の表層土(IV層)のシルト 粗くしふる。硬化物を含む。腐植質(IVY層)のシルト 腐植質を含む。1層より若干明るい色。
2. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
3. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
4. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
5. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
6. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
7. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
8. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
9. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
10. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。

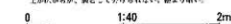


1. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。V層が厚い。IV層が薄く。腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
2. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
3. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
4. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
5. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
6. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
7. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
8. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
9. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
10. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
11. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
12. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。
13. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。

●第80号土坑

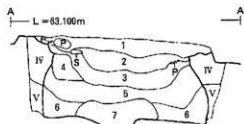
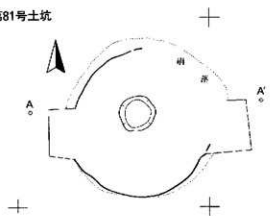


1. 腐植質(IVY層)のシルト 1~2cmの硬質物多く含む。腐植質ブロックを含む。
2. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。1層との境目やや不明瞭。
3. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。腐植質ブロックの硬質物も含まれる。
4. 腐植質(IVY層)のシルト 粗くしふる。IV層の腐植質に硬化物を含む。腐植質ブロックの硬質物も含まれる。



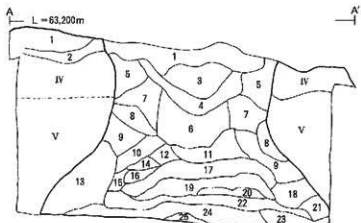
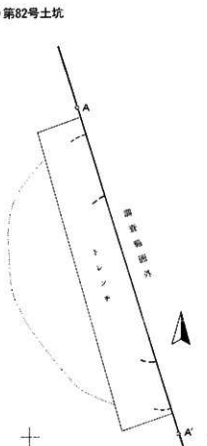
第51図 第78号~第80号土坑

●第81号土坑



1. 土間色(10YR2/2)の層に黒褐色(10YR2/3)の層。シロト 固くしまる。1~2cm位の存在物含む。強土化含む。
2. 土間色(10YR2/2)の層に 固くしまる。1~2cm位の存在物含む。
3. 土間色(10YR2/2)の層に 固くしまる。2層とほとんど同じだが、炭化物少なく、より硬い。
4. 土間色(10YR2/2)の層に 固くしまる。1cm位の存在物含む。5層より硬い。
5. 黄褐色(10YR5/6)の層に土間色(10YR2/2)の層。粘土 固くしまる。汚れ質の陶器。
6. 土間色(10YR2/2)の層に 粘り強い。10YR5/6の黄褐色。
7. 土間色(10YR2/2)の層に 粘り強い。固くしまる。

●第82号土坑

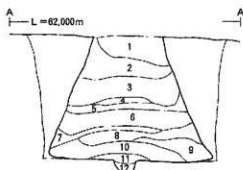
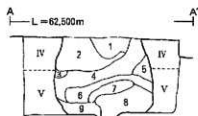
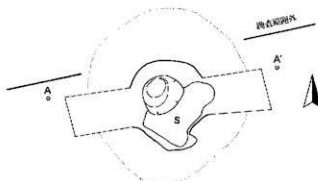
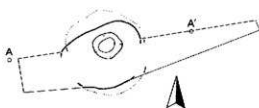


1. 土間色(10YR2/2)シロト ローム状である。黒部とほとんど同じ。
2. 土間色(10YR2/2)シロト ローム状である。黒部の明るい部分とはほとんど同じ。
3. 黄褐色(10YR5/6)シロト ローム状である。1~2層とはほとんど同じだが硬い。
4. 黄褐色(10YR5/6)シロトと土間色(10YR2/2)の層。シロト 粘り強く、1層と2層の間隙。
5. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。ローム状である。炭化物を含む。
6. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。やや固くしまる。土間に粘り強く、より硬く、炭化物は少ない。
7. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。5層とはほとんど同じだが、より硬い。(5層より硬く、炭化物は少ない)
8. 土間色(10YR2/2)シロト 粘り強い。やや硬い。1層とほとんど同じだが、ほとんど同じである。
9. 土間色(10YR2/2)シロトと土間色(10YR2/2)の層。シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
10. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。5層に粘り強く、より硬い。
11. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。5層に粘り強く、より硬い。
12. 黄褐色(10YR5/6)シロトと土間色(10YR2/2)の層。シロト 粘り強く、V層のブロックがほとんど占めるV層の陶器。
13. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
14. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
15. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
16. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
17. 黄褐色(10YR5/6)シロトと土間色(10YR2/2)の層。シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
18. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
19. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
20. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
21. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
22. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
23. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
24. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。
25. 黄褐色(10YR5/6)シロト 粘り強い。汚れ質の陶器。

0 1:40 2m

第52図 第81号、第82号土坑

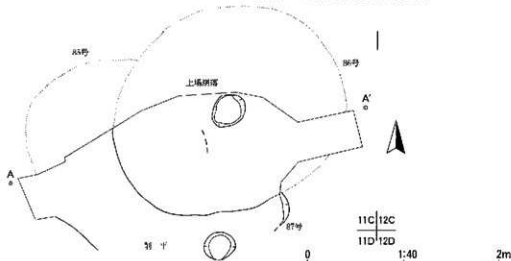
●第83号土坑



1. 腐植土(CYR2/3)粘土層シルト 1m程度の炭化痕が多少多くあり、1cm程度の炭化物も有る。
2. 腐植土(DYR4/4)粘土層シルト 1〜3m程度の炭化痕あり。
3. 明腐土一粘土(CYR5/5〜4/4) 粘土 もらう。下層の再堆積。
4. 腐植土(DYR5/4)粘土層シルト 初期の再堆積が1m〜1.5mの炭化物あり。
5. 腐植土(DYR5/4)粘土層シルト 初期の再堆積。
6. 腐植土(DYR6/3)シルト 炭化痕あり。炭化物あり。
7. 腐植土(DYR6/3〜3/4)シルト 初期の再堆積に炭化痕わずかに有る。
8. 腐植土(DYR3/5〜2/4)粘土 初期の再堆積。
9. 腐植土(DYR3/3)粘土 8層とはほとんど同じだが、色調が灰色かかっている。

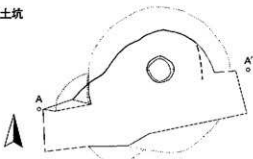
1. 腐植土(DYR4/4)シルト 初期の再堆積(細かいV層ブロックあり) 1〜1.5mの炭化物あり。
2. 腐植土(DYR4/4)粘土層(CYR6/6)流石。シルト 1層に性質は異なるが、V層ブロック多量あり。
3. 腐植土(DYR4/4)粘土層(CYR4/4)流石。シルト V層ブロックのあまり。
4. 腐植土(DYR4/4)粘土層シルト 固くしめる。初期の再堆積。
5. 腐植土(DYR4/4)粘土層シルト 固くしめる。V層再堆積。
6. 腐植土(CYR2/2)粘土層(DYR4/4)粘土層に入る。粘土層シルト 固くしめる。初期の再堆積(ブロック状)に炭化物あり。
7. 腐植土(DYR2/4)粘土層シルト 8層とはほとんど同じだが、より一層。
8. 腐植土(DYR3/3)粘土層(DYR3/3)粘土層に入る。粘土層シルト 固くしめる。8層より下の初期。
9. 腐植土(DYR3/3)粘土層シルト 固くしめる。7層とはほとんど同じ。
10. 腐植土(CYR4/4)シルト 8層に比べるとV層が多く、明るい。
11. 腐植土(DYR2/2)粘土層シルト 初期の再堆積。初期の再堆積。
12. タリ ハンダ等に染み付いてなくなりました。

●第85号〜87号土坑

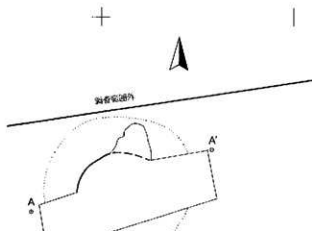


第53図 第83号、第84号土坑、第85号〜87号土坑(1)

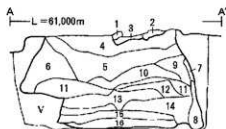
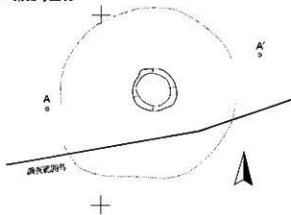
●第90号土坑



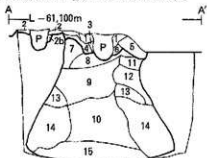
●第91号土坑



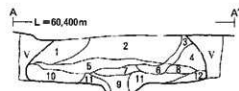
●第92号土坑



- 1~3 平塚号出土遺物
- 4 堀底色(10YR3/4)に黒褐色(10YR3/6)と暗褐色(10YR3/3)の混合。シルトが主である。ロームが少なく多い。
- 5 堀底内(10YR3/6)にシルト。暗く見える。7層に接するが、より軽い。
- 6 堀底色(10YR3/6)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。6層に接する。
- 7 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。より軽い。
- 8 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。
- 9 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。
- 10 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。
- 11 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。
- 12 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。
- 13 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。
- 14 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。
- 15 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。
- 16 堀底内(10YR3/6)と黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。



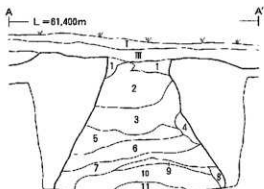
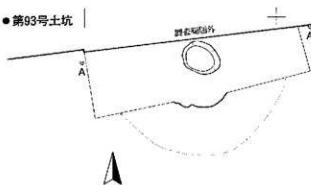
- 1~5 1~5は褐色。土質粘質
- 6 堀底内(10YR2/4)シルト。暗く見える。ロームが多い。
- 7 堀底内(10YR2/4)シルト。暗く見える。7層に接するが、より軽い。
- 8 堀底内(10YR2/4)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗褐色にロームが主である。黄土状のロームが多い。
- 9 堀底内(10YR2/4)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。より軽い。
- 10 堀底内(10YR2/4)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。より軽い。
- 11 堀底内(10YR2/4)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。より軽い。
- 12 堀底内(10YR2/4)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。より軽い。
- 13 堀底内(10YR2/4)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。より軽い。
- 14 堀底内(10YR2/4)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。より軽い。
- 15 堀底内(10YR2/4)に黒褐色(10YR3/3)の混合。シルト。暗く見える。8層とほとんど同じ。より軽い。



- 1 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 2 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 3 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 4 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 5 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 6 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 7 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 8 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 9 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 10 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 11 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。
- 12 堀底内(10YR3/3)に黒褐色(10YR3/6)が主である。シルト。暗く見える。黒褐色が主である。

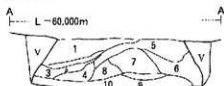
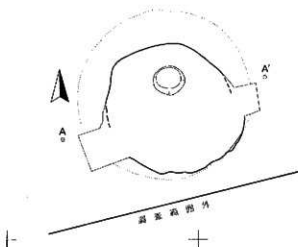
第55図 第90号~第92号土坑

●第93号土坑



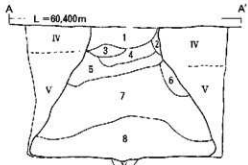
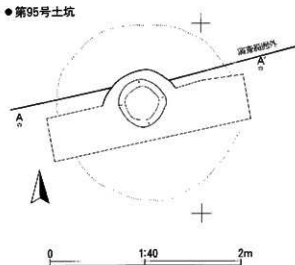
1. 粘褐色(CYR3/3)シルト 固くしめる。ロームブロック状を含む。
2. 粘褐色(CYR3/3)シルト 固くしめる。200~300mm程度のロームブロック状を、散在させる。
3. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト 固くしめる。IV-V層境界に似る形状。
4. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)、(CYR2/3)ブロック入る。ほとんどの層に似る形状。
5. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)ブロック入る。シルト 固くしめる。ロームブロック状を多く、散在させる。
6. 粘褐色(CYR3/4)、層内(CYR3/4)層に入らぬ。シルト 固くしめる。マート状を多く、散在させる。
7. 粘褐色(CYR3/3)シルト 固くしめる。5層に似るが、より厚い。
8. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト ほんの一部分を除くは、層内ブロック状。
9. 褐色(CYR3/3)シルト 散在する。IV-V層境界に似る形状。
10. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)ブロック入る。シルト 粘りあり。固くしめる。7層に似るが、よりローム状を多くする。
11. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。ほとんどシルト 固くしめる。のれん状を多くする。

●第94号土坑



1. 黄褐色(CYR2/2)、赤褐色(CYR2/3)、粘褐色(CYR2/4)の混合。シルト 粘りあり。散在させる。
2. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト 粘りあり。散在させる。
3. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)ブロック入る。シルト 1層とは異なる形状。1層とは異なる。
4. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)ブロック入る。シルト もらう。
5. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合に、粘褐色(CYR2/2)ブロック入る。シルト 1層とは異なる形状。散在させる。
6. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト 4層とは異なる形状。
7. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト 粘りあり。1層とは異なる。
8. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト 粘りあり。4層に似るが、よりローム状を多くする。
9. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト 粘りあり。V層ブロック状を多く含む。
10. 粘褐色(CYR3/4)のシルト 粘りあり。6層とは異なる形状。

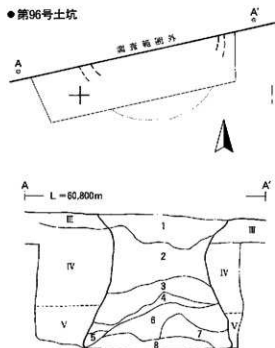
●第95号土坑



1. 粘褐色(CYR3/3)シルト 固くしめる。IV-V層境界、埋かいたブロック状を、散在させる。
2. 粘褐色(CYR3/3)シルト 固くしめる。IV層境界に似る。
3. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。1層とは異なる形状。散在させる。
4. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト 固くしめる。中心部にはロームブロック状。
5. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合(CYR3/4)ブロック入る。シルト 固くしめる。4層に似るが、より厚い。
6. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。シルト ほんの一部分を除くは、層内ブロック状を多く含む。
7. 粘褐色(CYR3/3)と粘褐色(CYR3/4)の混合。V層ブロック状を多く含む。散在させる。
8. 粘褐色(CYR3/3)シルト 粘りあり。IV層境界に似る。埋かいたブロック状を、散在させる。

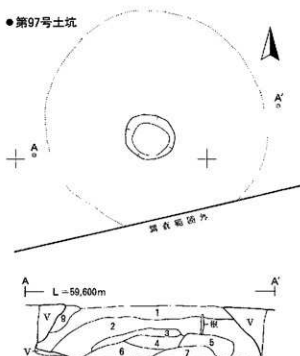
第56図 第93号~第95号土坑

●第96号土坑



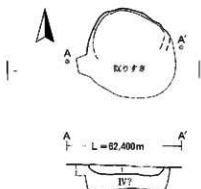
1. 焼陶器(IVB/C)シット 量多かり多く、炭化物含む。
2. 陶器(IVB4/C)シット IV層の汚れ再層部に存在物を含む。
3. 陶器(IVB4/C)シット 層くしまる。IV層の汚れ再層部に炭化物多く含む。
4. 焼陶器(IVB/C)に焼陶器(IVB/C)プロット散入。シット 層くしまる。陶器土に多く、IV-V層部を、プロット含む。炭化物含む。
5. 焼土(IVB4/B)粘土質シット 少ない。V層プロット多く含む。IV-V層部埋納。
6. 焼土(IVB4/C)シット 層くしまる。S層に多く、炭化物少ない。
7. 土器(IVB4/C)シット 層くしまる。S層に多く、より多く、V層プロット散入。
8. 焼陶器(IVB/C)シット 層くしまる。7層とほとんど同じだが、より多い。

●第97号土坑



1. 土器(IVB/C)に焼陶器(IVB/B)プロット散り。シット 層部1で埋納された。
2. 陶器(IVB4/C)に、陶器(IVB/C)、陶器(IVB/C)プロット散り。シット 1層と層じだが、炭化物少ない。
3. 焼土(IVB/C)シット 少ない。S層に多くは炭化物が多い。
4. 焼陶器(IVB/C)シット 1層と層部の埋納。
5. 焼陶器(IVB/C)に焼土(IVB/C)散り。シット 中の少ない。S層に多く散り。
6. 焼陶器(IVB/C)シット 多量散り。
7. 陶器(IVB4/C)シット 層くしまる部分あり。S層に多く、埋納に近い。
8. 陶器(IVB4/C)シット 層部の少ない。炭化物多く、V層の層がない。プロット含むといへばよい。
9. 土器(IVB/C)散り V層の層で汚れたもの。

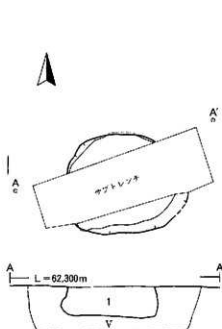
●第98号土坑



1. 焼陶器(IVB/C) 粘土質シット 層くしまる。層部に細かいロー4粒多く含む。

0 1:40 2m

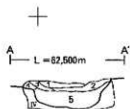
●第99号土坑



1. 焼土(IVB4/C)粘土質シット 土器を含む。IV層の再層部。

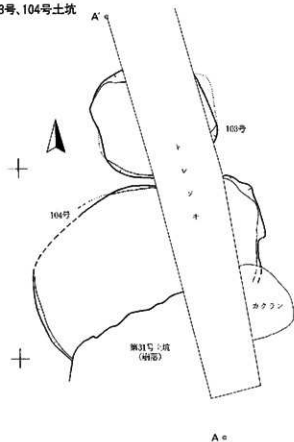
第57図 第96号～第99号土坑

●第100号土坑



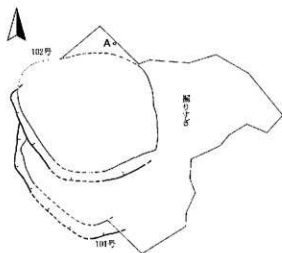
1. 黒褐色(10YR5/4)粘土(10YR5/4)層の、シムト 多量の、ローム成分、2~3mmの炭化物も多い。壁上粘着性。
2. 灰色(10YR6/3)シムト 泥。炭化物も多量含む。ローム成分も、粘土成分も。
3. 土層中(10YR5/2)シムト 1層に包まれているが、ローム成分少ない。
4. 白色(10YR8/1)粘土 固くしまる。IV-V層の汚れ層同様。
5. 褐色(10YR4/2)シムト IV-V層の汚れ層同様。4層よりしまりが強い。

●第103号、104号土坑

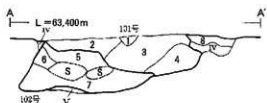


A =

●第101号、102号土坑



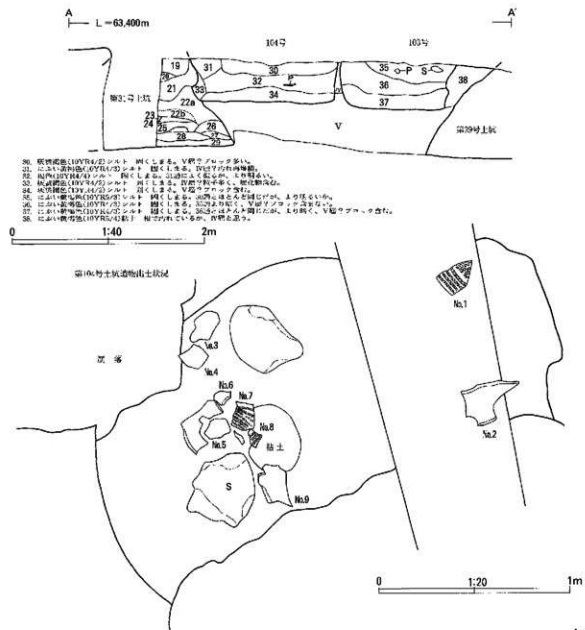
A =



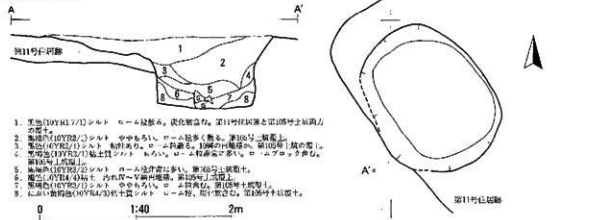
1. 褐色(10YR4/2)シムト 固くしまる。後二層多い。炭化物含む。その下の土層とも関係ない。
2. 白色(10YR8/1)シムト 固くしまる。炭化物含む。どちらの上・下とも関係ない。
3. 褐色(10YR4/2)粘土 炭化物含む。第101号二層と同一。
4. 黄褐色(10YR5/3)粘土(10YR5/3)シムト 炭化物含む。第101号土坑面上。
5. 白色(10YR8/1)シムト 固くしまる。炭化物含む。炭化物含む。第101号土坑面上。
6. 黄褐色(10YR5/3)粘土(10YR5/3)シムト 炭化物含む。第102号二層と同一。
7. 褐色(10YR4/2)シムト 粘着性強い。第101号土坑面上。
8. 灰黄褐色(10YR6/4)シムト 第101号土坑より上層とは関係ない。

0 1:40 2m

第58図 第100号~第102号土坑、第103号、第104号土坑(1)

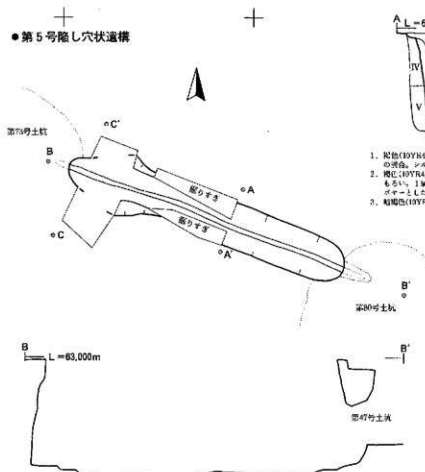


●第105号土坑

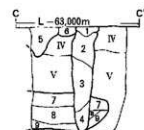


第59図 第103号、第104号土坑(2)、第105号土坑

●第5号陥し穴状遺構

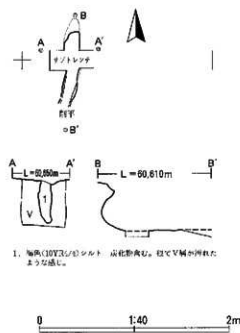


1. 褐色(10YR4/5)と黒褐色(10Y2.2)と黒褐色(5YR2/0)の混合。シルト もらい。黄砂地帯に混入。
2. 褐色(10YR4/5)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト もらい。1層の厚さはよく知らず。両方の土の色が深く、オーエスした印象。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト。黄砂にもらい。IV層内れ再堆積。



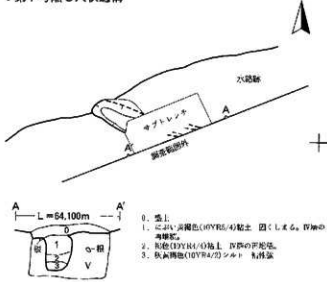
1. 黄砂地(5YR2/0)に黄褐色(10YR5/6)ドロップ層に入る。シルト。第5号陥し穴A溝壁の1層が相当すると思われるが、陥れ平が浅い。
2. 黄砂地(5YR2/0)と黄褐色(10YR5/6)の混合。シルト もらい。第5号陥し穴A溝壁の2層に相当すると思われるが、黄砂化は少ない。
3. 褐色(10YR4/5)シルト。粒感あり。2層に似るが、より黄褐色が多い。第5号陥し穴A遺構の底土。
4. 黄砂地(10YR2/0)と褐色(10YR3/4)と黄褐色(10YR5/6)の混合。粘土質シルト。褐色強い。もらい。IV層の再堆積に黒色土混入。第5号陥し穴A溝壁の底土。
5. 黄砂地土層の上端と同じ。
6. 黄砂地上部の土層と同じ。
7. 黄砂地二層のり層に似る。
8. 黄砂地一層の土層と同じ。
9. 黄砂地。黄の土層と同じ。

●第6号陥し穴状遺構



1. 褐色(10YR4/5)シルト。黄砂混入。粒でV層の同様な感じ。

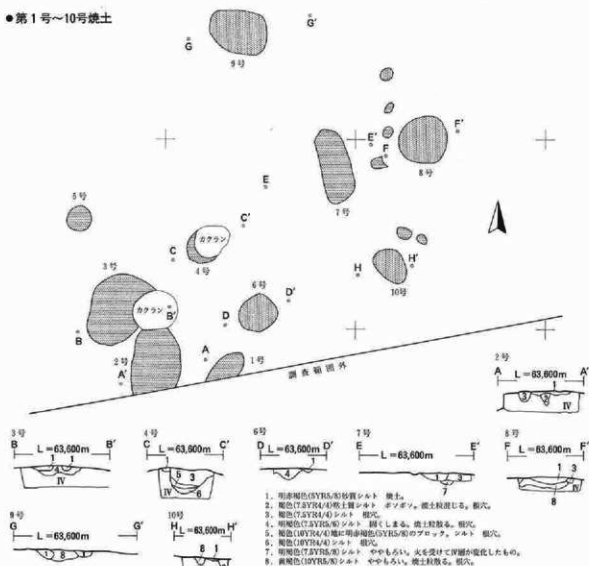
●第7号陥し穴状遺構



0. 同上。
1. 赤い黄褐色(10YR5/6)粘土。固くしめる。IV層の再堆積。
2. 褐色(10YR4/5)粘土。IV層の再堆積。
3. 黄褐色(10YR4/5)シルト。粘土質。

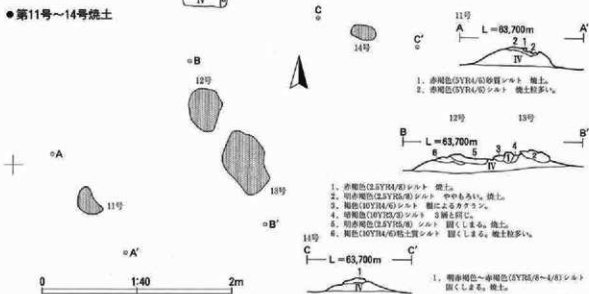
第62図 第5号～第7号陥し穴状遺構

●第1号～10号焼土



1. 明赤褐色(SYR5/8)砂質シルト 焼土。
2. 褐色(TSYR4/4)粘土質シルト ボソボソ。焼土残存し、割穴。
3. 褐色(TSYR4/4)シルト 焼土。
4. 明褐色(TSYR5/8)シルト 固くしまる。焼土残存。割穴。
5. 褐色(SYR4/4)層に明赤褐色(SYR5/8)のブロック。シルト 割穴。
6. 褐色(SYR4/4)シルト 焼土。
7. 明褐色(TSYR5/8)シルト ややもろい。火を受けて厚層が変化したもの。
8. 黄褐色(SYR5/8)シルト ややもろい。焼土残存。割穴。

●第11号～14号焼土



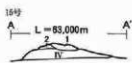
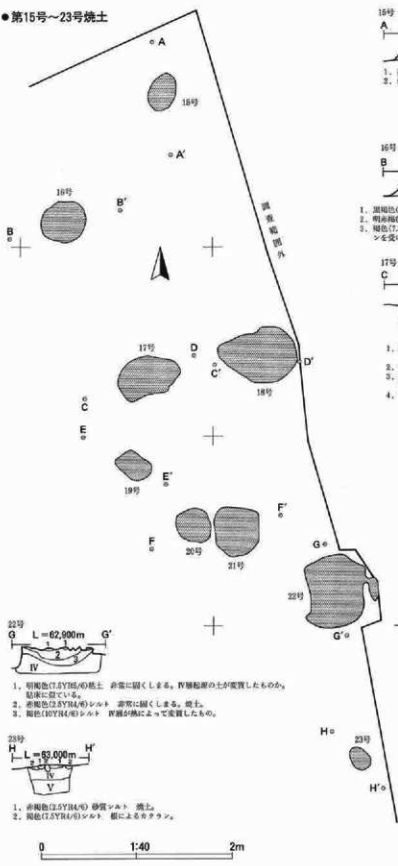
1. 赤褐色(SYR4/8)砂質シルト 焼土。
2. 赤褐色(SYR4/8)シルト ややもろい。焼土。

1. 赤褐色(SYR4/8)シルト 焼土。
2. 明褐色(SYR4/8)シルト 層によるカタラン。
3. 明褐色(SYR4/8)シルト 3層と同じ。
4. 明褐色(SYR4/8)シルト 固くしまる。焼土。
5. 明褐色(SYR4/8)シルト 固くしまる。焼土。
6. 褐色(SYR4/4)粘土質シルト 固くしまる。焼土残存。

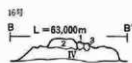
1. 明赤褐色～赤褐色(SYR5/8～4/8)シルト 固くしまる。焼土。

第63図 第1号～第14号焼土

●第15号～23号焼土



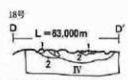
1. 赤褐色(2.5YR4/6)シロト 焼土。
2. 赤褐色(10YR4/6)シロト 焼土粒多い。



1. 黒褐色(10YR2/3)シロト もろい、根によるカタラン。
2. 暗赤褐色(2.5YR5/6)砂質シロト 固くしまる。焼土。
3. 褐色(7.5YR4/6)砂質シロト 固くしまる。焼土が根によるカタランを受けたもの。



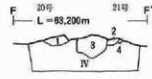
1. 黒褐色(10YR2/2-2/3) シロト もろい、根によるカタラン。
2. 赤褐色(2.5YR4/6)砂質シロト 固くしまる。焼土。
3. 褐色(7.5YR4/6)砂質シロト 固くしまる。焼土ブロック含む。
4. 褐色(10YR4/6)シロト 焼土粒含む。



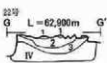
1. 褐色～暗褐色(7.5YR4/4-3/4) シロト もろい、根によるカタラン。
2. 赤褐色(2.5YR4/6)砂質シロト 固くしまる。焼土。



1. 赤褐色(5YR4/6)砂質シロト 固くしまる。焼土。
2. 暗赤褐色(2.5YR4/6)砂質シロト 焼土粒多い。
3. 褐色(10YR4/4)焼土が根によって変質したもの。シロト 焼土粒混じる。根によるカタラン多い。



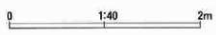
1. 褐色(7.5YR4/6) シロト 焼土粒、焼土ブロック多い。焼土が根によるカタランを受けたもの。
2. 赤褐色(2.5YR4/6)砂質シロト 固くしまる。焼土。
3. 褐色～暗褐色(7.5YR4/4-3/4)シロト 固くしまる。焼土粒多い。
4. 暗褐色(10YR2/3)シロト もろい、根によるカタラン。



1. 明褐色(7.5YR4/6)焼土 非常に固くしまる。IV層粘厚の土が変質したものか、肥床に置ている。
2. 赤褐色(2.5YR4/6)シロト 非常に固くしまる。焼土。
3. 褐色(10YR4/6)シロト IV層が根によって変質したもの。

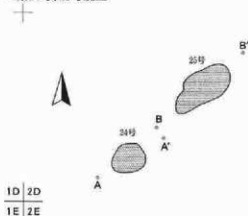


1. 赤褐色(2.5YR4/6) 砂質シロト 焼土。
2. 褐色(7.5YR4/6)シロト 根によるカタラン。

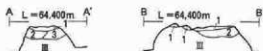


第64図 第15号～第23号焼土

●第24号、25号焼土

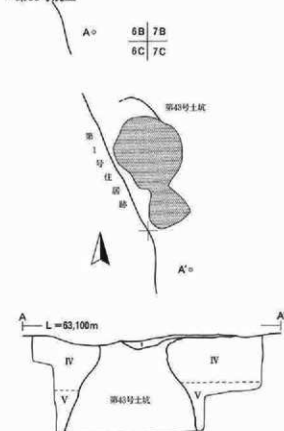


1D 2D
1E 2E



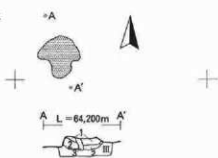
1. 赤褐色(SYR4/6)砂質シロト 固くしまる。焼土。
2. 比較的黄褐色(SYR4/4)砂質シロト 火を受けたゆえに固くしまる。
3. 黄褐色(SYR4/6)砂質シロト 黒曜が火を受けて固くなったもの。

●第30号焼土



1. 明赤褐色(SYR6/6)シロト 固くしまる。

●第26号焼土

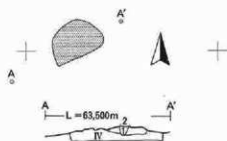


1. 赤褐色(SYR4/6)砂質シロト 固くしまる。焼土。
2. 黄褐色(SYR4/6)シロト 黒曜が火を受けて固くなったもの。
3. 暗褐色(SYR6/2)シロト もろい。根によるカタラン。

●第27号、28号焼土

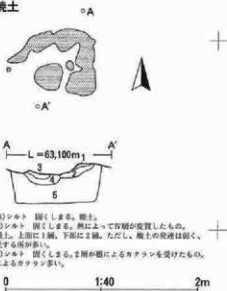


●第29号焼土



1. 黒褐色(SYR4/2)シロト 根によるカタラン。
2. 赤褐色(SYR4/6)砂質シロト 焼土がカタランを受けたもので、隙の土が混入している。

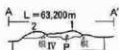
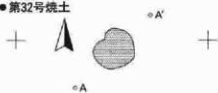
●第31号焼土



1. 褐色(SYR4/6)シロト 固くしまる。焼土。
2. 褐色(SYR4/6)シロト 固くしまる。熱によってIV層が変質したもの。
3. 1層と2層の間に、上面に1層、下面に2層。ただし、焼土の浸透は固く、ブロッコ状を呈する所が多い。
4. 褐色(SYR4/6)シロト 固くしまる。2層が根によるカタランを受けたもの。
5. IV層が、根によるカタラン多い。

第65図 第24号～第31号焼土

●第32号焼土



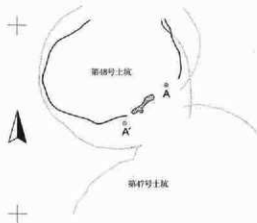
1. 暗褐色(YBR2/4)シルト 焼土粒含む。焼土が層によるカラランを受けたもの。
2. 褐色(YBR4/4)シルト 焼土粒含む。焼土が層によるカラランを受けたもの。

●第34号焼土



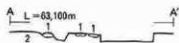
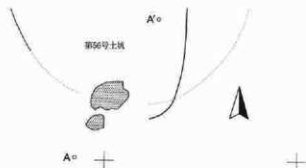
1. 褐色(YBR4/4)シルト 焼土粒多い。焼土がカラランを受けたものか、そうでないが確性が低いものか不明。
2. 暗褐色(YBR2/3)シルト 重層。
3. 褐色(YBR4/4)シルト 汚れた厚層。

●第33号焼土



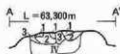
1. 明赤褐色(YR5/6)シルト 固くバラバラしている。焼土。
2. 暗赤褐色(YR3/6)シルト 固くバラバラしている。焼土粒含む。途中で層が変化した部分。
3. におい黄褐色(YBR4/3)シルト 変化物含む。下層土坑の焼土。

●第35号焼土



1. 赤褐色(YR4/6)シルト 固くバラバラしている。焼土。
2. 褐色(YBR4/6)シルト 南側の住居の遺土による。

●第36号焼土



1. 褐色(SYR6/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 明褐色(YR3/6)砂質シルト 固くしまる。基にあって変化した厚層。
3. 黄褐色(YBR4/3)シルト もろい。層によるカララン。

0 1:40 2m

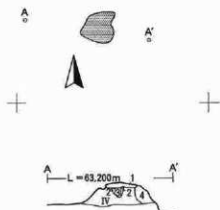
第66図 第32号～第36号焼土

● 第37号焼土



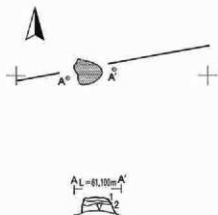
1. 褐色(5YR4/6)シルト もらい、焼土跡多い。
2. 赤褐色(5YR5/6)シルト 固くしまる。焼土アローク。
3. 黒褐色(10YR2/3)シルト もらい、根によるカタラン。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト 葉腐。

● 第38号焼土



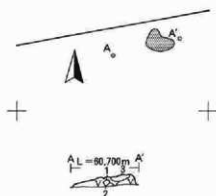
1. 赤褐色(5YR4/6)シルト 焼土。
2. 赤褐色(5YR4/6)シルト もらい、焼土がカタランを受けて移動。
3. 褐色(10YR4/6)粘土 固くしまる。IV層に根によるカタラン混じる。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト 葉腐。

● 第39号焼土



1. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 黄褐色(10YR5/6)シルト 固くしまる。V層が根により変化したもの。

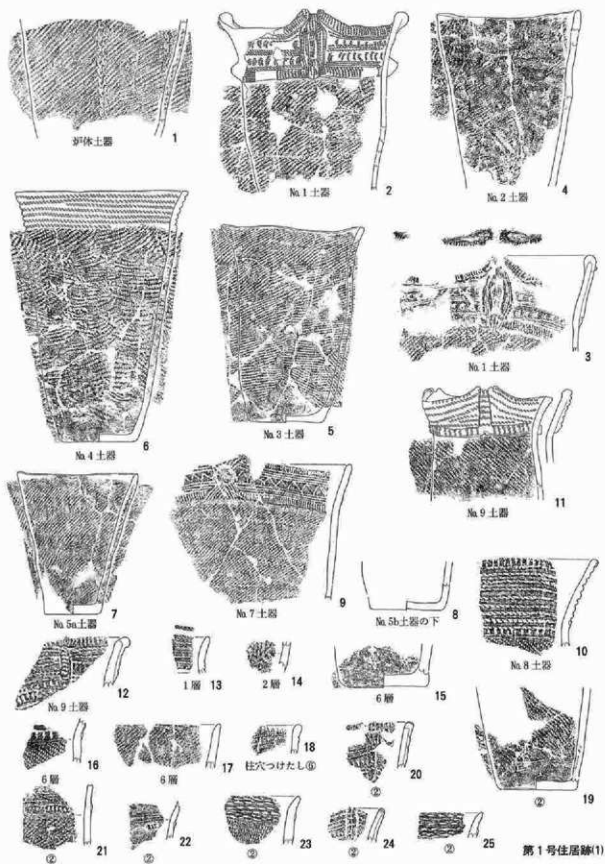
● 第40号焼土



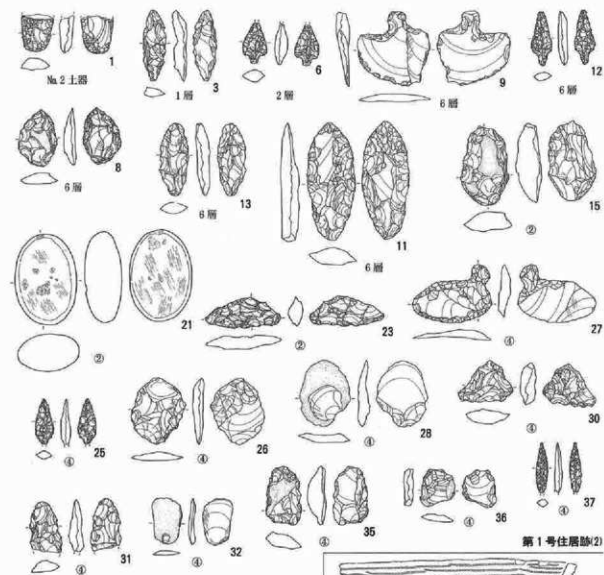
1. 暗褐色(10YR3/3)シルト もらい、根によるカタラン。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 根によるカタラン。
3. 赤褐色(5YR4/6)シルト 固くしまる。焼土。

0 1:40 2m

第67図 第37号～第40号焼土



第68図 第1号住居跡(1)出土遺物(1/5)

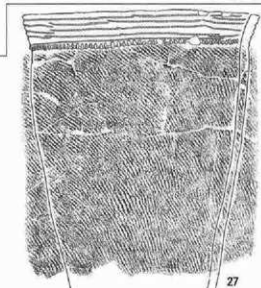


第 1 号住居跡(2)



伊体土器 1

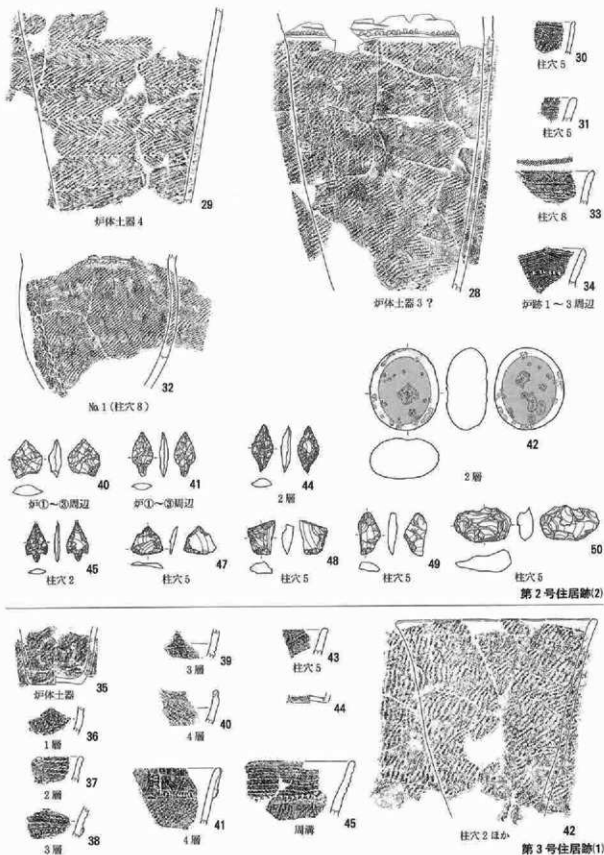
26



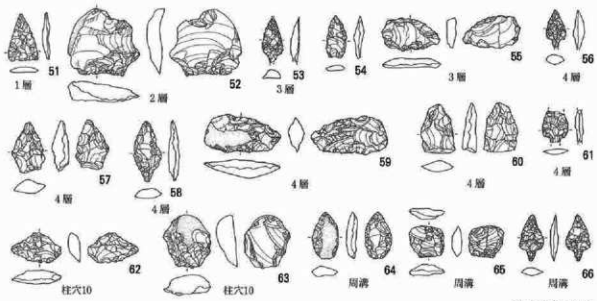
伊体土器 2?

第 2 号住居跡(1)

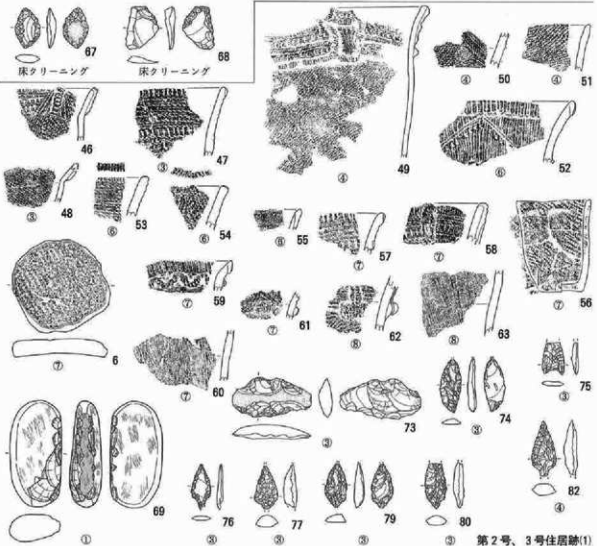
第69图 第 1 号住居跡(2)、第 2 号住居跡(1)出土遺物
(土器・礫石器 1/5、剥片石器 1/3)



第70図 第2号住居跡(2)、第3号住居跡(1)出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)

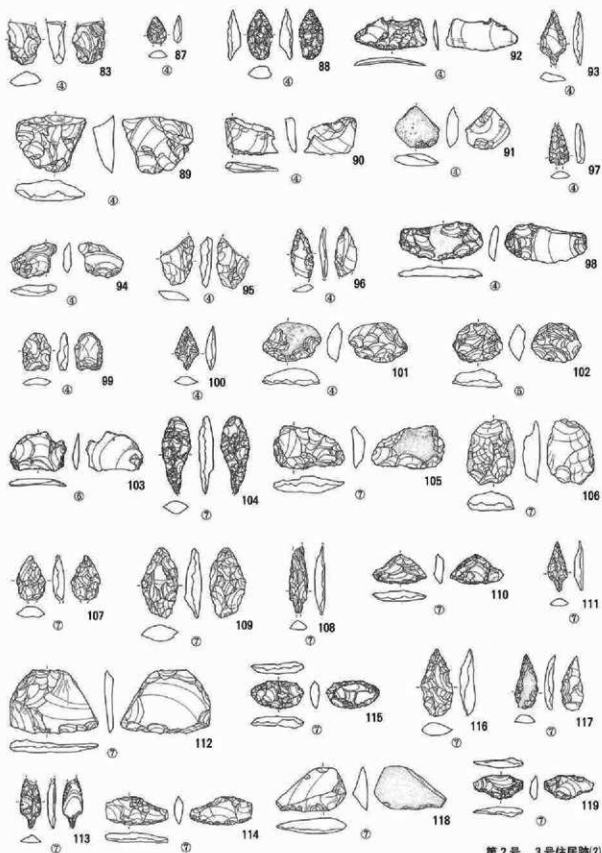


第3号住居跡(2)



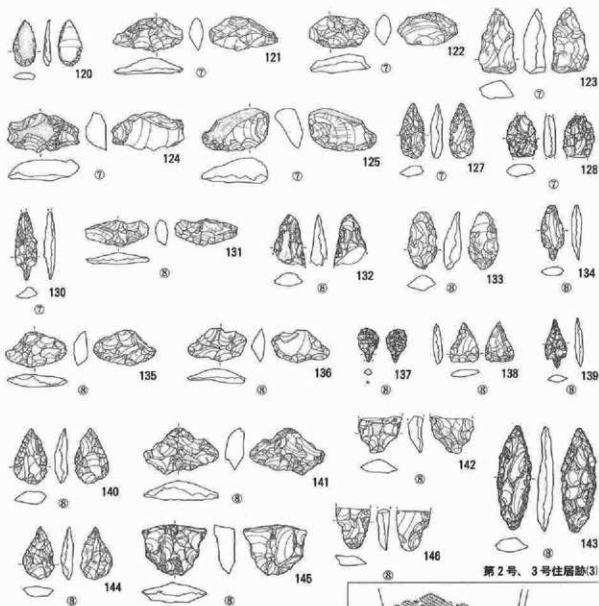
第2号、3号住居跡(1)

第71図 第3号住居跡(2)、第2号、第3号住居跡(1)出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器・土製品1/3)

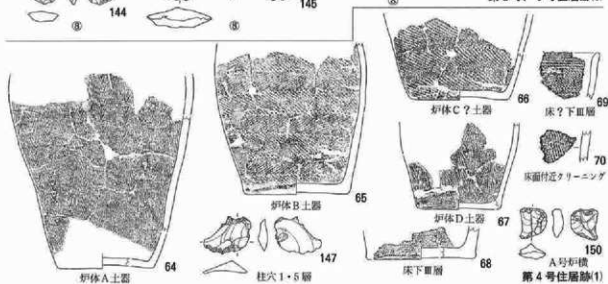


第2号、3号住居跡(2)

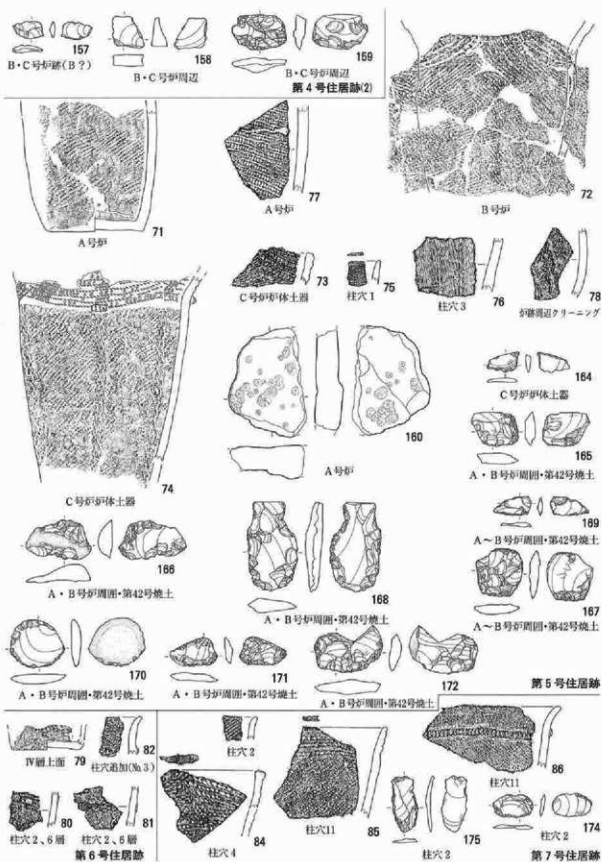
第72图 第2号、第3号住居跡(2)出土遺物
(剥片石器1/3)



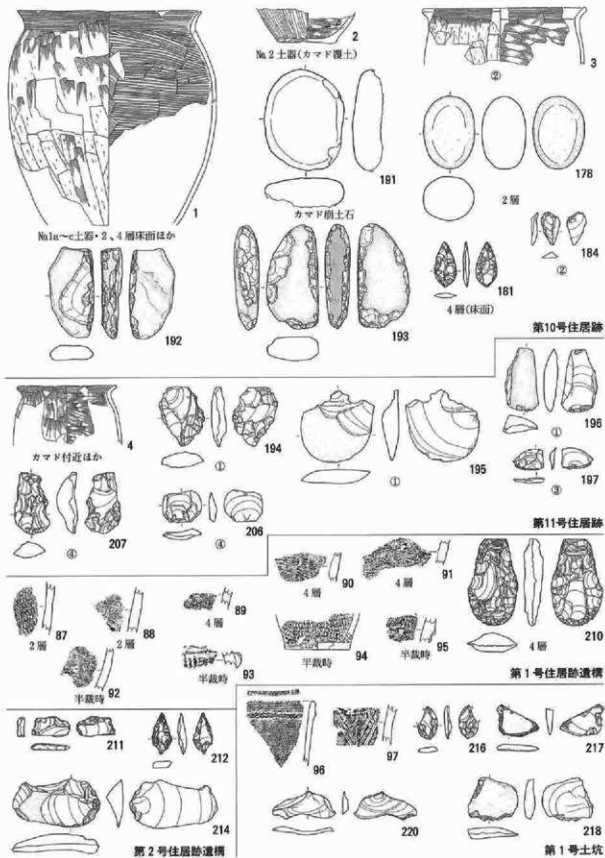
第2号、3号住居跡(3)



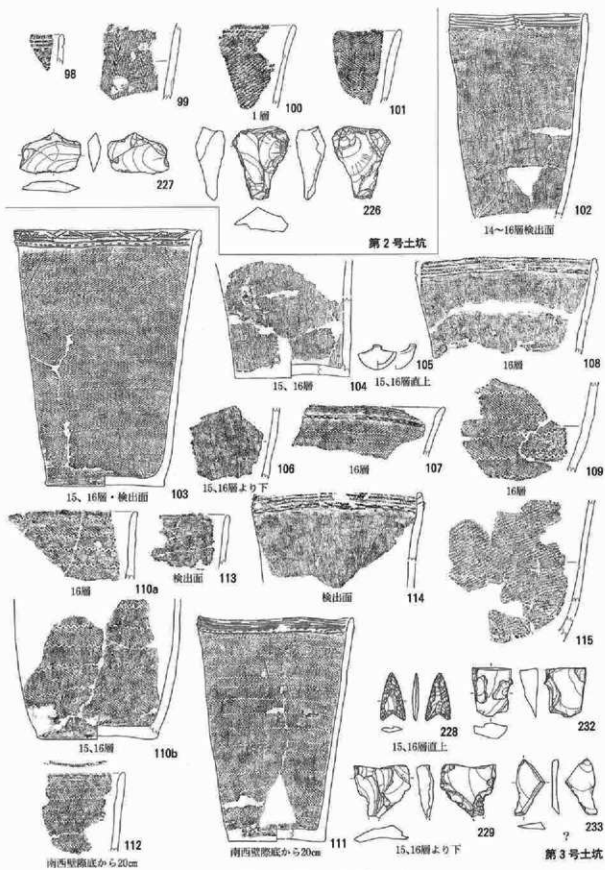
第73図 第2号、第3号住居跡(3)、第4号住居跡(1)出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



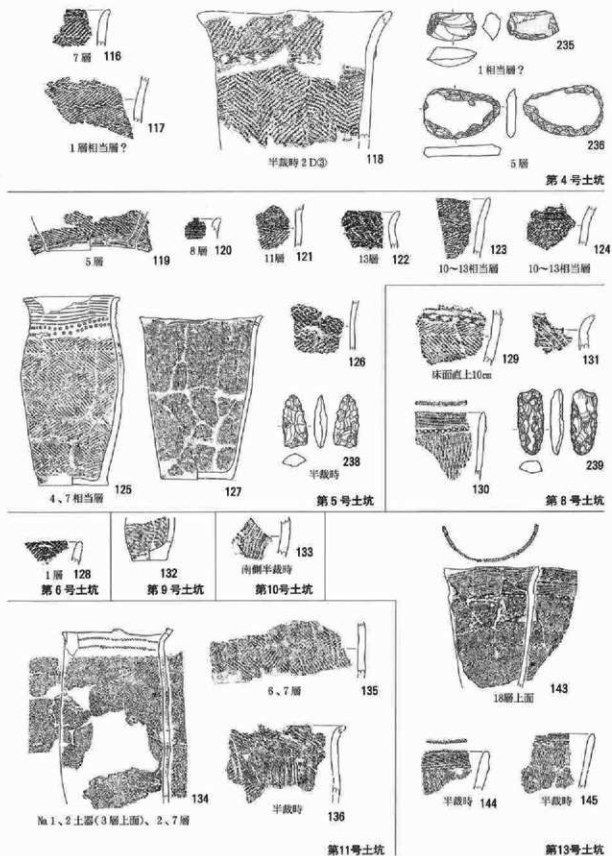
第74図 第4号住居跡(2)、第5号～第7号住居跡出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



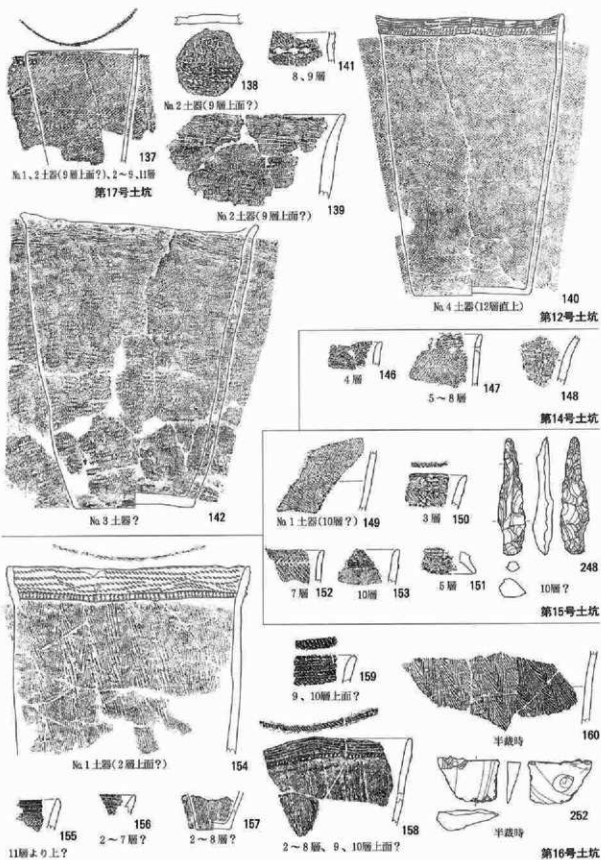
第75図 第10号、第11号住居跡・第1号、第2号住居状遺構・第1号土坑出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



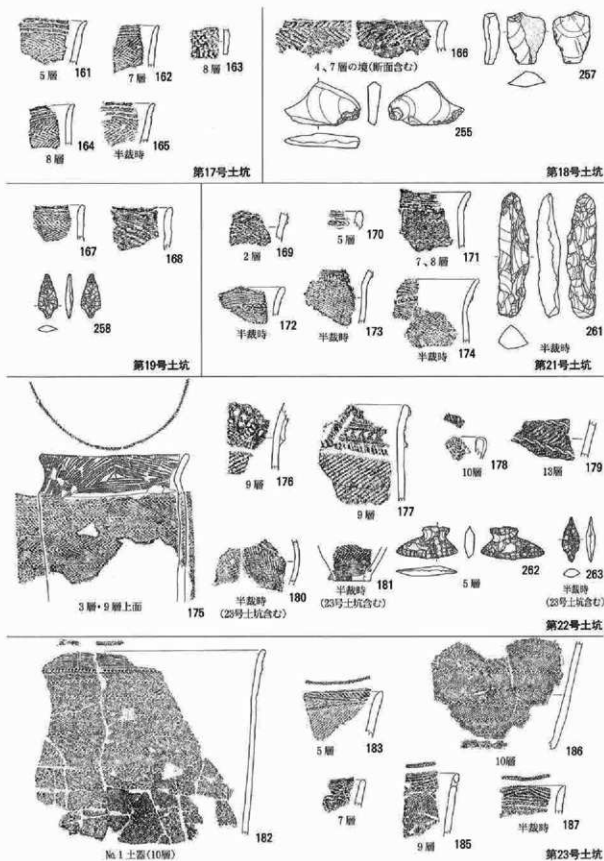
第76図 第2号、第3号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



第77图 第4号~第6号、第8号~第11号、第13号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



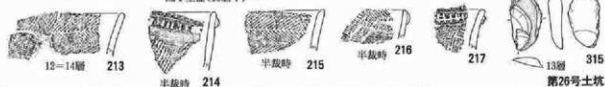
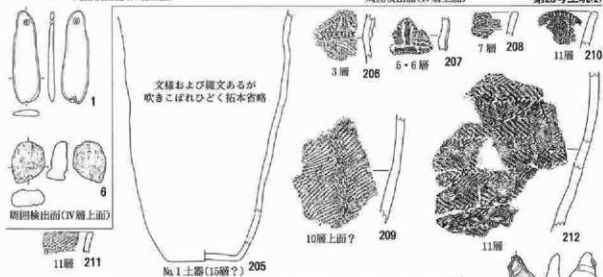
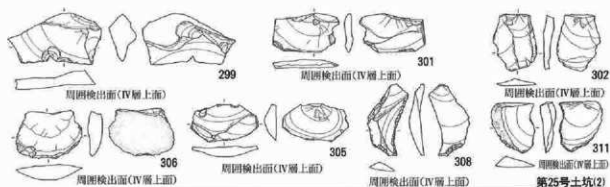
第78図 第12号、第14号~第16号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、削片石器1/3)



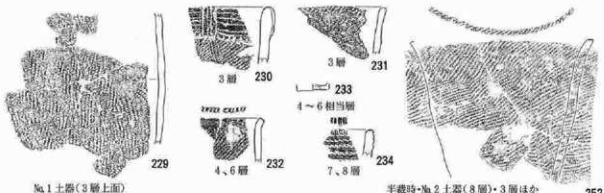
第79図 第17号～第19号、第21号～第23号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



第80图 第24号、第25号土坑(1)出土遺物
(土器・礫石器1/5、剝片石器1/3)



第81図 第25号土坑(2)～第28号土坑
(土器1/5、割片石器製品1/3)

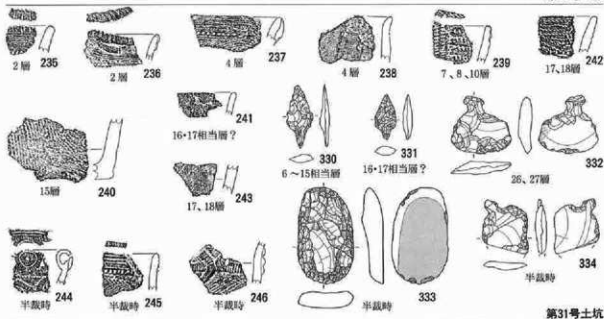


No.1 土器(3層上面)

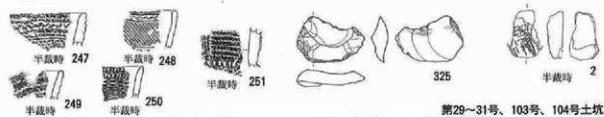
半截時-No.2 土器(8層)・3層ほか

252

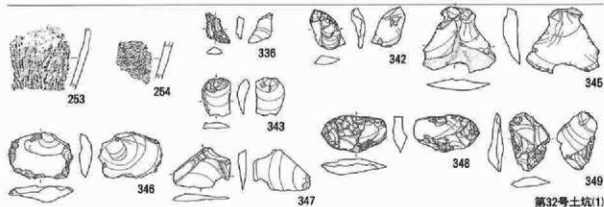
第29号土坑



第31号土坑



第29~31号、103号、104号土坑

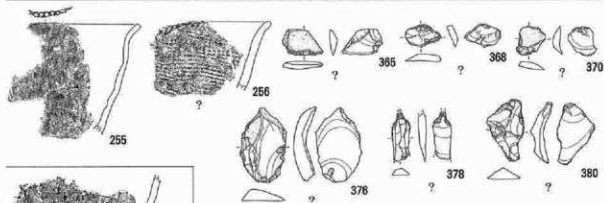


第32号土坑(1)

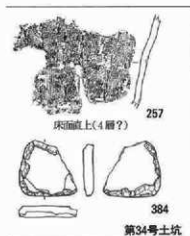
第82图 第29号~第32号土坑(1)出土遺物
(土器、礫石器1/5、刮片石器、土製品1/3)



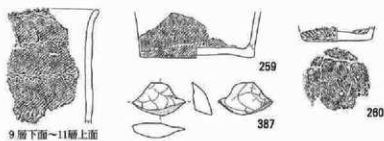
第32号土坑(2)



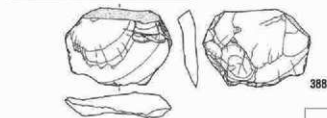
第33号土坑



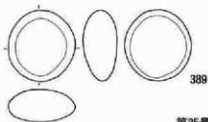
第34号土坑



第35号土坑



388



389



23層上面?ほか

261



④ほか

262

264

南北ベルト北側ベルトと下層



⑤

263

265

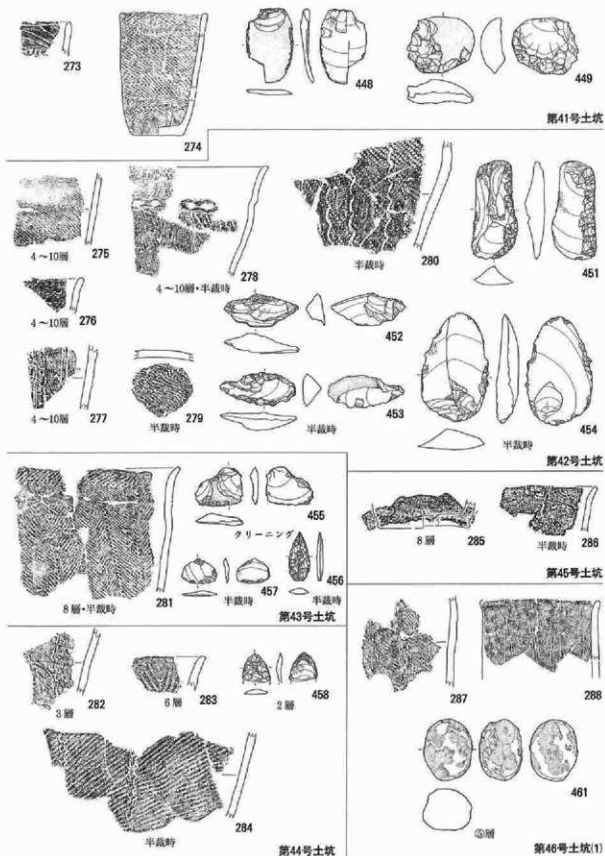
南北ベルト北側ベルトと下層

第36号土坑(1)

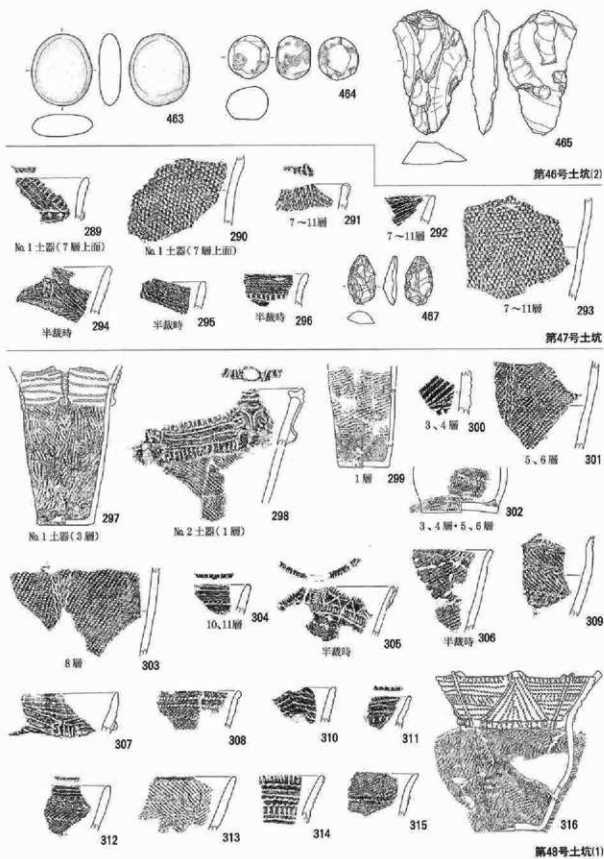
第83図 第32号土坑(2)、第33号~第36号土坑出土遺物
(土器、礫石器1/5、割片石器1/3)



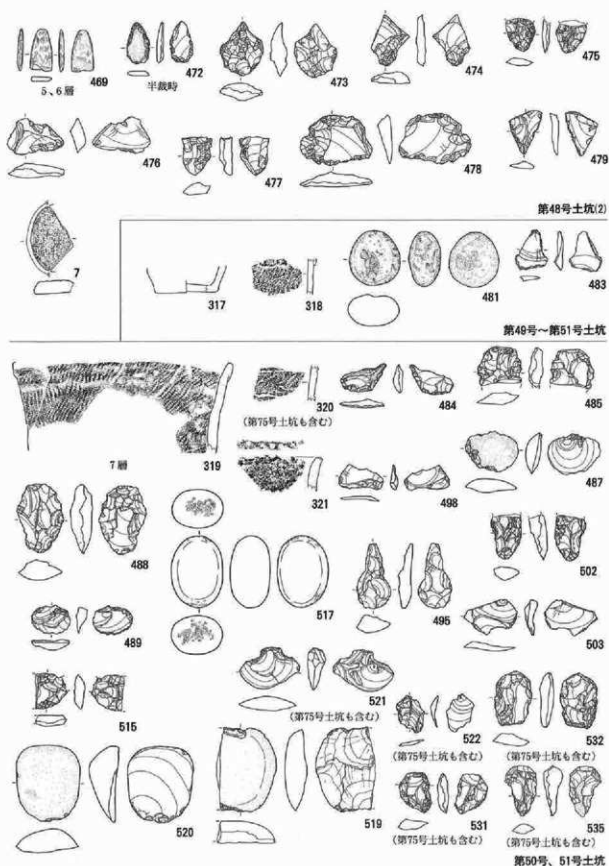
第84図 第36号土坑(2)～第40号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



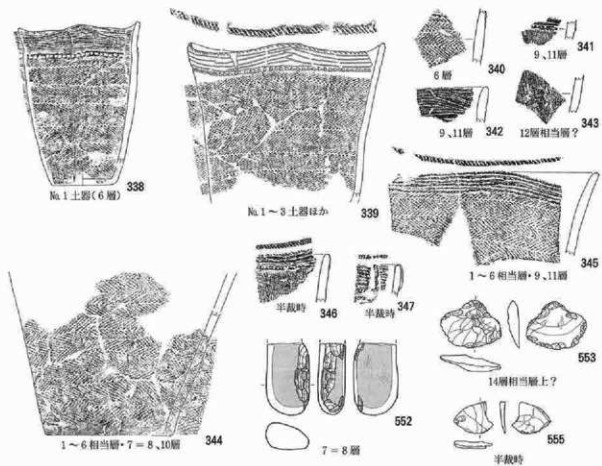
第85図 第41号~第46号土坑(1)出土遺物
 (土器・礫石器1/5、割片石器1/3)



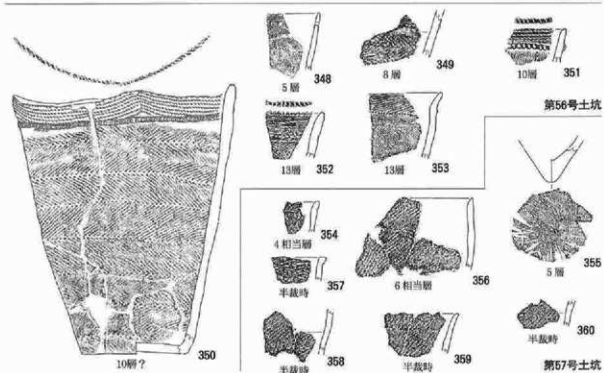
第86图 第46号土坑(2)~第48号土坑(1)出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



第87图 第48号土坑(2)~第51号土坑出土遺物
 (土器・磁石器1/5、剥片石器・土製品1/3)



第55号土坑



第89图 第55号~第57号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、銅片石器1/3)



No.1土器(3層上部)

361



362



364



365



363



366



半截時 368

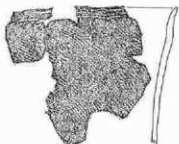
No.1土器(3層上部)

第58号土坑



367

1~4層(第29号、63号土坑)



No.1土器(2層上面)

369



370

No.1土器(2層上面)ほか



371



558

半截時



1層 374



3、4相当層 375



4層 376



1層 559

第61号土坑



5層 373

第60号土坑



3層 377

第62号土坑



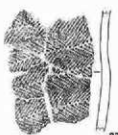
9層 372

第59号土坑



378

5層相当層



379

8層・半截時



8層 381



8層 383



384

4、8相当層・半截時



8層 380



8層 382



385

9~11相当層



9~11相当層 386



11層 387



半截時 388



564

半截時

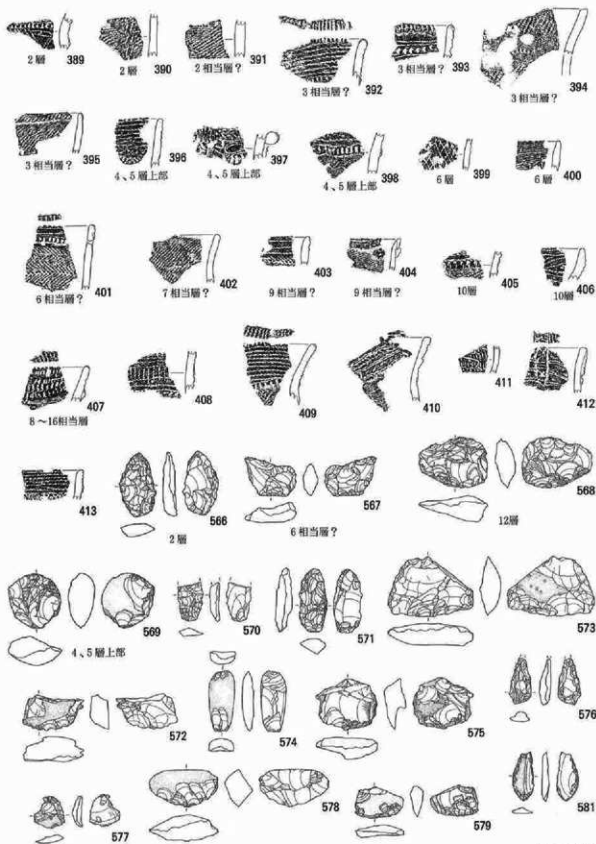


565

半截時

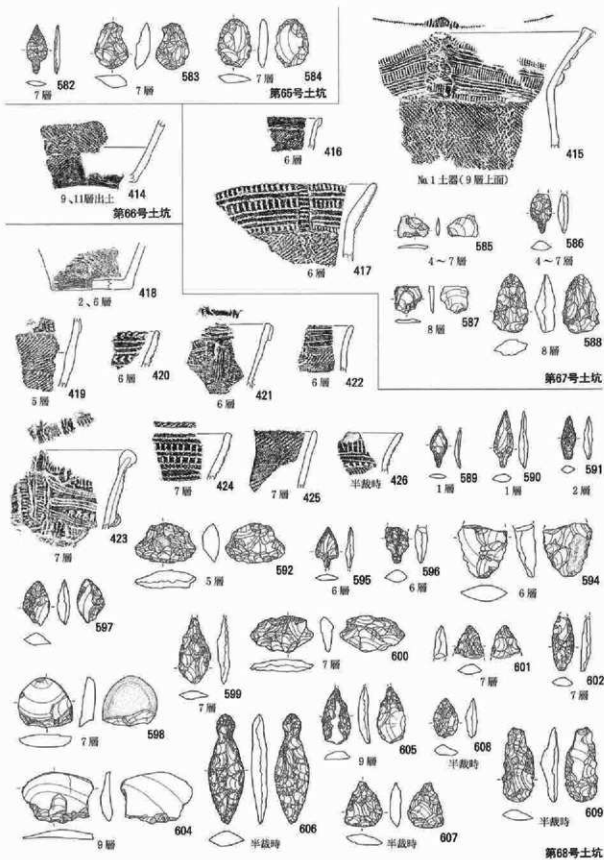
第63号土坑

第90图 第58号~第63号土坑出土遺物
(土器1/5、刺片石器1/3)

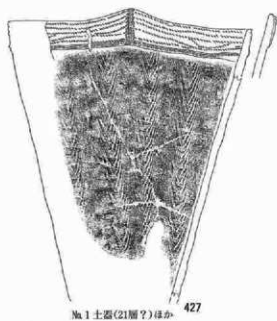


第64号土坑

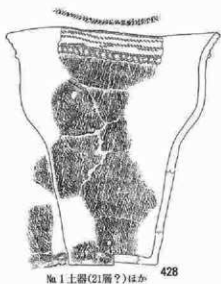
第91图 第64号土坑出土遗物
(土器1/5、剥片石器1/3)



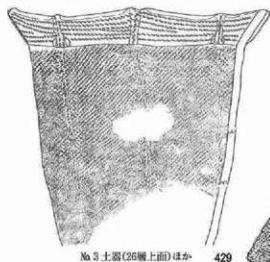
第92图 第65号~第68号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



№1土器(21層?)ほか 427



№1土器(21層?)ほか 428



№3土器(26層上面)ほか 429



№2土器 430



№4土器(24層) 431



№2土器の裏 434



№2土器脇 436



№4土器(24層) 432



№4土器(24層)



25相当層 438



25相当層 439



№2土器脇 437



№2土器の裏・24相当層 443



№2土器の裏・24相当層



半截時 441



半截時 442



半截時 440



半截時 443



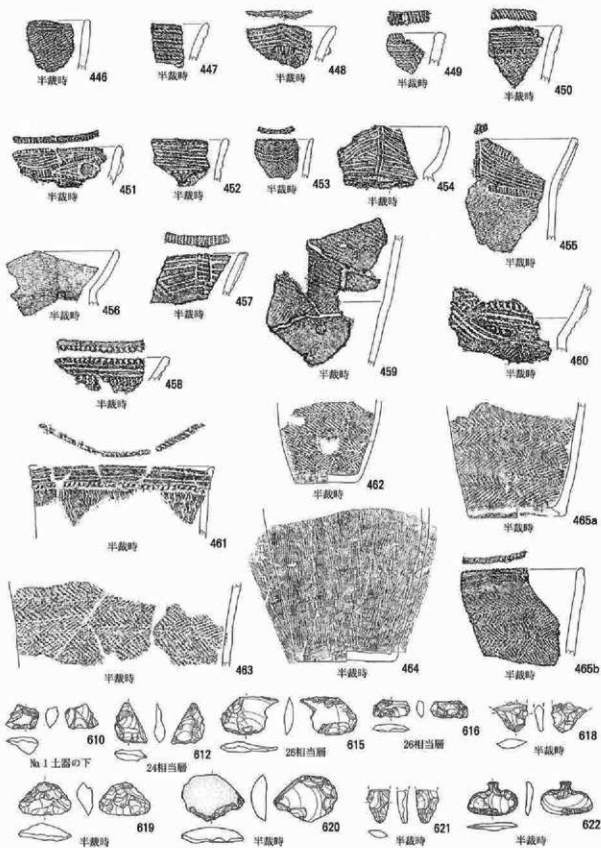
半截時 444



半截時 445

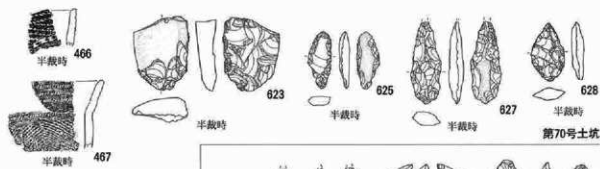
第93図 第69号土坑(1)出土遺物
(土器1/5)

第69号土坑(1)

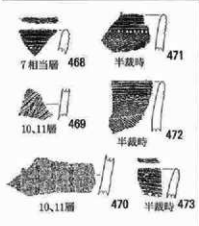


第69号土坑(1)

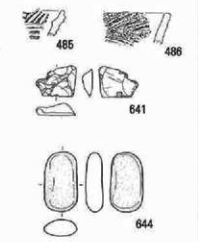
第94图 第69号土坑(2)出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



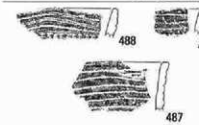
第70号土坑



第71号土坑



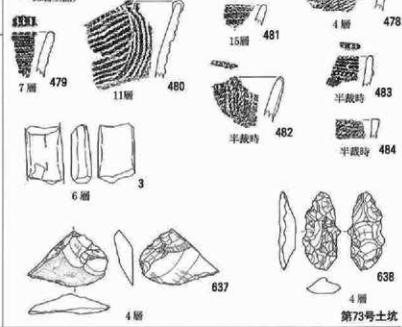
第74号土坑



第72号土坑

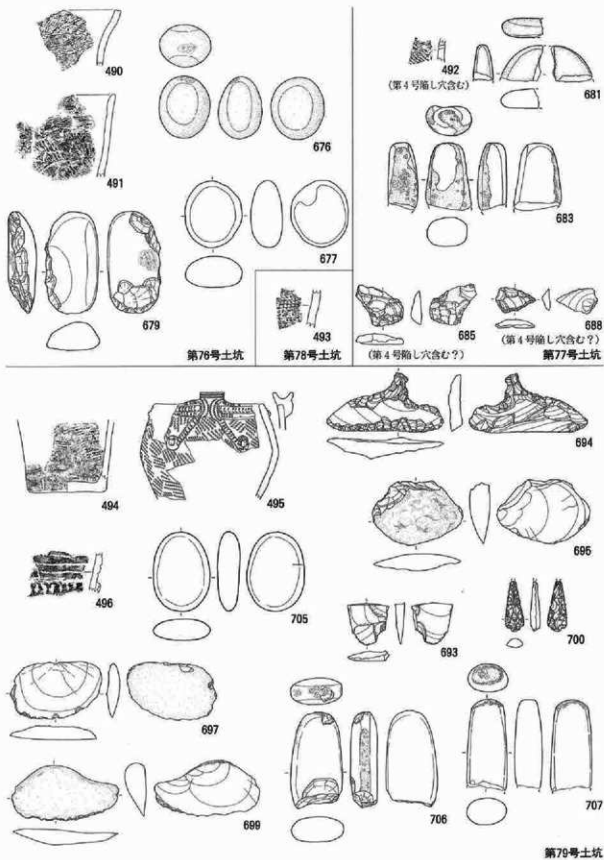


第73号土坑



第75号土坑

第95图 第70号~第75号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/6、剥片石器・土製品1/3)



第96図 第76号～第79号土坑出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



No. 1土器(3層上面) 497



2層 498



4相当層 499



4相当層 500



半截時 501



半截時 502



半截時 503



半截時 504



4層 709

第80号土坑



No. 1土器(2層上面)・1層



No. 2土器(3層上面)ほか



2層 507



北壁出し 509



北西部及びその周辺 半截時 710



南東隅及びその周辺 半截時 712

第81号土坑



17相当層 510



22相当層?



半截時 512



半截時 513



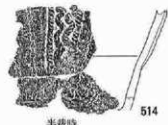
半截時 515



22相当層?? 713



半截時 714



半截時 514

第82号土坑



半截時 516



2層? 517



半截時 518



5層 715

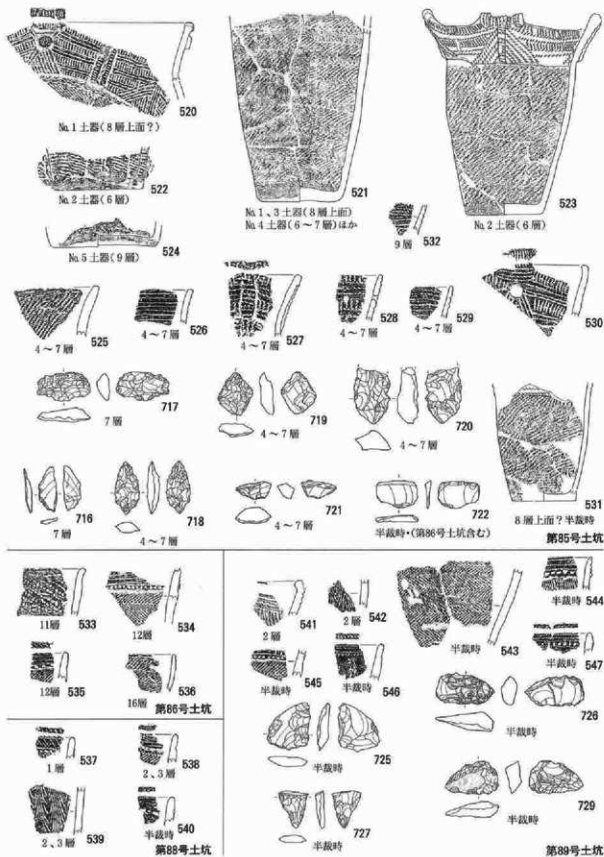
第83号土坑



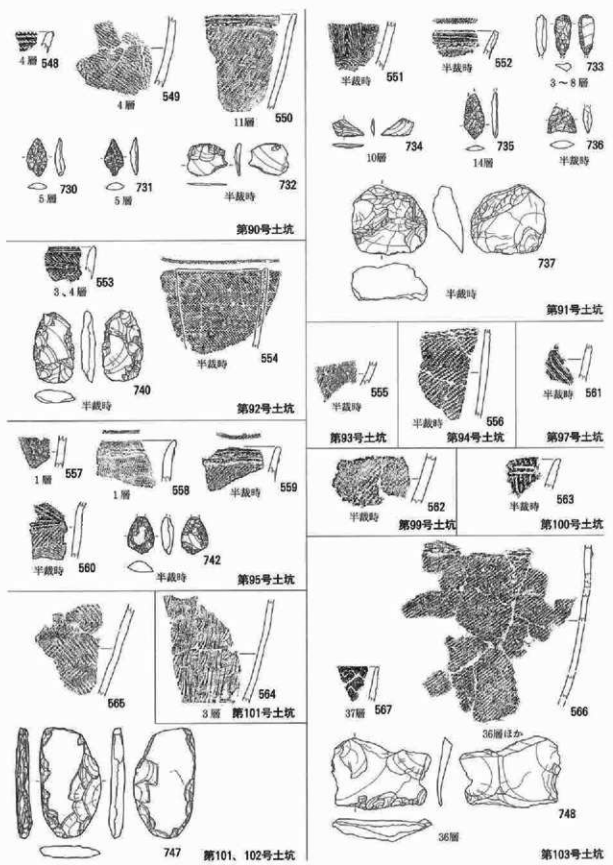
1層 519

第84号土坑

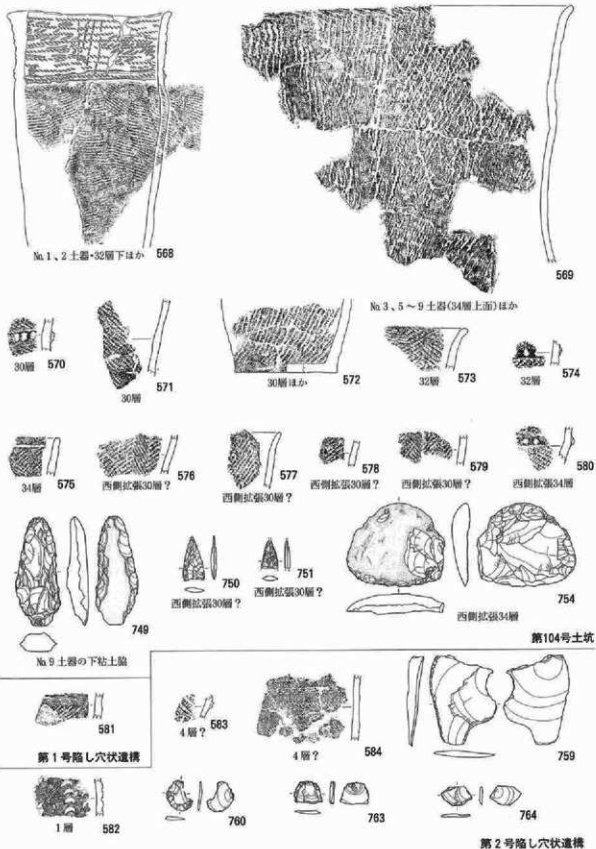
第97図 第80号~第84号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



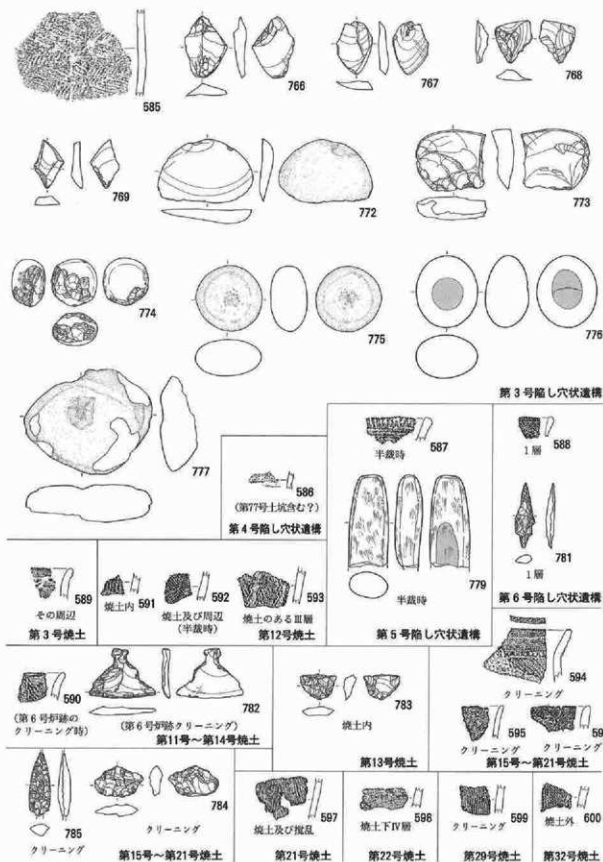
第98図 第85号、第86号、第88号、第89号土坑出土遺物
(土器1/5、刮片石器1/3)



第99图 第90号~第95号、第97号、第99号~第102号、第103号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、剝片石器1/3)



第100図 第104号土坑・第1号、第2号陥し穴状遺構出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



第101図 第3号～第6号陥し穴状遺構・第3号、第11号～第22号、第29号、第32号焼土出土遺物
(土器・礎石器1/5、剥片石器1/3)

V. 遺物

今回出土した遺物は、縄文土器（30×40×30cmのコンテナ）37箱、土師器約20点、土製品は23点（土器？1点、土偶4点、円盤状土製品4点、焼粘土塊14点）、石器は973点、石器製作時の剥片67,386.74g、石製品は8点（垂飾品1点、円盤状石製品？1点、軽石加工品6点）、アスファルト1点、コハク（加工品含む）18点である。

遺物の記載は図と表で行い、本文中にはその補足と概要のみ記したので、ここで、図版、写真図版、表を見る際の留意事項について述べておく。

本章では遺構出土の遺物も含めているが、それぞれ、その種類の遺物の中で最初に並べている。遺構出土の遺物は、第IV章の最後に遺構ごとの集成図を掲げているので参照していただきたい（第68図～第101図）。個々の遺物（遺構内）の出土状況は第IV章を参照していただきたい。

遺構外出土の遺物は、遺構出土遺物の後に出土位置の順（はっきりしているもの→はっきりしないもの、はっきりしているものはグリッド順としているが、若干混乱がある）に並べている。出土位置の欄の遺構の①、②等については第IV章の冒頭部分、グリッドの①、②については第III章を参照していただきたい。遺物の取り上げは、第III章に記したように、発掘時には基本的に層ごとに取り上げたが、初年度はこの原則に従えなかった場合が多い。また次年度でも、覆土に変化がなくて識別しにくい場合には、「○～△層」と、複数の層ごと一括して取り上げたものもある。「○相当層」とは、○層と離れた地点にある層（土）が○層と同じと思われるが確信が持てない層である。フラスコ状土坑を半蔵する際、安全上の理由でトレンチ方式にしたため、覆土が、通常残る所（断面実測をする側）と反対側にも残ることになったので、命名の必要が生じた。

1. 縄文土器（第103図～第183図、写真図版71～114）

〔概要〕大コンテナ（30×40×30cm）で37箱出土し、只～前期前半の上器が数点、後期の可能性のある上器が1点出土している他は全て前期中葉～中期前半の土器のようで、中でも前期末～中期前半の上器が大部分を占める。前期末は、大木6式系および折葉上器、中期前半には、大木7a式系、五領ヶ台1a式系工器が認められる。

〔掲載基準〕口縁部は5×5cm以上、胴部は10×10cm以上の破片、底部のみの場合は一割しているもの、小型土器は1/2以上のものを掲載しているが、遺構内はこの限りでなく、基準を満たさない土器でも必ず1点以上は掲載している。また、出土点数が少ない時期・型式、他と大きく異なる特徴を持つ土器も、この限りでなく積極的に掲載している。同一箇所から出土した同一個体破片で接合しないものについては、1点のみ掲載して、その他の破片については文章で補足するに留めたが、一部徹底していない所がある（No.381～383）。違う地点から出土した同一個体破片で接合しないものについては、同じ番号でa、bを付けることにしたが（No.110a、b）、この基準は徹底していないところが多い（No.1、3など）。

〔記載要領・表の見方〕記載は基本的に図と表で行ったので、最初にその作成要領、表を見る際の留意事項について述べておく。出土位置あるいは本文記載に示した分数は、掲載土器のうちその場所から出土した土器がどれだけの割合あるのかを示す。外面、内面の観察事項の欄の「>」は施工順序を表す。「半蔵竹管状沈線」とは、半蔵竹管状工具による沈線の略である。備考の欄の付着物の「ス」は吹きこぼれ、「おこげ」

は、厳密に区別しておらず、単に付着している量によって分けている（右に行くほど多い）。「焼けはじけ」とは、煮炊きによって土器の表面に直径0.5～1cm程度の円がたくさんできたとように剥落した状態を示し、剥落がひどい場合を「ただれている」と表現している。上記以外の事項については本章の冒頭部分を参照していただきたい。なお、掲載順序についても、冒頭に述べたとおりなのだが、不注意で不手際が生じている（No.829～831の順序）。

〔出土状況〕遺構内遺物の個々の出土状況は第IV章を参照していただきたい。出土量は、前期末～中期前葉の土器が大半を占め、遺構内外とも変わらない。土坑からは、早期～前期前半の土器なども出土している。第1号住居跡は円筒上層a1式の、第3号、第12号土坑は、円筒下層d1式の、第48号土坑は円筒上層a1式の、第69号は円筒下層d2式（前後の過渡期？）の、比較的良好な資料と言えようが、どちらかと言えば前期末～中期前葉は混入するケースが多いようだ

〔型式学的特徴〕ミニチュアおよびやや変わった器形と思われるのは、44、56、105、132、151（台）、157、180？、194？、233、274、299、348、395？、453（片口状？）、495（異形鉢）、536、595？、696、757、836、839。

その他、特に気になった点。半截竹管状工具による刺突は、逆コ字状で上下が練状（三角形）になっているものがほとんどを占める。

〔時期・型式〕時期・型式を同定するに当たっては参考文献に掲げたものを参照したが、円筒下層d2式と円筒上層a2式の特徴を報告者が十分に理解し得なかったため、特に円筒下層d1式～上層a2式については同定間違いが多々あるものと思われる。

縄文時代早期は、166、250、355。250、355は、早期前葉日誌文土器で、250は白灰式、355は寺の沢式か。166は、早期後葉表裏雑文土器で、赤御堂式か。その他、後述のように早期～前期中葉の可能性のある土器片もある（55、163）。

前期前葉の可能性のあるものは、357（下層a？、深脚出？、大木1式？）。

前期中葉のうち、円筒下層b1式と思われるのは、82、124、169？、188？-190=192、265？、278？（b2式？）、279？、536？、570？、574？、575？、589？、641（a～b1式）。

円筒下層b2式と思われるのは、80？-81？、118、128？、129、141、253？、275？、315、568、638、640、643、743？、882？

前期後葉（円筒下層c式）と思われるのは、122？、131、143、289、508？、560？、588？、624？、871、873。134も、この前後の可能性があるが、特異な土器であるため、はっきりしない。

前期末葉のうち、円筒下層d1式と思われるのは、23？-25、31、33、34、69、75？、76？、96、102～104、107、108、111、113、114、127？、130、139？、140、142、144、145、147、148、150、153～156、158、159？、160？、161？-165、162～164、170？、182、183、185？、187、199？、202、220、221、225、227、245、255？、263、266、268、270、290？（c2式？）、293？（d2式？）、304、312、324？、327、328？、330、332、333、336？、339？、341、343？、344、345、346、348、350、352？、353？、362、363、366、369？、372？、378？、380、381=382=383+388、385、387、401、403、413、430、437、440、443、465？、468-471、469？、470？、472、473、488、519？、534、535？、537、538？、539？、540、544、546、547、550、551？、552？、553、554？、555？、557？、558、559、566？、601？、602？、603、604？、605-606、607、608、609？、611？、612、614、615、617、619-621、625～627、628？、630？、631～633、636、637、644、647、651、669、672、682、686？、696、721、735？、738、745、793、802、807、809？、843、

850?、857、862、874?、875?、879?、880?、884、885、886?、887?、896?、899? 924。

円筒下層d2式と思われるのは、125?、171-172、173?、174、175、203?、219?、235?、237??、238?、243?、247?、273?、296、311?、326、338、342?、347?、361?、368??、427、454、466 (上層a1式?)、467 (上層a1式?)、488?、489?、497、501 (上層a1式?)、516 (上層a1式?)、545?、594?、642?、645?、657?、683 (上層a1式?)、684 (上層a1式?)、706?、710?、714?、725?、727??、729?、740?、747、788?、801 (上層a1式?)、804、808?、830 (上層a1式?)、834、837 (上層a1式?)、846?、858?、859?、883?、892?、893?、894、903?、904、906?、916、923?、925?

前期末と思われるもので、異系統及び折衷形態。大木6式系の可能性のあるのは、769、大木6式と折衷的と思われるのは、401、428 (大木7a式との折衷?)、461。

中期前葉のうち、円筒上層a1式と思われるものは、5?、6、10-12、13?、16、18?、20、21?、22?、24、26-28、32、36-38、45-48、50、53、54、57、58、61、62、73、74、84、85?、86?、93、95?、197?、198?、209?、223、228?、230、234、239?、242?、249?、251、271、272、280?、287?、289?、291、292?、294、295?、297、298?、300 (下層d2式?)、307、310、314、316、325、331、334、364?、376?、392、393、396、397?、398?、404?、405、406、407 (下層d2式?)、408、409、412 (下層d2式?)、415、417、420?、422?、424、426、429、434、436?、439、441、444??、445、447-449、450?、451、452?、453?、455-458、460、474?、476?、477?、478 (下層c式?)、479?、480、481?、482?、486?、487、496、498?、499?、500? (下層d2式?)、502、503?、504?、505、513、515、518、520、523、526?、527-531、532?、548、587、590?、593?、610?、635、646?、650、653、664-666、667?、668、670、671?、673、675、676、679、680?、681、685、687、688、690、691?、693?、694?、695?、700、701?、702、704、705、712?、713?、716、720?、723?、724?、730、734?、741、744?、748、753、758、760、761、762?、763、764、766、768、770、771?、773?、774?、776?、777、778-789?、779、780、781、782?、783、785、786、787?、790、791?、792?、800、803、810、811?、812?、813、814?、815?、817?、818、820?、821?、823?、825、827、829、831、833、838、840、842、844、845、851?、852?、853、855、864、866、868、870?、872、876?、888?、891、897?、898、902、905、907、908、909?、911-915、914?、918、920、921、922。

円筒上層a2式と思われるものは、9、41、206、267、305、389?、495?、511?、677?、707?、711?、717、731、736?、754、755、765、794=806、805 (a1式?)、832、847?、878?、889、890??

円筒上層b式と思われるものは、2=3、49?、59?、176=177?、178、195、210、216、226、236、246?、262?、264、269、393、397、421?、423、509、510?、512、582?、583、586?、655?、658、663、699、709、715、718、726、728?、733 (上層c式??) ?、795、797? (a2式?)、822?、867、877?、895??、900?、901?

中期前葉の異系統と思われるもの。大木7a式系と思われるものは、207、261?、410?、411、416??、485、514、652、817、828、835、919? 五領ヶ台Ia式系の可能性があるものは、52、264 (大木7a式系?)、277 (大木7a式系?)、248、323、541、656、708、756。

後期前葉の可能性のあるものは、847? (盤沢式~I-I'内I式占?)。

上記以外のはほとんど全ては、縄文時代前期中葉~中期前葉、中でも前期末~中期前葉 (円筒下層d1式~円筒上層b式) に相当するものが多いと思われる。しかし、次の2点については、破片ながら別の時期の可

能性がある。55と163がそれである。何れも側面圧痕のようで、前期中葉～中期前葉にも具体的に見られるものであり、特に163については、これが密でなければ円筒土層b式であってもおかしくない。しかし、印象が全く違う。数人の上司・同僚にも当たって見たが、何れも、「古いのではないか」、早期～前期前葉ころではないか」という意見は一致したが、小破片であるため、これ以上の特定には至らなかった。

(1) 遺構出土の土器 (第103図1～第156図600、写真図版71～101)

いずれの遺構も、前期中葉～中期前葉、中でも前期末～中期前葉の土器を主体とするが、最も数の多い土坑には、前期中葉も含め比較的古い土器も認められ、早期～前期前葉の土器も出土している。しかし、前期中葉を除き複数出土するということはなく、どちらかと言えば紛れ込みといった状況を呈している。

(a) 竪穴住居跡出土の土器 (第103図1～第112図86、写真図版71～77)

前期中葉を主体とするが、第4号住居跡のように前期末も見られる。他の時期は少ない(55は古いか)。第1号住居跡は、円筒土層a1式の比較的良好な資料と言えようか。以下、表の補足。

2の突起部、口唇も側面圧痕。胴部には、何らかの縄の粗粒らしきものが見える。外面、胴部上半スス付着。
6の外面、底から1/3より下二次焼成でひどく摩耗。内面、1/3より下黒い。内面整形、頸部屈曲部より上ヨコミガキ、その下タテミガキ。

26の内面、胴部上部には黒斑が一周しており、焼けはじけが見られる。

27の内面、口縁の屈曲部摩耗、外面も一部摩耗。

42の取り上げ、柱穴2か24/28、「床クリーニング」1/28、「第2～3号住居跡④」3/28。

65の取り上げは、「炉体土器」12/15、「炉跡」1/15、「炉周辺」2/15。内面は、底から高さ15cmくらいまで帯状に黒く、その上は二次焼成で艶く白い。

71の内面下部ススが付着しているが、底面はない。

74の施文順序、口縁側面圧痕→胴部縦線文→突起。頸部突起4単位。口縁部文様意匠(波状文)4単位で、波頂部は頸部突起の間に来る。胴部の縦線文は、8単位で、波頂部と頸部突起の両方に対応。左面、頸部の屈曲部より下は黒、上は赤い。内面上部、外面下部、焼けはじけ。外面胴部中央、ススの帯が見える。外面上部、二次焼成強く白くなっている。

(b) 住居状遺構出土の土器 (第112図87～95、写真図版77)

他の遺構と同様、前期末～中期前葉の土器を主体とする。

(c) 土坑出土の土器 (第112図96～第156図580、写真図版77～100)

前期中葉～中期前葉がほとんどで、中でも前期末～中期前葉の土器を主体とするが、163?、166、250、355、357のように、円筒～前期前半の土器も認められる。第3号、第12号土坑は、円筒下層d1式の、第48号土坑は円筒上層a1式の、第69号は円筒下層d2式(前後の過渡期?)の、比較的良好な資料と言えようが、どちらかと言えば前期末～中期前葉は混入する機会が多いようだ(報告者の型式認識に問題があるのかも知れないが)。以下、表の補足。

96の口縁部、羽状の意匠だが、間隔が開きすぎているところあり、側面圧痕か。頸部、高め隆帯上横から刺突(口ほど深くない)。

100の出土状況、写真図版24参照。

102の出土位置は、検出面6/28、14~16層1/28、15~16層直上2/28、16層2/28、同じく16層（断面図にあり）17/28。出土状況は、写真図版24参照。施文順序は、頸の隆帯→口、胴。口→頸部の刺突は、同じ細く尖った棒状工具で施文しており、口縁部は垂直方向に深く、頸部は横から突き刺している。口縁部中央の断面比較を縦断している刺突群は、3単位だが、それぞれの構成は微妙に異なっている。その間の口縁最上部にも刺突群が見えるが、3単位かどうかは不明（欠けているため）。

胴部の文様は、結束部分だけ生かし、表状部を消そうとして、単軸輪状部を上書き施文している。

103の取り上げは、「写真図版24に出土状況を示したもの（15~16層）」4/20、「16層（断面図にあり）」3/20、同じく「16層」6/20、「南東城廓底から20cm（16層）」3/20、「検出面」4/20。口縁部の波状意匠15単位で、図正面に見えるように一箇所だけ異なる部分がある。胴部の縄文は、底付近まである。底面ナデ（J字）。頸部の刺突は、深く尖った棒状工具で。外面上半スス付着。内面、10×5cmの範囲、ひどくただれ、焼けはじけが一杯。

104の注記に不備があり割合不明だが、判明できたものには、16層、15~16層、南側城廓底から20cmがある。内面底面ただれ。

107の胴部、結束1種（LR、RL）ヨコ逆位交互に。

110Bの出土状況は、写真図版24参照。外面、底面中央摩耗。

111の施文順序は、隆帯→側面狂浜・羽状縄文→隆帯ナデ・刺突。刺突は、細く尖った棒状工具により横方向から。外面、底から1/3二次焼成で赤というより白い。内面底面ただれ。

118の取り上げ位置は、第4号土坑が6/11、2D③・包含層が5/11。

125の取り上げは、「4、7相当層」が1/14、「半截時」が13/14。施文順序は、胴→頸（→頸ナデ）、外面上部スス付着、下部二次焼成。内面上部ただれ。

127の内面は、底面は二次焼成で赤く、その範囲の胴部はススが附着していて、スポット・ライトが当たったかのように見える。

134の出土位置、No.2土器（3層上面）22/27、No.1土器（3層上面）2/27、7層2/27、2層1/27。

137の出土位置、No.1土器（9層上面？）5/10、No.2土器（9層上面？）2/10、11層2/10、2~9層1/10。外面二次焼成で摩耗。

139の出土位置、第12号土坑・9層上面2/3、第17号土坑（半截時）1/3。

140の口縁部突起（波状口縁）、7単位か（明瞭でなく乱れている）。頸部隆帯上に結束1種施文されているところあり。胴部の羽状縄文、中央より上に逆位に施文されているところあり。外面、胴部下1/2摩耗、上スス付着。内面、中位一周帯状にスス付着。

143の出土状況、写真図版28参照。胎土繊維含む。内面焼けはじけ。

145の同一個体破片、多くあるが（5×5cmで4片）、接合しない。

150の外面、スス付着、摩耗。

158の出土割合、2~8層1/7、9~10層上面？6/7。

171の胎土、繊維、石含む。内面スス付着。

175の取り上げ、3層1/16、9層上面？が6/16、1半截時9/16。外面、頸の屈曲部ナデで光沢が見られる。

183の内面、焼けはじけ？

185の補修孔、内面上下帯状に二連結して上穴は未貫通。外面摩耗ひどい。

196の取り上げは、「写真図版32~33に出土状況を示したもの（15層）」5/13、「8層下面~15層上面」4/13、

「第25号土坑」とだけ記載3/13、16 C㊸の土坑（第36号土坑）（検出面）1/13。内面、胴部中央帯状にスス付着。外面は、特に下部にスス顕著で、上部は赤く二次焼成を受けている。

205の口縁部付近、折り返しなのか、剥落している。胴部縄文、上部1/4周、結束1種（RR？、LR）ヨコ？、その他の部分は痕跡的で、吹きこぼれ厚く不明だが、他の原体もありそう。胴部のケズリ粗く、土着に当たって太い沈線状になっているところある。外面吹きこぼれ、胴部上半（底から10cmより上）、内面お焦げ、上部にもあるが概ね胴部下半に集中し底にはない。吹きこぼれ、お焦げ、いずれもすごく、器面全面を全面厚く覆っている（大分剥落してしまったが）。

226の刺突列、上の隆帯が覆い被さってつぶされている。

230の口縁部隆帯低め。胴部は、LRヨコが基本のようだが、隆帯下だけはLRヨコ（0段多条？）→単軸絡1A（R、L）タテ。

252の取り上げ、「第29号土坑 No. 2土器（8層）1 5/20、「同・3層」8/20、「第29～31号、第103号、第104号土坑 半截時」5/20、「5 C㊸・IV層-10cm」2/20で、後ろから2番目の出土位置のため、手違いで、この位置に入ってしまった。

261の取り上げ、「写真図版37に出土状況を示したもの（23層上面？）」2/15、「南北ベルト北側・ベルトと下層」5/15、「南北ベルト南側・ベルトと下層」4/15、「6 C㊸土坑」2/15、「第36号土坑」のみ3/15

262の取り上げ、第36号土坑㊸1/5、6 C㊸の土坑（第36号？）4/5。

267の取り上げ、「写真図版37に出土状況を示したもの（14層下部）」7/19、「写真図版37に出土状況を示したもの（17層下面～18層上面）」5/19、「㊸」2/19、「南北ベルト南側・ベルトと下層」5/19。頸部隆帯間の文様意匠は、波頂部4単位が基本のようだが、一箇所波頂ある。外面、お焦げ非常に多く厚く付着していて原体ははっきりしない。外面、底から8cm赤く二次焼成を受けていて一部ただれており、その上はお焦げが付着。内面、口縁部付近と底は二次焼成のためか赤く、その間は黒い。

270の口縁部、折り返しか。

278の半分は、「半截時」で取り上げ。

281の取り上げ割合、8層1/2、半截時1/2。垂みひどく、径復元できない。

297の口縁部隆帯、胴部の縦線文と対応しているようで、4単位か。外面蓋面、ナデ。内面整形、光沢はないが細長い工具痕でミガキか。ススは、内面は、底部下から5cmの範囲に帯状に（底面にはなし）、外面は胴部上半中心。

301と303、同一個体。

316の二股の方の口縁突起、頸部の突起、さらに胴部の縦線文に対応。外面、胴部突出部より下二次焼成で赤い。内面、全体的に厚耗気味。

323の出土位置、No. 1土器（11～12層上面）4/5、9層1/5。

324の外面、底面ミガキ。外面底から1/3やや摩耗。

326の出土割合、南部2層主体4/5、4、5層1/5。口縁部左端の円形の割れ口、袖修孔の未貫通か。

327の頸部刺突、刺す又伏工具によるものか、上下二個一対。

330の胴部原体、結束1種（RL+附加条R、LR+附加条L）。外面表皮、バラバラと剥落する。

332の施文順序、胴→頸部側面正横。

338の外面、口縁～胴部上半スス付着、胴部下二次焼成で白～赤いが、一部底から頸部まで幅20cm近く摩耗している。

- 339の取り上げ、No. 1土器4/77、No. 2土器9/77、No. 3土器4/77、1～5層10/77、7～8層2/77、半裁時48/77。
- 344の出土位置、1～6相当層が1/8、7～8層が5/8、10層が2/8。
- 345の出土割合、1～6相当層1/2、9、11層1/2。
- 350の施文順序は、口縁部側面江痕→頸隆帯→胴部羽状線文。
- 366の頸部微隆帯下の側面圧痕上に羽状線文が覆い被さっている。
- 367の出土位置、第29号土坑・5層1/5、第58号土坑・1～4層1/5、同・半裁時1/5、第63号土坑・半裁時2/5。第58号土坑の場所に掲げられているのは不明だが、最初の登録時にこの注記のみ移記したためか。また、一つだけ離れた第29号土坑から出土しているのが気になるが、現場で付けた仮番号は、第29号土坑→D65F土坑、第58号土坑→D64F土坑、第63号土坑→D69F土坑であり、64を65と書き間違えた可能性もなくはないが、遺構名はプレートに記してその場に置いているので、考えにくい。
- 381は、382、383と同一個体。388ともか？
- 384の取り上げは、1半裁時3/6、「4相当層」2/6、「8相当層」1/6。原体の附加条が、RLにLがうまく絡んでおらず、結節状になっている。
- 427の取り上げ、No. 1土器（21層？）14/41、No. 2土器（24層）12/41、No. 2土器の奥7/41、25層相当層2/41、半裁時6/41。外面、底付近スス。
- 428の出土位置、No. 1土器（21層？）6/21（底部）、No. 2土器の胎6/24、25層相当層1/24、半裁時11/24。二次焼成で赤くなっている。
- 429の取り上げは、「No. 3土器（26層上面）」27/32、15層相当層3/32、「半裁時」2/32。胴部の線線文（結節回転文）は、口縁部の突起のどちらにも対応。
- 430の取り上げ、No. 2土器1/2、半裁時1/2。外面、上から10cmスス、その下二次焼成で摩耗しているが、一部、上から下までただれており、その部分は内面も同様。
- 433の取り上げ、No. 4土器3/6、No. 2土器の奥2/6、半裁時1/6。外面、底から10cmより下摩耗しているが、底面はしていない。
- 435の出土割合、No. 2土器の奥10/11、24相当層1/11。外面、二次焼成で赤い（オレンジ色）。内面、底付近スス付着、底面百上ただれ、底面は二次焼成で赤い（オレンジ色）。
- 440の頸部、刺突列と羽状線文の間に無文帯。外面、口縁部特に摩耗。
- 455の外面、頸部隆帯下に無文帯。内面整形、屈曲部より上ヨコミガキ、下タテミガキ。
- 505の取り上げ、No. 1土器（2層上面）4/9、1層4/9、本遺構南西部及びその周辺（底）1/9。
- 515のスス付着位置は、外面は頸部付近にとどまり、内面は外面に対応するように、1度それが途切れる辺りから下に見られる。
- 520の口縁部に垂下する隆帯、一部剥落しているが、その下は無文。その隆帯間には、上に口が狭く十字状（家の棒は棘状になっている）の刺突列。ボタン状貼付文の上の側面圧痕、渦巻き状に。
- 521の取り上げは、1半裁時2/9、「No. 1（8層上面？）（残した土器）」1/9、「No. 3（8層上面）」1/9、「No. 4（6～7層）」2/9。外面、上部帯状にスス付着、下部二次焼成で赤い。内面、下部帯状にスス付着、上部と底面は二次焼成で赤い。
- 523の底部～底面ナデ。頸部直下幅3cmで帯状に一周スス付着し、それに直交するように、吹きこぼれがほぼ等間隔で（突起の間）口縁から垂下し（4箇所というか4単位？）、ススから下に約7cm続いているが

(胴部突出部まで)、一箇所だけは底まで続く。胴部突出部より下は二次焼成で赤くなっている。

566の取り上げ位置、「第103号土坑・36層1/5、「第29～31号、103、104号土坑・半截時」2/5、「5C②・IV層-10cm」2/5。

568の取り上げ位置は、No.1土器(32層下)3/16、No.2土器(32層下)11/16、32層2/16。胴部の結節回転文(綾織文)は、部分的にしか見られない。

569には、図示した以外に接合しない破片が図示した分の半分位あり、それらを含めた取り上げ位置は、No.7土器(34層上面)36/167、No.5土器(34層上面)83/167、No.9土器(34層上面)21/167、No.3土器(34層上面)18/167、「北西隅(崩落)・32層?」18/167、No.7土器(34層上面)の下12/167、No.6土器(34層上面)9/167、No.8土器(34層上面)6/167、30層6/167、31層3/167、「第29、30、103、104、31号土坑・半截時」3/167、拡張区32層?2/167。図示した以外の破片の原形は、バラけていてよくわからない。

572の出土位置は、第104号土坑・30層が1/3、5C④・IV層-10cmが2/3。

(d) 陥穴状遺構出土の土器(第156図581～588、写真図版100)

やはり前期末～中期前葉が多く、どちらかと言えば中期前葉の土器が多い(小片ばかりで何とも言えないが)。

(e) 焼土出土の土器(第156図589～600、写真図版100～101)

やはり前期末～中期前葉の土器が主体。

(2) 遺構外(遺物包含層含む)出土の土器(第157図601～第183図926、写真図版101～114)

ほとんど全て前期中葉～中期前葉の上層である。以下、表の補足。

606と605は同一個体? 頸部、低め隆帯上に竹管状工具で刺突。補修あり。

607の同一個体破片、口縁～胴部の10×10cmのものが2片、胴部破片が10×10cmのもの1片、5×5cmのもの4片あり。

614の施文順序、胴部→口縁部。

615の口縁部汗痕、スズでよく見えず他の部分は摩耗してはっきりしない。単軸絡1Aナナメ回転の可能性もある(一部にそのような痕跡)。

620の施文順序、口、胴→頸部隆帯ナデ。胴部原形、最上部LRヨコ、その下単軸絡1A(R、L)タテ。

632の胴部、左上単軸絡1タテ施文。胴部、単軸絡1(L)タテ→LRタテ、ヨコ→結束(R)ヨコ。

646の内面、土器の黒色処理のように黒く光沢あり。

655の口縁部隆帯剥落部にも吹きこぼれベトリと付着。

656の下段の大きな三角形の彫り取り部分、下描き状の細く鋭い沈線が見られる。

698の頸部、刺突列と羽状縄文の間に無文帯。

721の頸部、隆帯の下無文帯。

737と739、同一個体。

738の胴部原形、結束1種(LR、RL+附加条R)。

747の外側、胴部下部の屈曲部から下は摩耗し、それより上にスズ付着。

752の外側、上3/4二次焼成強く赤く摩耗している。内側、中央磨けはじけ見られ、その下はスズが付着して

いる。

800の頸部降帯のナデア。胴部の結束1種の原体は、RL+附加条L?を左巻き、LR+附加条R?を右巻きか。附加条には節のようなものが見え、それぞれLR、RLの可能性もある。

809の出土割合、㊸が1/7、㊹が6/7。

825の口～胴部の施文順序は、降帯→竹管状刺突→ナデア→側面凹痕。外面下部スス付着。

827の頸部の半截竹管状刺突、角張って逆コ字状。

829の頸部刺突、半截竹管状でなく円形のものも。

832の施文順序、口縁部側面凹痕→頸部隆帯→胴部環状縄文。

843の取り上げ、Ⅱ層下部～Ⅲ層上部1/2、Ⅲ層1/2。胴部の原体LRは附加条でない。降帯に沿ってナデアている。口縁部、意匠的なものか、爪形凹痕ランダムにある。

844の内面、底の方におこげ付着。外面スス全体に付着。胎土3～5mmの石多い。

858の施文順序、胴部→口縁部側面凹痕。頸部刺突、両端尖っている工具か。

904には、接合しない同一個体破片が、口縁部破片5×5cmのもの1片、胴部破片10×10cmのもの2片ある。口縁部刺突、逆コ字状。胎土繊維含む。

926の刺突は、角棒状三具によるもので逆コ字状。

参考文献

- 石岡肇雄 1999「東北地方 前期（円筒下胴式）」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
今村時爾 1985「五須ヶ台式土器の編年」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』4
江坂輝彦編 1970『石神遺跡』ニュー・サイエンス社（1976年再版）
工藤竹久 1989 縄文尖底器土器様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
小林達雄ほか 1989「縄文土器大観1 草創期 早期 前期」小学館
1988「縄文土器大観3 中期Ⅱ」小学館
鈴木克彦 1999「東北地方 中期（円筒上胴式）」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
富塚泰時 1989「貝殻沈線文系土器様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
中村五郎 1996「図版50～85」『西沢点検』山内先生没後25年記念論集刊行会
丹羽 茂 1989「中期大木式土器様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
二宅徹也 1977「円筒土器の概念とその発展」『青森県立郷土館調査研究年報』3
1982「円筒土器」『縄文文化の研究3 縄文土器1』雄山閣
1989「円筒土器下層様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
1989「円筒土器上層様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
山内清男 1979「日本先史土器の縄紋」先史考古学会

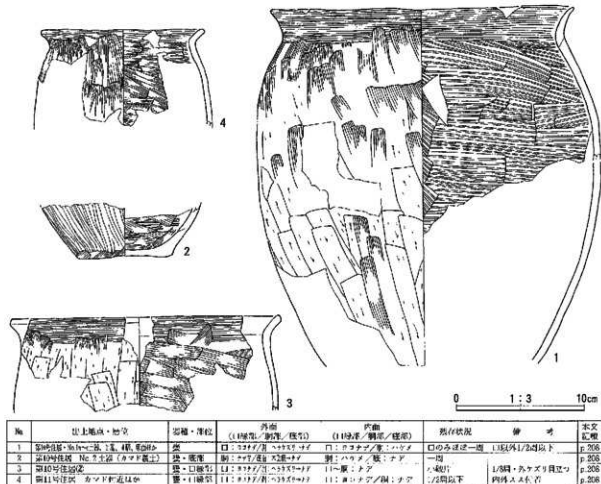
2. 土師器 (第102図1~4、写真図版115)

古代の竈穴住居跡から、土師器が約20点出土している。出土点数が少なく、また坏類が見られないなど、時期推定が難しいが、何れも八木編年のG期(9世紀後葉)辺りに相当するか(八木 1998)。なお、表の見方などの注意事項は、本章の冒頭部分に述べているが、出土位置に示した分数は、掲載土器のうちその場所から出土した土器がどれだけの割合あるのかを示す。

以下、表の補足。1の取り上げは、No.1a土器4/47、No.1b土器8/47、No.1c土器12/47、床面2/47、2層3/47、4層5/47、①6/47、住居北西隅付近(第4A号炉跡付近)7/47(何れも第10号住居跡内)。外面、ケズリ日立つ。外面、肩付近吹きこぼれ。外面、粘土まくれ模。外面、口縁は赤っぽく、胴部は灰色。2の出土状況、写真図版20にあり。上の割れ口、粘土接合痕からの剥離(内傾)。外面摩耗しており調査痕はつきりしないが、細い工具痕であることは確か(ミガキと言えるかどうかは疑問)。内外面スス付着しており、特に外面はタール状。3の外面、スス付着。4の取り上げ、カマド付近?1/3、カマド掘方付近1/3、②1/3(何れも第11号住居跡内)。外面は、焦げ茶色でやや光沢があり、今回出土した土師器の中では最も残りが良い。

参考文献

八木光則ほか 1998『馬淵川流域』第24回古代城柵官衙遺跡検討会 シンポジウム「城柵と地域社会の変容」資料集 東北地方の古代集落』第1分冊



編	出土地点・状況	器種・形状	外面 (口縁部/胴部/底面)	内面 (口縁部/胴部/底面)	保存状況	備考	本文 記載
1	第10号住居跡・第10号住居跡(カマド付近)	片	口: コナシ/底: コナシ/胴: コナシ	口: コナシ/底: コナシ/胴: コナシ	口のそばに一箇(1/3以下)		p.206
2	第10号住居跡・第10号住居跡(カマド付近)	片	口: コナシ/底: コナシ/胴: コナシ	口: コナシ/底: コナシ/胴: コナシ	一箇		p.206
3	第10号住居跡	片	口: コナシ/底: コナシ/胴: コナシ	口: コナシ/底: コナシ/胴: コナシ	1箇	1/3以下	p.206
4	第11号住居跡・カマド付近	片	口: コナシ/底: コナシ/胴: コナシ	口: コナシ/底: コナシ/胴: コナシ	1箇	1/3以下	p.206

第102図 土師器

3. 土製品 (第184図1～9、写真図版115～116、観察表は写真図版の方にある)

今回の調査で出土した土製品は23点で、土器? 1点、土偶4点、円盤状土製品4点、焼粘土塊14点である。以下、それぞれについて概要と表の補足を述べていく。なお、表の見方などの注意事項は本章の冒頭にある。

(1) 土器? (第184図1、写真図版115の1)

土器と思われるが確信が持てないもの。1点出土した。土器の把手が1/2周弱欠けたものか。図の下端の部分は、差し込み式になっていたようで、元々粘土接合面からの剥離である。外面調整は、ナデのようだが、それほど土師器らしくはなく、遺構外山土でもあるため時期は特定できない。

(2) 土偶 (第184図2～5、写真図版115の2～5)

4点出土。小片なので土偶でない可能性のあるものも含んでいる。2は、裏面が無文で極めて平坦であり土偶でない可能性もあるが、表面に「疑似絡条体圧痕文」(鈴木 1985:p.74)が見られ、鈴木克彦氏によれば、土器には見られない文様のようなので(同:p.77)、土偶と考えておく。また、鈴木氏によれば、円筒上層a式期と考えて良さそうである(同:p.77)。3のような無文の胴長の形態は、本遺跡で主体を占める縄文時代中期前葉までには見られないようであり(『土偶とその情報』研究会 1994)、他の時期のものか土偶でないかも知れない。4の「疑似絡条体」[「痕文」]および時期については、2参照。5のような無文で長い腹部は、本遺跡で主体を占める縄文時代中期前葉まで、特に円筒上層期には見られないようであり(『土偶とその情報』研究会 1994)、大木式の影響を受けているのかも知れない。

(3) 円盤状土製品 (第184図6～9、写真図版116の6～9)

4点出土。7は、はっきりしないが胎土に繊維は含まれないようで、そうすると4点全て縄文時代中期前葉の可能性はある。

(4) 焼粘土塊 (写真図版116の10～23)

14点出土。形状から大きく3種類に分けられる。粘土をそのまま手の中でひねったような形で、やや重いもの(手びねりと仮称)、表面の凸凹著しく(ギザギザ)金平糖のような形状で、やや重め、土器破片(が摩耗した)のように見える場合もあるもの(金平糖状と仮称)、方形を基本としたブロック状で軽く、表面が滑らかで、朱～クリーム色を呈するもの(軽石状と仮称)。ほとんどが以上の3種類のいずれか、あるいは折衷的な特徴が見られるが、17は顕著に異なり、18も手びねりに近いがやや異なるか。

割れてしまったものの大きさは、観察表中に記さなかったもので、ここで割れてしまった中で最大の破片の大きさを付記しておく。10は、3.5×2.3×2.4cmで、その他1片あり。11は、3.0×1.9×2.7cmで、その他1片あり。12は、3.4×5.1×2.3cmで、その他1片あり。14は、3.3×2.6×2.3cmで、他に破片あり。20は、2.3×2.1×1.5cmで、その他1片あり。

参考文献

- 小笠原好彦 1984 『縄文時代前・中期の土偶』宮城の研究第1巻 考古学編』清文堂出版
『土偶とその情報』研究会 1994 『土偶シンポジウム2 秋田大会 東北・北海道の土偶1』
鈴木克彦 1985 『土偶の研究(1)―円筒土器文化に伴う土偶―』『日高見園- 菊地啓治博士追善記念論集 -』(北上市)

4. 石器 (第185図～第227図、写真図版117～181、観察表は写真図版の方にある)

(概要) 石器は973点、石器製作時の剥片67,336.74gが出土した。

素材剥片が極めて多く、接合を試みたが(作業員2名で半月)ほとんどつかなかった。しかし、同一母岩と思われるものは多く、接合しないのは、ツールとして他に選ばれた部分が多いためと考えられる。

また、調査・整理時には気づかなかったが、磨製石斧の未製品と思われるものが出土しており、本遺跡で石器の製作が行われていたことは確実であろう。

次に述べる押圧剥離系列の石器に、石鏃などの定型(整形?)石器が少ないのが本遺跡の特徴で、未製品様の石器も多く、二次加工を受けているらしいのに刃が付いておらず、剥片とすべきかスクレイパーA類とすべきか悩むものは非常に多かった。そして、剥片に分類したものも含めて、石鏃、尖頭器様の形をした剥片の片割縁辺部に半周～一周剥離をしたものが非常に多かった。

石器組成の問題にできるような調査はしていないが、石鏃・尖頭器が多く磨製石器が少ないと言えるだろう。遺構はフラスコ状土坑を主体としているので、意外にも思える。

(分類) 石器の分類は、大工原豊氏の分類を参考にした(大工原 1998)。打製系列、使用痕系列(研磨痕・敲打痕により石器と認識できるもの)、複合技術系列(直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる)の三つに大別され、打製系列は、押圧剥離系列(調整に押圧剥離を多用)、直接打撃系列(調整に直接打撃を多用)からなる。

各系列の主要な器種として、押圧剥離系列には石鏃、石鏃等が、直接打撃系列には打製石斧等が、使用痕系列には凹石、敲石等が、複合技術系列には磨製石斧等が入る。押圧剥離系列の石器製作の過程で出る剥片をフレイク(剥片)A類、打製系列のそれをフレイク(剥片)B類とした。

(出土点数) 以上の分類に基づく、石鏃163点、尖頭器96点、石鏃28点、石鏃6点、石鏃25点、スクレイパーA類・Uフレイク・Rフレイク313点、打製石斧40点、スクレイパーB類3点、磨製器類269点、石皿6点、台石1点、砥石2点、磨製石斧21点、剥片A類66,883.03g、剥片B類653.71gが調査で出土した。

スクレイパーB類は、直接打撃系列の石質で一部剥離痕が見られるもの。出土量が極めて少なく、磨製器類の破片をスクレイパーB類としている可能性がある。フレイクB類の認定は難しく、本遺跡のその器種が押圧剥離系列で使っていないか確認を得るのが難しいので、認定されたものは少ない。

(掲載基準) 遺構内出土ツールは、はっきりしないものも含め全て掲載した。遺構内出土石器製作時の剥片も、初年度は全て掲載したが(ただし図化は最小限にとどめた)、次年度はあまりに出土が多かったため、重量のみ計測し別表した。ただし、第1号住居跡出土のものは後ろにまとめて掲載した(写真図版171の791～178の965)。第3号住居跡については一部掲載した(写真図版178の966～181の1060)。

今回の調査では、遺構内出土品が非常に多かったため、遺構外については、3点しか掲載できなかった(788～790)。また、未加工の軽石も、素材ということでは便宜的に剥片類と一緒に扱い、石器も含め、遺構内出土品については、剥片同様に扱い掲載している。

(記載要領・表の見方) 写真だけのものも多いので観察表は写真図版の方に掲載した。掲載順序は、遺構内については出土位置(遺構)に従って、遺構外については分類に従っている。その他、本章の冒頭部分参照。

(1) 石鏃

遺構内95点、遺構外68点、計163点出土。]事に作っておらず、剥離いい加減で裏面ほとんどないものが

多いのが特徴である。64?、472?、605は未製品と思われる。遺構内出土品のうち該当するのは、6、12、25、40?、41、44、45、51、53、54、56、57?、58、61、64、66、67?、74?、75、76、77、79、80、82、87、88、93、96?、97、100、107、108、111、113、116?、120?、127、130、134、138?、139、140?、144?、181、212、216?、228、238、258、263、268、269、273、276?、321、330、331、422、432、456、458?、472、544、547、565、576?、582、586、589、590、591?、595、596、597?、599?、602?、608、628?、634?、700、709、710、715、718、727?、730、731、735、736、742?、750、751、755、781、785で、尖頭器を含めた248も、石鏃を含めた方がよいかも知れない。

(2) 尖頭器

遺構内62点、遺構外34点、計96点出土。石鏃に類似するものが多いが、より大きいもので、木遺跡では石鏃と異なり両面剥離されているのが普通である。石鏃に含めないのは、先端が尖っているものがほとんどだからである。石鏃の木製品が含まれている可能性もある（石鏃に再利用が続けられているとしたら、一番最初に作られたものは大きい）。417と789は、舌状の部分がある。788も同様だが、不逞と考えるのが普通かも知れない。ただし、今回出土した石匙と異なり表裏面とも全面剥離である。遺構内出土品のうち該当するのは、8、11、13、15、31、60、62?、83?、95?、109、121?、123?、128、131?、132、133、135?、136?、142?、143、146?、248?、266、400?、417?、430?、453?（未製品?）、467?、473?、475?、477?、479?、485?、488?、502、515?、531?、532?、535?、568?、568?、571?、584?、588、592?、594?、600、601?、607?、618?、621?、627?、636?、638、714?、717?、720?、729?、749?、768?、783?、784?。786?、789、790は、図も掲載しているが、遺構外出土である。

以下、表の補足。789と790は、折り重なるように出土したが、削平されていた地点で、下は地山（IV層）、上は表土（I層）という場所なので、どの程度原位置を保っているか定かでない。

(3) 石筈

遺構内15点、遺構外23点、計38点出土。尖頭器と異なり両端が弧を描き広いものである。遺構内出土のうち該当するのは、210、451、537、609?、740。

(4) 石鏃

遺構内のみ6点出土。該当するのは、37、104、137?、536?、671、733?

(5) 石匙

遺構内15点、遺構外10点、計25点出土。本遺跡出土品は、剥離が少なく特に裏面に施したものは非常に少ない。遺構内から出土したのは、9、27、168、262、332、334、378（石匙の未製品?）、403、408?、410、419、606、622、694、782。

(6) スクレイパーA類・Uフレイク・Rフレイク

遺構内151点、遺構外162点（全て「スクレイパーA類」）、計313点出土。押圧剥離系列の製作過程で生み出された剥片に二次加工を施したものである。いわゆる不定石器も含む。ここに含めたものは基本的には刃部を持つが、本遺跡では、剥片に二次加工（剥離）を施しながら刃部を持たない、製作上ともいえる剥片

が非常に多く、これらは基本的には剥片（フレイク）扱いにしたが、あまりに剥離数が多く備んだ末こちらに含めてしまったものもある。また、遺構外出土でただの剥片類（フレイク類）に含めた中に、Uフレイク、Rフレイクが混じっている可能性が高い。

遺構内出土のうち、スクレイパーA類としたのは、120点あり、1、3?、23?、26、30、32、35、36、47、48、49、50?、52?、55?、59、63、68、71、73、89、90、91、92、94、98、99、101、102、103、105、106、110?、112、114、115、117、118、119、122、124、125、141、145、147、159、164、166、169、170、171、172、175、194、199?、200?、207、211?、217、218?、229、235、239?、252、261、267、271、272、278、281、287?、291?、293?、299、308、315、317、318、320、325、337、338、346、348、349、409、421?、437、438、474?、478、484?、487、496?、546、548、553、556、570?、573?、575?、578?、579?、581、604、605?、612?、615、619、620?、623?、625?、635、637、712?、713?、725?、726?、748、754。Uフレイクとしたのは11点で、150?、174?、233、255?、288、302、311、454?、455、641?、734。Rフレイクとしたのは8点で、157、365、380、395?、448、457、476、489、503?、564、574、587、688、698?、716、722、759、787? どちらかわからず二次加工剥片としたのは2点で、16、22?

7) ピエス・エスキュー

使用の結果石器に認定される（岡村 1983）という意味では使用痕系列だが、剥片自体は押し剥離系列の中で生み出されたものであるし、何よりも形態の類似性から、押し剥離系列に含めた。遺構内から4点出土し、65?、167?、196?、492?が該当。遺構外は、剥片類（フレイク類）に混じっている可能性が高い。

8) 打製石斧

遺構内20点、遺構外19点、計40点、さらに打製石斧B類が、遺構内1点、遺構外8点、計9点出土。打製石斧B類としたものは、剥離が一部にとどまり敲石と区別しがたいもので、磨製石斧にも似ている。打製石斧としたものうち半円扁平でないものは、磨製石斧の未製品の可能性が高い（538、550、683）遺構内出土のうち、打製石斧としたものは、192?、193?、236、237、249、251、253?、265、333、381?、382?、384、542、557、562?、593?、679、690、747、780。打製石斧B類としたのは、724。

9) スクレイパーB類

直接打撃系列で生み出される剥片に刃部が付いているもの。遺構内2点、遺構外1点、計3点出土。遺構内出土は、298、699?

10) 磨製器類（凹石、敲石、磨石）

これらは使用痕が複合することが多いので一緒に扱う。遺構内123点、遺構外146点、計269点出土。遺構内出土のうち「磨製器類」としか認識できなかったものが32点あり、4?、5?、17?、34、46、70?、81、84?、176?、177?、202?、204?、209、222?、240、241?、279?、324?、335?、336?、351?、352?、353?、429?、470?、549?、560?、580?、681、702?、703?、748が該当する。

・凹石

磨製器類のうち、はっきりとした凹みを持つもの。遺構内7点、遺構外18点確定できた。遺構内出土は、21、42、160?、327、329、613、777が相当。

・ 敲石

磨敲器類のうち、凹みを持たず、はっきりした敲打痕を持つもの。敲石は、雑多なもので構成され主流となるものはないので、特に分類はしなかった。遺構内45点、遺構外54点出土。191の山土状況は、写真図版20にある。遺構内出土は、2、18、19、20、24?、28、39、72、78?、86、161?、162、178、191、234、264、297、319、322?、328、35?、355、416、441?、442、443、461、464、468、481、517、543?、551、558?、563?、626、631?、633、640、682?、739、752?、753、774、775?が該当。

・ 磨石

磨敲器類のうち、凹みも敲打痕も持たないもの。一般的な磨石は62点、磨石B類は22点、磨石C類は29点出土し、総計113点。

磨石B類は、長方形を基本とした石の縁辺部に磨面（敲打によって面になった部分?）があり、その横に剥離が見られるものである。今から考えれば敲石の中を含めた方が良かったかも知れない。そして、今年度当センターが調査し報告者が担当した石器製作址、北上市金附遺跡の出土品を見れば、磨石B類は、磨製石斧の未製品である可能性が高く、磨面と考えたものは、細かい敲打によってできた面であるようだ。

磨石C類は、扁平な円～楕円形の海岸によく見られる礫で、使用しているかどうか定かでないものである。一般的な磨石は、遺構内21点、遺構外41点出土し、遺構内出土品は、85、163?、243?、244?、245?、246?、254?、280?、316、326?、389、415、462、463、518、644?、676、677?、678、741?、776。磨石の中には、スズが付着しているものがあり、これは押圧剥離系列の石器を作る前の母岩を示しているのかも知れない。

磨石B類は、遺構内9点、遺構外13点、遺構内は、43、69、270、323、471、541、552、611、706?が該当。706は、他のものと異なって断面の磨面の横に敲打面（剥離）を持っていないが、他の場所には見られるので本類に含めた。

磨石C類は、遺構内9点、遺構外20点、遺構内は、242、285、444、617、629、630、639、705、708が該当する。

00 石皿・台石

石皿は、遺構内5点、遺構外1点、計6点出土し、遺構内は、10?、459?、460?、756?757?が該当。本遺跡山土の石皿は、自然礫をそのまま使用したもので、使用痕跡も薄い。台石としたのは、石皿様のもので、細長く厚みのあるもので、遺構内から1点出土している（38?）。

02 砥石

遺構内1点（726）、遺構外1点、計2点出土。

03 磨製石斧

遺構内12点、遺構外9点、計21点出土。遺構内は、14、247、314、469（小型）、538、550、621、632、683、707、723、779が該当する。538は未製品かも知れない。そして、既述のように、打製石斧の一部、磨石B類は、磨製石斧の未製品である可能性が高い。

04 その他

未加工の軽石は、素材ということで便宜的に剥片類と一緒に扱ひ石器の中を含めたが、250のように加工が疑われるものあり、また加工品として石製品の中で扱ったものも、はっきりしないものが多いので、軽石ということで一括して別にまとめた方が良かったかも知れない。遺構内3点（129、250、554）、遺構外5点出土。

この他、遺構内出土の中には、積極的に石器とは認められないまでも、その疑いのあるものは含めているが、器種の特定までには至っていないものがある（126、173、431、545、561、711）。

その他、遺構外から棒状の石が1点出土しているが石棒とするには躊躇を覚え、石器には含めなかった。

参考文献

- 岡村雄雄 1983「ピエス・エスキュー、模形石器」『縄文文化の研究7 道具と技術』雄山閣
大工原豊 1998「縄文時代の石器研究の方法」『道跡・道物から何を渡りよるか』（帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集1）岩田書院

5. 石製品（第184図、写真図版182の1～8、観察表は写真図版の方にある）

今回の調査で出土した石製品は8点で、垂飾品1点、円盤状石製品？1点、軽石加工品6点である。以下、それぞれについて概要と表の補足を述べていく。なお、表の見方などの注意事項は本章の冒頭に述べている。

(1) 垂飾品（第184図1、写真図版182の1）

穿孔が見られ垂飾品と考えられるもの。1点出土した。

(2) 円盤状石製品？（第184図2、写真図版182の2）

正確には多角形であり円盤状ではない。遺構外から1点出土。

(3) 軽石加工品（第184図、写真図版182の3～8）

加工した可能性のある軽石を掲げた。6点出土。なお、未加工の軽石は、素材ということで便宜的に剥片類と一緒に扱ひ石器の中を含めた。

6. アスファルト、コハク、その他（写真図版182～183）

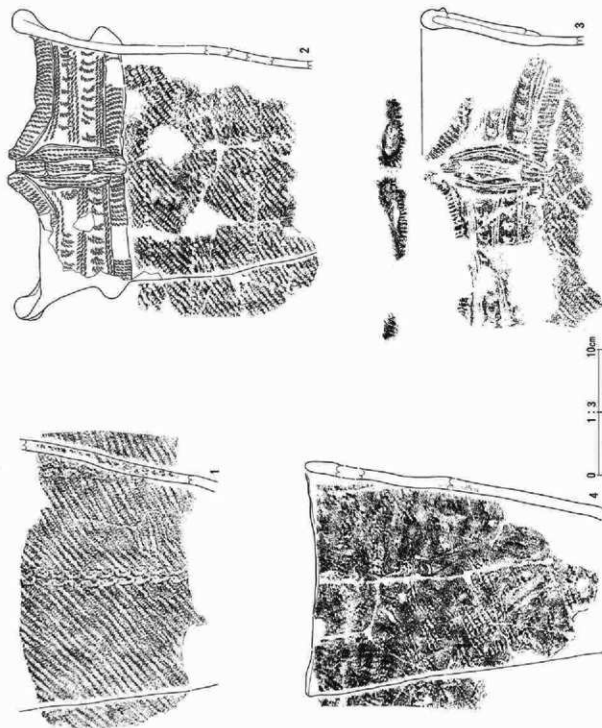
アスファルト1点、コハク（加工品含む）18点が出土し、その他、炭化物なども出土しているが小片ばかりで同定に耐えうるものはなかった。なお、軽石については、加工したものについては石製品で、未加工のものについては石器の中を含めた。

(1) アスファルト（写真図版182）

遺構外から1点出土した。割れてしまったが、最大片は5×3×2.5cmの大きさがある。

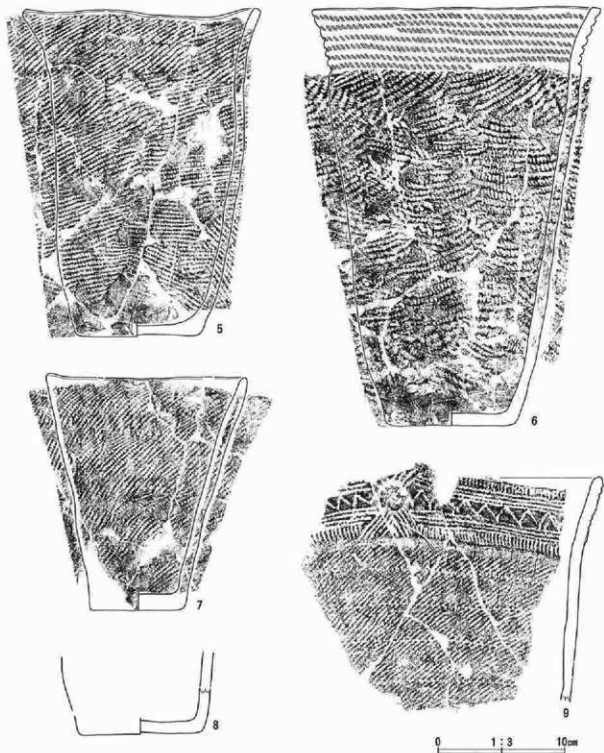
(2) コハク（写真図版183）

18点出土。県内道跡からの出土としても比較的多い方と言えようが、一大産地である久慈のすぐ隣にあるのだから、ある意味当然であろう。縄文時代の遺構から出土したものが多数を占め、この時代のものが主体である可能性が高いが、15、17、18などはⅡ～Ⅲ層から出土しているのが古代のものも含まれているかも知れない。



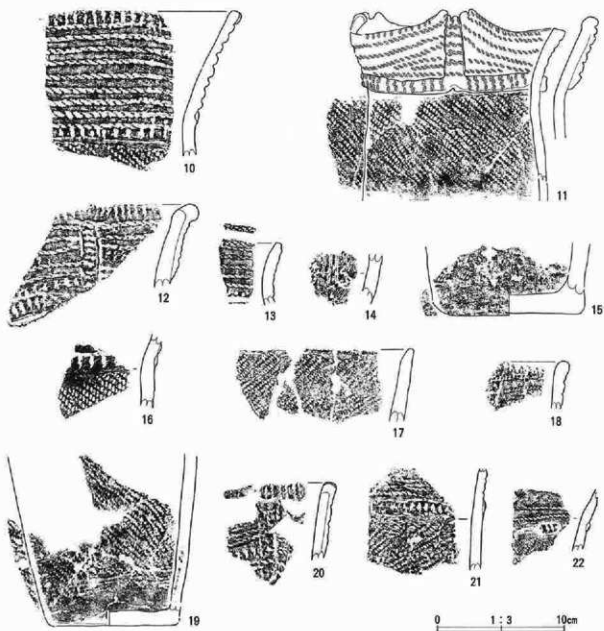
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・部体など)	内面(削痕など)	備考	本文記載
1	第1号住居跡 砂土層	深鉢 (1/2碎破)	1. 乱ココ一筋縞 (R) ナデ	ミガキ平		
2	第1号住居跡 土1層	深鉢 (1/2碎破)	乱ココ細ナ/口: 1筋縞 (浅黄土色) / 胴: 乱ココ / 胴: ナデによる無文縞 / 脚: 1筋ココ			
3	第1号住居跡 土1層	鉢 (1/2碎破)	乱ココ			
4	第1号住居跡 土2層	鉢 (1/2碎破)	乱ココ			
5	第1号住居跡 土1層	鉢 (1/2碎破)	乱ココ			
6	第1号住居跡 土1層	鉢 (1/2碎破)	乱ココ			

第103図 縄文土器(1)



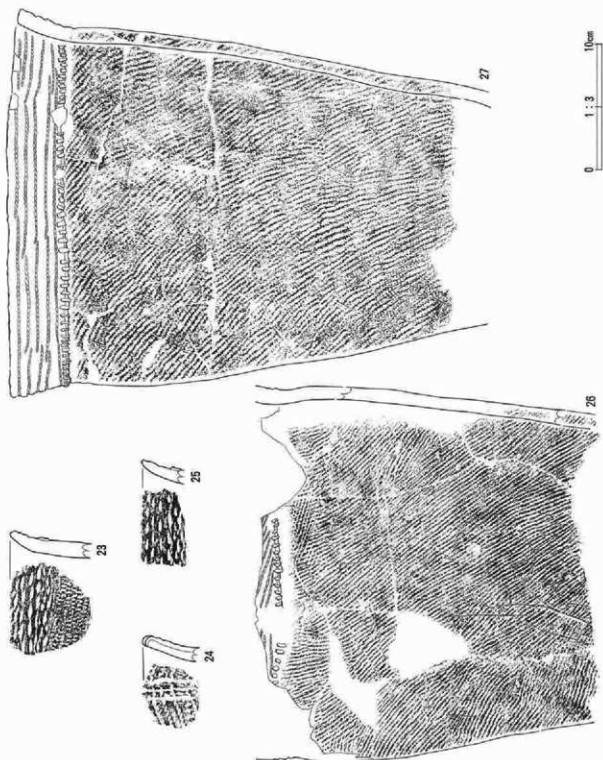
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原形など)	内面(磨光など)	備考	本文記載
5	第1号住居跡 No.3上部	深鉢(のち深)	口～肩上L状ロコ、肩下LRナメー状部～底面ナデ	ただれ	出土層、小石含む	
6	第1号住居跡 No.4上部	深鉢(一部欠)	口：無文様にL状磨光、肩上：L状ロコ、肩下LRナメー状部ナデ、底面：ナデ	ミダレ	出土小石含む	p.202
7	第1号住居跡 No.5a上部	鉢(口は欠)	口～肩：L状(欠きの見える粗粒を帯びたロコ)、肩～底面：ナデ	ナデ	出土層：外縁一部割	
8	第1号住居跡 No.5a上部の下	深鉢(口は欠)	口：L状ロコ、底面：ナデ、底面：ミダレ	ナデ		
9	第1号住居跡 No.7上部	深鉢・口縁部	口：L状(口縁部のみ)、肩：L状磨光、底面：ナデ	ナデ	磨光・L.S.S.・内底面	

第104図 縄文土器(2)



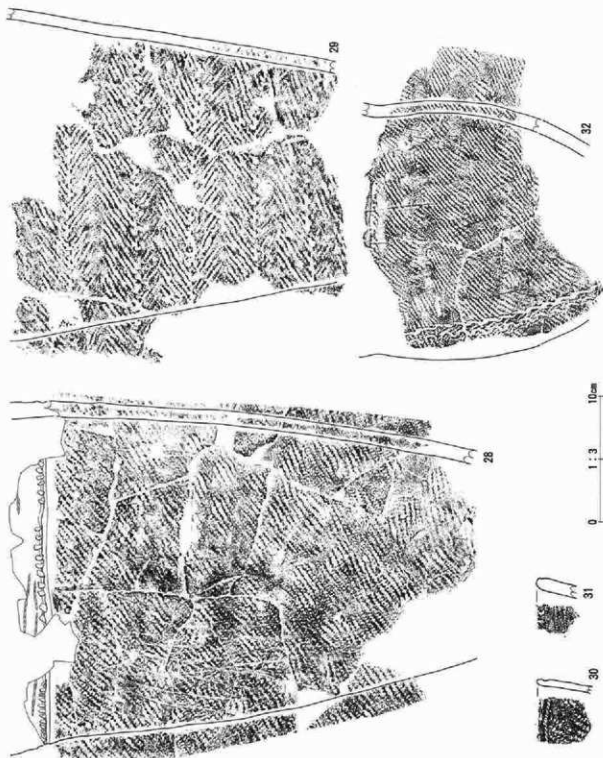
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・器体など)	内面 (圖數など)	備考	本文 記載
10	第1号住居跡 Ⅷb1層	深鉢・口縁部	口: L100E/裏: 黒い網文(横の網目)内, その下ヨコナデ/裏: 短直ヨコ	ミガキ	胎: 濃赤・青灰色に成	
11	第1号住居跡 Ⅷb1層	深鉢(ほぼ一周)	裏面無文/口: L100E(横直線も、及縁口直前まで)/裏: 短直ヨコ	ミガキ	外面スス付着	
12	第1号住居跡 Ⅷb1層	深鉢・口縁部	L100E	ナデ	胎: 濃赤・外スス	
13	第1号住居跡 Ⅷb1層	深鉢・口縁部	口: L100E/裏: 縦く網い・横層に竹管状刺突列	ナデ	外面スス付着	
14	第1号住居跡 Ⅷb1層	深鉢・胎部	単軸線1(3) ヌクナ	ナデ	外縁部、内スス	
15	第1号住居跡 Ⅷb1層	胎部(底の4一帯)	裏: L100E/裏部: ナデ/裏面: ナデ	ナデ	胎: 小石・底層部成	
16	第1号住居跡 Ⅷb1層	深鉢・胎部	口: L100E/裏: ヌクナ(太く浅い縦線状)/裏: 短直ヨコ	ナデ	外面吹きこぼれ	
17	第1号住居跡 Ⅷb1層	深鉢・口縁部	L100E	ナデ	胎: 濃赤・外スス	
18	第1号住居跡 柱次つたし面	深鉢・口縁部	単軸線1(1) 網目ナ	ただれ		
19	第1号住居跡Ⅱ	胎部(底の4一帯)	L100E-横部ナデ/裏面: ナデ	ナデ	胎: 小石のみ	
20	第1号住居跡Ⅱ	深鉢・口縁部	口: L100E/裏: 縦直線/口: L100E	ナデ	胎: 濃赤・外スス	
21	第1号住居跡Ⅱ	胎部・胎部	口: L100E/裏: 胎部上:L100E/裏: L100E	ナデ	胎: 濃赤・外スス	
22	第1号住居跡Ⅱ	深鉢・胎部	口: L100E/裏: 胎部上:L100E/裏: L100E	ナデ	胎: 濃赤・内スス	

第105図 縄文土器(3)



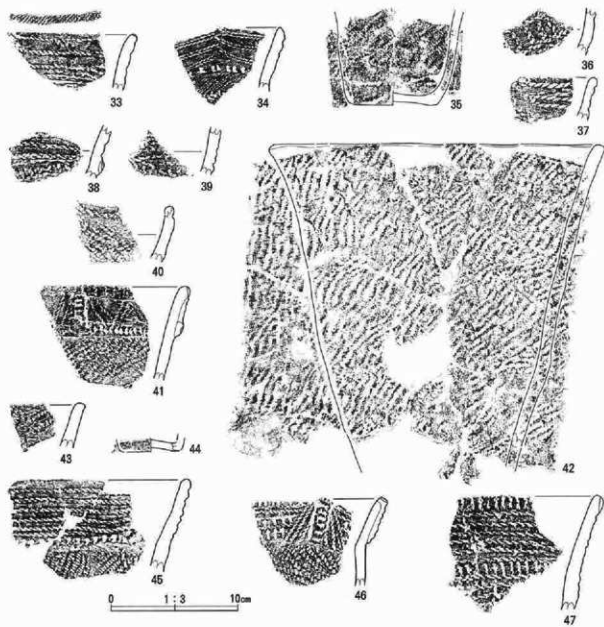
№	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装束、地文・印体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
23	第1号柱状器②	深鉢・口縁部	口：境からの細かい縦文/肩：粗い縦文に同様の斜交/肩：多輪筋(?)ナメ	ミダキ	出土集積品人・器之目一	
24	第1号柱状器②	深鉢・口縁部	口縁部ナ	ミダキ		
25	第1号柱状器②	深鉢・口縁部	*器と同一器体	ミダキ		
26	第1号柱状器 全体上段1	深鉢(一周)	口：多輪筋/肩：粗い縦文の上に口からの斜交/肩：多輪筋(口)ナメ、ナメ	ミダキ	器1部破・片断一部厚紙	p.202
27	第1号柱状器 全体上段2	深鉢(前1/4一週)	口：上は口縁部/肩：粗い縦文に下からの斜交/肩：粗いコナ、ナメ	ミダキ	口縁厚紙	p.202

第106図 縄文土器(4)



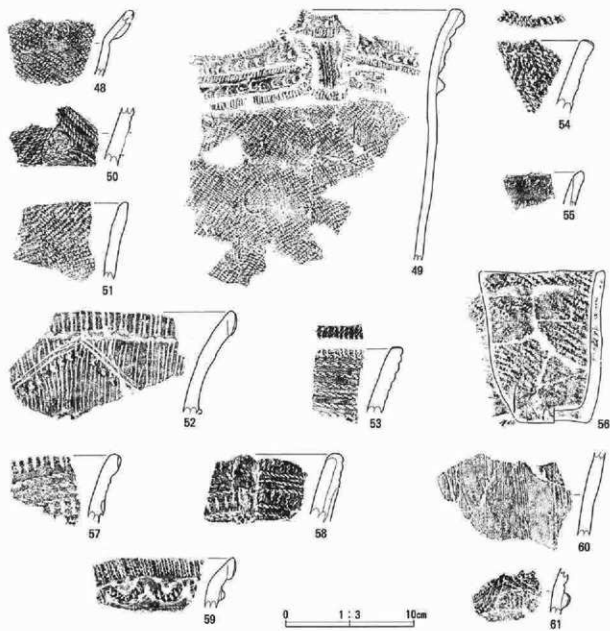
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾、地文・形跡など)	内面 (磨擦など)	備考	本文記載
28	第2号石形跡 中林土器3号	甕鉢 (I、底欠)	口：直線() 頸：直線() 胴：直線() 底：直線()	ナデ	出土層別・口縁厚異	
29	第2号石形跡 中林土器4	甕鉢 (I/2部破)	胴直線() 底、底、直線()	ミダナ	器土層別、石	
30	第2号石形跡 柱穴5	口縁部	口：直線() 胴：直線()	ナデ		
31	第2号石形跡 柱穴5	甕鉢・口縁部	胴直線() (?) 頸直線()	ナデ	外厚異	
32	第2号石形跡 №1 (柱穴5)	甕鉢 (I/2部破)	口：直線() 底、底、直線()	ミダナ	出土層別混入	

第107図 縄文土器(5)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外形 (文様・捺動、地文、器体など)	内面 (調査など)	備考	本文記載
33	第2号住居跡 柱穴8	深鉢・口縁部	口縁:L.W.コ/口:L.柳葉	ナダ	外吹きこぼれ	
34	第2号住居跡少部1~3周辺	深鉢・口縁部	口縁/口:L.柳葉/底:柳葉(口径2.6cm/底径1.6, 1.7)コ	ナダ	外面スス付着	
35	第3号住居跡 全体上部	底形(一周)	胴:L.W.コ/底部:底出;ナダ	ナダ	内外面摩耗	
36	第3号住居跡・1層	深鉢・口縁部	L.柳葉	ナダ	粘土層埋入	
37	第3号住居跡・2層	深鉢・口縁部	柳葉の溝・片側	ナダ	粘土層埋入・外スス	
38	第3号住居跡・3層	深鉢・胴部	口:L.柳葉/底:柳葉上L.柳葉	ナダ	粘土層埋入・外スス	
39	第3号住居跡・3層	深鉢・胴部	口:L.柳葉/底:L.柳葉	ナダ	外面スス付着	
40	第3号住居跡・4層	深鉢・口縁部	溝状L.柳葉/口:L.柳葉/胴:L.柳葉	ミヤキヤ		
41	第3号住居跡・4層	深鉢・口縁部	口:L.柳葉/胴:L.W.コ	摩耗	粘土層埋入・外口縁スス	
42	第3号住居跡 柱穴2はみ	深鉢 (1/2)部	口縁:柳葉/口~胴:L.R. (0段多角?) コ、ナダ	ミヤキヤ	口径4.5-5.0cm/口径6.0	p.202
43	第3号住居跡 柱穴5	深鉢・口縁部	L.R.コはみヤ	ミヤキヤ	外面スス付着	
44	第3号住居跡 溝溝	底形(部分一)	底出柳葉状	ナダ	粘土層埋入	
45	第3号住居跡 溝溝	深鉢・口縁部	口:L.R.柳葉/胴:L.W.コ、一部柳葉	ミヤキヤ	粘土層埋入・外吹きこぼれ	
46	第2~3号住居跡 池	深鉢・口縁部	口縁:柳葉/口:L.柳葉(柳葉上も)/胴:L.R.?コ	ナダ	粘土層埋入	
47	第2~3号住居跡 池	深鉢・口縁部	L.R.柳葉片側	ナダ	粘土層埋入	

第108図 縄文土器(6)



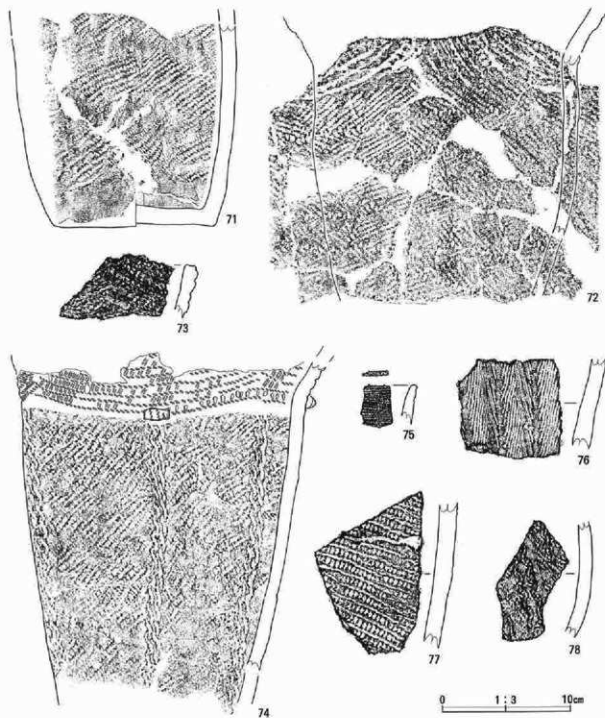
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・彫刻など)	内面 (調査など)	備考	本文 記載
48	第2-3号住居跡③	深鉢・口縁部	波状口縁・波面下縁長突起・口縁部波状//LRナデ	ナデ		
49	第2-3号住居跡③	深鉢(口縁部)	口縁部波状・波面下縁長突起、下出縁部/器:LRナデ//波面に波でナデ・波文	ミガキ	出土層位・外側スス	
50	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	口縁部・波状口縁部	ミガキ	出土層位・内側スス付着	
51	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	半波管状工具による刺突跡、波面	ナデ	外側吹きこぼれ字	
52	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	口縁・口縁最上部:LR刺字? (口縁ナデで縦線的) /口:LR刺字	ミガキ		
53	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	突起//口縁・口縁:LR刺字	ナデ		
54	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	LR刺字?	ナデ	外側刺字	
55	第2-3号住居跡④	鉢(口縁部)	口縁部波状、ナメター底面~底面ナデ	ミガキナデ	外側二次焼成で濃い	
56	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	口縁部(厚削して見えない)	厚削	内側刺字	
57	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	口縁部まで波様・LR刺字	ナデ(口)	出土層位・外側スス	
58	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	LR刺字	ナデ(口)	出土層位・外側スス	
59	第2-3号住居跡④	深鉢・胴部	縦線状波	ミガキナデ	波面・内側一部スス	
60	第2-3号住居跡④	深鉢・口縁部	口:長柄円形彫付文、R刺字/器:LRナデ	厚削		

第109図 縄文土器(7)



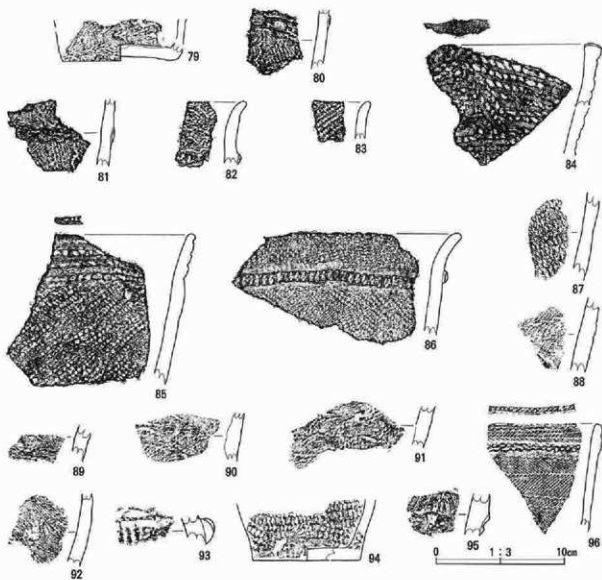
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾、地文・図形など)	内面 (磨擦など)	備考	本文 記載
62	第2-3号住居跡	酒鉢・胴部	口:LR横住/胴:LRヨコ	1方本?	胎土崩壊品	
63	第2-3号住居跡	酒鉢・胴部	単軸筋1A (L, R) ナメ	1方本	胎土崩壊品	
64	第1A号住居 砂体A土層	飯器 (1,2部)	単軸筋1A (L, R) タテ→底面ナメ/底面:1方本	ナメ	外底二次焼成で赤い	
65	第4B-D号住居 砂体B土層	飯器 (底のみ)	結束第1種 (LR, RL) ヨコ交互→底面ナメ/底面:1方本	1方本	外底割部ボロボロ	p.202
66	第4B-D号住居 砂体C土層	飯器 (底のみ)	結束第1種 (LR, RL) ヨコ交互→底面ナメ/底面:1方本	1方本		
67	第4B-D号住居 砂体D土層	飯器 (1,2部)	単軸筋1A (R) タテ→底面ナメ/底面:1方本	ナメ		
68	第1A-C号住居 砂子層・灰下層	飯器 (1,4部)	多軸筋 (ナ) タテ→底面~底面ナメ	ナメ?	裏側・外二次焼成	
69	第1A-C号住居・灰下層	酒鉢・口縁部	口:単軸筋Aヨコ/胴:LR横住/胴:結束1種 (R, L) ヨコ	ナメ	胎土・外ニス、穿用	
70	第1A-C号住居・灰下層	酒鉢・胴部	単軸筋1A ナメ	ナメ	裏側・外ニス、穿用	

第110図 縄文土器(8)



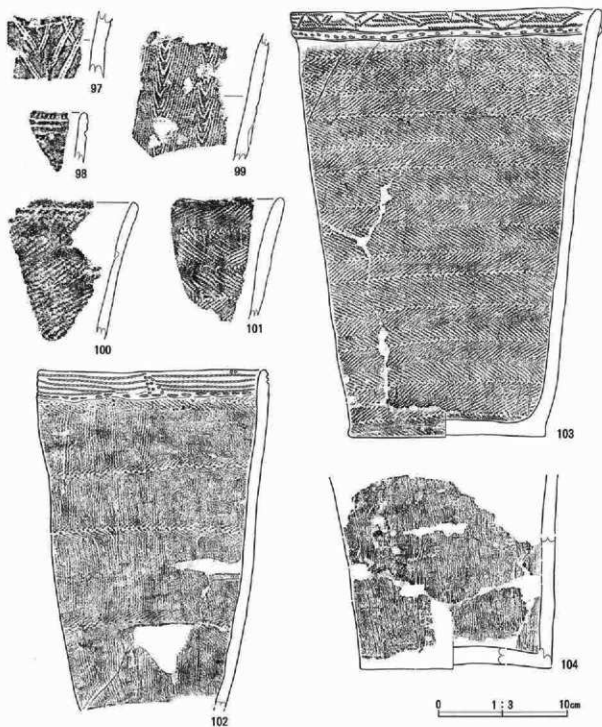
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原形など)	内面(調整など)	備考	本文記載
71	第5A号中層	底部(一層)	LRヨコ→底面ナデ(光沢) / 底面:ナデ(丁寧)	ミガキナ	内外面スス付着	p.202
72	第5B号中層	胴部(一層)	地文別→L1/L2:LR胴上/胴:筋束(LR、RL)ヨコ	ナデ	外一部孔・内口縁部	
73	第5C号中層 砂体上部	深部・L1縁部	LR胴上	深部		
74	第5C号中層 砂体上部	胴部(一層)	LRヨコ→LRY胴上/重:重底下にLR胴上/胴:LRヨコ→筋束ナデ	ミガキ	粘土痕跡・内外面スス	p.202
75	第5号中層 柱穴1	深部・L1縁部	LR胴上	ナデ		
76	第5号中層 柱穴3	深部・胴部	深部筋1Aナデ	ナデ	内外面・内外面色	
77	第5A号中層	深部・胴部	RLに段を左巻き(附加糸)ヨコ	ナデ	内面整形痕跡	
78	第3号中層 伊藤岡田テリムツダ	深部・胴部	LRY+筋束ナデ	ナデ		

第111図 縄文土器(9)



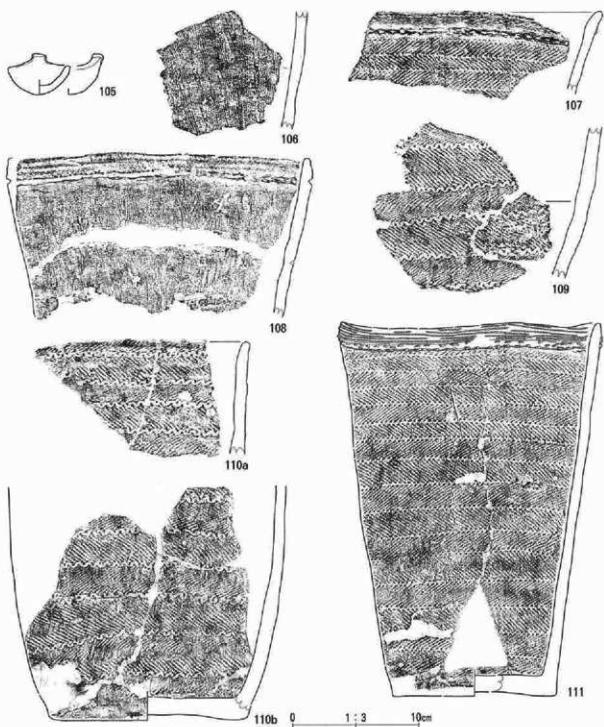
No	出土地点・層位	器種・部位	外 形 (文飾・裝飾、地文・肌地など)	内面 (調整など)	備 考	本文記載
79	第1号 裏 (図版5の1)・中層上段	底面 (一隅)	底面: L.R.・結晶状コロ/底面: ナメ	なだれ		
80	第6号が縁に伴う寸柱穴②・6層	底縁・断面	第1号・第6号層間に埋入/裏: 斜線ナメ (*外周、厚縁)	厚縁	縁・面と同層位?	
81	第6号が縁に伴う寸柱穴②・6層	底縁・断面	①: L.R.化/裏: 粗粒状ナメ/裏: 斜線ナメ・結晶ナメ (*外周、厚縁)	厚縁	縁・面と同層位?	
82	第9号中縁に伴う寸柱穴 (367?)・8層時	底縁・口縁部	①: 結晶 (H) コロ/裏: 粗粒状ナメ/厚縁	裏こげ	第1号・縁面入	
83	第7号が縁に伴う寸柱穴	底縁・口縁部	L.R.コロ	ナメ		
84	第7号が縁に伴う寸柱穴・半農時	底縁・口縁部	底面底縁部: L.R.化/①: L.R.化/②: L.R.化/③: L.R.化	厚縁	内面厚縁	
85	第9号中縁に伴う寸柱穴①・上層オケラナマ?	底縁・口縁部	L.R.化/①: L.R.コロ (*縁部・内面下の下に未蓋底、外周)	ナメ	縁部・内縁部、スス	
86	第9号中縁に伴う寸柱穴①・上層オケラナマ?	底縁・口縁部	①: 粗・粗ナメ/厚縁に引いてナメ/底の縁部以下断面/裏: L.R.コロ、ナメ	ナメ	底こげ	
87	第1号住居状遺構・3層	底縁・断面	L.R.コロ	ナメ	内面又外行巻	
88	第1号住居状遺構・3層	底縁・断面	L.R.コロ	ナメ	第1号・縁面入	
89	第1号住居状遺構・4層	底縁・断面	結晶 (H) コロ?	ナメ	第1号・縁部・外周	
90	第1号住居状遺構・4層	底縁・断面	L.R.・結晶状ナメ?	ナメ	第1号・縁部・外周	
91	第1号住居状遺構・4層	底縁・断面	*90と同一体?	ナメ	第1号・縁部・外周	
92	第1号住居状遺構・半農時	底縁・断面	*90と同一体?	ナメ	第1号・縁部・外周	
93	第1号住居状遺構・半農時	底縁・断面	粗粒状A (H) ナメ?	ナメ	第1号・縁部・外周	
94	第1号住居状遺構・半農時	底縁・口縁部	L.R.化/①: 裏、裏以下同じ新系列	ナメ	第1号・縁部	
95	第1号住居状遺構・半農時	底面 (1/4程度)	L.R.ナメ、ナメ/底面: ナメ	ナメ	第1号・縁部	
96	第1号住居状遺構・半農時	底縁・断面	粗粒状A (R, L) ナメ?	ナメ	第1号・縁部、金箔母	
96	第1号上土	底縁・口縁部	①: L.R.コロ/②: 粗粒状A/③: 結晶コロ/④: 粗粒コロ・結晶コロ	ナメ	縁部・外周又ス	p.202

第112図 縄文土器(10)



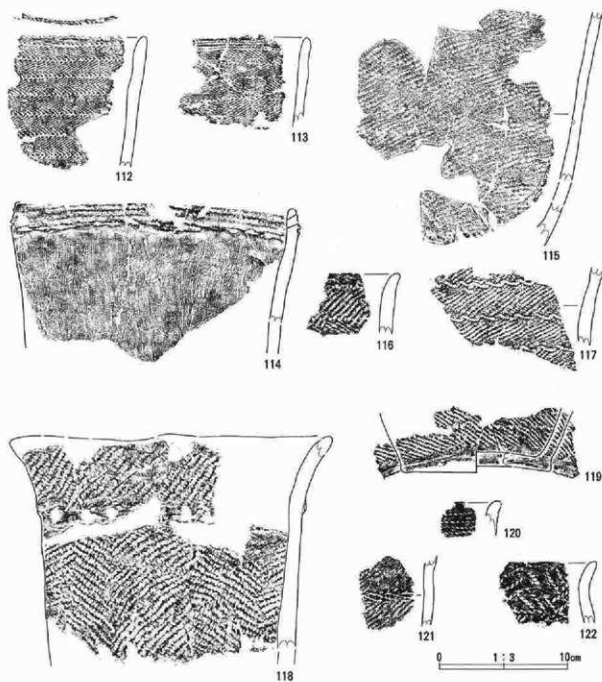
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・器体など)	内面(調査など)	備考	本文記載
97	第1号土坑	深鉢・胴部	華輪織1A (L, H) ナデ		内面お染げ	
98	第2号土坑	深鉢・口縁部	頭片?、内外灰色厚焼で、全く不明。	ナデ?		
99	第2号土坑	深鉢・口縁部	華輪織1A (H, L) ナデ		粘土織物・外ニス	
100	第2号土坑・1層	深鉢・口縁部	口: L/H平織?/縦: L/Hコウキ	厚焼	編織・内外厚焼	p.303
101	第2号土坑	深鉢・口縁部	編織1層 (L/H, H/L) ココ縦位交互に(一部口縁部まで)	ミダ本?	編織多・内下ニス	
102	第3号土坑・15~16層	深鉢(口縁部一部)	口: L/H織、縦部: 有野上平織・有野上平織?/肩: 有野上平織?・華輪織1層	ミダ本?	内面ニス付着	p.303
103	第3号土坑・15~16層	深鉢(口縁部)	口: L/Hコウキ/口: L/H織、縦部: 有野上平織・有野上平織?/肩: 有野上平織?・華輪織1層	ミダ本?	有野上平織付着、口: 有野上平織	p.303
104	第3号土坑・15~16層	深鉢(口縁部)	口: 華輪織1A (L) ナデ/縦面: ミダ本	ミダ本	外面底二次焼成	p.303

第113図 縄文土器(11)



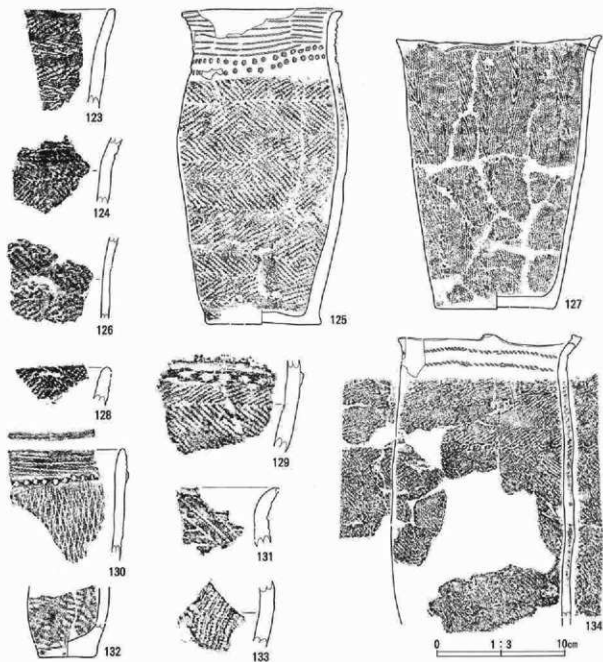
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・筋体など)	内面(観察など)	備考	本文記載
105	第3号土坑・15~16層直上	小形(完整)	交錯(単位)/子づくね	指付口		
106	第3号土坑・15~16層より下	深鉢・胴部	単軸筋1A (L) ナデ	ナデ	編織・内外ニス付着	
107	第3号土坑・16層	口縁部 (L/5周)	口: LR筋付・単軸筋ヨコ/筋 底縁部上縁から観察/筋: 単軸筋ヨコ・単軸筋ナデ	ミガキ	編織・外ニス・底縁部	p.203
108	第3号土坑・16層	深鉢 (口/4周面)	口: 単軸筋5 (L) 筋付/筋: 深い筋交/筋: 単軸筋1A (L) ナデ	ミガキ等	編織・外ニス・内面埋肌	
109	第3号土坑・16層	深鉢・胴部	筋交2種 (LR, RL) ヨコ (*A, B同一体?)	ナデ	編織・内埋肌	
110a	第3号土坑・海床埋戻土(20cm) (16層)	深鉢・口縁部	筋交2種 (LR, RL) ヨコ (*A, B同一体?)	ナデ	編織・外ニス・口上付着	p.203
110b	第3号土坑・15~16層	底面(底のわー面)	筋: 筋交2種 (LR, RL) ヨコ/筋: ナデ/底面: ナデ(1等)	ナデ	内面埋肌付着	p.203
111	第3号土坑・南西埋戻土から20cm	深鉢(底欠)	口: 筋付/筋: 筋交, 下: 筋付/筋: 単軸筋ヨコ (L, RL) ヨコ/筋: 1等	ミガキ	外面ニス付着	p.203

第114図 縄文土器(12)



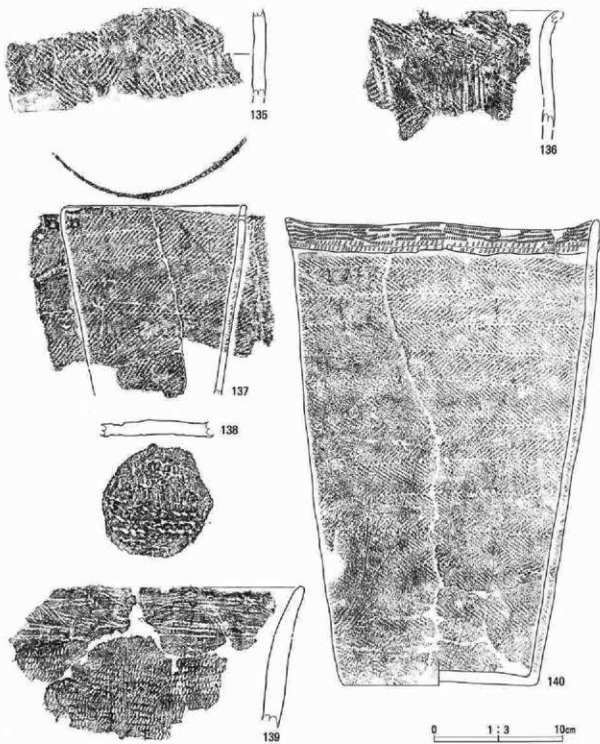
№	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・彫体など)	内面(調物など)	備考	本文記載
112	第3号土坑・堀内埋埋跡から20cm	深鉢・口縁部	1層:乱々ココ(口縁部の結き?) / 1層:結糸1種 (RL, LR) ココ	ナデ	編織・外スス	
113	第3号土坑・堀北側	深鉢・口縁部	口:口縁上ノ縁:結糸1種 (RL, LR) ココ	ナデ	編織・外スス	
114	第3号土坑・堀北面	深鉢 (口/2部)	口:結糸2種 (RL) 押形/痕:縁部上ノ縁:結糸/痕:結糸1A (L) ナデ	ナデ	編織・外スス付着	
115	第3号土坑	深鉢 (口/2部)	LR ココ	ナデ	編織・内外厚粘	
116	第4号土坑・7層	深鉢・口縁部	結糸1種 (LR, RL) ココ	ナデ	編織・外スス	
117	第4号土坑・1層相対層?	深鉢・胴部	LR ココ→結糸状ココ	ナデ	編織・外スス	
118	第4号土坑 平畝時、2D室	深鉢・口縁部	頸縁部→口~胴LR ココ、タテ→頸縁部上何→ナデ	ナデ	粘土石倉む	n.303
119	第5号土坑・3層	鹿形 (口/4部)	RL ココ→底部ナデ/底面:乱々ココ	ナデ	編織・外中厚粘	
120	第3号土坑・6層	深鉢・口縁部	口縁部	ナデ	粘土編織付入	
121	第5号土坑・11層	深鉢・胴部	乱 (段多変?) ココ→結糸状ココ	ナデ	編織・内外厚	
122	第5号土坑・13層	深鉢・口縁部	只胴部	ナデ	粘土編織付入	

第115図 縄文土器(13)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾、地文・煎練など)	内面 (波磨など)	備考	本文記載
123	第5号土坑・10~13層中間	深鉢・口縁部	L形ヨコナリ・結晶状ヨコ	ナデ	編織・吹きこぼれ	
124	第5号土坑・10~13層中間	深鉢・胴部	縦：無文様にL、斜線正/斜；結晶(種) (PL, LR) ヨコ	ナデ	編織多・外文ス、厚底	
125	第5号土坑・4、7層中間、平段跡	鉢 (欠物)	口：煎練(1層)；竹田焼(1層)による煎練外/斜；結晶(種) (LR, RL) ヨコ	ナデ	煎練(1層)・外文ス	p.200
126	第5号土坑	深鉢・胴部	縦：L、LRヨコナリ・結晶状ヨコ	厚底	煎練(1層)・外文ス、外文ス	
127	第5号土坑	鉢 (欠物)	口～胴：煎練結晶 (LR, L) タテ/煎磨；ナデ	ナデ	外文ス、下・本物	p.200
128	第6号土坑・1層	深鉢・口縁部	LRヨコナリ・外文正	ナデ	煎練・外物	
129	第5号土坑・既述層上(10cm)	深鉢・胴部	縦：煎練(1層)・上層部にかけて煎磨/斜；煎磨 (LR, RL) ヨコ	煎磨	煎こけて煎い・外文ス	
130	第8号土坑	深鉢・口縁部	縦：LRヨコナリ・煎磨(1層)；煎磨(1層) / 煎磨(1層) ヨコ	厚底	煎磨・外物出ス	
131	第8号土坑	深鉢・口縁部	L煎磨	ナデ	煎こけて煎い	
132	第9号土坑	煎磨 (面のみ)	煎：LRヨコナリ・煎磨；Lヨコ	ナデ	煎こけて煎い	
133	第10号土坑 南朝平段跡	深鉢・胴部	縦：LRヨコナリ・煎磨(1層) ヨコ	ナデ	煎こけて煎い	
134	第1号土坑・北2層(上層)・L層	鉢 (欠物)	煎磨(1層) / 口：煎磨(1層) / 口～胴：煎磨(1層) ヨコ	Lヨコ	煎こけて煎い	p.200

第116図 縄文土器(14)



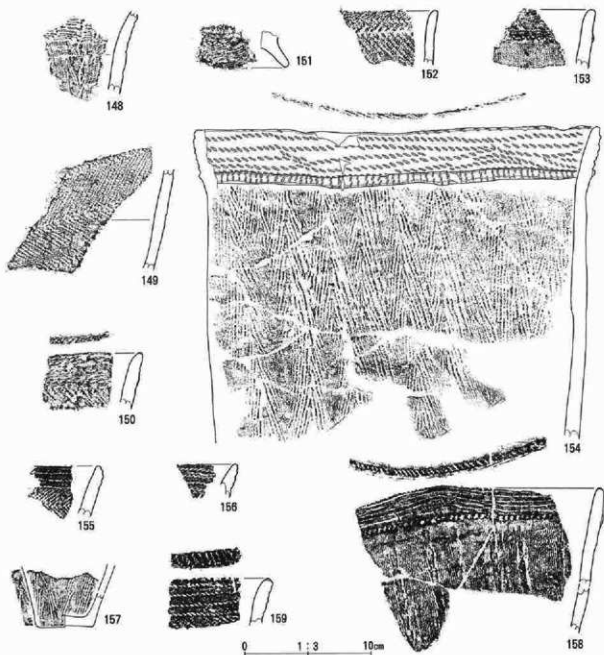
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・底体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
135	第11号土坑・Ⅱ層(第1層上)・Ⅱ層(Ⅱ)	深鉢・胴部	結束1種(HI, LHO) αコ	ナデ	胎土織物・外ニス	
136	第11号土坑・Ⅱ層(Ⅱ)	深鉢・L縁部	HI, αコ? - 終結部(ナデ)? - (L)縁部, 胎土織物 αコ(※胎土織物)	ナデ	織物・外ニス	
137	第11号土坑・Ⅱ層(Ⅱ)・Ⅱ層(Ⅱ)	深鉢・L縁部以下	白網: L, HI, αコ / (L) - 終結部1種(LH, 予) αコ終結部文?	ナデ	胎土織物・胎土	p.303
138	第11号土坑・Ⅱ層(Ⅱ)・Ⅱ層(Ⅱ)	底(一帯以下)	胎土織物(胎土?) → ナデ	ナデ	内面ニス付	
139	第11号土坑・Ⅱ層(Ⅱ)・Ⅱ層(Ⅱ)	深鉢・口縁部	口: L, HI, 終結部(予) αコ?	ヒヤク	胎土織物・外ニス	p.303
140	第11号土坑・Ⅱ層(Ⅱ)・Ⅱ層(Ⅱ)	深鉢(一帯以下)	胎土織物 / (L)縁部(予) 胎土織物(L)縁部(終結部), HI, 終結部(予)	ナデ	織物・内ニス	p.303

第117図 縄文土器(15)



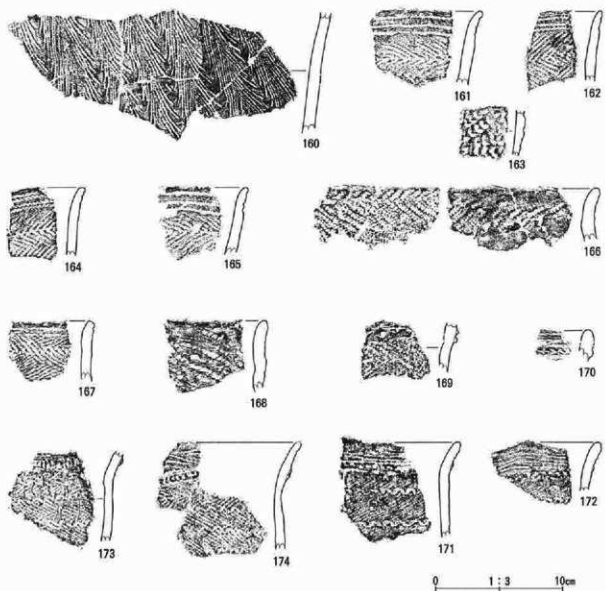
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・肌体など)	内面(溝槽など)	備考	文献記載
141	第12号土坑・6~9層	高鉢・底部	口：L状ナメテ→L状屈折/底：深い押圧/胴：L状ナメテ→L状屈折?	ナメテ	編織・内外裏	
142	第12号土坑・No.3土器?	高鉢・底部	底面：網代編 (*片形だが断面欠けていて様不明)	ナメテ	編織・内面スス	
143	第13号土坑・18層上面	鉢(1/2胴以下)	口周：L状ヨコ/口：L状屈折/底：浅からぬ網代編/胴：直線編 L状ヨコ	ナメテ	内面スス(内底多シ)	p.203
144	第13号土坑 平盤時	高鉢・口縁部	口周：L状ヨコ/口：L状屈折/底：浅からぬ網代編/胴：直線編L状ナメ	L状ヨコ	編織・外やや平鉢	
145	第13号土坑 平盤時	高鉢・口縁部	口：直線編 L状屈折/底：浅からぬ網代編/胴：直線編L状ヨコ	L状ヨコ	内外スス付帯	p.203
146	第14号土坑・4層	高鉢・口縁部	L状ヨコ	ナメテ	編織・内外スス付帯	
147	第14号土坑・6層~8層	高鉢・口縁部	口：L状屈折/胴：L状ヨコ	ナメテ	編織・内外スス・縁部スス	

第118図 縄文土器(16)



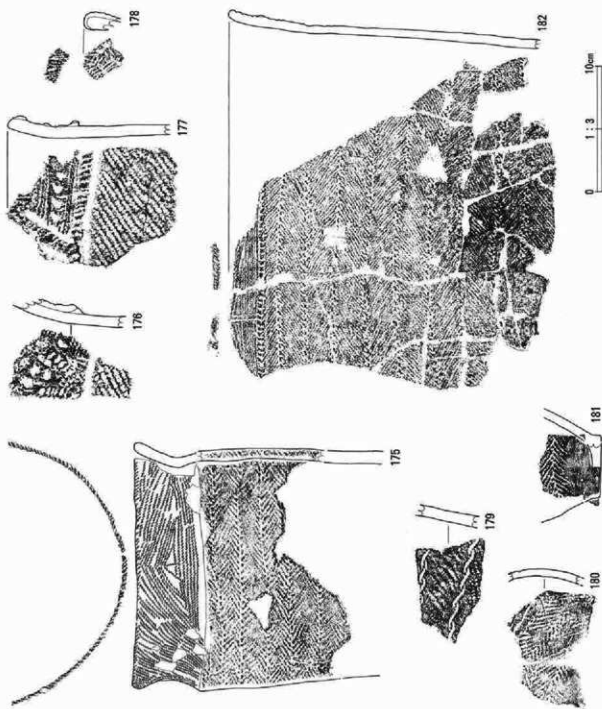
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原形など)	内面(調査など)	備考	本文記載
148	第14号土坑	深鉢・口縁部	口：単軸絡糸(弦)ヨコノ割；単軸絡1A(弦、L)ナナ	ナガキ	弦1軸絡・外中層付	
149	第15号土坑・Ⅱ層(10層?)	深鉢・胴部	縦軸1軸(L弦、RL)ヨコ	ナガキ	弦1軸絡	
150	第15号土坑・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：LRヨコノ割；縦軸1軸；弦1軸絡1A(弦)ナナ	ナガキ	弦1軸絡付	p.200
151	第15号土坑・Ⅱ層	香盤? (口縁)	LRヨコノ割	ナガキ	弦1軸絡付	
152	第15号土坑・7層	深鉢・口縁部	結糸1軸(L弦+RL?、RL+L?、肩知無)ヨコ	ナガキ	縦軸・吹きこぼれ	
153	第15号土坑・10層	深鉢・口縁部	口：弦絡1軸・縦軸1軸・結糸1軸(吹文・無)；単軸絡(L)ナナ	ナガキ?	弦1軸絡付	
154	第16号土坑・Ⅱ層上層(7層上層?)	高鉢(L/口縁以下)	口唇：縦軸1軸ナナノ割；結糸1軸(吹文・無)；単軸絡1A(弦、L)ナナ	ナガキ?	縦軸・外土文、中層付	
155	第16号土坑・Ⅱ層上層(11層上層?)	深鉢・口縁部	口：弦絡1軸；結糸1軸(L弦、RL)；//陶文刻字割—口	ナガキ	外層ナガキ付	
156	第16号土坑・Ⅱ層上層?	深鉢・口縁部	口：弦絡1軸；//陶文刻字割—口	ナガキ	弦1軸絡・外土文	
157	第16号土坑・Ⅱ層上層?	深鉢・口縁部	口唇：結糸1軸(L弦、L)ナナノ割；吹文ナナ	ナガキ?	外層ナガキ(吹文・無)	
158	第16号土坑・Ⅱ層上層?	高鉢・口縁部	口唇—口：LR割ナナノ割；結糸1A(L)ナナ	ナガキ	縦軸・外層付	p.200
159	第16号土坑・Ⅱ層上層?	高鉢・口縁部	口唇—口：LR割ナナノ割；結糸1A(L)ナナ	ナガキ	縦軸・吹きこぼれ	

第119図 縄文土器(17)



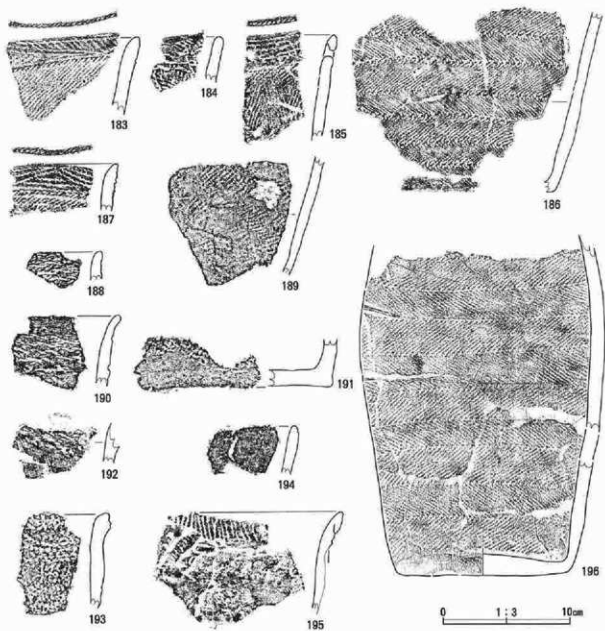
№	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文様・裝飾、地文・原状など)	内面 (調整など)	備 考	本文記載
160	第16号土坑 半盛時	深鉢・胴部	単純筋1A (L, R) ケナ		ミガキ	粘土織物織入
161	第17号土坑・5層	深鉢・口縁部	口：長筋圧／割；筋束1種 (RL, LR) ヨコ		ナデ	内外筋スス・粘土同一
162	第17号土坑・7層	深鉢・口縁部	口：L, 長筋圧／割；筋束1種 (LR, RL) ヨコ		ナデ	外筋スス・粘土同一
163	第17号土坑・8層	深鉢・胴部	単純筋1種 (R) ケナ・縁部ケナ		ナデ	外筋スス付着
164	第17号土坑・8層	深鉢・口縁部	口：L, 長筋圧／割；筋束1種 (LR, RL) ヨコ		ナデ	外筋スス・粘土同一
165	第17号土坑 半盛時	深鉢・口縁部	口：L, 長筋圧／割；筋束1種 (RL, LR) ヨコ		ナデ	粘土同一
166	第17号土坑・掘と窪の境 (掘部含む)	深鉢・口縁部	口内面：LRケナ／口：長筋束1種 (L, R) ヨコ		ナデ	粘土織物織入
167	第19号土坑	深鉢・口縁部	口：L, 長筋圧／割；筋束1 (LR, RL) ヨコ		ナデ	外筋スス付着
168	第19号土坑	深鉢・口縁部	LRケナ		ナデ	粘土織物・外筋スス
169	第21号土坑・5層	深鉢・胴部	胴：調整上深め筋交／割；RL, ヨコ?		厚肌	粘土織物織入
170	第21号土坑・6層	深鉢・口縁部	LR筋束		ナデ	
171	第21号土坑・7~8層	深鉢・口縁部	口：長筋圧／割；調整上深め筋交／割；LR・筋束ケナ		ナデ	172と同一
172	第21号土坑 半盛時	深鉢・口縁部	口：長筋圧／割；高み縁部上縁から深め筋交／割；筋束ケナ		ナデ	外筋スス・171と同一
173	第21号土坑 半盛時	深鉢・胴部	口：L, 長筋圧／割；筋束1種 (L, R, RL) ヨコ		ただれ	粘土織物・171と同一
174	第21号土坑 半盛時	深鉢・口縁部	口：L, 長筋圧／割；筋束1種 (L, R, RL) ヨコ		ただれ	173と同一

第120図 縄文土器(18)



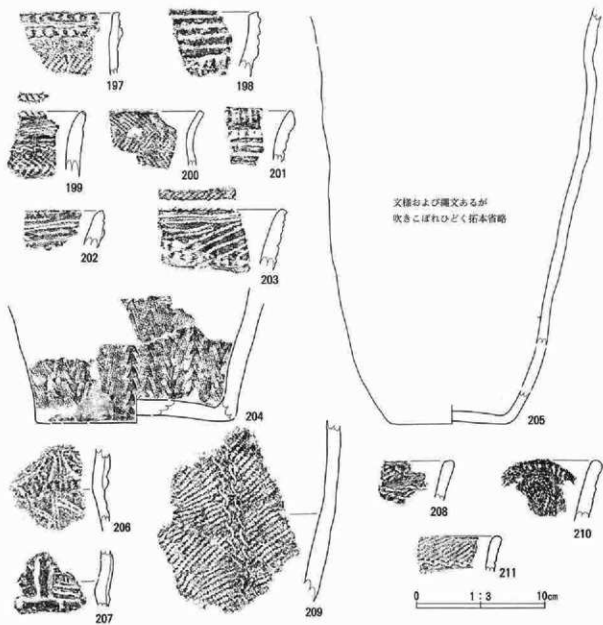
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾、地文・肌体など)	内面 (調査など)	備考	本文記載
175	第22号土坑・3層、9割上面	深鉢 (2/3部破)	口唇~胴: L縞庄/結束1種 (L.R, RL) ココ	ミダキ	粘土層被覆人	p.303
176	第22号土坑・9層	深鉢・L1層部	口: 高い縁部上L縞庄?・高脚状押付 (L.R?) / 胴: LRコ	ナダ	灰土に被れ、口と肩に?	
177	第22号土坑・9層	深鉢・L1層部	口: 高い縁部上L縞庄?・L、L縞庄/高脚状押付 (L.R?) / 胴: LRコ	ナダ	灰土に被れ、口と肩に?	
178	第22号土坑・10層	深鉢・L1層部	口唇部	ナダ		
179	第22号土坑・13層	深鉢・胴部	LR+斜縞状ココ	ナダ	外周厚縁	
180	第22号土坑 (一室部)の土坑(北) 8層部	小形鉢?	口: 口唇部上縁に結束1種 (RL+斜縞状上、LR) コ	ナダ	粘土層被覆、外文武	
181	第22号土坑 (一室部)の土坑(北) 7層部	深鉢 (2/3部破)	結束1種 (RL, LR) ココ~底部一底面ナダ?	ナダ	縞被覆・内面スス	
182	第22号土坑・無L土器 (10層)	深鉢 (1/4部破)	口: 口唇部上縁に結束1種 (L.R) / 胴: 結束1種 (RL, LR) ココ	ミダキ	縞被覆・一次被覆厚縁	

第121図 縄文土器(19)



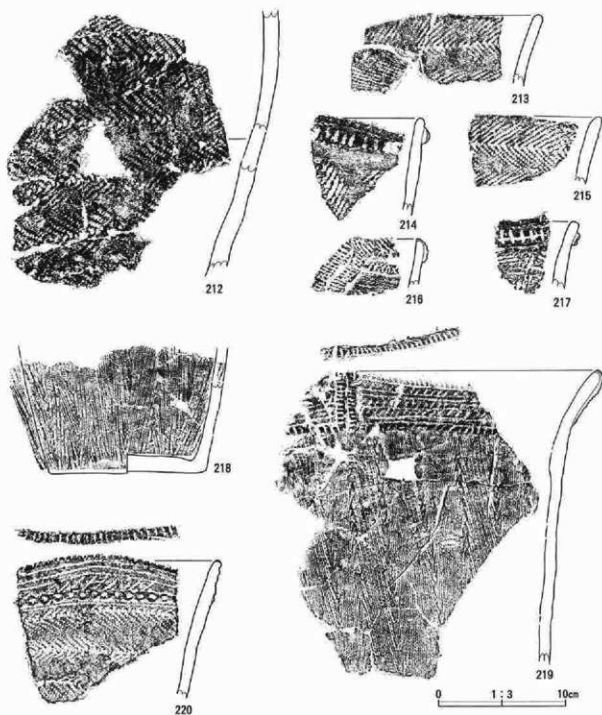
№	出土地点・層位	器種・部位	外 形 (文様・裝飾、地文・原料など)	内面 (調査など)	備 考	本文 記載
183	第25号土坑・6層	深鉢・口縁部	口縁：L.H.#コ/口：L.H.脚状/胴：L.H.#コ/口。胴一環状水平方向刺付	ナデ	縁部・内全面スス	p.203
184	第25号土坑・7層	深鉢・口縁部	R.H.#コ・結節(L?)#コ	ナデ	粘土縁部・外スス	
185	第25号土坑・9層	深鉢・口縁部	口縁：L.H.#コ/口：L.H?脚状/胴：底いぼ型上刺付/胴：厚輪1A#コ	ナデ	縁部・内面スス	p.203
186	第25号土坑・10層	深鉢・底面	縁部1種(L.H., R.H.)#コ 逆長交尺に一底面一底面ナデ	イボキ		
187	第25号土坑 平皿時	深鉢・口縁部	口縁：L.H.#コ/口：L.H.脚状/胴：厚輪上刺付/胴：厚輪上刺付/胴：L.H.#コ	ナデ	縁部・外中心の縁部	
188	第24号土坑・5層	深鉢・口縁部	縁部(CR)#コ *100%同一個体?	ナデ	粘土縁部・外スス	
189	第24号土坑・9層	深鉢・胴部	L.H.#コ。ナデ	ナデ	外・内スス	
190	第24号土坑・9層	深鉢・口縁部	口：口縁(S)#コ/胴：底いぼ型上刺付/胴：厚輪上刺付 +100%同一個体?	ナデ	粘土縁部・外スス	
191	第24号土坑・9層	深鉢(口縁以下)	胴：斜横交(原料不明)/底面一底面：ナデ	ナデ	縁部・内面スス、厚底	
192	第24号土坑・10層	深鉢・胴部		ナデ	*100%同一個体	
193	第24号土坑・13層相当層?	深鉢・口縁部	口縁縁部状/口：L.H.脚状/胴：底面不明(結節#コ?)	ナデ?	粘土縁部・内面スス	
194	第24号土坑・14層	口縁部(L.H.脚部)	(ナデ)	ナデ光沢	粘土縁部・外スス	
195	第25号土坑・9層下層~11層上層	深鉢・口縁部	R.H.脚付(縁部上本)	ナデ	粘土縁部・外スス	
196	第25号土坑・9層下層~11層上層、第24号土坑? 底面(一環状刺)	結節深鉢1種(L.H., R.H.)#コ 逆長交尺一底面ナデ/底面：イボキ		イボキ?	内外全面スス付着	p.203

第122図 縄文土器(20)



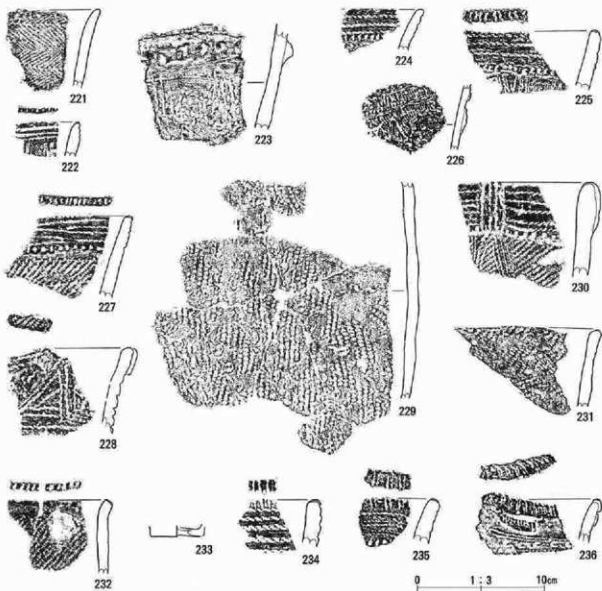
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・紐帯など)	内面(調整など)	備考	本文記載
197	第25号土坑	深鉢・口縁部	口一帯: 乱縄文(低めの段基上にもC字乱縄文) / 製: LRヨコ	ナデ	吹きこぼれ	
198	第25号土坑	深鉢・口縁部	L副庄 (*外面ただれ、割断部消滅)	ナデ	縁部・内面スス	
199	第25号土坑	深鉢・口縁部	口縁~口: 乱縄文 / 製: 低い段基? / 製: LR+筋断(H)ヨコ	ミガキ	外面厚縁	
200	第25号土坑	深鉢・口縁部	LR, 乱ヨコ	ナデ	外面スス, 内面黒	
201	第25号土坑	深鉢・口縁部	口: 乱縄文 / 製: 低めの段基に横からの斜割 / 製: 乱ヨコ?	ミガキ	吹きこぼれ	
202	第25号土坑	深鉢・口縁部	口唇: LRヨコ / 口: 乱縄文 / 製: 割断(縄文?)列	ミガキ	縁部・内面スス	
204	第25号土坑より下の埋戻し層(埋戻し面)	深鉢(口縁部)	製: 割断筋1A (R, L) ナデ / 底面: ミガキ	ミガキ	内面筋ただれ	
205	第26号土坑・No1 (15層?)	深鉢(口縁部)	一箇半割断縄文、サズリ一底層~底面ナデ	微なデ	吹きこぼれ・内面厚縁	p.204
206	第26号土坑・3層	深鉢・口縁部	1? 筋断(縁部上も?) (*縁部上厚縁のどく、下吹きこぼれで不明)	ナデ	吹きこぼれ・内面スス	
207	第26号土坑・5~6層	深鉢・口縁部		割断		
208	第26号土坑・7層	深鉢・口縁部	LRヨコ?・筋断筋ヨコ	ナデ		
209	第26号土坑・8層(埋戻し面?)	深鉢・口縁部	LRヨコ、ナデ+筋断1? ナデ (*外面スス付着)	ナデ	縁部・内面厚縁	
210	第26号土坑・11層	深鉢・口縁部	乱縄文	ナデ	外面スス、厚縁	
211	第26号土坑・11層(断片部?)	深鉢・口縁部	口唇: 低いナデ / 口: LRヨコ一筋断筋ヨコ	ナデ	外面スス付着	

第123図 縄文土器(21)



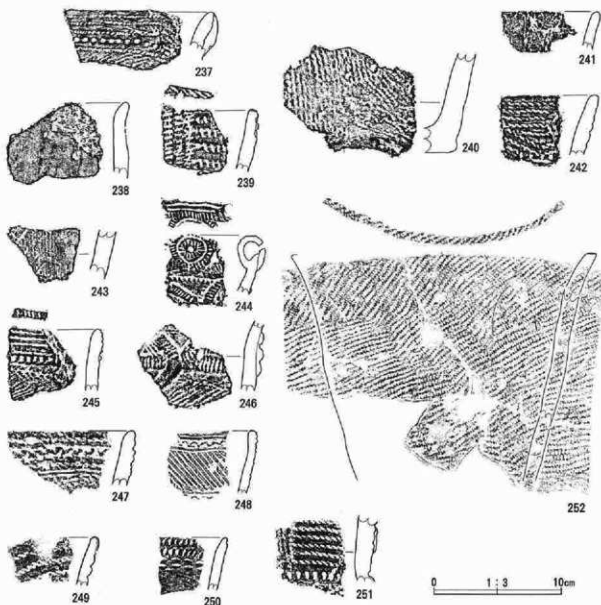
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・肌体など)	内面(胎体など)	備考	本文記載
212	第26号土坑・11層(断面図にあり)	深鉢・胴部	結晶1種 (RL)・細筋L字、L字 ココ	ミダキ字	編織・縞目付、文様	
213	第26号土坑・12=14層?	深鉢・胴部	結晶1種 (L字、H字) ココ	摩焼	外スス・内内摩焼	
214	第26号土坑 平底時	深鉢・口縁部	口: 上層灰水平方網目・中層高・隆起目状網目・下層横文/層: 段々ナメ	ナメ	外縁部トスス付着	
215	第26号土坑 平底時	深鉢・口縁部	結晶1種 (RL、L字) ココ	(※外全面スス付着)	摩焼	内面焼付けはじ
216	第26号土坑 平底時	深鉢・口縁部	隆起上L字網目・隆起下、段状目、段状目摩焼 (H字) ?	ナメ	胎上石・外スス	
217	第26号土坑	深鉢・口縁部	隆起に沿ってL字網目・高い隆起部にL字網目/網: 段々ナメ?	ナメ	編織・吹きこぼれ	
218	第27号土坑・No.1土器(4層上面)	深鉢(一側)	網: 準結晶IA (H) タキ/底面: ミダキ字	ミダキ	胎土編織・内面編	
219	第27号土坑・No.2土器(7層)	深鉢	口縁: 段状目/口: 段状目 (隆起上も) /網: 準結晶IA (RL、L字) タキ	ミダキ	胎土編織・外縁部スス	
220	第27号土坑・No.3 (7層)	深鉢・口縁部	口縁=結晶1種(隆起)・61・隆起1種64段状目・編織目付 (L字、H字) ココ	ミダキ字	編織・外全面スス	

第124図 縄文土器(22)



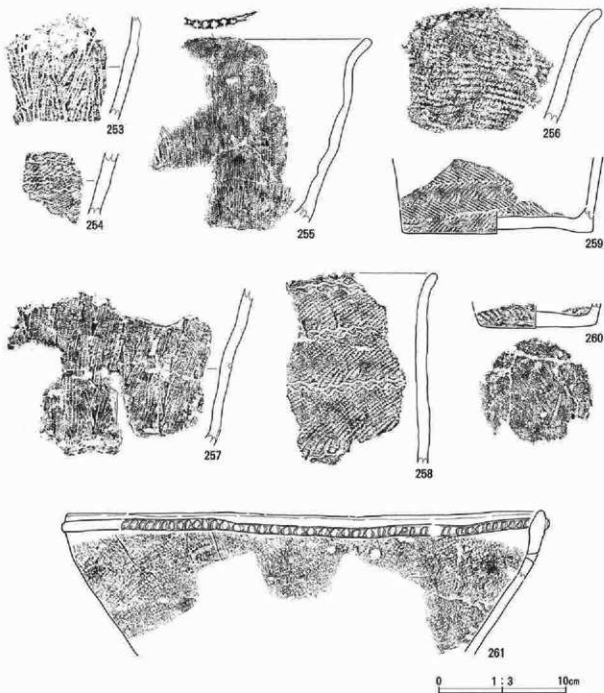
No	出土地点・層位	容器・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(調整など)	備考	本文記載
221	第27号土坑・4~5層相当層	深鉢・胴部	筋面1種(LR, RL)ヨコ (※外面スス付着)	ナデ	縁部・内底はじり目	
222	第27号土坑・7層	深鉢・口縁部	口唇:滑り/口:L筋付/胴:単軸筋1A(GR, L)ナデ	ナデ	筋土織器混入	
223	第27号土坑・7層	深鉢・胴部	胴:高5~6cm帯にD字彫押圧/胴:L筋ナデ→底位の粗い押圧?	ナデ	縁部・内外厚縁	
224	第28号土坑・6層	深鉢・口縁部	口:L筋付/胴:Lヨコ	ナデ	外面スス付着	
225	第28号土坑・平畝跡	深鉢・口縁部	口唇→口:L筋付/胴:平直竹管状工具による斜交/胴:単軸筋1Aナデ	ミダキナ	内面磨きはじり	
226	第28号土坑・平畝跡	深鉢・口縁部	口唇:1種(隆起上も)・隆起に分けて斜交/胴突出/胴:Lヨコ	ナデ	外スス・縁部磨耗	p.204
227	第28号土坑・平畝跡	深鉢・口縁部	口唇→口:L筋付/胴:斜交(L筋付ナ), D字状/胴:Lヨコ	ナデ	縁部・斜交反口縁	
228	第28号土坑・平畝跡	深鉢・口縁部	口唇:Lヨコ/口:L筋付(隆起上も)	ナデ	筋土織器混入	
229	第29号土坑・No.1土器(3層上面)	製器(1/6層以下)	RLNナデ	たなれ	縁部・西下等粗磨ぎ	
230	第29号土坑・3層	深鉢・口縁部	口唇:突起外Lヨコ/口:R筋付(突起上出口付近)/胴:平直竹管状肌	ミダキナ	筋土織器混入	p.204
231	第29号土坑・3層	深鉢・口縁部	RLヨコ	ナデ	筋土織器・外スス	
232	第29号土坑・(No.2土器(組合・6層以下))	深鉢・口縁部	口唇:長手筋付/口:ナデ/胴:Lヨコ	厚縁	縁部・内外ラシシ色	
233	第29号土坑・4~6層相当層	深鉢(口/2層内)	底面→底面:ナデ	ナデ	筋土織器混入	
234	第29号土坑・7~8層	深鉢・口縁部	口唇:L筋付/口:L筋付	ナデ		
235	第31号土坑・2層	深鉢・口縁部	口唇→口縁:L筋付/胴:斜交列?	厚縁		
236	第31号土坑・2層	深鉢・口縁部	口唇→口縁:長筋付(C字状の押圧も)	ナデ	筋土織器・内底に筋	

第125図 縄文土器(23)



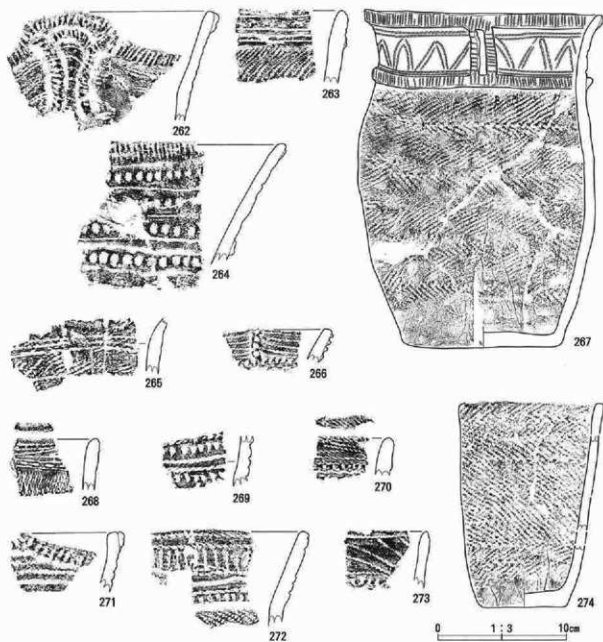
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(溝痕など)	備考	本文記載
237	第31号土坑・4層	深鉢・口縁部	口: 串刺痕(互角) 断面、底平らな器状(口による割断列/痕) 皿? ナテ	ナテ	胎土繊維混入	
238	第31号土坑・4層	深鉢・口縁部	帯曲状(互角)による定規	ナテ(凹)	胎土繊維多・外スス	
239	第31号土坑・7、8、10層	深鉢・口縁部	口側: 乱ヨコリテ/口: 串刺痕1 (R) 断面	ナテ	胎土繊維・内外割痕	
240	第31号土坑・15層	底形破片	側: 串刺痕1 (R) ナテナ。乱ヨコ/底部~底直: ナテ	ナテ?	胎土繊維・内外厚肌	
241	第31号土坑・16~17和当層?	深鉢・口縁部	串刺痕1A (L) ナテナテ	ナテ		
242	第31号土坑・17~18層	深鉢・口縁部	1. 乱刺痕	ナテ	胎土石含む	
243	第31号土坑・17~18層	深鉢・胴部	帯曲状(互角)による定規	ナテ	胎土繊維混入	
244	第31号土坑 半焼時	深鉢?・口縁部	先端中空、貫通孔・深い縦仕線、刺痕	ナテ	内面凹凸	
245	第31号土坑 半焼時	深鉢・口縁部	口側: 明用?/口: 串刺痕/胎土繊維? (互角)断面/断面(互角、乱) 9x3	ナテ(凹)		
246	第31号土坑 半焼時	深鉢・胴部	縁部上段割断、その下縁部に沿って乱、L断面/LR+胎土混入ナテナ	ナテ(凹)	外吹きこぼれ	
247	第31号~第32号、第33号、10号土坑 半焼時	深鉢・口縁部	口縁上から、L断面、交互割断列、1. 乱刺痕、半焼の貫通孔(側) 1. 乱ナテナ	ナテ		
248	第31号~第32号、第33号、10号土坑 半焼時	深鉢・口縁部	細く密めの定規、刺痕	ナテ		
249	第31号~第32号、第33号、10号土坑 半焼時	深鉢・口縁部	1. 乱刺痕	ナテ	胎土繊維混入	
250	第31号~第32号、第33号、10号土坑 半焼時	深鉢・口縁部	深めの乱刺痕	ナテ		
251	第31号~第32号、第33号、10号土坑 半焼時	深鉢・口縁部	口: 1. 乱刺痕(低い器壁上も)/側: 深い割断列	ナテ	胎土繊維、白石混入	
252	第31号土坑・No. 17層 半焼、焼4本	深鉢(胴一側)	口側: L乱ヨコ/口~側: L乱ヨコ	たたれ	胎土繊維・外面スス	p. 204

第126図 縄文土器(24)



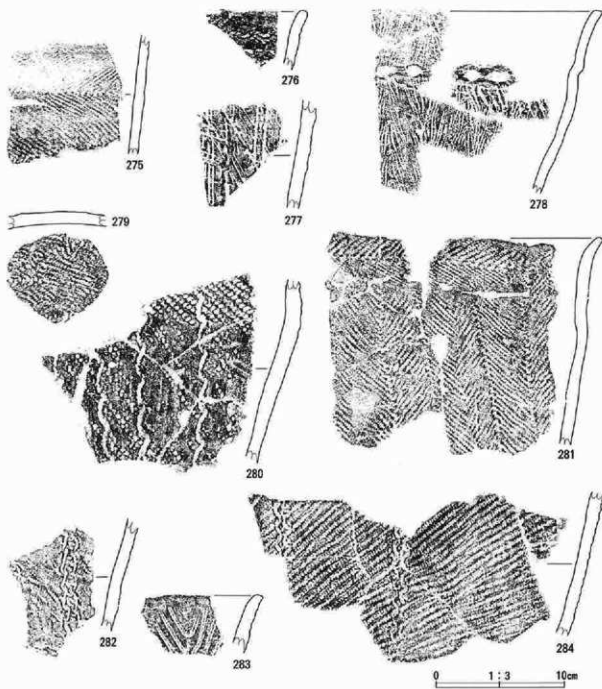
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原形など)	内面(調整など)	備考	本文記載
253	第32号土坑	深鉢・胴部	単輪造1A (H, L) ナデ	ナデ	縁・外ス、内面彫	
254	第32号土坑	深鉢・胴部	LR?+筋彫Rヨコ? (摩耗して不明瞭)	ナデ	胎土織物・内厚種	
255	第33号土坑	鉢	口唇: D字彫目/口-割: 櫛歯状工具による浅彫	ただれ	縁部・外上部スス	
256	第33号土坑?	深鉢・口縁部	LRナナメ	ナデ	縁部・口こげ	
257	第34号土坑・西側直上(4層下)	朝顔造1A (H, L) ナデ		ナデ	縁部・内面全面スス	
258	第35号土坑・南側下面~12層上面	深鉢・口縁部	LRヨコ-筋彫 (R) ヨコ (※外スス、内黒)	ナデ	胎土織物多、石含む	
259	第35号土坑	深鉢 (底一部)	脚: 粗糸1縦 (LR, RL) 筋彫ヨコ/底面: ナデ	ナデ?	胎土織物多い	
260	第35号土坑	底面 (2.2層)	RL (段多変) ヨコ/底面: ケズリに近いナデ	ナデ		
261	第36号土坑・西側上面?土か	深鉢 (1.2層)	口内面: 筋輪/口: 縁部上に押入れ、縁部内面無文/脚: LRヨコ	ナデ?	杯唇孔	p.204

第127図 縄文土器(25)



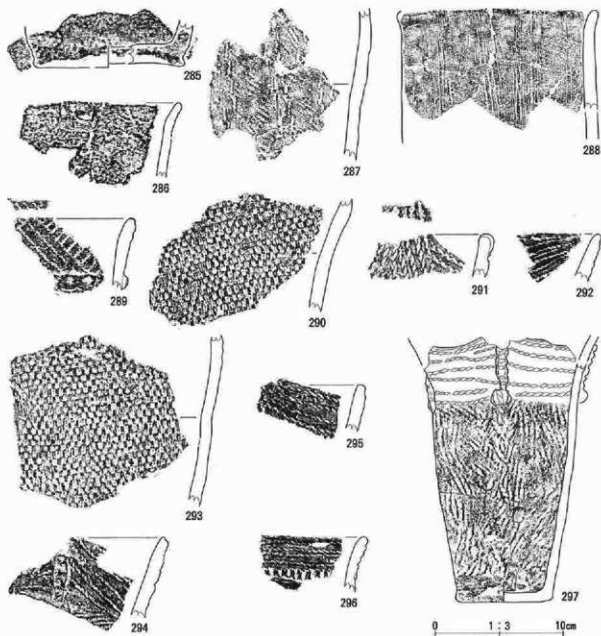
No.	出土地点・層位	形制・部位	外 形 (文様・装飾、地文・細体など)	内面 (調査など)	備 考	本文記載
262	第36号土坑①上中	深鉢・口縁部	上段横正 (縁部上中)	ナデ		p.204
263	第38号土坑遺	深鉢・口縁部	口縁: 乱ヨコナ/口: 乱横正・横線状ヨコナ/器: 乱ヨコナ	ナデ	縁部・外口縁十字	
264	第36号土坑・東之②上中	深鉢・口縁部	乱横正 (口縁部上中も)・横線状神尾列 (高い縁部上中)	ナデ	外周スス行音	
265	第37号土坑・東之②上中	深鉢・口縁部	口: 上段横正・器: 上段ヨコナ	ナデ	縁部・器体の縁部	
266	第37号土坑・東之②中下層	深鉢・口縁部	口: 乱ヨコナ/器: 乱横正・器: 乱ヨコナ	厚底	縁部・外口縁・内周縁	
268	第36号土坑	深鉢・口縁部	口: 上段横正/器: 乱ヨコナ	ナデ	内周縁おぼけ	p.204
269	第36号土坑	深鉢・口縁部	口: 上段横正/器: 乱ヨコナ	ナデ	器上縁部	
270	第36号土坑	深鉢・口縁部	口: 上段横正/器: 乱ヨコナ	ナデ	器上縁部	
271	第37号土坑	深鉢・口縁部	口: 上段横正/器: 乱ヨコナ	ナデ	器上縁部	
272	第37号土坑	深鉢・口縁部	口: 上段横正/器: 乱ヨコナ	ナデ	器上縁部	
273	第37号土坑	深鉢・口縁部	口: 上段横正/器: 乱ヨコナ	ナデ	器上縁部	
274	第41号土坑	瓶 (底のA~B)	瓶頸部: 乱ヨコナ/器: 乱ヨコナ	ナデ	瓶頸・外周縁・外口縁	

第128図 縄文土器(26)



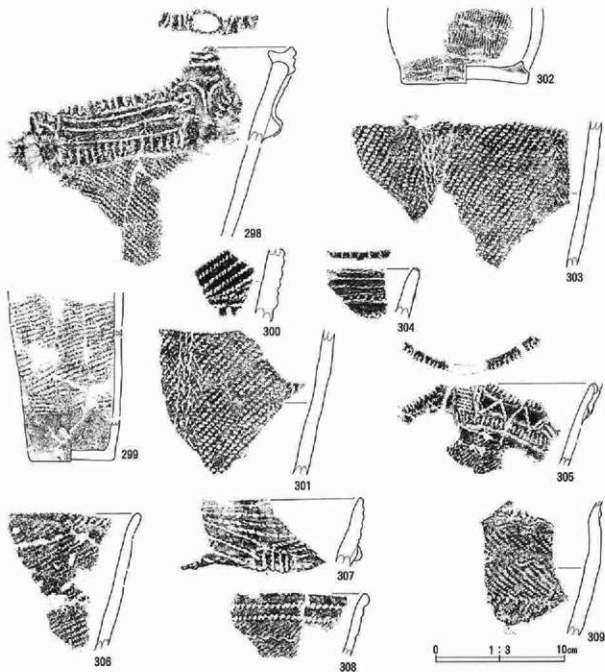
№	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・顔体など)	内面 (溝等など)	備考	本文 記載
275	第42号土坑・4~10層	深鉢・胴部	縦：L形四角・横：結縷1種(LR、RL) ※コ	なし	縦線多・外ヌス	
276	第42号土坑・4~10層	深鉢・口縁部	結縷Rヨコ・L段ヨコ等々	摩滅	縦線・外ヌ	
277	第42号土坑・4~10層	深鉢・胴部	半長竹管状工具による沈線	ナシ	胎土繊維混入	
278	第42号土坑・4~10層	深鉢・口縁部	準輪飾IA Ⅱ、L1 タテ (口縁と胴部では並行?)・底：乳(溝等に深めの溝)	ナシ	胎土繊維混入	p.201
279	第42号土坑 平蓋時	深鉢・底面	縁一周だけ区不明・底面：L段ヨコ	ナシ	縦線多・内々や摩耗	
280	第42号土坑 平蓋時	深鉢・胴部	L段タテ→結縷Rタテ	ナシ	外ヌス・内々上段首	
281	第42号土坑 8層、平蓋時	深鉢 G/A 胴部	結縷1種(LR、RL)、口縁部ヨコ、胴部タテ	ナシ	縦線・外ヌス	p.201
282	第44号土坑・3層	深鉢・胴部	縦：乳・横：準竹管状・胴：LR・結縷Rタテ	ナシ	胎土繊維混入	
283	第44号土坑・6層	深鉢・口縁部	準輪飾IA (L) タテ	ナシ	胎土繊維混入	
284	第44号土坑 平蓋時	製器 G/A 胴	L段 (口縁多集字) ※コ→結縷Rタテ	ナシ	胎土繊維・外ヌス	

第129図 縄文土器(27)



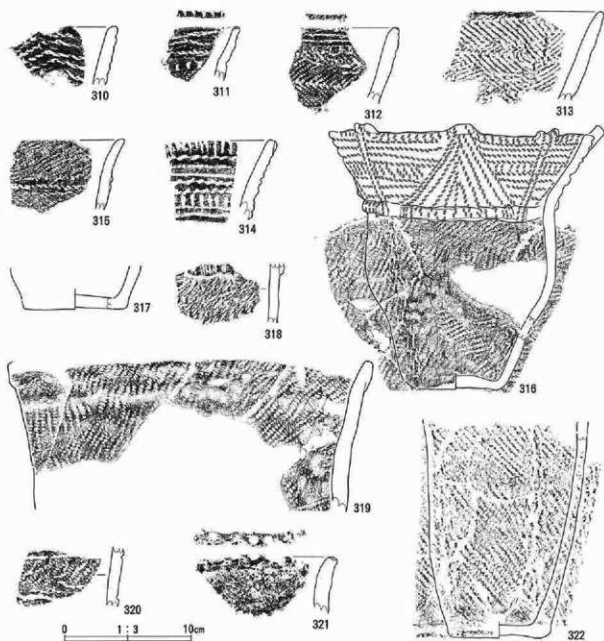
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・形状など)	内面(調整など)	備考	本文記載
285	第45号土坑・8層	底面(1/4断面)	L.R.コウマニ式部~底面ナデ	ただれ	胎土織り・内面スリ目	
286	第45号土坑 半截時	器底・口縁部	L.R.+絞細目コ	ナデ	縦横・内面スリ目	
287	第46号土坑	器底・胴部	L.R.タテ一筋間長ナデ	ナデ	胎土織り多い	
288	第46号土坑	口縁部(口縁面)	口縁:縦1ナデ/口一筋+横面状工目による沈着	ただれ		
289	第47号土坑 No.1土器(7層上部)	器底・口縁部	口縁:縦1ナデ/口一筋+横面状工目による沈着	厚底	縦横・厚底ひどい	
290	第47号土坑 No.1土器(7層上部)	器底・胴部	多輪紋(字)ナデ	厚底	縦横・内面反色厚底	
291	第47号土坑・7~11層	器底・口縁部	L.R.網目(突起部以下まで)	ナデ	胎土織り粗大	
292	第47号土坑・7~11層	器底・口縁部	口縁:L.R.コウマニ; L.R.直	ヒガキ		
293	第47号土坑・7~11層	器底・胴部	多輪紋(字)ナデ	厚底	縦横・内面反色厚底	
294	第47号土坑 半截時	器底・口縁部	口縁:L.R.コウマニ; 縦横装飾部・L.R.直/斜; L.R.コ	ヒガキ	胎土織り粗大	
295	第47号土坑 半截時	器底・口縁部	L.R.網目	ナデ/厚	内外面	
296	第47号土坑 半截時	器底・口縁部	口:L.R.網目/直; 深い斜目	ナデ/厚		
297	第48号土坑 No.1土器(3層)	鉢(口縁欠損)	40度7//口:口縁直(器底上); 胎土織りコウマニ~横筋7ナデ	ヒガキナデ	縦横・内面スリ目	p.201

第130図 縄文土器(28)



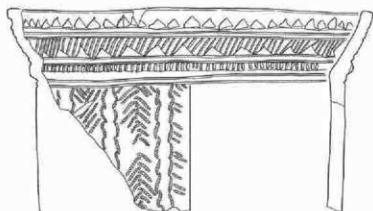
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・肌体など)	内面 (調整など)	備考	本文 記載
298	第48号土坑 66cm層(1層)	深鉢・口縁部	口: 太く高い隆帯、突起・LR斜行ノ斜; RI, ココ//突起(4単位)ナ		内上部、内下部スス	
299	第48号土坑・1層	小笠鉢	側: LRナナメノ底→底面? ナテ (*1/2縁面)		筋ノ縁面・外スス	
300	第48号土坑・5, 6層	深鉢・口縁部	隆?、準縁部(口?) 傾行		内高縁部(内面Lに凸)	
301	第48号土坑・5, 6層	深鉢・胴部	突起ナテ→傾行ナテ (*上の突起は合面から脱離?、その後研磨?)		縁・底に凸・外ス	p.204
302	第48号土坑・5~6層(口, 5~6層(5層)	底草(底の4層)	準縁部(?) ナテ? (*摩擦?)		縁部・内縁縁の凸	
303	第48号土坑・6層	深鉢・胴部	*301と同一個体・1/314(第48号土坑)として取り上げ		内下部スス付着	
304	第48号土坑・10~11層	深鉢・口縁部	口唇: 斜行/口: R傾行/面: 低隆帯上突起?・LRココ?		粘土層埋入	
305	第48号土坑(1/4層)	小笠鉢(1/4層)	口: Lノ斜行(隆帯上も)ノ斜: LRココ?		粘土石・内層入	
306	第48号土坑 平蔵時	深鉢・口縁部	LRココ?		厚縁	内外ホロホロ
307	第48号土坑	深鉢・口縁部	口唇: LRココ/口: L傾行(深い底付文上も)		ナテ	粘土石付
308	第48号土坑	深鉢・口縁部	口: 準縁部(底) 傾行/側: LRココ→傾行LRココ		底だけ	
308	第48号土坑	深鉢・胴部	結晶(隆 RI, LR) ココ→傾行LRココ		縁部・底ホコ縁	

第131図 縄文土器(29)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・厚薄など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
310	第5号土坑	深鉢・口縁部	二山突起・L状脚注	ナゲ丁草		
311	第5号土坑	深鉢・口縁部	口唇: LR平削注/口: LR細注/器: 平蓋竹管状工具による刺突列	摩耗	外周	
312	第5号土坑	深鉢・口縁部	口: R脚注/製: 結実1種 (LR, RL) ヨコ (※口唇、脚注跡)	ミダチ	胎土繊維混入	
313	第5号土坑	深鉢・口縁部	結実1種 (LR?, RL) ヨコ	ナゲ	胎土繊維多	
314	第5号土坑	深鉢・口縁部	LR, 脚注跡 (R) 脚注 (※下の胎土口縁部及胎土面からの剥離)	ミダチ	胎土繊維混入	
315	第5号土坑	深鉢・口縁部	口: LRヨコ/器: 細く高めの隆起帯にL脚注/製: 結実文字	摩耗	縁部・内外摩耗	
316	第5号土坑	鉢 (唯一高)	突起守単位/口一歯: LR脚注/製: LRヨコ-結実付チチ-底ナゲ	ナゲ	外周上スス付着	p.204
317	499、第51号(第50号も?)土坑	底部 (1/2割面)	底部一断面: ミダチ	ナゲ?		
318	第5号土坑 (第50、51号?)土坑	深鉢・製部	器: 高めの隆起帯にR脚注/製: LRヨコ	ナゲ	縁部・吹きこぼれ	
319	第5号、第51号土坑、第50号土坑・層	深鉢 (L2/4割)	口: 隆起状作り高L口縁・口一製: LRヨコ、ナゲ	ミダチ	胎土・外周剥離	
320	第50号 (第51号、第50号も)土坑	深鉢・製部	LRヨコの上、下に水平方向にLR脚注	ナゲ	縁部・内面スス	
321	第50号、第51号土坑	深鉢・口縁部	口唇: 脚注列/口: ※黒色?不明 (多量結実ナゲ?)	ナゲ?	縁部・黒色?	
322	第52号土坑・No.1土器 (2層)	鉢 (一高)	RLヨコ、ナゲ-脚注 (L) ナゲ-底部-底面ナゲ/器面に于ける注画	たたれ	内面二次焼成で滑	

第132図 縄文土器(30)



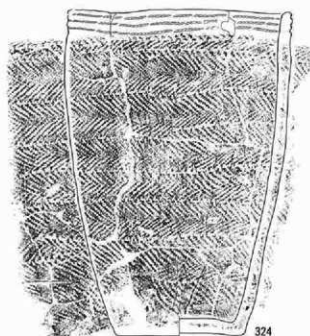
323



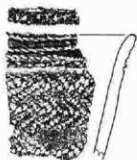
325



326



324



327

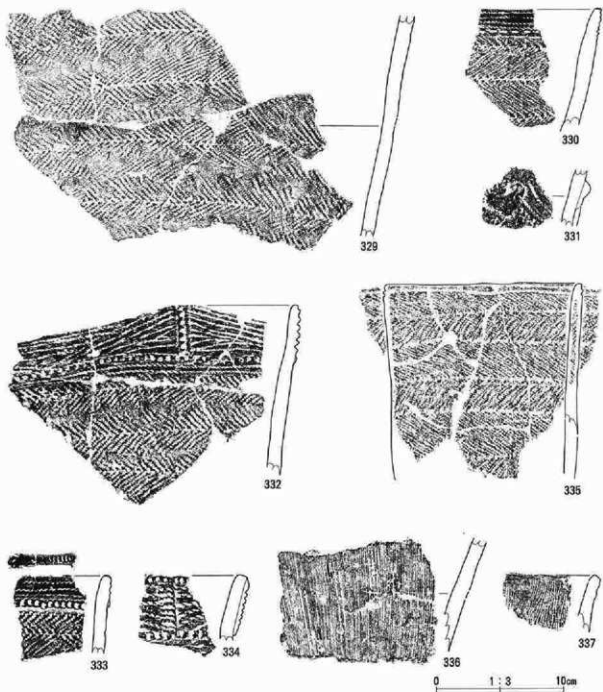


328

0 1:3 10cm

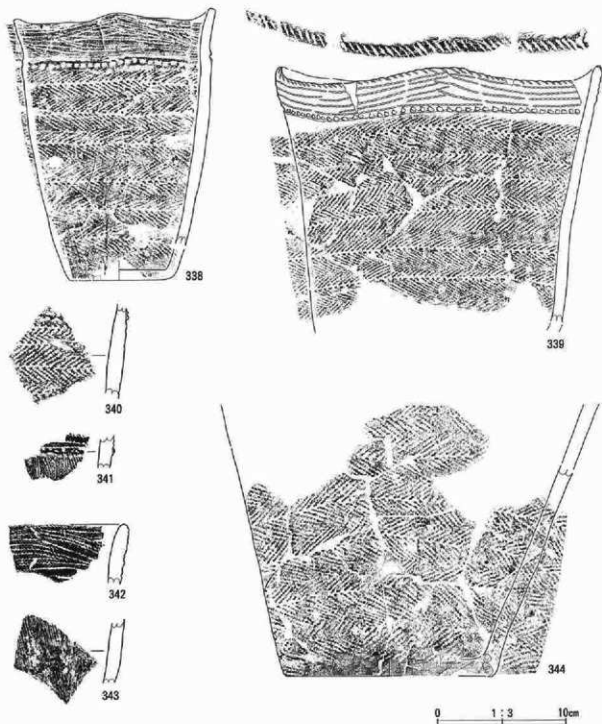
No	出土地点・層位	器種・形状	外面(文様・裝飾、地文・形状など)	内面(調整など)	備考	本文記載
323	第2号土坑・No.1土器 (1)~(4)層上面、9層	深鉢 (Cl/300)	口縁: 垂いナメ/口: 有指付口縁(下)ノ製、底面: 横線 1本、底: 3ヶ所-指取ノナ	ヒガ本	外山池田行書	p.204
324	第2号土坑・No.2土器	鉢 (Cl/200)	口縁: 垂いナメ/口: 有指付口縁(下)ノ製、底面: 横線 1本、底: 3ヶ所-指取ノナ	ナデ	徳田・内川中野隆経	p.204
325	第2号土坑・1~2層	深鉢・Cl/200	口: L. 横線ノ製、底: 1ヶ所ナメ	摩耗	徳田・内山常吉隆守	p.204
326	第2号土坑・4層、青灰土層上面	深鉢・Cl/200	口縁: 垂いナメ/口: 有指付口縁(下)ノ製、底面: 横線 1本、底: 3ヶ所-指取ノナ	ナデ	徳田・内山常吉隆守	p.204
327	第2号土坑・7~10層	深鉢・Cl/200	口縁: 垂いナメ/口: 有指付口縁(下)ノ製、底面: 横線 1本、底: 3ヶ所-指取ノナ	ナデ	徳田・外山常吉	p.204
328	第2号土坑・7~10層	深鉢・Cl/200	口縁: 垂いナメ/口: 有指付口縁(下)ノ製、底面: 横線 1本、底: 3ヶ所-指取ノナ	ナデ	徳田・外山常吉	p.204

第133図 縄文土器(31)



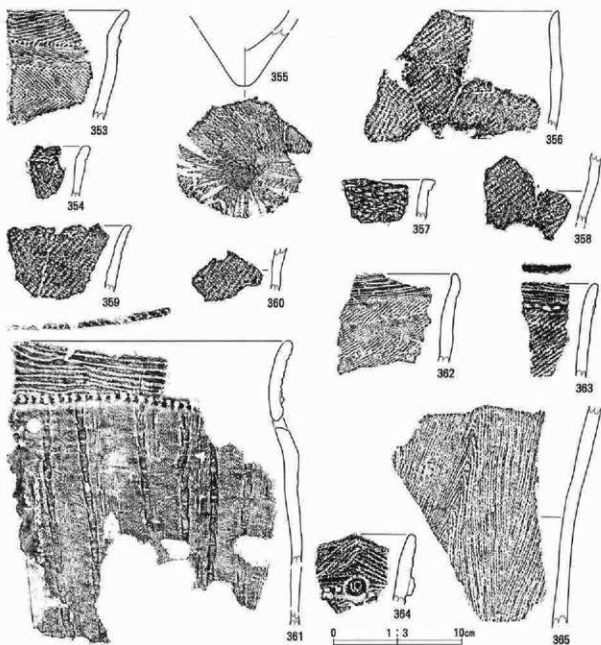
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・形体など)	内面(調性など)	備考	本文記載
329	第32号土坑・7~10層、平高時	胴部(口縁部)	縄文1種(LE、RE) ※コ受取も	1方ホウ	7~10層(10・編織)	
330	第32号土坑・11層	胴部・口縁部	口部:LEホウ/口:LE細化/底:低い縄文に施からの刺突/肩:結縷(ホウ)	ナデ	編織帯・巻きこぼれ	0.204
331	第32号土坑・南西交差主体	胴部・口縁部	口部:LE・高い縄文(一部刺突)	厚底	筋土編織・糸文	
332	第32号土坑 平高時	胴部・口縁部	底面1種/口:糸1種(筋、平高時、高低/肩:結縷(LE、RE) ※コ	1方ホウ	編織・内面巻きこぼれ	0.204
333	第32号土坑 平高時	胴部・口縁部	口部:口:刺突/底:低い縄文にコ字刺突/肩:結縷(LE、RE) ※コ	1方ホウ	外止や厚底	
334	第32号土坑 平高時	胴部・口縁部	口:LE細化(帯部上も)/底:刺突列/肩:結縷(LE) ※コ結ホウ	1方ホウ		
335	第32号土坑・1、2層、中心相当部	胴(口縁以下)	底面1種(LE・押加編織、RE・押加編織) ※コ逆交差(口部)刺突	ナデ	1. 編織・編織・内面	
336	第32号土坑・中心相当部	胴部・胴部	編織係り面による沈腐 (*上下両口、底1層合面からの刺突)	ナデ	筋土編織器入	
337	第32号土坑 平高時	胴部・口縁部	甲物筋(LE) ナデ (口縁編織上ホウ)	ナデ	編織・内面刺突	

第134図 縄文土器(32)



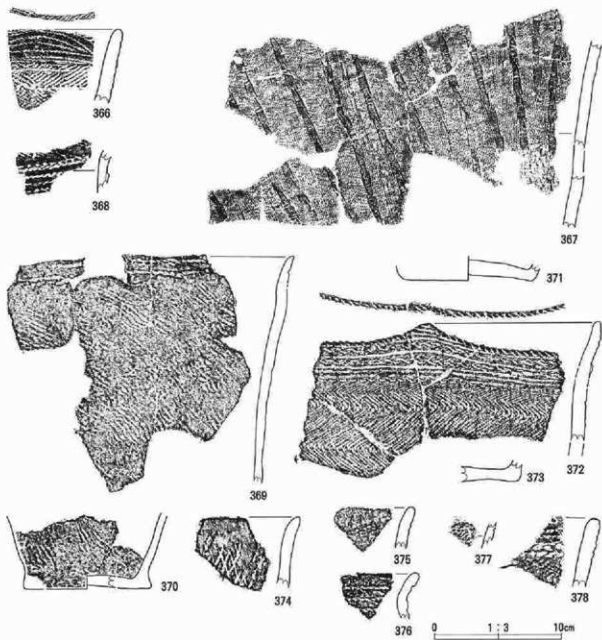
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾・地文・器体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
338	第55号土坑 No.1土層(60層)	鉢(甕の小欠)	破状/口:孔, 上縁上/面:深い歯から刺突/斜:波状縞(LR, RL)ヨコ	ミダキ	編物・外ニス	p.201
339	第55号土坑 No.1~3土層連中	高鉢(一貫一断)	破状/口縁~口:L縞上/面:浅い刺突/斜:波状縞(LR, RL)ヨコ	ミダキ	編物多・内外黒塗	p.205
340	第55号土坑・60層	高鉢・胴部	筋縞1種(LR, RL)ヨコ	ミダキ	内外ニス付着	
341	第55号土坑・8, 11層	高鉢・胴部	白:L縞上/面:浅い刺突/斜:波状縞(LR, RL)ヨコ	ミダキ	編物・外ニス	
342	第55号土坑・8, 11層	高鉢・口縁部	L縞上	ミダキ		
343	第55号土坑・12層相当層?	高鉢・胴部	単縞縞1A(白, L)ナナ	ただけ	編物・吹きこぼれ	
344	第55号土坑・1~40層, 7~8, 10層	高鉢(片/胴部)	筋縞1種(LR, RL)ヨコ~底面ミダキ	ミダキ	外面ニ塗物	p.205

第135図 縄文土器(33)



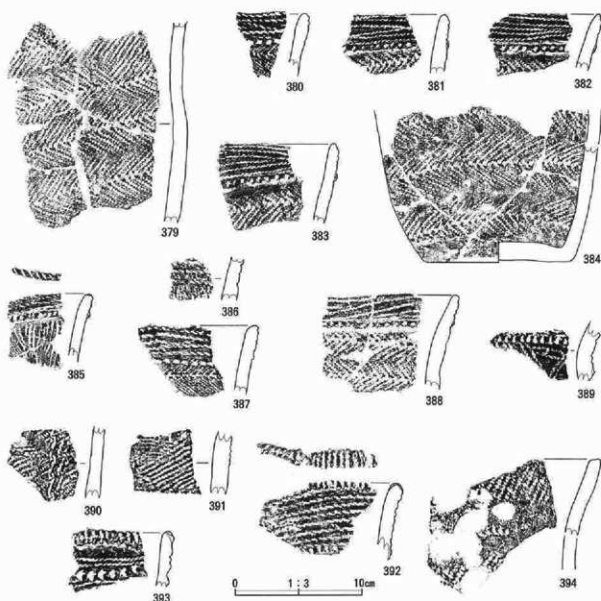
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・解体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
353	第56号土坑・13層	深鉢・口縁部	口: L線3/面: 平直竹管状刻文・L・L線?ヨコ/割: 結縷圖(L, L)ヨコ	ミダナ字	粘土織成・外周	
354	第57号土坑・4層当層	深鉢・口縁部	口割: 縷目/口: L・L・L線部(L)ナヨコ	縷目	外面スス付着	
355	第57号土坑・5層	高杯・胴部	胴: 貝殻状刻文・平直・縷目	縷目	縷目	
356	第57号土坑・6層当層	口縁部	L・Lヨコ * 割: L・L・L線部・356, 358と同一個体	縷目	外周スス・内面ミ	
357	第57号土坑・平直時	深鉢・口縁部	口割: 縷目ナデ/口: 結縷(L)ヨコ	ナデ	粘土織成混入	
358	第57号土坑・平直時	深鉢・胴部	* 356, 359と同一個体			
359	第57号土坑・平直時	深鉢・口縁部	* 356, 358と同一個体			
360	第57号土坑・平直時	深鉢・胴部	L・Lヨコ			
361	第58号土坑・M1土層(3層上部)	深鉢(口縁部)	口割: 口: L線3/面: 縷目・縷目・縷目・縷目/割: 縷目縷目(L, L)ナデ	ミダナ字	縷目・外周スス・縷目	
362	第58号土坑	深鉢・口縁部	口: L・L・L線部/割: L・Lヨコ	ナデ	粘土織成混入	
363	第58号土坑	深鉢・口縁部	口: L・L・L線部/割: 縷目・縷目・縷目・縷目/割: L・Lヨコ	ナデ	粘土織成・外周スス	
364	第58号土坑	深鉢・口縁部	口: L・L・L線部/割: 縷目・縷目・縷目・縷目/割: 結縷ヨコ	ナデ	外面スス付着	
365	第58号土坑	深鉢・胴部	縷目縷目(L)ナデ	ナデ	粘土織成・外周スス	

第137図 縄文土器(35)



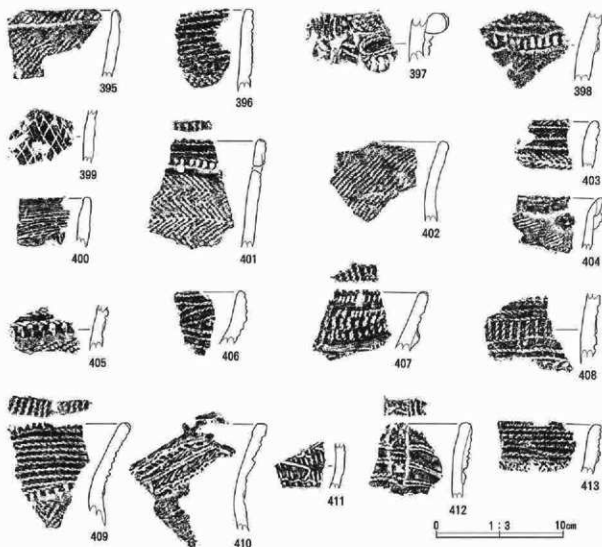
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・形状など)	内面(調整など)	備考	本文記載
366	第58号土坑・No.1土層(3層上層)	深鉢・13線部	口周:L・R・U:1段筋瓦/筋;縁部:横(直, 横)・ヨコ/筋文部P・U-筋	ミゴキ	個:敷地帯状	p.205
367	第58号・1~4層/第20, 63号土坑	割箸(1/4周部)	単軸筋(A, 付, 1) ナデ	ミゴキナ	粘土層堆積人	p.205
368	第58号土坑 平蓋部	深鉢・13線部	口:降帯状・R・筋付/筋;縁:細く深い納突内	ミゴキ	内面筋溝	
369	第59号土坑・No.1土層(2層上層)	深鉢(1/4周部)	口:L・筋付/筋;L・ナデ	ナデ	縁部・外面筋溝	
370	第59号土坑・No.1土層(2層上層) ②a	深鉢・縁部	胴下部:L・ナ・ナ・ナ/筋部~縁部;ナデ	ナデ	粘土層堆積人	
371	第59号土坑・9線	底面(1~1周)	底面~底面;ミゴキナ	ナデ	粘土層堆積人	
372	第59号土坑・9線	深鉢(1/4周部)	口:筋付帯状・L・筋部・筋;筋部(筋部, L・L, 筋)・筋	ミゴキ	縁部・外面筋溝	
373	第60号土坑・5線	底~底面(ナデ)	底~底面(ナデ)	ナデ	縁部・内面筋溝	
374	第61号土坑・1線	深鉢・13線部	単軸筋(B) ナデ	厚托	内外面厚托	
375	第61号土坑・3~4層当層	深鉢・13線部	斜線文? (原体不明)	ナデ?	内外面厚托	
376	第61号土坑・4層	深鉢・13線部	L・筋部	ナデ?	粘土層堆積人	
377	第62号土坑・3層	深鉢	L・R・ヨコ?~平軸筋部?ナデ?	ナデ	粘土層堆積人	
378	第63号土坑・2層相当層	深鉢・13線部	口:L・筋部/筋;中筋竹管状付家、その下R・筋付/筋;R・ヨコ?	ナデナ	口筋部付・内筋	

第138図 縄文土器(36)



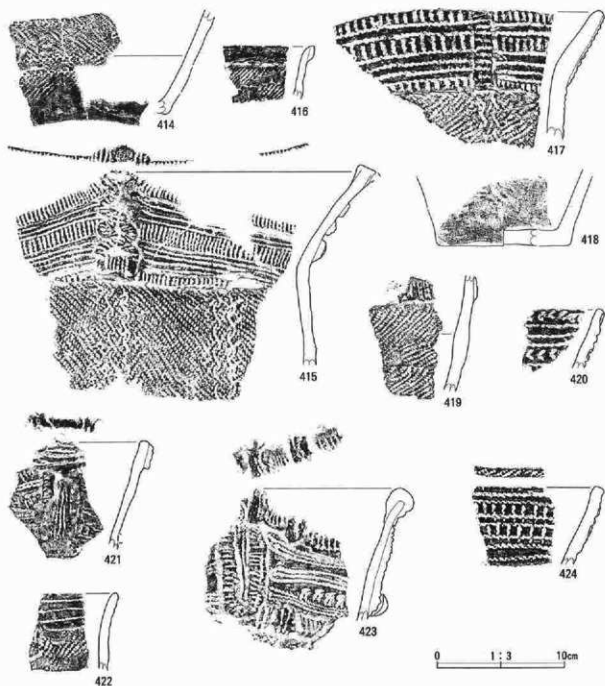
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・肌体など)	内面(調帯など)	備考	本文記載
379	第63号土坑・層位(3/4)、半戦時(1/4)	漆鉢・胴部	結束1種(見取+附加筋?、RL+附加筋?) ※コ逆付交互に		編織・見スス、厚尾	
380	第63号土坑・8層	漆鉢・口縁部	口:L筋帯化/肌:横・斜交/斜:結束1種 ※コ(厚尾して不明)		ナデ	内外厚尾
381	第63号土坑・8層	漆鉢・口縁部	口:L筋帯化/肌:横の縁帯上刺突/斜:結束1種(RL、LR) ※コ		ナデ	ナデ・吹きこぼれ p.205
382	第63号土坑・8層	漆鉢・口縁部	厚縁・口縁部		ナデ	381、382と同一体
383	第63号土坑・8層	漆鉢・口縁部	厚縁・口縁部		ナデ	381、382と同一体
384	第63号土坑・L・8層(平肌、平織時)	高足(胴の中一節)	結束1種(見取筋-LRにLR、LRにL?) ※コ一筋〜底面L1筋サ	L1筋サ	外縁・2次肉皮で赤い	p.205
385	第63号土坑・9~11層(相当層)	漆鉢・口縁部	口:横・斜交/口:見取筋/肌:見取筋上字調帯/斜:厚縁筋(A)サ	L1筋サ	内外厚尾	
386	第63号土坑・9~11層(相当層)	漆鉢・口縁部	口:L筋帯化/斜:結束1種 ※コ?		ナデ	外縁スス、中々厚尾
387	第63号土坑・11層	漆鉢・口縁部	口:L筋帯化/肌:横6分の刺突/斜:結束1種(見取、見取+附加筋) ※コ		ナデ	見スス・内外厚尾
388	第63号土坑・半戦時	漆鉢・口縁部	口:L筋帯化/肌:横の縁帯上刺突/斜:結束1種(RL、LR) ※コ		ナデ	編・381-382に干
389	第64号土坑・2層	漆鉢・口縁部	L7筋付		ナデ?	外前帯・内スス
390	第64号土坑・2層	漆鉢・胴部	RL+結束見サ		ナデ	筋上縁経割入
391	第64号土坑・2層(相当層?)	漆鉢・胴部	厚縁筋(口) (厚縁筋) →LR ※コ		ナデ	筋上縁経割入
392	第64号土坑・3層(相当層?)	漆鉢・口縁部	口:横・斜交 L1筋付		ナデ	吹きこぼれ
393	第64号土坑・3層(相当層?)	漆鉢・口縁部	見取付(口縁筋上筋も、厚縁筋付筋も)		ナデ	筋上縁筋サ・見スス
394	第64号土坑・3層(相当層?)	漆鉢・口縁部	大波状口縁・LR ※コ		L1筋サ	編織・見スス、厚尾

第139図 織文土器(37)



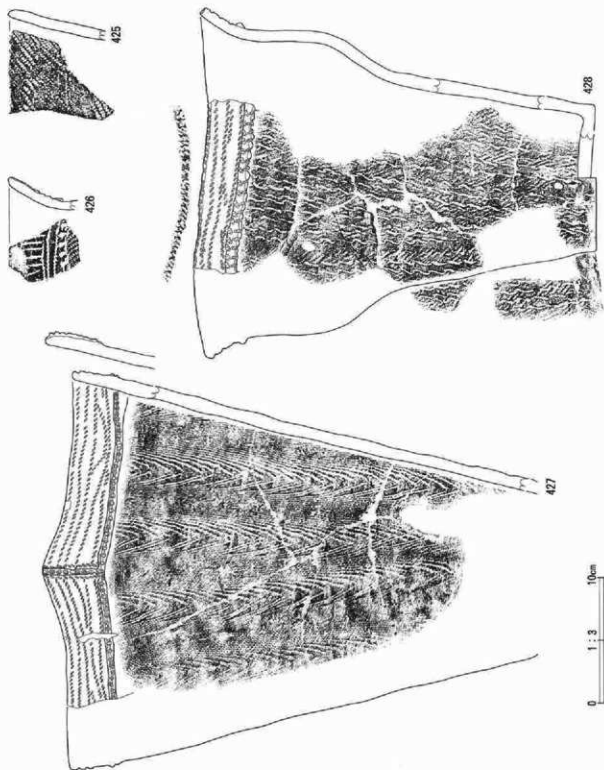
№	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装束、地文・原料など)	内面 (跡痕など)	備考	本文 記載
395	第64号土坑・3層相当層下	鉢?・口縁部	折り返し口縁・L状ワコ	ナデ	内外スス付着	
396	第64号土坑・4-5層上部	厚鉢・口縁部	口唇:斜線文? (厚鉢) / 口下:シ字組文/筋:1状ワコ	ナデ	内外面交互に凹痕	
397	第64号土坑・4-5層上部	厚鉢・口縁部	大口:高・横帯・直線文 (縁部上・下) 直線組文	ナデ? 筋	内外スス付着	
398	第64号土坑・4-5層上部	厚鉢・口縁部	厚鉢口縁にて不明だが、口縁:シ字組文/筋:直線文?筋/組:不明	厚鉢	内外面交互に凹痕	
399	第64号土坑・6層	厚鉢・口縁部	厚鉢口縁部 (R) ナデ	ナデ	縁部・内面スス付着	
400	第64号土坑・6層	厚鉢・口縁部	佛歯状工具による沈痕	ナデ	内外面交互に凹痕	
401	第64号土坑・6層相当層下	厚鉢・口縁部	厚鉢口縁部/口下:1状ワコ/筋:直線文 (R, L) ワコ	ナデ	外スス・縁部孔	
402	第64号土坑・7層相当層下	厚鉢・口縁部	口唇:低いナデ/口下:直線文	ナデ	外面スス付着	
403	第64号土坑・9層相当層下	厚鉢・口縁部	口唇:L状ワコ/口下:厚鉢組文 (L?) 筋/筋:直線組文 (R, L) ワコ	ナデ	筋・縁部凹痕	
404	第64号土坑・9層相当層下	厚鉢・口縁部	折り返し口縁・ホタン状筋付文・L状ワコ	ナデ	内面輪郭凹痕	
405	第64号土坑・10層	厚鉢・口縁部	口下:直線文/筋:直線文	ナデ	内面輪郭凹痕	
406	第64号土坑・10層	厚鉢・口縁部	直線文	ナデ	外面全面スス付着	
407	第64号土坑・6-15層相当層	厚鉢・口縁部	L? 厚鉢 (口唇、高の縁部上、縁部にかけて)・厚鉢組文 (R) 厚鉢	厚鉢	内外厚鉢	
408	第64号土坑	厚鉢・口縁部	L状ワコ	ナデ	筋・縁部凹痕	
409	第64号土坑	厚鉢・口縁部	口唇:口下:L状ワコ/筋:直線文 (L) 厚鉢組文/筋:L状ワコ	ナデ	筋・縁部凹痕	
410	第64号土坑	厚鉢・口縁部	突縁/口下:L状ワコ→平縁竹管状工具による沈痕、文様	ナデ	内外スス・外表面	
411	第64号土坑	厚鉢・口縁部	太めで浅い沈痕	ナデ	外スス、内表面	
412	第64号土坑	厚鉢・口縁部	口唇→口唇石状、高の縁部上? / L状ワコ / 口唇縁部より上方:直線文	ナデ	筋・縁部凹痕	
413	第64号土坑	厚鉢・口縁部	口下:厚鉢組文 (L?) 上:直線文交互に/筋:L状ワコ	ナデ	縁部・内外面交互に厚鉢	

第140図 縄文土器 (38)



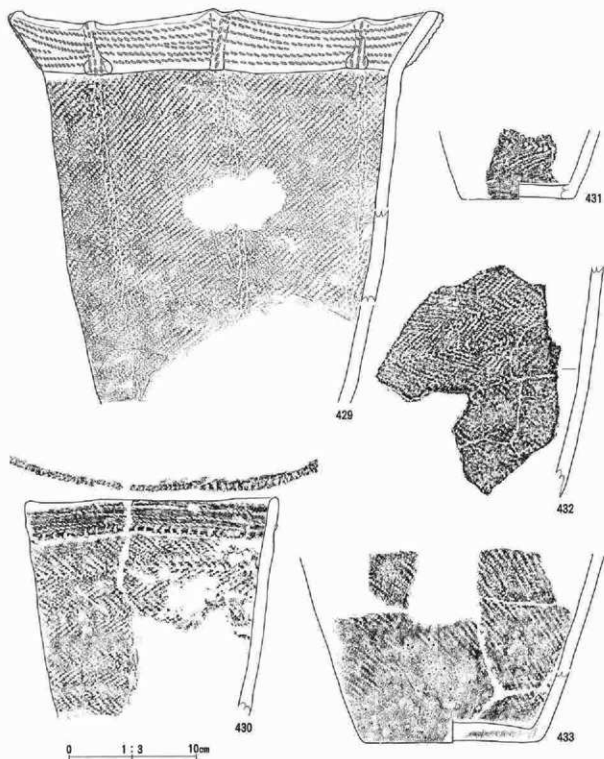
№	出土地点・層位	器種・形状	外面(文様・裝飾、地文・原形など)	内面(溝線など)	備考	本文記載
414	第66号土坑・9層と11層面土(溝合)	底形(1/5)円筒	暗線1線(RL、LR) ココ→底面→底面ナダ(完形)	ナダ丁字	縦線・11層目のみ	
415	第67号土坑 3a1土器(9層上面)	底形(1/2)円筒	口:LR線(隆帯上も・隆帯17層まで)・隆帯2線/肩:LRナダコ→暗線ナダ	ナダ	内縁ははじ	
416	第67号土坑・6層	深鉢・1線形	折り返し口縁・LRコ(※下の割れ口、粘土結合面からの割線)	ナダ隆	吹き付けた・内スス	
417	第67号土坑・6層	深鉢・1線形	口:LR隆帯(隆帯上も) / 肩:LRコ→暗線ナダ	ナダ	縦線・内ナダ工具痕	
418	第68号土坑・3層(2/3)、6層(1/3)	底(2/3)底	肩:LRナメ/底→底面:ナダ	ナダ	粘土結合面痕	
419	第66号土坑・5層	深鉢・2線形	肩:高い隆帯上ナダ隆帯 / 肩:LRココ、ナナメ	ナダ	粘土結合・外スス	
420	第68号土坑・6層	深鉢・1線形	LR隆帯(高断面に近いもの)	ナダ	粘土結合面痕	
421	第68号土坑・6層	深鉢・1線形	高断面(隆帯上も)・隆帯約2線	ナダ丁字	外スス付き	
422	第68号土坑・6層	深鉢・1線形	口:隆帯 / 肩:LRココ、ナナメ(※下の割れ口、粘土結合面からの割線)	ナダ	粘土結合・外スス	
423	第68号土坑・7層	深鉢・1線形	LR隆帯(隆帯上も・粘土文上は口縁部まで・均形形も)	ナダ隆	粘土結合・外スス	
424	第68号土坑・7層	深鉢・1線形	口縁:LRココ / 口:LR平隆帯	ナダ	縦線・外スス、内縁痕	

第141図 縄文土器(39)



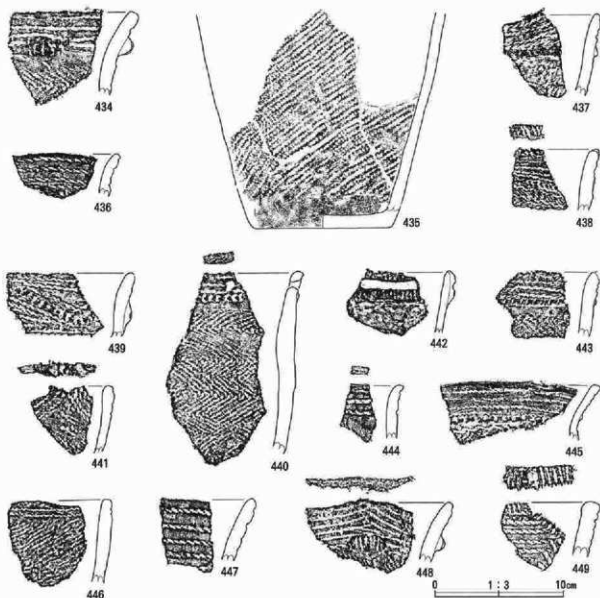
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原料など)	内面(調査など)	備考	本文記載
425	第68号土坑・7層	深鉢・口縁部	LR#コ	土着本		
426	第68号土坑 平庭時	深鉢・口縁部	口:長横江ノ須;LR?細江ノ須;R:ヨコ	厚肌	外面は土付着	
427	第69号土坑 No.1土層 (11層?) 第68	深鉢 (1/2部以下)	外口/口-沿:LR深?・細横?・長帯土層の粗瓦/須;準輪脚A (L) ナテ	ナテ	破損・外土付着	p.205
428	第69号土坑 No.1土層 (11層?) 第68	深鉢 (2部以下)	11層~口:土層H/須;長の横帯土層H?ナテ L:粗横ヨコノ底面 ナテ	ナテ	破損・外土付着, A.A	p.205

第142図 縄文土器(40)



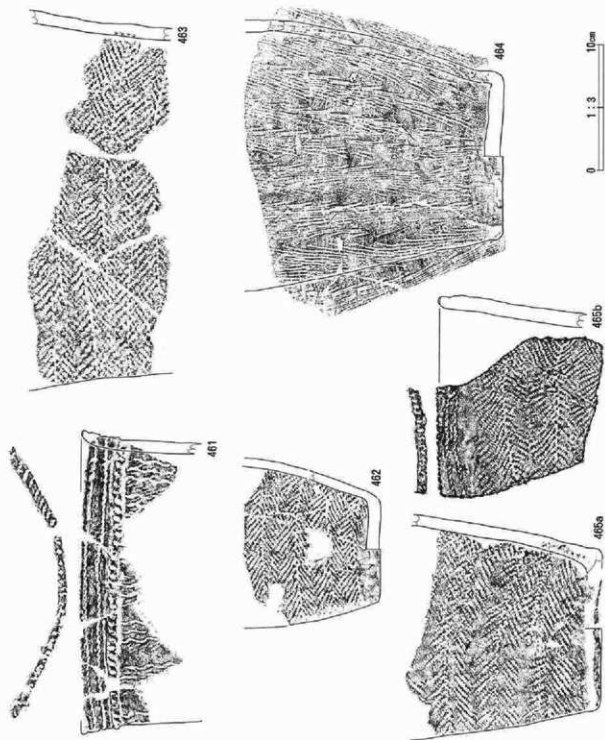
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾・地文・附帯など)	内面 (附帯など)	備考	本文 記載
429	第69号土坑 No.3土層 (2)層(土面) 柱外	深鉢 (1/2部用)	口縁部は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	p.255
430	第69号土坑 No.3土層 (2)層(土面) 柱外	深鉢 (1/2部用)	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	p.255
431	第69号土坑 No.4土層 (2)層	深鉢 (1部)	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	p.255
432	第69号土坑 No.4土層 (2)層	深鉢・附帯	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	p.255
433	第69号土坑 No.4土層 (2)層	深鉢 (1/2部用)	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文・口縁部以下は縄文	p.255

第143図 縄文土器(41)



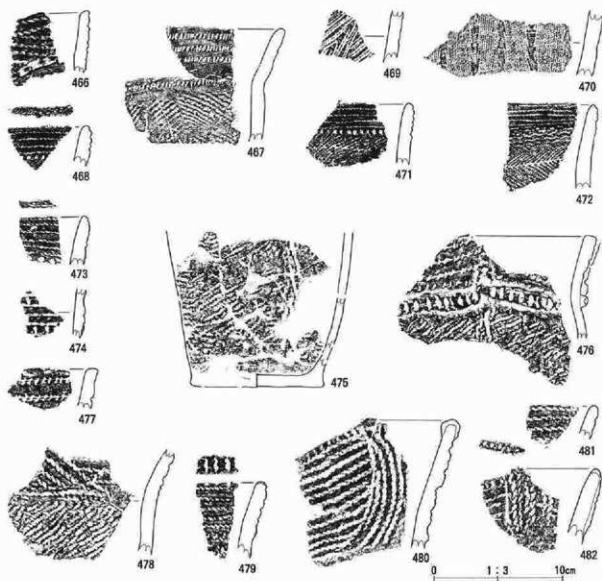
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・裝飾、地文・印跡など）	内面（溝跡など）	備考	本文記載
434	第69号土坑 No.2土層の底	深鉢・口縁部	口：L状側圧／割：LRタテナ	ミガキヤ	胎土織成混入	
435	第69号土坑 No.2土層の底、計敷当層	底面（底のみ一部）	L状コウー底面～底面ミガキヤ	ナデ	胎土織成混入	p.205
436	第69号土坑 No.2土層の底	深鉢・口縁部	L状側圧	ミガキヤ	胎土織成混入	
437	第69号土坑 No.2土層の底	深鉢・口縁部	口：L状側圧／割：横帯／割：RL, Mコウ	ナデ	内装スス	
438	第69号土坑・25層相当層	深鉢・口縁部	口縁～肩：L状側圧／割：横帯に斜行筋にL状側圧、斜行筋先肩・肩・縁部ミガキヤ	ミガキヤ	胎土織成混入	
439	第69号土坑・25層相当層	深鉢・口縁部	L状側圧	ミガキヤ	胎土織成混入	
440	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	口縁～肩／割：L状側圧／割：L状側圧（肩～縁部）／割：L状側圧（底）ミガキヤ	ミガキヤ	胎土織成混入	p.205
441	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	口縁～肩／割：L状側圧	ナデ	胎土織成混入	
442	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	縁部上に斜行筋、外周厚化、内周ひびく不揃	ナデヤ	胎土織成混入	
443	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	口：L状側圧／割：横帯に斜行筋に斜行筋、斜行筋先肩・肩・縁部ミガキヤ	ナデ	胎土織成混入	
444	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	口割：横いナデ／口：L状側圧／割：斜開文？	ナデ	内装スス	
445	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	口：L状側圧／割：横い帯等に平装竹筋にL状側圧、斜行筋先肩・肩・縁部ミガキヤ	ミガキヤ	胎土織成混入	
446	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	口：L状側圧／割：L, Mコウ	厚化	胎土織成混入	
447	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	L状側圧	ミガキヤ	胎土織成混入	
448	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	口：L状側圧／割：L, Mコウ	ナデ	胎土織成混入	
449	第69号土坑 平鉢時	深鉢・口縁部	口縁～口縁：L状側圧	ナデ	胎土織成混入	

第144図 縄文土器(42)



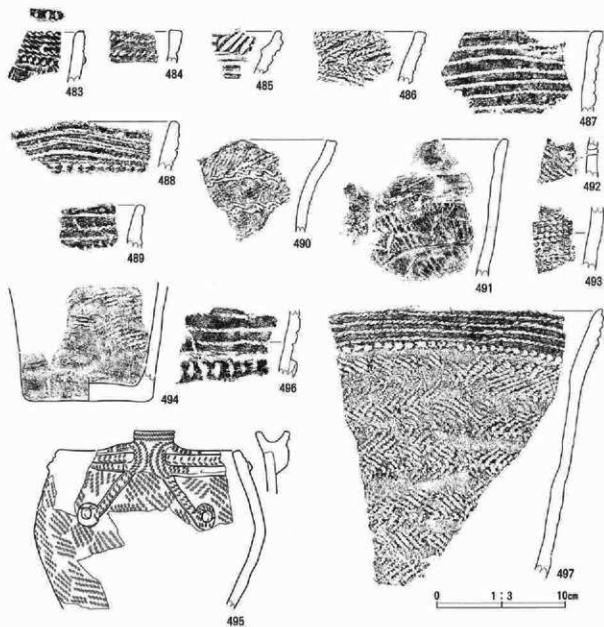
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾、地文・原形など)	内面 (磨擦など)	備考	本文記載
461	第9号土坑 平敷時	甗鉢 (1/4程)	口縁~口: LR縞目/周: 縦縞帯1(ツ字縞目)/底, ココヤア一筋縞目ナク	ナク	甗鉢・内面一部磨耗	
462	第9号土坑 平敷時	甗鉢 (底のみ一筋)	結束1縞 (LR, LR) ココ~底迄~底面ナク	ナク	粘土織成器入	
463	第9号土坑 平敷時	甗鉢 (1/4程)	結束1縞 (LR, LR) ココ	ナク	甗鉢・内面一部磨耗	
464	第9号土坑 平敷時	甗鉢 (底のみ一筋)	周: 平縞縞目 (L) ナク/口縁~底面: ナク (*外底, 耳, 次縞目, 底スサ付帯)	1カサヤ	内面全面スサ付帯	
465 a	第9号土坑 平敷時	甗鉢 (1/5程程)	結束1縞 (LR, LR) ココ (*下の頸口, 粘土混合面からの剥離)	ナク	粘土織成器入	
465 b	第9号土坑 平敷時	甗鉢・口縁部	口縁: LR平縞目/口 裏文地: LR縞目/耳: ココヤア一筋縞目 (LR, LR) ココ	1カサ	粘土織成器入	

第146図 縄文土器(44)



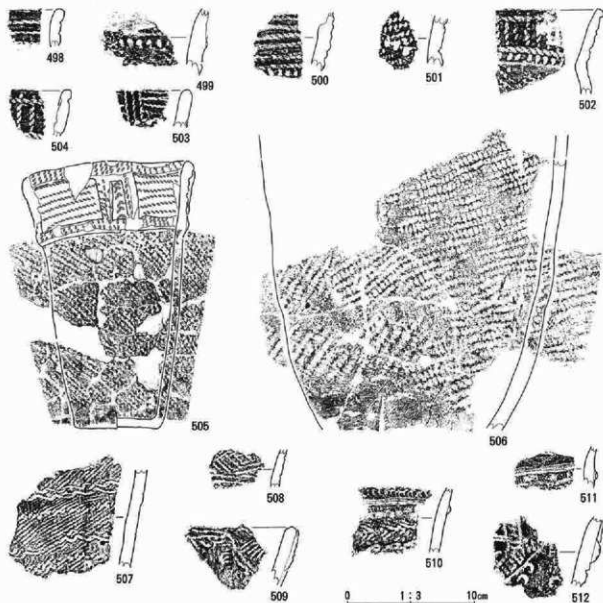
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(調査など)	備考	本文記載
466	第70号土坑 平蔵時	深鉢・口縁部	白：L状縦圧／菊：羊歯背管状土具による押し引き刺突	シガキ	胎土繊維混入	
467	第70号土坑 平蔵時	深鉢・口縁部	白：ナデ→串刺筋(短) 斜圧／菊：L状ヨコ、タテ	ナデ	胎土繊維混入	
468	第71号土坑・7期当層	深鉢・口縁部			胎土繊維・印と重合	
469	第71号土坑・10、11期	深鉢・胴部	串刺筋1A (R)、LR) タテ	シガキ等	胎土繊維混入	
470	第71号土坑・10～11期	深鉢・胴部	串刺筋1A (L) タテ		胎土繊維混入	
471	第71号土坑 平蔵時	深鉢・口縁部	白：L状／菊：縦圧、浅め斜圧／菊：L状ヨコ→短筋ヨコ等(不明)	シガキ	胎土繊維混入	
472	第71号土坑 平蔵時	深鉢・口縁部	白：L状／菊：縦圧と吹／菊：浅く、串刺筋ヨコ、L状ヨコ	ナデ丁窯	繊維・印と重合	
473	第71号土坑 平蔵時	深鉢・口縁部	白：R、ヨコ／白：L状／菊：縦からの強い刺突	菊	内外層同	
474	第72号土坑・2期	深鉢・口縁部	LR縦圧	ナデ	胎土繊維混入	
475	第72号土坑・編上層(第7号土坑上部)	底平 境のみ一見	菊一底：R、タテ、ナチメ→底部ナチメ／底面：シガキ	ナデ		
476	第72号土坑・1期	深鉢・口縁部	白：高厚帯L状Y斜圧・串刺筋(短) 縦／菊：L状ヨコ→短筋ヨコ等	ナデ丁窯	内外スリ付	
477	第72号土坑・2期	深鉢・口縁部	串刺筋1 (R) 縦圧	深鉢		
478	第72号土坑・4期	深鉢・胴部	白：L状縦圧／菊：L状ヨコ	シガキ		
479	第72号土坑・7期	深鉢・口縁部	白菊→菊：L状縦圧(菊の強度等上も)／菊：R状ヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
480	第72号土坑・11期	深鉢・口縁部	白菊 押し筋土器による突起・L状縦圧	ナデ	胎土繊維混入	
481	第72号土坑・15期	深鉢・口縁部	LR縦圧	ナデ	縁部・内外スリ付	
482	第72号土坑 平蔵時	深鉢・口縁部	L状縦圧(縁部上も、口内にも同じ型体?)	ナデ	縁部・内外スリ付	

第147図 縄文土器(45)



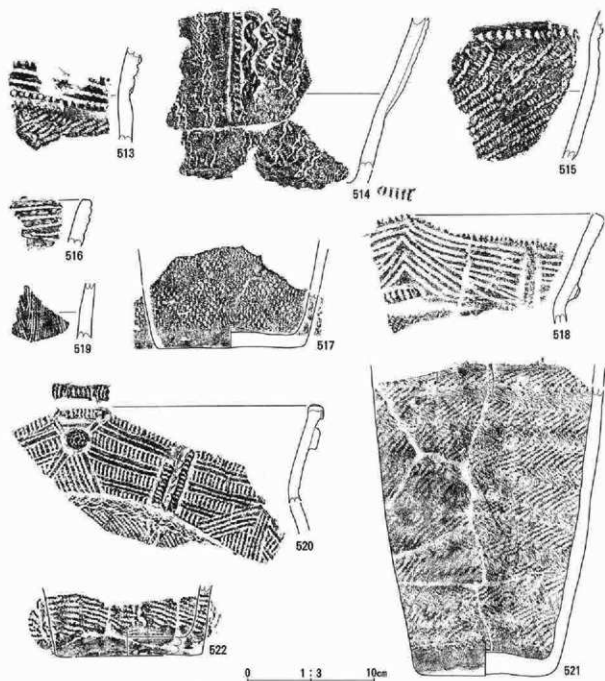
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・肌理など)	内面(調整など)	備考	本文記載
483	第73号土坑 平庭跡	深鉢・口縁部	口縁一周にL状細圧ノ線；高約隆部上刺突/串輪筋1A?ナテ	ナテ丁筆		
484	第73号土坑 平庭跡	深鉢・口縁部	串輪筋1(B) 側圧	ミダキ	外面スス付着	
485	第74号土坑	深鉢・口縁部	太く深い収縮	ナテ	外面スス付着	
486	第74号土坑	深鉢・口縁部	L, R側圧	ナテ	粘土織物多い	
487	第75号土坑	深鉢・口縁部	口縁：強いナテ/口：R側圧 (*口縁部、粘土段合面からの剥離)	ナテ	穴、織物・スス	
488	第75号土坑	深鉢・口縁部	段状口縁/口：LとLR側圧/器：腰からの刺突列	ナテ	外面厚片	
489	第75号土坑	深鉢・口縁部	丸型圧	ナテ	織物・外スス	
490	第75号土坑	深鉢・口縁部	突き出た厚片・LとR側筋圧?ヨコ	ナテ	織物・外スス	
491	第76号土坑	(不明)	串輪筋1Aナテ?? (厚片のどく、不明)	厚底	外スス・厚片のどく	
492	第77号土坑 (器内底L/器底層位)	深鉢・口縁部	R, Lヨコ? (厚片)	ナテ	補修孔 (内面から)	
493	第78号土坑	深鉢・胴部	厚いナテ/器：高約隆部上刺突/串輪筋1A?ナテ	ナテ	粘土織物・厚いナテ	
494	第79号土坑	底面 (L側以下)	L, Rヨコ?→底面ナテ/底面：ミダキ	ナテ	粘土織物・厚いナテ	
495	第79号土坑	底面 (L側以下)	凸凹、丸型圧/器：厚片ヨコ、丸型輪ナテ、ナテ (突起同列等筋)	ミダキ	突起に共通してない	
496	第79号土坑	深鉢・口縁部	口：LR側圧/器：高い隆部にLR側圧	ナテ	内外全面スス付着	
497	第80号土坑・堀1土層 C層(上面)	深鉢(口縁部)	口：R側圧/器：平庭跡層位器具に2回刺突/器：L側筋 (L, R) ヨコ	たぐれ	織物・外全面スス	

第148図 縄文土器(46)



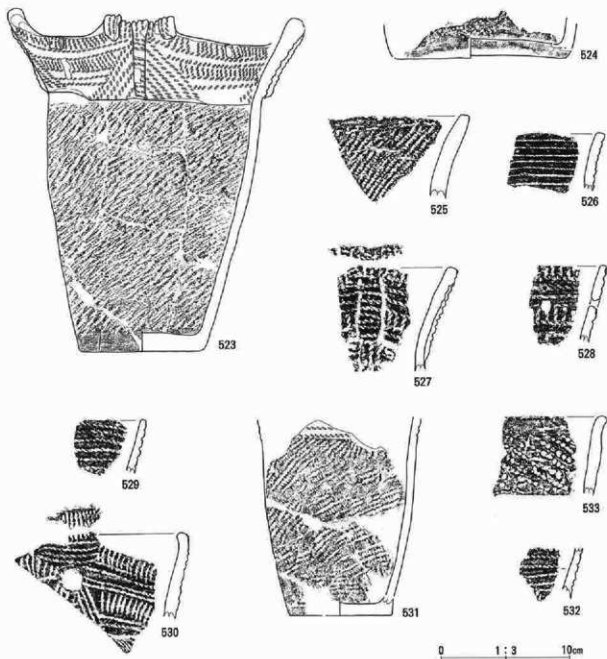
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・器体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
498	第80号土坑・2層	深鉢・口縁部	上段押圧	ナデ		
499	第80号土坑・4層相当層	深鉢・胴部	(●)摩耗ひどく本用だが、表面は研安す列・下段口縁上段合面から剥離	摩耗	編織・7層と同一号	
500	第80号土坑・4層相当層	深鉢・口縁部	口：しず押圧ノ列：割裂列(●)摩耗ひどい	摩耗	内面摩耗・7層と同一号	
501	第80号土坑・平敷時	深鉢・口縁部	口：段押圧(尺)：割裂列ノ列：深い割裂ノ列：LRヨコ	ナデ	内面全磨ス・外底面	
502	第80号土坑・平敷時	深鉢・口縁部	口：L段押圧ノ列：段押圧	摩耗	筋・編織面人	
503	第80号土坑・平敷時	深鉢・口縁部	上段押圧・竹葉状工具による深い割裂列	ミダキヤ		
504	第80号土坑・平敷時	深鉢・口縁部	上段押圧	ナデ	外スス・内面剥落	
505	第81号土坑・No.1土器(7層上段)・1層	鉢(胴一帯)	口：L段押圧(縁部上も)ノ割：段押圧ノ列：ナデ/縁部：ミダキヤ	たぐれ	筋以上は、下段時で	p.203
506	第81号土坑・No.1土器(7層上段)・4層	深鉢(L/胴部)	LRヨコ、ナメテ底面ナデ(筋・他に、1層下段から3層上段/5面)	ナデ	筋・筋以上は、下段時	
507	第81号土坑・2層	深鉢・胴部	LRヨコ・段押圧(尺)ヨコ	ナデ	筋・編織・外スス	
508	第81号土坑・5層	深鉢・口縁部	段押圧	ナデ	内面全磨ス	
509	第81号土坑・北界出土	深鉢・口縁部	上段押圧	ナデ	外スス	
510	第82号土坑・11層相当層	深鉢・胴部	口：段、L(高部も)：筋ノ列：筋部は上段押圧ノ割：LR・段押圧(尺)ヨコ	ナデ	内面全磨ス・中底面	
511	第82号土坑・段押圧相当層	深鉢・胴部	口：段、L(高部)ノ割：高部段押圧上段押圧(器体不明)	ナデ	外スス・中底面	
512	第82号土坑・平敷時	深鉢・口縁部	上段押圧(高い縁部上も・高部段押圧上も)	ナデ	ナデ下層 外スス・高部段押	

第149図 縄文土器(47)



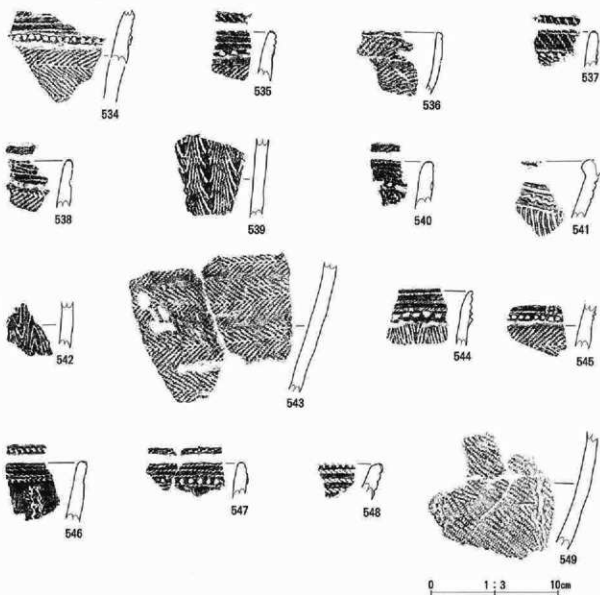
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(調査など)	備考	本文記号
513	第52号土坑 平藏時	深鉢・煎釜	口: L縞Eノ飾ニ深い割突切ノ製: L直ヨコ	ナデ	内外面共に	
514	第52号土坑 平藏時	鉢 (1/2割以下)	高の飾帯 以上無文・飾帯下L直ニ短冊状ナデ (* 悉くでいて採出されない)	ナデ	外縁部割テ・内外面に	
515	第52号土坑 平藏時	深鉢・煎釜	胴: C字割斜目ノ製: L直ヨコ	ミダシ	外上、内下スス	p.205
516	第52号土坑 平藏時	深鉢・口縁部	L直横任	ナデ		
517	第52号土坑 平藏時	底面(一箇ない)	LL直ヨコ→底面→底面ミダシ	ナデ	出土層部砂混入	
518	第52号土坑 平藏時	深鉢・口縁部	口沿: 割テ? (厚割) / 口: 華輪割斜目?・短冊状上割テ?ノ製: L直ヨコ?	ミダシ	縁部・内面スス、厚割	
519	第54号土坑・1層	深鉢・煎釜	華輪割斜目 (R, L) ナデ	ミダシ	出土層部砂混入	
520	第55号土坑・4層 (出土層?ノ上土層)	口縁部 (1/2割以下)	口: L縞E? (文縁部)ノ飾ニL直ヨコノ製: 短冊状ナデ・華輪上もノ製: 短冊状ナデ・厚割斜目ナデ	ナデノ華	出土層部・外スス	p.205
521	第57号土坑 1層 (掘削部) (1層B-層 2B)	煎釜(一箇)	縁部L縞 (L直, R) コー割ナデ、底→底面ミダシ	ナデ?	外縁スス、内面ナシ	p.205
522	第58号土坑 掘上土層 (6層)	深鉢・煎釜	胴: L直ナデ→短冊状ナデノ底面: L直ナ	ナデ		

第150図 縄文土器(48)



No.	出土地点・層位	器種・形状	外面(文様・装飾、地文・彫体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
523	第85号土坑 No.2土層 (6層)	深鉢(口一部欠)	横筋/口・底に縦筋、縦筋は(僅く)上も・実用部(口縁部)無し/肩に縦筋	ナデ	縦筋・吹きこぼれ	p.205
524	第85号土坑 No.5土層 (9層)	浅鉢(一連)	1段タテ→底→横筋1方本	1方本ナ	外面ヌス付管	
525	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	1段タテ	1方本	外ヌス、やや厚縁	
526	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	1段タテ	ナデ	横筋・内面焦げ	
527	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	縦筋	ナデ	横筋・外ヌス	
528	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	縦筋	ナデ	横筋・外ヌス	
529	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	縦筋	ナデ	吹きこぼれ・横筋孔	
530	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	縦筋	ナデ	拍子編織・外ヌス	
531	第85号土坑・8層(上面下、草葺時)	深鉢・口縁部	口・1段横筋(実用部縁部)・拍子編織付文部(底本)/肩に縦筋	ナデ	横筋・拍子や厚縁	
532	第85号土坑・9層	深鉢・口縁部	口・1段横筋/肩に1段タテ→底に縦筋/1方本/横筋無し→口	ナデ	拍子編織・外ヌス	
533	第86号土坑・11層	深鉢・口縁部	1段タテ	厚縁	外面ヌス付管	

第151図 縄文土器(49)



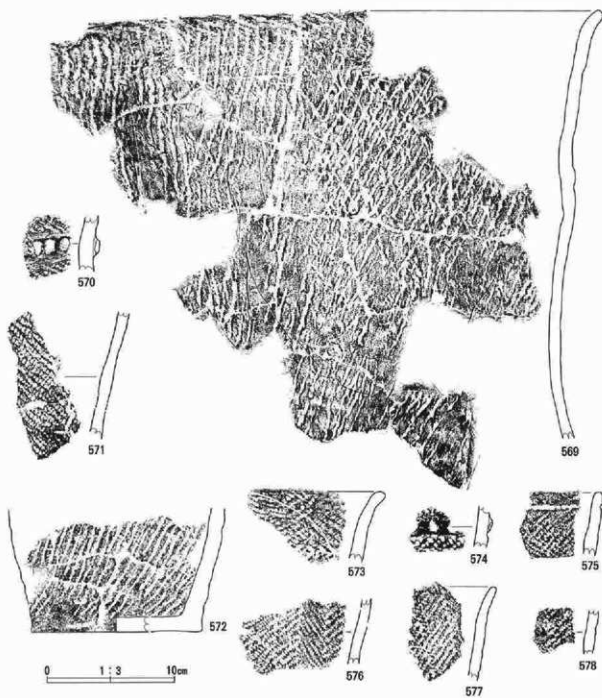
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原料など)	内面(装飾など)	備考	本文記載
534	第86号土坑・11層	深鉢・頸部	口：斜削文/頸：巻帯帯上平直竹管状刺突/頸：斜削文(L.R. 縦) ㊦	ナデ	粘土織物混入	
535	第86号土坑・12層	深鉢・口縁部	口縁：口：L斜削文/頸：斜削文/頸：L長リコ	ナデ	吹きこぼれ	
536	第86号土坑・16層	小深鉢(L/5層)	L.R.㊦→L斜削文/頸(帯4層) (*5. 内口縁オロンク、内側面)	ナデ	粘土織物混入	
537	第86号土坑・1層	深鉢・口縁部	口縁：口：L斜削文/頸：L斜削文→深い竹管状工具による刺突	ミガキヤ	粘土織物混入	
538	第86号土坑・2, 3層	深鉢・口縁部	口：L斜削文/頸：巻帯(巻帯剥落?) / 頸：L.R.㊦ (*口縁斜削文?)	ミガキヤ	織物・口縁穿孔	
539	第86号土坑・2, 3層	深鉢・胴部	単軸筋1A (H, L) ナデ	ナデ	粘土織物混入	
540	第86号土坑・平畝時	深鉢・口縁部	口縁：L.R.㊦(2層) (帯筋) / 口：L斜削文/頸：竹管状刺突/頸：斜削文㊦	ナデ光沢	織物・外金厚化	
541	第86号土坑・2層	深鉢・口縁部	細め深めの沈積	ナデ		
542	第86号土坑・2層	深鉢・胴部	単軸筋1A ナデ	ナデヤ	内外磨光 (94時に)	
543	第86号土坑・平畝時	深鉢・胴部	筋並1種 (L.R. 縦) ㊦→連続交行に	ナデ	織物・内外磨光切磨	
544	第86号土坑・平畝時	深鉢・口縁部	口：斜削文/頸：巻の巻帯上縁から深い斜削刺突/頸：単軸筋1A ナデ	ナデ	外ヌメ・内下ただけ	
545	第86号土坑・平畝時	深鉢・胴部	口：斜削文・縁部上縁から深い斜削刺突/頸：巻の巻帯上平直竹管状刺突	ナデヤ	裏：筋並(L.R. 縦) ㊦	
546	第86号土坑・平畝時	深鉢・口縁部	口縁：L.R.㊦(2層) / 口：L斜削文/頸：単軸筋(L) / 頸：L.R.㊦(2層)	ナデ	織物・外ヌメ	
547	第86号土坑・平畝時	深鉢・口縁部	口縁：L.R.㊦(2層) / 口：斜削文/頸：巻の巻帯上平直竹管状刺突/頸：筋並ナデヤ	ナデ		
548	第86号土坑・4層	深鉢・口縁部	L.R.斜削文	ナデ		
549	第86号土坑・4層	深鉢・胴部	L.R.→筋並筋ナデヤ	ナデ	織物・内下ヌメ	

第152図 縄文土器(50)



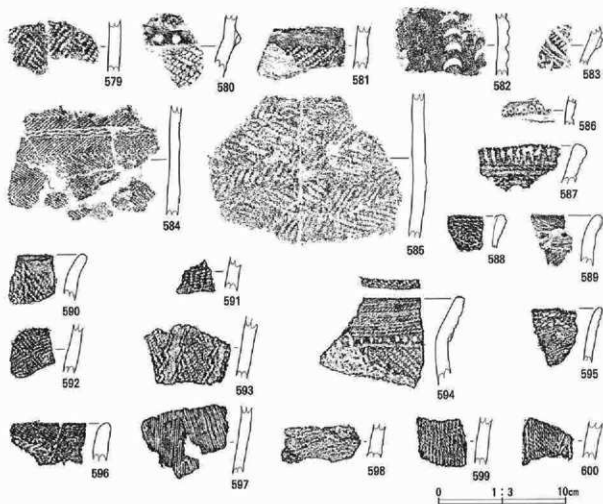
No.	出土地点・経緯	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・肌体など)	内面 (面割など)	備考	本文記載
563	第100号土坑 平成時	深鉢・口縁部	L直線状	ナデ	外面やや厚肌	
564	第101号土坑・3層	深鉢・胴部	単純網目A (R) マタテ (*同じ大きさの破片別にある)	ナデ	底面少・外エッジ、下底	
565	第101~102号土坑	深鉢・胴部	結束1種 (R、L) ココ	ナデ	縁部・外エッジ、内面エッジ	
566	第103号土坑・6層目遺跡	深鉢 (口縁以下)	型：横い線型上部分引き彫突型；L直線コ	ナデ	胎土、底面・外エッジ	p.206
567	第103号土坑・37層	深鉢・口縁部	単純網目A マタテマ〜結節状マタテ	ただれ	縁部・外面内面エッジ	
568	第103号土坑・38、39層 (同層下) 遺跡	深鉢 (口縁以下)	口縁部マタテ〜結節状型；型：底面〜結節状型；型：底面〜結節状型；型：底面〜結節状型	ナデ (縁)	縁部・外表面内面エッジ	p.206

第154図 縄文土器(52)



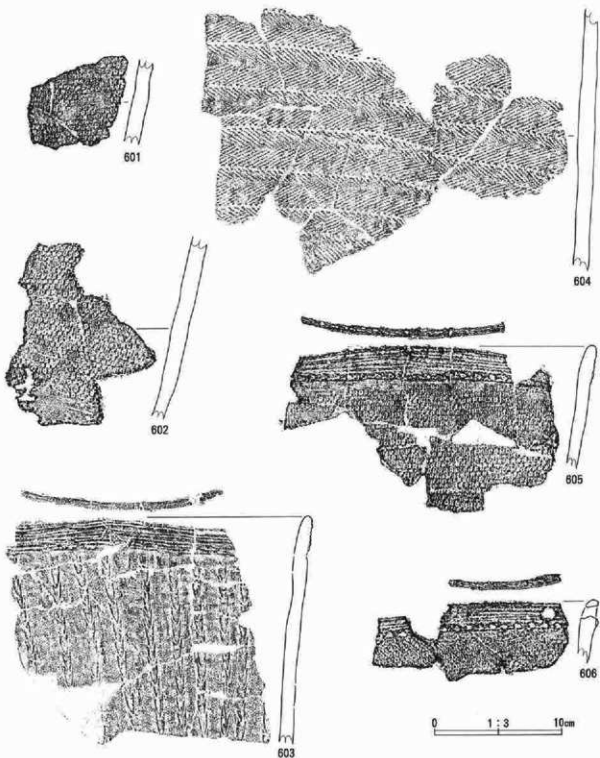
№	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・肌体など)	内面(溝底など)	備考	本文記載
569	第104号土坑・北・1-9(白濁土層)Ⅱa	深鉢	縄糸織文(土面にしを左巻きしたものをヨコに加配)?	滑面?	胎土硬多・外底ニテ	p.206
570	第104号土坑・30層	深鉢・胴部	縄糸織文(滑面)・内面斜直線、直、斜、縦及び斜・横線のナデ	ナデ	胎土硬質人	
571	第104号土坑・30層	深鉢・胴部	直、ヨコ・結節状タテ	ただれ	胎土硬質・外底ニテ	
572	第104号土坑・30層Ⅱa	深鉢(口縁部)	斜: 準輪紡(直) ナメ/ 底面~ 滑面: ナデ	ナデ	胎土硬質・内底ニテ厚紙	p.206
573	第104号土坑・32層	深鉢(口縁部)	LRヨコ-RLナメ?	ナデ	胎土硬質人	
574	第104号土坑・33層	深鉢・胴部	滑: 高の縁部に凸形状斜直/ 斜: LRヨコ	ナデ	胎土硬質人	
575	第104号土坑・34層	深鉢(口縁部)	口: L字断面/ 斜: LRヨコ-RLヨコ?	胎土硬多	吹きこぼれ・内底ニテ	
576	第104号土坑・内面硬質30層?	深鉢・胴部	標準1種 (直、LR) ナメ	ナメ?	胎土硬多・内底ニテ	
577	第104号土坑・内面硬質30層?	深鉢(口縁部)		ナメ?	575と同一器種	
578	第104号土坑・内面硬質30層?	深鉢・胴部	直、ナメ	ナメ?	575と同一器種?	

第155図 縄文土器(53)



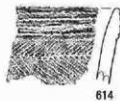
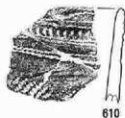
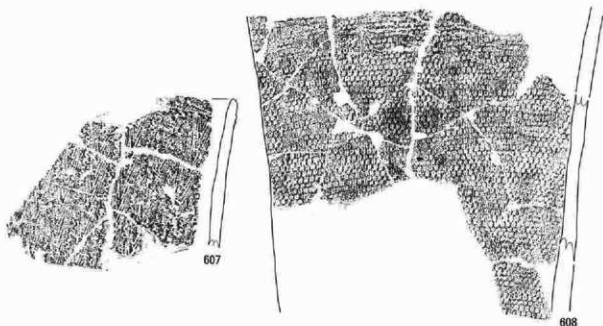
№	出土地点・層位	素材・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(装飾など)	備考	本文記載
579	第101号土坑・西側壁部30cm?	深鉢・胴部	L.R.タテ→R.L.タテ(筋車?種?)	なだれ	579と同一部位?	
580	第104号土坑・西側壁部	深鉢・胴部	口:L.R.ヨコ?/面:高い縁部上灰い滑正/胴:L.R.ヨコ?	ナデ	胎土織理粗大	
581	第1号船型土坑遺構	深鉢・胴部	胴:L.R.縦正・トナデ/胴:L.R.ヨコ(一部剥落)	ナデ	織理・内やや厚紙	
582	第2号船型土坑遺構・1層	深鉢・胴部	高細形押正(L.R.タテ)	ナデ	外面スス付否	
583	第3号船型土坑遺構・4層?	深鉢・胴部	高の縁部上し平正・縁部に沿って良細正・L.R.高細形押正	縁紙		
584	第3号船型土坑遺構・4層?	深鉢・胴部	縁部上細正(L.R.)ヨコ→胎部(R.)ヨコ	ナデ	外面縁部口広い	
585	第3号船型土坑遺構	深鉢・胴部	胎部上細正(L.R.)ヨコ→胎部(R.)ヨコ	ナデ	外面縁部口広い	
586	第4号船型土坑遺構(第7号土坑遺構?)	深鉢・胴部	L.R.滑正・高細形押正(L.R.縦正?)?	ナデ		
587	第5号船型土坑遺構・平盛時	深鉢・口縁部	L.R.滑正	ナデ		
588	第6号船型土坑遺構・1層	深鉢・口縁部	L.R.滑正	滑薄		
589	第3号船型土との同出	深鉢・口縁部	口:L.R.縦正(刀面不明)タテ/面:L.R.縦正/胴:L.R.ヨコ?	ナデ	胎土織理多含む	
590	第11号船型土坑遺構(第7号土坑遺構?)	深鉢・口縁部	R.L.ヨコ?→胎部良?タテ	ナデ	胎土織理適合心	
591	第12号船型土 焼土内	深鉢・胴部	L.R.タテ?	ナデ		
592	第13号土坑・焼土および灰層(平盛時)	深鉢・胴部	縁部上細正(L.R.)ヨコ→胎部交互に	ナデ		
593	第13号船型土・焼土のある直層	深鉢・胴部	R.L.ヨコ?→胎部良?タテ	ナデ	胎土織理粗大	
594	第18→21号船型土 クラリーニング	深鉢・口縁部	口唇:L.R.ヨコ/口:L.R.縦正/面:高い縁部上D字滑正/胴:L.R.タテ?	1/2平	織理・外面厚紙	
595	第18→21号船型土 クラリーニング	鉢・口縁部	底状口縁/口:L.R.縦正/胴:L.R.ヨコ	ナデ	胎土織理粗大	
596	第18→21号船型土 クラリーニング	深鉢・口縁部	L.R.ヨコ?	ナデ	胎土織理粗大	
597	第21号船型土 焼土およびカタラン	深鉢・胴部	単純略1A (R., L.) タテ	ナデ	外スス、内面滑色	
598	第22号船型土・焼土下層部	深鉢・胴部	R.L.タテ?	ナデ	胎土織理粗大	
599	第29号船型土 クラリーニング	深鉢・胴部	単純略1 (R.) タテ?	ナデ		
600	第32号船型土 焼土外	深鉢・胴部	単純略1A タテ	ナデ	内面厚紙	

第156図 縄文土器(54)



№	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・肌体など)	内面(調査など)	備考	本文記載
601	1D-0・№1土層	深鉢・胴部	多細筋(？)ナデ	ナデ	磁器・片取器・肉ス	
602	1D-0・№1土層	深鉢・胴下部	製：多細筋(？)ナデ／胴下部：L貝ヨコ→ナデ	Lヨコナデ	磁器・内面スリ片取	
603	1D-0・№1土層	深鉢(1/3部)	口部→口：L、長脚部／胴：粗筋筋目A(底、L)ナデ	Lヨコ	磁器・内面筋目取	
604	1D-0・№1土層、その下	深鉢・胴部	粗筋筋目(口、底)ヨコ(※肉ス、並→二穴焼成、中々厚取)	ナデ	磁器・内面けはじ付	
605	1D-0・№1土層	深鉢(口部以下)			磁器・内面筋目なし	
606	1D-0・№1土層の下	深鉢・口縁部	口部：多細筋筋目／口：粗筋筋目(？)と長文肌焼成／胴：多細筋ナデ	Lヨコ	磁器・内面筋目・肉ス	p.200

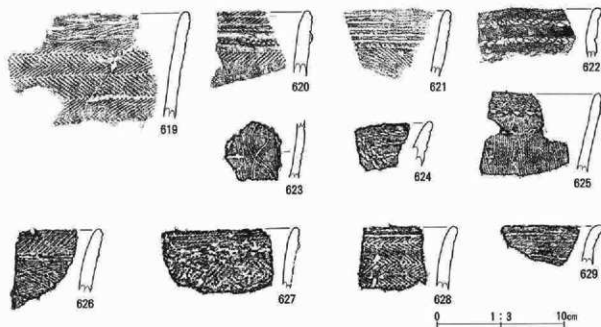
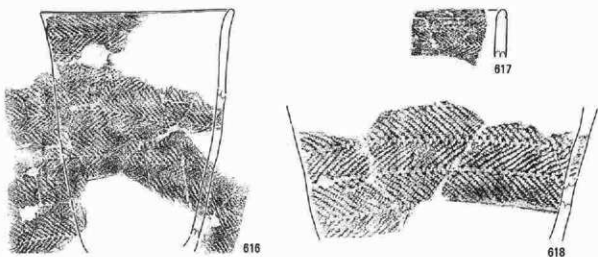
第157図 縄文土器(55)



0 1:3 10cm

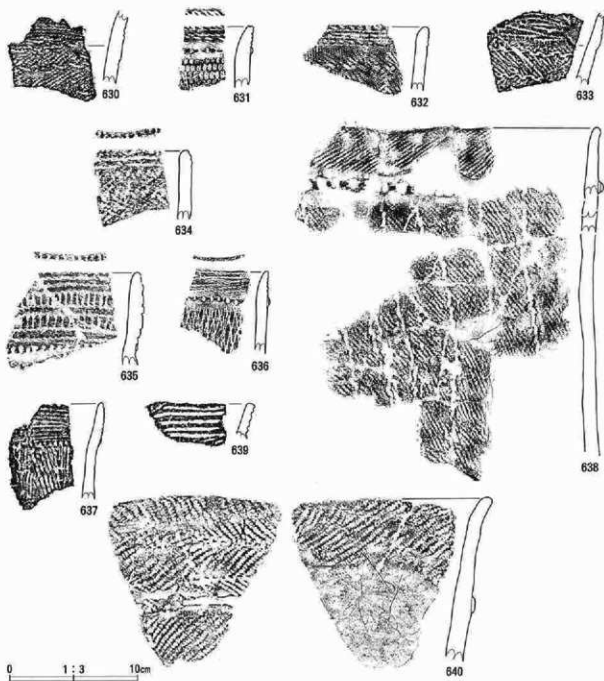
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・解体など)	内面(調整心など)	備考	本文記載
607	1D③・No1上面下	深鉢	□: 華輪高(高) 数三/層: 低い繩部に織み込まぬ網状/割: 華輪高IAナデ	ナデ	織部・内外面・内ス	p.206
608	1D③土器集付地区	割腹(口)浅鉢	多輪高(?) ナデ	ミダキ?	割土器類・内外面ス	
609	2C②・耳付	深鉢・(口)縁部	□: L網状/割: 網状列/割: LRヨコ	厚地	織部・外全面ス	
610	2C②・耳付	深鉢・(口)縁部	□: R網状・C?形爪形文?/割: 上無文、下Lヨコ	ミダキ	内面・外全面ス	
611	2C②・耳付	深鉢・(口)縁部	□: 網~□: L網状/割: 低い繩部上にRLヨコ→高い網状列	ナデ/厚		
612	2D①・耳付	深鉢・(口)縁部	□: 華輪高(R?) 網状・高低い繩部/割: 華輪高IA(比、L) ナデ	ナデ	割土器類・外ス	
613	2D①・耳付	深鉢・胴部	RL比、L比ヨコ	(*) 縁部外、外側から割付、裏面高	ナデ/厚	織部
614	2D①・耳付	深鉢・(口)縁部	□: L網状・低い繩部/割: 高低い繩部(比、L) ヨコ	ナデ	割土器類多、石立ひ	p.206
615	2D①・耳付	深鉢・(口)縁部	□: L網状/層: 高めの繩部上に織み込まぬ網状/割: 華輪高IAナデ?	ナデ	割土器類・外ス	p.206

第158図 縄文土器(56)



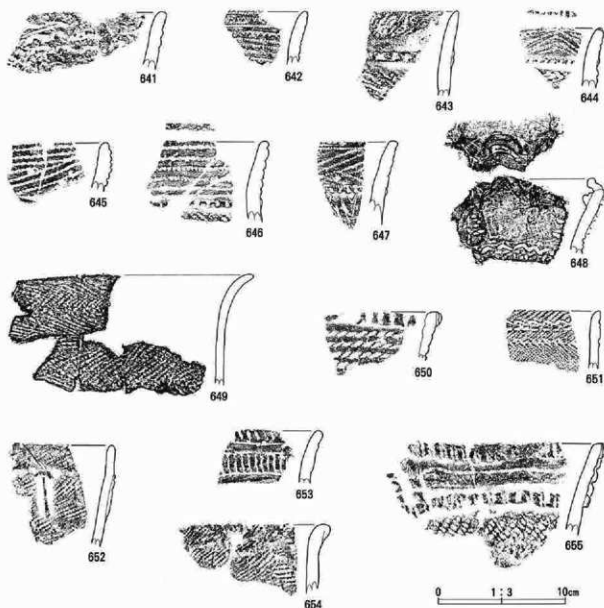
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・縞体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
616	2D中・層位	鉢 (胴・肩前)	結東1種 (RL, LR) ※コ造り交互	(外面又又上面)	イガ本子	胎土織成・内面スス
617	2D中・層位	深鉢・口縁部	口縁：斜織文/口：斜織 (斜織4種) / 胎：結東1種 (L, R) ※コ	ただけ	外糸織成、厚織のせい	
618	2D中・互層	製瓦 (3/4角)	結東1種 (RL, LR) ※コ造り交互 (※出土位置不明な破片あり)	イガ本子	内面：二重織成で赤い	
619	2D中・互層 (※重1/2、重2/3)	深鉢・口縁部	深鉢：口縁部	口：L斜織/胎：結東1種 (LR, RL) ※コ	ナデ	織造多・外スス
620	2D中・層位	深鉢・口縁部	口縁：L斜織/胎：半籠竹管状工具による斜交列/製：RL ※コ	ナデ	外面スス付管	6206
621	2D中・層位	深鉢・口縁部	口：L斜織/胎：半籠竹管状工具による斜交列/製：RL ※コ	ナデ	胎土織成・外スス	
622	2D中・層位	深鉢・口縁部	胎：斜織	胎土織成・中や厚織		
623	2D中・包含層	深鉢・胴部	半籠竹管状工具による沈織	ただけ	内面全面スス付管	
624	2D中・包含層	深鉢・口縁部	胎：斜織	ナデ	胎土織成・外スス	
625	2D中・包含層	深鉢・口縁部	胎：斜織	ナデ	胎土織成・外スス	
626	2D中・包含層	深鉢・口縁部	胎：斜織	ナデ	胎土織成・外スス	
627	2D中・包含層	深鉢・口縁部	口：L斜織/胎：L斜織/製：L斜織	イガ本子	胎土織成・外スス	
628	2D中・包含層	深鉢・口縁部	口：L斜織/胎：L斜織/製：L斜織	イガ本子	胎土織成・外スス	
629	2D中・西側-10cm	深鉢・口縁部	胎：斜織	ナデ	胎土織成・外スス	

第159図 縄文土器(57)



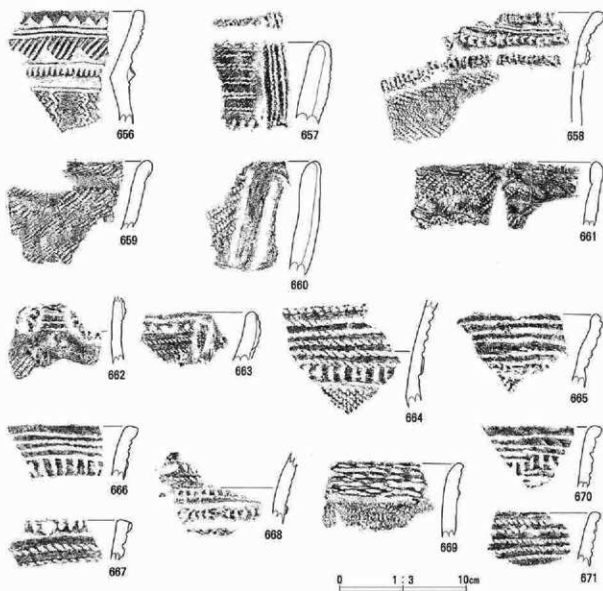
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原料など)	内面(調整など)	備考	本文記載
630	2D①・IV層-10cm	深鉢・胴部	柄: R縞付/割: LR+斜縞Hヨコ	ナデ	縁部・内外スス付着	
631	2D①・Ⅲ-Ⅳ層上層	深鉢・口縁部	口柄: 横・直(斜)口: LR縞付・横ヨコ斜縞/面: 横ヨコ半縞付斜縞	ナデ	割: 多輪付ナデ	
632	2D①・Ⅲ-Ⅳ層上層	深鉢・口縁部	口: 半縞付斜縞一帯から斜縞付・割: LRヨコ・ヨコ斜縞(口)ヨコヨコ	ナデ	縁部・割文口縁から	p.206
633	3C①・IV層-15cm	深鉢・口縁部	口: LR縞付/割: 斜縞・L縞付/割: RLヨコ斜縞付ヨコ	ナデ	縁部・外面厚縁	
634	3D①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口柄: 横付/厚縁/口: 斜縞付/割: LRヨコ斜縞(※内面厚縁)	ナデ	縁部・縁部付・内スス	
635	3D①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口柄: R縞付/口: 水平状。垂直R縞付/面: 斜縞付/割: LRヨコ	ナデ	D-縞部付・厚スス	
636	3D①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口柄: LRヨコ/口: LR縞付/面: 高凸部付斜縞/割: 半縞縞(口)ナデ	厚縁	外面全面スス付着	
637	3D①・IV層-15cm	深鉢・口縁部	口: 半縞縞(?) 横付/割: C字形斜縞/割: 斜縞縞1Aナデ	ナデ	外厚縁、内面スス	
638	4C①・Ⅲ層	深鉢(口縁部?)	口: LRヨコ/割: 縁部上付斜縞/割: LR+斜縞付ナデ	ナデ	縁部・内面だけ	
639	4C①・IV層-10cm	深鉢・口縁部	半縞竹管状工具による押し引き状	厚縁	粘土織織入	
640	(D)付着(佐藤氏蔵)・ⅢA(20号15号?)	深鉢・口縁部	口柄: LRヨコ/口: 斜縞縞(口) 斜縞縞/面: 斜縞縞付/割: LRヨコ	ナデ	粘土小石、縁部付着	

第160図 縄文土器(58)



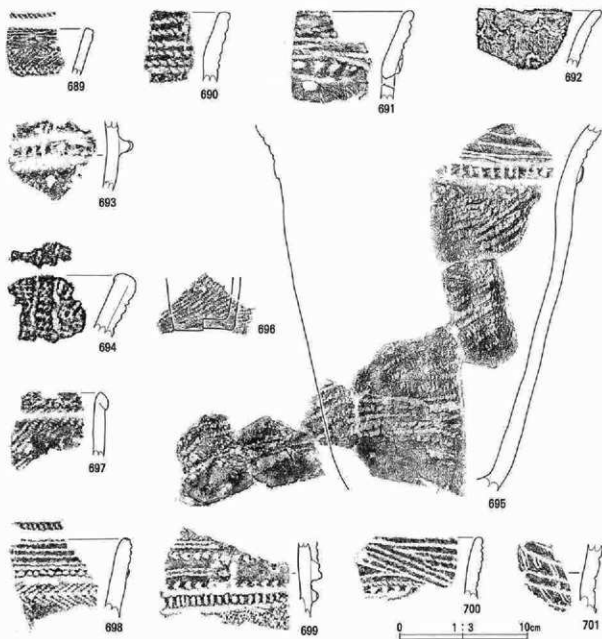
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(圓整など)	備考	本文記載
641	4D層・豆埴	深鉢・口縁部	斜間(O)ヨコ	ナデ	斜間、斜間・外スス	
642	5C①・重層	深鉢・口縁部	単軸筋1(R)と単軸筋5(R)交互割止	ナデ	粘土織地・外スス	
643	5C②・重層	深鉢・口縁部	口:L.R.Yヨコノ割;太く低めの降帯に斜間Y/L.R.Yテ	ただれ	斜間、外スス・外スス	
644	5C③・豆埴	深鉢・口縁部	口縁部:口縁筋、降帯(口に単軸筋管状割止)上下も/肩:L.R.斜間(Yヨコ)	ミガキ	粘土織地・外スス	
645	5C④・重層	深鉢・口縁部	L.R.Yテ	ナデ	粘土織地・外スス	
646	5C④・重層	深鉢・口縁部	口:単軸筋(8Y)斜間、降帯;底:斜間(Yヨコ)・斜間(Yヨコ)	ミガキ	斜間	p.206
647	5C④・重層	深鉢・口縁部	口:単軸筋(8Y)斜間、降帯;底:斜間(Yヨコ)・斜間(Yヨコ)	ミガキ	斜間	
648	5C④~⑤・IV層上部疑似現象	深鉢・口縁部	粘土筋の高めの斜間(内面にも)・太く低めの沈帯、割突	ナデ	外スス、割突	
649	5C④~⑤・IV層上部疑似現象	深鉢・口縁部	斜間(Yヨコ)・斜間(Yヨコ)	ナデ	斜間・外スス・外スス	
650	6B①②・豆埴	深鉢・口縁部	肩上部降帯・L.R.Yテ(降帯上も)	割突	斜間・外スス・外スス	
651	6B①②・豆埴	深鉢・口縁部	口縁:斜間(降帯)Y/L.R.Y・斜間(R)ヨコ、その下にY斜間筋ヨコ	ナデ	斜間・外スス・外スス	
652	6B①②・豆埴	深鉢・口縁部	肩の返し口縁・L.R.Yヨコ・割ワンポイント的降帯	ナデ	斜間	
653	6B①②・豆埴	深鉢・口縁部	口縁筋	ナデ	粘土織地・外スス	
654	6B①②・豆埴	深鉢・口縁部	口縁筋・降帯・L.R.Yヨコ、ナデ	ナデ	外スス・外スス	
655	6B①②・豆埴	深鉢・口縁部	口:L.R.Yテ(降帯上も)ノ割;L.R.Yヨコ	ナデ	外スス・外スス	p.206

第161図 縄文土器(59)



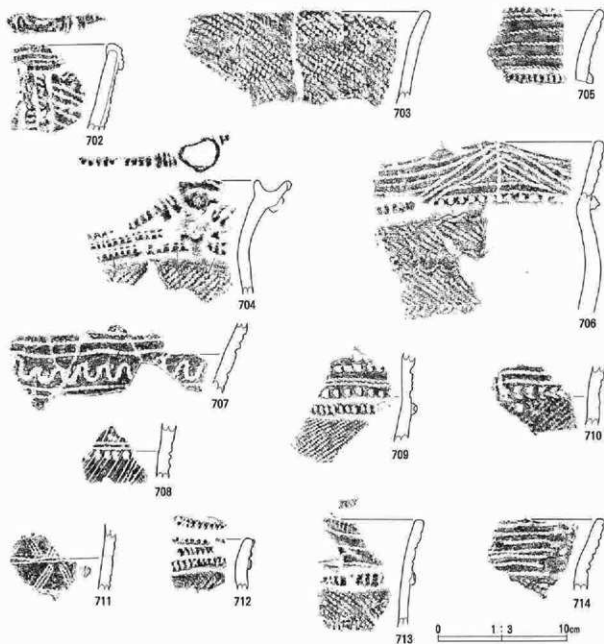
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・器種、地文・形状など)	内面(調型など)	備考	本文記載
656	6B③・豆埴	胴部・口縁部	口唇:強いナメ/口:三角形部分(張り上げ)刷:LS+斜線タテ	ナテ丁家	外吹きこぼれ	p.205
657	6B③・豆埴	胴部・口縁部	口:強帯状(外口縁)刷:LS+斜線タテ/刷:刷文(刷型?)	ナテ	粘土層埋入	
658	6B③・土・重層【*土層①、重層②】	胴部・口縁部	口:LS刷文(陸部上も)/刷:R:LSヨコ、ナメ	ナテ	粘土石炭入	
659	6B③・壺埴	胴部・口縁部	口縁部帯状・LSヨコ・強所無文帯(刷文→ナテ)	ナテ	外吹きこぼれ	
660	6B③・壺埴	胴部・口縁部	高めの陸部・LSヨコ	ナテ丁家	外面ス付着	
661	6C①・豆埴	胴部・口縁部	内側に残る高し口縁・LS+斜線ヨコ(線)	ナテ	編織・輪埋板	
662	6C①・豆埴	胴部・口縁部	口:LS刷文(陸部上も)/刷:LSヨコ	ナテ	粘土層埋、外スス	
663	6C①・豆埴	胴部・口縁部	強帯・口縁部	LS刷文	陸部埋	
664	6C①・壺埴	胴部・口縁部	口:LS刷文/刷:R:LSヨコ	ナテ	外面ス付着	
665	6C①・壺埴	胴部・口縁部	口:LS刷文/刷:LSヨコ (*口縁部むきむせにより成形)	ナテ	外吹きこぼれ	
666	6C①・壺埴	胴部・口縁部	LS刷文	ナテ丁家	粘土層埋入	
667	6C①・壺埴	胴部・口縁部	口縁部帯状・LS刷文	ナテ	粘土層埋、外スス	
668	6C①・壺埴	胴部・口縁部	口:LS刷文(陸部上も)・陸部下無文/刷:LSヨコ?	ナテ	外面ス付着	
669	6C①・壺埴	胴部・口縁部	口:強帯(陸部上も)・陸部下無文/刷:多輪タテ(薄地)	ナテ	粘土層埋、石炭入	
670	6C①・壺埴	胴部・口縁部	口唇:強いナメ/口:LS刷文	イダ本		
671	6C①・壺埴	胴部・口縁部	LS刷文	ナテ	編織・外スス、厚地	

第162図 縄文土器(60)



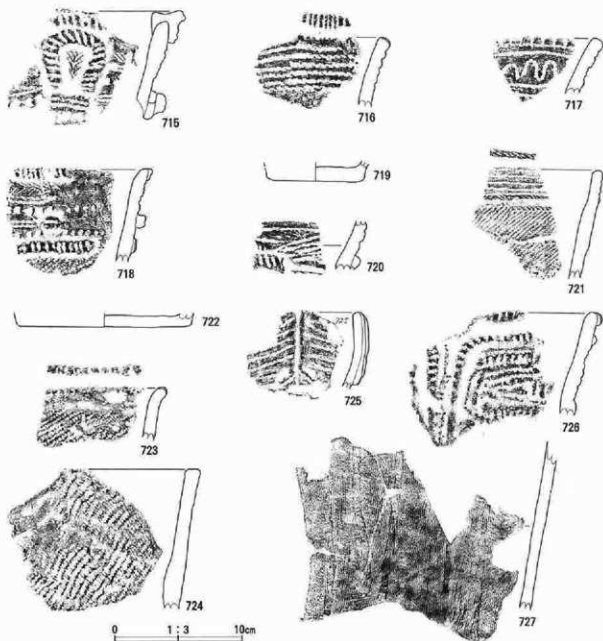
No	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文様・装飾、地文・肌理など)	内面 (調査など)	備 考	本文記載
689	6C Ⅱ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:斜め羽列(点刻) / 口:横帯刻線 / 唇:放射線(点刻、短L)ヨコ	ナデ	胎土織物多・外ニス	
690	6C Ⅱ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:突いナデ / L点刻	厚鈍	胎土織物多・外ニス	
691	6C Ⅱ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:L点刻 / 唇:太く高めの隆帯(押圧列) / 裏:車輪線ナデ	ナデ	胎土・厚粘土(染付)	
692						
693						
694						
695						
696						
697						
698						
699						
700						
701						

第164図 縄文土器(62)



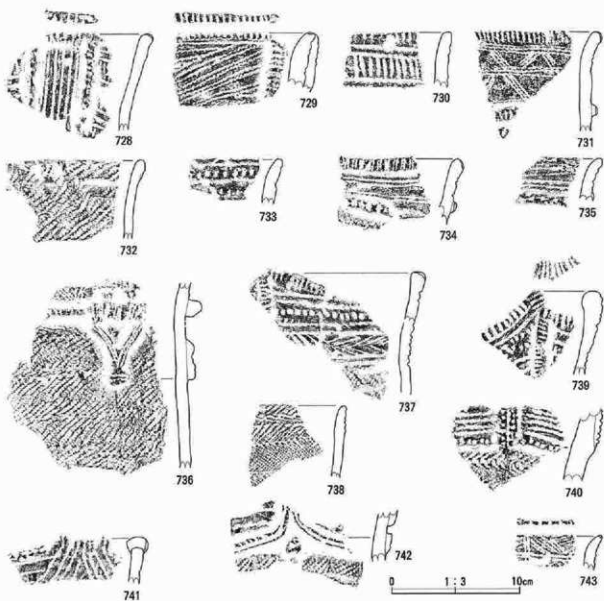
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原料など)	内面(調査など)	備考	本文記載
702	7B-2付石・1層(黄粘土)	漆器・口縁部	L:縞正(縞帯上も、突起部両側口縁内面まで縞正)	ナゲ	織機・外一層厚紙	
703	7B-2付石・1層(黄粘土)	漆器・口縁部	RL:縞ヨコ	ナゲ	1/4段縁・折上縁	
704	7B-2・B層	漆器・口縁部	口:縞帯/L:縞帯(一部口縁内面まで)・縞・縞帯下地文・斜:LRヨコ	ナゲ	縞帯・外スス、折上縁	
705	7B-2・B層	漆器・口縁部	口:L:縞正/縞:高い縞帯上土縞正	ナゲ	外吹き	
706	7B-2・B層	漆器	口:L:縞正/縞:高めの縞帯(L:縞正)/縞:高直(縞+縞直、L)ヨコ	ナゲ	外吹きこぼれ	
707	7B-2・B層、7B-2・B、黄粘土	漆器・口縁部	L:縞縞正(※2)糸、糸直(糸、糸直)	ナゲ	折上縁織入	
708	7B-2・B層	漆器・胴部	半段竹管状工具による高い縞帯、高い縞帯列	ナゲ	内面焼けほじけ	
709	7B-2・B層	漆器・胴部	口~前:L:縞縞正・高い縞帯/斜:LRヨコ	ナゲ		
710	7B-2・B層	漆器・胴部	口:L:縞縞正/縞:半段竹管状工具による斜突字/斜:L:縞ヨコ	ナゲ		
711	7B-2・B層	漆器・口縁部	L:縞正	ナゲ	高直スス、縞帯の凸部	
712	7B-2・B層	漆器・口縁部	口:L:縞帯上土縞縞正/縞:L:縞ヨコ?	ナゲ	外直スス付着	
713	7B-2・B層	漆器・胴部	口:L:縞正/縞:高めの縞帯にL:縞正/斜:RL:縞ヨコ	ナゲ	外直スス付着	
714	7B-2・B層	漆器・口縁部	縞縞帯列部・L:縞正	ナゲ	折上縁部・外スス	

第165図 縄文土器(63)



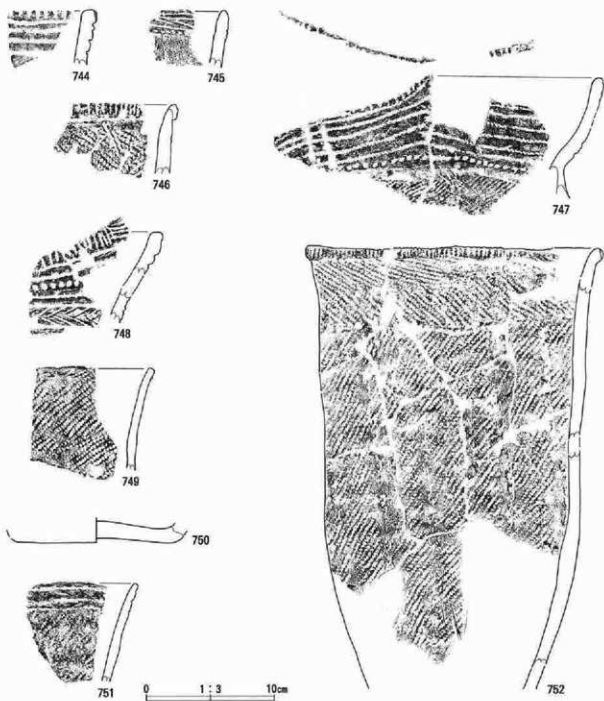
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾、地文・図様など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
715	7825・B層	海鉢・口縁部	L,R縦柱・突起下の縁部に囲まれたところ形成線による文様	ナデ	下頸孔口縁上縁合部	
716	7825・B層	海鉢・口縁部	突起口縁: L,R? 縦柱: □: L,R 縦柱	ナデ		
717	7825・B層	海鉢・口縁部	L,R 縦柱	ナデ丁字		
718	7825・B層	海鉢・口縁部	□: L,R 帯下矢羽状沈線・L,R 縦柱/ 縦柱: L,R 縦柱	ナデ	口縁部帯部	
719	7825・B層	底面 (一帯)	底面一帯面: L,R 縦柱	ナデ	出土層位大	
720	7825・B層	海鉢・口縁部	L,R 縦柱	1 ガキ?		
721	7825・B層	海鉢・口縁部	□: L,R 縦柱/ □: L,R 縦柱/ □: L,R 縦柱/ □: L,R 縦柱	ナデ	出土層位大	p.205
722	7825・B層	底面 (縦一帯)	底面: ナデ	ナデ	出土層位大	
723	7825・B層	海鉢・口縁部	□: L,R 縦柱/ 縦柱: L,R 縦柱	ナデ	出土層位・外スス	
724	7825・B層	海鉢・口縁部	台形突起・折り高し口縁・L,R 縦柱	1 ガキ?	出土層位大・外スス	
725	7825・B層	海鉢・口縁部	縦線帯・突起 (縁部上も)	ナデ	縁部・折り高し口縁	
726	7825・B層	海鉢・口縁部	L,R 縦柱	ナデ	出土層位・外縁部	
727	7825・B層	海鉢・胴部	準輪飾1A (R, L) ナデ	1 ガキ?	出土層位・外縁部	

第166図 縄文土器(64)



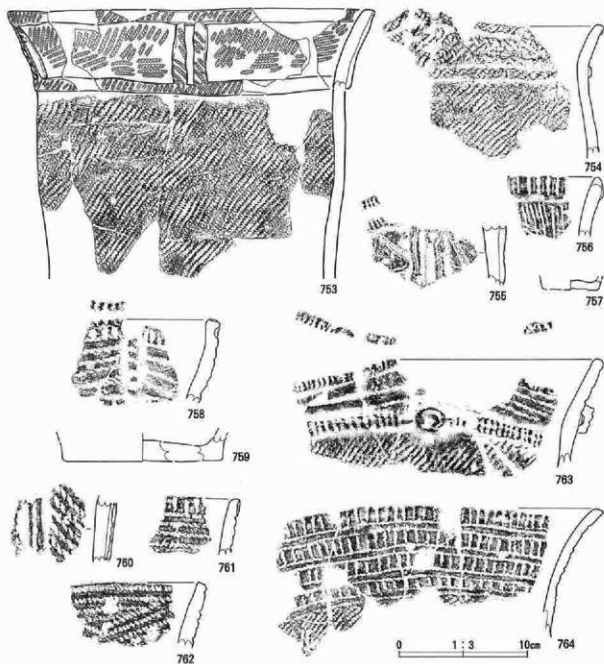
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(調整など)	備考	本文記載
726	7B③・黒土	深鉢・口縁部	突縁口縁肩目/口:L状刺圧・高い横帯	ナデ	内面厚化	
729	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口唇:L状刺圧/口:L状刺圧・高い横帯	厚化		
730	7B③・黒土	深鉢・口縁部	L状刺圧	ナデ/厚	外厚化	
731	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口縁縁部状/口:L状刺圧(隆帯上、下も)/肩:L状ワコウ	ナデ	外面文土付着	
732	7B③・黒土	深鉢・口縁部	斜り返し口縁/口-肩:L状ワコウ	ナデ	縁部・底面外縁厚化	
733	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口唇:L状ワコウ/口:L状刺圧・手裏竹管状工具による刺突列	ナデ	外中厚化	
734	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口縁縁部・L状刺圧(隆帯上も?)・爪形状縁部	ナデ		
735	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口:L状刺圧/肩:隆帯上に竹管状工具による刺突列	ナデ	外スス、厚化	
736	7B③・黒土	深鉢・胴部	口-肩:高い横帯・L状刺圧/肩:L状ワコウ(肩帯もは刺突部分あり)	ナデ縁	赤土付・底面外縁厚化	
737	7B③・黒土・黒土	深鉢・口縁部	口-肩:肩上凹部・L状刺圧・手裏竹管状工具・赤土付/肩:厚化ワコウ	ナデ	縁部・底面外縁厚化	p.206
738	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口唇:厚化ワコウ/口:L状刺圧ワコウ/肩:厚化凸凹部・刺突列/肩:厚化ワコウ	ナデ	縁部・外スス、厚化	p.206
739	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口縁上、隆帯上段刺圧・L状刺圧・刺突列・爪形状縁部	L状ワ	底土面厚化/口縁厚化	
740	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口:突縁口縁凹部・隆帯刺突列、手裏竹管状工具・厚化凸凹部	ナデ	底土面厚化	
741	7B③・黒土	深鉢・口縁部	厚化	ナデ	外スス付着	
742	7B③・黒土	深鉢・胴部	肩:L状刺圧、厚化(隆帯上、肩とも)・隆帯上に爪形文/肩:L状ワコウ	ナデ/厚	外スス、刺突	
743	7B③・黒土	深鉢・口縁部	口唇:斜り目/口:L状刺圧?	ナデ	底土面縁部入	

第167図 縄文土器(65)



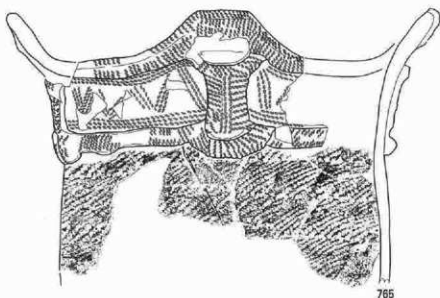
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原料など)	内面(原料など)	備考	本文記載
744	7833・層位	深鉢・口縁部	L縞状	L点キヤ		
745	7833・層位	深鉢・口縁部	口: 斜線/層: 縞・縞状(上)による斜線(斜線)層: 縞縞状(口縁部)	ナデ		
746	7833・層位	深鉢・口縁部	口縁部斜状/口: L点縞状(縁部上、下も) / 層: 斜線/点キヤ	L点キヤ		
747	7833・層位	口縁(口縁上)	口縁: 口縁上・L縞状/口: 縞・縞状(層: 縞・縞状(縞縞))	ナデ	層位不明の出土物?	
748	7833・層位	深鉢・口縁部	口縁上: 斜線状/口: L点縞状、斜状(斜線?)、細く縞状(縞)	L点キヤ	外スス・内面は747	p.206
749	7833・層位	深鉢・口縁部	口縁: 縞いナデ/L点キヤ	ナデ	出土編織・外スス	
750	7833・層位	瓦葺(一角)	底面: ナデ	ナデ	出土編織・右側入	
751	7833・層位	深鉢・口縁部	口: L点縞状/層: L点キヤ	縞なで	出土編織・外スス	
752	7833・表面層	深鉢(80A-1)	口: 縞縞状(縞上)にL点縞状/層: 縞・縞・縞縞(縞)層: 縞縞(縞)	ナデ	内面編織	p.206

第168図 縄文土器(66)

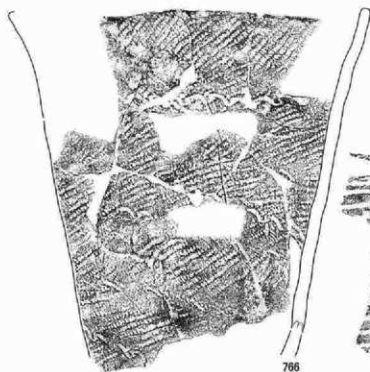


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾、地文・膠体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
753	7B(4)・B層, 草類	深鉢 (1/2弱切)	文様の単位を1/1.5強帯一口〜割取口ヨコ、ナナメ	1/2ナメ	粘土織成・内面はシ	
754	7B(4)・B層	深鉢・口縁部	口: 隆帯上はLヨコ・裾深又/肩: 隆帯に沿ってナメ/裏: Lヨコ	ナメ	粘土織成・内面はシ	
755	7B(4)・B層	深鉢・口縁部	L形隆帯 (隆帯上も)	ナメ	粘土織成・内面はシ	
756	7B(4)・B層	深鉢・口縁部	口: 折り返し口縁による隆帯状	ナメ	粘土織成・内面はシ	
757	7B(4)・B層	深鉢 (1/2弱切)	(ナメ地文)	ナメ		
758	7B(4)・B層	深鉢・口縁部	口向: 割取口 (厚縁) / 口: L形隆帯 (隆帯上も)	1/2ナメ	粘土織成・内面はシ	
759	7B(4)・B層	深鉢 (一用)	底形〜底面: ナメ	ナメ		
760	7B(4)・B層	深鉢・口縁部	L形隆帯 (隆帯上も)	ナメ	粘土織成・内面はシ	
761	7B(4)・B層	深鉢・口縁部	L形隆帯	ナメ	粘土織成・内面はシ	
762	7B(4)・B層	深鉢・口縁部	隆帯 (口) 隆帯	ナメ	粘土織成・内面はシ	
763	7B(4)・B層	深鉢・口縁部	口: L形隆帯 (ナメ+折取口+内面はシ)・内面はシ/裏: Lヨコ	1/2ナメ	粘土織成・内面はシ	
764	7B(4)・B層, 草類	深鉢 (1/2弱切)	口向: 折取口/口: L形隆帯/裏: Lヨコ/内面はシ/無一口	1/2ナメ	粘土織成・内面はシ	

第169図 縄文土器(67)



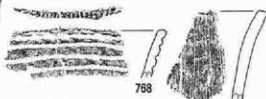
765



766



767



768



769



770

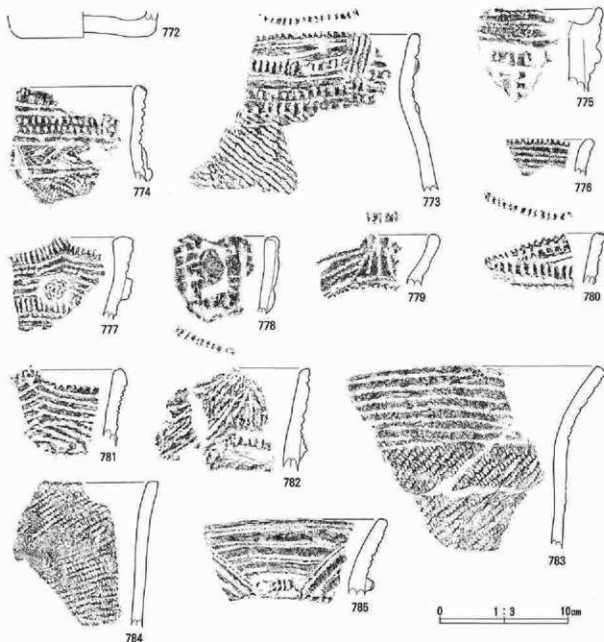


771

0 1:3 10cm

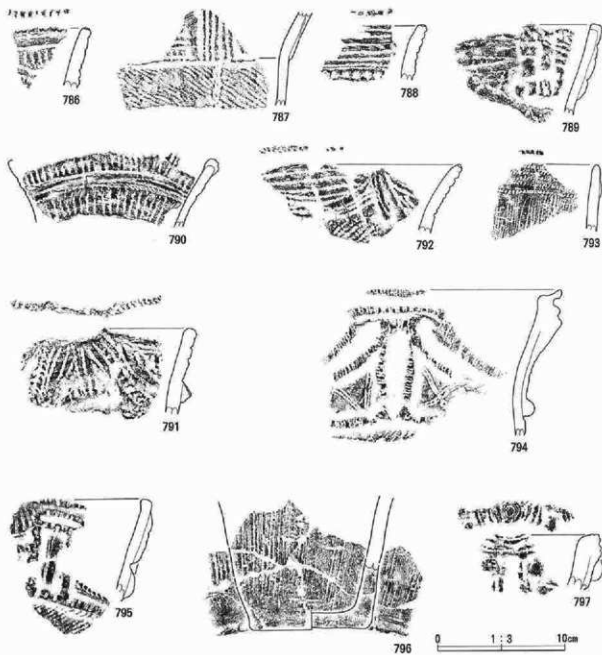
No	出土地点・解位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(装飾など)	備考	本文記載
765	7B35・通・竪層	腰鉢(口/胴/底)	4単位/口縁:L.R斜正/口:腹層上段かL.R斜正/胴:L.R直コ (* 外側二次装成で表い)	ナダ	③口/⑫・腹上スス	
766	7B34・竪層	腰鉢(口/胴/底)	L.R直コ・ナメテ・斜層(H)タチ→底層ナダ/腹面:ナダ?	イダ本	内面既スス付着	
767	7B34・竪層	底層(口/胴/底)	L.R直コ・ナメテ・斜層(H)タチ→底層ナダ/腹面:ナダ?	ナダ	底上織層・内面スス	
768	7B34・竪層	腰鉢・口縁部	口内:L.R直コ?々(腹底)/口:L.R斜正	ナダ	外面やや厚残	
769	7B34・竪層	腰鉢・口縁部	腰面状工具による反織ナダ	ナダ	胎上織層・既スス	
770	7B35・竪層	腰鉢・口縁部	口内:L.R直コ?/口:L.R斜正	イダ本?	織層・外寸の厚残	
771	7B35・竪層	腰鉢・口縁部	平織竹管状工具による斜織ナダ・反織正(* 厚残のどく不明瞭)	イダ本?	再厚残のどい	

第170図 縄文土器(68)



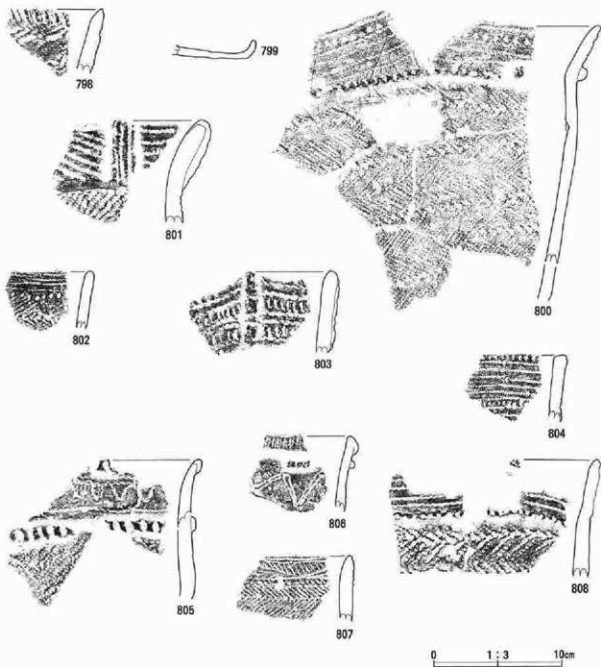
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・肌体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
772	7B(4)・遺跡	深鉢・底面	底面：ヒガキ	ナデ		
773	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	口縁～胴：L.R斜圧(隆帯上も)・低い隆帯/割：R.Rコ	ヒガキ	胎土織物混入	
774	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	口：L.R斜圧・面く深い沈凹、斜突/割：L.R斜コ (*片中や厚底)	ナデ光沢	縁部・内面織物混入	
775	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	突起部(突起)深帯・L.R斜圧(隆帯上も)	ナデ丁家		
776	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	口縁～胴：L.R斜圧(隆帯上も)・L：帯輪縁(平)面圧	ナデ		
777	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	L.R斜圧(ボタツ状粘付文上は細粒に)	ヒガキナ	外吹きこぼれ	
778	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	低めの隆帯上に刻目?	摩耗	内外厚縁・7Bと同寸	
779	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	口縁：L.R斜コ(突起上も)/口：L.R斜圧/面く深く深い割突	ナデ	縁部・内外スス	
780	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	口縁～口：L.R斜圧	ヒガキ?	胎土織物混入	
781	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	L.R斜圧(突起上も)	ヒガキ	胎土織物混入	
782	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	口縁～口：R.R斜圧(粘付文上も)	ナデデ	胎土織物混入	
783	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	口：L.R斜圧/割：L.Rコ(*一部はヒガキ・L.R斜コ→L.R面圧)	ナデ	石・炭・灰混入	
784	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	L.R斜コ、ナデ	ナデ	縁部・内面スス付着	
785	7B(4)・遺跡	深鉢・口縁部	L.R斜圧(粘付文上も) (*下の割れ口縁上縁合部の断面)	ナデ	突起コボれ、内面スス	

第171図 縄文土器(69)



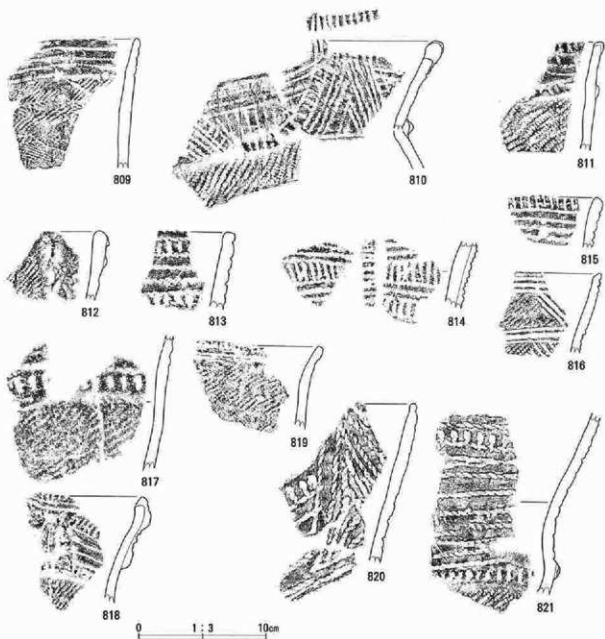
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(装飾など)	備考	本文記載
786	1B(4)・墓前	深鉢・口縁部	口縁～口：R縞	ナデ		
787	7B(4)・墓前	深鉢・器底	口：L縞 器底：細い横縞/縞：巻掛装束/R1, R2・磁器(宇)ナデ	厚底	外面スス付否	
788	7B(4)・墓前	深鉢・口縁部	口縁：細い平ノ口：L縞 器底：細い斜交列	シガキ	地上編織入	
789	7B(4)・墓前	深鉢・口縁部	口縁部：L縞 器底：L縞	厚底	外スス・7B(4)層一?	
790	7B(4)・墓前	深鉢・口縁部	口縁：L縞 器底：L縞	ナデ	内面自然付付意	
791	7B(4)・墓前	深鉢・口縁部	口縁～口：L縞 器底：L縞	ナデ	地上編織・外スス	
792	7B(4)・墓前	深鉢・口縁部	口縁～口：L縞 器底：L縞	ナデ	編織・内面全スス?	
793	7C(1)・正副	深鉢・口縁部	口縁～口：L縞 器底：L縞	厚底	編織多・内面厚底	
794	7C(1)・正副	深鉢・口縁部	L縞 器底：L縞	ナデ	編織・地上同・厚底	
795	7C(1)・正副	深鉢・口縁部	L縞 器底：L縞	ナデ	地上編織・地上同・厚底	
796	7C(1)・正副	深鉢・口縁部	L縞 器底：L縞	ナデ	地上編織・地上同・厚底	
797	7C(1)・墓前	深鉢・口縁部	L縞 器底：L縞	ナデ	地上編織・地上同・厚底	

第172図 縄文土器(70)



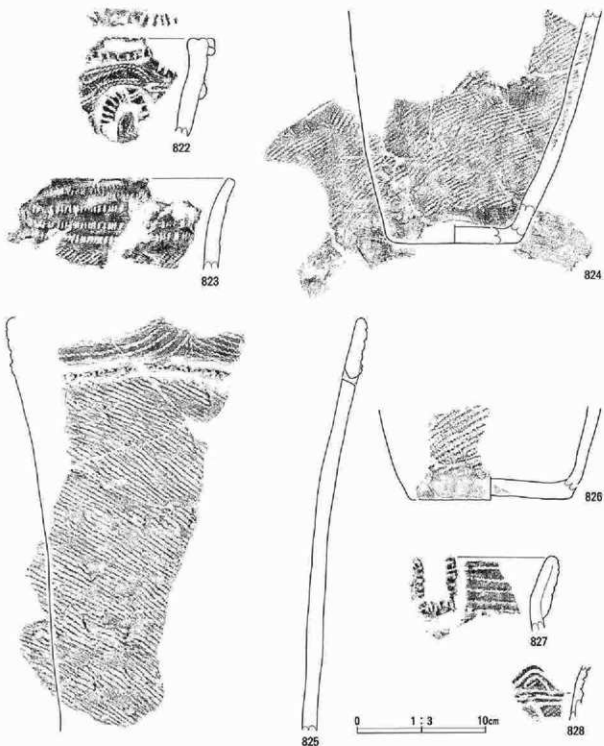
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・器跡、地文・原形など)	内面 (溝痕など)	備考	本文 記載
796	TC①・最層	深鉢・口縁部	同上層の丸線文・L線ヨコテ→L線縦ヨコテ(●等長して、不明瞭)	摩耗	縁部・内外摩耗	
798	TC①・最層下	皿等	手づくね	尚なで	胎土織痕・内面スス	
800	TC②・目録	深鉢	口:L線縦/器:高い縁部上も・器跡:オコシ線付文/器加減(面加減)ヨコ	ナデ(丁寧)	胎土織痕・内面スス	p.207
801	TC②・目録	深鉢・L線部	口:L線縦/器:高い縁部上も/器跡:L線ヨコ	ヒガキ	胎土織痕	
802	TC②・最層	深鉢・L線部	口:L線縦/器:斜目列/器跡:結束1種(LR、LR)	ヒガキ	縁部・外や中摩耗	
803	TC②・目録	深鉢・L線部	LR斜文(低め縁部上も・C字形も?)	ナデ	縁部・外や中摩耗	
804	TC②・目録	深鉢・L線部	斜い斜目列・器加減(7)横付	ナデ	縁部・外や中摩耗	
805	TC②・Ⅱ(2/3)、Ⅲ層(2/3)	深鉢・L線部	口~器:L線斜文・高の縁部上や形痕目/器跡:LRヨコ	ナデ	縁部・内面付法に付	
806	TC②・目録	深鉢・L線部	上段斜文(高い縁部上も)・器跡:約高	ナデ	縁部・内面付法に付	
807	TC②・最層	深鉢・L線部	口:L線縦/器跡:高の縁部上も/器跡:結束1種(LR、LR)ヨコ	ヒガキ	縁部・外や中摩耗	
808	TC②・最層	深鉢・L線部	口:結束斜約高・L線縦/器跡:竹管状斜文/器跡:結束1種(LR、LR)ヨコ	摩耗	縁部・外や中摩耗	

第173図 縄文土器(71)



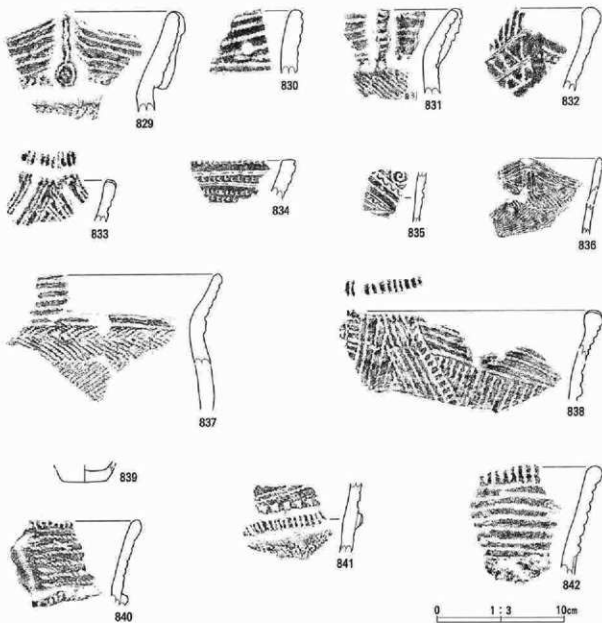
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原料など)	内面(調整など)	備考	本文記載
809	BA寺村遺・1層(竪穴上)、Ⅲ・Ⅴ層	深鉢・口縁部	口: 華輪状(?) 斜行/縦: 筋状(縦、横) ココ (* 華輪状、肩から)	ナデ	横溝・片スス、平厚底	p.207
810	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口: L形(正) (突起部は口縁まで) / 斜: LRココ	ミガキヤ	筋上縁縁取入	
811	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口: L形(正) (斜上にも) / 斜: LRココ (* 隆部上縁部)	ナデ	横溝・内面縁取入、片スス	
812	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	高台部下面く高めの斜行縁部・その周縁LRココ	ナデ	片スス、厚底	
813	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR斜行	ナデ	横溝・内面縁取入付	
814	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR斜行 (隆部上も)	ナデ	横溝・片スス・内面縁	
815	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR斜行	ナデ		
816	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口内面に横・LRココ→平截竹管状工具による深い状態	ナデ		
817	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・内底	口: L形(正) 斜行 / 斜: LRココ (* 厚底ひどくて不明)	厚底	横溝・内面縁取入付	
818	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口: L形(正) / 斜: LRココ→筋取 (L) ナデ	ナデ	内外面スス付首	
819	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口: 片形(正) / 斜: LRココ	ナデ	筋上縁縁取入	
820	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR斜行	ナデ		
821	BAⅡ・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口: L形(正) (突起部上も) / 斜: LRココ	ミガキ	横溝・内面(上)厚底	

第174図 縄文土器(72)



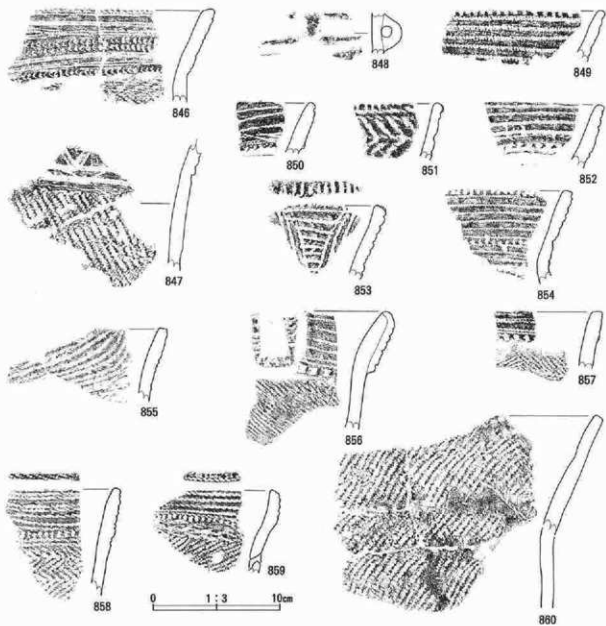
No.	出土地点・層位	器種・部位	外 形 (文様・裝飾, 地文・原形など)	内 容 (調査など)	備 考	本文 記載
822	8A③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	深鉢状 (縁部上も)	ナデ]軍	胎土編織・外ユス	
823	8A③・Ⅱ, 裏層 (・83/7, 裏4/7)	深鉢・口縁部	口: 卵輪筋(1) 胴部: 斜: LRヨコ	ナデ	胎土編織・外ユス	
824	8A③・Ⅱ層	碗形 (口/胴部)	LRヨコ, ナデメー絞用ナデ/底面: ナデ?	ナデ (底面)	胎土編織・外ユス	
825	8A③・Ⅱ層	深鉢	外に黒ノコ: 1: 3割: 内面に黒ノコ: 胎土編織・外ユス	ナデ (口)	胎土編織・外ユス	p.207
826	8A③・Ⅱ層	浅鉢 (口/胴部)	LRヨコ-絞用ナデ/底面: ナデ (口)	ナデ (口)	胎土編織	p.207
827	8A③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口: 浅い・縁部上は丸めの間?・胎土編織・外ユス	ナデ	外ユスス付着	p.207
828	8A③・Ⅱ層	深鉢・鉢部	LRヨコ-胎土編織・外ユス	ナデ	胎土編織	

第175図 縄文土器(73)



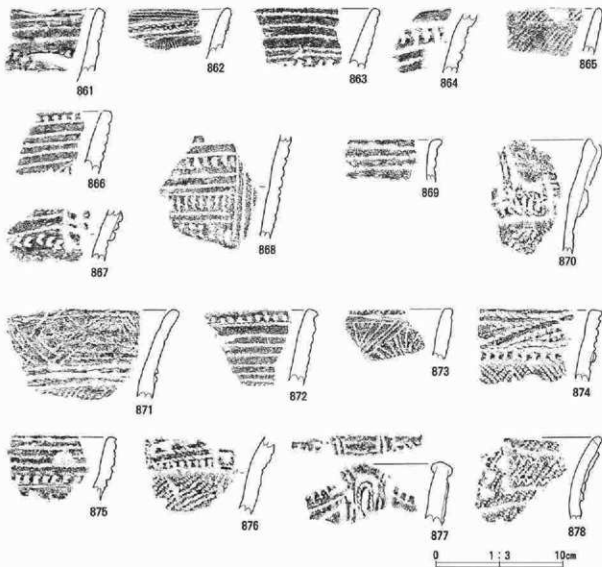
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・形体など)	内面(図章など)	備考	本文記載
829	BA③・墓前	深鉢・口縁部	口：波刺圧(高い位置上也)；胴：平直竹管状工具による刺突/刺：LRココ?	ナデ	外面スチ付着	p.207
830	BA③④・墓前	深鉢・口縁部	波刺刺(♀) 刺圧 (*下の頸れ口、粘土層合部から刺突?)	Lガキ		
831	BA③・墓前	深鉢・口縁部	口：高い位置上下から斜目・波刺圧/胴：平直竹管状刺突/刺：LRココ?	ナデ	粘土白砂混入	
832	BA③・墓前	深鉢・口縁部	波刺・口縁部	波刺刺	粘土層付・外スチ	p.207
833	BA③・墓前	深鉢・口縁部	L刺圧(波帯上下・外口縁部口縁部まで)	ナデ	編織・内面一部浮柱	
834	BA③・墓前	深鉢・口縁部	口縁：波いナデ/口：平直竹管状工具による刺突列・波刺圧	Lガキ?	粘土層付混入	
835	BA③・墓前	深鉢・口縁部	太めで波い波帯・交互斜突列	ナデ		
836	BA③・墓前	鉢・口縁部	口：L刺圧(文様部底あり) / 刺：LRココ、ナナナ	ナデ	粘土層付・外面スチ	
837	BA③・墓前	深鉢・口縁部	口刺：RLココ? / 口：L刺圧/筋束口縁 (LR, RL) ココ	ナデ	粘土層付混入	
838	BA③・墓前	深鉢・口縁部	L刺刺圧(突起部底は口縁部も)	ナデ	粘土層付混入	
839	BA③・墓前	小型・底部	ナデ (*縁部一部)	ナデ		
840	BA③・墓前	深鉢・口縁部	L刺圧(高い位置上也)・編織部波帯	波たれ	粘土層付・外スチ	
841	BA③・付着・I層付(陶輪上)	深鉢・口縁部	口：平直竹管状刺突(L刺刺上下)・波刺圧(高い位置上也) / 刺：刺突文?	ナデ	編織部底不明	
842	BA③・付着・I層付(陶輪上)	深鉢・口縁部	L刺刺圧	ナデ	外スチ・内面付はてび	

第176図 縄文土器(74)



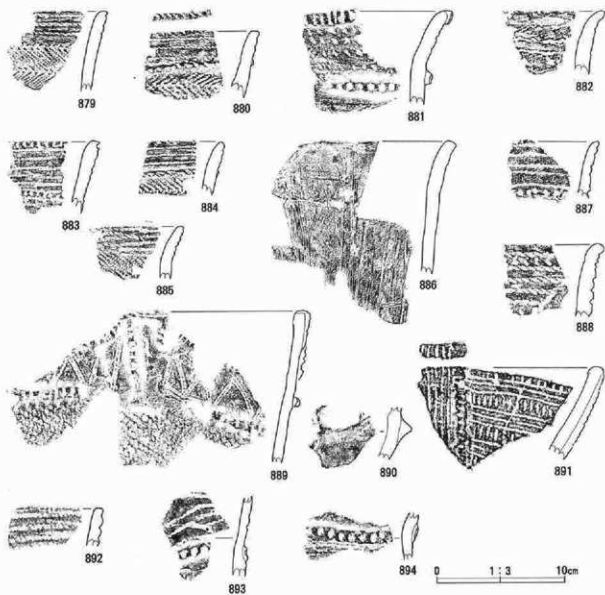
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・扉体など)	内面(溝等々)	備考	本文記載
846	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 筋状溝等状/口: 系状斜線状列・R縞付/肩: 縄・筋縞(直?) コ	ミダキ?	編織・内面一部厚塗	
847	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: R縞付/筋: 半段竹管状工具による比喩/肩: R縞コ	ミダキ?	編織・内面幾何的ヒツ	
848	8B①・直線下部→直線上部	浅フ・口縁部	横状彫子 (*外面スチ付着?)	ナク	内面赤褐色付着物	
849	8B①・直線・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	単輪彫(筋) 面付 (*外面スチ付着)	ミダキ	直線・直線・直線ヒツ	
850	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: R縞付/肩: 筋状帯の上にRコ→示形状刺突	ミダキ	外面スチ付着	
851	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	筋状彫子 (*外面厚塗ヒツ)	ナク	編織・内面幾何的ヒツ	
852	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 上段彫付/肩: 筋状列?	ナク	外面吹きこぼれ	
853	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 口字彫突列(肩付?)・単輪彫(?) 筋付/肩: R縞コ?	ナク	直土編織面入	
854	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 口字彫付(口縁部筋部) / 肩: R縞コ? (*吹きこぼれヒツ)	ナク	編織・吹きこぼれ	
855	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 口字彫付・高い筋帯の上に示形文? / 肩: 高い筋帯に斜付/肩: R縞コ	ナク	直土編織・石灰入	
856	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 口字彫付 / 肩: R縞付 / 筋: 竹管状筋突列 / 肩: R縞コ・ナク	厚塗	編織・口縁部・ナク	
857	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 口字彫付 / 肩: R縞付 / 筋: 竹管状筋突列 / 肩: R縞コ・ナク	ナク	編織・吹きこぼれ	p.207
858	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 口字彫付 / 肩: R縞付 / 筋: 半段竹管状筋突列 / 肩: R縞コ・ナク	ナク	直土編織・石灰入	
859	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 口字彫付 / 肩: R縞付 / 筋: 半段竹管状筋突列 / 肩: R縞コ・ナク	ナク	直土編織・石灰入	
860	8B①・直線下部→直線上部	深鉢・口縁部	口: 口字彫付 / 肩: R縞付 / 筋: 半段竹管状筋突列 / 肩: R縞コ・ナク	ナク	直土編織・石灰入	

第178図 縄文土器(76)



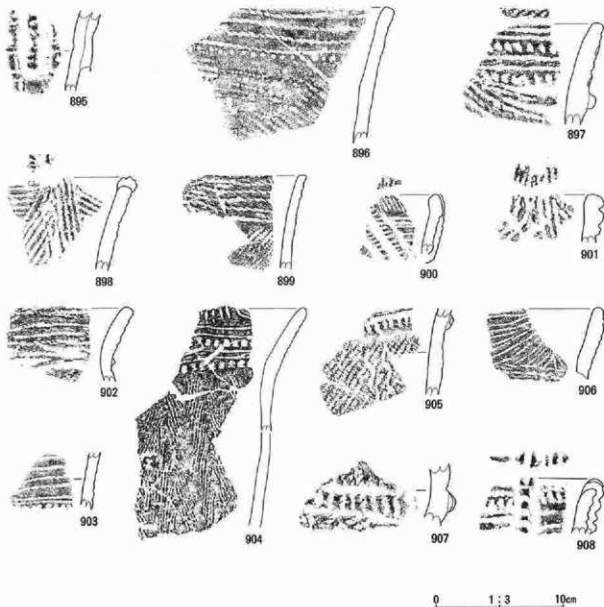
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・彫琢など)	内面(溝痕など)	備考	本文記載
861	8B①・B層下部～C層上部	深鉢・口縁部	口：上段斜行/直・平直竹管状工具による斜交列→ナデで一括消してある	エガキ	縁部・折り返し口縁	
862	8B①・B層下部～C層上部	深鉢・口縁部	口→側：上段斜行・斜・伸等上に斜交列/直/直・縁部除いたナデ	ナデ	縁部・折り返し口縁	
863	8B①・B層下部～C層上部	深鉢・口縁部	口：折廻り/直：半直竹管状工具による斜交	エガキ	折上縁部、石蔵人	
864	8B①・B層下部～C層上部	深鉢・口縁部	上段斜行	エガキ	折上縁部進入	
865	8B①・B層下部～C層上部	深鉢・口縁部	折り返し口縁・上段斜行(※折上縁部スリ目・下の縁口縁部から折返す)	ナデ	内面縁部進入、スス	
866	8B①・B層下部～C層上部	深鉢・口縁部	上段斜行・口縁部エガキ	エガキ	折上縁部進入	
867	8B①・B層下部～C層上部	深鉢・口縁部	上段斜行(縁部上凸)	ナデ	縁部・外スス、半直竹	
868	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	上段斜行・半直竹管状工具による斜交列	ナデ	内面や半直竹	
869	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	上段斜行	ナデ	内面エガキ	
870	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	口：上段斜行(縁部上凸)/直：上段斜行	ナデ	縁部・内面厚底	
871	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	口→側：上段斜行・折に際して高めの縁部、斜行で縁部の/直：上段斜行	ナデ	縁部・内面厚底	
872	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	上段斜行	エガキ	折上縁部	
873	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	口：上段斜行/直：高めの縁部に際して(※縁部除いた)直：上段斜行、ナデ	ナデ	縁部・内面厚底	
874	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	口：上段斜行/直：平直竹管状工具による斜交列(※縁による灰色発色)	ナデ	縁部・外縁による厚底	
875	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	口：上段斜行(縁部上凸)・縁部/直：上段斜行	ナデ	折上縁部	
876	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	口：上段斜行(縁部上凸)	ナデ	縁部・内面厚底	
877	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	口→側：上段斜行・折に際して高めの縁部、斜行で縁部の/直：上段斜行	ナデ	縁部・外スス、半直竹	
878	8B①・B層下部	深鉢・口縁部	上段斜行	エガキ	折上縁部	
879	8B①・1層(既補土)	深鉢・口縁部	口：上段斜行/直：高めの縁部に際して(※縁部除いた)直：上段斜行、ナデ	ナデ	縁部・内面厚底	
875	8B①・1層(既補土)	深鉢・口縁部	口：上段斜行/直：平直竹管状工具による斜交列(※縁による灰色発色)	ナデ	縁部・外縁による厚底	
876	8B①・1層(既補土)	深鉢・口縁部	口：上段斜行(縁部上凸)・縁部/直：上段斜行	ナデ	折上縁部	
877	8B①・1層(既補土)	深鉢・口縁部	口→側：上段斜行・折に際して高めの縁部、斜行で縁部の/直：上段斜行	ナデ	縁部・外スス、半直竹	
878	8B①・1層(既補土)	深鉢・口縁部	上段斜行	エガキ	折上縁部	

第179図 縄文土器(77)



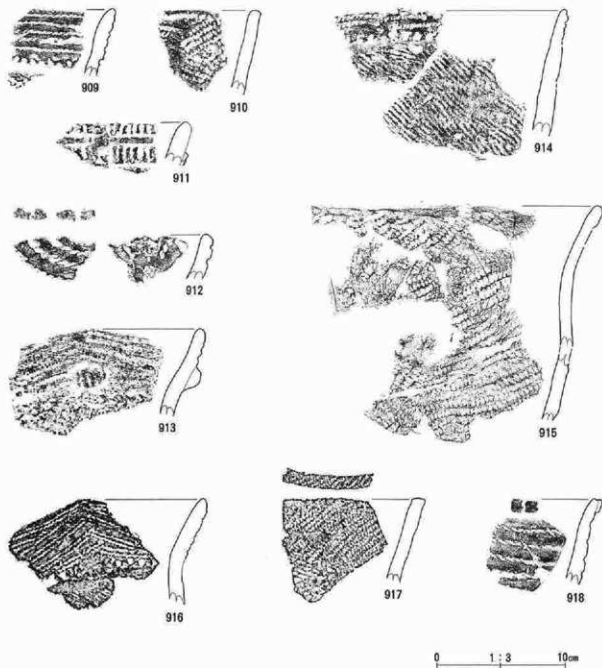
No	出土地点・層位	器種・部位	外 観 (文様・裝飾、地文・原形など)	内面 (溝型など)	備 考	本文記載
879	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口縁：LRココ/口：LR斜行/面：粗直線 (LR, RL) ココ並列交互に	ミガキ	粘土遺存品入	
880	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口縁～口：LR直/面：粗直線斜線に並列交互に (LR, RL) ココ	ミガキ?	編織・内外スス	
881	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：LR直 (除帯上も)・面：高めの隆帯 (押圧跡)	ナデ	粘土遺存・外スス	
882	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	縁飾 (R) ココ (+LRココ?)	ナデ	編織多・内外縁飾	
883	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	深いC字形斜交列・単線飾1 (R?) 復正	ナデ		
884	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：LR直/面：粗直線斜線/高めの隆帯に深から深の斜交/面：LRココ	ナデ	粘土遺存品入	
885	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：LR直/面：LRココ//粗直線/斜交～口	ナデ	粘土遺存品入	
886	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口縁：深いナテ/口～面：粗直線/粗直線に	ミガキ?	編織?・外/内スス	
887	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：LR直/面：深いC字形斜交 (右側面にのみ?)	厚土	編織・外/内スス	
888	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR斜行	ナデ	粘土遺存品入	
889	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：LR直 (隆帯上も)・隆帯下無文/面：LRココ (: 突起部隆帯?)	ナデ	外面口縁部スス付着	
890	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	突起部隆帯のみ (*外面隆帯)	ミガキ		
891	8B③・Ⅲ層上層	深鉢・口縁部	LR斜行 (隆帯上も)・突起部は口縁部も	ナデ	内外スス付着	
892	8B③・Ⅲ層中層	深鉢・口縁部	口縁：深いナテ/口：単線飾 (R) 斜行	ナデ/厚	外スス, 中スス	
893	8B③・Ⅲ層中層上	深鉢・口縁部	口：LR直/面：隆帯に押圧 (何らかの圧痕で編織状)	ナデ	編織・884と同一	
894	8B③・Ⅲ層中層上	深鉢・口縁部			892と同一	

第180図 縄文土器(78)



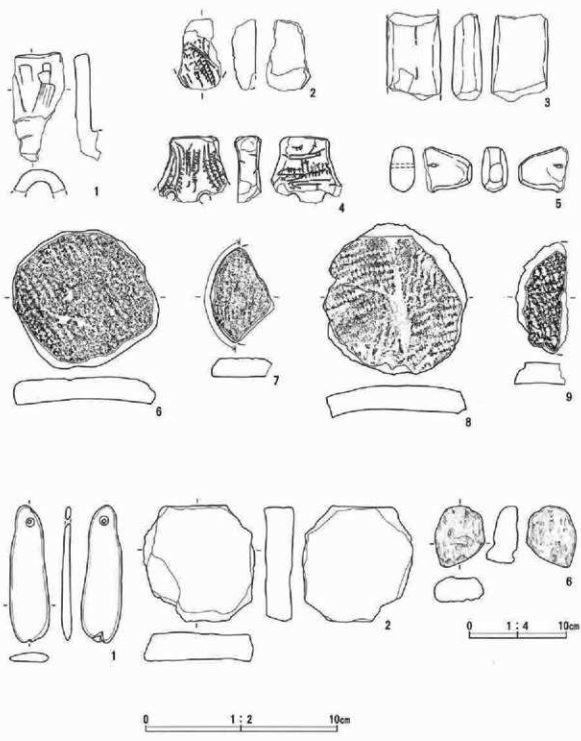
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(調整など)	備考	本文記載
895	8B④・I 繩紋輪土	深鉢・口縁部	LR 網正字(高い縁部上も) (*厚状しているため不明)	ナデ	縁部剥離	
896	8B④・I 繩紋輪土(1/25), Ⅱ層(2/3)	深鉢・口縁部	口: LR 網正字/底: 竹筒状突起/肩: LR ナナシ・(※外周縁部、表面剥離)	ナデ	縁部・口縁部残心あり	
897	8B④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口内: LR コ/口: LR 網正(縁部の上も?)・底: 竹筒状突起(削片?)	ナデ	縁部・外周縁部はしり	
898	8B④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口内: 網正(突起状のみの口縁部も)	ナデ	縁部・外周縁部はしり	
899	8B④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口内: 網正ナナシ/口: LR 網正/肩: LR コ	ナダ	胎土繊維混入	
900	8B④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口内: 網正/口: LR 網正	ナダ	外周縁部	
901	8B④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	LR 網正(突起は1部部も)	ナデ	胎土石混入	
902	8B④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口: LR 網正/前: 突起状(胎土まくれ)/肩: LR コ	ナデ	縁部、右・吹きこぼれ	
903	8B④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口: LR 網正/肩: 竹筒状突起(削片?)	厚状	縁部・外周縁部剥離	
904	8B④(縁部剥離)	深鉢	口: 太く浅めの突起、斜交/肩: 準輪縁A (R) ナナシ	ナデ	吹きこぼれ・内周縁部	p.207
905	8C①・I 層	深鉢・胴部	肩: 隆帯上にLR 網正/肩: LR コ→胎部 (R) ナナシ	ナデ	外周縁部・縁部	
906	8C①・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口縁部 (*平の突起は口縁部からの剥離(無須かまぼこ状))	ナデ	胎土繊維・内周縁部	
907	8C①・Ⅱ層	深鉢・口縁部	LR 網正(縁部上も)	ナデ	胎土繊維	
908	8C①・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口内: LR 網正/口: LR 網正(縁部上も)	ナデ	胎土繊維・内周縁部	

第181図 縄文土器(79)

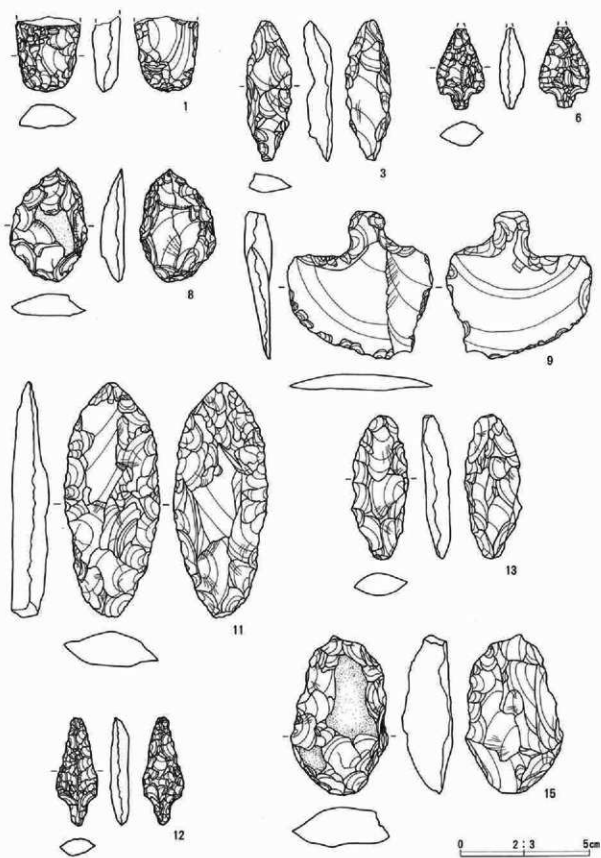


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・肌理など)	内面(調整など)	備考	本文記載
909	8C①・壺類	深鉢・口縁部	口縁部斜紋//口縁部斜紋/直線・中世以前斜紋/裏目斜紋(LRヨコ)	ナデ	遺跡・外入式、中厚底	
910	8C志付谷・I層(前期土)	深鉢・口縁部	口縁ナデで突出//口縁斜紋?・LRヨコ、タテ	ナデ	粘土層埋没入	
911	8C志付谷・I層(前期土)	深鉢・口縁部	LR斜紋	ナデ	残部消失	
912	8C志付谷・I層(前期土)	深鉢・口縁部	内面~口:LR直字斜紋	ナデ	粘土層埋没入	
913	8C志・B層	深鉢・口縁部	LR?斜紋(全面吹きこぼれあり不明)	ナデ	朝・朝子(北、北)	
914	8C志・B層	深鉢・口縁部	口縁部斜紋//口:加輪紋(直)斜紋/斜:斜紋?/斜:LRヨコ	たたれ	粘土層埋没・外入式	
915	8C志・壺類	深鉢・口縁部	LRヨコ、タテ	ナデ	遺跡・外入式、折高	
916	8C志塚山段塚	深鉢・口縁部	口:LR、LR斜紋/側:深のD字斜紋・斜付文斜紋/斜:LRヨコ	ナデ	粘土層埋没・外入式	
917	8C志塚山・直筒	深鉢・口縁部	口縁~口:LRヨコ	ナデ	粘土層埋没入	
918	8C志・壺類	深鉢・口縁部	LR斜紋(後部上も)	1片+	粘土層埋没入	

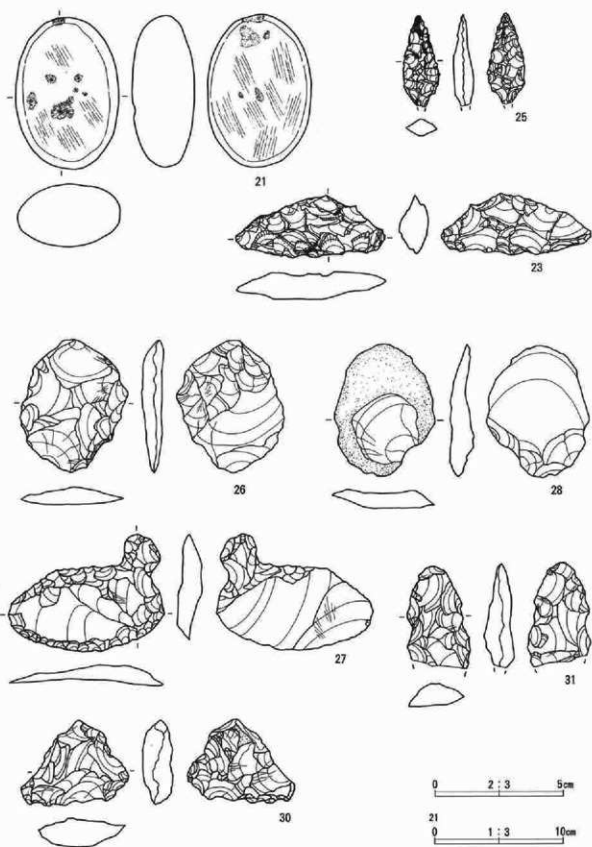
第182図 縄文土器(80)



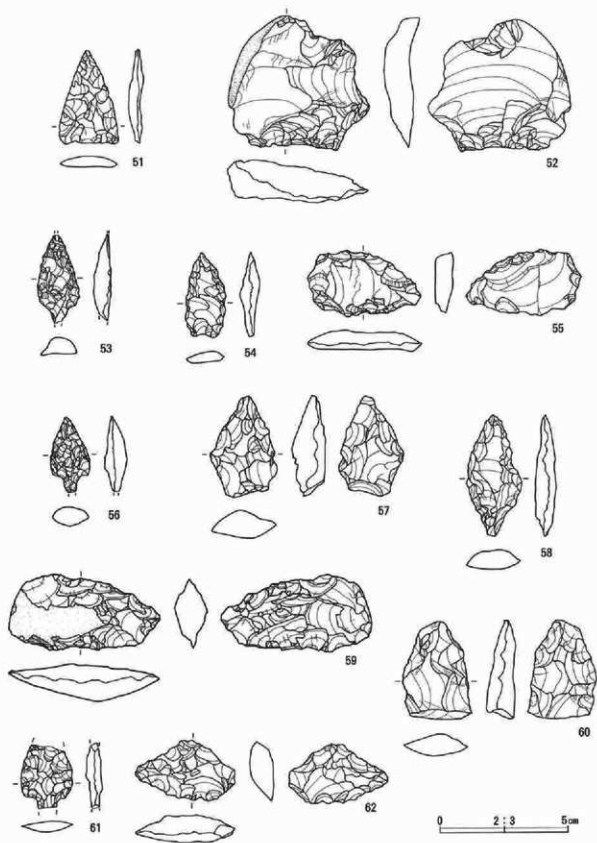
第184図 土製品・石製品



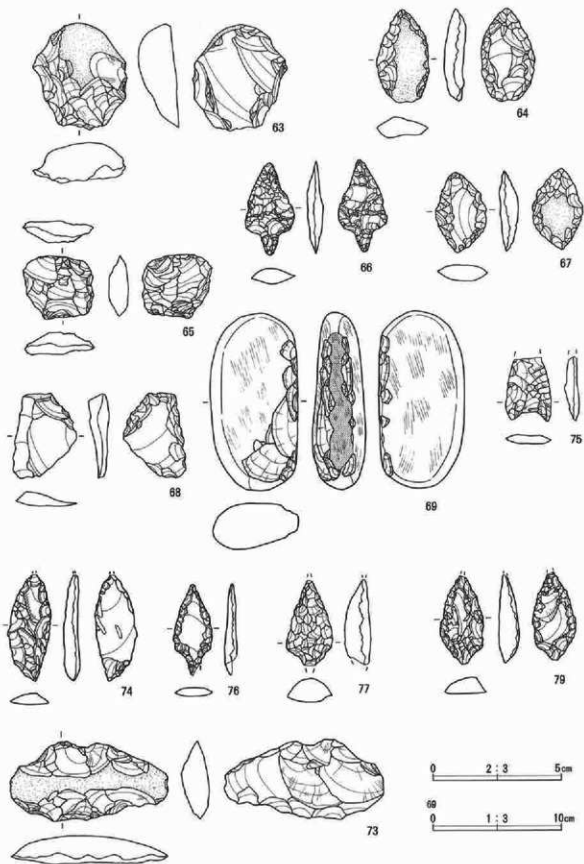
第185图 石器(1)



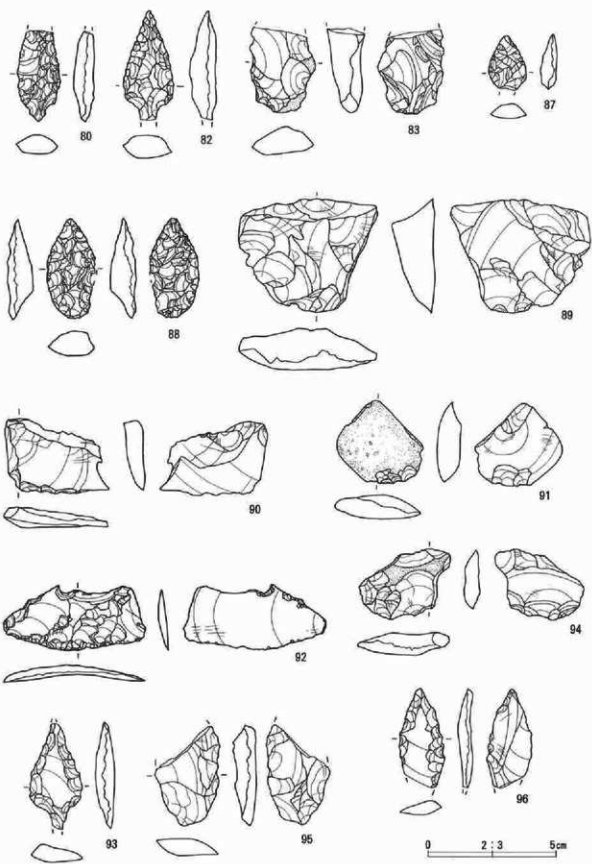
第186圖 石器(2)



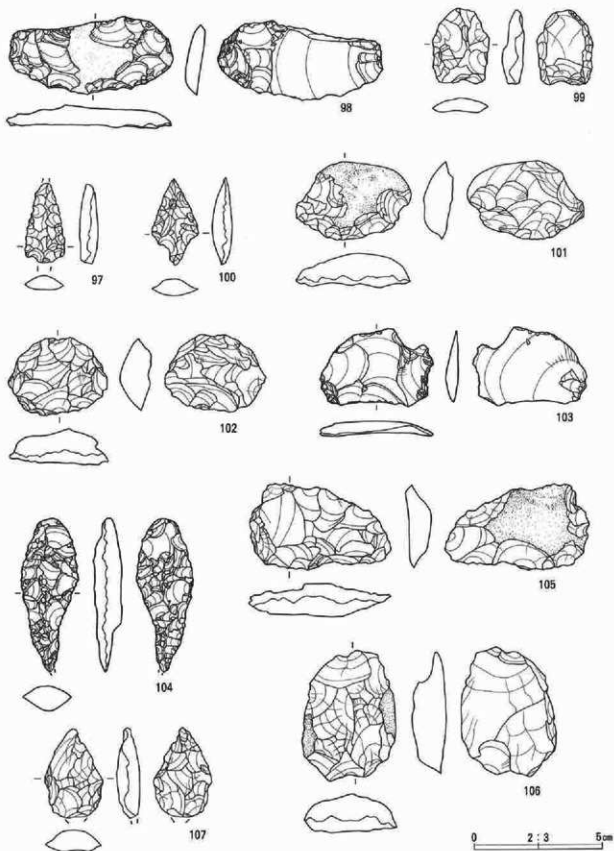
第188圖 石器(4)



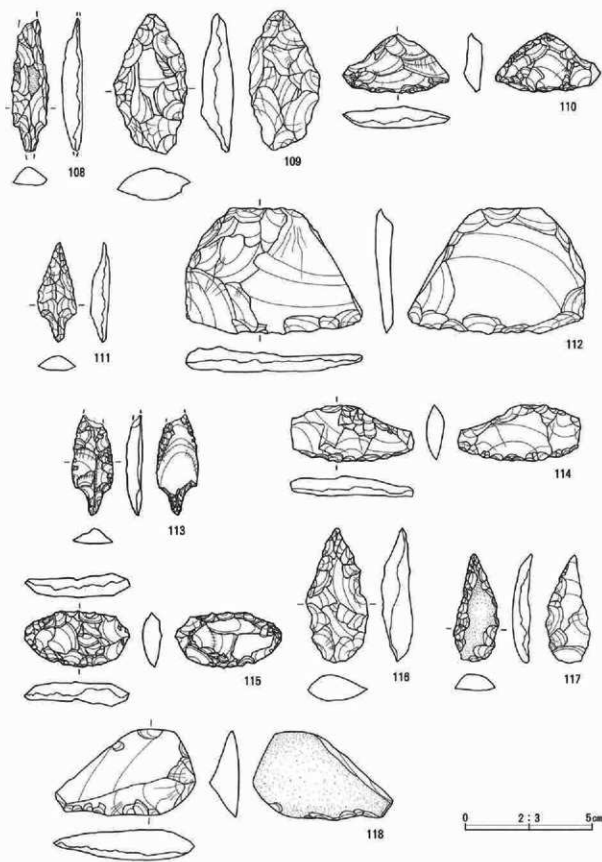
第189図 石器(5)



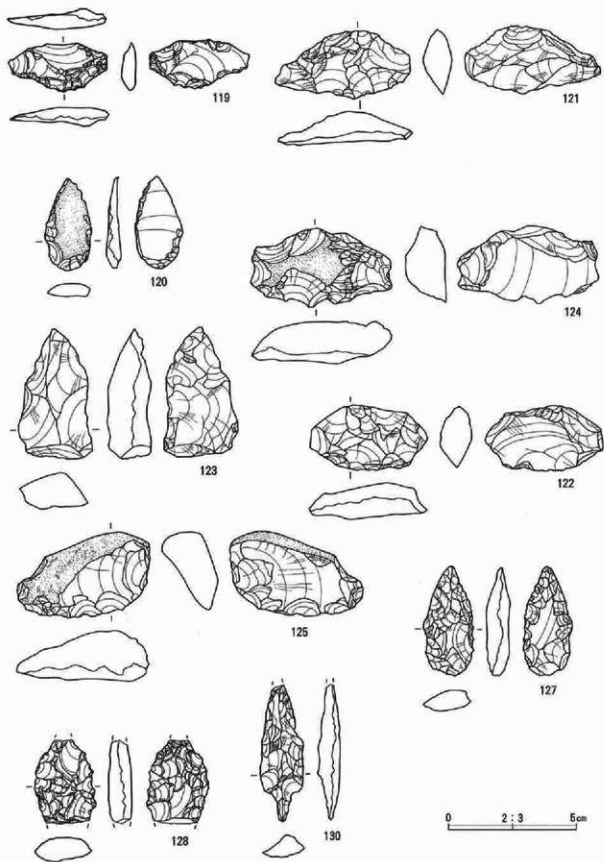
第190圖 石器(6)



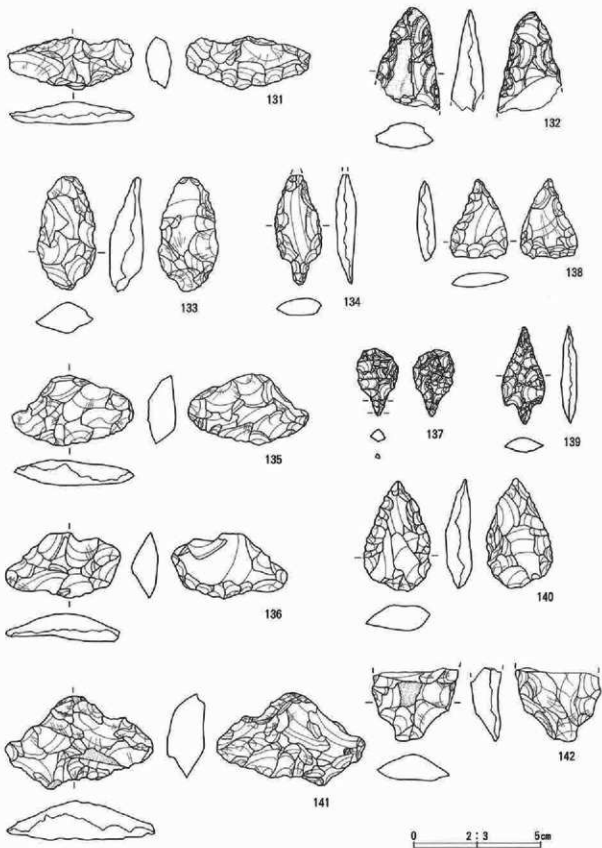
第191圖 石器(7)



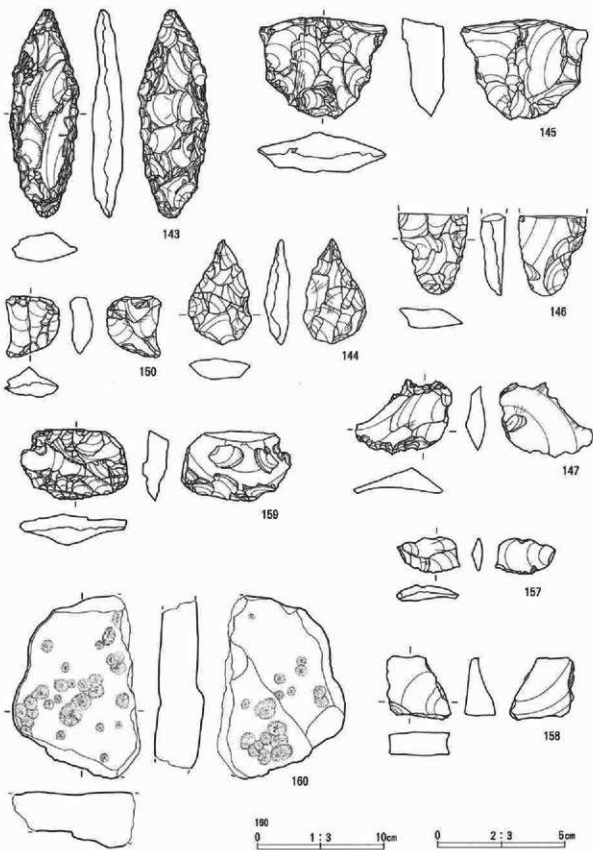
第192圖 石器(8)



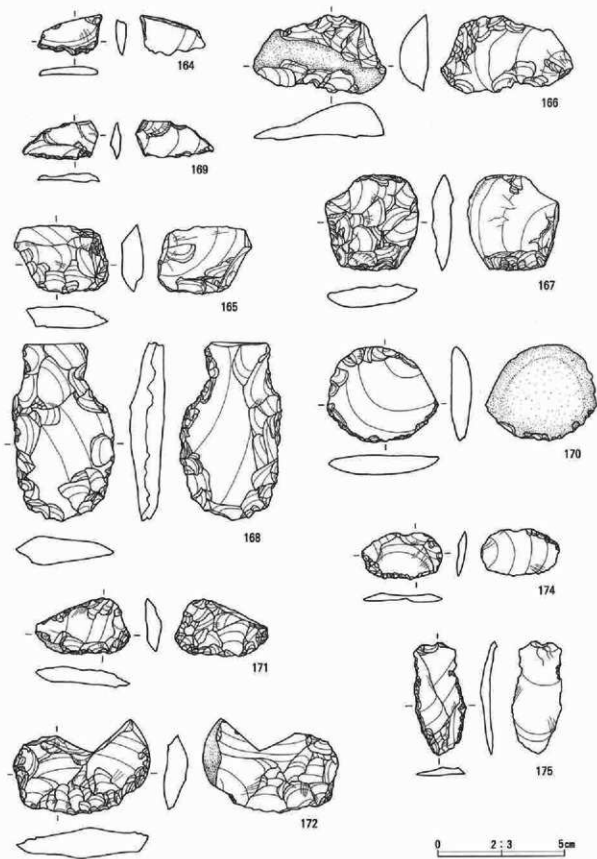
第193图 石器(9)



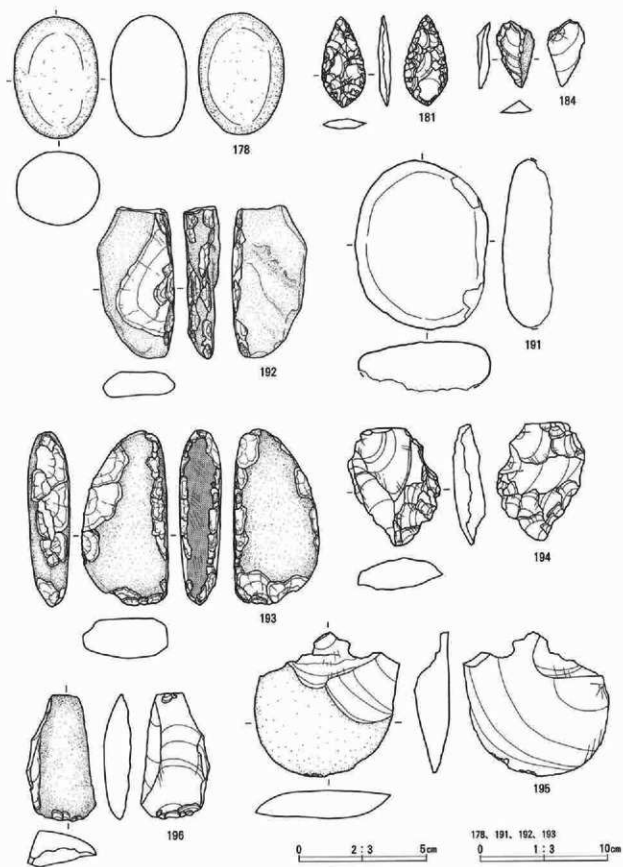
第194圖 石器(10)



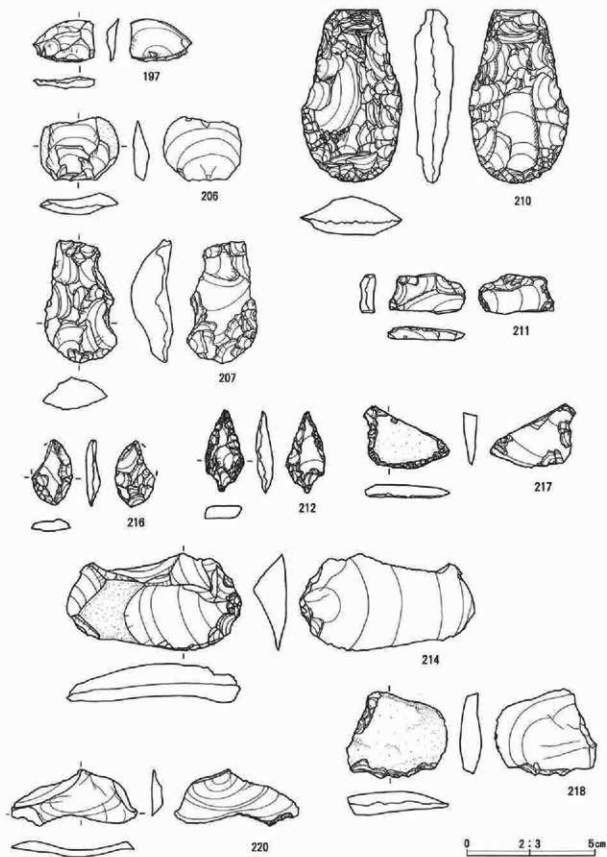
第195图 石器(11)



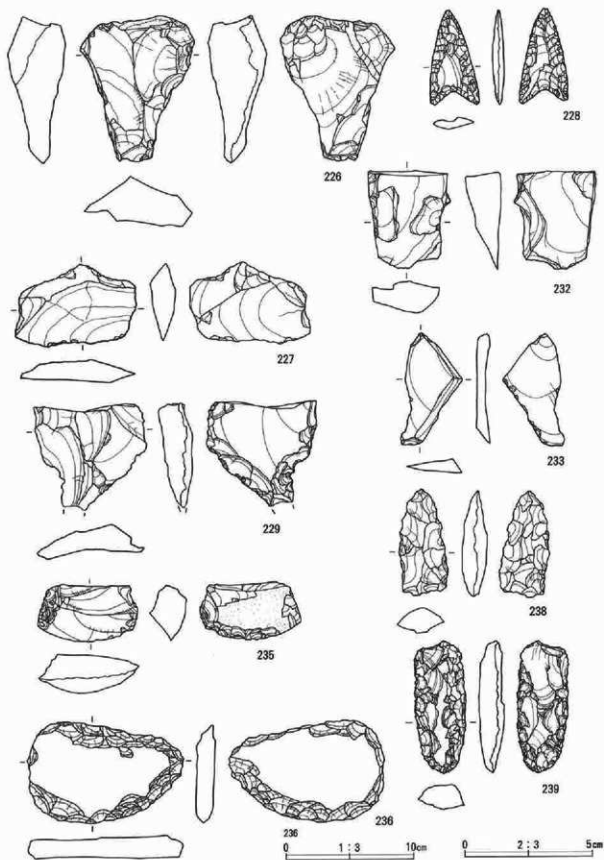
第196圖 石器(12)



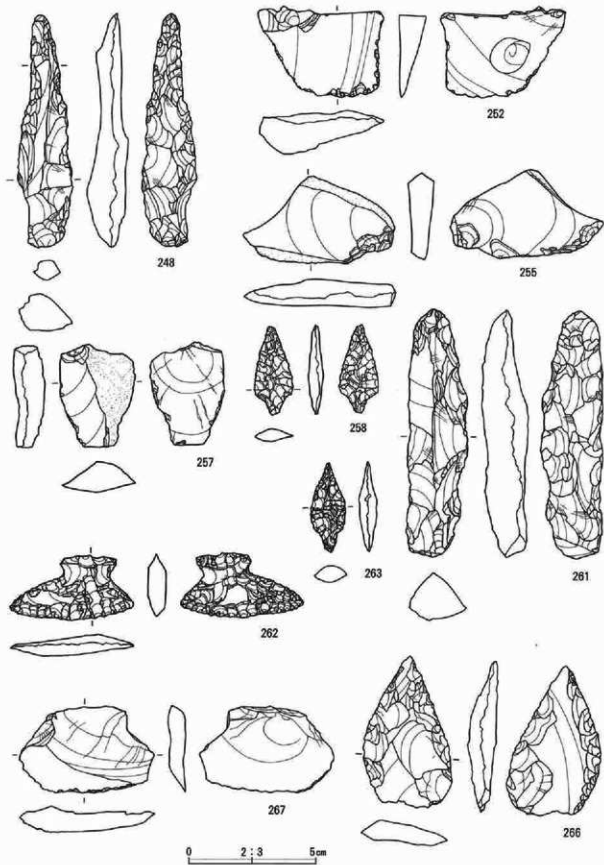
第197図 石器(13)



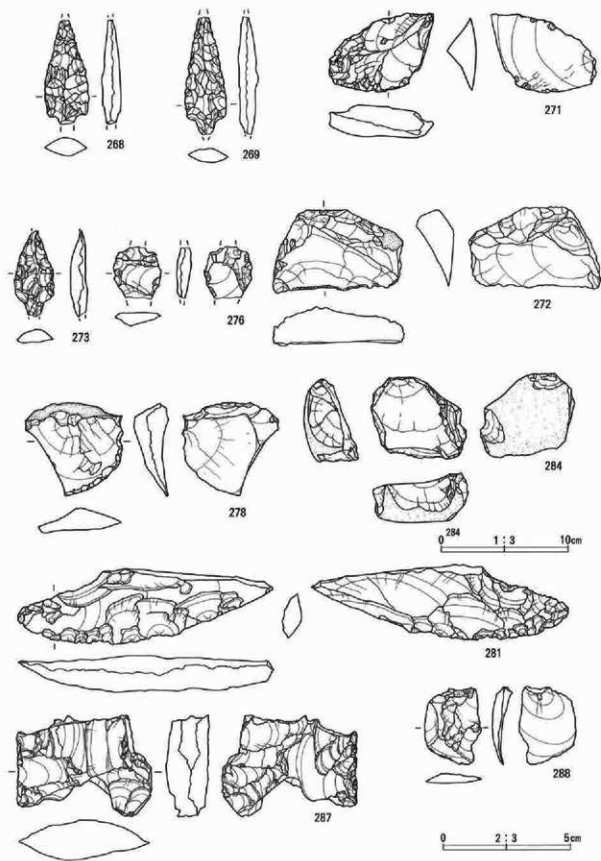
第198图 石器(14)



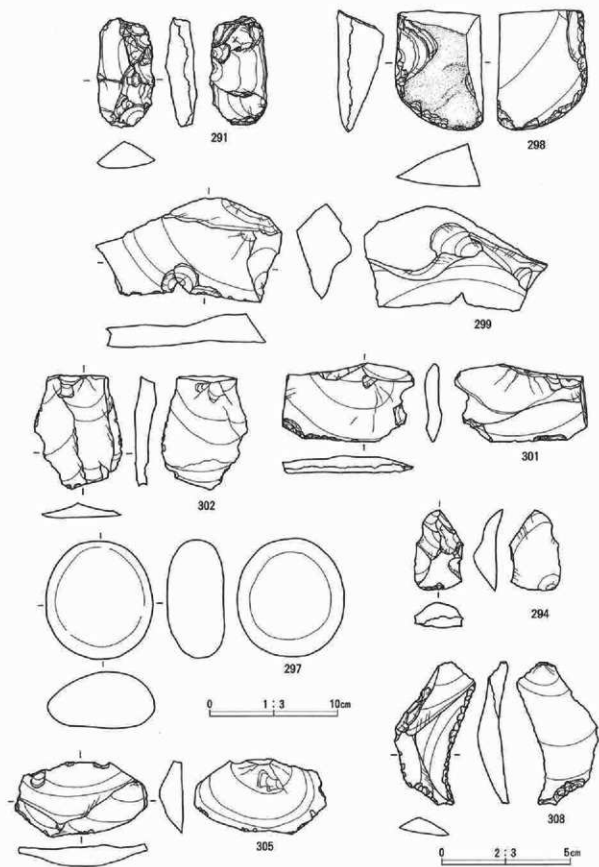
第199图 石器(15)



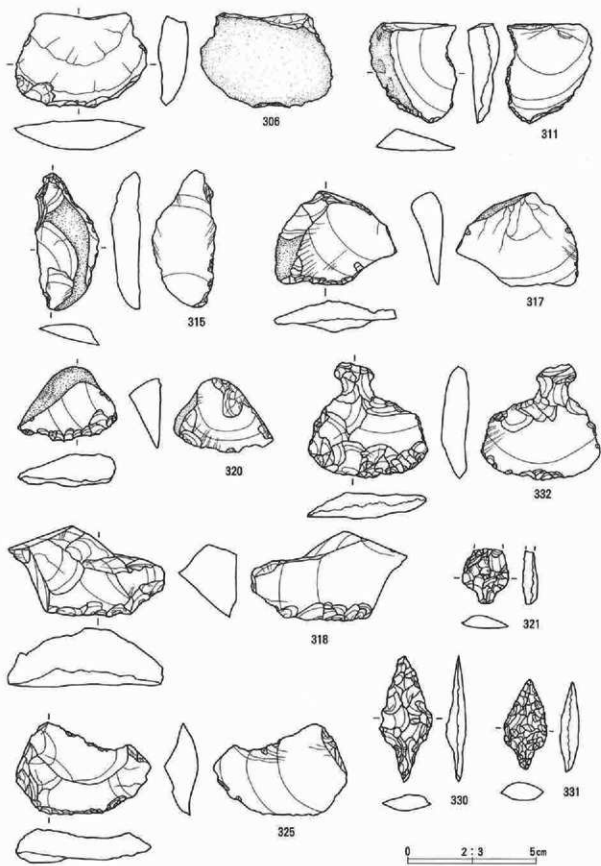
第200图 石器(16)



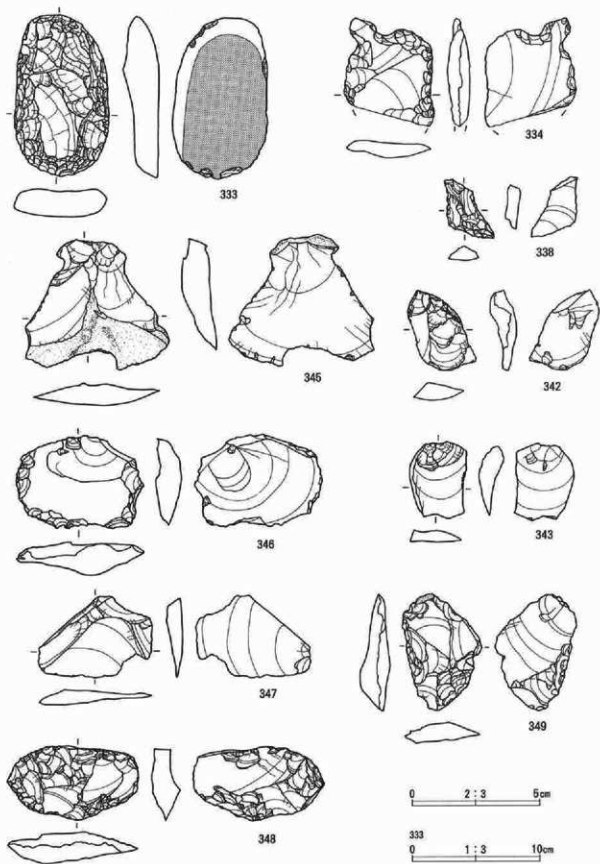
第201圖 石器(17)



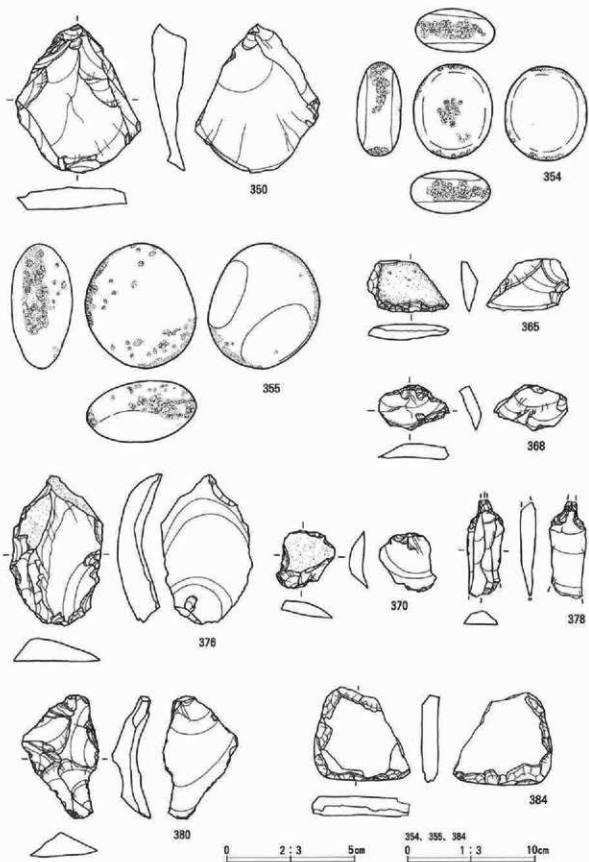
第202图 石器(18)



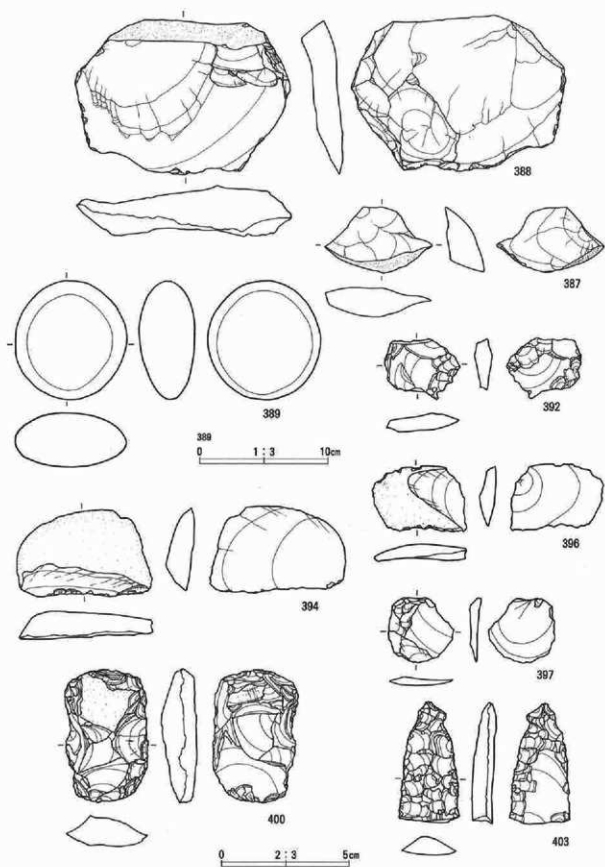
第203圖 石器(19)



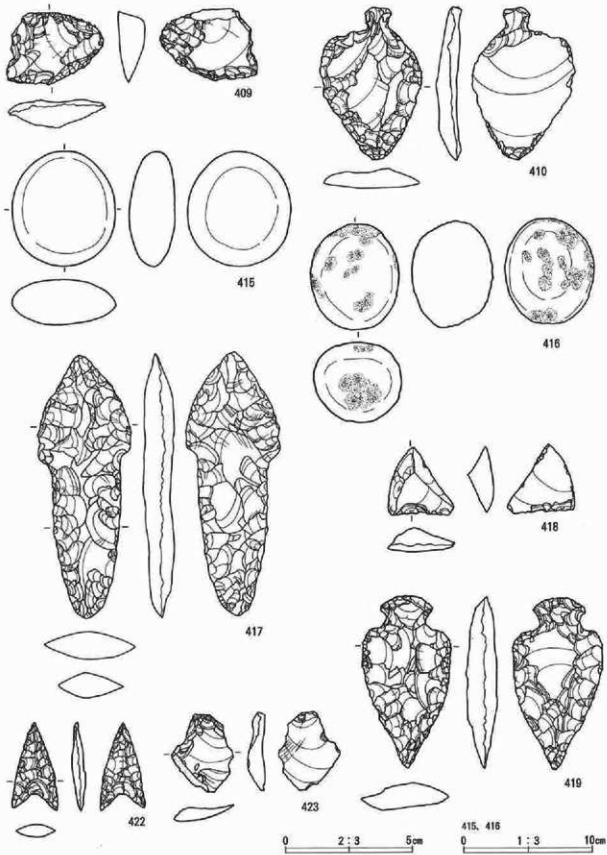
第204图 石器(20)



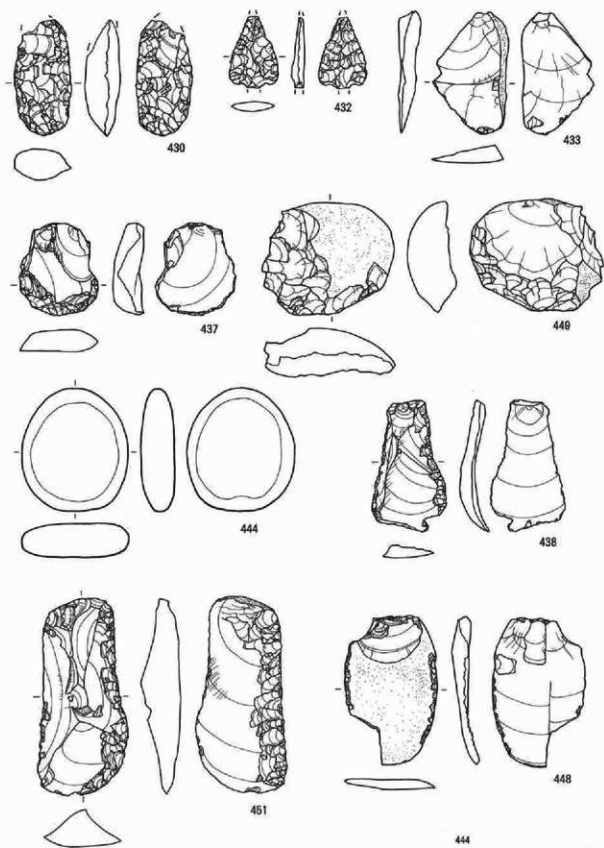
第205図 石器(21)



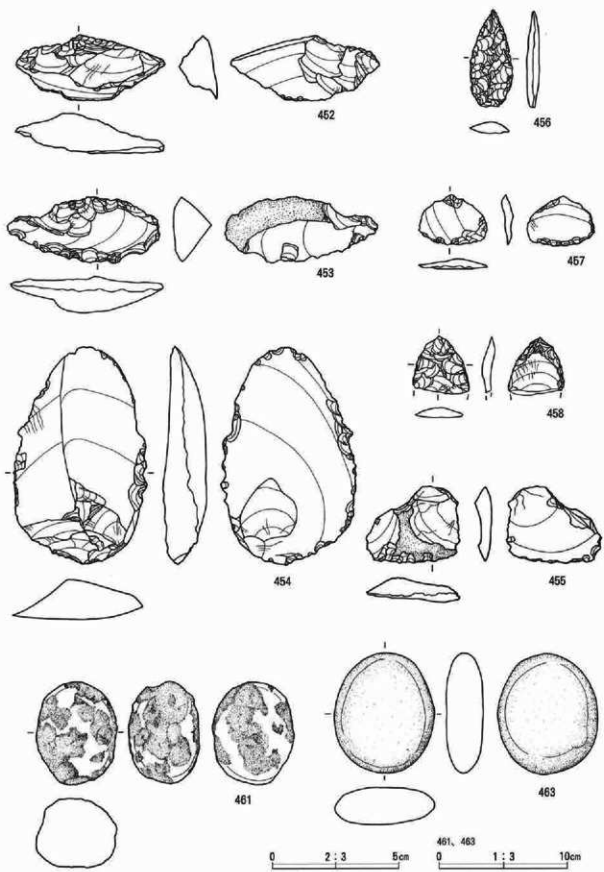
第206图 石器(22)



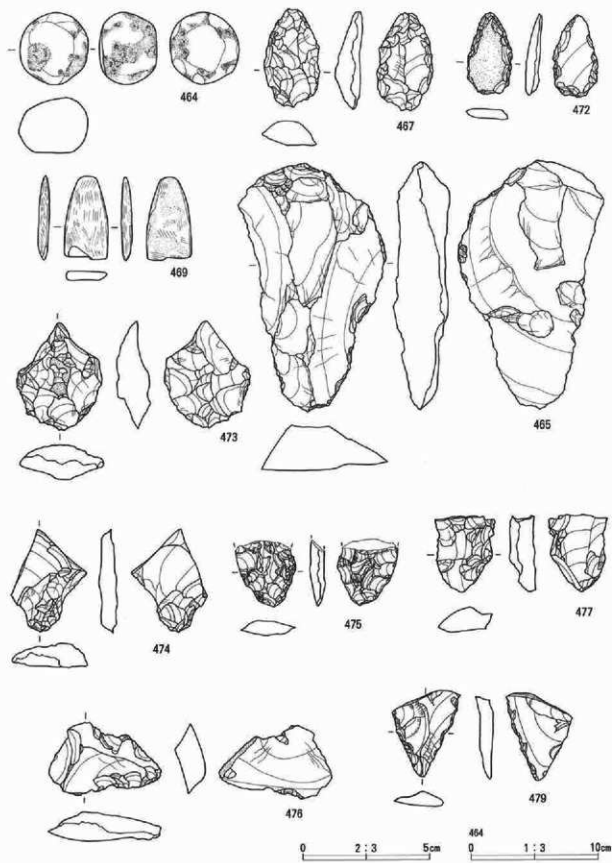
第207圖 石器(23)



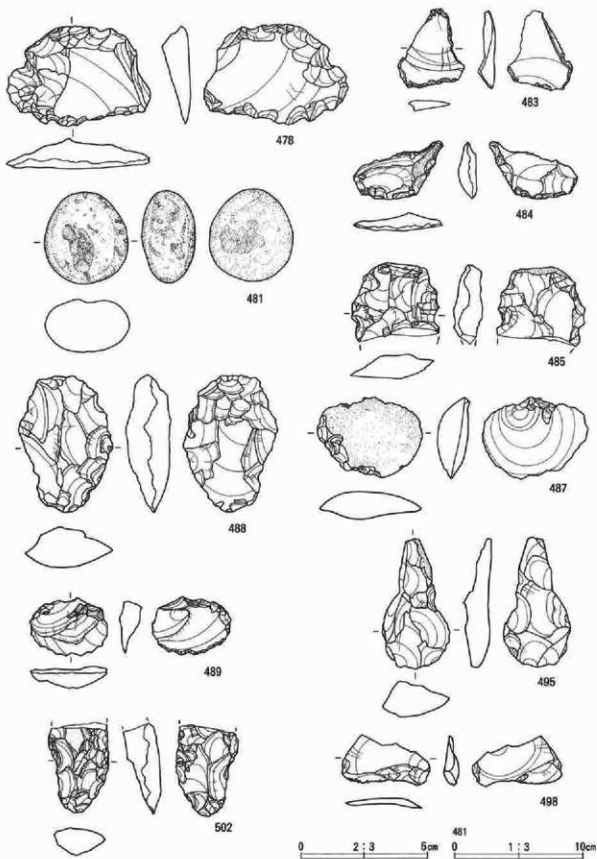
第208图 石器(24)



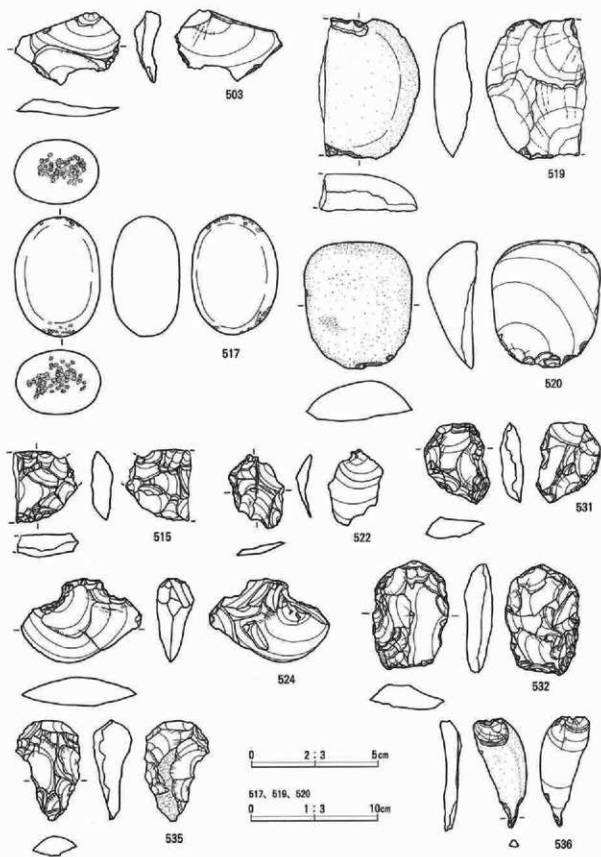
第209圖 石器(25)



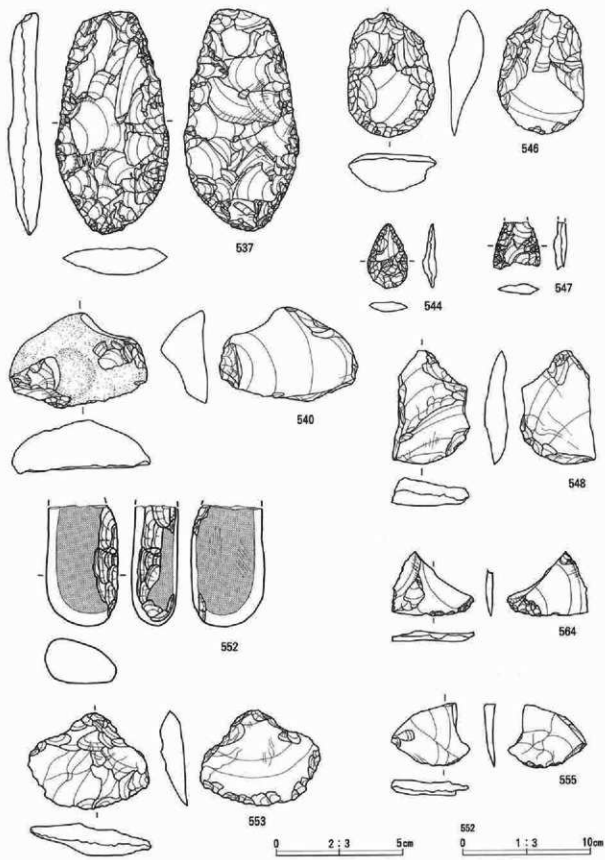
第210图 石器(26)



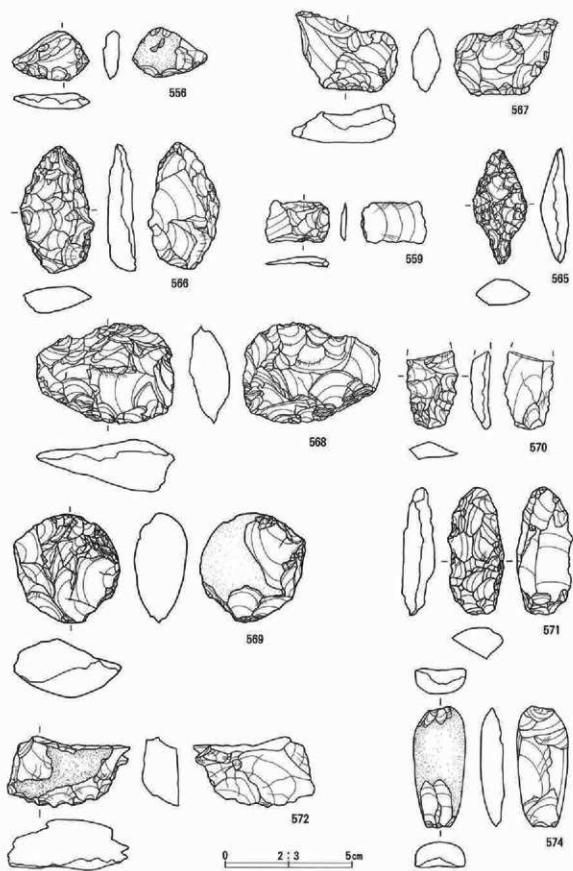
第211圖 石器(27)



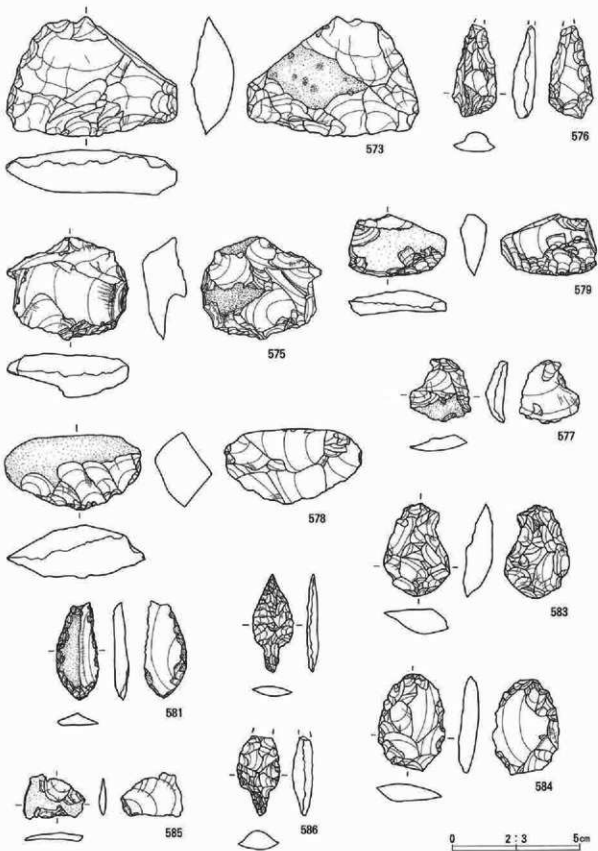
第212圖 石罈(28)



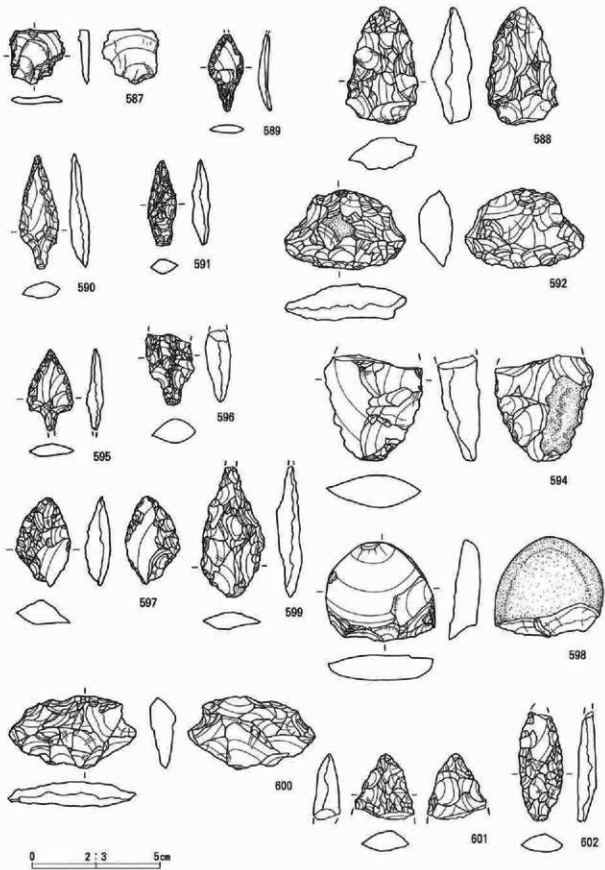
第213图 石器(29)



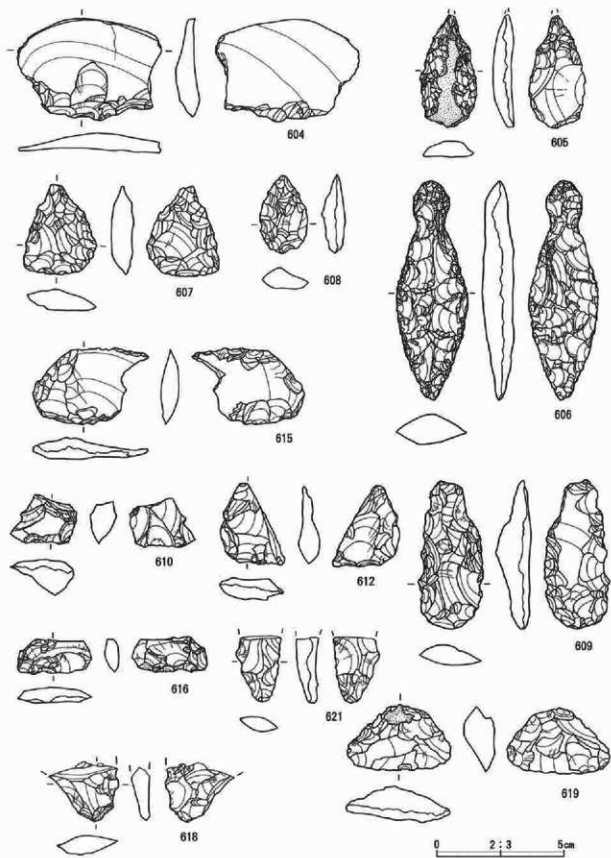
第214圖 石器(30)



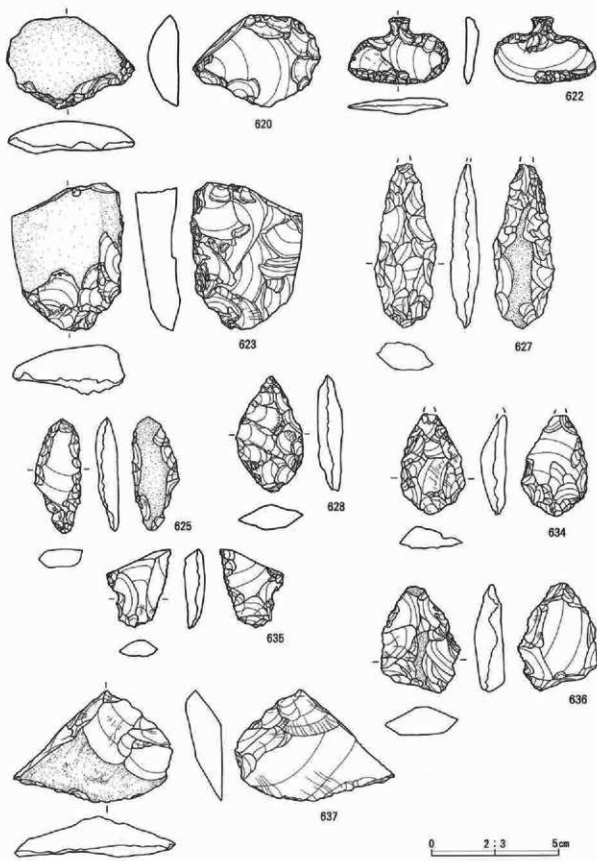
第215圖 石器(31)



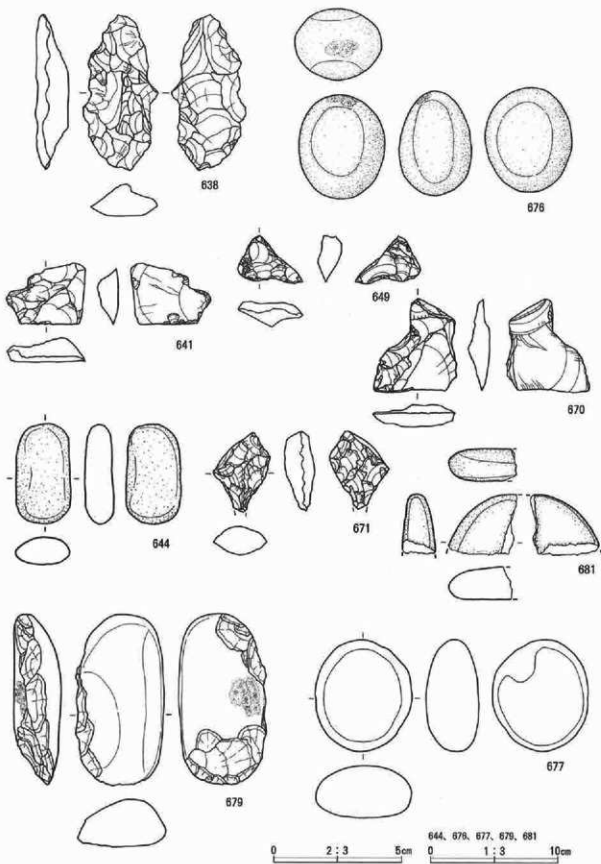
第216图 石器(32)



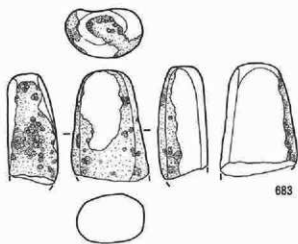
第217图 石器(33)



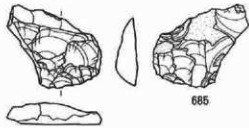
第218圖 石器(34)



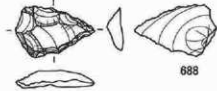
第219図 石器(35)



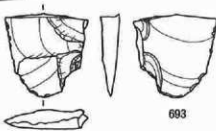
683



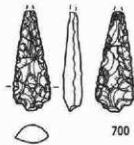
685



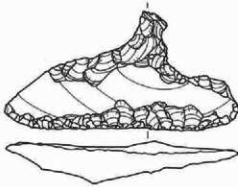
688



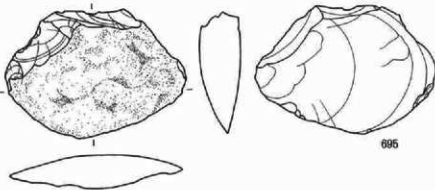
693



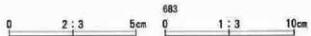
700



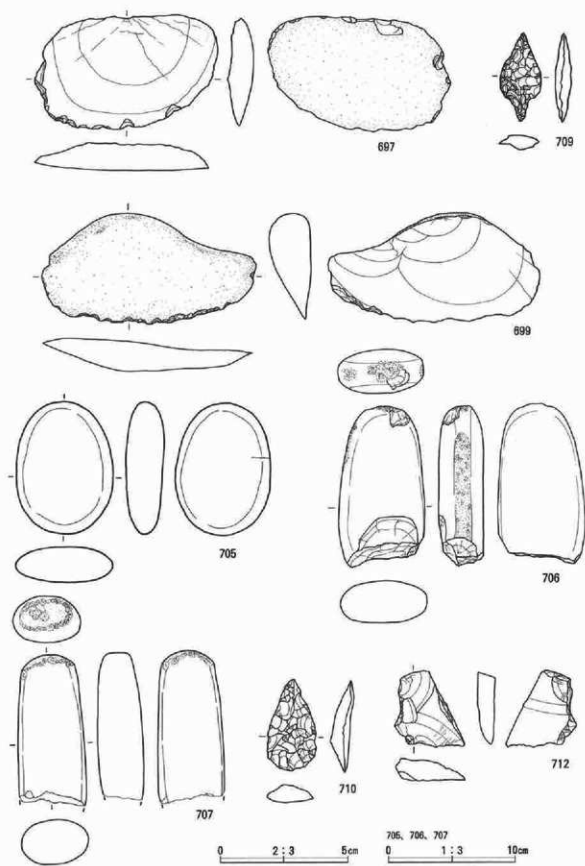
694



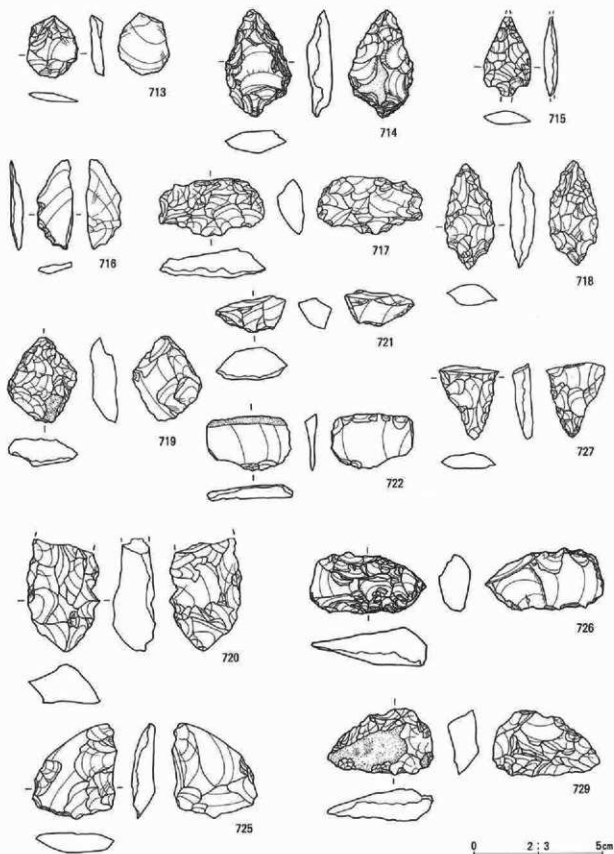
695



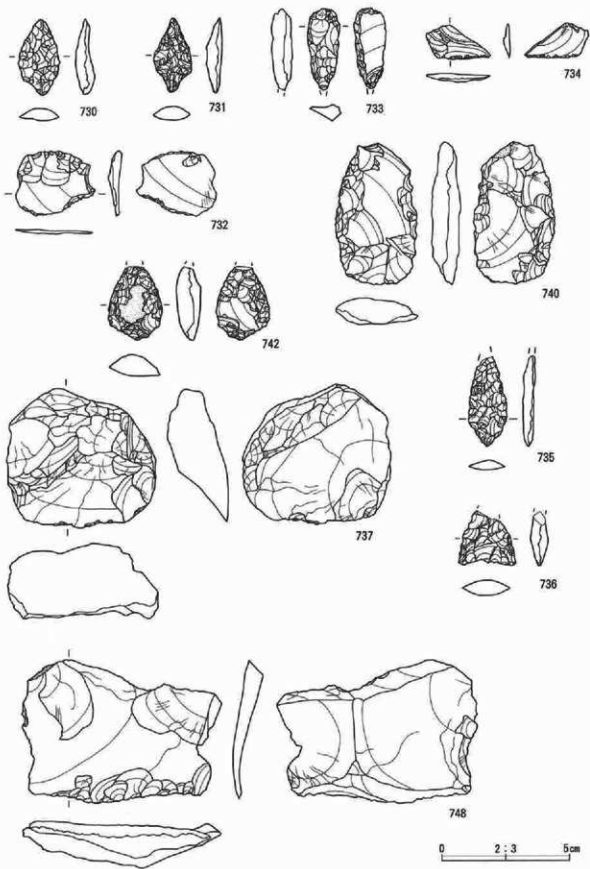
第220圖 石器(36)



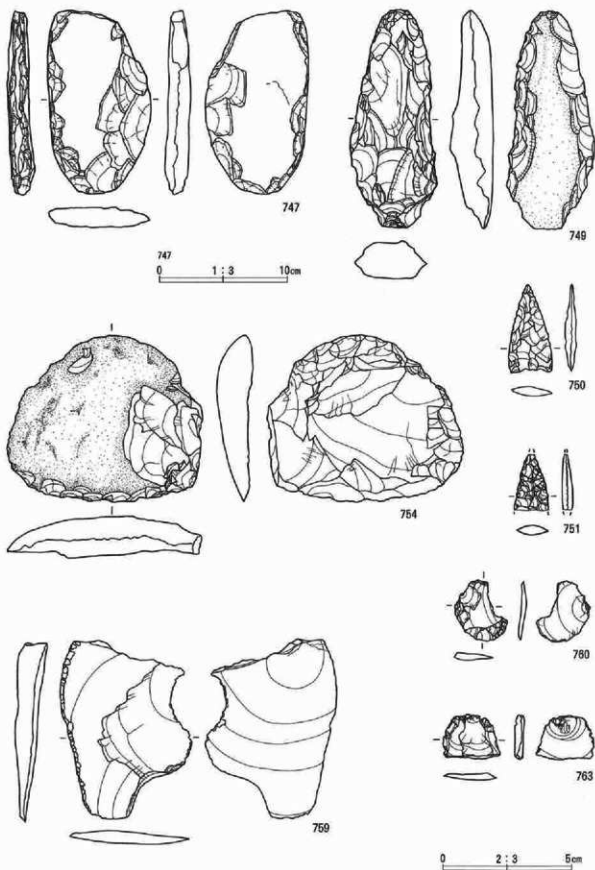
第221図 石器(37)



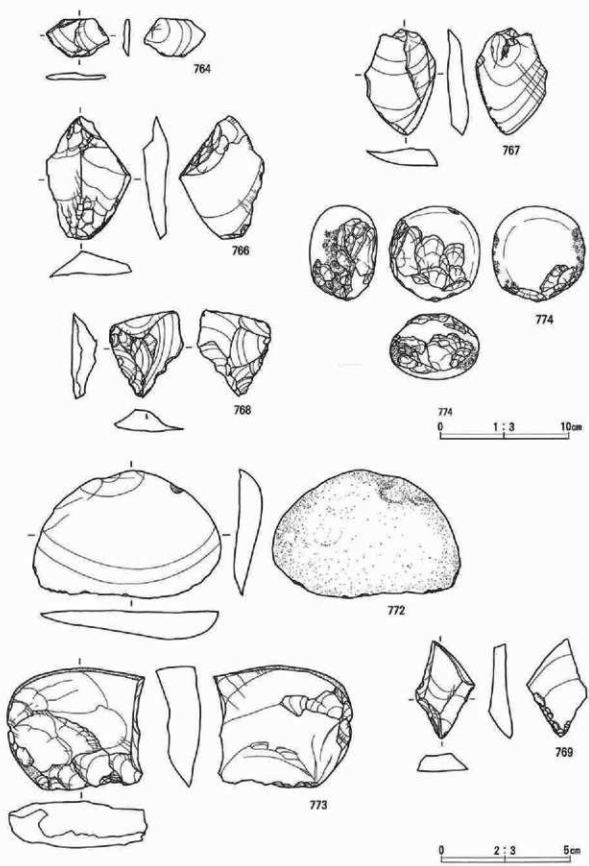
第222圖 石器(38)



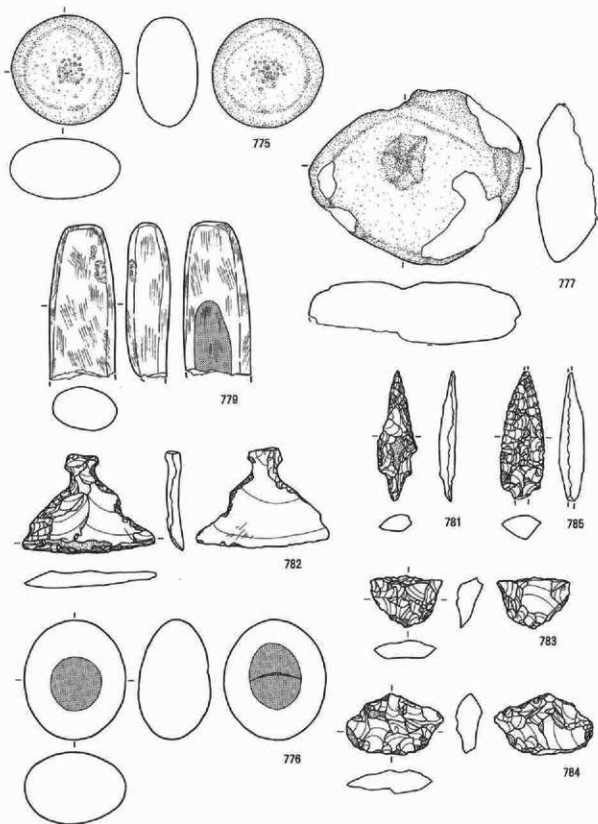
第223图 石器(39)



第224图 石器(40)



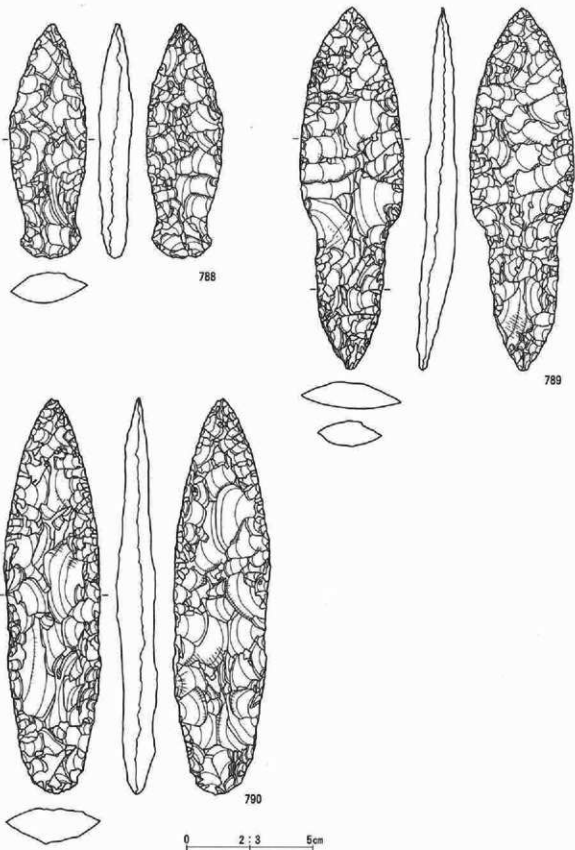
第225圖 石器(41)



775, 776, 777, 779
0 1:3 10cm

0 2:3 5cm

第226圖 石器(42)



第227图 石器(43)

VI. 考 察

100基近くと今回の調査で最も多く検出されたフラスコ状土坑について考察を加え、フラスコ状土坑をめぐる諸問題について考えてみたい。

1. 平清水Ⅱ遺跡のフラスコ状土坑 (第1表～第3表)

(1) 位置

右下の空白部分はあるが、基本的には調査区全域に見られる(第6図～第7図)。西側調査区の北端は、段丘崖になっており、遺跡の北縁と考えて良いと思われる。フラスコ状土坑は、ほぼ北縁まで広がっていたということになる。分布には多寡が見られ、多重重複する地点もあれば、空白域になる地点もある。幾つかの群に分かれることは明白である。

(2) 平面形

全体的な比較が可能なのは、底面形だけである。基本的にはほとんどが円形で、その中に幾つか楕円形に近い不整形が認められるが(第1表底径欄の○×△と記されている土坑)、第66号?、第68号土坑は、はっきりした楕円形である。

開口部の形が確認できたものはほとんどない(第1表備考欄)。上場が確認されたものも原形を留めている場合は極めて少ないと判断されるが、断面形がフラスコ形を呈するものはそう考えても良いであろう(後述)。第3号、第33号、第42号、第50号、第69号、第70号土坑が相当するが、42、69、70号は、調査上の問題で開口部の形を掘っていない。その他の開口部の形は、底面と同じ円形を主体とするようである。

(3) 規模

これも、全体的な比較が可能なのは、底径だけである(第1表)。これを規模ごとに示したのが第2表である。1.5～1.9mの間に87基の約6割を占める54基がある。1.5mと1.8mの二つのピークがあるとも見ることができよう。1.9m以上より大きなものは比較的多様で、最大3mのものまで見られる。

(4) 断面形

断面形は、今回調査した遺構の特徴から大きく三つに分けた(埋め戻し穴の部分を除く)。口が外反するフラスコ形(1類)、首はあるが口ははっきりしない富士山形(2類)、口も首もない台形(3類)である。左右非対称であったり形が崩れているもの(他に比べて幅が広いものも含む)については、それぞれ1'～3'類とした(第1表)。2'類の中には、一見3類に見えるものがあるが(第84号土坑)、他の3類に比べて深く形も三角形に近いことから、2類の屈曲部(首)がはっきりしないものと判断した。

今回の調査では、貯蔵穴様のある程度の規模と深さを持つ土坑にピーカー形は検出されていない。このことから、本文は全て同じ形態であったものが、削平の度合いによって3つの形に分かれているのではないかと示唆された。

そこで、検出位置と断面形の相関性を検討してみると、東側調査区(水路部分)では確かにそのような傾向が読みとれる(第6図)。この部分は、法面になっており南側が大きく削平されている。1～2類は、斜面上方である北側にしか認められていない。他の場所でも、概ね1類のそばには2類、3類のそばには2類と、同様の傾向が見られる。1～2類土坑に隣接する第5号土坑が3'類なのは、古代の堅穴生厩跡に削平されているためであろう。

しかし、2～3類土坑に囲まれた第33号土坑は1類である。第1号住所と重複し、その床面から検出された第42号土坑が1類である。西側の調査区(2～8グリッド)は、南側は水田造成時に削平を受けているが北側は受けていない。しかし、土坑の断面形は必ずしもこの傾向を反映していない。これらのことから、断面形は、削平によって影響を受けるが、もともと深さによって異なっていた可能性が高い。

(5) 深さと断面形

言うまでもなく検出面からの深さである。最深が第69号の2.2m、最も浅いのが0.4mで4基ある。

前項の検討結果を受けて、断面形と深さの相関性を探ってみた(第3表)。1～3類には、それぞれ1'～3'類を含む。確かに、深いものは1類、浅いものは3類、中間は2類という傾向が読みとれる。

しかし、この傾向にやや外れた数値を示すものがある。1類では、深さ1.1mの第63号、1mの第50号土坑で、浅いのに1類である。第63号は、1類とはしたが他と異なる形態で、口は外反しても首はないに等しく、1類に含めるのがそもそも間違いないのかも知れない。第50号は、断面形はフラスコ形としか言えないが、規模が非常に小さい。2類では、深さ1.6mの第36号、1.8mの第56号、1.9mの第52号土坑が、他から外れている。何れも幅が広く大規模な崩落を窺わせる。底径も大きく、もともとの規模も大きかったようだが、3類では、深さ1.3mの第52号土坑が他から外れている。本土坑は、はっきりした埋め戻し穴を持ち、そうでなかったら2類であった可能性もある。

以上から、第52号土坑はやや苦しいが、それ以外は合理的な原因が見つめられた。その結果から、前項で得た仮説は「本遺跡のフラスコ状土坑は、規模が同じなら、断面形は深さによってほぼ決まる」と改められる。小規模なら浅くてもフラスコ形になり、大規模なら深くてもフラスコ形にならない場合があるということ、ただし後者は崩落による可能性が高い。

規模と深さによって、断面形が変わる理由は何か。次節で解釈してみたい。

(6) 底面施設

副穴あるいは小溝が確認された土坑は、97基中43基ある。これは、例えばほぼ同じ時期の宮城県小梁川遺跡などと比べて極めて高い比率だが(159基中1割以下。村田 1987: p.424)、どうして、持つ土坑とない土坑があるのか。他の属性との相関性は? 何れも残念ながら読みとれることはできなかった。

興味深い施設?として、「貼り壁」が認められた。これは、他土坑と重複する部分の底面に地山土を貼って補強したもので、第68号土坑にのみ見られた。

(7) 覆土

調査時には何れも同じパターンの土層を日にし簡単に類型化できると考えていた。ところが、いざ類型化しようとする、そう簡単ではない。炭化物を含み黒っぽい色を呈するか、地山土の再堆積か、埋め戻し土かという点も含めて類型化しようとしたが、容易でないことがわかった。

結局、ブロック状に層が分かれるか、広がりを持つかという違いに注目し、上から下までブロック状に分かれ全体がモザイク状を呈するもの(A類)、広がりを持ち一様で極端に水平に堆積するもの(D類)を両端に置き、その中間をB、C類とした。B、C類は、何れも下層がブロック状でなく広がりを持つもので、薄い層が何枚も堆積する1類と、比較的厚い層が、少なく堆積する2類とに分けた。B類とC類の違いは、上の層の違いで、上がモザイク状になるものをB類、上が広がりを持つものをC類とした。

D類のうち、ほぼ水平に堆積しているものをD1類、やや斜めになる(曲線を描く)ものをD2類とした。D1類は、C2類と区別しにくくなるが、D2類は厚さが比較的均質なもの、C2類は一律でないものである。B1類、C1類のうちには、最下層がある程度ブロック状になるものも含んでいる。言うまでもなく、

第1表 フラスコ状土坑一覧表

名	位置	取深(m)	径(m)	断面形	底面形	掘土	埋め戻し	遺物出土状況	時期	重複	備考
1	3D~E	1.8	0.9	2'		B2?			前末~		
2	2D	1.6	1.1	2'	副穴?	A			前末~		上場直径0.9mの円形
3	2D	1.7	1.5	1'	副穴? 溝?	B		下層、多量の土器片	下層?		上場直径0.9mの円形
4	2D	1.3	1.5	1'	副穴?	C2?	1~1階跡				上場直径1.7×1.4mの楕円形
5	2D	1.5	0.8	3'	副穴	A		中層、半完成土器	前夜?		上場1.2×1mの楕円形
6	2D										他と異なり割愛
7	3C~D	1.8	1.4	2'	副穴	Dい	○		前中?		
8	3D	1.5	0.8	3'		B1?		底面直上、土器破片	前中?	47・78	
9	3D	1.8×1.6	0.6	3'		Dい?				8~9?	
10	3D	1.5×1.4	0.9	3'		B1?				8? 10	段・上場直径1m円形
11	3D	1.7	0.4	3'	?	B2?		下層、半完成土器	前夜半?		
12	3C~D	不明	1.1	2'	副穴	A		底面直上、完成土器	下層?		
13	3C~4D	1.6×1.3	0.9	2'	副穴?	A		下層、半完成土器	下層?	13・14	上場直径0.9mの円形
14	4C~D	1.8	0.7	3'		B2			前夜?	13・13?	上場1.2×1mの楕円形
15	4C	1.8	1.2	3'		C		底面直上、土器破片	前末~	14・15?	
16	3~4C	1.5	?	不明	副穴	Dい		上層、下層、土器片	前夜?	15? 16	上場直径0.9mの円形
17	4D	1.8	1.2			A			前夜?		上場0.8×0.6mの楕円形?
18	4D	1.5	0.5	3'	副穴	A			古い?		赤銅式土器片
19	4D	1.9?	0.7	3'		C1					
20	4D	1.7?	0.7	3'		C1					
21	4C	1.8	1.1	2'		A			前夜半?	21? 23	
22	4C	2.3×2	1.1	2'		B1&C1			前末~		
23	4C	2.2×1.9	1.2		副穴	B2		底面直上、大きな土器片	下層?	21? 23	
24	1~5C	2.5	1.2	2'	or2	B1			前中?		
25	5C~D	2.4	1.1	2'		B1	×(自然)	中層、土器片多い	前末~	25? 26	埋め戻し穴・上場、5×1.3mの円形
26	5C	2.6	1.4	2'		B1		底、製鉄炉土器遺物	前中?		
27	5C	2.4×2.1	0.8	3'		A?		底面直上、土器片、製鉄炉土器遺物出土	前末		掘り方?・上場1.7×1.8m楕円
28	5C	2.7	1.3	2'		Dい?			前末		上場直径1.7×1.7不整
29	5~6C							上層?土器片出土			不確かのため割愛
30	5~6C										不確かのため割愛
31	5~6C	2.2	1.1	2'		Dい			前夜半?	14上? 35	
32	5D	1.1?	0.9	2'	?	B2			前夜半?		
33	5D	1.6	1.5	1'		B1			前夜半?		上場直径0.9mの円形
34	5D	1.1	0.5	3'	副穴	A		底面直上、完成土器	前夜半?		土器は、押しつぶされて出土
35	5C~D	1.4	0.9	2'		A			前夜半?	18	上場直径0.5m円
36	6C	2.6	1.6	2'	or2	C1		中~下層、土器片、石山	前中		
37	6C~D										大至分調査範囲外のため不明
38	6C	1.3?	0.8	3'		A				38・78	
39	6C	2.1×1.3	1.3	2'	副穴?	C2	上層(人)			38・前?	
40	6C	2	1.5	不明	副穴	不明				38・前?	
41	6~7C	1.8	1.1	2'		C1	×(自然?)		前末?		堀り方?・上場1.7×1.8m楕円
42	6C	1.6	1.5	1'	副穴	C2&D					底白色土層
43	6~7C	1.5	1.2		副穴	Dい?			前夜?	38・11?	
44	6B~C	1.4	0.9	2'	副穴?	Dい?			前夜?		掘り方?・上場1.7×1.8m楕円
45	7B~C	1.3	1.2			B1		埋め戻しに土器片多い	前夜?		
46	7C	1.5?	0.9	不明		B2?			前末~	45~48	段・上場0.6×0.6mの楕円
47	7B~C	不明	1.7	3'		A			前夜?	47~60	？葉重複?
48	7B	不明	0.8	2'		C1&B2		北壁直く、土器多め	前夜?	45~48	埋め戻し穴・崩落ひどく不明
49	7C	1.5	1.1	2'	副穴	C1	×(自然?)		前末?	49, 51	
50	7C	1.3	1.1	2'		C2?			前末~	51・78	上場直径0.5m円
51	7C	不明	0.6	2'		C2?			前末?	51・78	埋め戻し穴?不明
52	5B	2.1	1.3	3'	副穴	A		上~完成、中~完成土器	前末~		埋め戻し穴
53	8~7B	1.9	1.2		副穴	C1					上場1.1×0.8m楕円
54	7B	1.7	1.2		副穴	B			前後半		上場直径0.9m不整円
55	7B	2.2	1.3	2'	?	C1		上層土器片多い	前末?	55・56	底面直上、上場1.1×1.1mの不整楕円
56	7B	2.5	1.8	2'		C2		中層、大きな土器、半完成土器	前後半	55・57	埋め戻し穴
57	7A~B	1.6	1.3		副穴	B2			古い?	56? 57	上場直径1.1m・早~前土器片
58	7B	1.6	0.9	2'	副穴	B2		中層、大きな土器片	前末?		上場直径0.8m不整円
59	7A~B	1.5×1.2	0.4	3'		B~D		半完成土器	前末?		
60	7A	1.7	0.7	3'		C2					上場1.3×1.2mの不整楕円
61	7~8A	1.8×1.5	0.4	3'	副穴	B~D					上場1.8×1.2mの円
62	7A~8B	1.9	1.2		副穴	C1					掘り方?・埋め戻し穴・上場1.3×1.3不整楕円
63	8B	2.1	1.1	1'	小副穴	C1			前末?		
64	8B	2.5×2.3	1.4	2'		C1			前末~	48・56?	埋め戻し穴?・上場2×1.7m楕円

名	位置	径(m)	深さ(m)	開口	形状	覆土	土質	遺物	土器	時期	重複	備考
65	8B	1.5	0.5	不明	B-D					前後半	24-40	やや異なる型
66	8B	1.5	0.4	不明						前後半	24-40	異なる型
67	8B	1.8	0.8	不明	C1			下層、大きな土器片		中層?	11-12	
68	8B	2.8	1.2	不明	Dあ					中層?	11-12	段・上場2.2×0.8m長楕円
69	8A	2.2	2.2	不明	B1			下層、多量の土器片		前末		10層、半円形に復元
70	8A~B	1.5	1.7	不明	C2?	全て				前末		>23層
71	8B~C	2	1.3	不明	B1?					前末		
72	8B~C	1.8	1	Z or 2	B2					72-34?		上場1.2×0.8の不整楕円
73	8C	1.8	1.1	Z	C2					73-56層		段?・埋め戻し穴??
74	7C	1.3	0.7	不明	副穴	不明						
75	7C	1.9	0.8	Z	A?							
76	7~8C	1.6	0.7	Z	C2							
77	7~8C	1.6	0.7	不明	不明							
78	7D	1.9	1.3	Z	副穴	C1				78?79		上場直径0.5m円
79	7D	2.6	2.1	不明	C2					78?79		紙砂跡層
80	8C	1.9	1.7	不明	Dい?			中層、大きな土器片		前~初		
81	8C	1.7	0.9	Z	D1			上層?、半完形土器		前後~		
82	8C	3	1.2	Z or 2	B1					中層?		埋め戻し穴?
83	8D	0.9	0.8	Z	A					前後~		上場直径1.8mの円形
84	8C~D	1.7	1.3	Z	副穴	C1	○			前後~		上場直径0.9mの円形・底に土層
85	8C~D	不明	0.6	Z	B1?			下層、大きな土器片		中層		重複ひどい
86	8C	2.5	1.1	Z	C1?	下半				前後半		
87	8C~D	不明	不明	不明	不明					前後半		削平のため不明
88	8C	2.1	0.8	Z	副穴	A	○			前後半		
89	8C	1.9	1.7	Z	C1		○			前後半		通り方・上場直径1.5mの不整円
90	8C	1.5	1.3	Z	副穴	C1	△			前後半		
91	8C	1.5	1.3	Z	B1					前後半		
92	8~8C	1.8	0.5	Z	A?		○			前後半		
93	8C	1.8	1.4	Z	副穴	C1	○			前後半		
94	8~8C	1.8	0.6	Z	副穴	CかC	○					上場直径1.3mの不整円
95	8C	1.9	1.4	Z	副穴	C2?	上半			前後半		上場直径0.8m円形
96	8B~C	1.5	1.4	Z	C1	下半						
97	8B~C	2.3	0.6	Z	副穴	BかC	○					

第2表 フラスコ状土坑規模一覧表

径(m)	点数(基)	備考
0.9	1	
1		
1.1	1	
1.2	1	楕円形
1.3	4	
1.4	3	楕円形1
1.5	15	楕円形2
1.6	9	楕円形1
1.7	9	楕円形2
1.8	14	楕円形2
1.9	7	楕円形1
2	3	楕円形1
2.1	4	楕円形1
2.2	4	楕円形1
2.3	3	楕円形2
2.4	3	楕円形2
2.5	2	
2.6	2	
2.7	1	
2.8		
2.9		
3	1	

*93基のうち、規模不明な6基を除く。
*楕円形は、長径と短径の平均値。

第3表 フラスコ状土坑深さ一覧表(形態との相関)

深さ(m)	1型	2型	3型	不明	合計
0.4			4		4
0.5			4		4
0.6		1	5		6
0.7			6	2	8
0.8			4		11
0.9			7	1	10
1	1	6	2		9
1.1	1	10			11
1.2		4			4
1.3		7			8
1.4	1	5			6
1.5	3				4
1.6		1		1	2
1.7	1				1
1.8		1			1
1.9		1			1
2					
2.1					
2.2	1				1
	8	47	29	7	91

*93基のうち、深さ不明な2基を除く。
*1~3型には、それぞれ1'~3'類を含む。
*1型・フラスコ形、2型→富士山形
3型→台形

最下層が大きな広がりを持つことは、D類のような不自然な状態でない限り考えにくい。

以上の他、順序が逆になったが、全体として極めて特徴的な堆積状態を示すとして最初に注目したものがあり、これをⅡ類とした。まとめると、A類、B1類、B2類、C1類、C2類、Dあ類、Dい類、Ⅱ類に分けたことになる。

(8) 覆土と埋め戻し

前項の分類は、人為堆積か自然かある程度反映させようとして作成したものである。D類（特にDい類）は人為、B、C類は自然堆積を示すのではないかと推測し、A類も人為の可能性があると考えた（B類の上半も人為?）。

そこで、調査時の所見を横に示し（第1表）、対応する見えてきた。○は人為、△は人為の可能性のあること、×は自然堆積を示し、「全て」「上半」「下半」等の言葉は、人為堆積が認められる部分を示したものである。

削平されて当時の土層堆積状態が不明な地点が多く、人為かどうか見極めが付かなかったものがほとんどなので、はっきりしないが、第88号土坑以下を見ると対応しない場合の方が多い。

以下、人為と調査時に判断された土坑でC類と判断されたものをやや詳細に見ていくと、C2類とした第39号は、確かによく見ると層の厚さが均質で、Dあ類に含めた方が良かったかも知れない。C2類?とした第70号も、9層以外は層の厚さが均質である。C1類とした第84号は、層の厚さ自体は不均質だが、堆積方向が不自然である。C1類とした第89号は、最下層は薄く不均質だが、その上は確かに人為を疑わせる。C1類とした第93号も、層の厚さ自体は一部不均質だが、確かに全体としては一様であり不自然である。C2類?とした第95号は、下半に不自然さを感じるが、調査時の判断通り上半が埋め戻されているとしたら、全く対応しない。C1類とした第96号は、確かに全体としては一様であり不自然である。しかし調査時の判断通り下半（だけ）が埋め戻されているとしたら対応しない。

このように、そういう目で見ればある程度対応させることはできるようだが、顕微鏡化された土層構造から人為かどうかを判断するのは難しいようである。人為かどうかを詳細に検討した宮城県小沢遺跡での検討結果を見ると、確かに、D類に代表されるように均質な堆積を示すものに人為が多いとは言えるようだが（村田 1987：第428図）、一見すると自然堆積にしか見えないものもあり（同：1号土坑）、必ずしも1対1には対応していない。

そして、これも小栗川遺跡に示されているが、空遺跡の場合も、全て埋め戻されたと判断されるもの、人為と自然の両方が認められるものと多様である。

(9) 埋め戻し穴と埋め戻す理由

「埋め戻し穴」としたのは、土坑検出面に確認された住居状の穴で、悉く壁がはつきりせず疑似現象に近い状態を示し、土坑の中心とは同心円状に穴容せず一見すると別の遺構が重複していると感じさせる穴である。第21号、第48号、第52号、第56号、第64号?、第73号?、第81号?土坑に認められた。

この穴の二の行方が気になるが、特定できた土坑はない。地山再堆積土、地山ブロックを含む層などが相当するとは思われるが。また、本来転倒になるが、はっきりと埋め戻しが確認できた土坑も穴はない。

なぜ、こうした穴を掘ってでも埋め戻したのか。埋め戻し穴は、比較的規模の大きな土坑に確認されている。規模の大きなものはより危険であるため、積極的に埋め戻したとするのが蓋然性が高いであろう。木遺跡のフラスコ状土坑は、地山の性質によるものが極めて崩れやすく、精密したそばから崩壊していった。もし、蒸餾された土坑が、そばにあり、まだ崩れる可能性を残していたら、埋め戻そうと考えるのが自然であ

ろう。あるいは、そもそも埋めるためではなく、次第で途へるように中のものを取り出しやすくするための穴の可能性もある。深いフラスコ形は、底にあるものを取り出すのは容易ではないからである。

08 遺物出土状況

他の属性との関係も含めて、顕著な傾向を汲みとることはできなかった。土器は、破片～半完形土器と完形土器があり、第12号、第20号土坑からは、底面あるいは瓦上から完形土器が出上しており、特に第26号は、逆位に安置したような形で奥の隙隙から発見されているが、覆土も含め特に目立った特徴は見られなかった。ただし、両土坑とも断面形がフラスコ形に近く原型に近い状態を保っていると考えられ（前述）、その点から土坑掘削後比較的早い段階で埋め戻している可能性がある。墓などに再利用して。

09 重複関係

第1表中に略記した。→は新旧関係を示し、○→△が古→新を示す。不確かな場合は、○→△？、新旧関係がはっきりしない場合は、○？△のように示し、何れも自明である相当する土坑名（○とする）を省略し、→△、△→、→△？、△→？（△→○？の意）、？△などと記した場合がある。重複する遺構が、フラスコ状土坑の場合は、番号だけ示し、それ以外の遺構については、番号の後に、住居は住、陥し穴状遺構は陥、竃上は竃、フラスコ状以外の土坑は土と略記した。

陥し穴状遺構と竃土は、何れもフラスコ状土坑より新しいようであり、竃穴住居跡は新旧両方ある。

02 時期

第1表では、縄文時代前期中葉～中期前葉とされた土坑については時期を省略した。時期を特定できた土坑は非常に少ない。大部分が前期中葉～中期前葉に納まるようだが、第18号、第57号のように、古くなる可能性を持つものもある。

2. フラスコ状土坑をめぐる諸問題

(1) 位置

該期の遺跡のほとんどがそうであるように、木遺跡も集落内にフラスコ状土坑が群在する。遺跡のすぐ北側の斜面には、現在ナラの木が多く見られ、調査中も多量のドングリが落ちてきた。当時の植生ははっきりしないが、その生態的条件から周囲にドングリ、クリなどの木が生えていた可能性は高く、木本的にはそうした場所であるからこそフラスコ状土坑が掘られたのではないかと想われる。縄文時代と言っても、その間には大きな環境の変化があり（安田 1980）一括りににはできないが、気温も上がり下がりしていたのなら同じような植生が周期的には現れたと思われる。その際、同じような作業戦略を採っていたのなら、フラスコ状土坑が周期的に見られるはずであろう。

このことを証明するかのように、少なくとも岩手県では、前～中期集落跡の群在するフラスコ状土坑の中からは、思い出しように晩期の土器が出上ることがある。例えば、九戸村長興寺Ⅰ遺跡、九戸村森Ⅱ遺跡？、二戸市上甲遺跡、北上市柳上・土鬼柳Ⅳ遺跡、同 石曾根遺跡（以上、出典は、日本考古学協会 2001参照）、同 煤孫遺跡（〔財〕岩手県文化振興事業団 1994）など。

前～中期の特異性は、そうした採集の地に陥穴住居を作り集落を営んだことにある。それも、大形住居を持ち拠点的と考えられる集落を。もちろん完全に分かれるわけではないが、どちらかと言えば晩期などの拠点的集落に比べ標高の高い場所に立地することが多い。川などから遠く水の便が悪い場所が多いのである。このことは、フラスコ状土坑の山に蓄えたものの採集・加工を、いかに重視し生業戦略の重きを置いていたかを意味するのであろう。

(2) 掘削方法

本遺跡のフラスコ状土坑は、特に口が狭く、人が入れない場合もしばしばあった（例えば第33号）。仕方なく断ち割って掘ったのだが、縄文人はどのように掘ったのであろうか。

第三章に記したように、今回の調査では思い切った断ち割りができず解明できなかったのだが、その痕跡らしいものが僅かに認められた。写真図版34などに見るように、底面に黒土が点々と残るのである。最初は根による擾乱と考えていたが、その間隔は比較的均質であり、深い穴にも認められたことから、掘り方の痕跡ではないかと思うようになった。オーバーハングする壁の表面も著しく凹凸が見られる。これらから、地表に立って尖った棒状の工具（あるいは組み合わせで）で突くようにして掘ったのではないかと想像する。

(3) 同時に存在した数

フラスコ状土坑は、時期が特定されるものは少ない。したがって、同時に存在した数を割り出すのは容易でないのだが、塚本誠也氏は、短期集落の数の少ないフラスコ状土坑を対象とし、出土遺物の全点ドットと接合作業を元に、この問題に果敢に取り組んでいる（塚本 1992、1998）。

対象とした栃木県品川台遺跡は、縄文時代前期前半阿玉台Ⅱ～Ⅲ期の集落跡で、径約100mの環状集落で、住居跡7軒、柱穴群6基、フラスコ状土坑9基が検出され、フラスコ状土坑も間隔を置いて麻状に配されているが、他より近接するものが数基あり、それを一括すると5～6群に分かれそうである。調査面積は、約10,000㎡で、調査範囲を越えて集落が広がる可能性は少ないようである。

残念ながら同時存在数の確定までには至らなかったのだが、ある程度の絞り込みには成功している。隣接するフラスコ状土坑の間隔は、最小で約3.8m、平均約7m、同時存在が想定される土坑は、最大4基で、その間6.6m以上離れており、他より近接する土坑同士の間に同時存在は規定されていない。

このことから、一つの群の中で同時に存在した土坑は1基ではないかと仮定される。絞り込みが可能な短期の該期遺跡が他にも存在したか資料涉猟する余裕が今ないので、この仮説を強化できないが、この説に則って半清水Ⅱ遺跡の土坑を見てみる。

規模の大きなフラスコ状土坑が、西側調査区の中央付近に偏ること、副穴あるいは副穴+小溝を持つ一群が、西側調査区の北東部分に偏ることが指摘できるが、排他的というほどではなく、また群の中も比較的多様であり、あまり強くは言えないが、群にまとまりがあること、このことから一つの群に一つの経営主体が想像され、それはおそらく一家族であろう。フラスコ状土坑の規模が大きいということは、多くの貯蔵物を必要としたことということで、単純に考えれば家族の人数が多かったということになる。家族の人数が短期間に大きく増減するということはないだろうから、一つの群に規模の大きな土坑がしばらく作られ続けるということになるのであろう。

そして、空白域が周囲にあるのに頻りに重複するということは、聚穴住居によく言われるように、集落内に初めから区画が割り当てられており、それをはみ出すことはできなかったということなのだろう。

(4) 耐用年数

データを取る余裕がないので不正確だが、本遺跡はフラスコ状土坑の重複が多い方だとと思われる。前項の区画云々の仮定が正しいとすれば、その原因は、継続期間が長い頻りに作り直したかのどちらかであろう。ここで、どちらかに決める決めるではないが、参考になる事実がある。それは、本遺跡のフラスコ状土坑が、形態及び地山の性質から崩れやすいということであり、調査中に次々に崩落してしまった。前述の栃木県品川台遺跡は、その逆で、崩れやすい首の部分に特に硬くて丈夫な土層を当てて崩落を防いでいる（塚本 1992：p.294）。品川台遺跡のフラスコ状土坑が少ない理由の一つは、耐用年数にもあり、塚本氏は

「1基の袋状土坑の利用期間は、1年ではなく、数年以上にわたった」としている（同：p.297）。

平清水Ⅱ遺跡のプラスチック土坑を精査した実証として、少なくとも本遺跡の場合、蓋をして中を乾燥しないようにするか、中にものをぎっしり詰めるかしない限り、1年も持たなかつただろうと思われる。そのような手当をしても、周囲に集落があり、頻りに人が行き来し振動にさらされるのであろうから、数年も持つということは稀であつたろうと推測される。

15) 形態・機能・用途・使用方法

平清水Ⅱ遺跡では、3つの断面形が認められた。プラスチックあるいは袋状という断面形に「内部空間の湿度と温度が一定になることによる保存効果が期待できる」（長岡 1999：p.200）のなら、断面による機能の違いはないのだろうか。実験してみる必要があるが、筆者の調査時の実感では、深くプラスチック形を呈する土坑は、外気の遮断力は強いようで、例えば、2.2mあった第69号土坑の底は、30℃を越える日でもひんやりと涼しかったのを憶えている。また、物理的な問題として、深い穴を断面台形に掘ったら底面が非常に広がってしまい崩落を止めるのは難しいだろう。したがって、深い袋状土坑を掘るとしたら、プラスチック形に掘らざるを得ないということになる。逆に、プラスチック形にも欠点があり、後で中のものを取り出しにくい。頻繁にものを出入りするのなら、浅い台形の方が便利である。

結局、断面形は、掘り手の規模（容量）と深さ（遮断力）に対する目的を反映しているのだと思われる。つまり、同じ容量でも、遮断力があまり必要なければ台形に掘りし、遮断力が特に必要ならプラスチック形に掘り、容量も遮断力も必要なら大きいプラスチック形に掘るということである。

容量と遮断力に対する目的は、なぜ変動するのだろうか。容量は、中に入れる必要量の変動、例えばその年の堅果類の豊不作の反映などで十分に理解できるが、遮断力は難しい。遮断力が強ければ中のものを長く持たせることができると単純に考えることができるとしたら、その必要性が変動するということであろうか。不作の年に長く持たせたい、あるいは逆に豊作で採れすぎたので腐らせずに長く持たせたい、あるいは、そもそも中に入れる貯蔵物自体が異なり、その貯蔵物の保存性の違いによるものなのか。これ以上、解釈を限定させる材料はないが、前節で群ごとの断面形の分布を見たところ（第6図～第7図）、群ごとに大まかには傾向が一致するが異質なものを含む場合もあった。

また、前項で述べたように、崩れないように使うには、蓋をするか中にものをぎっしり詰める必要があるが、そうした検討を可能にする材料もない。今後の調査での検討に期待したい。

参考文献

- 駒岩手泉文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994『源孫遺跡』（第196集）
- 塚本静也 1992『綜芸第Ⅰ』第2節1. 袋状土坑『品川台遺跡』熊野木興文化振興事業団
- 1998『袋状土坑における深部山土状況と遺構間の出土土器接合』『シンポジウム縄文集落研究の新天地2』発表要旨 縄文集落研究グループ
- 2001『関東地方東北部における縄文時代の人形貯蔵穴出現期の概相(上)』『研究紀要』9 姉とちぎ生産学習文化財団埋蔵文化財センター
- 長岡史起 1999『遺跡研究 貯蔵穴』『縄文時代』30（第3分冊）（『縄文時代文化研究の100年』縄文時代文化研究会）
- 日本考古学協会2001年度盛岡大会実行委員会 2001『鶴岡文化―集落とその実体―』
- 村田晃一 1987『Ⅱ1②プラスチック土坑』『小栗川遺跡』宮城県教育委員会（第123集）
- 安田由香 1980『環境考古学事始』（NII Kブックス365）日本放送出版協会

Ⅶ. まとめ

今回の調査成果をまとめ、若干の解釈を加えて今後の課題としたい。

1. 遺物

今回出土した遺物は、縄文土器（30×40×30cmのコンテナ）37箱、土師器約20点、土製品は23点（土器？1点、土偶4点、円盤状土製品4点、焼粘土塊14点）、石器は973点、石器製作時の剥片67,336.74g、石製品は8点（垂飾品1点、円盤状石製品？1点、軽石加工品6点）、アスファルト1点、コハク（加工品含む）18点である。

石器類の内訳は、石鏃163点、尖頭鏃96点、石錐28点、石鉈6点、石匙25点、スクレイパーA類・Uフレイク・Rフレイク313点、打製石斧40点、スクレイパーB類3点、磨敵器類269点、石皿6点、台石1点、砥石2点、磨製石斧21点、剥片A類66,683.03g、剥片B類653.71gである（器種名は第Ⅴ章参照）。

①縄文土器

・早～前期前半の土器（白浜式、寺の沢式、赤御堂式？ほか）が数点、後期の可能性のある土器が1点出土している他は全て前期中葉～中期前葉の土器（円筒下層b1式～円筒上層b2式）のようで、中でも前期末～中期前葉の上層（円筒下層d1式～円筒上層a2式）が大部分を占める。

・前期末は、大木6式系および折衷土器、中期前葉には、大木7a式系、五領ヶ台Ia式系土器が認められる。

五領ヶ台Ia式系と考えたのは、52、244？、248、277？、323、541、656、708、756である。このうち、244は、大木式分布圏に頻繁に見られる系列で、当地では大木7a式の組成に含めることが多い。その他の土器は、大木7a式分布圏にもそれほど顕著でなく、見た目にも本遺跡から出土した他の土器と大きく異なり、搬入品と考えたいが、関東地方に同じような土器を見つけることができなかったために五領ヶ台Ia式系としたものである。

本県南部大木式分布圏からは「五領ヶ台Ia式そのもの」といってよい土器（今村 1985：p.112）が頻繁に出しており、最近では青森県でも五領ヶ台式の影響を受けた土器が指摘されている（茅野 2002：p.41）。したがって、本遺跡から出土しても特別なことではないのだが、他の遺跡で出土した土器とやや異なっており、大木式分布圏でもそんなには見られない。永峯（1981）、今村（1985）、小林ほか（1988）、縄文セミナーの会（1995）を参照すると、長野、北陸に見られる土器の方に近いようにも思える。該期の北陸系土器は、日本海側の秋田県では比較的頻繁に出土しており（富樫 1984）、出土してもそれほど特異なことではないと思われるが、こちらについても北陸地方に同じような土器を見つけることはできなかったため、何とも言えない。

②その他の遺物

・石器製作時の剥片が多量に発見され、また磨製石斧の未製品も見られることから、本遺跡は石器製作址と考えられる。

・石器組成で注目されるのは、該期の遺跡としては珍しく磨敵器類の比率が比較的小さいことと、石鏃・尖頭鏃類の多さである。

木書で分類した尖頭鏃のほとんどは、石鏃の大形のものといった形状をしている。また、石鏃といっても

内面を全面剥離しているものは少なく、これらも未製品と言えるかも知れない。すると、石器組成の特異性は、本遺跡が通常の集落跡に石器製作所としての性格が加わっているためと言えるかも知れない。

参考文献

- 今村啓爾 198b 1 五領ヶ台式土器の編年 『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』 4
小林達雄ほか編 1989 『縄文土器大観3 中野II』 小学館
縄文セミナーの会 1995 『第8回縄文セミナー 中期初期の諸様相』
富原幸時 1984 『秋田県における北陸系の土器について』 『本邦史研究』 4 本邦市史編纂室
茅野嘉雄 2002 『青森県内における縄文時代前期末～中期初期の異系統土器群について』 『研究紀要』 7 青森県埋蔵文化財調査センター
永峯光一編 1981 『縄文土器大成2 中編1』 講談社

2. 遺構

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡3棟、炉跡10基（土器埋設炉6基—炉体土器の敷、石囲炉3基、地床炉1基）、住居状遺構1基、土坑・墓壇104基、溝状の陥し穴状遺構7（6?）基、焼土42基、古代（ \times 安時代?）の竪穴住居跡2棟、住居状遺構1基、土坑1基（第105号）検出された。縄文時代の遺構は、前期中葉～中期前葉のものがほとんどを占め（中でも前期末～中期初頭）、その他早期の可能性のあるフラスコ状土坑が2基ある（第18号、第57号）。縄文時代の土坑は、墓壇の可能性のあるもの（第101号～第104号）とそれ以外に分けられ、それ以外のものは、フラスコ然としたものがほとんどである（第1章に「附表」）。

①縄文時代の竪穴住居跡・炉跡

陥穴がはっきりと確認できた住居は、5.8×4.8mの隅丸長方形～楕円形・土器埋設炉、短軸4m、長軸9m以上の隅丸長方形～長楕円形・土器埋設炉3+2、6.8×4.7m程度の楕円形・土器埋設石囲炉・灰溝の3棟である。この他、上記のように、炉跡と周囲に柱穴が確認されただけの住居跡がある。

岩手県では円筒上層a式期の竪穴住居跡の検出は少なく、今回、二戸市上皿遺跡例（岩手県埋蔵文化財センター 1983）、釜米町水吉VI遺跡例（岩手県文化振興事業団 1994）しか見つけられなかった。上皿遺跡では人形住居（ロングハウス・炉は不明）、水吉VI遺跡では通常規模の住居（何れも楕円形・地床炉）が検出されている。灰溝は、両遺跡に認められる。円筒上層a1式期のロングハウスは、秋田県和山遺跡（秋田県教育委員会 2003）、通常規模の住居は秋田県菅刈沢貝塚（八戸町教育委員会 1979）、同 小袋岱遺跡（秋田県教育委員会 1999）などにも見られる。円筒式分布圏の中心青森県には、三内丸山遺跡（青森県教育委員会 2000ほか）を初めとして調査例は多く、岩手県にほど近い畑内遺跡も円筒式期の大集落跡で、該期のロングハウスなどが見られる（青森県教育委員会 2001ほか）。成田滋彦氏によれば、青森県の円筒上層a式期の「炉は、地床炉・土器埋設炉・石囲炉・土器埋設石囲炉」が見られるとのことである（成田 2001: p.34）。筆者が瞥見した感じでは、ロングハウスでは土器埋設炉、通常規模の住居は地床炉が一般的なようにも思われたが、定かではない。平面形も、本遺跡で検出された住居跡は一般的な形態ようである。今回の調査例は残りが悪いので、これ以上の検討は割愛する。

②縄文時代の住居状遺構

1基のみだが、竪穴住居跡に隣接し、物置などの可能性があるかも知れない。

③土坑・墓壇

フラスコ状土坑94基、墓壇1基（第104号土坑）ほか検出された。

- ・本遺跡のフラスコ状土坑は、極端に口が狭いものが多い。

- ・底面直上から完形土器が出したフラスコ状土坑がある（第12号、第26号土坑）。第26号土坑では、壁近くから逆位に安置したような形で出土した。
- ・本遺跡のフラスコ状土坑について、第VI章で検討した結果、規模と深さによって断面形が決定されることがわかった。
- ・墓塚と考えた門岡下層り式期第104号土坑の底面直上から、白色粘土板、板状の線が出土した。

④陥し穴状遺構

調査区に散在する。時期の特定は難しいが、縄文時代中期の可能性がある。

⑤焼土

幾つかの集中地点がある。時期の特定は難しいが、本遺跡で大量に出土した石器製作時の剥片に関係あるかも知れない。

⑥古代の遺構

住居状遺構は竪穴住居跡に隣接し、物置などの可能性があるかも知れない。土坑は、竪穴住居跡の覆土中から採りこまれている。

参考文献

- 青森県教育委員会 2000『三内丸山遺跡X V I』（第283集）
2001『雄穴遺跡VI』（第308集）
- 秋田県教育委員会 1989『小袋55遺跡』（第285集）
2003『和庄里遺跡』（第350集）
- 朝日手塚縄文文化発掘調査団縄文文化財センター 1994『水吉VI遺跡発掘調査報告書』（第219集）
朝日手塚縄文文化財センター 1983『上里遺跡発掘調査報告書』（第55集）
- 成川滋彦 2001『青森県における縄文時代集落の諸様相』『第1回研究集会基礎資料集 列島における縄文時代集落の諸様相』縄文時代文化研究会
- 八戸町教育委員会 1979『萱刈沢貝塚』

3. 遺跡

①遺跡の性格

・縄文時代早期～前期前半

土器片が数点出土しており、フラスコ状土坑の2基は、この時期の可能性もある。

・縄文時代前期中葉～中期前半

土器の量が増え、集落が営まれた。遺構としてはフラスコ状土坑が主だが、竪や大形住居も作られ、石器製作も行われるなど、地域の拠点集落であったと思われる。調査範囲が狭く、集落構造は不明である。

・縄文時代中期？

陥し穴状遺構は、この時期の可能性が高い。廃村になって草が生えだし、これを求めてやってきた動物を落とそうとしたのだと思われる。焼土も、この時期の可能性もあるかも知れない。

・平安時代

竪穴住居跡2棟、住居状遺構1基、土坑1基が、この時期に属する。遺物の出土は極端に少ない。

②地域の中で

第II章第3節で見たように、縄文時代前期中葉～中期前半の集落跡、平安時代の集落跡は、周囲にかなり広がるようだが、詳細は不明である。

写真図版



遺跡遠景（北側上空から）



調査区全景（次年度）（南側上空から）

写真図版1 遺跡遠景・調査区全景



調査前風景 (西から)



調査区中央部 (西から)



調査区西端



調査区西部 (東から)



調査区西部 (東から)



調査区中央部 (西から)



調査区中央部 (西から)



調査区西端 (次年度)

写真図版2 調査前風景・調査区地形 (初年度～次年度(1))



調査区中央部（北東から）



調査区西～中央部（東から）



調査区西～中央部（西から）



調査区中央部（西から）



調査区中央部（南から）



調査区中央部（西から）



調査区東部（東から）



調査区東部（西から）

写真図版3 調査区地形（次年度(2)）



第1号住居跡全景



覆土断面(南北)



覆土断面(東西)

写真図版4 第1号住居跡(1)



炉跡平面



同 断ち割り



No. 1 土器出土状況



No. 3 土器出土状況 (上から)



No. 3 土器出土状況 (横から)



No. 4 土器出土状況



No. 9 土器出土状況



第1号住居跡検出状況

写真図版5 第1号住居跡(2)



第2号住居跡全景



覆土断面（南北1）（西から）

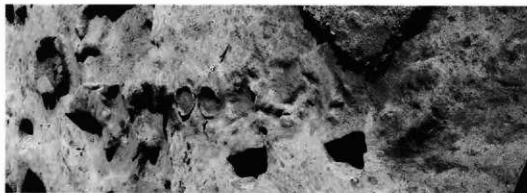


覆土断面（南北2）（東から）

写真図版6 第2号住居跡(1)



覆土断面(東西)



写真全集



第1号~3号伊体土器断ち割り



第4号~5号伊体土器断ち割り



焼土1断面

写真図版7 第2号住居跡(2)



焼土 2 断面



周辺の地形



第 3 号住居跡全景



覆土断面 (南北)

写真図版 8 第 2 号住居跡(3)、第 3 号住居跡(1)



覆土断面 (東西)



炉跡平面



同 断ち割り (東西)



同 断ち割り (南北)



同 検出状況

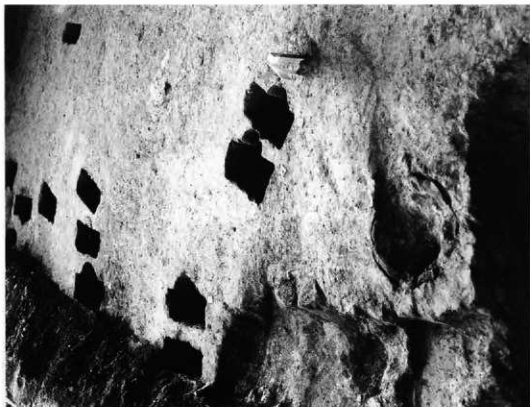


同 精査風景



周辺の地形

写真図版9 第3号住居跡(2)

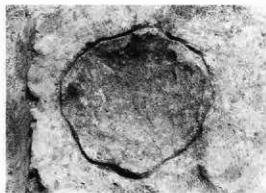


第4 A号炉跡



第4 B、C号炉跡

写真図版10 第4号住居跡(1)



第41号烧土



第4号住居床?残存部



柱穴1



柱穴2



柱穴3



柱穴4



柱穴5

写真图版11 第4号住居跡(2)・第41号烧土



柱穴6



精査状況



新編 縄文土器 15 編



覆土断面？(西半分)

写真図版12 第4号住居跡(3)、第5号住居跡(1)



覆土断面？（東半分）



第5 A、5 B号炉跡



第5 C号炉跡



第42号焼土

写真図版13 第5号住居跡(2)・第42号焼土



第6号伊跡平面



同 断ち割り(南北)



同 断ち割り(東西)



柱穴1

写真図版14 第6号住居跡(1)



柱穴 2



柱穴 3



第7号住居跡全景



第7号炉跡平面



同 断ち割り (南北)

写真図版15 第6号住居跡(2)、第7号住居跡(1)



同 断ち割り (東西)



柱穴 1



柱穴 2



柱穴 3



柱穴 4



柱穴 5



柱穴 6



柱穴 7

写真図版16 第7号住居跡(2)



柱穴8



柱穴9



柱穴10



柱穴11



第8号住居跡全景

写真図版17 第7号住居跡(3)、第8号住居跡(1)



第8号炉跡断ち割り



柱穴1



柱穴2



柱穴3



柱穴4



第9号炉跡遺景

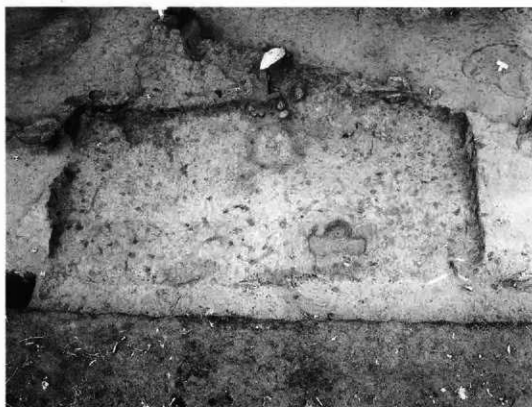


第9号炉跡近景



第9号炉跡断ち割り

写真図版18 第8号住居跡(2)、第9号炉跡



第10号住居跡全景



覆土断面(南北)



覆土断面(東西)

写真図版19 第10号住居跡(1)



カマド平面



同 断ち割り



同 廻り上がり



同 検出状況 (No. 2 土器)



No. 2 土器出土状況



No. 1 土器出土状況(1)

写真図版20 第10号住居跡(2)



№.1 土器出土状況(2)



第11号住居跡全景



覆土断面 (南北)

写真図版21 第10号住居跡(3)、第11号住居跡(1)



覆土断面 (東西)



カマド平面



同 断ち割り



同 掘り上がり



同 検出状況



第1号住居状遺構



写真図版22 第11号住居跡(2)・第1号住居状遺構



第2号住居状遺構



第2号住居状遺構と第1号陥し穴状遺構の重複



第1号土坑



第2号土坑

写真図版23 第2号住居状遺構・第1号陥し穴状遺構・第1号、第2号土坑(1)



1層下部土器出土状況



第3号土坑平面



同断面(上部)



同断面(下部)



16層土器出土状況



同近景(1)



同近景(2)

写真図版24 第2号土坑(2)、第3号土坑



第4号土坑



第5号土坑平面



同 断面



同9層土器出土状況(南から)



同 横から



第6号土坑



写真図版25 第4号～第6号土坑



第7号土坑



第8号土坑



同 断面



同 土器出土状況 (床面)



周辺の地形



第9号土坑



写真図版26 第7号～第9号土坑



第10号土坑



第11号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況



同 横から



第12号土坑

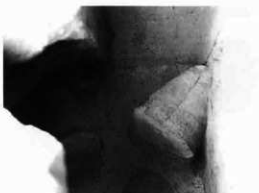


同 No. 1 ~ 4 土器出土状況

写真図版27 第10号、第11号土坑、第12号土坑(1)



同 No. 1、2、4 土器近景



同 No. 3、4 土器近景



同 No. 3 土器近景



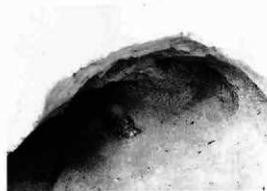
第13号、14号土坑断面



第13号土坑平面



同 断面



同 土器出土状况 (远景)



同 近景

写真图版28 第12号土坑(2)、第13号土坑、第14号土坑(1)



第14号土坑平面



同 断面



第15号土坑平面



同 断面



同 土器出土状况



第16号土坑平面

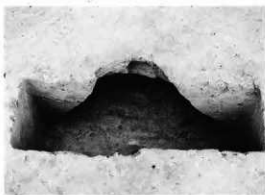


同 断面



同 土器出土状况

写真图版29 第14号土坑(2)~第16号土坑



第17号土坑



第18号土坑



第19号土坑



第20号土坑

写真图版30 第17号~第20号土坑



第21号土坑



第22号土坑



第23号土坑平面

同 断面



同土器出土状況 (遠景)

同 近景

写真図版31 第21号～第23号土坑(1)



同 横から



第24号土坑平面



同 断面



同 副穴検出状況



第26号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況 (遠景)



同 7層土器出土状況 (近景)

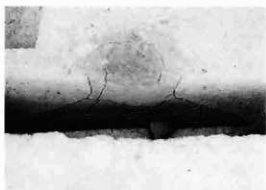
写真図版32 第23号土坑(2)～第26号土坑(1)



同 15層土器出土状況(近景)



第26号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況(近景)



同 近景



同 横から



第27号土坑平面



同 断面

写真図版33 第25号土坑(2)~第27号土坑(1)



同 No. 1 遺物出土状況



同 No. 3 遺物出土状況



同 No. 4 遺物出土状況



同 底面 (近景)



第28号土坑



第29号、第30号土坑

写真図版34 第27号土坑(2)~第29号、第30号土坑(1)



第29号土坑



第30号土坑



周辺の地形



第31号土坑



第32号土坑



写真図版35 第29号、第30号土坑(2)～第32号土坑



第33号土坑



第34号土坑平面



同 断面



同 土器出土状况



第35号土坑平面



同 断面



第36号土坑平面

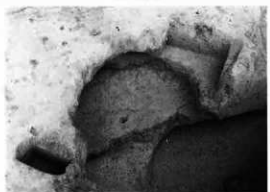
写真图版36 第33号~第36号土坑(1)



同 断面



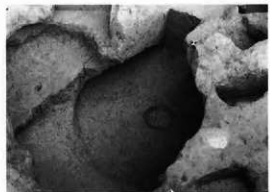
同 遺物出土状況



第38号土坑



第39号土坑



第40号土坑

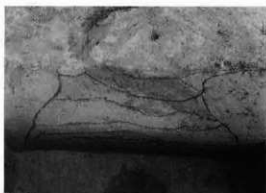
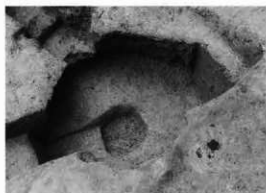


第41号土坑

写真図版37 第36号土坑(2)、第38号~第41号土坑



第42号土坑



第43号土坑

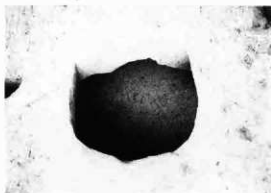


第44号土坑



第45号土坑

写真图版38 第42号~第45号土坑



第46号土坑



第47号土坑平面

同 断面



同 6層下面～7層上面土器出土状況

同 横から



第48号土坑平面

同 断面

写真図版39 第46号～第48号土坑(1)



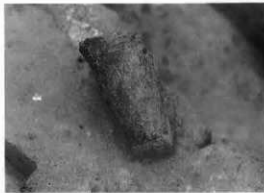
同 精査状況



同 No.1 土器出土状況 (遠景)



同 近景



同 横から



同 No.2 土器出土状況



同 横から



第49号土坑



写真図版40 第48号土坑(2)、第49号土坑



第50号土坑



第51号土坑



第52号土坑平面



同 断面



同 No. 0 土器出土状況 (透景)



同 近景

写真図版41 第50号～第52号土坑(1)



同 上から



同No. 1、2土器出土状況



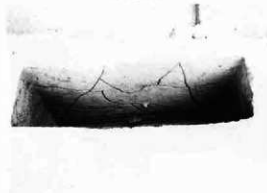
同 近景



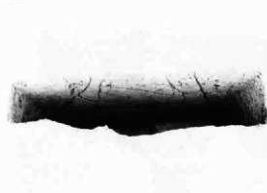
同 横から



第53号土坑



第54号土坑



写真図版42 第52号土坑(2)～第54号土坑



第55号土坑平面



同 断面



同No. 1土器出土状況（遠景）



同 近景



同 横から



周辺の地形



第56号土坑平面



同 断面

写真図版43 第55号、第56号土坑(1)



同 土器出土状況 (遠景)



同 近景



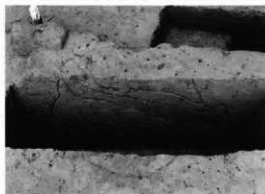
同 横から



同 反対側から



第57号土坑



第58号土坑



写真図版44 第56号土坑(2)～第58号土坑



第59号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況



同 横から



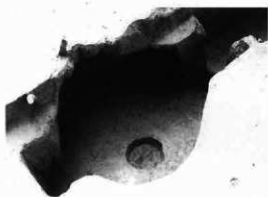
第60号土坑



第61号土坑



写真図版45 第59号～第61号土坑



第62号土坑



第63号土坑



第64号土坑平面



同 断面



同 出土状况



第65号、66号土坑

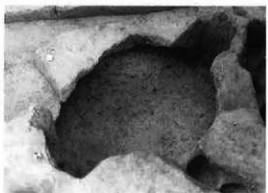
写真图版46 第62号~第65号、第66号土坑(1)



第65号土坑



第66号土坑



第67号土坑

同 断面



同 土器出土状況(遠景)



同 近景

写真図版47 第65号、第66号土坑(2)、第67号土坑



第68号土坑平面



同 断面



同 貼底



同 横から



第69号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況 (遠景)



同 横から

写真図版48 第68号、第69号土坑



第70号土坑



第71号土坑



第72号土坑



第73号土坑

写真图版49 第70号~第73号土坑



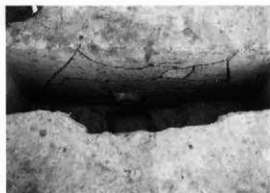
第74号土坑



第75号土坑



第76号土坑



第77号土坑



写真图版50 第74号~第77号土坑



第78号土坑



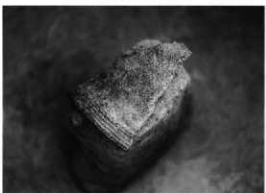
第79号土坑



第80号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況(上から)



同 横から

写真図版51 第78号～第80号土坑



第81号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況(遠景)



同 近景



第82号土坑



第83号土坑



写真図版52 第81号～第83号土坑



第84号土坑



第85号、86号、87号土坑



同 断面



第85号土坑平面



同 断面



同 No. 2、3土坑出土状況(遠景)



同 近景

写真図版53 第84号土坑、第85号~第87号土坑(1)



同 No. 3土器出土状況(8層上面)



同 No. 4土器出土状況(6~7層)



同 横から



同 No. 5土器出土状況(9層)



同 横から



第87号土坑平面



第86号土坑



写真図版54 第85号~第87号土坑(2)



第88号土坑



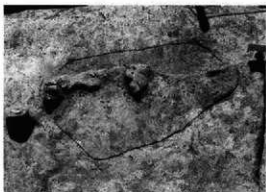
第89号土坑



第90号土坑平面



同 断面



同 検出状況と第42号焼土

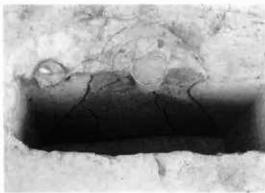


現地説明会

写真図版55 第88号～第90号土坑・第42号焼土



第91号土坑



第92号土坑



第93号土坑



調査風景 (中央部南)



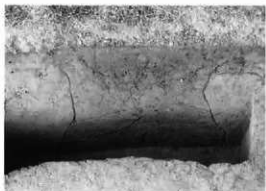
第94号土坑



写真図版56 第91号～第94号土坑



第95号土坑



第96号土坑

調査風景（西部試掘）



第97号土坑

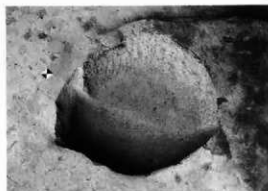


第98号土坑

写真図版57 第95号～第98号土坑



第99号土坑



第100号土坑



第101号土坑



第102号土坑

写真图版58 第99号~第102号土坑



第103号土坑



第103号・104号土坑断面



第104号土坑断面



同 平面



同 遺物出土状況(遠景)



同No. 3～9土器出土状況



同 横から

写真図版59 第103号、第104号土坑(1)



同 No. 1、2土器出土状況



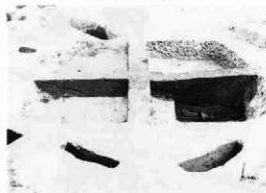
同 横から



第105号土坑平面



同 断面(1)



同 断面(2)



第25号土坑15層上面土器出土状況



第1号陥し穴伏遺構



写真図版60 第103号、第104号土坑(2)、第105号土坑・第1号陥し穴伏遺構



第2号陥し穴状遺構



第3号陥し穴状遺構



第4号陥し穴状遺構



第5号陥し穴状遺構平面



同 断面1)

写真図版61 第2号～第5号陥し穴状遺構(1)



同 断面(2)



遺跡周辺の地形



第6号陥し穴状遺構



第7号陥し穴状遺構



第1号～第5号焼土平面



第1号焼土断面

写真図版62 第5号陥し穴状遺構(2)～第7号陥し穴状遺構・第1号～第5号焼土(1)



第2号烧土断面



第3号烧土断面



第4号烧土断面



第5号烧土断面



第6号~第10号烧土平面



第6号烧土断面



第7号烧土断面



第8号烧土断面

写真図版G3 第2号~第5号烧土(2)、第6号~10号烧土(1)



第9号烧土断面



第10号烧土断面



第11号~第14号烧土平面



第11号烧土断面



第12号烧土断面



第13号烧土平面



第15号~第20号烧土平面



第15号烧土断面

写真图版64 第6号~第10号烧土(2)、第11号~第14号烧土、第15号~第20号烧土(1)



第16号烧土断面



第17号烧土断面



第18号烧土断面



第19号烧土断面



第20号烧土断面



調査風景 (西部~中央部)



第22号烧土



写真図版65 第15号~第20号烧土(2)、第22号烧土



第23号烧土



第24号烧土



第25号烧土



第26号烧土

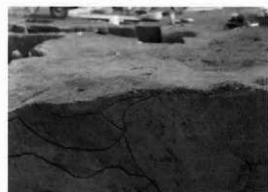
写真图版66 第23号~第26号烧土



第27号烧土、第28号烧土



第29号烧土



第30号烧土



第31号烧土

写真图版67 第27号~第31号烧土



第32号烧土



第33号烧土



第34号烧土



第35号烧土

写真图版68 第32号~第35号烧土



第36号烧土



第37号烧土



第38号烧土



第39号烧土

写真图版69 第36号~第39号烧土



第40号焼土



初年度南側調査区



初年度中央部西側調査区



ブレハブから西を望む



中央部から南西を望む

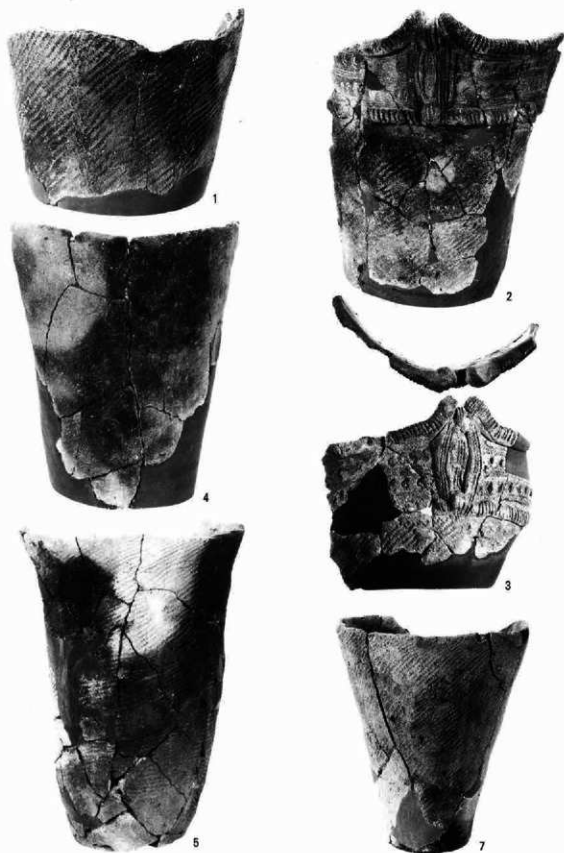


中央部から北側を望む

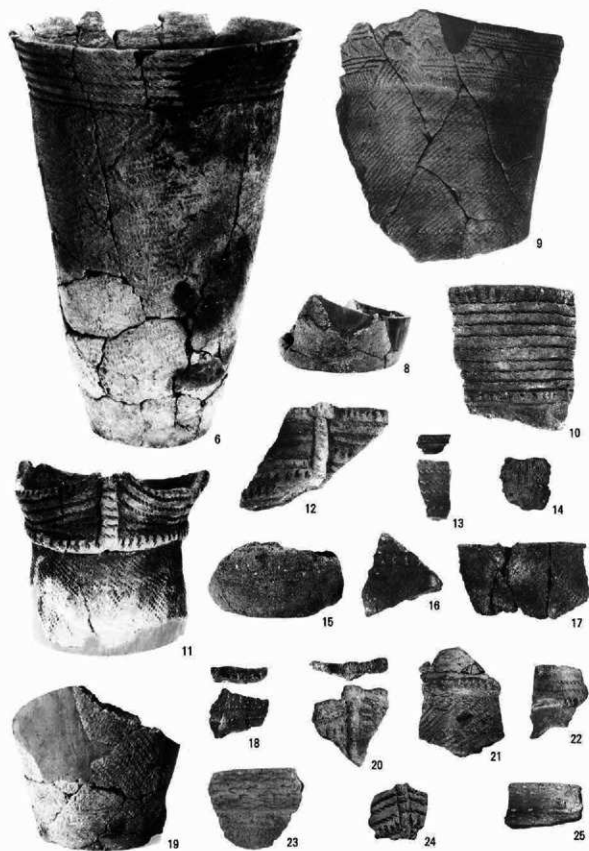


中央部から南を望む

写真図版70 第40号焼土・調査区および周辺の地形



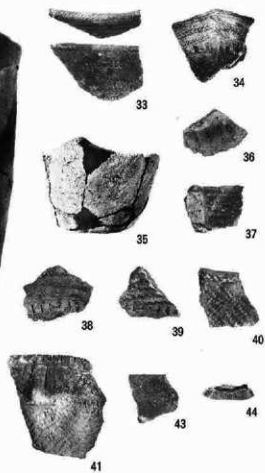
写真図版71 縄文土器(1) (S=1/3)



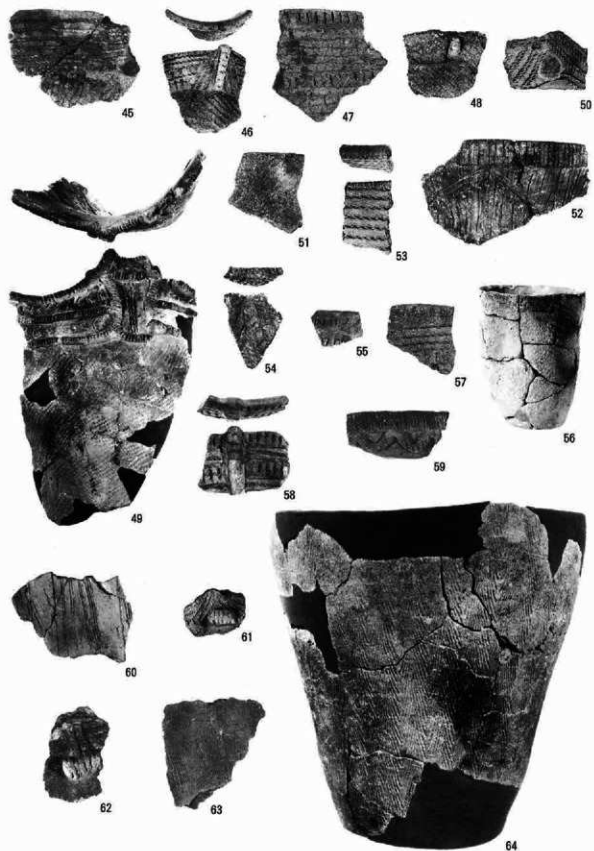
写真図版72 縄文土器(2) (S=1/3)



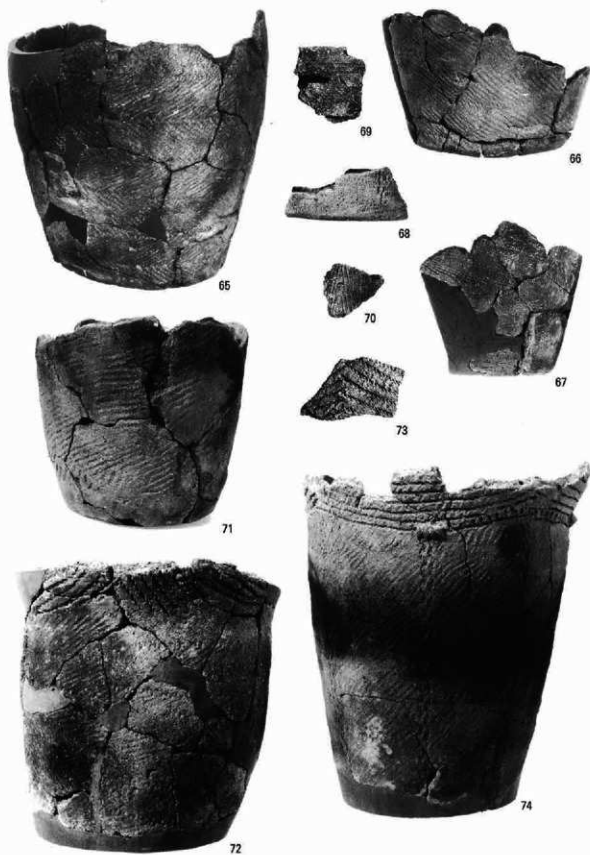
写真図版73 縄文土器(3) (S=1/3)



写真図版74 縄文土器(4) (S=1/3)



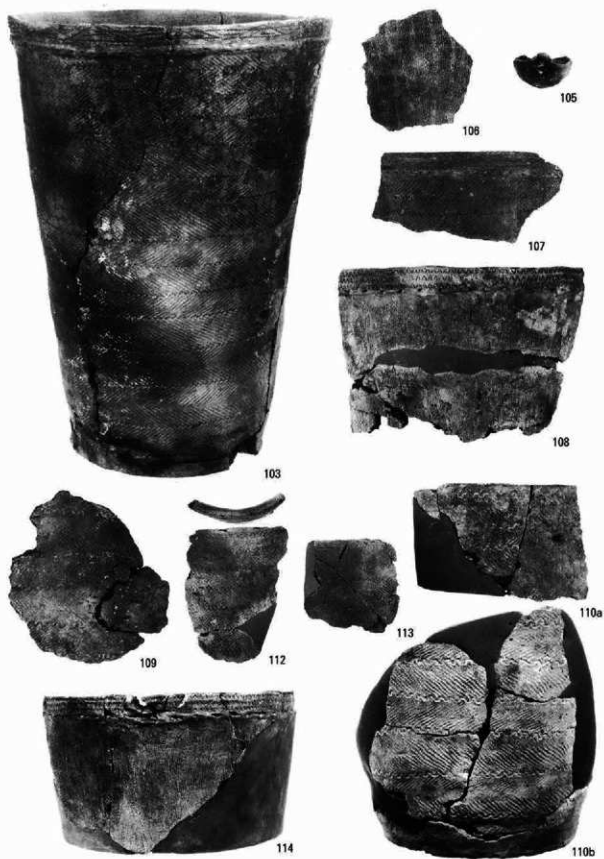
写真図版75 縄文土器(5) (S=1/3)



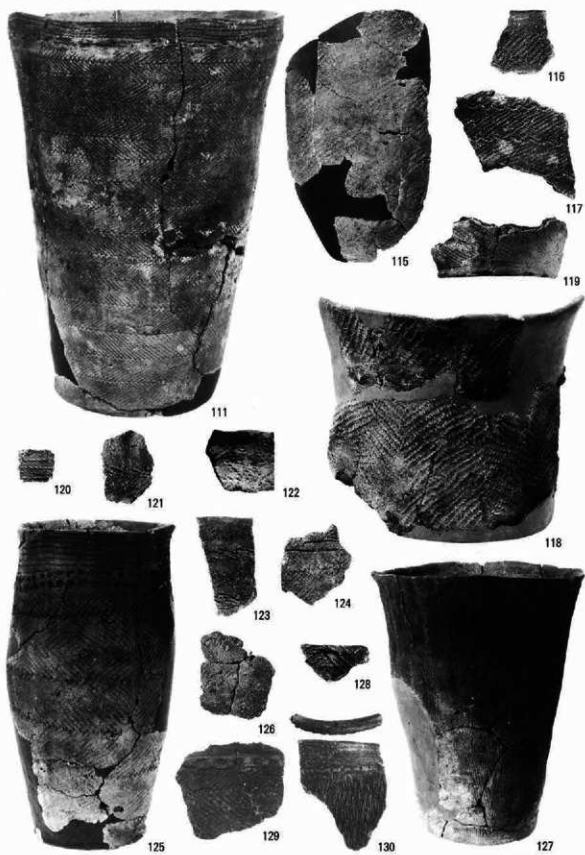
写真図版76 縄文土器(6) (S=1/3)



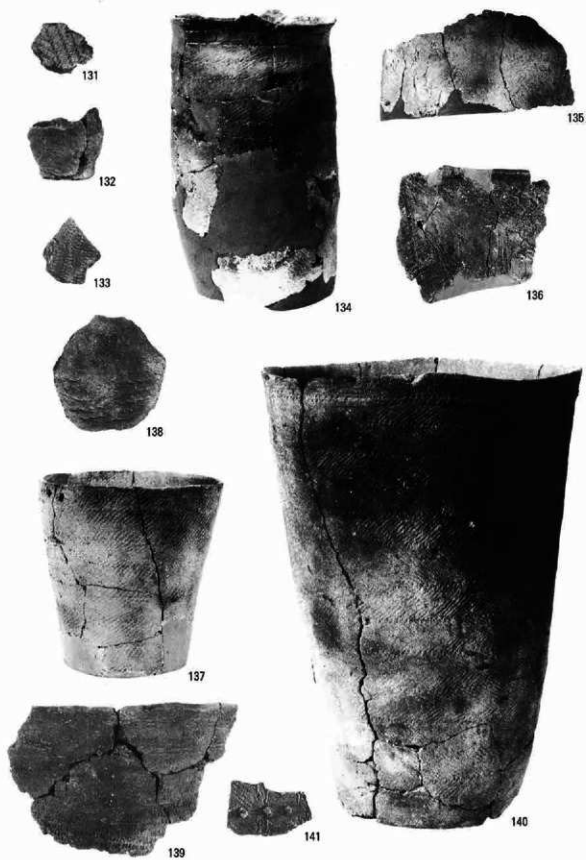
写真図版77 縄文土器(7) (S=1/3)



写真図版78 縄文土器(8) (S=1/3)



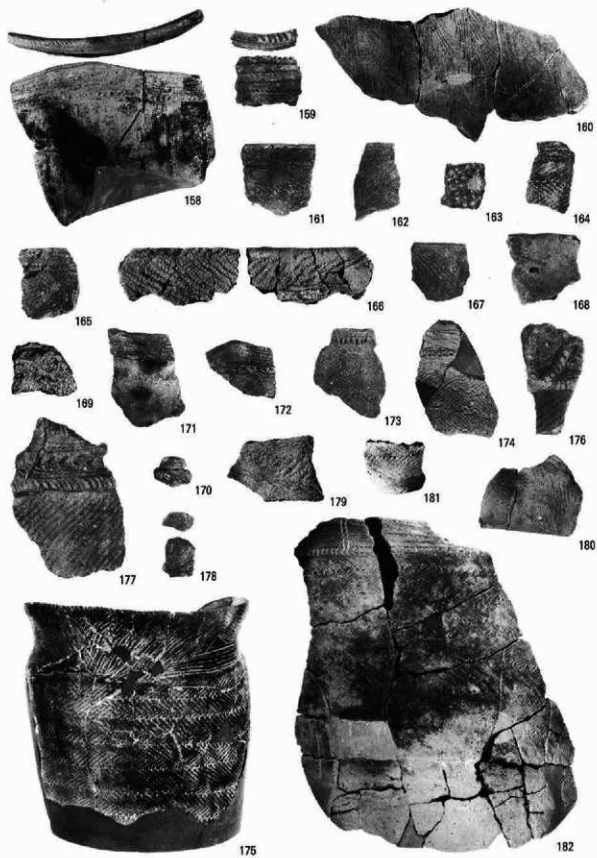
写真図版79 縄文土器(9) (S=1/3)



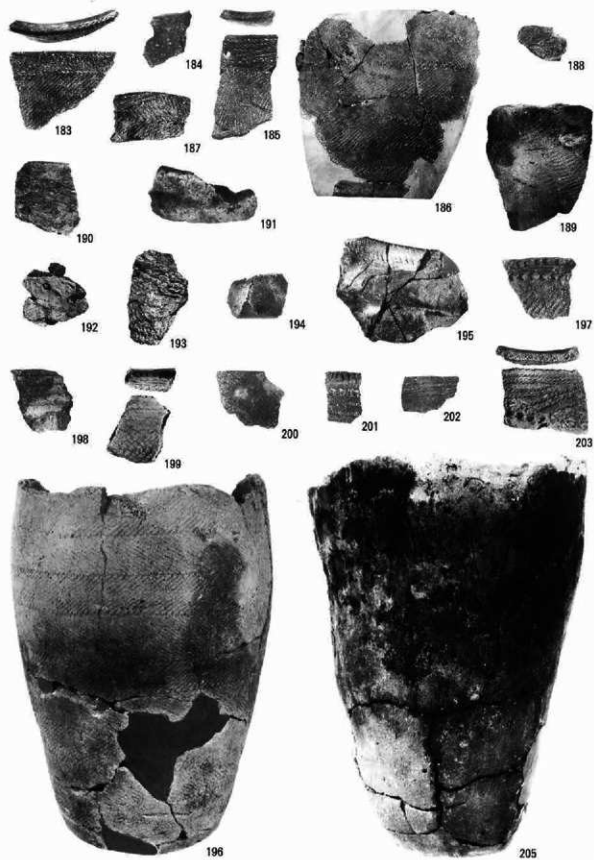
写真図版80 縄文土器(10) (S=1/3)



写真図版81 縄文土器(11) (S=1/3)



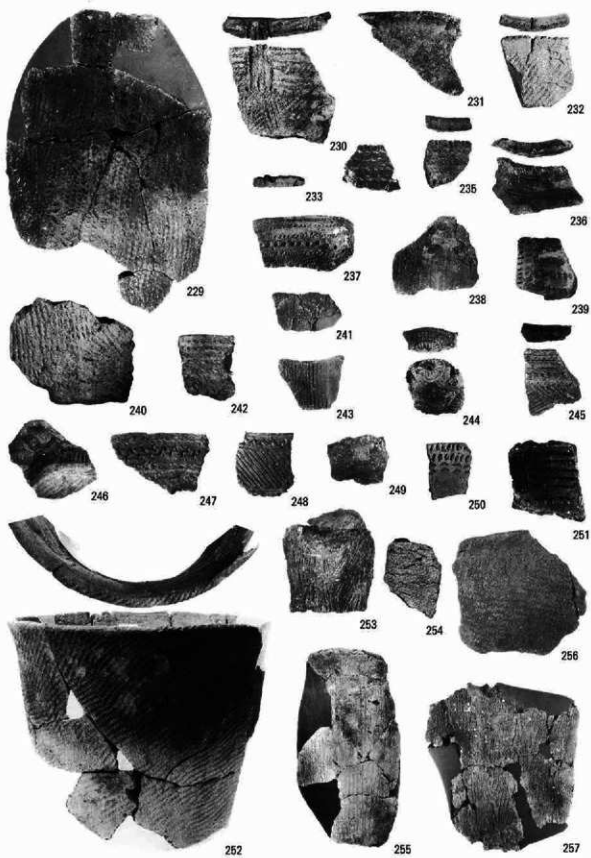
写真図版82 縄文土器(12) (S=1/3)



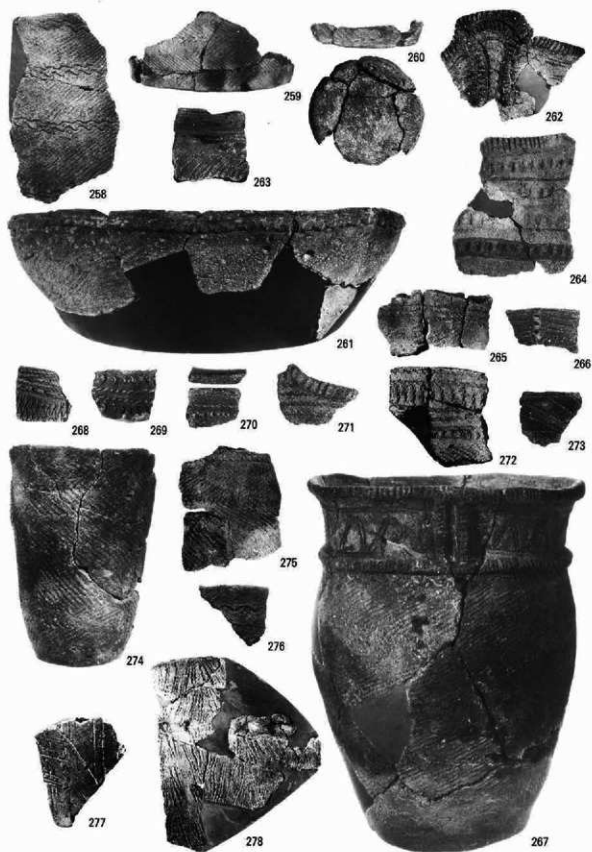
写真図版83 縄文土器(13) (S=1/3)



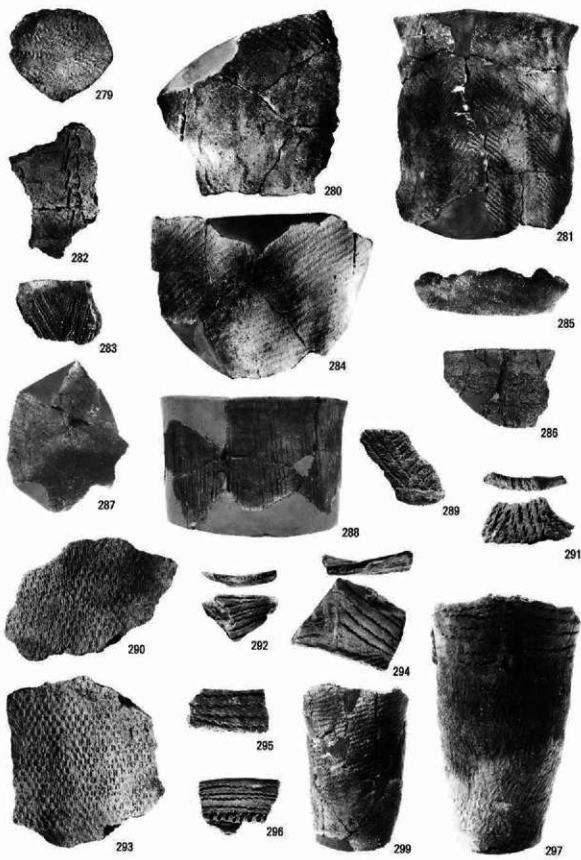
写真図版84 縄文土器(14) (S=1/3)



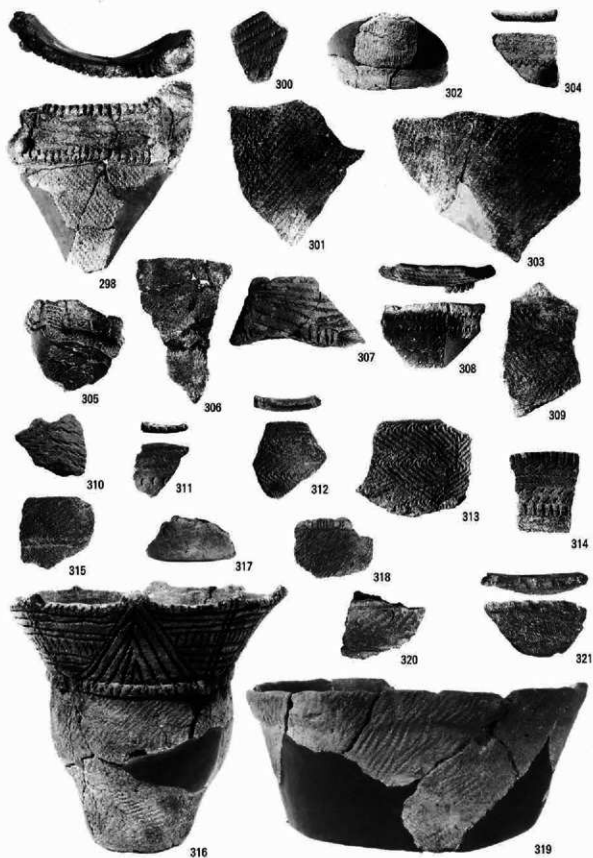
写真図版85 縄文土器(15) (S=1/3)



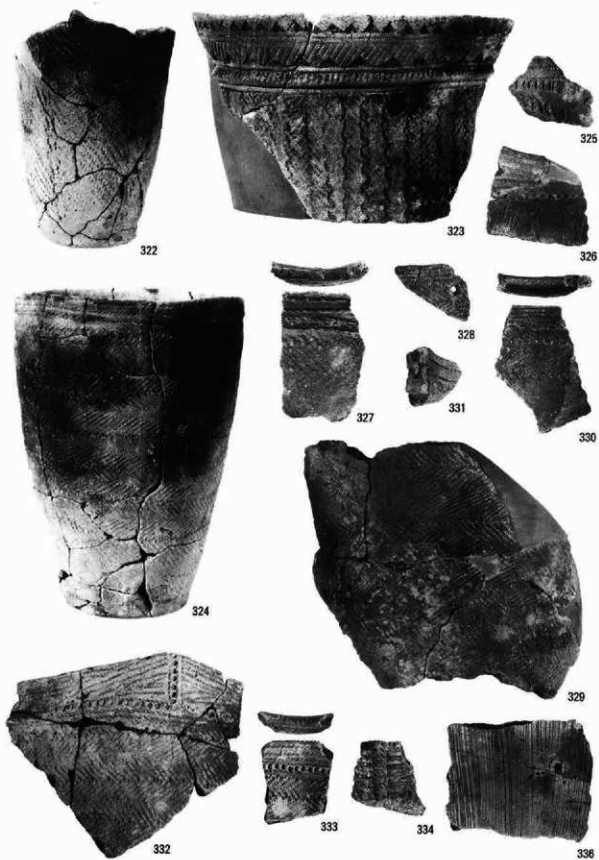
写真図版86 縄文土器(16) (S=1/3)



写真図版87 縄文土器(17) (S=1/3)



写真図版88 縄文土器(18) (S=1/3)



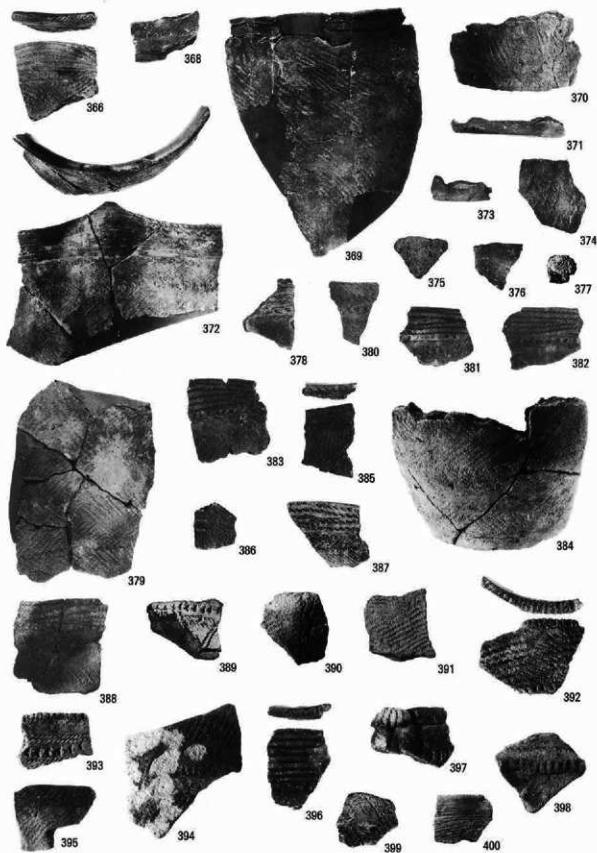
写真図版89 縄文土器(19) (S=1/3)



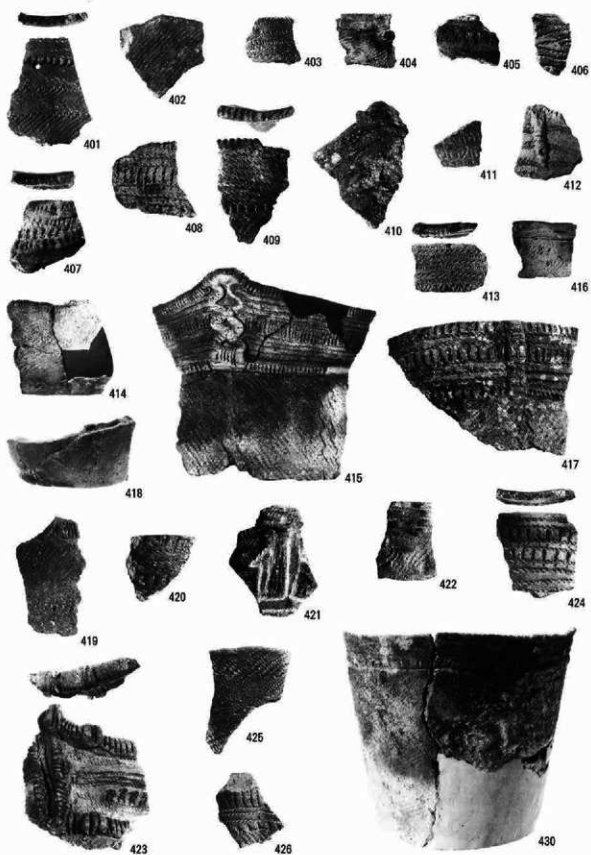
写真図版90 縄文土器(20) (S=1/3)



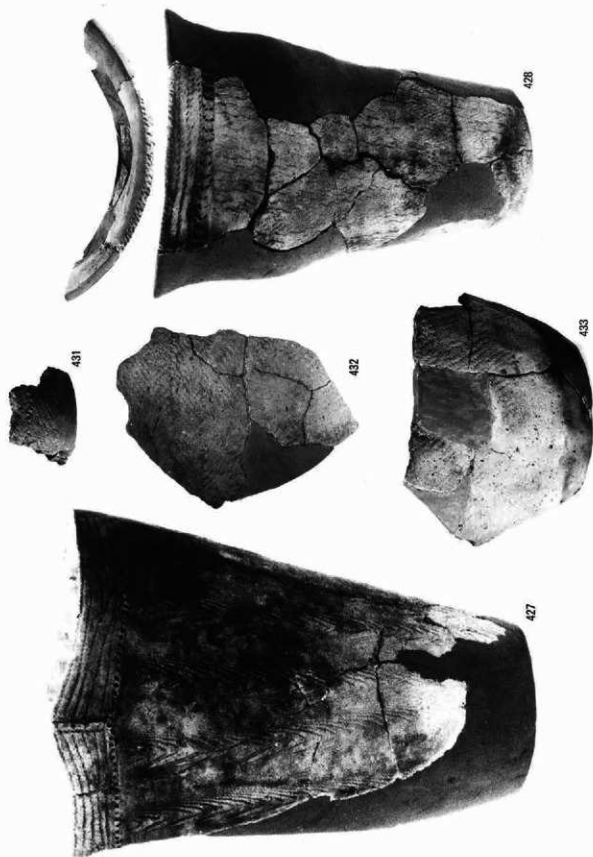
写真図版91 縄文土器(21) (S=1/3)



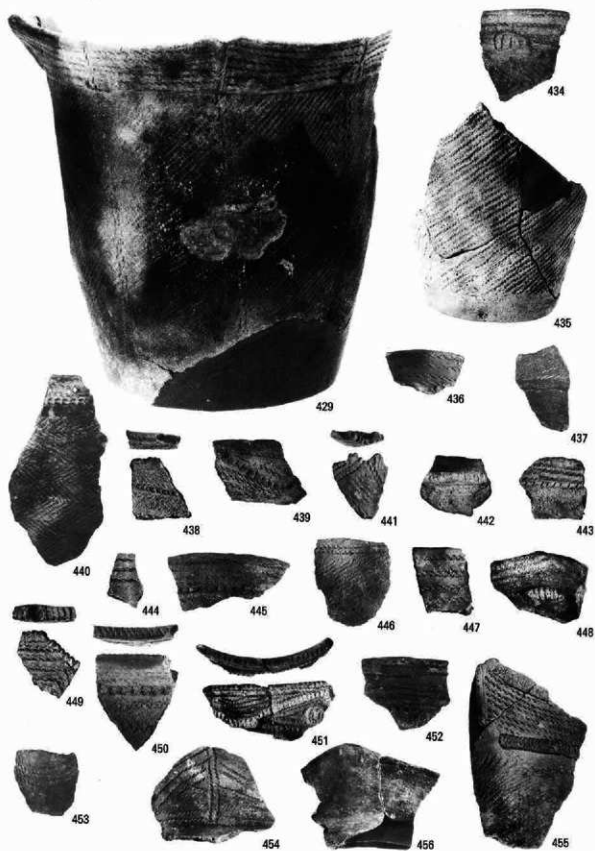
写真図版92 縄文土器(22) (S=1/3)



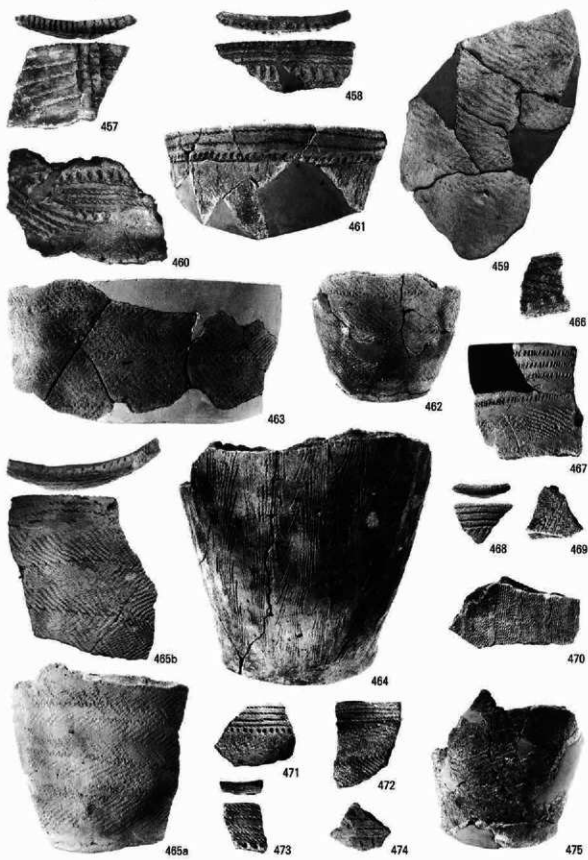
写真図版93 縄文土器(23) (S=1/3)



写真図版94 縄文土器(24) (S-1/3)



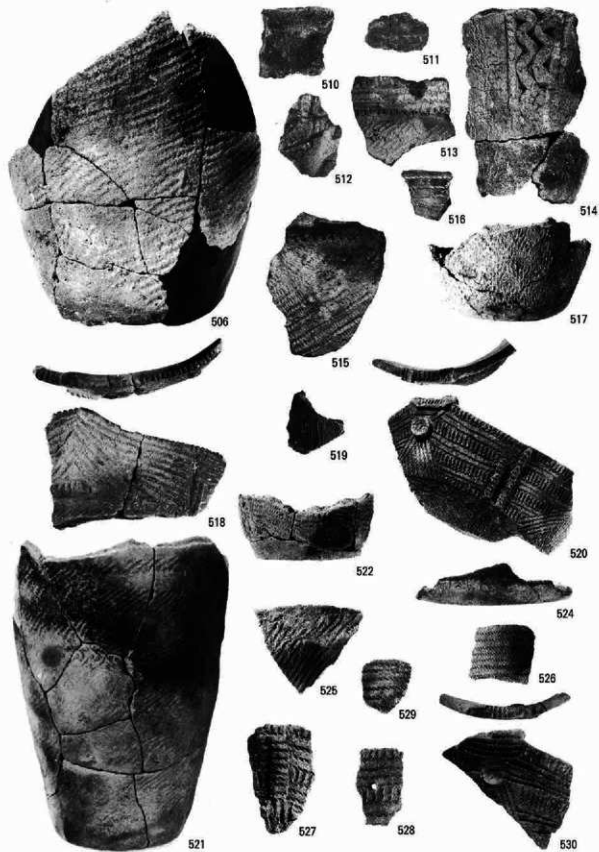
写真図版95 縄文土器(25) (S=1/3)



写真図版98 縄文土器(26) (S=1/3)



写真図版97 縄文土器(27) (S=1/3)



写真図版98 縄文土器(28) (S=1/3)



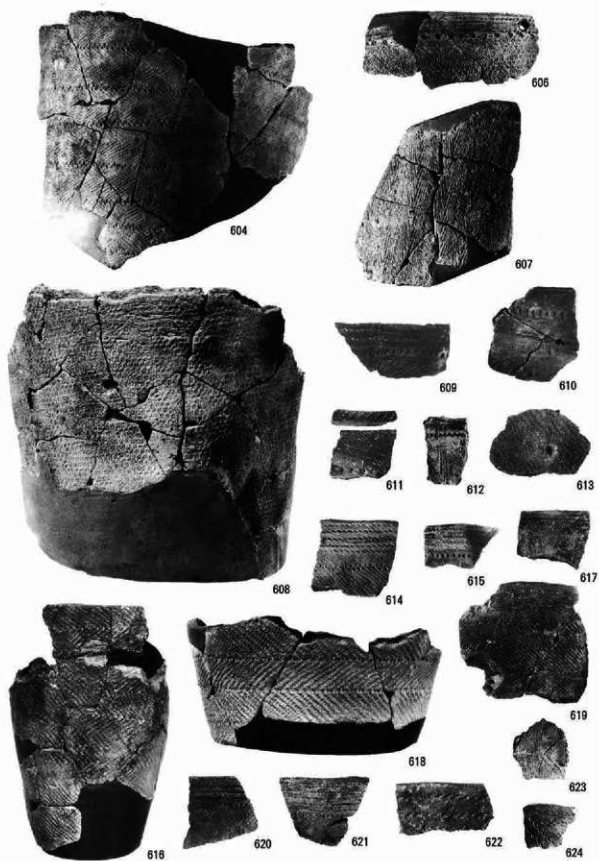
写真図版99 縄文土器(29) (S=1/3) (561紛失)



写真図版100 縄文土器(30) (S=1/3)



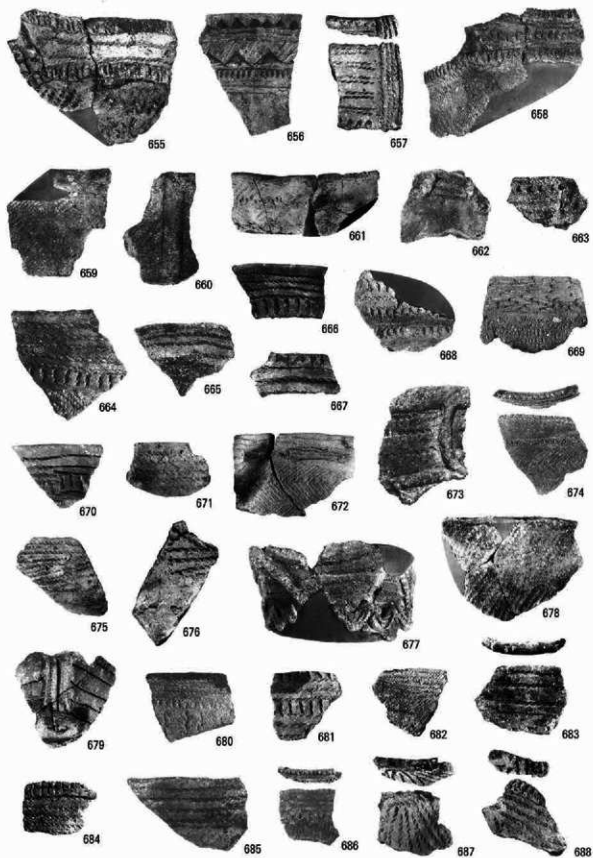
写真図版101 縄文土器(31) (S=1/3)



写真图版102 縄文土器(32) (S=1/3)



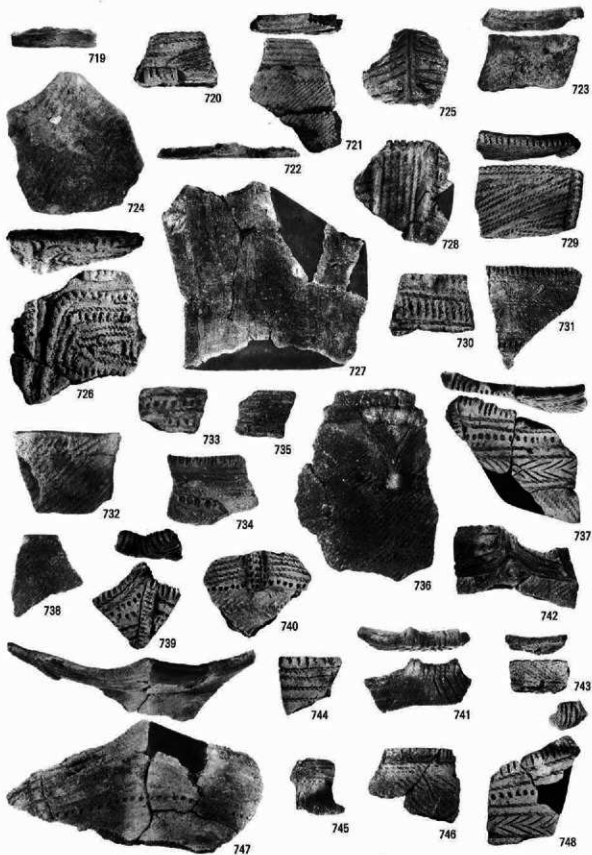
写真図版103 縄文土器(33) (S=1/3)



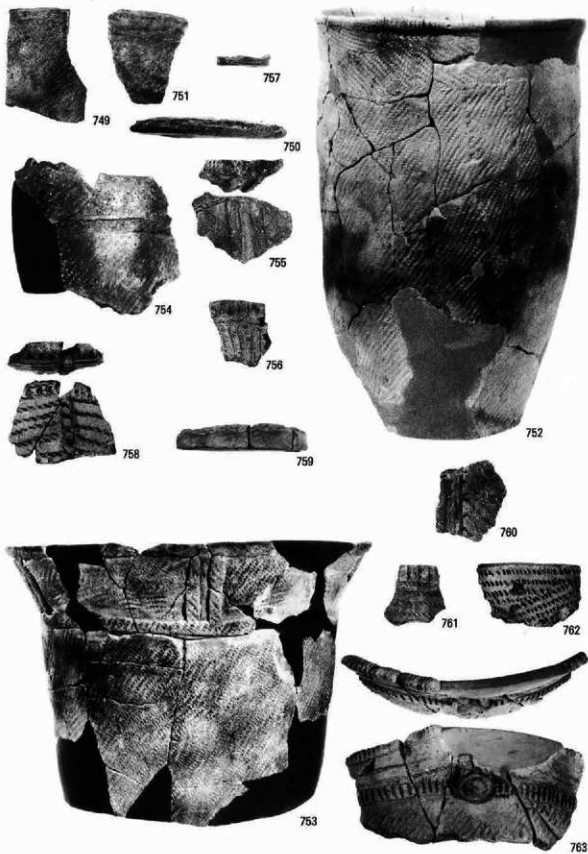
写真図版104 縄文土器(34) (S=1/3)



写真図版105 縄文土器(35) (S=1/3)



写真図版106 縄文土器(36) (S=1/3)



写真図版107 縄文土器(37) (S-1/3)



764



767



765



766



768



769



770



771



772



774



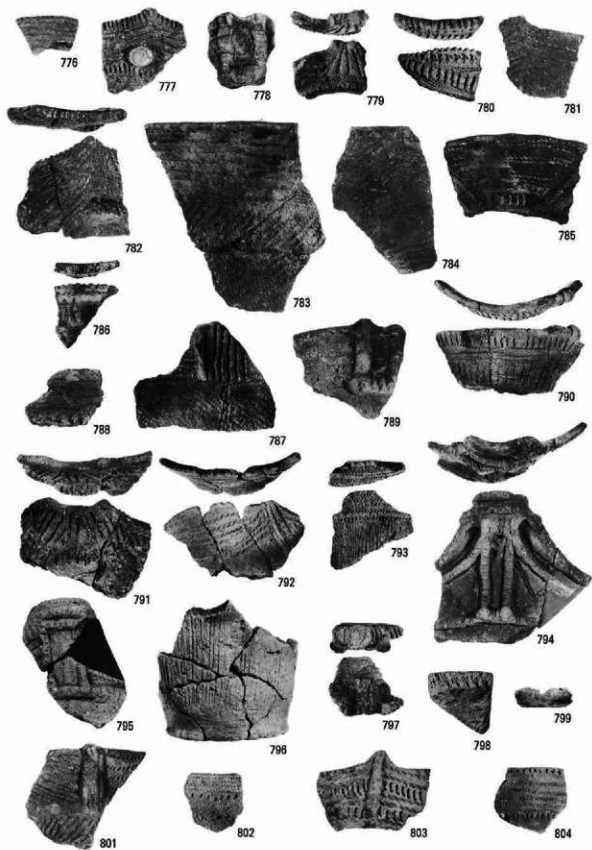
775



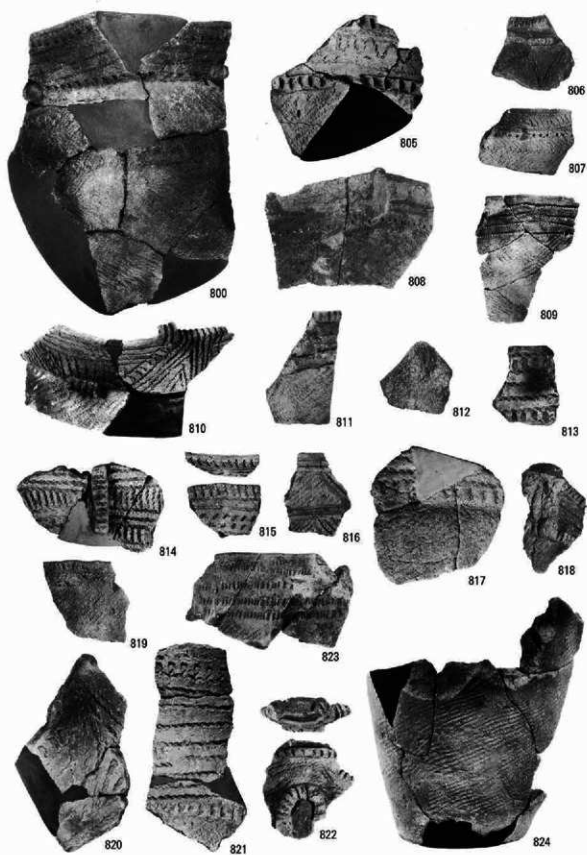
773



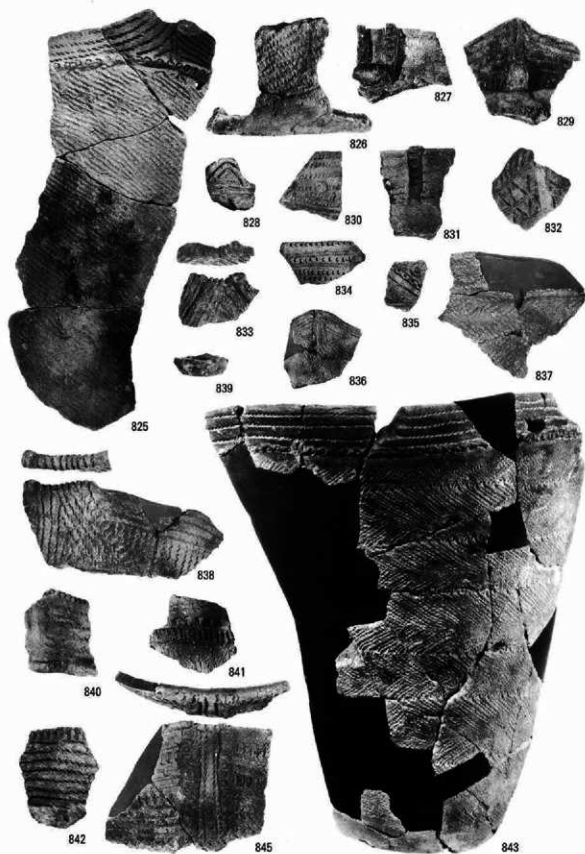
写真図版108 縄文土器(38) (S=1/3)



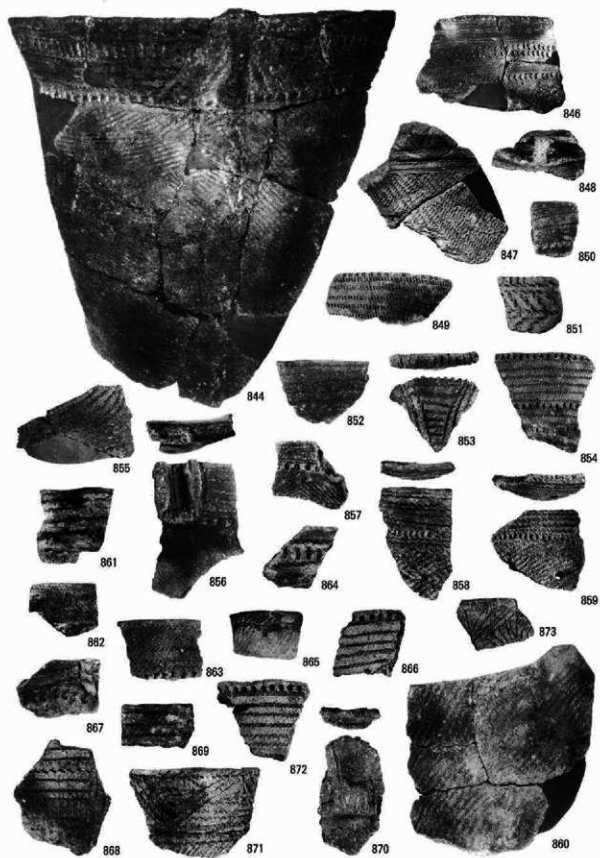
写真図版109 織文土器(39) (S=1/3)



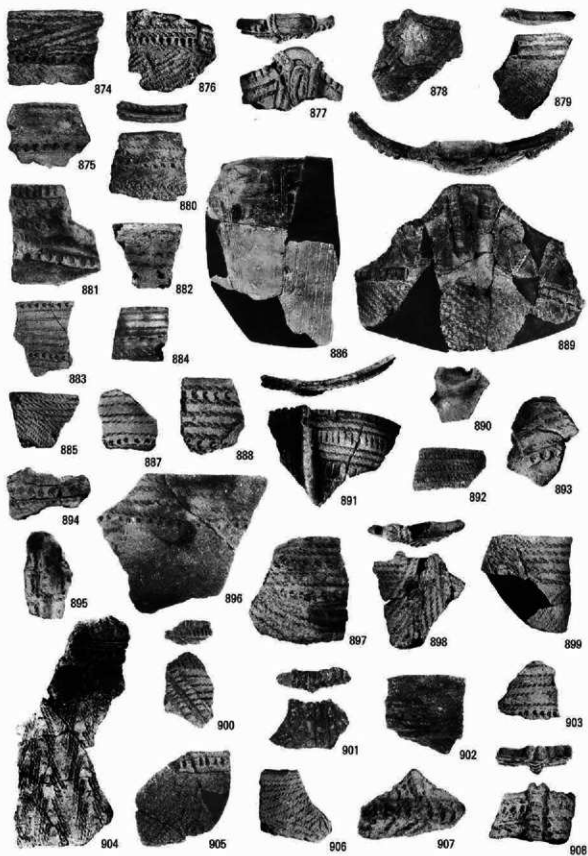
写真図版110 縄文土器(40) (S=1/3)



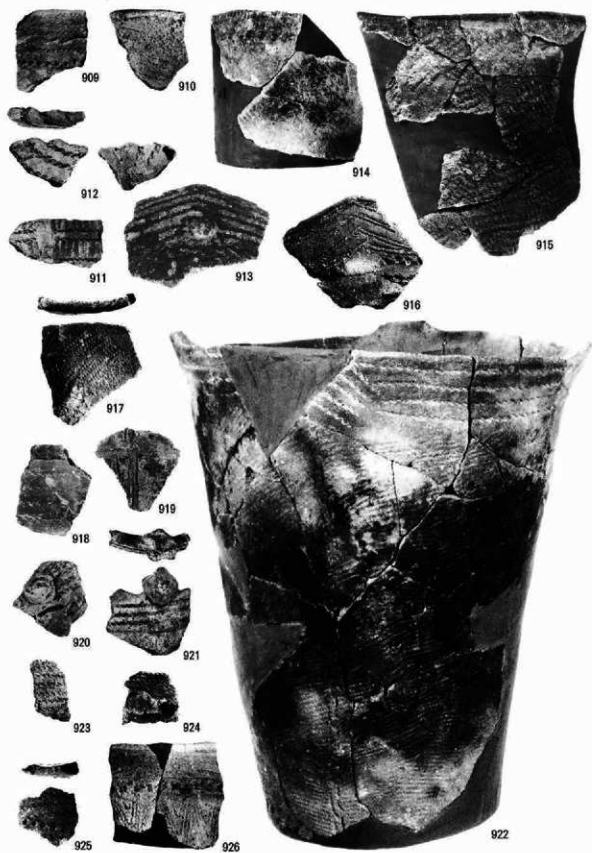
写真図版111 縄文土器(41) (S=1/3)



写真図版112 韓文土器(42) (S=1/3)



写真図版113 縄文土器(43) (S=1/3)



写真図版114 縄文土器(44) (S=1/3)



No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm)			重量(g)	保存状態	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅	厚さ					
1	土器?	BC②・II層	6.6	2.7	—	14.72	破片	開口、ピンク色に着色	184図1	p.209

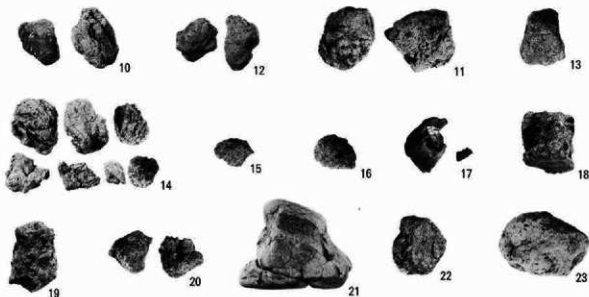


No.	種別	出土地点・層位	重量(g)	保存状況 (部位・加工法)	つくり (文様・装飾)	付着物	備考	図の 有無	本文 記載
2	土器	第20~21号、第33、104号土器・平輪跡	8.68	四角のいずれか?	板状	黒田原(黒田・黒田(下))		184図	p.209
3	土器	第73号土器・6層	19.96	割部?	板状	加文(ナデ)		184図	p.209
4	土器	東条道路・検出層 (IV層)	13.80	割部?	板状	黒田原(黒田・黒田(下))		184図	p.209
5	土器	試掘トレンチ1・8層	6.76	左輪?	板状	加文(ナデ)・貫通孔		184図	p.209

写真図版115 土師器 (S=1/3)・土製品(1) (S=1/2)

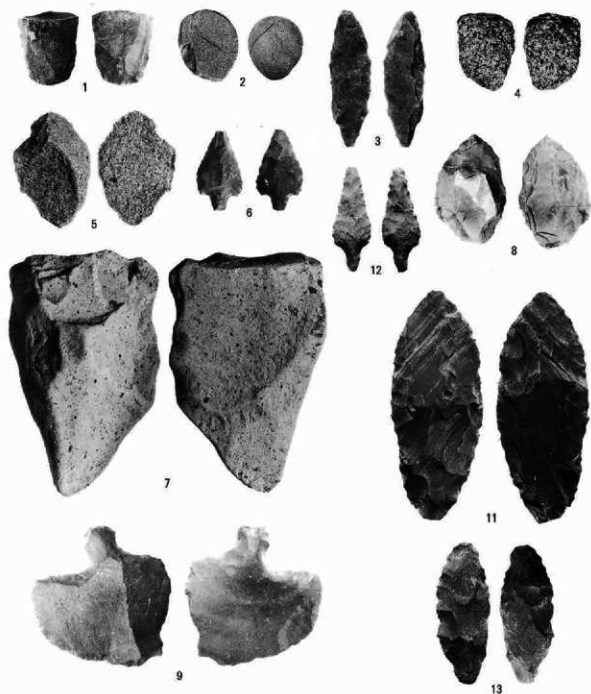


No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm)			重量(g)	残存状態	焼結の加工	利用土器の様子	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ							
6	円盤状土製品	第2号~第3号住居跡	7.6	7.4	1.2	23.05	完全		中間層7の焼結片(黒クマツ)で、6位・次層成でやや厚底		184265	
7	円盤状土製品	第2号土坑	65.0	65.0	3.0	12.49	破片	研削	胴部破片(黒クマツ)・海胆骨付にて、外面やや厚底		184267	
8	円盤状土製品	8B①・重層	8.8	8.0	1.3	84.4	完全	未加工	中間層7の焼結片(黒クマツ)・内面(クマツ)・内面(クマツ)	3層集合一定	184268	
9	円盤状土製品	8B保完位現象	65.0	65.0	1.1	14.16	破片	未加工	胴部破片(黒クマツ)・1次クマツ		184269	



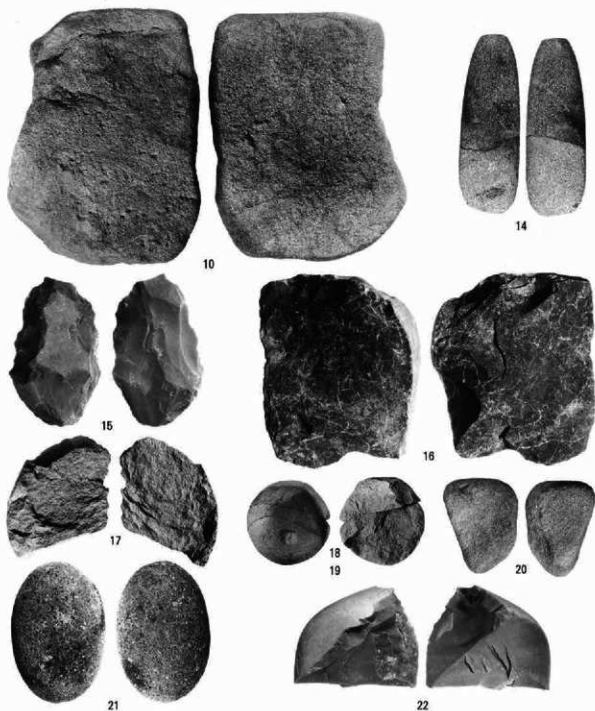
No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm)			重量(g)	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ				
10	焼結土塊	第1号住居跡	—	—	—	15.52	手ひねり	p.209	
11	焼結土塊	第5号住居跡	—	—	—	19.05	礫石状	p.209	
12	焼結土塊	第6号住居跡	—	—	—	8.40	手ひねり形だが、礫石状	p.209	
13	焼結土塊	第1号住居跡遺構	3.3	2.4	1.7	6.89	礫石状だが灰色		
14	焼結土塊	第21号土坑・6層	—	—	—	20.95	手ひねり	p.209	
15	焼結土塊	第22号土坑	2.1	1.5	1.0	1.59	金平礫状		
16	焼結土塊	第21号土坑・10~11層当層?	2.2	1.8	1.3	2.80	金平礫状だが、礫石状		
17	焼結土塊	第20号土坑・4~7層	3.4	2.2	2.0	5.85	黒く緻密だが、軽い。		
18	焼結土塊	第20号焼結土クマツ	3.9	3.1	2.6	19.66	手ひねりだが、表面黒く、やや重い。		
19	焼結土塊	第20号焼結土	3.9	2.5	2.1	15.90	手ひねりと金平礫の中間型		
20	焼結土塊	4C④・敷層-10cm	—	—	—	7.05	金平礫状	p.209	
21	焼結土塊	5D④・重層	6.0	5.2	3.2	43.69	礫石状だが、緻密で重い。		
22	焼結土塊	7B④・重層	3.2	2.7	1.5	9.56	金平礫状		
23	焼結土塊	7C①・日層	4.9	3.5	3.2	25.42	礫石状		

写真図版116 土製品(2) (S=1/2)



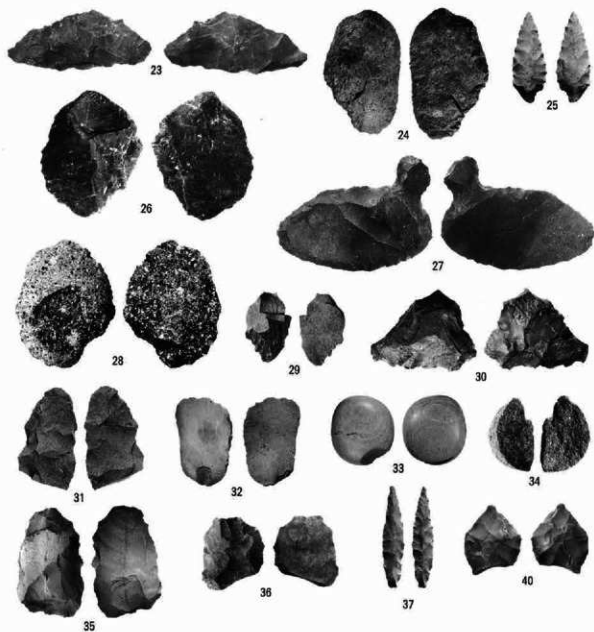
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
1	第1号住居・%2土層	スクレイパー-A類	3.1 2.3 1.1	8.25	頁岩(表上)	欠損			
2	第1号住居・1層	燧石	3.76 4.61 4.65	94.06	燧岩(表上)	破片			
3	第1号住居・1層	スクレイパー-A類?	5.6 1.7 1.1	8.61	頁岩(表上)			18500	
4	第1号住居・1層	磨蝕器類?	4.55 3.71 2.35	75.69	花崗閃緑岩(表上)	破片			
5	第1号住居・1層	=	4.5 3.07 0.87	8.88	砂岩(表上)	=			
6	第1号住居・2層	石鏃	3.25 1.8 1	4.86	頁岩(表上)	試掘時	凸減	18500	
7	第1号住居・6層	燧石?	8.14 5.85 2.84	191.2	燧岩(表上)				
8	第1号住居・6層	尖頭器	4.3 3 0.95	11.8	頁岩(表上)			18500	
9	第1号住居・6層	石鏃	6.9 5.7 1.1	23.55	頁岩(表上)			18500	
11	第1号住居・6層	尖頭器	9.3 3.8 1.5	51.8	頁岩(表上)	燧岩削		18500	
12	第1号住居・6層	石鏃	4.3 1.65 0.75	4.45	頁岩(表上)	試掘時	凸減	18500	
13	第1号住居・6層	尖頭器	5.7 2.2 1.1	12.91	頁岩(表上)			18500	

写真図版117 石器(1) (2, 4はS=1/3 他はS=1/2)



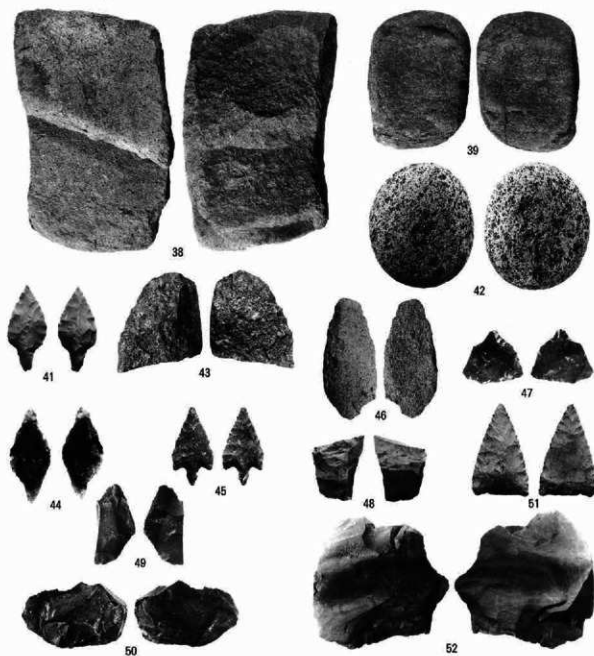
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
10	第1号住居・6層	石皿?	25.7	15.5	5.55	1948.63	砂岩(久原層群)				
14	第1号住居・7層	磨製石斧	14.0	4.88	3.27	403.48	砂岩(北上)	磨完形	3) 刃部(厚部)に1・2の痕跡あり		
15	第1号住居①	大原器	6.3	3.8	2	41.20	頁岩(北上)				18692
16	第1号住居②	二次加工剥片	7.91	6.37	2.66	148.17	*s=2 (北上)				
17	第1号住居②	磨製石皿?	8.47	3.81	1.29	13.27	砂岩(北上)	剥片			
18	第1号住居②	石皿	7.13	6.83	4.08	398.63	砂岩(北上)	1/2	1) 刃部(厚部)に1・2の痕跡あり		
19	第1号住居②	*					砂岩(北上)	1/2	1) 刃部(厚部)に1・2の痕跡あり		
20	第1号住居②	*	8.06	5.97	4.21	280.41	砂岩(久原層群)				
21	第1号住居②	卵石	12.1	8	4.9	681.54	安山岩(北上)		2) 刃部(厚部)に1・2の痕跡あり		18695
22	第1号住居②	一次加工剥片?	5.28	4.19	2.29	68.63	頁岩(北上)		1) 刃部(厚部)に1・2の痕跡あり (s)		

写真図版118 石器(2) (15~17、22はS=2/3 他はS=1/2)



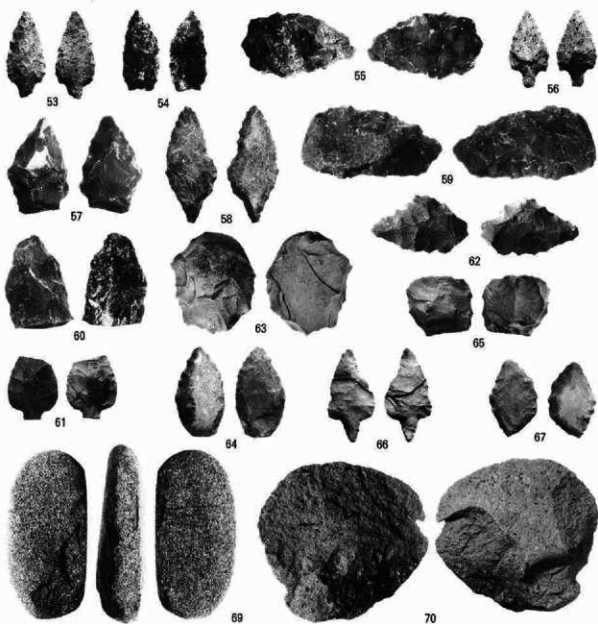
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法値(mm)		重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅						
23	第1号住居跡	スラレイバーA類?	2.45	5.85	1.15	15.37	頁岩(北土)			
24	第1号住居跡	燧石?	4.99	2.89	0.93	11.79	頁岩(北土)	破片	尖頭器に近い	1869C
25	第1号住居跡	石鏝	3.6	1.45	0.8	3.00	頁岩(北土)		凸縁	1869D
26	第1号住居跡	スラレイバーA類	5.3	4.25	0.85	16.44	頁岩(北土)			1869E
27	第1号住居跡	石鏝	4.7	5.1	1	26.23	頁岩(北土)		尖形	1869F
28	第1号住居跡	燧石(の破片?)	5.2	4	0.9	14.81	砂岩(北土)	破片		1869G
29	第1号住居跡	たぐいの破片?	2.85	1.8	0.31	1.63	頁岩(北土)			
30	第1号住居跡	スラレイバーA類	3.4	4.25	1.2	12.61	頁岩(北土)			1869H
31	第1号住居跡	燧石?	4.1	2.5	1.15	9.58	頁岩(北土)		欠損	1869I
32	第1号住居跡	スラレイバーA類	3.65	2.3	0.65	4.16	頁岩(北土)		長フレイク	1870A
33	第1号住居跡	原石?	5.27	4.19	2.83	89.14	頁岩(北土)		2行渡合	
34	第1号住居跡	磨礫器類	2.96	1.83	0.9	4.27	砂岩(北土)	破片		
35	第1号住居跡	スラレイバーA類	4.6	2.9	1.45	17.67	頁岩(北土)			1870C
36	第1号住居跡	スラレイバーA類	2.52	2.65	0.8	6.69	頁岩(北土)		欠損	1870D
37	第1号住居跡	石鏝?	4	0.9	0.6	1.2	頁岩(北土)		短尖形	1870E
38	第2号住居跡①-張明洞	石鏝?	2.95	2.4	1	5.33	頁岩(北土)	半端欠損	凸縁	1870F

写真図版119 石器(3) (33、38、39はS=1/2 他はS=2/3)



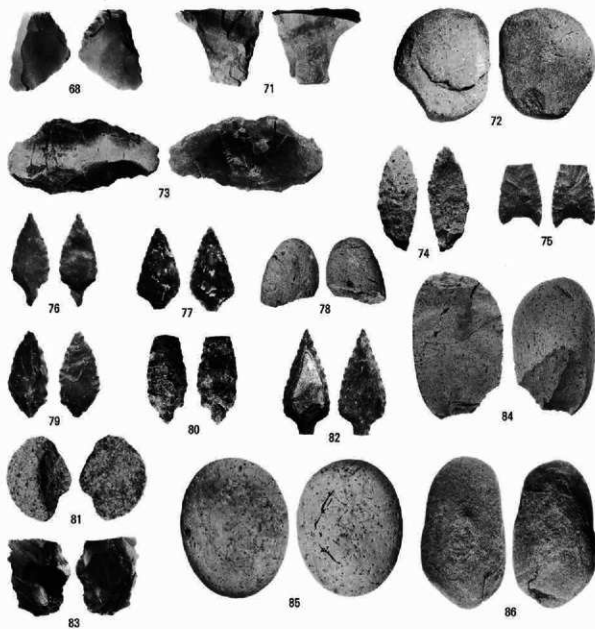
No.	出土地点・単位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	材質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
38	第2号住居 砂林土層①	打石片	19.4	11.8	7.29	2881.1	砂岩(久我湖層)		石部?		
39	第2号住居 砂林土層No3	打石片	11.25	8.15	4.16	685.86	ホルツェルス(北)				
41	第2号住居内(一)深溝段	石鏃?	3.5	1.55	0.7	2.52	頁岩(北)	扁平形	凸基	187図	
42	第2号住居・2層	卵石	10.8	8.9	5.3	777.59	花崗閃緑岩(北上)		完全に融打痕	187図	
43	第2号住居・2層	卵石白磁	9.49	7.01	3.94	255.94	花崗閃緑岩(北上)	欠損	片断側面に平ら面		
44	第2号住居・2層	石鏃	3.75	1.65	0.75	3.81	頁岩(北)	扁平形	凸基	187図	
45	第2号住居 柱穴2	石鏃	3.1	1.7	0.4	1.53	頁岩(北)	扁平形	凸基	187図	
46	第2号住居 柱穴4	卵石磁類	4.71	3.1	0.51	5.78	砂岩(北)	破片			
47	第2号住居 柱穴5	スラレイバーA層	2.5	2.55	0.6	2.06	頁岩(北)			187図	
48	第2号住居 柱穴5	スラレイバーA層	2.75	2.1	0.9	4.8	頁岩(北)			187図	
49	第2号住居 柱穴5	スラレイバーA層	3.35	1.8	0.75	4.79	頁岩(北)	欠損		187図	
50	第2号住居 柱穴5	スラレイバーA層?	3.7	4.45	1.7	18.09	頁岩(北)			187図	
51	第3号住居・1層	石鏃	3.7	2.4	0.6	3.59	頁岩(北)	完形	平基・裏面加工少ない	188図	
52	第3号住居・2層	スラレイバーA層?	5.3	5.5	1.65	38.77	頁岩(北)		目フレイク	188図	

写真図版120 石器(4) (38、39、42、43はS=1/3 他はS=2/3)



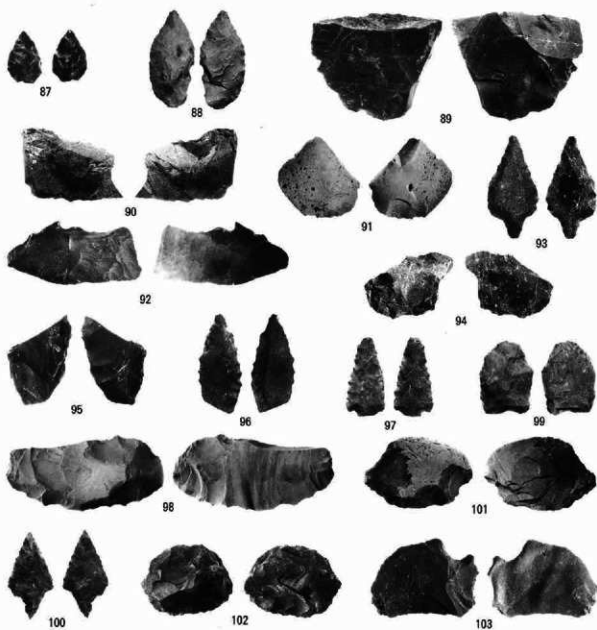
No.	出土地点・層位	器種	最大寸測値(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	材質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
53	第3号住居・3層	石鏃	3.9 1.63 0.63	3.11	キルツェルス(北土)	凹・凹痕	凸縁・裏面加工少ない	188図	
54	第3号住居・3層	石鏃	3.4 1.6 0.8	3.29	真岩(北土)	下層欠陥		188図	
55	第3号住居・3層	ヌタレイバーA型?	2.65 4.5 0.8	10.99	真岩(北土)		尖頭部欠	188図	
56	第3号住居・4層	石鏃	3 1.85 0.9	2.92	真岩(北土)		基部欠陥	188図	
57	第3号住居・4層	石鏃?	4 2.5 1.35	11.04	真岩(北土)		基部欠陥	188図	
58	第3号住居・4層	石鏃	4.8 2.15 0.9	1.74	真岩(北土)		凸縁・裏面加工少ない	188図	
59	第3号住居・4層	ヌタレイバーA型	3.1 5.9 1.5	22.65	真岩(北土)			185図	
60	第3号住居・4層	尖頭部	3.9 2.6 1.1	10.82	真岩(北土)		凹痕	188図	
61	第3号住居・4層	石鏃	2.6 2 0.65	2.9	真岩(北土)	凹縁欠陥	凸縁	188図	
62	第3号住居 様式10	尖頭部?	3.9 2.4 1.1	8.34	真岩(北土)			188図	
63	第3号住居 様式10	ヌタレイバーA型	4.5 3.65 1.6	22	真岩(北土)			189図	
64	第3号住居 副溝	石鏃の未製品?	3.7 3 0.9	6.19	真岩(北土)		凹縁にヌタレイバーA型?	189図	
65	第3号住居 副溝	ボム・ムネイ・ヌ?	3.5 2.7 0.9	8.45	真岩(北土)			189図	
66	第3号住居 副溝	石鏃	3.65 1.9 0.6	2.97	真岩(北土)	凹痕	凸縁	189図	
67	第3号住居 副溝	石鏃?	3.2 2 0.7	4.49	真岩(北土)			189図	
69	第3号~3号住居D	磨石片類	14 8.75 4.1	694.57	砂礫岩(北土)			182図	
70	第2号~3号住居D	磨石片類?	6.3 6.27 3.67	62.44	砂礫岩(北土)	破片		182図	

写真図版121 石器(5) (69はS=1/3 他はS=2/3)



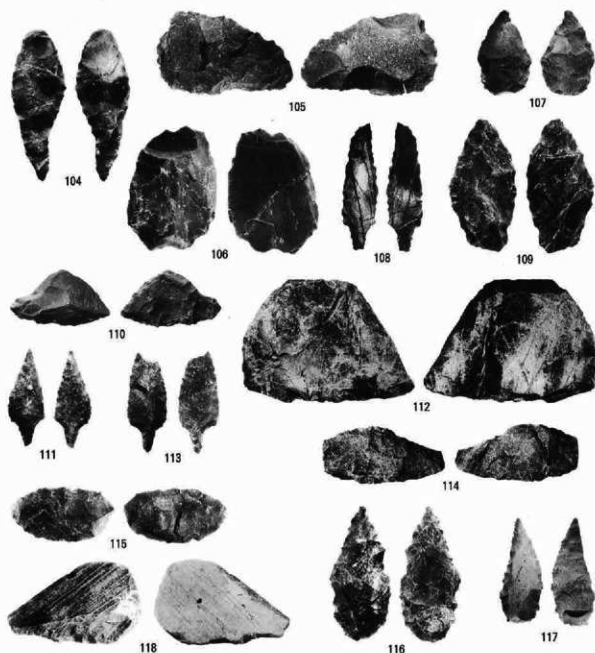
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
68	第3号住居 灰タリ=ニング	ステレイバー-A層	3.9 2.5 0.8	4.68	頁岩(北上)		リフレイク	189図	
71	第2号~3号住居①	ステレイバー-A層	3.08 3.58 1.1	7.87	砂岩(北上) 頁岩(北上)				
72	第2号~3号住居①	燧石	9.33 8.42 4.07	482.73	砂岩(北上)		前後を欠す・中央に縦打痕 尖地部つくりかけず	189図	
73	第2号~3号住居①	ステレイバー-A層	3.1 6.2 1.15	21.23	頁岩(北上)				
74	第2号~3号住居①	子器字	4.2 1.65 0.65	2.91	凝灰岩(北上)		溝・細部は欠・折れ=部?	189図	
75	第2号~3号住居①	石鏟	2.55 1.8 0.6	2.51	頁岩(北上)		先端欠損	189図	
76	第2号~3号住居①	石鏟	3.9 1.5 0.5	2.23	頁岩(北上)		基部欠損	189図	
77	第2号~3号住居①	石鏟	3.4 1.8 1	6.97	頁岩(北上)		*	189図	
78	第2号~3号住居①	緑石?	5.82 4.63 2.52	70.62	凝灰岩(北上)		欠損		
79	第2号~3号住居①	石鏟	3.5 1.7 0.7	4.57	頁岩(北上)		基部欠損	189図	
80	第2号~3号住居①	石鏟	3.6 1.7 0.8	8.52	頁岩(北上)		先端欠損	190図	
81	第2号~3号住居①	磨製器類	2.41 3.27 1.15	5.91	凝灰岩(北上)		破片		
82	第2号~3号住居①	石鏟	4.35 1.9 1.05	7	頁岩(北上)		基部欠損	190図	
83	第2号~3号住居①	大形器字	3.35 2.6 1.5	10.54	頁岩(北上)		先端欠損	190図	
84	第2号~3号住居①	磨製器類?	3.42 2.22 3.19	38.52	砂岩(北上)		進行		
85	第2号~4号住居①	燧石	11.08 9.61 3.85	563.81	石英安山岩(北上)		残片		
86	第2号~3号住居①	燧石	12.87 6.51 4.34	550.16	ホムンフォス(北上)		表面中央に浅い凹み		

写真図版122 石器(6) (72、78、85、86はS=1/3 他はS=2/3)



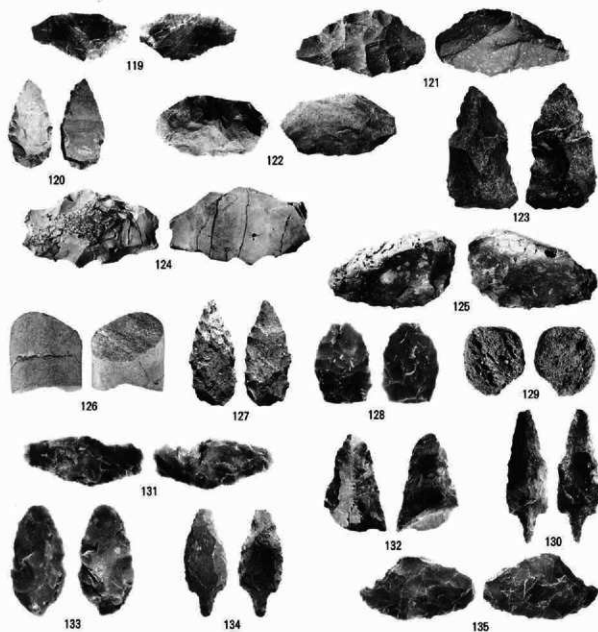
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	材質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
87	第2号~3号住居跡	石鏃	2.2 1.45 0.7	1.77	頁岩(表土)	基部欠損	凸溝		1909D
88	第2号~3号住居跡	石鏃	4 1.9 1	6.23	頁岩(表土)	〃	凸溝?		1909E
89	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	4.55 3.5 1.7	37.64	頁岩(表土)				1909G
90	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	3.95 4.1 0.86	8.23	頁岩(表土)				1909H
91	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	3.3 3.4 1	9.72	凝灰岩(表土)		凹フレイク		1909I
92	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	2.6 3.6 0.7	5.44	頁岩(表土)				1909J
93	第2号~3号住居跡	石鏃	4.2 2.1 0.8	5.81	頁岩(表土)	端欠形	凸溝		1909K
94	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	2.7 3.5 0.9	8.14	頁岩(表土)		尖頭器?		1909L
95	第2号~3号住居跡	尖頭器?	3.95 2.5 0.95	7.43	頁岩(表土)	1/2			1909M
96	第2号~3号住居跡	石鏃?	3.0 1.6 0.6	3.24	頁岩(表土)	基部欠損	凸溝?・凹溝少ない		1909N
97	第2号~3号住居跡	石鏃	3.10 1.50 0.7	3.21	頁岩(表土)	〃	凸溝		1910A
98	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	3.1 6.4 0.7	17.3	頁岩(表土)		尖頭器?		1910B
99	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	3 2.2 0.86	5.31	頁岩(表土)				1910C
100	第2号~3号住居跡	石鏃	3.5 1.9 0.9	3.56	頁岩(表土)	端欠形	凸溝		1910D
101	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	3.1 4.5 1.4	18.3	頁岩(表土)				1910E
102	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	3 3.9 1.45	14.56	頁岩(表土)				1910F
103	第2号~3号住居跡	スタレイパーA型	3.1 4.4 0.6	6.42	頁岩(表土)		凹フレイク		1910G

写真図版123 石器(7) (S=2/3)



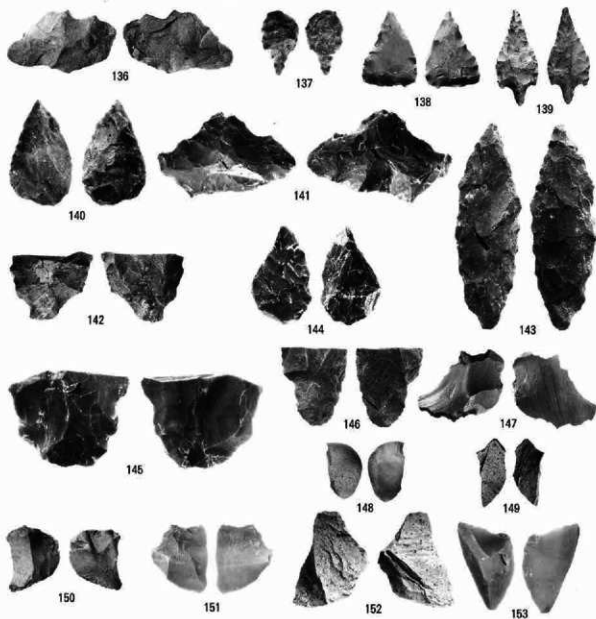
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
104	第2号~3号住居跡	石鏃	6.1 2.3 1.1	12.30	頁岩(北上)	先端欠損		191b	
105	第2号~3号住居跡	スタンイボ-A型	8.45 5.8 1.8	21.27	頁岩(北上)		尖頭型?	191b	
106	第2号~3号住居跡	スタンイボ-A型	5.3 3.7 1.55	31.73	頁岩(北上)			191b	
107	第2号~3号住居跡	石鏃	3.60 3.3 0.9	8.46	頁岩(北上)		断面欠損? 可成り	191b	
108	第2号~3号住居跡	石鏃	5.7 1.5 0.8	5.92	頁岩(北上)		鋭~鈍頭 片断(断面欠損)	192b	
109	第2号~3号住居跡	尖頭鏃	5.6 2.8 1.2	16.66	頁岩(北上)			192b	
110	第2号~3号住居跡	スタンイボ-A型?	2.35 4.1 0.95	6.76	頁岩(北上)			192b	
111	第2号~3号住居跡	石鏃	3.05 1.5 0.75	2.95	頁岩(北上)	略欠形	凸芯	192b	
112	第2号~3号住居跡	スタンイボ-A型	5 6.9 1	31.83	頁岩(北上)			192b	
113	第2号~3号住居跡	石鏃	4 1.6 0.65	3.64	頁岩(北上)	先端欠損	凸芯	192b	
114	第2号~3号住居跡	スタンイボ-A型	2.25 4.8 0.8	8.61	頁岩(北上)	両端欠損		192b	
115	第2号~3号住居跡	スタンイボ-A型	2.25 4.35 1	7.87	頁岩(北上)		断面欠損?	192b	
116	第2号~3号住居跡	石鏃	5.3 2.4 1.2	12.84	頁岩(北上)		可成り・尖頭鏃?	192b	
117	第2号~3号住居跡	スタンイボ-A型	4.3 1.3 0.7	4.91	頁岩(北上)		石鏃?	192b	
118	第2号~3号住居跡	スタンイボ-A型	3.4 5.5 1.7	20.12	湖沢岩(北上)			192b	

写真図版124 石器(8) (S=2/3)



No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)		重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	厚さ						
119	第2号~3号住居跡	スタレイバーA型	1.9	2.85	0.85	頁岩(北土)		石鏃?		1909B
120	第2号~3号住居跡	石鏃?	3.65	1.6	0.6	頁岩(北土)		スタレイバーA型?		1909A
121	第2号~3号住居跡	尖頭器?	2.7	3.3	1.25	頁岩(北土)		=		1909C
122	第2号~3号住居跡	スタレイバーA型	3.6	4.6	1.5	15.07	頁岩(北土)		矢頭器?	1909E
123	第2号~3号住居跡	尖頭器?	5.55	2.9	1.7	28.86	頁岩(北土)	欠損		1909D
124	第2号~3号住居跡	スタレイバーA型	3.11	5.55	1.7	28.35	頁岩(北土)		矢頭器?	1909F
125	第2号~3号住居跡	スタレイバーA型	3.35	5.2	2.1	28.24	頁岩(北土)			1909G
126	第2号~3号住居跡	不明	6.54	6.11	2.69	153.79	頁岩(北土)	破片	骨製石拵?	
127	第2号~3号住居跡	石鏃	3.55	1.95	0.9	6.45	頁岩(北土)			1909H
128	第2号~3号住居跡	石鏃	2.4	3.5	1	8.76	オルソフェルス(北土)	欠損		1909I
129	第2号~3号住居跡	礫石(未加工)	1.5	2.75	2.34	2.49	湖沢岩(北土)		円基	
130	第2号~3号住居跡	石鏃	5.4	1.7	0.95	6.48	頁岩(北土)	先端欠損	円基	1909J
131	第2号~3号住居跡	尖頭器?	2.1	4.9	1	5.54	礫石(北土)			1949C
132	第2号~3号住居跡	尖頭器	4.5	2.5	1.35	9.11	頁岩(北土)	欠損		1949E
133	第2号~3号住居跡	=	4.5	2.5	1.35	11.45	頁岩(北土)			1949D
134	第2号~3号住居跡	石鏃	4.55	1.35	0.8	8.46	頁岩(北土)	先端欠損	円基	1949B
135	第2号~3号住居跡	尖頭器?	2.8	4.7	1.1	12.61	頁岩(北土)			1949A

写真図版125 石器(9) (126はS=1/3 他はS=2/3)



No	出土地点・樹種	器種	最大寸法(mm)			重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
136	第2号〜3号住居跡	尖頭器?	2.6	4.5	1.1	10.45	カクンフェルス(北上)	〃			1949E
137	第2号〜3号住居跡	石鏃?	2.7	1.65	0.8	2.85	頁岩(北上)		石鏃?		1949E
138	第2号〜3号住居跡	石鏃?	3.2	2.2	0.7	4.44	頁岩(北上)		スクレイパーA型?		1949E
139	第2号〜3号住居跡	石鏃	3.85	1.7	0.6	2.74	湖床岩(北上)	完形	凸基		1949E
140	第2号〜3号住居跡	石鏃?	4.4	2.6	1.05	10.30	頁岩(北上)		尖頭器?・凸基		1949E
141	第2号〜3号住居跡	スクレイパーA型	3.65	3.8	1.5	25.07	チャーム(北上)				1949E
142	第2号〜3号住居跡	尖頭器?	2.9	3.3	1.2	8.92	頁岩(北上)				1949E
143	第2号〜3号住居跡	尖頭器	8.2	2.7	1.2	24.58	頁岩(北上)	磨突形	縁と裏より縁沿の一体的形		1949E
144	第2号〜3号住居跡	石鏃?	4.2	2.4	1	7.90	頁岩(北上)		尖頭器?		1949E
145	第2号〜3号住居跡	スクレイパーA型	4	5	1.65	50.09	頁岩(北上)	欠損			1949E
146	第2号〜3号住居跡	尖頭器?	3.3	2.7	1	6.8	頁岩(北上)	1/2			1949E
147	第4号住居 柱穴1・5層	スクレイパーA型	2.95	3.7	1	6.34	頁岩(北上)				1949E
148	第10号住居北西隅付点 (第4A号砂礫層)	フレイク?	3.03	3.19	1.86	31.25	頁岩(北上)				
149	第10号住居北西隅付点 (第4A号砂礫層)	フレイク?	2.71	1.35	0.45	1.22	湖床岩(北上)				
150	第10号住居北西隅付点 (第4A号砂礫層)	Uフレイク?	2.4	2.1	1.2	4	頁岩(北上)				1949E
151	第10号住居北西隅付点 (第4A号砂礫層)	フレイク?	3.07	2.3	0.98	3.86	頁岩(北上)				
152	第10号住居北西隅付点 (第4A号砂礫層)	〃	3.58	2.51	1.06	8.8	湖床岩(北上)				
153	第10号住居北西隅付点 (第4A号砂礫層)	〃	3.62	1.89	1.26	8.22	結晶頁岩(北上)				

写真図版126 石器(10) (148はS=1/3 他はS=2/3)

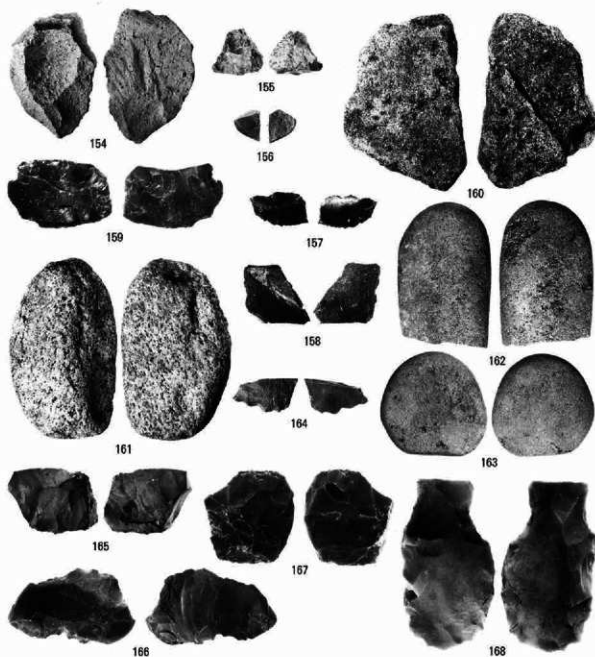
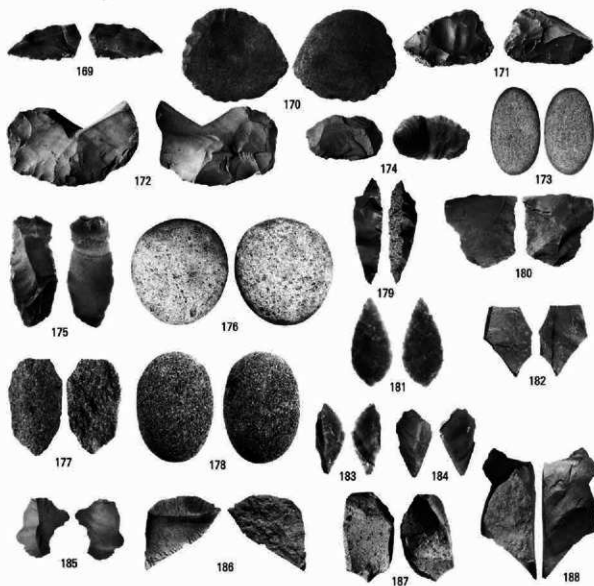


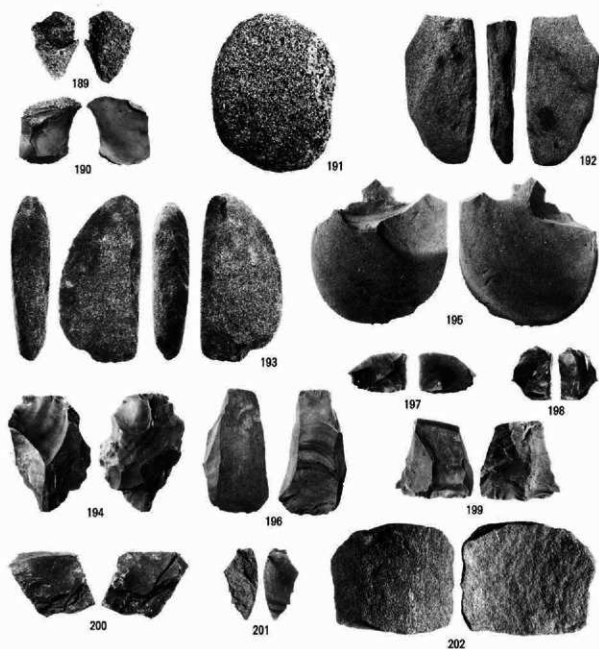
図	出土地・層位	器種	最大計面積(cm ²) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
154	第10号住居北西隅付片(第4A号砂礫層)	フリイタ	5.05 3.46 1.57	15.88	濁灰岩(北上)				
155	第10号住居北西隅付片(第4A号砂礫層)	≡	2.15 1.86 0.92	3.14	頁岩(北上)				
156	第10号住居北西隅付片(第4A号砂礫層)	≡	2.57 2.14 1.1	6.62	頁岩(北上)				
157	第4B、C号砂礫層(砂)	フリイタ	1.4 2.4 0.6	1.6	頁岩(北上)				155図
158	第4B、C号砂礫層(砂)	フリイタ	2.5 2.5 1.2	7.54	頁岩(北上)				155図
159	第4B、C号砂礫層(砂)	スランパーA類	2.8 4.2 0.25	11.92	頁岩(北上)				155図
160	第4A号砂礫	卵石?	14.5 10 4.4	571.85	砂岩(茨城県産)	欠損	石形状の石に多くの凹み		155図
161	第4C号砂礫	卵石?	14.82 8.68 4.57	840.43	花崗岩(北上)				
162	第4C号砂礫 砂体土器	卵石	11.76 7.85 4.65	732.95	石英安山岩(北上)	欠損			
163	第4C号砂礫 砂体土器	卵石?	8.48 8.16 2.85	296.53	砂岩(北上)		一部に磨面		
164	第4C号砂礫 砂体土器	スランパーA類	1.6 2.5 0.4	1.89	頁岩(北上)				156図
165	第42号墳上、第5A号〜5B号砂礫層内	≡	2.7 3.65 0.85	11.12	頁岩(北上)				156図
166	第42号墳上、第5A号〜5B号砂礫層内	≡	3.65 3.2 0.85	18.25	砂岩(北上)				156図
167	第42号墳上、第5A号〜5B号砂礫層内	≡	3.8 3.6 0.9	15.05	頁岩(北上)				156図
168	第42号墳上、第5A号〜5B号砂礫層内	石籠	7.1 3.95 1.55	38.83	緑質頁岩(北上)	磨光面			156図

写真図版127 石器(11) (156、160~163はS=1/3 他はS=2/3)



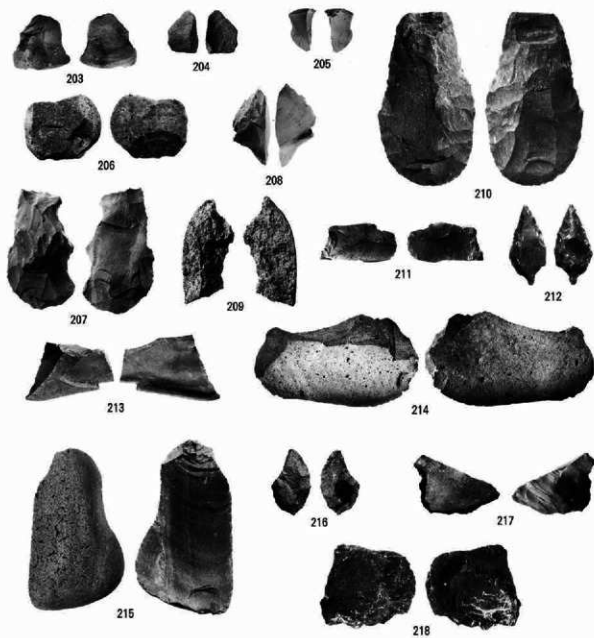
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(mm)		重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 位置	本文 記載	
			長さ	幅							
169	第42号墳上・第5A号~5B号段跡内	ステレバークス層	1.5	3.05	1.85	頁岩(北)		Rフレイタ	1969C		
170	第42号墳上・第5A号~5B号段跡内	〃	3.0	4.1	16.42	モルンフェルス(北)		・通孔付(1)・通孔付(2)	1969C		
171	第42号墳上・第5A号~5B号段跡内	〃	2.35	3.65	0.8	頁岩(北)			1969C		
172	第42号墳上・第5A号~5B号段跡内	〃	3.7	5.3	21.97	頁岩(北)	欠損		1969C		
173	第6号古墳跡 跡内にあり	不明石製品	7.19	4.06	1.76	モルンフェルス(北)		縁辺部に磨痕あり			
174	第7号住居 柱穴C	Uフレイタ	1.9	3.1	0.4	頁岩(北)			1969C		
175	第7号住居 柱穴C	ステレバークス層	4.5	2	0.7	頁岩(北)		Rフレイタ	1969C		
176	第7号住居 柱穴C 平儀時	磨石類?*	8.64	7.86	243.34	石炭安山岩(北)					
177	第8号住居 柱穴・5層	〃	3.75	2.11	0.66	砂岩(北)		破片			
178	第10号住居・4層	緑石	9.6	6.6	5.8	546.9	赤結晶灰岩(北)		頂部に最行痕	1979C	
179	第10号住居・4層	フレイタ	4.04	1.68	0.96	3.35	頁岩(北)				
180	第10号住居・4層	〃	2.69	2.88	0.5	3.17	頁岩(北)				
181	第10号住居・4層(床面)	石錐	5.55	1.65	0.4	2.45	緑質頁岩(北)	変形	円錐	1979C	
182	第10号住居跡	フレイタ	3	1.81	0.28	1.67	頁岩(北)				
183	第10号住居跡	〃	2.71	1.2	0.77	2.02	チャート(北)				
184	第10号住居跡	〃	2.7	1.4	0.5	1.27	頁岩(北)		Uフレイタ?*	1979C	
185	第10号住居跡	〃	2.41	2.1	0.39	1.55	頁岩(北)				
186	第10号住居跡	〃	3.83	2.68	0.6	3.53	頁岩(北)				
187	第10号住居跡	〃	3.52	1.99	1.14	6.69	凝灰岩(北)				
188	第10号住居跡	〃	5.67	2.95	1.77	16.05	頁岩(北)				

写真図版128 石器(12) (173、176、178はS=1/3 他はS=2/3)



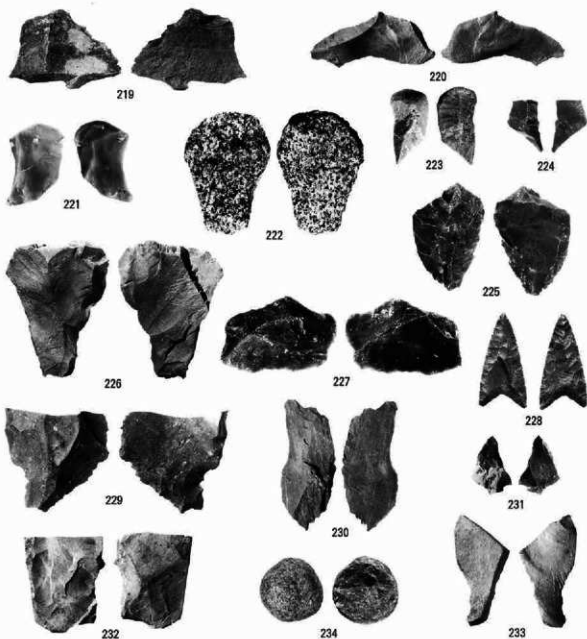
No	出土地点・部位	器種	最大寸法(cm)		重量(g)	材質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅						
189	第10号住居跡	フリート片断	5.96	3.6	1.92	29.84	火山岩(北土)			
190	第10号住居跡	フリート	2.96	2.47	0.96	3.1	頁岩(北土)			
191	第10号住居跡	核石	13.51	10.3	4	783.98	花崗閃緑岩(北土)			
192	第10号住居跡	打製石斧	11.9	8.9	2.7	291.24	ホルンフェルス(北土)	尖頭	約溝ひどい	1976a p.213
193	第10号住居跡	?	13.7	6.7	3.3	481.37	はんれい岩(北土)	?		1976b
194	第11号住居跡(第105号土坑含む)①	スタレイバーA型	4.7	3.5	1.2	17.55	頁岩(北土)		先端部欠	1976b
195	第11号住居跡(第105号土坑含む)②	フリート	5.8	5.7	1.8	39.83	頁岩(北土)			1976c
196	第11号住居跡(第105号土坑含む)③	ビス・エスターマツ	8	3.7	1.4	17.23	頁岩(北土)			1976d
197	第11号住居跡(第105号土坑含む)④	フリート	2.95	1.6	0.3	1.44	頁岩(北土)			1980a
198	第11号住居跡カマド跡	?	2.08	1.87	0.74	3.45	頁岩(北土)			
199	第11号住居跡カマド跡	スタレイバーA型?	3.27	3.1	1.6	19.34	頁岩(北土)			
200	第11号住居跡	?	3.75	2.75	0.72	6.83	頁岩(北土)			フリート片
201	第11号住居跡	フリート	2.9	1.43	0.51	0.82	頁岩(北土)			
202	第11号住居跡	原形器種?	3.55	3.71	0.94	49.68	ホルンフェルス(北土)	細片		

写真図版129 石器(13) (189, 191~193は S=1/3 他は S=2/3)



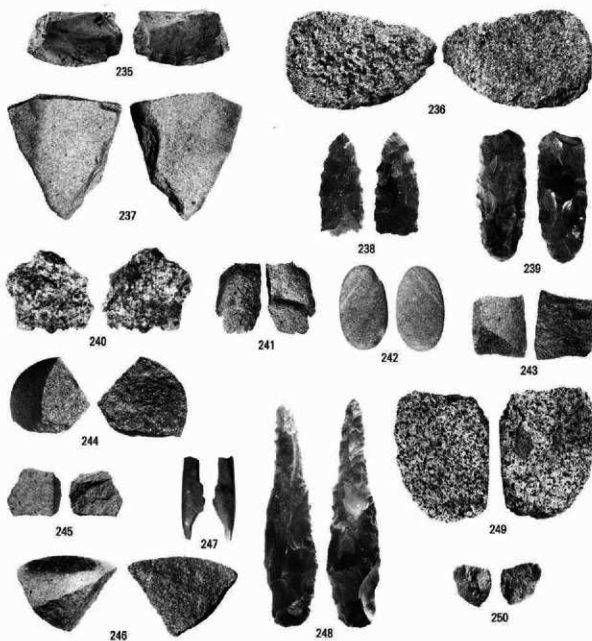
No	出土地点・層位	器 種	最大寸法値(cm)			重量(g)	石 質	残存状況	備 考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅	厚さ						
203	第11号住居跡④	フレイタ	0.81	0.82	0.3	1.68	頁岩(北上)				
204	第11号住居跡④	磨盤部破片?	3.45	2.25	1.68	9.51	カマンフォルス(北上)	破片			
205	第11号住居跡④	フレイタ	1.67	1.62	0.58	0.63	頁岩(北上)				
206	第11号住居跡④	ノ	2.5	3	0.8	4.71	燧石岩(北上)				
207	第11号住居跡④	スタレイベーA型	4.9	2.9	1.1	16.22	頁岩(北上)				1982D
208	第11号住居跡④	フレイタ	3.01	1.55	1.26	4.58	頁岩(北上)				1995G
209	第1号住居跡遺構・4層	磨盤部破片	1.27	3.81	2	10.82	頁岩(北上)	破片			
210	第1号住居跡遺構・4層	石鏢	6.9	3.9	1.5	38.80	頁岩(北上)		基部に黒色付着物		1992D
211	第2号住居跡遺構	スタレイベーA型?	1.6	2.9	0.6	2.97	頁岩(北上)		フレイタ?		1992Q
212	第2号住居跡遺構	石鏢	3.2	1.5	0.5	2.53	頁岩(北上)	磨盤用	凸縁・裏面鋭利少ない		1992Q
213	第2号住居跡遺構	フレイタ	2.49	3.71	2.08	9.87	頁岩(北上)				
214	第2号住居跡遺構	ノ	3.8	6.8	1.2	26.76	頁岩(北上)		縁部を削ぎ取っているのかもしれない		1992R
215	第2号住居跡遺構	ノ	6.47	3.69	1.6	39.4	頁岩(北上)				
216	第1号土坑	石鏢?	2.6	1.5	0.6	1.89	頁岩(北上)				1997B
217	第1号土坑	スタレイベーA型?	2.42	3.3	0.55	3.97	頁岩(北上)				1997D
218	第1号土坑	スタレイベーA型?	3.5	3.9	0.8	13.06	チャート(北上)		フレイタ?		1997D

写真図版130 石器(14) (204はS=1/3 他はS=2/3)



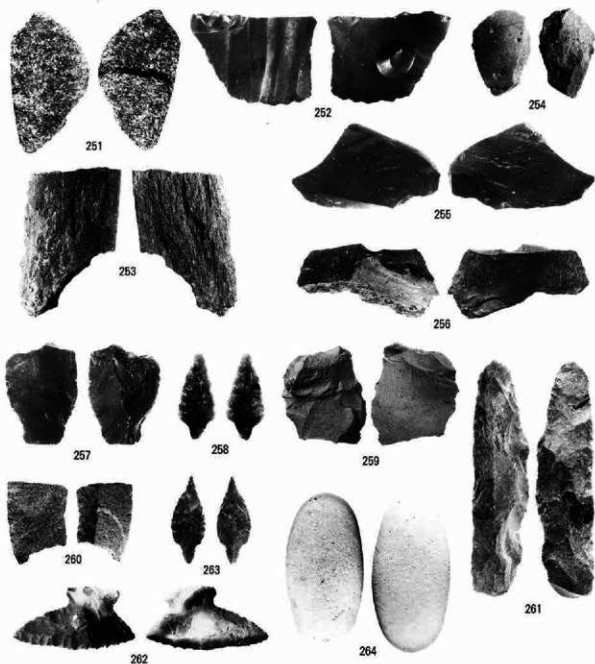
No	出土地点・層位	器種	最大寸法値(cm)		重量(g)	石質	保存状況	備考	図中 有無	本文 記載
			長さ	幅						
219	第1号土坑	フレイク片断	3.25	4.49	0.76	9.17	頁岩(北上)			
220	第1号土坑	フレイク	2.2	4.85	0.4	3.73	頁岩(北上)			1990E
221	第1号土坑	＝	3.56	2.37	0.77	4.65	チャート(北上)			
222	第1号土坑	燧石片断?	18.59	9.38	2.59	267.49	花崗岩地帯(北上)	さねるとまのほら取れる		
223	第2号土坑	フレイク?	3.13	1.47	0.36	2.83	頁岩(北上)			
224	第2号土坑	フレイク	2.15	1.28	0.51	1.21	頁岩(北上)			
225	第2号土坑	フレイク?	4.51	2.94	1.50	15.58	チャート(北上)			
226	第2号土坑	フレイク	8.6	4.4	2	37.47	頁岩(北上)			1990E
227	第2号土坑	＝	3.3	4.2	1	14.77	チャート(北上)			1990E
228	第3号土坑・15～16層直上	石礫	3.7	1.9	0.5	2.48	頁岩(北上)	一断欠損	西端	1990E
229	第3号土坑・15～16層より下	スランゴパーA層	4.15	4.35	1.3	17.43	頁岩(北上)			1990E
230	第3号土坑・南東部段から30cm(16層?)	フレイク片断	3.51	1.33	0.53	3.41	頁岩(北上)			1990E
231	第3号土坑・南10cm	フレイク	2.50	1.54	0.59	1.92	頁岩(北上)			
232	第3号土坑	＝	3.6	3.05	1.5	18.64	頁岩(北上)			1990E
233	第3号土坑?	リフレイク	4.5	2.25	0.6	5.08	頁岩(北上)			1990E
234	第3号土坑?	燧石	5.05	4.24	5.3	103.98	燧岩(北上)	欠損	全面融け損	

写真図版131 石器(15) (222, 234はS=1/3 他はS=2/3)



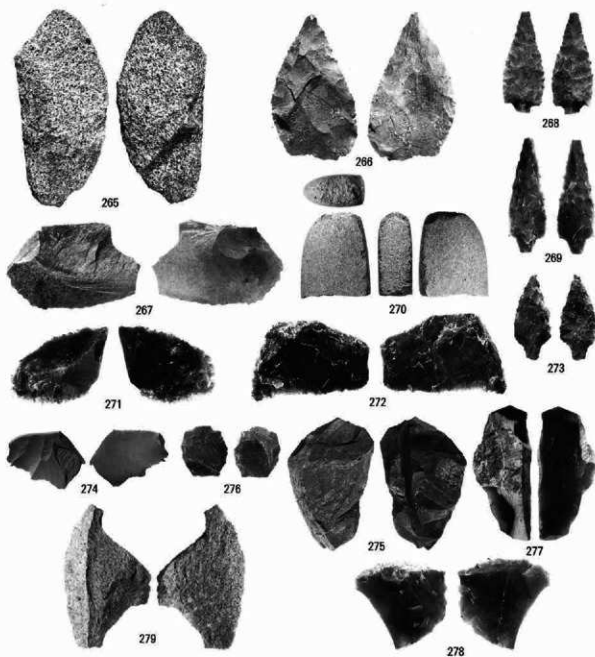
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
235	第4号土坑・1層上部?	スクレイパー-A型	2.3	3.0	1.5	11.79	頁岩(北上)				1906B
236	第4号土坑・5層	打製石斧	8	13.15	1.3	257.84	花崗岩(北上)				1906B
237	第5号土坑・半蔵時	=	10.15	9.23	2.59	244.79	火山岩(北上)	欠損			1906B
238	第5号土坑・半蔵時	石鏃	4.1	1.95	1	6.82	頁岩(北上)		平基		1906B
239	第5号土坑	スクレイパー-A型?	3.2	3	1	12.73	頁岩(北上)				1906B
240	第8号土坑	磨製器類	3.68	3.34	1.1	10.11	花崗閃緑岩(北上)	破片			
241	第9号土坑	磨製器類?	5.98	3.54	1.17	20.46	火山岩(北上)	=	スズ付着・筋打痕		
242	第12号土坑・半蔵時	磨石C型	6.61	3.7	1.34	48.71	ホルンフェルス(北上)				
243	第13号土坑・10層	磨石?	2.55	2.1	1.34	7.39	砂岩(北上)	破片			
244	第14号土坑・5層	磨石?	2.84	2.71	2.91	20.86	砂岩(北上)	破片			
245	第14号土坑・10層	=	2.58	2.1	0.85	3.59	砂岩(北上)	=			
246	第14号土坑・半蔵時	=	3.92	2.59	2.33	17.43	砂岩(北上)	=	スズ付着		
247	第15号土坑・5層	磨製石斧	6.98	2.97	2.07	35.13	頁岩(北上)	=	表面磨耗多		
248	第15号土坑・10層?	先頭型石鏃?	9.2	3.2	1.6	22.13	頁岩(北上)				2006B
249	第15号土坑・半蔵時	打製石斧	10.72	7.93	1.78	262.32	花崗閃緑岩(北上)	欠損	半円扁平		
250	第16号土坑・最上層の次(2層の上まで)	磨石加工品?	1.66	1.46	1.55	0.71	頁岩(北上)	破片			

写真図版132 石器(16) (236、237、241、242、247、249はS=1/3 他はS=2/3)



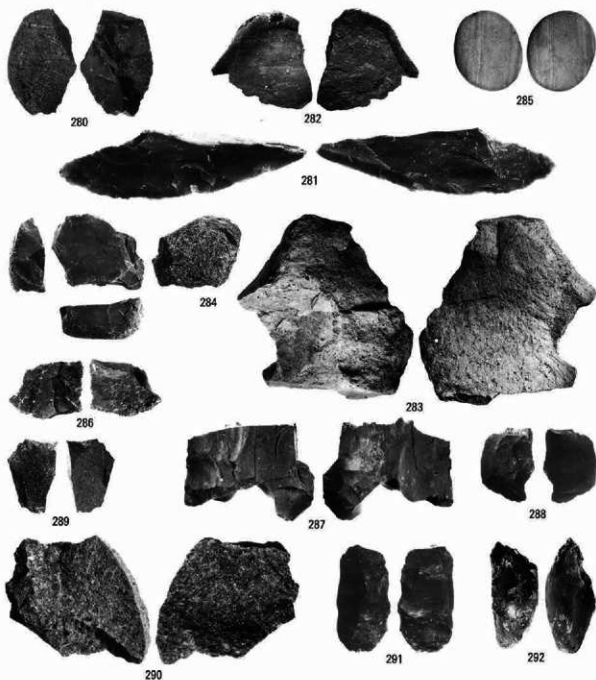
No	出土地点・層位	器種	最大寸法値(cm)		重量(g)	石質	残存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅 厚さ						
251	第16号土坑・9-10層上面?	打製石片	11.66	6.58	1.96	花崗閃緑岩(北土)	欠損	半円扁平		
252	第16号土坑・平截時	スライパーA型	3.9	4.8	1.75	頁岩(北土)		鉄フレイク		2009B
253	第17号土坑・1-2層	打製石片等	2.83	3.7	0.75	オキツフェリス(北土)	破片	石制短剣片?		
254	第17号土坑・平截時	磨石?	2.23	3.3	2.12	10.30	頁岩(北土)	≡		2009B
255	第18号土坑	リフレイク?	3.9	6.8	1.2	19.55	頁岩(北土)			2009B
256	第18号土坑	フリート	6.53	2.74	0.66	8.77	頁岩(北土)			2009B
257	第19号土坑	≡	4.05	2.9	1.2	14.65	チャート(北土)			2009B
258	第19号土坑	石籠	3.6	1.85	0.5	2.47	燧石頁岩(北土)	経・経線	凸基	2009B
259	第19号土坑	フリート	3.96	3.3	1.12	11.71	頁岩(北土)			
260	第21号土坑	磨石?	3.97	1.62	1.69	11.49	砂岩(北土)	破片		
261	第21号土坑・平截時	スライパーA型	9.8	2.4	1.9	29.72	頁岩(北土)			北390より互角の形物品?
262	第22号土坑・5層	石籠	2.6	4.8	0.8	7.73	頁岩(北土)	完整		2009B
263	第22号土坑(一部第23号土坑含む)・平截時	石籠	3.58	1.4	0.7	2.33	頁岩(北土)	≡	凸基	2009B
264	第22号土坑(一部第23号土坑含む)・平截時	磨石	13.61	6.35	2.8	305.38	凝灰岩(北土)		卵形短剣(一基型をなす)	

写真図版133 石器(17) (251, 264はS=1/3 他はS=2/3)



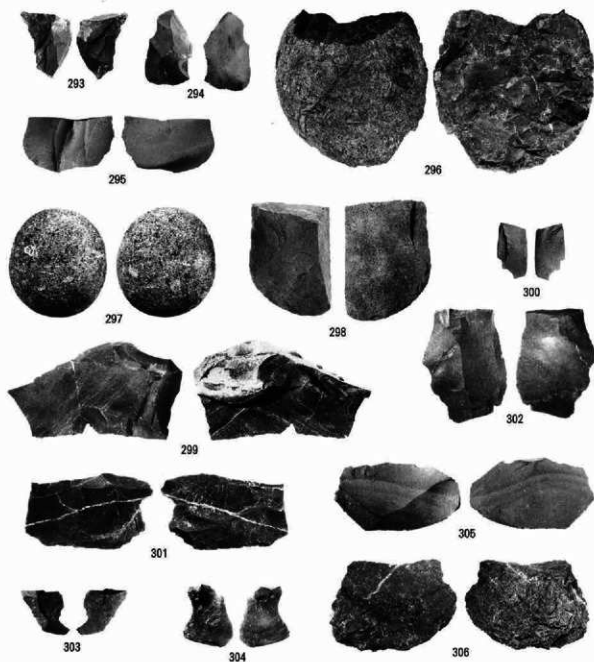
№	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm)	重量(g)	石質	保存状況	備考	国の 有無	本文 記載
265	第23号土坑・10層	打製石斧	15.38 7.00 2.29	297.74	花崗閃緑岩(北上)	一部欠損	平刃扁平		
266	第24号土坑・5層	尖頭鏃	6 3.6 1.15	15.52	頁岩(北上)				20100
267	第24号土坑・10層	スタレイバーA層	3.43 3.3 1	13.52	頁岩(北上)		Rフレイタ		20100
268	第24号土坑・12層	石鏃	4.1 1.7 0.75	3.59	頁岩(北上)		細-短頭 凸縁・基部黒色付着物		20100
269	第24号土坑・12層	石鏃	4.65 1.6 0.8	4.81	頁岩(北上)		凸縁		20100
270	第24号土坑・13層	磨石目類	6.60 5.8 2.03	233.63	砂岩(北上)	欠損			
271	第24号土坑・13層相当層	スタレイバーA層	2.60 4.7 1.5	11.80	チャート(北上)		Rフレイタ		20100
272	第24号土坑・13層相当層	スタレイバーA層	3.3 5.1 1.4	30	チャート(北上)		凸縁		20100
273	第24号土坑 平巻時	石鏃	3.45 1.6 0.7	2.88	頁岩(北上)		基部欠損 凸縁		20100
274	第25号土坑	フレイタ	3.01 2.18 0.44	2.06	頁岩(北上)				
275	第25号土坑	石鏃	3 3.20 1.09	19.53	頁岩(北上)				
276	第25号土坑	石鏃?	2 1.9 0.6	2.37	頁岩(北上)		断面片 凸縁		20100
277	第25号土坑	フレイタ	5.55 2.88 0.61	7.96	珪質頁岩(北上)				
278	第25号土坑	スタレイバーA層	3.65 3.75 1	11.61	珪質頁岩(北上)		Rフレイタ		20100
279	第25号土坑	磨石目類?	5.72 3.42 0.81	12.12	花崗岩(北上)		扁平		

写真図版134 石器(18) (265、270はS=1/3 他はS=2/3)



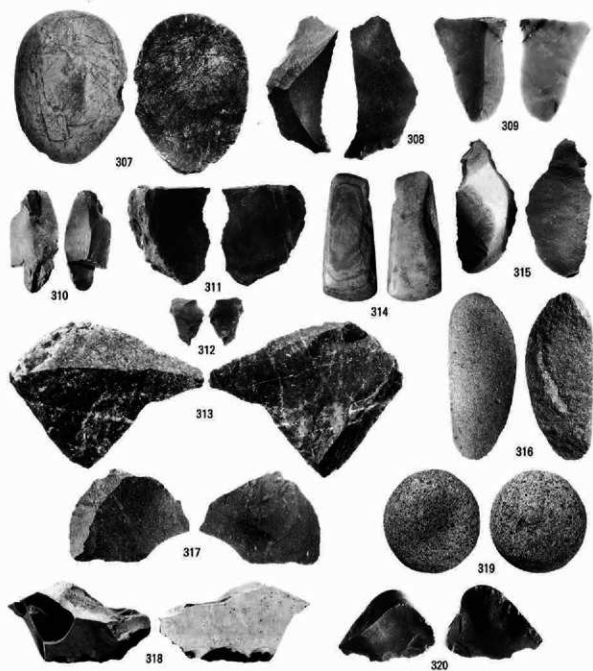
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm)		重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅						
280	第25号土坑	残核	4.0	2.43	1.68	頁岩(東上)				
281	第24号土坑	スライパーA類	5.11	19	0.8	珪質頁岩(北土)			201図	
282	第25号土坑	フレイク	8.14	2.94	2.51	石英頁岩(北土)				
283	第25号土坑	ウ	8.38	2.98	2.10	79.62 褐色頁岩(北土)				
284	第25号土坑	残核	7.45	6.55	3.7	208.2 褐色頁岩(北土)				301図
285	第25号土坑	磨石C類	6.72	5.56	1.86	197.1 砂岩(東上)				
286	第25号土坑	フレイク	3.22	2.1	0.33	3.32 頁岩(東上)				
287	第25号土坑	スライパーA類?	4	1.6	1.6	35.24 頁岩(東上)			201図	
288	第25号土坑	Uフレイク	3	2.2	0.8	2.68 頁岩(東上)			201図	
289	第25号土坑	フレイクB類?	2.66	2	0.53	3.38 頁岩(東上)				
290	第25号土坑	フレイクB類	6.03	6.87	1.13	27.27 砂岩(北土)				
291	第25号土坑	スライパーA類?	4.3	2.25	1.2	12.05 頁岩(東上)				302図
292	第25号土坑	フレイク??	4.38	1.8	1.36	12.83 石英(赤部)(北土)				

写真図版135 石器(19) (282、284、285はS=1/3 他はS=2/3)



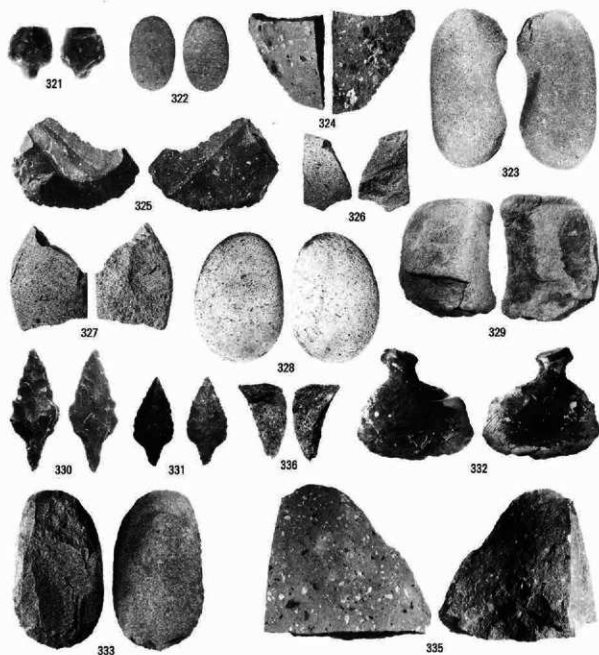
No	出土地点・層位	副 種	最大寸法値(cm)			重量(g)	石 質	保存状況	備 考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
293	第25号土坑	スタレイバーA類?	2.67	1.50	0.86	4.36	砂岩質岩(北上)	フレイタ?			
294	第25号土坑	フレイタ?	3.15	1.85	1	3.99	頁岩(北上)			20200	
295	第25号土坑	フレイタ	3.37	2.58	0.88	3.51	頁岩(北上)			20200	
296	第25号土坑	特殊	11.04	12.88	4.00	792.87	チャート(北上)			20200	
297	第25号土坑	燧石	9.3	6.35	4.6	524.22	砂結層状頁岩(北上)		正面中央部打痕	20200	
298	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	スタレイバーB類?	4.8	3.4	1.8	30.96	ホルンフェルス(北上)			20200	
299	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	スタレイバーA類	4.1	7.3	2.2	66.14	頁岩(北上)	ひフレイタ		20200	
300	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	フレイタ	2.32	1.2	0.29	1.02	頁岩(北上)			20200	
301	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	?	5.05	3.1	0.65	11.58	頁岩(北上)			20200	
302	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	ひフレイタ	4.8	3.4	0.8	10.73	頁岩(北上)			20200	
303	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	フレイタ	2.54	1.58	0.71	1.22	頁岩(北上)			20200	
304	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	?	2.64	2.04	0.4	1.89	頁岩(北上)			20200	
305	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	?	3	3.1	0.9	11.45	頁岩(北上)			20200	
306	第25号土坑およびその附近・検出層(IV層上)	フレイタ?	3.65	5.1	1.1	23.38	砂岩質岩(北上)			20200	

写真図版136 石器(20) (296、297はS=1/3 他はS=2/3)



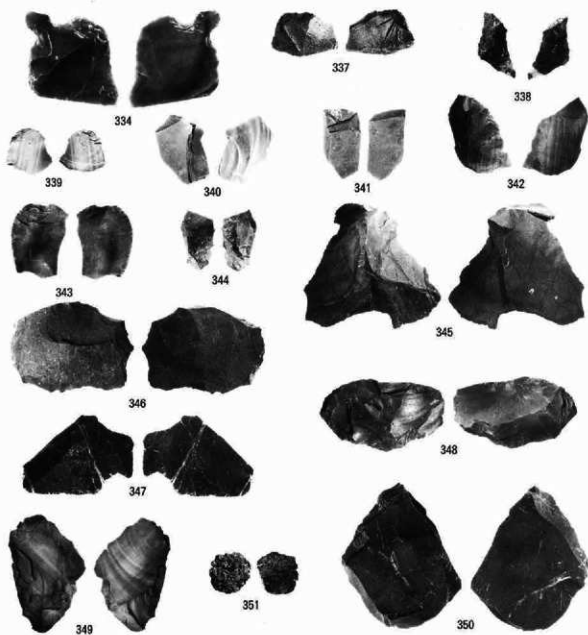
編	出土地点・層位	器種	最大寸法値(cm)		重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅						
307	第25号土坑およびその周辺・発出層(西層上層)	残核?	6.09	4.41	1	38.23	頁岩(北土)			
308	第25号土坑およびその周辺・発出層(西層上層)	スタレイバーA類	5.6	3.2	1.3	9.92	頁岩(北土)	片フレイト		2029R
309	第25号土坑およびその周辺・発出層(西層上層)	フレイト	4.56	2.96	0.47	4.31	球面長径(北土)			
310	第25号土坑およびその周辺・発出層(西層上層)	✖	3.53	1.5	1.1	7.53	チャート(北土)			
311	第25号土坑およびその周辺・発出層(西層上層)	Uフレイト	4	3.4	1.3	14.56	頁岩(北土)			2029R
312	第25号土坑およびその周辺・発出層(西層上層)	フレイト	2.02	1.37	0.31	0.43	頁岩(北土)			
313	第25号土坑およびその周辺・発出層(西層上層)	✖	8.05	6.24	2.36	74.9	チャート(北土)			
314	第26号土坑・隣層相当より下層	磨製石斧	10.66	4.47	1.76	147.72	頁岩(北土)	一高欠損		
315	第26号土坑・13層	スタレイバーA類	5.45	2.4	1.3	19.45	頁岩(北土)			2029R
316	第26号土坑・半成層	磨石	13.6	5.59	1.99	187.65	砂岩(北土)	破片	断面磨石目地のようなくまらぬ	
317	第27号土坑・5層(半層)	スタレイバーA類	3.7	3.7	1.35	12.86	頁岩(北土)			2029R
318	第27号土坑・4~5層相当層	スタレイバーA類	3.6	6.1	2.3	49.36	頁岩(北土)			2029R
319	第28号土坑・4, 6, 1層相当層	磨石	8.96	8.54	5.82	628.92	安山岩(北土)			正瀬中央品打痕
320	第28号土坑・10層相当層	スタレイバーA類	3	3.85	1.3	19.88	頁岩(北土)	片フレイト		2029R

写真図版137 石器(21) (314、316、319はS=1/3 他はS=2/3)



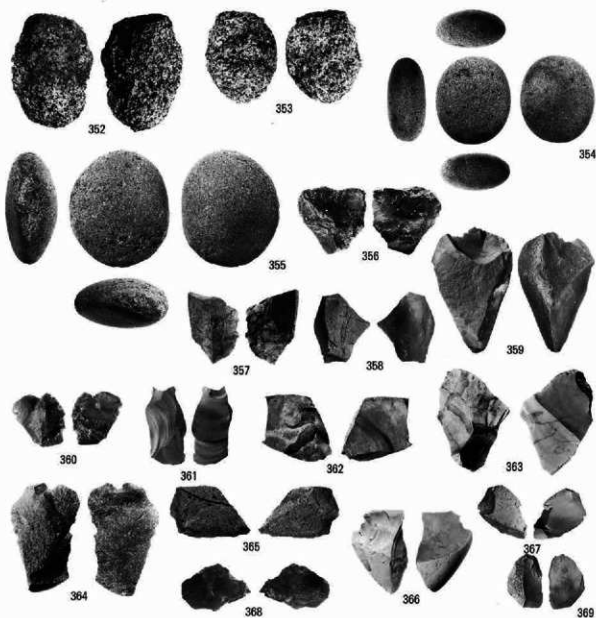
No	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	材質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
321	第29号土坑 平蔵時	石鏃	2.2 1.8 0.6	2.04	頁岩(北上)	下部のみ	凸基	20300	
322	第29号土坑 平蔵時	燧石?	5.84 3.3 1.05	35.43	砂岩(北上)		表面に打痕?・彫刻痕跡		
323	第28号土坑 平蔵時	燧石片断?	13.00 6.25 3.07	401.45	火山岩(北上)		表面に打痕・彫刻痕跡		
324	第29~31号, 103号, 104号土坑	燧石片断?	3.77 3.11 1.85	14.55	火山岩(北上)	破片			
325	第29~31号, 103号, 104号土坑	クワイルド=スズ	3.61 5.31 1.33	15.41	頁岩(北上)		Rフレイク	20300	
326	第29~31号, 103号, 104号土坑 平蔵時	燧石?	6.8 4.44 3.99	90.16	砂岩(北上)	破片			
327	第29~31号, 103号, 104号土坑 平蔵時	河石	8.9 6.30 2.49	198.13	砂岩(北上)	=			
328	第29~31号, 103号, 104号土坑 平蔵時	燧石	10.45 7.00 2.68	291.17	砂岩(北上)		縁部部に打痕		
329	第29~31号, 103号, 104号土坑 平蔵時	河石	9.84 7.91 2.86	203.7	オランダス(北上)		中央部に凹み・木彫形		
330	第31号土坑・6~15相当層	石鏃	5 2.1 0.8	4.12	頁岩(北上)		凸基	20300	
331	第31号土坑・16~17相当層?	=	3.6 1.7 0.75	3.49	頁岩(北上)	彫刻形	=	20300	
332	第31号土坑・28~27層	石鏃	4.50 4.63 1	13.29	頁岩(北上)			20300	
333	第31号土坑 平蔵時	打割石片	12.8 7.3 2.8	334.03	砂岩(北上)		表面に打痕	20450	
334	第31号土坑 平蔵時	燧石片断?	6.50 6.08 3.3	136.31	火山岩(北上)	破片			
335	第32号土坑	=	3.14 1.62 0.72	3.27	石高頁岩(北上)				

写真図版138 石器(22) (322, 323, 326~329, 333はS=1/3 他はS=2/3)



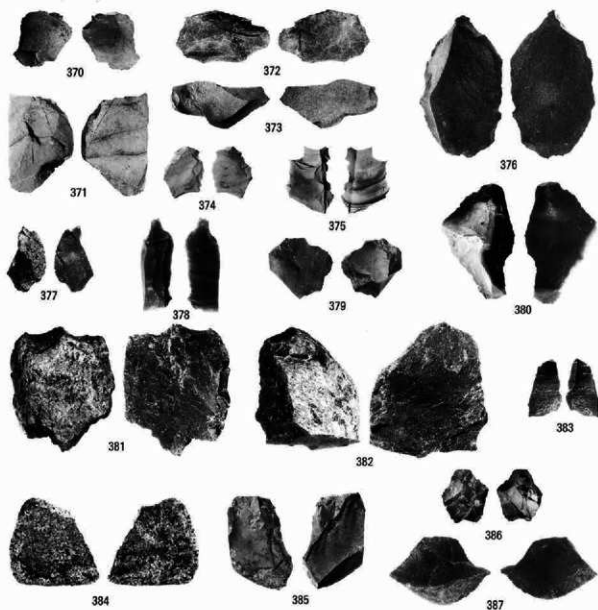
No	出土地点・層位	器種	最大寸法(cm)		重量(g)	石質	残存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅						
334	第31号土坑 平蔵時	石匙	4.5	2.55	0.9	13.48 頁岩(北土)				204図
337	第32号土坑	スタレイバーA類	2.64	1.73	0.83	3.37 頁岩(北土)		Rフレイク		
338	第32号土坑	"	2.3	1.9	0.6	2 頁岩(北土)				204図
339	第32号土坑	フレイク	1.84	1.69	0.38	0.97 頁岩(北土)				
340	第32号土坑	"	2.67	1.85	0.47	1.36 頁岩(北土)				
341	第32号土坑	"	2.67	1.39	1.35	5.22 頁岩(北土)				
342	第32号土坑	"	3.15	2.65	0.7	4.79 頁岩(北土)				204図
343	第32号土坑	"	3	2.2	1.9	4.28 頁岩(北土)				204図
344	第32号土坑	"	2.48	1.35	0.6	1.75 頁岩(北土)				
345	第32号土坑	"	0.18	0.6	1.3	21.20 頁岩(北土)				204図
346	第32号土坑	スタレイバーA類	3.65	4.5	1	19.92 頁岩(北土)		Rフレイク		204図
347	第32号土坑	フレイク	3.2	4.5	0.6	8.20 頁岩(北土)				204図
348	第32号土坑	スタレイバーA類	2.66	2.03	1.1	14.59 頁岩(北土)				204図
349	第32号土坑	"	4.6	3.1	1.2	11.62 頁岩(北土)				204図
350	第32号土坑	フレイク	5.85	4.8	1.35	30.16 頁岩(北土)				206図
351	第32号土坑	磨礫器類?	3.56	3.27	1.4	33.86 花崗閃緑岩(北土) 細片(特)				

写真図版139 石器(23) (351はS=1/3 他はS=2/3)



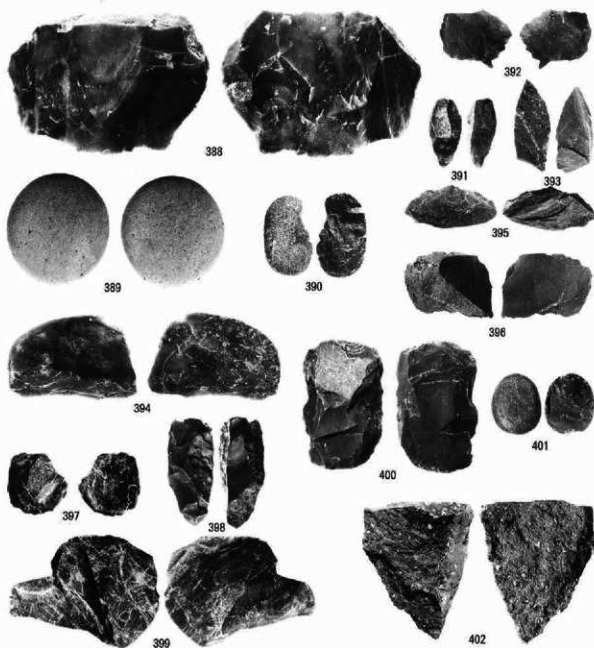
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法値(cm)			重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 頁数	本文 記載
			長さ	幅	厚さ						
352	第23号土坑	磨盤形物?	10.21	8.8	4.71	483.25	花崗閃緑岩(北上)	欠損	粉々に		
353	第32号土坑	〃	7.93	5.26	5.09	297.71	花崗閃緑岩(北上)	〃	〃		
354	第32号土坑	緑石	7.4	6.3	3.4	228.05	砂岩(北上)		縁辺部、正面中央に磨打痕	20508	
355	第32号土坑	〃	9.9	8.6	4.7	497.68	砂岩(北上)		縁辺部に磨打痕	20509	
356	第33号土坑	フレイク	2.9	2.81	0.43	3.67	頁岩(北上)				
357	第33号土坑	〃	1.42	2.26	1.2	4.14	頁岩(北上)				
358	第33号土坑	〃	3.24	2.8	0.7	4.12	頁岩(北上)				
359	第33号土坑	〃	4.97	2.85	1.44	15.82	頁岩(北上)				
360	第33号土坑	〃	2.15	2.46	0.71	2.37	頁岩(北上)				
361	第33号土坑	〃	3.05	1.46	0.3	1.42	頁岩(北上)				
362	第33号土坑	〃	2.73	2.64	0.63	3.96	頁岩(北上)				
363	第33号土坑	〃	4.28	2.82	1.3	16.22	頁岩(北上)				
364	第33号土坑?	〃	4.39	2.76	0.83	8.16	頁岩(北上)				
365	第33号土坑?	戻フレイク	2.1	3.1	0.6	3.92	頁岩(北上)				
366	第33号土坑?	フレイク	3.94	2.59	1.51	8.53	頁岩(北上)				20508
367	第33号土坑?	〃	2.45	1.86	0.52	1.5	頁岩(北上)				
368	第33号土坑?	〃	2.3	2.8	0.85	2.32	頁岩(北上)				20508
369	第33号土坑?	〃	2.2	1.41	0.37	0.95	頁岩(北上)				

写真図版140 石器(24) (352~355はS=1/3 他はS=2/3)



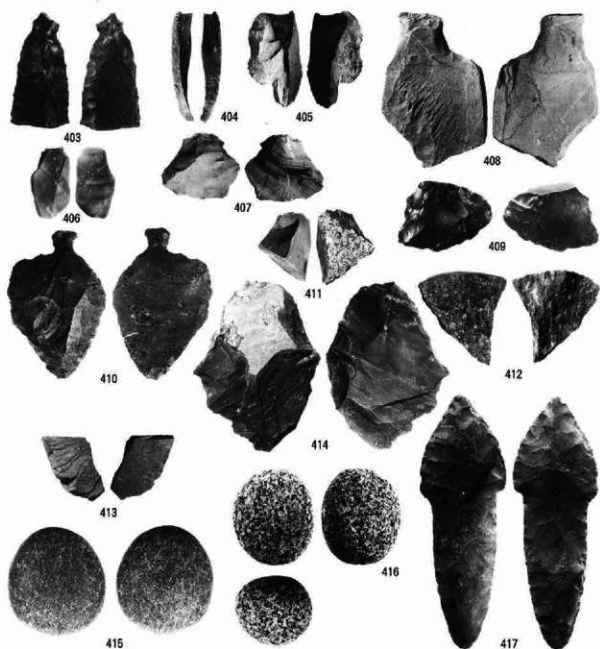
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm) 長×幅×厚さ	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
370	第30号土坑?	フレイク	3.3 2.95 0.25	3.77	頁岩(北土)				
371	第30号土坑?	〃	4.04 2.64 0.79	9.19	頁岩(北土)				
372	第30号土坑?	〃	3.64 2.09 0.67	4.6	頁岩(北土)				
373	第30号土坑?	〃	3.9 1.81 0.65	4.39	頁岩(北土)				
374	第30号土坑?	〃	2.11 1.87 0.30	0.7	頁岩(北土)				
375	第30号土坑?	〃	2.69 1.78 0.38	1.36	頁岩(北土)				
376	第30号土坑?	〃	3.97 3.6 1.6	30.22	頁岩(北土)				
377	第30号土坑?	〃	2.63 1.47 0.65	2.09	頁岩(北土)				305図
378	第30号土坑?	石製の土製品?	3.82 1.4 0.6	3.13	頁岩(北土)		石製の土製品?		305図
379	第30号土坑?	フレイク	2.48 2.38 0.7	3.97	頁岩(北土)				
380	第30号土坑?	Rフレイク	4.85 1.95 0.95	9.68	頁岩(北土)				305図
381	第30号土坑?	打製石片?	10.61 8.33 3.57	342.88	チャート(北土)		No.382と同一体?		
382	第30号土坑?	〃	10.71 9.3 4.74	515.94	チャート(北土)		No.381と同一体?		
383	第30号土坑	フレイク	2.61 1.31 0.39	0.89	頁岩(北土)				
384	第30号土坑	打製石片	7.3 7.5 1.5	111.41	石製の土製品(北土)		平片扁平		305図
385	第30号土坑	フレイク	4.12 2.38 0.92	6.85	赤色頁岩(北土)				
386	第30号土坑	〃	2.17 1.77 0.63	1.06	頁岩(北土)				
387	第30号土坑	〃	2.65 4.15 1.5	12.58	頁岩(北土)				306図

写真図版141 石器(25) (381、382、384はS=1/3 他はS=2/3)



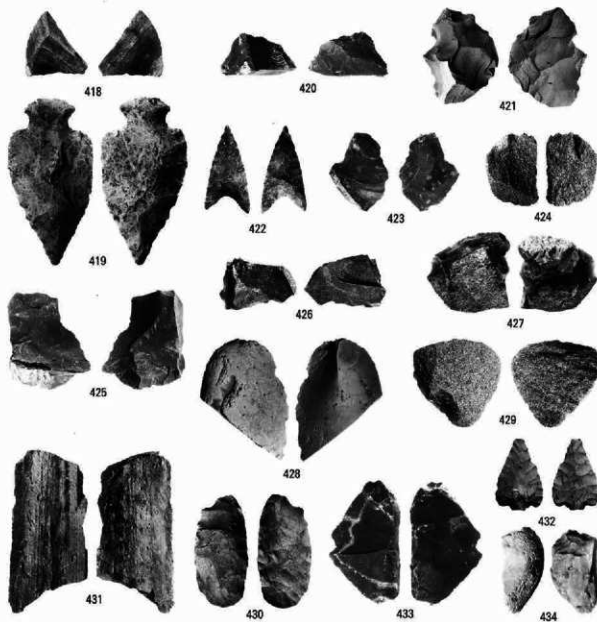
№	出土地点・副位	器種	最大計測値(cm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	材質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
388	第33号土坑	フレイタ	8.15 8.3 1.6	81.96	チャート(北上)				
389	第33号土坑	卵石	9.4 8.7 4.25	418.08	石英安山岩(北上)			20608	
390	第33号土坑	卵石	6.4 3.75 1.25	36.31	チャート(北上)			20610	
391	第36号土坑	フレイタ	2.78 1.49 0.86	2.86	頁岩(北上)				
392	第36号土坑	フレイタ	2.4 2.9 0.7	4.51	頁岩(北上)				
393	第36号土坑	フレイタ	5.72 1.49 1.36	11.8	頁岩(北上)		スタレイバーA類?	20608	
394	第36号土坑	フレイタ	3.5 5.3 1.1	23.69	チャート(北上)			20608	
395	第36号土坑	片フレイタ	3.02 1.71 0.59	4.17	頁岩(北上)				
396	第36号土坑	フレイタ	2.6 3.6 0.7	5.94	頁岩(北上)			20608	
397	第36号土坑	?	2.6 2.6 0.4	2.19	頁岩(北上)			20608	
398	第36号土坑	フレイタ	4.4 1.83 1.58	11.94	頁岩(北上)				
399	第36号土坑	?	5.94 4.36 1.97	24.91	チャート(北上)				
400	第36号土坑	尖頭器	6.3 3.9 1.4	38.72	頁岩(北上)			20608	
401	第36号土坑	残核	5.12 4.19 1.57	46.75	チャート(北上)				
402	第36号土坑	フレイタ片	5.35 4.65 1.01	22.75	石英質頁岩(北上)				

写真図版142 石器(26) (389、390、401はS=1/3 他はS=2/3)



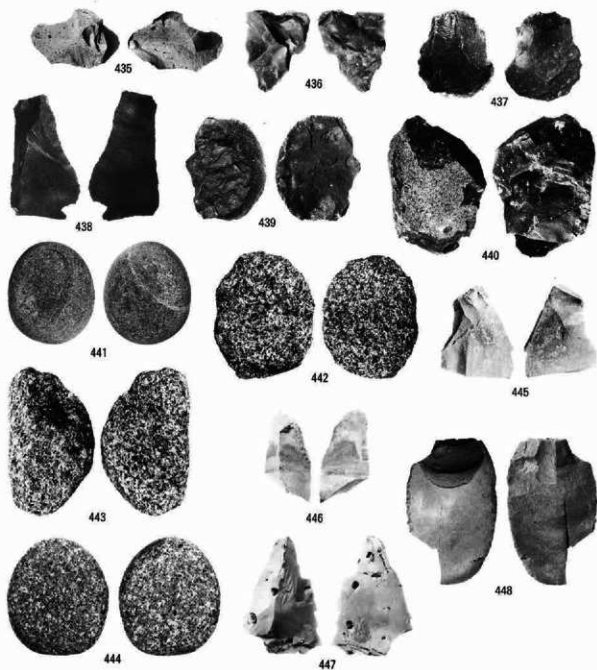
№	出土地点・層位	器種	最大寸測値(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
403	第36号土坑④	石鏃	5.75 2.5 0.7	0.39	頁岩(北上)	欠損		206/90	
404	第36号土坑④	フレイク	4.46 0.56 0.70	2.14	頁岩(北上)				
405	第36号土坑④	=	3.31 2.05 0.74	3.63	頁岩(北上)				
406	第36号土坑④	=	2.36 1.62 0.35	1.9	珪質頁岩(北上)				
407	第36号土坑④	=	3.08 2.53 0.67	4.63	頁岩(北上)				
408	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	石鏃?	6.11 4.18 0.93	27.3	頁岩(北上)		未製品		
409	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	スタレイバーA型	2.73 3.78 1.05	10.99	頁岩(北上)			207/90	
410	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	石鏃	0 4 0.9	17.34	頁岩(北上)	略欠形		207/90	
411	第36号土坑・南北ベルト北側ベルトと下層	フレイク	2.81 2.18 1.78	7.03	頁岩(北上)				
412	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	フレイク片断?	4.07 3.80 1.72	16.94	チャート(北上)		磨石?の破片?		
413	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	=	3.14 1.88 0.78	5.63	頁岩(北上)				
414	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	フレイク	7 5.32 1.79	46.03	頁岩(北上)				
415	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	磨石	8.05 8 3.6	367.23	石炭層頁岩(北上)			207/90	
416	第36号土坑・南北ベルト北側ベルトと下層	磨石	8.3 8.9 4.3	551.84	石炭層頁岩(北上)		指部中心部打痕	207/90	
417	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	尖頭器?	10.4 3.6 1.3	39.31	頁岩(北上)		黒色付着物	207/90	

写真図版143 石器(27) (415、416はS=1/3 他はS=2/3)



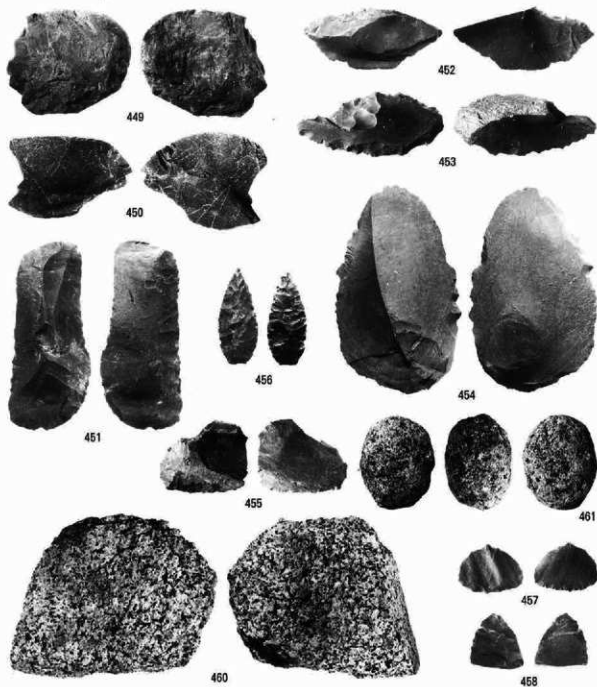
No	出土地点・層位	器種	最大寸法(㎝) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の 有無	本文 記載
418	第36号土坑	フレイタ	2.7 2.6 1	4.53	頁岩(北上)				20794
419	第36号土坑	石籠	6.8 3.45 1.1	22.77	頁岩(北上)	断片形			20795
420	第37~40号土坑	フレイタ	3.24 1.73 1.24	6.29	頁岩(北上)				
421	第37~40号土坑	スタレイバーA型?	4.06 3.21 1.48	16.33	頁岩(北上)		未製品? フレイタ?		
422	第37~40号土坑	石籠	3.5 1.75 0.5	2.25	頁岩(北上)	断片形	同基		20796
423	第37~40号土坑	フレイタ	3.1 2.4 0.5	3	頁岩(北上)				20798
424	第37~40号土坑	フレイタ片断	2.9 2.03 0.42	2.76	砂岩(北上)				
425	第37~40号土坑	フレイタ	3.83 3.33 1.4	15.05	頁岩(北上)				
426	第37~40号土坑	=	3.21 2.12 1.26	7.99	頁岩(北上)				
427	第37~40号土坑	=	3.61 3.58 1.64	13.44	珉質頁岩(北上)				
428	第37~40号土坑	=	6.17 3.56 0.82	13.14	頁岩(北上)				
429	第37~40号土坑	断片断片?	3.69 3.27 0.81	10.03	砂岩(北上)	断片			
430	第37~40号土坑	尖頭器?	4.6 3.2 1.26	12.7	頁岩(北上)		スタレイバーA型?		20800
431	第37~40号土坑	不明	8.44 3.09 0.7	21.53	頁岩(北上)		石籠内に埋没?		20802
432	第37~40号土坑	石籠	2.0 1.9 0.5	2.35	頁岩(北上)	図・説明	凸座		20803
433	第37~40号土坑	フレイタ	4.95 2.73 0.7	8.91	頁岩(北上)				20805
434	第37~40号土坑	=	3.5 1.96 1.06	8.54	頁岩(北上)				

写真図版144 石器(28) (S=2/3)



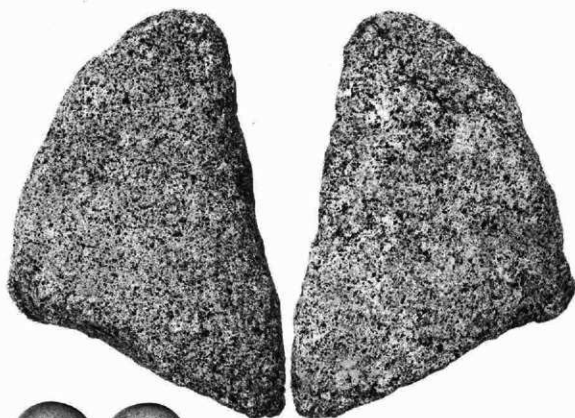
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)		重量(g)	石質	現存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅 厚さ						
435	第37~40号土坑	フレイク	3.71	2.39	1.53	7.51	頁岩(北土)			
436	第37~40号土坑	=	3.26	2.78	1.34	9.14	頁岩(北土)	未製品?		
437	第37~40号土坑	スタイルパーA類	3.75	3	1.2	14.42	頁岩(北土)		208B	
438	第37~40号土坑	=	8.18	3.9	0.6	7.63	頁岩(北土)		208B	
439	第37~40号土坑	フレイク	4.31	3.35	1.1	14.76	頁岩(北土)			
440	第37~40号土坑	石核	6.82	4.14	3.13	74.28	チャート(北土)			
441	第37~40号土坑	磨石?	8.41	7.15	4.31	378.85	ホルンフェルス(北土)	磨石四角(磨打痕?)		
442	第37~40号土坑	磨石	10.2	7.96	4.69	486.37	花崗岩(燧石層)(北土)	磨々に磨れる		
443	第37~40号土坑	=	11.99	6.97	4.82	490	花崗岩(燧石層)(北土)	磨々に磨れる・不整形		
444	第37~40号土坑	磨石C類	9.7	8.3	2.6	334.84	頁岩(北土)		208B	
445	第41号土坑	フレイク	3.6	2.94	0.99	13.1	頁岩(北土)			
446	第41号土坑	=	3.89	1.83	0.8	4.4	頁岩(北土)			
447	第41号土坑	=	4.68	3.17	1.11	19.58	頁岩(北土)			
448	第41号土坑	Rフレイク	0.86	3.6	0.4	11.84	頁岩(北土)		208B	

写真図版145 石器(29) (441~444はS=1/3 他はS=2/3)

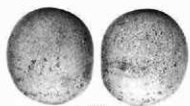


№	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
449	第41号土坑	石核	長さ 4.45 幅 1.9	47.93	頁岩(北土)				20060
450	第41号土坑	フレイク	4.80 3.81 1.07	15.2	チャート(北土)				20060
451	第42号土坑・4~10層	石鎌	7.8 3.25 1.5	35.77	頁岩(北土)		スタレイバーA類?		20060
452	第42号土坑 平蔵時	フレイク	2.6 6.8 1.6	13.98	頁岩(北土)				20060
453	第42号土坑 平蔵時	土製骨?(未彫削)	2.7 5.9 1.5	16.19	頁岩(北土)		スタレイバーA類?		20060
454	第42号土坑 平蔵時	Uフレイク	8.6 6.3 1.8	64.14	頁岩(北土)		Rフレイク?		20060
455	第43号土坑 クラマーニング	Uフレイク	3.1 3.7 1	7.34	頁岩(北土)				20060
456	第43号土坑 平蔵時	石鎌	3.86 1.65 0.6	3.81	頁岩(北土)	一部欠損	平蔵?		20060
457	第43号土坑 平蔵時	Rフレイク	2 2.6 0.4	1.64	頁岩(北土)				20060
458	第44号土坑・IV層	石鎌	3.1 2.2 0.45	3.3	頁岩(北土)	破片	先端部		20064
459	第45号土坑・IV層	—	16.3 13 0.4	1929.4	在場燧石	破片	割々に崩れる		
460	第48号土坑・5層(スス)	燧石	7.2 6.4 5.5	391.32	花崗閃緑岩(北土)		表面磨り目、C面がいも肌		20064

写真図版146 石器(30) (460、461はS=1/3 他はS=2/31/3 他はS=2/3)



459



462



463



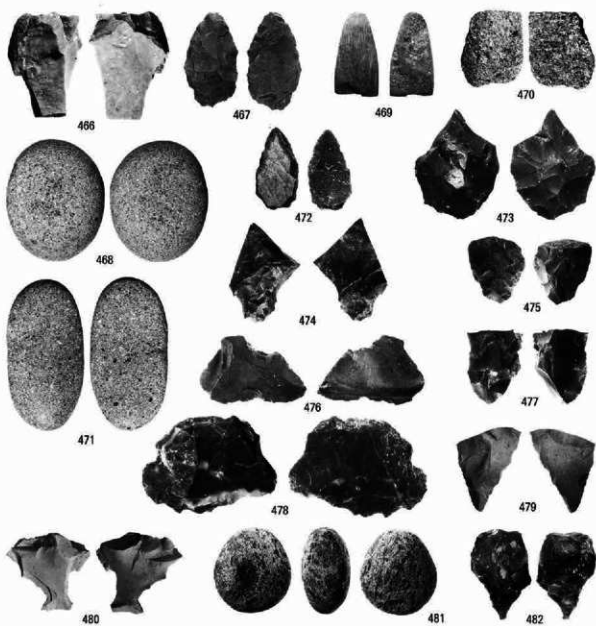
464



465

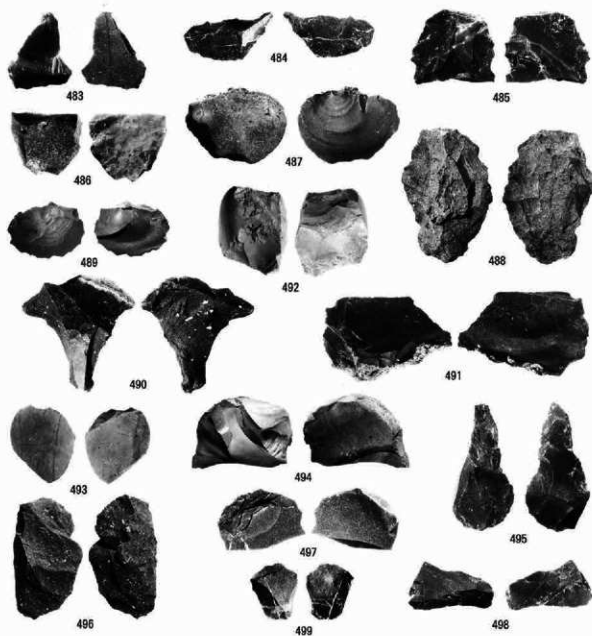
No.	出土地点・層位	器種	最大寸測値(cm)			重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
459	第46号土坑・掘上層(新掘削)	石頭ナ	29	19.5	7.2	670	石岡野崎寺				
462	第46号土坑	磨石	7.76	6.91	3.73	296.47	石岡野崎(北上)				
463	第46号土坑	磨石	9.5	7.8	3	308.71	常陸野崎野(北上)				309図
464	第46号土坑	磨石	5.7	5.5	4.5	201.15	野崎(北上)				210図
465	第46号土坑	フリイタ	9.8	5.1	1.9	66.54	キョート(北上)		No.461とほぼ同じ		210図

写真図版147 石器(31) (465はS=2/3 他はS=1/3)



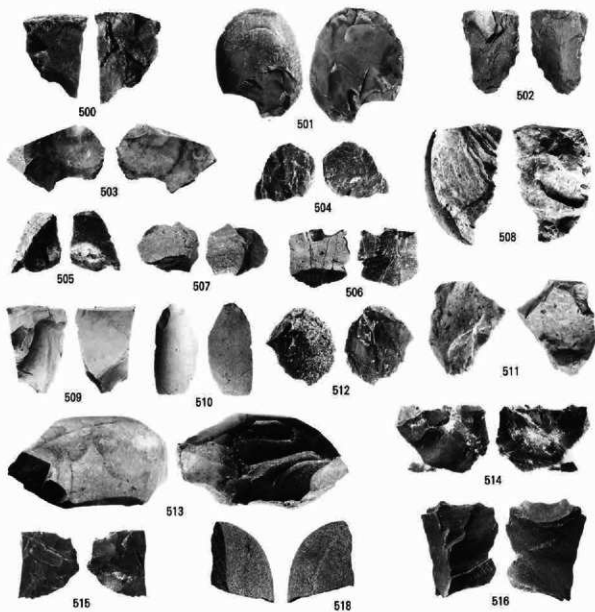
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅	厚さ						
466	第46号土坑	フリートク	4.66	3.18	1.64	21.81	チャート(北上)				
467	第47号土坑	大割面?	3.9	2.2	1.05	7.52	頁岩(北上)		石製の未製品?		21095
468	第48号土坑・S、6層	燧石	16.09	8.17	8.24	609.27	砂岩(北上)		基部中央、縁部部に磨打痕		21096
469	第48号土坑・S、6層	小型磨製石斧	3.3	1.7	0.4	4.69	頁岩(北上)				21096
470	第48号土坑・6層	磨製器類?	3.55	2.51	0.77	7.11	火山岩(北上)	破片			21096
471	第48号土坑 平直時	磨石(磨)	11.56	6.29	2.4	302.9	火山岩(北上)		裏面に磨り上り面を有している		21096
472	第48号土坑 平直時	石製 未製品?	3.21	1.8	0.55	3.25	頁岩(北上)				21096
473	第48号土坑	大割面?	4.51	3.3	1.4	14.65	頁岩(北上)	欠損			21096
474	第48号土坑	スクレイパーA類?	4.1	2.96	1	8.35	頁岩(北上)	○	石製?		21096
475	第48号土坑	大割面?	3.61	2.36	0.6	3.38	頁岩(北上)	○	石製?		21096
476	第48号土坑	片フリートク	2.9	4.4	1.2	11.03	頁岩(北上)				21096
477	第48号土坑	大割面?	3	2.3	1	7.02	頁岩(北上)	欠損			21096
478	第48号土坑	スクレイパーA類	4	3.6	1.2	23.11	頁岩(北上)				21196
479	第48号土坑	大割面?	3.65	2.6	0.7	3.57	頁岩(北上)				21096
480	第49号? (第50、51号土坑?)	フリートク	3.19	3.3	0.78	4.5	頁岩(北上)				21096
481	第49号? (第50、51号土坑?)	燧石	7.3	6.3	4	268	砂岩(北上)				21196
482	第49号、第51号(第50号も?)土坑	フリートク?	3.49	2.36	1.37	8.73	輝頁岩(北上)				21196

写真図版148 石器(32) (468、471、481はS=1/3 他はS=2/3)



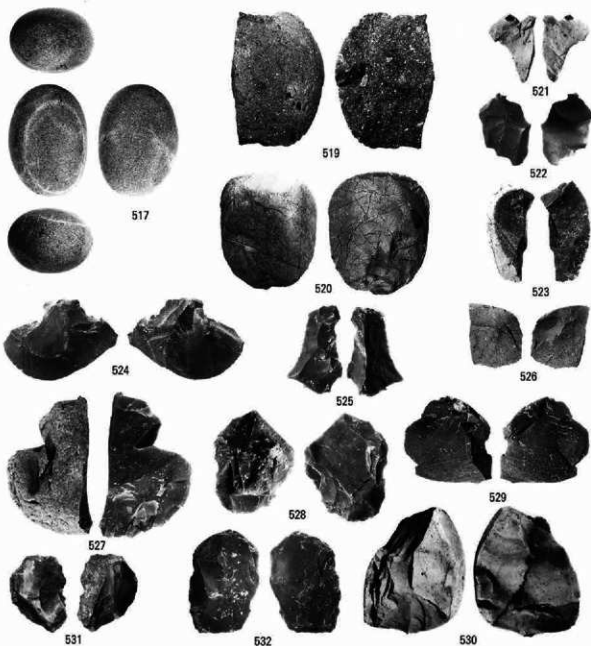
品	出土地点・層位	器種	最大寸面積(cm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
483	第49号、第51号(第50号6号)土坑	フレイク	3.2 2.5 0.66	2.51	頁岩(北土)				211頁
484	第50号、第51号土坑	スタンパーA類?	2.3 3.6 0.86	3.83	頁岩(北土)	欠損			211頁
485	第50号、第51号土坑	尖頭器?	3.15 3.4 0.95	11.66	頁岩(北土)	=			211頁
486	第50号、第51号土坑	フレイク	2.90 2.85 1.31	10.4	頁岩(北土)		良フレイク		211頁
487	第50号、第51号土坑	スタンパーA類	3.2 4.1 1.2	16.83	チャート(北土)				211頁
488	第50号、第51号土坑	尖頭器?	5.4 3.7 2.7	27.4	頁岩(北土)				211頁
489	第50号、第51号土坑	良フレイク	3 2.3 0.8	4.36	頁岩(北土)				211頁
490	第50号、第51号土坑	フレイク	4.5 3.56 1.12	12.75	頁岩(北土)				211頁
491	第50号、第51号土坑	=	4.97 3.81 1.06	17.32	頁岩(北土)				
492	第50号、第51号土坑	ピリス・エネキス?	2.6 3.26 1.51	16.50	頁岩(北土)				
493	第50号、第51号土坑	フレイク?	3.22 2.63 0.45	3.49	頁岩(北土)				
494	第50号、第51号土坑	フレイク	3.79 2.98 1.07	11.3	頁岩(北土)				
495	第50号、第51号土坑	フレイク?	5.1 3.6 1.4	14.44	頁岩(北土)		尖頭器or石鏟未製品?		211頁
496	第50号、第51号土坑	スタンパーA類?	4.87 2.68 1.30	13.37	谷美安山岩(北土)		未製品?		211頁
497	第50号、第51号土坑	フレイク	3.30 2.35 0.76	5.57	頁岩(北土)				
498	第50号、第51号土坑	=	2 3.5 0.6	2.45	頁岩(北土)				211頁
499	第50号、第51号土坑	=	2.36 1.81 0.47	1.97	頁岩(北土)				

写真図版149 石器(33) (S=2/3)



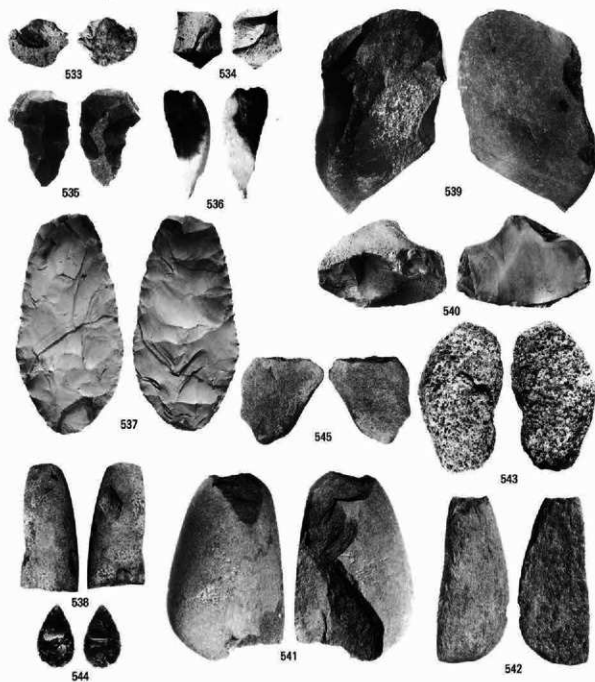
No	出土地点・層位	器種	最大寸法(㎝)			石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ					
500	第50号、第51号土坑	フレイク	3.20	2.30	1.78	13.04	チャート(北上)			
501	第50号、第51号土坑	≡	4.41	3.46	1.35	25.54	頁岩(北上)	未製品?		
502	第50号、第51号土坑	尖頭器	3.6	2.35	1.06	9.74	頁岩(北上)	欠損		2116
503	第50号、第51号土坑	片フレイク?	2.85	4.15	0.5	5.05	頁岩(北上)			2120
504	第50号、第51号土坑	フレイク	2.76	2.35	0.47	2.84	頁岩(北上)			
505	第50号、第51号土坑	≡	2.87	1.63	0.48	2.34	頁岩(北上)			
506	第50号、第51号土坑	≡	2.33	2.45	0.45	2.82	頁岩(北上)			
507	第50号、第51号土坑	≡	2.46	2.06	0.72	3.51	頁岩(北上)			
508	第50号、第51号土坑	≡	2.84	4.53	1.19	14.52	頁岩(北上)			
509	第50号、第51号土坑	≡	3.4	2.33	1.21	8.7	頁岩(北上)			
510	第50号、第51号土坑	≡	3.67	1.75	0.44	3.51	頁岩(北上)			
511	第50号、第51号土坑	≡	3.71	3.77	1.14	12.22	石英安山岩(北上)			
512	第50号、第51号土坑	≡	3.09	2.69	0.75	5.83	チャート(北上)			
513	第50号、第51号土坑	残片	7.4	4.54	3.93	148.4	頁岩(北上)			
514	第50号、第51号土坑	フレイク	3.93	3.85	0.88	6.74	頁岩(北上)			
515	第50号、第51号土坑	尖頭器?	2.85	2.5	0.85	7.03	チャート(北上)	破片		2128
516	第50号、第51号土坑	フレイク	3.71	2.92	1.38	12.28	チャート(北上)			
518	第50号、第51号土坑	卵石	8.08	5.19	2.65	106.19	カマンフェルス(北上)	破片		

写真図版150 石器(34) (518はS=1/3 他はS=2/3S)



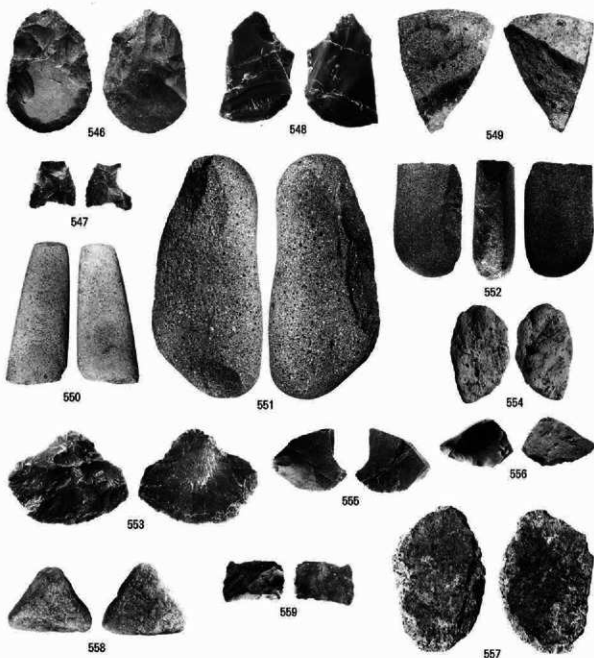
№	出土地点・層位	器種	最大寸測値(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	材質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
517	3650号、第51号土坑	核石	9.0 8.7 5.1	487.83	砂岩(北上)				
519	3650号、第51号土坑	核片?	11.1 5.8 2.9	332.79	礫岩(北上)		上下両面彫 縦行痕 スタレインバー痕	212図	212図
520	3650号、第51号土坑	核片	30.1 8.6 3.7	106.09	チャート(北上)				212図
521	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	フレイク	2.69 1.82 0.35	1.04	頁岩(北上)				
522	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	≡	3 2.1 0.45	1.92	頁岩(北上)				
523	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	≡	3.97 1.76 0.61	4.93	チャート(北上)				
524	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	フレイク	3.3 4.7 1.4	15.18	頁岩(北上)		右端 未製品		212図
525	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	フレイク	3.6 2.98 0.39	5	チャート(北上)				
526	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	≡	2.47 2.04 0.72	3.15	頁岩(北上)				
527	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	≡	5.49 3.19 0.9	19	チャート(北上)				
528	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	フレイク	3.62 3.52 1.3	14.77	チャート(北上)				
529	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	フレイク	3.49 3.43 0.6	7.88	チャート(北上)		左側面 未製品		
530	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	≡	3.11 2.18 1.36	48.19	頁岩(北上)		両面打込		
531	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	半核片?	3.15 2.5 0.8	6.32	頁岩(北上)		スタレインバーA痕		右面? 212図
532	3650号土坑(3651号、第75号)土坑	≡	4.3 2.9 1.1	14.2	チャート(北上)		先端欠損		212図

写真図版151 石器(35) (517、519、520はS=1/3 他はS=2/3)



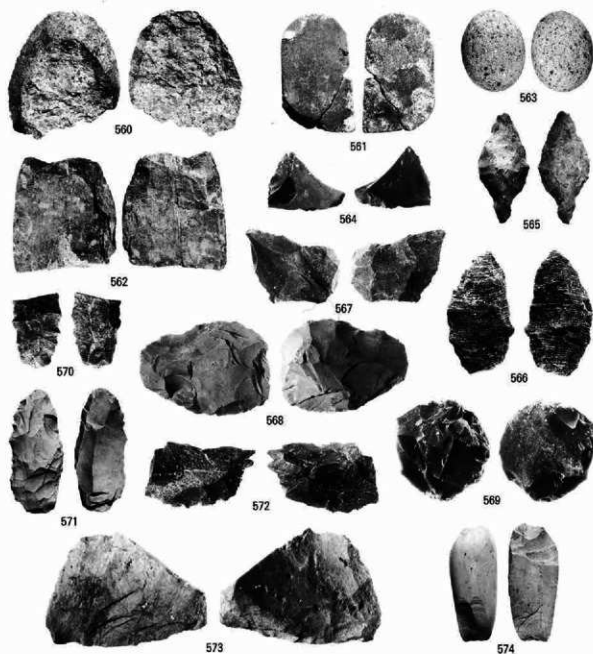
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)		重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅・厚さ						
533	第50号土坑(第51号、第55号も)土坑	フレイク	2.41	1.9	0.24	1.27	頁岩(北上)			
534	第50号土坑(第51号、第55号も)土坑	?	2.51	1.88	0.98	3.13	頁岩(北上)			
535	第50号土坑(第51号、第55号も)土坑	尖頭器?	3.9	2.5	1.5	10.2	頁岩(北上)	未製品?		21285
536	第52号土坑南部・2層主体	石鏃?	4.55	3	0.8	3.89	頁岩(北上)	先端欠損		21286
537	第52号土坑南部・2層主体	石鏃	8.8	4.4	1.5	45.7	頁岩(北上)	先端欠損		21286
538	第52号土坑 平蔵時	磨製石鏃(未製品)?	10.44	4.68	2.72	220.85	頁岩(北上)	先端欠損		
539	第52号土坑 平蔵時	残鏃?	8.67	5.43	3.53	160.96	頁岩(北上)			
540	第52号土坑 平蔵時	?	3.5	5.4	2	36.8	頁岩(北上)			21286
541	第52号土坑・6層	打製石鏃	36.38	9.88	3.77	678.46	砂岩(北上)			
542	第53号土坑・6層(埋蔵)?	打製石鏃	13.51	5.7	2.13	253.42	ホルツェン(北上)			
543	第53号土坑・6層(埋蔵)?	石鏃?	12.96	6.8	3.47	398.92	花崗閃緑岩(北上)			
544	第54号土坑・1, 2層	石鏃	2.6	1.5	0.5	1.55	頁岩(北上)	一部欠損	草茎	21286
545	第54号土坑・1, 2層	不明	8.03	6.17	2.18	114.37	砂岩(久慈層群)			

写真図版152 石器(36) (538, 541~543, 545はS=1/3 他はS=2/3S)



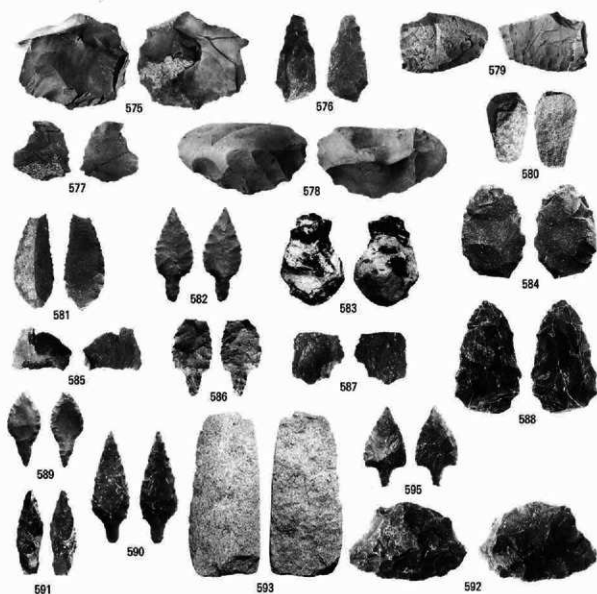
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法値(cm)			重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅	厚さ						
546	第54号土坑・5層	スタイルバー-A類	4.9	3.4	1.5	19.07	頁岩(北土)				21300
547	第54号土坑・12層	石鏝	1.85	1.85	0.55	1.45	頁岩(北土)	欠損	西橋		21390
548	第54号土坑・9-17層古層	スタイルバー-A類	4.5	2.9	1.15	14.93	頁岩(北土)				21305
549	第54号土坑 平威時	磨製石器	3.45	2.39	3.15	32.23	火山岩(北土)				
550	第55号土坑・6層	磨製石器	11.81	9	3.14	337.49	火山岩(北土)				
551	第55号土坑・7-8層	礫石	20	8.99	5.42	1484.73	頁岩(北土)				
552	第55号土坑・7-8層	磨石片類	9.5	5.7	3.9	309.01	頁岩(北土)	欠損			21390
553	第55号土坑・14層古層上?	スタイルバー-A類	3.7	4.75	1.3	16	頁岩(北土)				21390
554	第55号土坑 平威時	礫石	3.7	2.24	0.85	2.36	礫石(北土)				
555	第55号土坑 平威時	フレイク	2.5	3	0.6	3.65	頁岩(北土)				21390
556	第59号土坑 平威時	スタイルバー-A類	2	3	0.65	2.68	凝灰岩(北土)				21490
557	第59号土坑 平威時	打製石器	12.3	11.67	1.89	280.13	砂岩(北土)				
558	第60号土坑・5層	礫石?	8.23	4.04	4.8	215.05	砂岩(北土)				平威時扁平 不整形
559	第61号土坑・1層	フレイク	1.7	2.5	0.4	1.94	頁岩(北土)				21490

写真図版153 石器(37) (550~552, 557, 558はS=1/3 他はS=2/3)



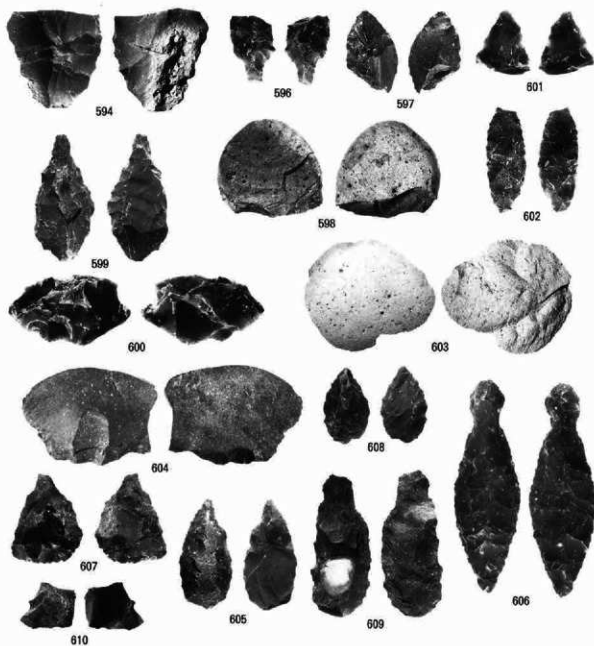
№	出土地点・層位	器種	最大寸法値(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	材質	残存状況	備考	図の 有無	本文 記載
560	第62号土坑・2層相当層	磨製器種?	5.29 4.58 1.2	25.71	砂岩(北土)	破片	表面にスス付着		
561	第62号土坑・6層	不明	9.88 5.79 1.67	103.12	砂岩(久慈層群)	欠損			
562	第63号土坑 平高時	打製石斧?	9.44 8.42 2.06	254.9	頁岩(北土)	=			
563	第63号土坑 平高時	礫石?	6.77 6.12 3.30	202.04	安山岩(北土)				
564	第63号土坑 平高時	Rフレイク	2.50 3.15 0.26	2.3	頁岩(北土)				
565	第63号土坑 平高時	石錐	4.5 2.15 1.1	7.58	頁岩(北土)	頭・尖欠損	凸蓋		21305
566	第64号土坑・2層	尖頭器?	5 2.65 1.05	14.95	頁岩(北土)	一面欠損			21402
567	第64号土坑・6層相当層?	フレイク?	3.1 3.95 1.6	15.09	頁岩(北土)		未製品?		21402
568	第64号土坑・12層	尖頭器?	3.95 6.35 2.1	33.92	頁岩(北土)				21404
569	第64号土坑・4~5層上部	残核	4.3 4.15 2.3	38.29	チャート(北土)				21404
570	第64号土坑	スラブバー-A型?	3.1 2 0.8	4.16	頁岩(北土)				21404
571	第64号土坑	尖頭器?	5 2.2 1.5	12.11	頁岩(北土)		未製品?		21404
572	第64号土坑	残核	2.9 4.9 2	26.29	頁岩(北土)				21404
573	第64号土坑	スラブバー-A型?	4.8 6.6 1.8	54.37	頁岩(北土)		未製品?		21404
574	第64号土坑	Rフレイク	4.8 2 1	12.07	頁岩(北土)				21404

写真図版154 石器(38) (561~563はS=1/3 他はS=2/3)



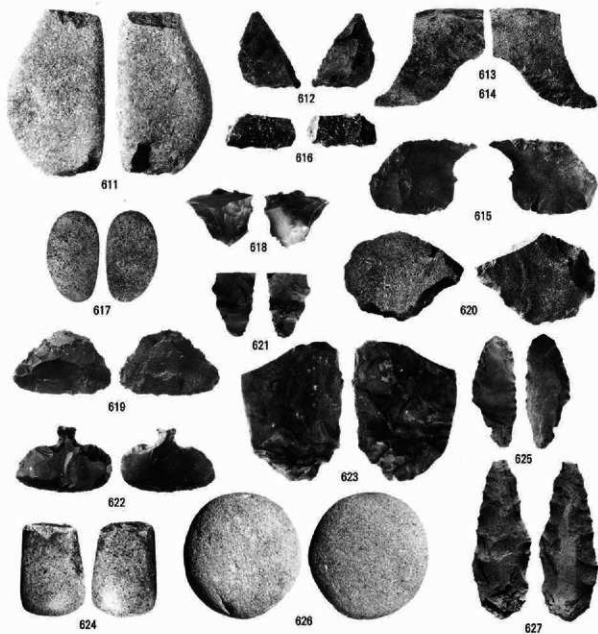
№	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
375	第61号土坑	ステレイベーA類?	4.26 4.75 1.7	36.64	頁岩(北土)		尖製品?		2150c
376	第61号土坑	石鏟?	3.7 1.6 0.9	4.90	頁岩(北土)		=		2150d
377	第61号土坑	フレイク	2.5 2.4 0.8	2.89	頁岩(北土)				2150e
378	第61号土坑	ステレイベーA類?	3 3.4 2.2	39.61	頁岩(北土)				2150f
379	第61号土坑	=	2.46 3.8 1	8.78	頁岩(北土)				2150g
380	第61号土坑	磨製器類?	4.5 3.05 3	31.27	砂岩(北土)	破片	部分破損・部分埋没の可能性		
381	第61号土坑	ステレイベーA類	3.85 1.2 0.35	2.96	頁岩(北土)		良フレイク		2150h
382	第65号土坑・7層	石鏟	3.9 1.6 0.5	2	頁岩(北土)		略定形 凸縁		2150i
383	第65号土坑・7層	フレイク	3.7 2.6 1.1	9.29	頁岩(北土)				2150j
384	第65号土坑・7層	石鏟類?	3.9 2.6 0.76	7.43	頁岩(北土)				2150k
385	第67号土坑・4-7層	フレイク?	1.76 2.4 0.3	1.16	頁岩(北土)		ステレイベーA類?		2150l
386	第67号土坑・4-7層	石鏟	3.15 1.7 0.8	3.08	石巻灰山岩(北土)		先端欠損 凸縁		2150m
387	第67号土坑・8層	良フレイク	2.16 2.15 0.45	3.17	頁岩(北土)				2160a
388	第67号土坑・8層	尖頭器	4.65 2.6 1.6	16.03	頁岩(北土)				2160b
389	第68号土坑・1層	石鏟	3.1 1.55 0.45	1.28	頁岩(北土)		略定形		2160c
390	第68号土坑・1層	=	4.5 1.6 0.7	3.76	頁岩(北土)		凸縁・端部に凹み(くぼみ)あり		2160d
391	第68号土坑・2層	石鏟?	3.4 1.5 0.7	2.15	頁岩(北土)		先端欠損 凸縁		2160e
392	第68号土坑・3層	石鏟類?	3.1 4.2 1.5	39.63	赤色頁岩(北土)		穴開		2160f
393	第68号土坑・6層	打製石斧?	13.31 5.93 1.44	159.08	砂岩(北土)	破片	表面中央に敲打痕も		
395	第68号土坑・6層	石鏟	3.26 1.81 0.7	2.33	頁岩(北土)		一端欠損 凸縁		2160g

写真図版155 石器(39) (580, 593はS=1/3 他はS=2/3)



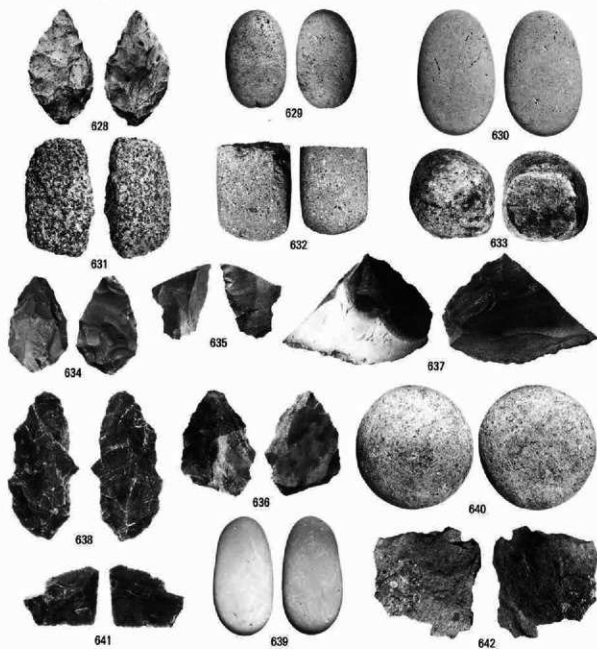
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)		重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅・厚さ						
594	第68号土坑・6層	尖頭器?	4.3	3.8	1.7	20.65	頁岩(北上)	○		21695
596	第68号土坑・6層	○	2.0	1.85	1	4.34	頁岩(北上)	先端欠損	○	21696
597	第68号土坑・6層	石鏃?	2.3	3.5	1	4.88	頁岩(北上)	下部欠損	表面の磨少ない	21697
598	第68号土坑・7層	槌棒?	3.95	4.2	1.5	25.4	砂岩(北上)			21698
599	第68号土坑・7層	石鏃?	3.3	2.5	0.9	9.43	頁岩(北上)			21699
600	第68号土坑・7層	尖頭器?	2.9	5	1	12.57	チャート(北上)	先端欠損	円錐・尖頭器?	21700
601	第68号土坑・7層	尖頭器?	3.6	2.3	1.1	4.95	チャート(北上)	先端破片		21701
602	第68号土坑・7層	石鏃?	4.3	1.7	0.75	5.71	頁岩(北上)			21702
603	第68号土坑・7層	槌棒?	10.17	9.1	1.69	144.77	石炭灰山礫(北上)			
604	第68号土坑・8層	スタレイベーA層?	4.1	5.6	0.9	21.65	頁岩(北上)			21703
605	第68号土坑・9層	スタレイベーA層?	4.5	3.2	0.8	8.3	頁岩(北上)		石鏃 未製品?	21704
606	第68号土坑 平部時	石鏃	9.6	2.7	1.2	28.34	頁岩(北上)	変形		21705
607	第68号土坑 平部時	尖頭器?	3.5	2.8	0.9	8.84	頁岩(北上)		スタレイベーA層?	21706
608	第68号土坑 平部時	石鏃	3.1	1.9	0.85	4.43	頁岩(北上)	欠損	円錐?	21707
609	第68号土坑 平部時	石鏃?	5.9	2.5	1.35	15.47	頁岩(北上)		石鏃 未製品?スタレイベーA層	21708
610	第68号土坑・No.1土層の下	フレイタ?	2	2.86	1.4	4.46	頁岩(北上)		スタレイベーA層 未製品?	21709

写真図版156 石器(40) (603はS=1/3 他はS=2/3=)



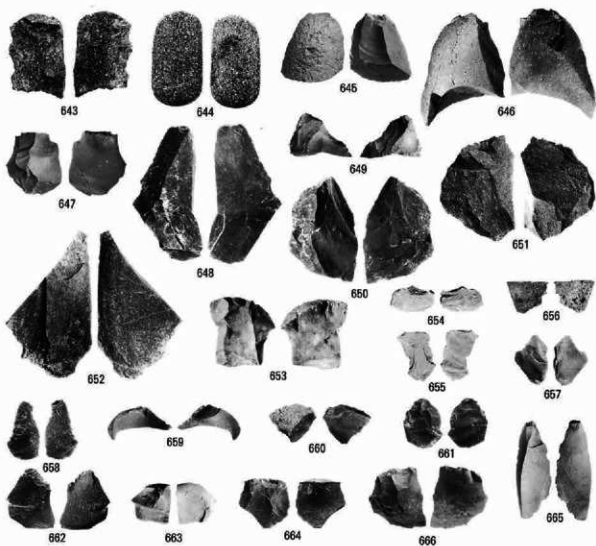
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	材質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
611	第69号土坑・No2土層(24層)	磨石目録	13.0 7.98 3.47	654.76	砂岩(北上)				
612	第69号土坑・24層当層	スラベローA型?	5.2 2.5 0.9	5.02	頁岩(北上)	破片		21706	
613	第69号土坑・25層	閃石	8.7 8 3.3	241.03	ひん岩(北上)	—	第69号土坑・25層中層に分布		
614	第69号土坑・25層	スラベローA型	3 4.45 0.85	2.58	頁岩(北上)			21706	
615	第69号土坑・25層当層	フリートク	1.4 2.9 0.5	2.97	頁岩(北上)	欠損		21706	
617	第69号土坑 平蔵時	磨石C型	7.06 4.01 1.96	65.57	ひん岩(北上)		緑泥岩に磨面?		
618	第69号土坑 平蔵時	尖頭器?	2.4 2.7 0.8	4.73	頁岩(北上)	破片		21706	
619	第69号土坑 平蔵時	スラベローA型?	2.6 4 0.9	10.84	赤色頁岩(北上)			21706	
620	第69号土坑 平蔵時	スラベローA型?	3.65 4.95 1.3	25.1	頁岩(北上)			21602	
621	第69号土坑 平蔵時	尖頭器?	2.6 1.8 0.9	2.95	頁岩(北上)		先端のみ	21706	
622	第69号土坑 平蔵時	石槌	2.7 3.9 0.7	4.88	頁岩(北上)		磨完形	21602	
623	第69号土坑 平蔵時	スラベローA型?	3.9 4.55 2	44.81	頁岩(北上)		先端のみ	21602	
624	第69号土坑 平蔵時	磨石石斧	7.87 5.42 2.9	218.44	ひん岩(北上)		新に研削面あり	21602	
625	第70号土坑 平蔵時	スラベローA型?	4.3 1.8 0.9	4.69	頁岩(北上)		先端のみ	21602	
626	第70号土坑 平蔵時	磨石	10.6 9.86 3.42	506.71	砂岩(北上)		緑泥岩層打割	21602	
627	第70号土坑 平蔵時	尖頭器?	6.6 2.4 1.1	15.11	頁岩(北上)		先端欠損 石槌?	21602	

写真図版157 石器(41) (611、613、614、617、624、626はS=1/3 他はS=2/3)



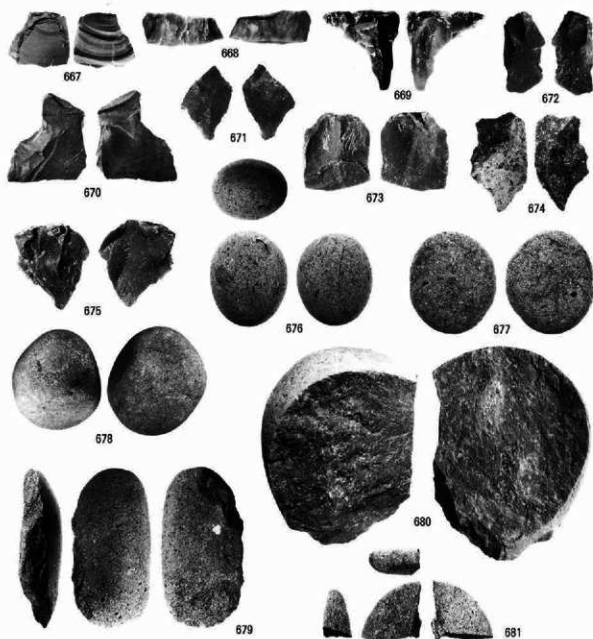
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	材質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
628	第70号土坑・平蔵時	石鏃?	4.9 2.65 0.95	9.65	頁岩(北上)	基部欠損	凸縁?・文様部?	21802	
629	第71号土坑・8割当層?	礫石C類	7.95 4.80 2.54	141.14	石英安山岩(北上)				
630	第71号土坑・1~2割	—	10.21 6.57 2.18	313.96	石英安山岩(北上)				
631	第71号土坑・平蔵時	礫石?	5.45 5.45 4.02	277.66	花崗閃緑岩(北上)		ボロボロ割れる		
632	第71号土坑・平蔵時	磨製石斧	7.85 6.65 2.85	282.02	のみ岩(北上)	1/2			
633	第72号土坑・6割	礫石	6.97 7.2 6.58	509.73	花崗閃緑岩(北上)		点々と磨付面あり		
634	第72号土坑・6割	石鏃?	4 2.6 1	8.22	頁岩(北上)		刃縁・基部の隅はとどろなし	21802	
635	第72号土坑・平蔵時	スタライバーA類	3.1 2.5 0.85	5.11	頁岩(北上)	欠損		21802	
636	第72号土坑・平蔵時	尖頭鏃?	4.2 3.1 1.2	14.89	頁岩(北上)	基部欠損	裏面割傷少ない	21802	
637	第73号土坑・4割	スタライバーA類	4.4 6.2 1.6	29.19	頁岩(北上)	欠損		21802	
638	第73号土坑・4割	尖頭鏃	2.9 4.3 1.3	19.23	頁岩(北上)			21802	
639	第73号土坑・15割	礫石C類	9.97 5.07 4.01	161.42	凝灰岩(北上)			21802	
640	第73号土坑・平蔵時	礫石	10.73 10.08 6.12	993	安山岩		基部中央、縁部割傷に磨付面		
641	第74号土坑	Uフレイタ?	2.5 3.1 0.8	6.05	チャート(北上)			21802	
642	第74号土坑	フレイトB類	4.37 4.57 0.84	11.49	砂岩(北上)			21802	

写真図版158 石器(42) (629~633、639、640はS=1/3 他はS=2/3)



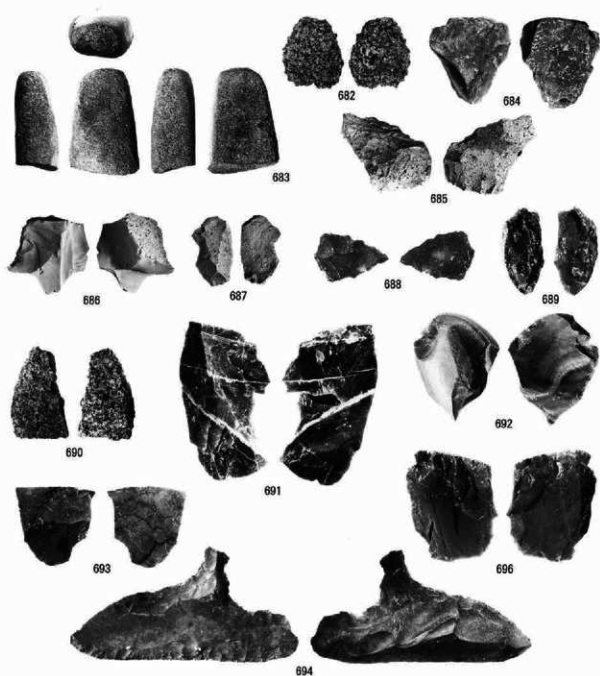
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(mm)		重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅 厚さ						
643	第74号土坑	フレイク片類	3.96	2.31	0.83	4.7 頁岩(北上)				
644	第74号土坑	礫石?	7.9	4.3	2.3	132.20 コム岩(北上)			21900	
645	第75号土坑	フレイク	3.01	1.33	1.75	7.90 頁岩(北上)				
646	第75号土坑	=	4.62	3.2	1.69	49.35 頁岩(北上)				
647	第75号土坑	=	1.13	0.62	0.59	2.84 頁岩(北上)				
648	第75号土坑	=	5.53	2.39	1.21	15.82 頁岩(北上)				
649	第75号土坑	フレイク?	1.9	2.3	0.9	3.06 頁岩(北上)		未製品?	21900	
650	第75号土坑	フレイク	4.54	2.49	0.90	10.11 チャート(北上)				
651	第75号土坑	=	4.02	2.63	1.00	12.4 頁岩(北上)				
652	第75号土坑	=	5.87	3.34	0.88	14.82 頁岩(北上)				
653	第75号土坑	=	2.75	2.58	0.8	4.42 頁岩(北上)				
654	第75号土坑	=	1.76	1.04	0.28	0.56 頁岩(北上)				
655	第75号土坑	=	3.01	1.3	0.19	0.33 頁岩(北上)				
656	第75号土坑	=	1.6	1.29	0.21	0.39 頁岩(北上)				
657	第75号土坑	=	1.61	1.43	0.44	1.1 頁岩(北上)				
658	第75号土坑	=	2.42	1.29	0.35	0.93 頁岩(北上)				
659	第75号土坑	=	2.59	0.89	0.28	0.67 頁岩(北上)				
660	第75号土坑	=	1.87	1.6	0.43	1.01 頁岩(北上)				
661	第75号土坑	フレイク?	3.03	1.74	0.25	1.04 頁岩(北上)		未製品?		
662	第75号土坑	フレイク	3.27	2.21	0.39	2 頁岩(北上)				
663	第75号土坑	=	1.7	1.60	0.79	1.07 頁岩(北上)				
664	第75号土坑	=	1.97	1.30	0.49	1.25 頁岩(北上)				
665	第75号土坑	=	3.91	1.44	0.39	1.75 頁岩(北上)				
666	第75号土坑	=	2.48	2.15	0.39	1.75 頁岩(北上)				

写真図版159 石器(43) (644はS=1/3 他はS=2/3)



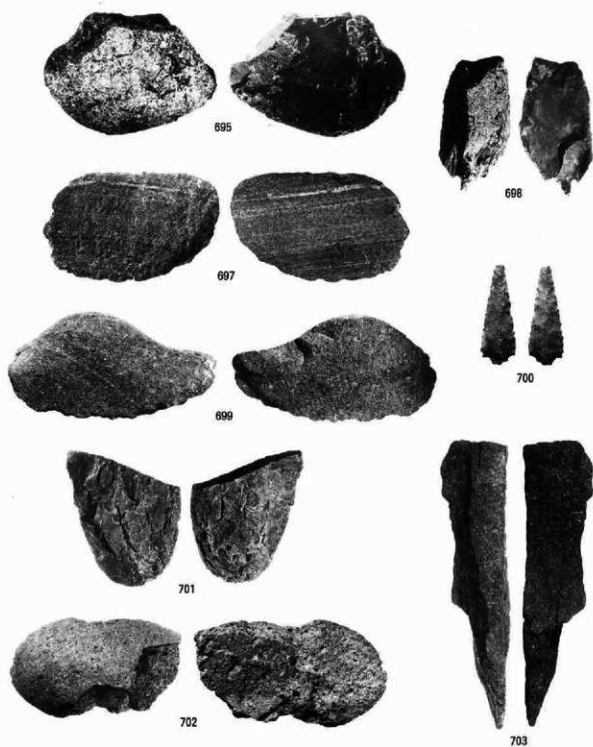
No.	出土地点・層位	器種	最大寸割線(cm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
667	第75号土坑	フレイク	2.23 2.5 0.47	3.09	頁岩(北上)				
668	第75号土坑	＝	1.38 3.27 0.47	2.75	緑質頁岩(北上)				
669	第75号土坑	＝	2.46 3.91 1.04	4.77	チャート(北上)				
670	第75号土坑	＝	3.65 3.0 0.85	7.53	チャート(北上)				219図
671	第75号土坑	石鏃	1.9 2.9 1.3	6.82	チャート(北上)	欠損			219図
672	第76号土坑	フレイク	3.32 1.66 0.64	2.81	頁岩(北上)				
673	第76号土坑	＝	3.18 2.0 0.83	7.53	頁岩(北上)				
674	第76号土坑	フレイクB型	4.05 2.3 1.17	9.52	石英質頁岩(北上)				
675	第76号土坑	フレイク	3.6 2.98 0.83	7.19	頁岩(北上)				
676	第77号土坑	礫石	8.2 6.7 5.7	427.67	溶結凝灰岩(北上)	先端部面をなしている		219図	
677	第77号土坑	礫石?	8.86 7.5 4.1	381.37	溶結凝灰岩(北上)			219図	
678	第77号土坑	礫石	8.91 7.78 7.07	652.81	砂岩(北上)	不整形			
679	第77号土坑	打製石鏃	13.5 7 3.7	849.23	石英質(北上)				219図
680	第77号土坑	石鏃?	17.2 12.5 5.45	1623.23	石英質岩(北上)				
681	第77号土坑	磨製器類	4.7 5.1 2.5	80.88	砂岩(北上)	破片			219図

写真図版160 石器(44) (676~681はS=1/3 他はS=2/3)



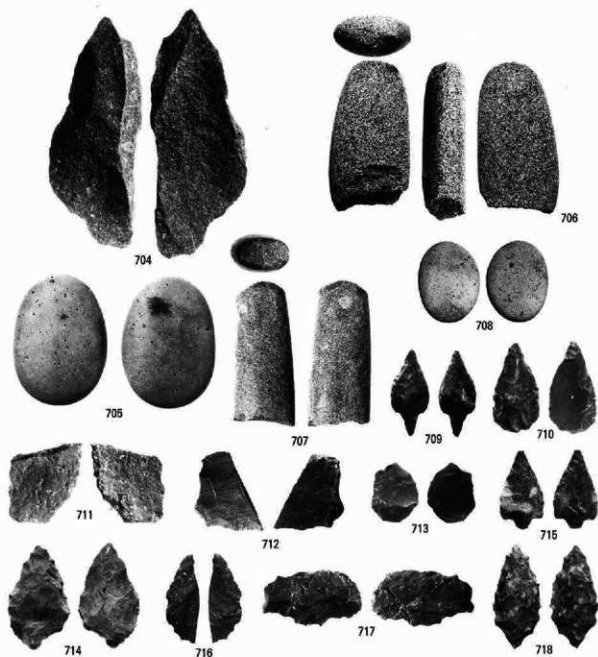
No.	出土地点・層位	器種	最大寸測値(mm)		重量(g)	石質	残存状況	備考	96の有無	本文記載	
			長さ	幅							
682	第77号土坑	礫石?	6.07	3.33	3.08	114.54	花崗閃緑岩(北上)	破片	粉々に砕ける		
683	第77号土坑	磨製石斧	8.9	5.9	3.5	342.59	閃緑岩(北上)	欠損	細かい破片が多く、本製品か	23090	
684	第77号土坑(第4号層7次に含む?)	フレイタ	3.14	3.41	1.46	16.73	チャート(北上)				
685	第77号土坑(第4号層7次に含む?)	+	3.2	3.7	0.5	7.61	石英岩(北上)		本製品か?	23090	
686	第77号土坑(第4号層7次に含む?)	フレイタ	3.26	3.84	1.43	7.92	頁岩(北上)				
687	第77号土坑(第4号層7次に含む?)	+	2.77	1.47	0.33	1.81	磨製石(北上)				
688	第77号土坑(第4号層7次に含む?)	Rフレイタ	2.05	4.1	0.6	3.21	チャート(北上)			23090	
689	第78号土坑	フレイタ	3.52	1.71	0.66	4.93	チャート(北上)				
690	第78号土坑	打製石斧	7.74	4.84	1.76	89.44	花崗閃緑岩(北上)	破片	平円扁平		
691	第79号土坑	フレイタ	6.31	3.44	1.11	19.13	チャート(北上)				
692	第79号土坑	+	4.36	3.44	0.86	12.13	頁岩(北上)				
693	第79号土坑	+	3.3	3.3	0.7	8.33	チャート(北上)				
694	第79号土坑	石鏝	4.65	9.15	0.95	36.28	頁岩(北上)	前完形		23090	
695	第79号土坑	フレイタ	4.29	3.98	1.44	18.02	チャート(北上)				

写真図版161 石器(45) (690はS=1/3 他はS=2/3)



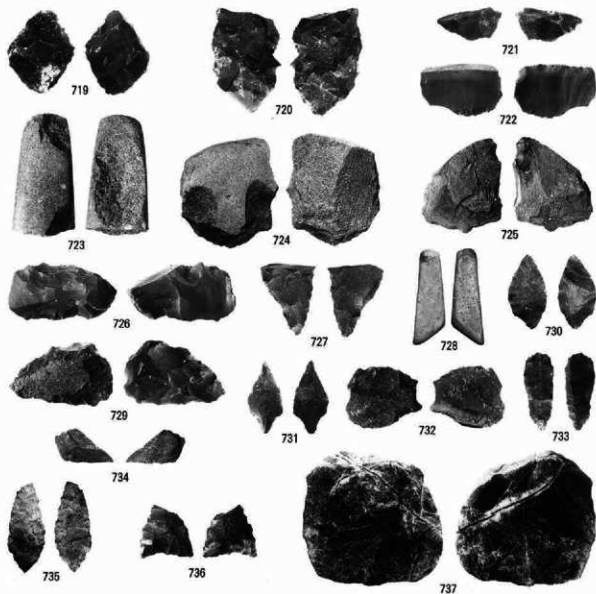
No.	出土地点・層位	器種	最大寸断値(mm)			重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
695	第79号土坑	残片?	5.1	7.1	1.5	58.65	チャート(北上)			220/95	
697	第79号土坑	フレイクB類	4.4	7	1.1	42.26	ホルンフェルス(北上)			221/95	
698	第79号土坑	片フレイク?	5.59	2.74	1.47	21.3	頁岩(北上)				
699	第79号土坑	スプレッド型?	4.4	8.2	1.5	85.52	砂岩(北上)			221/95	
700	第79号土坑	石鏃	3.9	1.45	0.7	2.87	頁岩(北上)	図・説明	凸基	220/95	
701	第79号土坑	残片?	3.82	3.94	1.24	31.23	チャート(北上)				
702	第79号土坑	磨滅型?	6.96	2.96	3.7	64.47	石英質山岩(北上)	破片			
703	第79号土坑	?	11.81	2.82	2.47	56.41	ホルンフェルス(北上)	?	磨石?		

写真図版162 石器(46) (S=2/3)



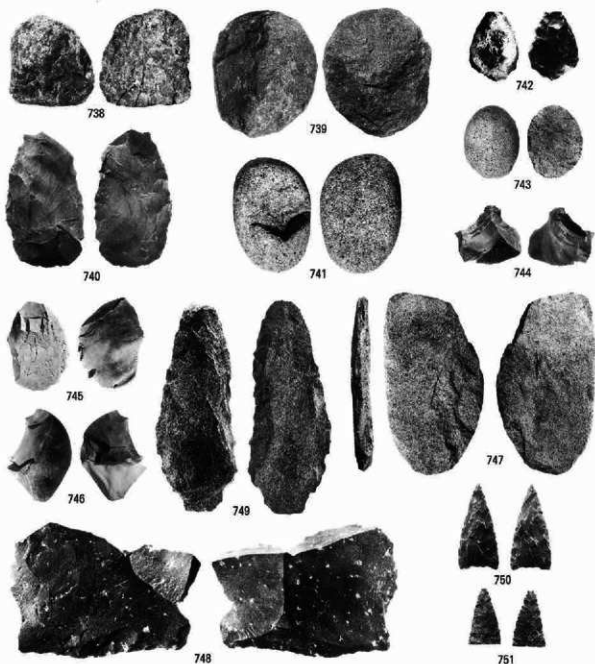
№	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
704	第79号土坑	フリヤ片層守	9.41 3.96 1.94	46.43	ホルンフェルス(北上)				
705	第79号土坑	磨石C類	10.5 7.45 3	333.87	石英安山岩(北上)				
706	第79号土坑	磨石B層守	12.7 6.7 3.4	321.93	閃輝石(北上)		途中?		2210c
707	第79号土坑	磨石B層	12 5.2 3.5	415.59	石割肉桂石(北上)		原産地不明なる心臓形物		p.213
708	第80号土坑・4層	磨石C類	6.54 4.78 1.19	40.56	燧石岩(北上)				2210c
709	第80号土坑・4層	石鏢	3.5 2.6 0.6	2.32	頁岩(北上)		一徹尖頭		2210c
710	第81号土坑北西端及びその周辺	半蔵時 石鏢	3.65 1.9 0.65	4.18	頁岩(北上)		片断・片断埋没品など		2210c
711	第81号土坑北西端及びその周辺	半蔵時 不明	3.26 2.71 0.72	6.59	ホルンフェルス(北上)		磨石磨削破片?		2210c
712	第81号土坑南東端及びその周辺	半蔵時 スプリングストーン	3 2.7 0.9	5.94	頁岩(北上)		未製品?		2210c
713	第82号土坑・22層平層??	スプリングストーン	2.95 1.95 0.45	1.61	頁岩(北上)		未製品		2220c
714	第82号土坑・平層時	尖頭鏢	4.3 2.6 1	8.86	頁岩(北上)		石鏢(円錐)?		2210c
715	第83号土坑・5層	石鏢	3.1 1.9 0.6	2.65	頁岩(北上)		短・短頭		2220c
716	第83号土坑・7層	尖フリヤ	3.6 1.4 0.5	1.57	頁岩(北上)				2220c
717	第85号土坑・9層	尖頭鏢	2.3 4.1 1.2	9.85	頁岩(北上)		先端欠損		2220c
718	第85号土坑・4~7層	石鏢	4.2 2 1	6.41	安山岩(北上)				2220c

写真図版163 石器(47) (705~708はS=1/3 他はS=2/3)



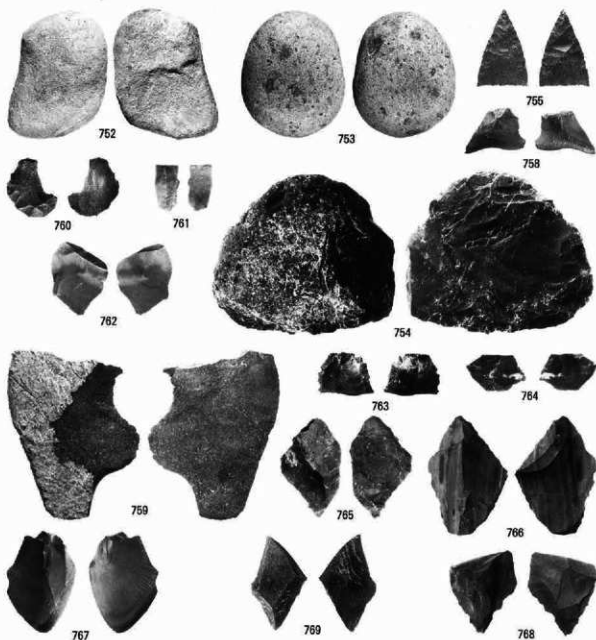
No.	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
719	第85号土坑・4~7層	フリートク?	3.4 2.1 1.1	8.66	頁岩(北上)		石髓 未製品?		
720	第86号土坑・4~7層	尖頭器?	4.9 2.8 1.7	18.53	頁岩(北上)	欠損			
721	第86号土坑・4~7層	フリートク?	2.33 1.49 1.5	4.15	頁岩(北上)		未製品?		2228c
722	第86号~86号土坑 平蔵時	Rフリートク	2.3 3.3 0.5	3.2	頁岩(北上)				2228c
723	第86号~86号土坑 平蔵時	磨製石斧	18.0 5.06 3.49	278.85	珪岩(北上)	欠損	欠損部分多い		
724	第86号土坑・4層	打製石斧?	8.15 9.68 3.61	322.35	砂岩(北上)	＝	礫石?		
725	第89号土坑 平蔵時	スライバーA型?	3.7 3.3 0.9	10.63	頁岩(北上)	＝	未製品?		2228c
726	第89号土坑 平蔵時	＝	2.45 4.0 1.6	14.15	頁岩(北上)	＝			2228c
727	第89号土坑 平蔵時	石鏝?	2.95 2.3 0.8	3.53	頁岩(北上)	破片	文様線?		2228c
728	第89号土坑 平蔵時	礫石	7.69 2.37 1.07	31.5	頁岩(北上)				
729	第89号土坑 平蔵時	尖頭器?	2.6 4.1 1.3	12.12	頁岩(北上)		石髓(内基)?		2228c
730	第90号土坑・5層	石鏝	3 1.8 0.8	2.96	頁岩(北上)	欠損	凸基		2228c
731	第90号土坑・5層	＝	2.95 1.8 0.6	1.53	頁岩(北上)	一部欠損	凸基・裏面凹み少ない		2228c
732	第90号土坑 平蔵時	フリートク?	2.5 3.1 0.5	2.08	頁岩(北上)		未製品?		2228c
733	第91号土坑・3~8層	石鏝?	3.2 1.3 0.8	2.81	頁岩(北上)		石髓 未製品?		2228c
734	第91号土坑・10層	Uフリートク	1.4 2.5 0.35	0.81	頁岩(北上)				2228c
735	第91号土坑・14層	石鏝	3.5 1.5 0.5	2.25	頁岩(北上)		先端欠損		2228c
736	第91号土坑 平蔵時	＝	2.2 2.2 0.7	2.43	頁岩(北上)	＝	凸基		2228c
737	第91号土坑 平蔵時	槌棒?	6.5 5.9 3	75.76	チャート(北上)				2228c

写真図版164 石器(48) (723, 724, 728はS=1/3 他はS=2/3)



No.	出土地点・層位	器種	最大寸法値(cm)		重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅						
738	第91号土坑 平蔵時	種核?*	7.81	7.32	3.25	228.0	頁岩(北上)			
739	第91号土坑 平蔵時	礫石	13.89	9.66	6.95	748.98	キルツァムス(北上)			
740	第92号土坑 平蔵時	石核	5.61	5.21	1.1	20.19	頁岩(北上)			
741	第92号土坑・30層	礫石?	9.96	4.61	4.45	386.54	燧石(北上)			22304
742	第93号土坑 平蔵時	石核?	2.9	2.1	0.95	5.30	頁岩(北上)	常陸次郎	凸核	22302
743	第100号土坑 平蔵時	磨製器類	5.3	4.39	4.3	53.54	安山岩(北上)	破片		
744	第101号、第102号土坑	フレイク	2.42	2.21	0.58	2.18	頁岩(北上)			
745	第102号土坑	?	3.53	2.39	0.97	7.96	頁岩(北上)			
746	第101号、第102号土坑	?	3.84	2.47	1.78	15.11	頁岩(北上)	自然面スエ付着		
747	第101号、第102号土坑	打製石斧	14.5	8	2.1	274.66	砂岩(北上)			22409
748	第103号土坑・30層	スライパーA類	5.7	7.85	1.8	47.53	燧山岩(北上)			22306
749	第104号土坑・No.9土層の下駄土層	尖頭器?	8.6	3.45	1.7	49.54	キルツァムス(北上)			22407
750	第104号土坑西側断壁・30層?	石核	3.45	1.7	0.4	2.03	頁岩(北上)	磨完形	凹核	22406
751	第104号土坑西側断壁・30層?	石核	2.2	1.3	0.4	1.01	頁岩(北上)	先端のみ		22404

写真図版165 石器(49) (738、739、741、747はS=1/3 他はS=2/3)



No	出土地点・層位	器種	最大計測値(Cm)			石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅	厚さ					
752	第104号土坑西側底面・30層?	礫石?	10.63	7.61	3.53	446.17	砂岩(北上)			
753	第104号土坑北内端(くずれ)・83層?	礫石	10.43	8.46	5.36	707.3	輝岩(北上)			
754	第104号土坑西側底面・34層	ヌレイベーラム	6.6	7.63	1.7	81.97	チャート(北上)			
755	第104号土坑・33層南西端?	石槌	0.2	0.33	0.04	2.11	頁岩(北上)	略定形		
756	第2号掘し穴北端	フレイト	1.71	2.39	0.5	1.39	頁岩(北上)			
757	第2号掘し穴	長フレイト	7.1	5.1	1.3	7.42	頁岩(北上)			22498
758	第2号掘し穴	フレイト	2.4	2.65	0.8	0.95	頁岩(北上)			22498
759	第2号掘し穴	="	1.83	1.64	0.55	0.65	頁岩(北上)	未製品?		
760	第2号掘し穴	="	2.94	2.29	0.73	3.85	頁岩(北上)			
761	第2号掘し穴	="	1.75	2.1	0.35	1.25	頁岩(北上)	未製品?		22498
762	第2号掘し穴	="	1.5	2.4	0.3	0.91	頁岩(北上)			22500
763	第2号掘し穴	="	3.88	2.43	0.91	25.39	頁岩(北上)			
764	第2号掘し穴	フレイト	4.9	3.25	1	10.71	頁岩(北上)			22498
765	第2号掘し穴	="	4.15	2.8	0.7	9.96	頁岩(北上)			22498
766	第2号掘し穴	="	3.45	2.85	0.8	5.58	頁岩(北上)	未製品		22498
767	第2号掘し穴	フレイト	3.9	2.3	0.9	5.33	頁岩(北上)			22500

写真図版166 石器(50) (752, 753は S=1/3 他は S=2/3)

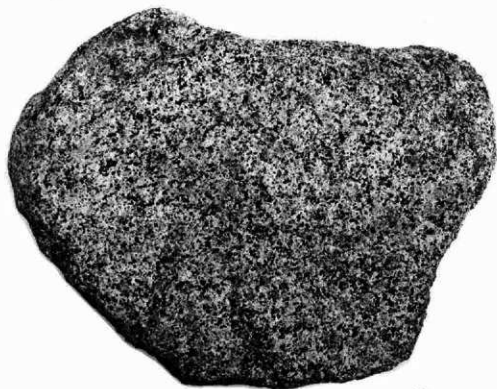


756

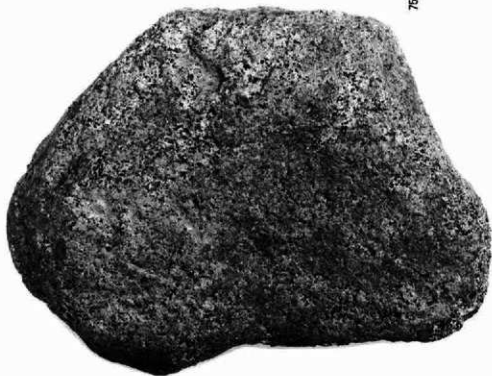


No	出土地点・層位	器種	最大寸法(mm)			重量(g)	材質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
756	第104号土坑・底面レキ	石籠?	35.3	32.1	7.8	15.000	オホツフェリス(皮上)				

写真図版167 石器(51) (S=1/3)

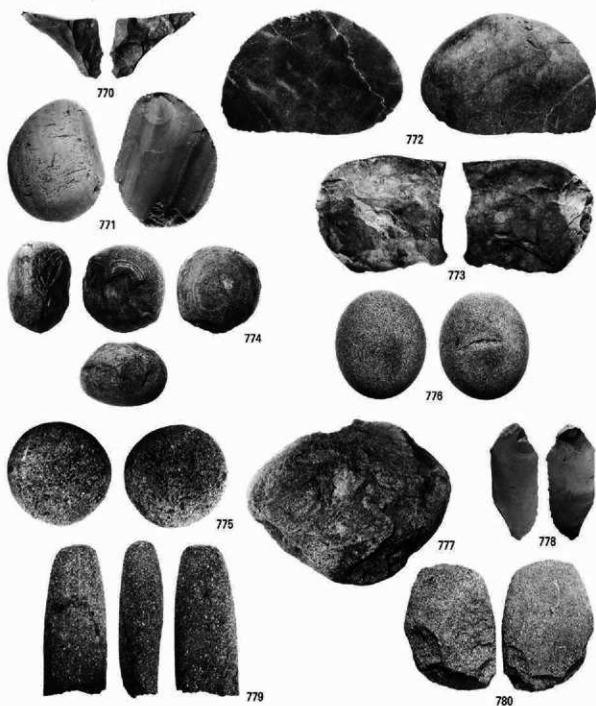


757



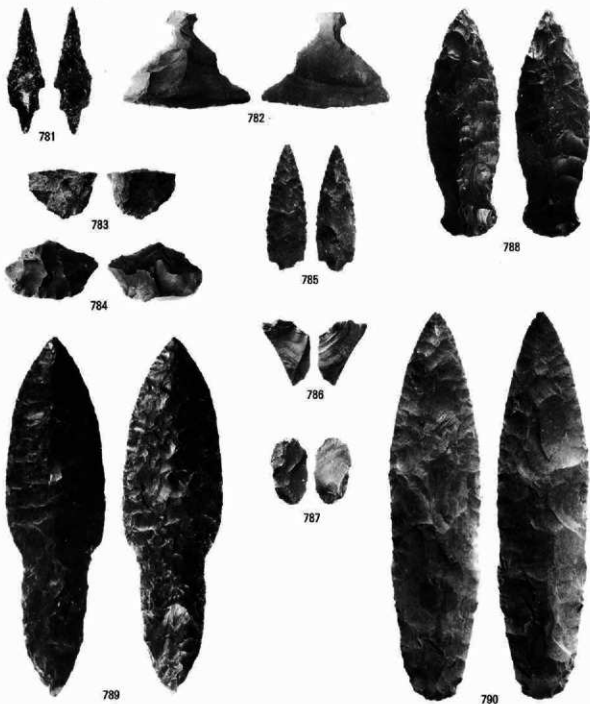
No	出土地点・層位	種類	最大寸法値(cm)			重量(g)	石質	保存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
757	第101号土坑・底面	石器?	41.6	29.8	131	19,490	花崗閃緑岩(北上)				

写真図版168 石器(52) (S=1/3)



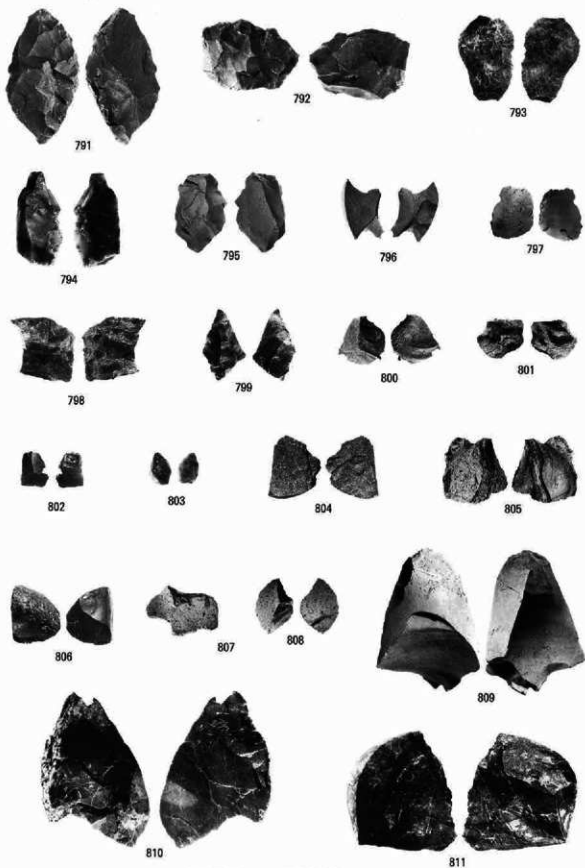
No	出土地点・副産	器種	最大計測値(mm)		重量(g)	材質	残存状況	備考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅						
770	第3号層L穴状遺構	フレイク	1.79	2.57	0.79	頁岩(北上)				
771	第3号層L穴	塊石?	4.81	1.69	1.94	頁岩(北上)				
772	第3号層L穴	=	5.1	7.3	1.1	チャート(北上)				
773	第3号層L穴	=	4.8	5.2	1.5	53.11 頁岩(北上)				2250a
774	第3号層L穴	燧石	7.86	7.1	8.2	383.57 コルフェルス(北上)	縁辺部破損			2250b
775	第3号層L穴	燧石?	8.7	8.6	4.8	513.48 燧岩(北上)	表面面割(敲打?)			2260a
776	第3号層L穴	燧石	9.6	7.0	5.7	592.1 燧岩(北上)	表面面割			2260b
777	第3号層L穴	燧石	13.8	16.7	4.7	1808.00 コルフェルス(北上)	表面中央部 2.5mm凹み			2260c
778	第5号層L穴状遺構 半蓋時	フレイク	4.62	1.90	0.97	3.19 頁岩(北上)				
779	第5号層L穴状遺構 半蓋時	磨製石斧	12.2	5.03	3.65	386.66 砂岩(北上)	先端欠損	基部敲打痕(細い)		2260d
780	第5号層L穴状遺構 半蓋時	打製石斧	10.91	7.61	3.59	446.51 燧岩(北上)				

写真図版169 石器(53) (770~773、778はS=1/3 他はS=2/3)

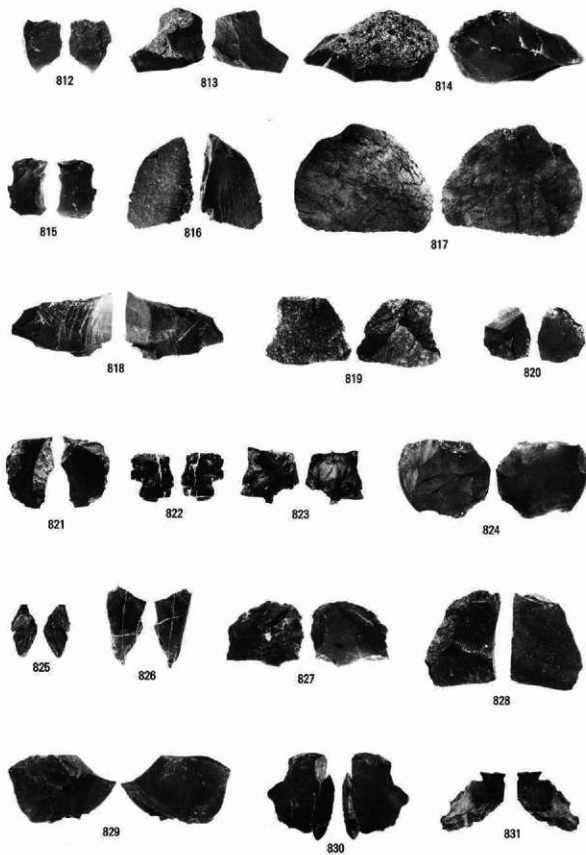


№	出土地点・層位	器種	最大寸法(㎝) 長さ 幅 厚さ	重量(g)	石質	保存状況	備考	図の 有無	本文 記載
781	第6号期1穴状遺構・1層	石鏃	5.15 1.8 0.65	3.81	頁岩(北上)	欠損? 凸底		226図	
782	第11号~第14号出土・第6号中期 クラシーニング	石鏃	3.95 5.2 0.5	7.25	頁岩(北上)	端完形		226図	
783	第15号出土 焼土内	尖頭鏃?	2 2.8 1	4.4	頁岩(北上)	基部のみ		226図	
784	第15号~第21号出土 クラシーニング	?	2.45 3.8 1	8.25	頁岩(北上)			226図	
785	第15号~第21号出土 クラシーニング	石鏃	5.1 1.7 1	7.45	頁岩(北上)	一部欠損	凸底	226図	
786	6C区の子灰子(第36号土灰子)	フレイタ	2.8 1.52 0.35	0.36	頁岩(北上)				
787	6C区の子灰子(第36号土灰子)	フレイタ	2.65 1.38 0.5	1.25	頁岩(北上)				
788	2D区・自然	尖頭鏃?	5.3 3.1 1.5	32.81	頁岩(北上)				
789	8D区・焼土面(IV層)	尖頭鏃	14.4 4.1 1.6	65.8	砂土・頁岩?+A47+4	一部欠損	石鏃? 6C区と同一のLに由来した	227図	p.211
790	8D区・焼土面(IV層)	?	15.7 3.8 1.7	83.49	頁岩(北上)	=	6C区と同一のLに由来した	227図	p.211

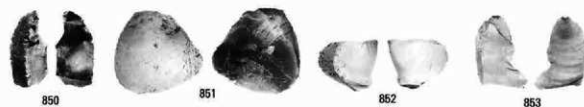
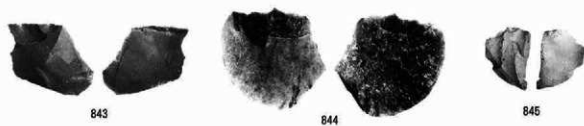
写真図版170 石器(54) (S=2/3)



写真图版171 石器(55) (S=2/3)



写真図版172 石器(56) (S=2/3)



写真図版173 石器(57) (S=2/3)



854



855



856



857



858



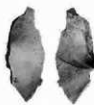
859



860



861



862



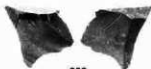
863



864



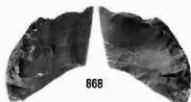
865



866



867



868



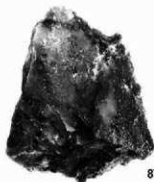
869



870



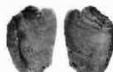
871



874



872



873

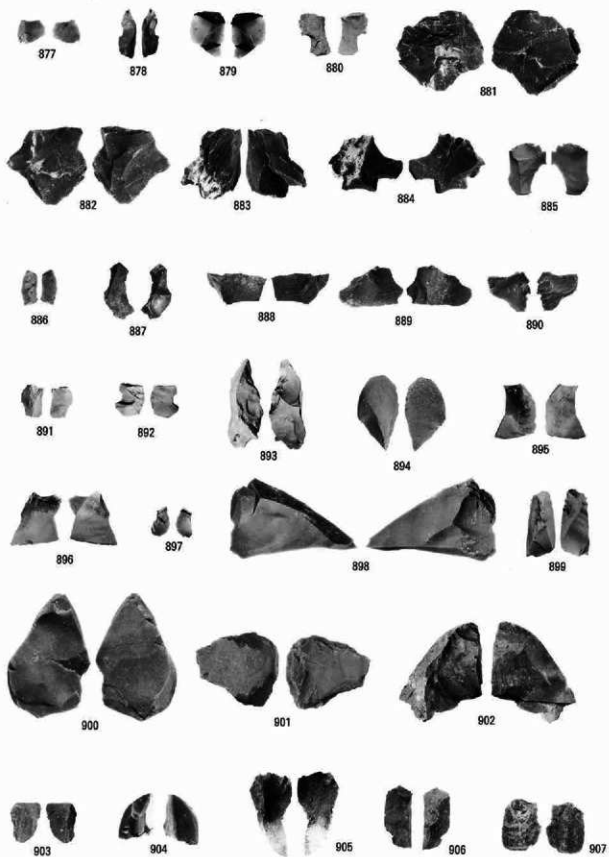


875

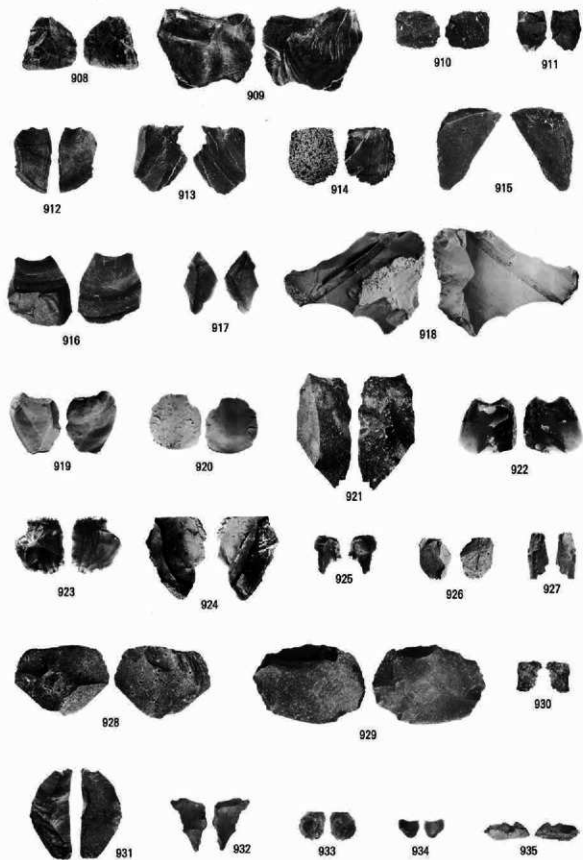


876

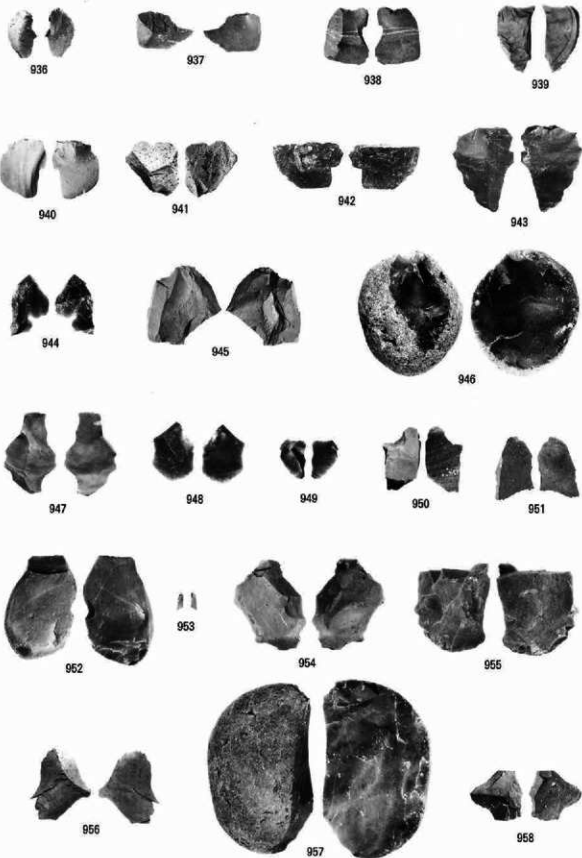
写真図版174 石器(58) (S-2/3)



写真図版175 石器(59) (S=2/3)



写真图版176 石器(60) (S-2/3)



写真图版177 石器(61) (S=2/3)



959



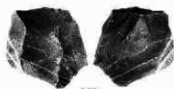
960



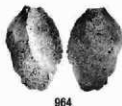
961



962



963



964



965



966



967



968



969



970



971



972



973



974



975



976



977



978



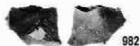
979



980



981



982



983

写真図版178 石器(62) (S=2/3)



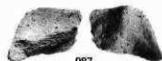
984



985



986



987



988



989



990



991



992



993



994



995



996



997



998



999



1000



1001



1002



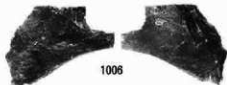
1003



1004



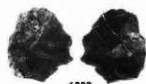
1005



1006

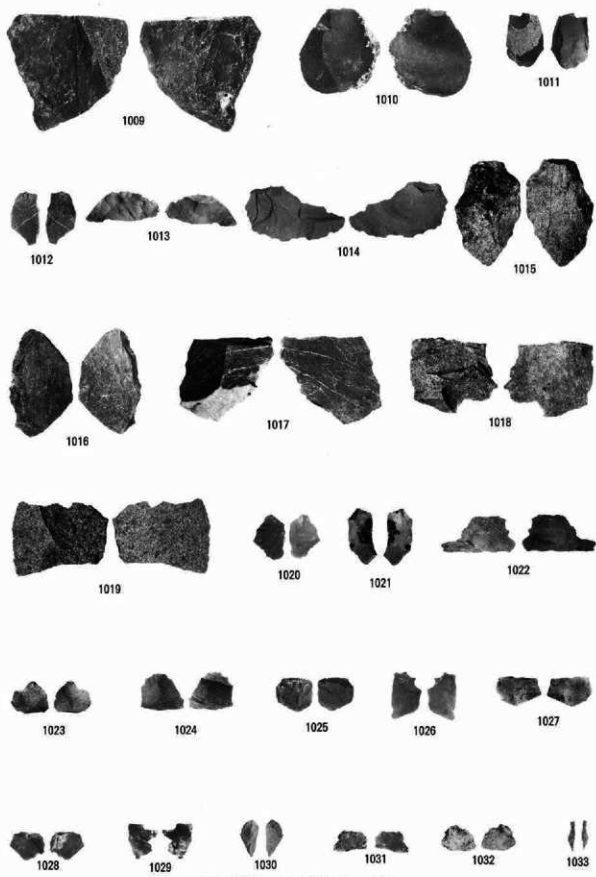


1007

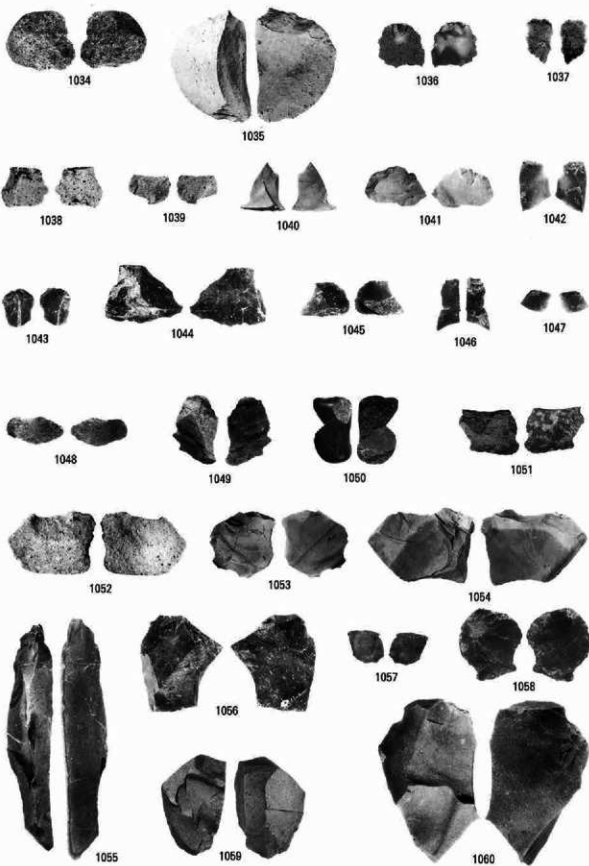


1008

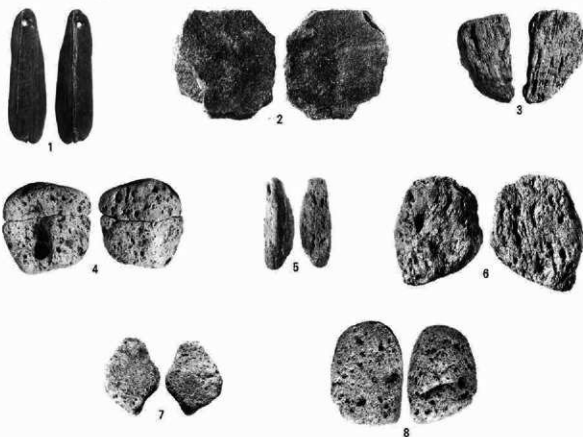
写真図版179 石器(63) (S=2/3)



写真図版180 石器(64) (S-2/3)



写真图版181 石器(65) (S=2/3)

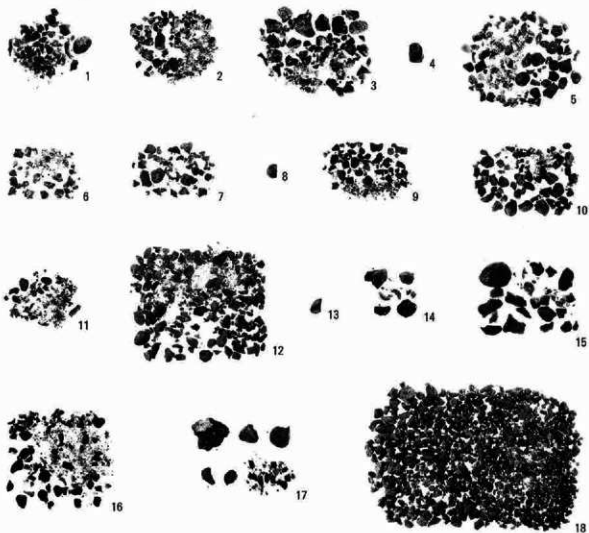


No.	出土地点・層位	器 種	最大寸測値(cm)			重量(g)	石 質	残存状況	備 考	図の 有無	本文 記載
			長さ	幅	厚さ						
1	第25号土坑	乗機品	7.3	2.1	0.5	1.40	ホルンフェルス(北上)	磨完形	両側の凸孔・半環加工あり	図182	
2	4C室・1～5層	円盤状石製品?	6.2	5.8	1.6	96.30	砂岩(北上)	一部欠損	磨痕面、磨取りしてある。	図182	
3	第1号土坑	軽石加工品?	5.3	3.3	2.5	8.11	軽石(北上)		一面、磨めて平滑(磨面?)		
4	第16号土坑・2～7層?	軽石加工品?	5.2	4.9	2.5	7.60	軽石(北上)		厚残しているだけか		
5	第19号土坑	軽石加工品?	5.1	1.6	1.6	1.61	軽石(浮石(東海山脈))		厚残しているだけか		
6	第25号土坑およびその周辺・砂山層(首層上面)	軽石加工品?	6.5	5.2	3.2	18.25	軽石(浮石(東海山脈))		磨面はかすま(しては?)	図182	
7	第26号土坑・3層	軽石加工品?	3.2	2.9	2.8	8.10	軽石(北上)		一面研磨?		
8	第25号土坑 平礎時	軽石加工品	3.6	4.3	4.0	17.36	軽石(北上)		一面研磨		



No.	出土地点・層位	最大寸測値(cm)			重量(g)	残存状況	備 考	図の 有無	本文 記載
		長さ	幅	厚さ					
1	6C③・3層	—	—	—	34.50	5片に	表面に何かに包まれていたような平凹面あり		p.214

写真図版182 石製品・アスファルト (S=1/2)



No	出土地点・層位	最大計測値(mm)		重量(g)	保存状況	備 考	図の 有無	本文 記載
		長さ	幅					
1	第1号住居跡・3層	---	---	1.18	粉々			
2	第1号住居跡・5層	---	---	1.12	粉々			
3	第1号住居跡・6層	---	---	3.52	粉々			
4	第2号住居跡・2層	1.1	0.8	0.25	一部欠損	小豆大で、未加工?		
5	第3号〜第5号住居跡跡	---	---	2.90	粉々			
6	第1号土坑	---	---	0.42	粉々	黄色く、赤み少ない		
7	第5号土坑・4層	---	---	0.87	粉々			
8	第24号土坑・4層	0.8	0.6	0.11	欠陥	小豆大で、未加工		
9	第24号土坑・12層	---	---	0.89	粉々			
10	第25号土坑・東土(1層?)下層	---	---	2.00	粉々			
11	第28号土坑・8層	---	---	0.41	粉々	黄色く、赤み少ない		
12	第28号土坑・3層	---	---	2.58	粉々			
13	第33号土坑・2層	---	---	0.19	欠陥			
14	第39号土坑・3層	---	---	1.02	欠陥	小物の産大・未加工		
15	ⅡC室・11層	---	---	2.49	剥落	人差し指大		
16	ⅡC室・IV層上層	---	---	1.57	粉々			
17	ⅡB室・最上層	---	---	2.64	欠陥	人差し指より大きい・未加工		
18	ⅡA室・最上層	---	---	12.33	粉々	元は銀指大以上?		

写真図版183 コハク (S=1/2)

報告書抄録

ふりがな	ひらしろずにいせきはくつちょうさほうこくしよ							
書名	平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	ふるさと農道緊急整備事業野山地区関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第449集							
編者名	金子昭彦							
編集機関	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 0853 岩手県盛岡市下飯田11-185 TEL. 019 638 9001							
発行年月日	西暦2004年3月18日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°N	°E			
平清水Ⅱ 遺跡	岩手県九戸郡 野山村大字野田 第22地割子明 内53番地ほか	03503	JG60-022%	40度 6分 16秒	141度 47分 51秒	2001.08.20 ～2001.11.09 2002.08.01 ～2002.11.15	1,350㎡	ふるさと農道 緊急整備事業 に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平清水Ⅱ 遺跡	集落跡	縄文前期中葉～ 山期前葉(円筒下層d式～ 上層a式期上)	竪穴住居跡3棟 炉跡10基 住居状遺構1基 上坑・墓穴104基 陥し穴状遺構7基 焼土42基	縄文土器(早△・前 前△・前中○・前 後◎・中前◎) 大コンテナ37箱 土偶4点 焼粘土塊14点 石製垂飾品1点 凹盤状石製品? 1点 アスファルト1点 コハク18点		口が輪端に狭い ソラスコ状土坑 五領ヶ台1a式系 土器片 磨製石斧の未製品		
		平安時代 (9世紀後半?)	竪穴住居跡2棟 住居状遺構1基 土坑1基	土師器 土製品?、コハク?				

平成15年度 徳島県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長 木 村 昇

副 所 長 平 野 允 南

〔管 理 課〕

課 長 長 藤 正 吾
 課 長 補 佐 山 岸 直 美
 主 査 中 嶋 賢 一
 主 事 猿 橋 幸 子

職 託 高 橋 照 雄
 " 湯 沢 邦 子
 " 沼 田 テル子
 " 伊 藤 滋 子

〔調査第一課〕

課 長 佐々木 勝
 課 長 補 佐 佐々木 清 文
 文化財専門員 金子 昭 彦
 文化財調査員 吉 田 充
 " 亀 大 一郎
 " 野 中 貞 盛
 " 新 妻 伸 也
 " 阿 部 勝 則
 文化財調査員 杉 沢 昭太郎
 " 西 澤 正 晴
 " 村 木 敬

文化財調査員 北 村 忠 昭
 " 八 木 勝 枝
 " 丸 山 浩 治
 " 北 田 勉 行
 " 島 原 弘 熱
 期限付調査員 坂 部 恵 造
 " 小 林 弘 卓
 " 藤 原 大 輔
 " 小 針 大 志
 " 大 日 代 一 彦
 " 新 井 田 えり子

〔調査第二課〕

課 長 二 浦 謙
 課 長 補 佐 中 川 紀
 " 高 橋 義 介
 文化財専門員 小 山 内 透
 " 金 子 佐 知 子
 文化財調査員 濱 田 宏 登
 " 赤 阿 部 眞 滝
 " 水 上 明 博
 " 阿 部 憲 淳
 " 早 坂 則 也
 " 小 阿 部 徳 幸
 文化財調査員 阿 部 岩 伸 吾
 " 亀 澤 盛 行
 " 飯 坂 一 裕
 " 林 明 熱
 " 阿 部 孝 明
 " 羽 柴 直 人

文化財調査員 星 佐 雅 之
 " 藤 淳 幸 一
 " 星 幸 文
 " 瀬 浩 一郎
 " 木 田 準 一郎
 " 丸 山 直 美
 " 福 島 正 和
 " 米 田 寛
 " 須 原 村 拓
 " 中 村 繪 美
 " 川 村 又 晋
 " 村 上 田 淳
 " (村 上 拓)
 期限付調査員 斎 藤 麻 紀子
 " 石 崎 高 臣
 " 古 出 里 和
 " 立 花 裕 裕
 " 江 藤 敦 寛
 " 駒 大 野 智

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書449集

平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書

ふるさと農道緊急整備事業野田地区関連遺跡発掘調査

印刷 平成16年3月11日

発行 平成16年3月18日

発行 御岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡1-185

電話 (019) 638-9001

FAX (019) 638-8563

印刷 朝興 版 社

〒020-0816 岩手県盛岡市中野1丁目4-14

電話 (019) 624-3456

